

東上之宮遺跡

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第 2 分冊

2015

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

東上之宮遺跡

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

第2分冊

2015

群馬県伊勢崎土木事務所
公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

目 次

第2分冊 古墳時代～平安時代

目次

挿図目次

第11章 古墳時代後期～平安時代(8面)の遺構と遺物

- | | | |
|---|----------|-----|
| 1 | 概要 | 432 |
| 2 | 1区の遺構と遺物 | 432 |
| 3 | 2区の遺構と遺物 | 775 |
| 4 | 4区の遺構 | 784 |
| 5 | 5区の遺構と遺物 | 793 |

第12章 古墳時代前期(9面)の遺構と遺物

- | | | |
|---|----------|-----|
| 1 | 概要 | 874 |
| 2 | 1区の遺構と遺物 | 874 |
| 3 | 5区の遺構と遺物 | 919 |

插图目次

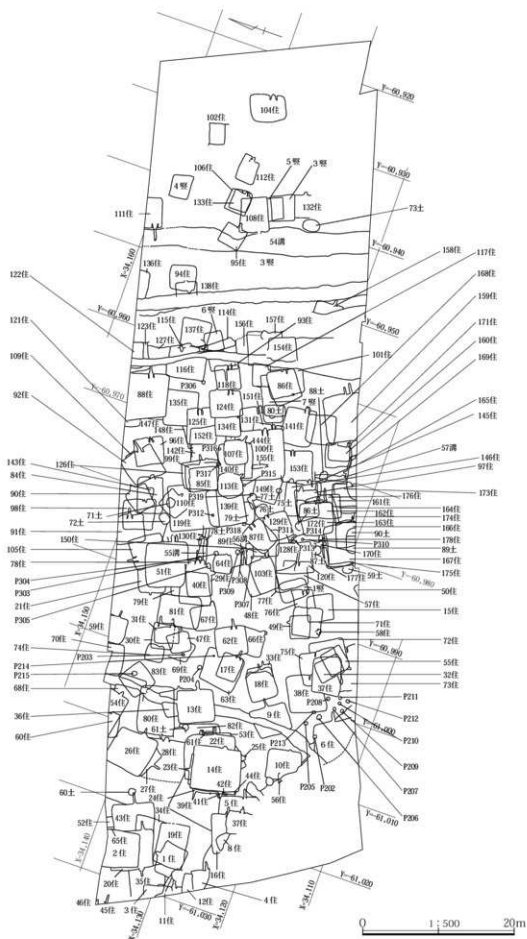
第363図	1区8面	全体図	429	第425図	1区8面	25号住居	489
第364図	2区8面	全体図	430	第426図	1区8面	25号住居出土遺物	490
第365図	4・5区8面	全体図	431	第427図	1区8面	26号住居	491
第366図	1区8面	1号住居、出土遺物	433	第428図	1区8面	26号住居掘り方、出土遺物	492
第367図	1区8面	2号住居	434	第429図	1区8面	26号住居カマド	493
第368図	1区8面	2号住居掘り方	435	第430図	1区8面	27号住居	494
第369図	1区8面	2号住居遺物分布図、出土遺物	436	第431図	1区8面	28号住居	495
第370図	1区8面	3号住居、出土遺物	437	第432図	1区8面	28号住居カマド、出土遺物	496
第371図	1区8面	4号住居、出土遺物	438	第433図	1区8面	29号住居	497
第372図	1区8面	4号住居カマド	439	第434図	1区8面	29号住居出土遺物	498
第373図	1区8面	5号住居	440	第435図	1区8面	30号住居	499
第374図	1区8面	5号住居カマド、出土遺物	441	第436図	1区8面	30号住居出土遺物	500
第375図	1区8面	6号住居	442	第437図	1区8面	31号住居	500
第376図	1区8面	6号住居掘り方	443	第438図	1区8面	31号住居カマド、出土遺物	501
第377図	1区8面	6号住居カマド	444	第439図	1区8面	32号住居	502
第378図	1区8面	6号住居出土遺物(1)	445	第440図	1区8面	32号住居出土遺物	503
第379図	1区8面	6号住居出土遺物(2)	446	第441図	1区8面	33号住居	504
第380図	1区8面	7号住居	446	第442図	1区8面	34号住居、出土遺物	505
第381図	1区8面	7号住居カマド、出土遺物	447	第443図	1区8面	35号住居、出土遺物	506
第382図	1区8面	8号住居、出土遺物	448	第444図	1区8面	36号住居、出土遺物	507
第383図	1区8面	9号住居、出土遺物	449	第445図	1区8面	36号住居カマド	508
第384図	1区8面	9号住居掘り方、カマド	450	第446図	1区8面	37号住居	508
第385図	1区8面	10号住居	451	第447図	1区8面	37号住居出土遺物	509
第386図	1区8面	10号住居掘り方、カマド	452	第448図	1区8面	38号住居	510
第387図	1区8面	10号住居遺物分布図、出土遺物(1)	453	第449図	1区8面	38号住居出土遺物	511
第388図	1区8面	10号住居出土遺物(2)	454	第450図	1区8面	39号住居	512
第389図	1区8面	11号住居	455	第451図	1区8面	39号住居出土遺物	513
第390図	1区8面	11号住居出土遺物	456	第452図	1区8面	40号住居	514
第391図	1区8面	12号住居	456	第453図	1区8面	40号住居カマド、出土遺物	515
第392図	1区8面	13号住居	457	第454図	1区8面	41号住居カマド	516
第393図	1区8面	13号住居カマド	458	第455図	1区8面	42号住居カマド	516
第394図	1区8面	13号住居遺物分布図、出土遺物(1)	459	第456図	1区8面	43号住居	517
第395図	1区8面	13号住居(2)	460	第457図	1区8面	43号住居カマド	518
第396図	1区8面	14号住居	461	第458図	1区8面	43号住居出土遺物(1)	519
第397図	1区8面	14号住居掘り方、遺物分布図	462	第459図	1区8面	43号住居出土遺物(2)	520
第398図	1区8面	14号住居1号カマド、出土遺物(1)	463	第460図	1区8面	44号住居	520
第399図	1区8面	14号住居2号カマド、出土遺物(2)	464	第461図	1区8面	44号住居出土遺物	521
第400図	1区8面	14号住居出土遺物(3)	465	第462図	1区8面	45号住居カマド	521
第401図	1区8面	14号住居出土遺物(4)	466	第463図	1区8面	46号住居カマド、出土遺物	522
第402図	1区8面	15号住居出土遺物	466	第464図	1区8面	47号住居	523
第403図	1区8面	15号住居	467	第465図	1区8面	47号住居出土遺物	524
第404図	1区8面	16号住居	468	第466図	1区8面	48号住居	524
第405図	1区8面	16号住居カマド、出土遺物	469	第467図	1区8面	48号住居カマド、出土遺物	525
第406図	1区8面	17号住居	470	第468図	1区8面	49号住居	526
第407図	1区8面	17号住居カマド、出土遺物	471	第469図	1区8面	49号住居出土遺物	527
第408図	1区8面	18号住居	472	第470図	1区8面	50号住居	527
第409図	1区8面	18号住居カマド	473	第471図	1区8面	51号住居	528
第410図	1区8面	18号住居出土遺物	474	第472図	1区8面	51号住居カマド	529
第411図	1区8面	19号住居	475	第473図	1区8面	51号住居出土遺物	530
第412図	1区8面	19号住居掘り方、出土遺物	476	第474図	1区8面	52号住居、出土遺物	531
第413図	1区8面	20号住居	477	第475図	1区8面	53号住居	532
第414図	1区8面	20号住居掘り方	478	第476図	1区8面	53号住居出土遺物	533
第415図	1区8面	20号住居1号カマド	479	第477図	1区8面	54号住居、出土遺物	534
第416図	1区8面	20号住居2号カマド、出土遺物	480	第478図	1区8面	55号住居	535
第417図	1区8面	21号住居	481	第479図	1区8面	55号住居出土遺物	536
第418図	1区8面	21号住居カマド、出土遺物	482	第480図	1区8面	56号住居カマド、出土遺物	537
第419図	1区8面	22号住居	483	第481図	1区8面	57号住居	537
第420図	1区8面	22号住居カマド	484	第482図	1区8面	57号住居カマド、出土遺物(1)	538
第421図	1区8面	22号住居カマド、出土遺物	485	第483図	1区8面	57号住居出土遺物(2)	539
第422図	1区8面	23号住居、出土遺物	486	第484図	1区8面	58号住居カマド	539
第423図	1区8面	24号住居	487	第485図	1区8面	59号住居	540
第424図	1区8面	24号住居出土遺物	488	第486図	1区8面	59号住居カマド、出土遺物	541

第4878席	1区8面	60号住居	542	第553席	1区8面	93号住居カマド、出土遺物(1)	603
第488席	1区8面	61号住居	543	第554席	1区8面	93号住居出土遺物(2)	604
第489席	1区8面	62号住居、出土遺物(1)	544	第555席	1区8面	94号住居、出土遺物	605
第490席	1区8面	62号住居カマド、出土遺物(2)	545	第556席	1区8面	94号住居カマド	606
第491席	1区8面	62号住居出土遺物(3)	546	第557席	1区8面	95号住居出土遺物	606
第492席	1区8面	63号住居、出土遺物(1)	547	第558席	1区8面	95号住居	607
第493席	1区8面	63号住居出土遺物(2)	548	第559席	1区8面	96号住居	608
第494席	1区8面	64号住居出土遺物	548	第560席	1区8面	96号住居カマド	609
第495席	1区8面	64号住居	549	第561席	1区8面	96号住居出土遺物	610
第496席	1区8面	65号住居、出土遺物	550	第562席	1区8面	97号住居、出土遺物	611
第497席	1区8面	66号住居、出土遺物(1)	551	第563席	1区8面	97号住居カマド	612
第498席	1区8面	66号住居出土遺物(2)	552	第564席	1区8面	98号住居、出土遺物(1)	613
第499席	1区8面	67号住居	553	第565席	1区8面	98号住居カマド	614
第500席	1区8面	67号住居出土遺物(1)	554	第566席	1区8面	98号住居出土遺物(2)	615
第501席	1区8面	67号住居出土遺物(2)	555	第567席	1区8面	99号住居	616
第502席	1区8面	68号住居、出土遺物	556	第568席	1区8面	99号住居出土遺物(1)	617
第503席	1区8面	69号住居、出土遺物	557	第569席	1区8面	99号住居出土遺物(2)	618
第504席	1区8面	70号住居	557	第570席	1区8面	99号住居出土遺物(3)	619
第505席	1区8面	70号住居カマド	558	第571席	1区8面	100号住居	620
第506席	1区8面	70号住居出土遺物	559	第572席	1区8面	100号住居掘り方、出土遺物	621
第507席	1区8面	71号住居	560	第573席	1区8面	100号住居カマド、出土遺物(1)	622
第508席	1区8面	71号住居出土遺物	561	第574席	1区8面	100号住居出土遺物(2)	623
第509席	1区8面	72号住居	562	第575席	1区8面	101号住居	624
第510席	1区8面	73号住居	563	第576席	1区8面	101号住居掘り方、出土遺物	625
第511席	1区8面	73号住居出土遺物	564	第577席	1区8面	102号住居、出土遺物	626
第512席	1区8面	74号住居、出土遺物	565	第578席	1区8面	103号住居、出土遺物	627
第513席	1区8面	74号住居カマド	566	第579席	1区8面	103号住居カマド	628
第514席	1区8面	75号住居	567	第580席	1区8面	104号住居	629
第515席	1区8面	75号住居出土遺物	568	第581席	1区8面	104号住居カマド	630
第516席	1区8面	76号住居、出土遺物	569	第582席	1区8面	104号住居出土遺物	631
第517席	1区8面	77号住居	570	第583席	1区8面	105号住居	632
第518席	1区8面	78号住居	571	第584席	1区8面	105号住居カマド、出土遺物(1)	633
第519席	1区8面	78号住居出土遺物	572	第585席	1区8面	105号住居出土遺物(2)	634
第520席	1区8面	79号住居、出土遺物	572	第586席	1区8面	106号住居出土遺物	634
第521席	1区8面	80号住居	573	第587席	1区8面	106号住居	635
第522席	1区8面	80号住居出土遺物	574	第588席	1区8面	107号住居	636
第523席	1区8面	81号住居	575	第589席	1区8面	107号住居出土遺物	637
第524席	1区8面	81号住居出土遺物	576	第590席	1区8面	108号住居	638
第525席	1区8面	82号住居	576	第591席	1区8面	108号住居出土遺物	639
第526席	1区8面	82号住居出土遺物	577	第592席	1区8面	109号住居	640
第527席	1区8面	83号住居、出土遺物	577	第593席	1区8面	110号住居	640
第528席	1区8面	83号住居カマド	578	第594席	1区8面	110号住居カマド、出土遺物	641
第529席	1区8面	84号住居	579	第595席	1区8面	111号住居	642
第530席	1区8面	84号住居出土遺物	580	第596席	1区8面	111号住居カマド	643
第531席	1区8面	85号住居	581	第597席	1区8面	111号住居出土遺物	644
第532席	1区8面	85号住居出土遺物	582	第598席	1区8面	112号住居	645
第533席	1区8面	86号住居	583	第599席	1区8面	112号住居出土遺物	646
第534席	1区8面	86号住居出土遺物	584	第600席	1区8面	113号住居	647
第535席	1区8面	87号住居	585	第601席	1区8面	113号住居カマド、出土遺物	648
第536席	1区8面	87号住居出土遺物	586	第602席	1区8面	114号住居、出土遺物	649
第537席	1区8面	88号住居	587	第603席	1区8面	115号住居、出土遺物	650
第538席	1区8面	88号住居掘り方	588	第604席	1区8面	116号住居	651
第539席	1区8面	88号住居カマド	589	第605席	1区8面	116号住居カマド	652
第540席	1区8面	88号住居出土遺物	590	第606席	1区8面	116号住居出土遺物	653
第541席	1区8面	89号住居	591	第607席	1区8面	117号住居、出土遺物	654
第542席	1区8面	89号住居カマド、出土遺物	592	第608席	1区8面	118号住居	655
第543席	1区8面	90号住居	593	第609席	1区8面	118号住居カマド	656
第544席	1区8面	90号住居出土遺物	594	第610席	1区8面	118号住居出土遺物	657
第545席	1区8面	91号住居、出土遺物(1)	595	第611席	1区8面	119号住居	658
第546席	1区8面	91号住居カマド	596	第612席	1区8面	119号住居出土遺物(1)	659
第547席	1区8面	91号住居出土遺物(2)	597	第613席	1区8面	119号住居出土遺物(2)	660
第548席	1区8面	91号住居出土遺物(3)	598	第614席	1区8面	120号住居	661
第549席	1区8面	92号住居	599	第615席	1区8面	120号住居出土遺物	662
第550席	1区8面	92号住居カマド	600	第616席	1区8面	121号住居	663
第551席	1区8面	92号住居出土遺物	601	第617席	1区8面	122号住居、出土遺物	662
第552席	1区8面	93号住居	602	第618席	1区8面	123号住居、出土遺物	664

第61908	1区8面	124号住居	665	第684住	1区8面	157号住居出上遺物	721
第62008	1区8面	124号住居カマド	666	第685住	1区8面	158号住居,出上遺物	722
第62118	1区8面	124号住居出上遺物	667	第686住	1区8面	159号住居	723
第62228	1区8面	125号住居	668	第687住	1区8面	159号住居カマド	724
第62338	1区8面	125号住居カマド	669	第688住	1区8面	159号住居出上遺物(1)	725
第62448	1区8面	125号住居出上遺物	670	第689住	1区8面	159号住居出上遺物(2)	726
第62558	1区8面	126号住居	671	第690住	1区8面	159号住居出上遺物(3)	727
第62668	1区8面	126号住居出上遺物	672	第691住	1区8面	159号住居出上遺物(4)	728
第62778	1区8面	127号住居,出上遺物	672	第692住	1区8面	160号住居	729
第62888	1区8面	128号住居	673	第693住	1区8面	160号住居カマド,出上遺物	730
第62998	1区8面	128号住居カマド	674	第694住	1区8面	161号住居,出上遺物	731
第63008	1区8面	128号住居出上遺物	675	第695住	1区8面	161号住居カマド	732
第63118	1区8面	129号住居,出上遺物	676	第696住	1区8面	162号住居	733
第63228	1区8面	129号住居カマド	677	第697住	1区8面	162号住居カマド	734
第63338	1区8面	130号住居	678	第698住	1区8面	162号住居出上遺物	735
第63448	1区8面	130号住居廻り方,出上遺物	679	第699住	1区8面	163号住居	736
第63558	1区8面	130号住居カマド	680	第700住	1区8面	163号住居カマド,出上遺物	737
第63668	1区8面	131号住居,出上遺物(1)	681	第701住	1区8面	164号住居	738
第63778	1区8面	131号住居カマド	682	第702住	1区8面	164号住居出上遺物	739
第63888	1区8面	131号住居出上遺物(2)	683	第703住	1区8面	165号住居出上遺物	739
第63998	1区8面	132号住居	684	第704住	1区8面	165号住居	740
第64008	1区8面	133号住居	685	第705住	1区8面	166号住居,出上遺物	741
第64118	1区8面	133号住居出上遺物	686	第706住	1区8面	167号住居	742
第64228	1区8面	134号住居出上遺物	686	第707住	1区8面	167号住居カマド	743
第64338	1区8面	134号住居	687	第708住	1区8面	167号住居出上遺物	744
第64448	1区8面	135号住居	688	第709住	1区8面	168号住居,出上遺物(1)	745
第64558	1区8面	135号住居カマド	689	第710住	1区8面	168号住居カマド	746
第64668	1区8面	135号住居出上遺物	690	第711住	1区8面	168号住居出上遺物(2)	747
第64778	1区8面	136号住居出上遺物	690	第712住	1区8面	169号住居	748
第64888	1区8面	136号住居	691	第713住	1区8面	170号住居,出上遺物	749
第64998	1区8面	137号住居	691	第714住	1区8面	171号住居	750
第65008	1区8面	137号住居廻り方,出上遺物	692	第715住	1区8面	171号住居出上遺物	751
第65118	1区8面	138号住居,出上遺物	693	第716住	1区8面	172号住居	751
第65228	1区8面	139号住居	694	第717住	1区8面	172号住居出上遺物	752
第65338	1区8面	139号住居廻り方,出上遺物	695	第718住	1区8面	173号住居,出上遺物	753
第65448	1区8面	140号住居,出上遺物	696	第719住	1区8面	174号住居	754
第65558	1区8面	141号住居	697	第720住	1区8面	174号住居出上遺物	755
第65668	1区8面	141号住居カマド	698	第721住	1区8面	175号住居	755
第65778	1区8面	141号住居出上遺物	699	第722住	1区8面	175号住居出上遺物	756
第65888	1区8面	142号住居	700	第723住	1区8面	176号住居	756
第65998	1区8面	142号住居カマド,出上遺物	701	第724住	1区8面	176号住居出上遺物	757
第66008	1区8面	143号住居,出上遺物	702	第725住	1区8面	177号住居	757
第66118	1区8面	144号住居	702	第726住	1区8面	177号住居出上遺物	758
第66228	1区8面	144号住居出上遺物	703	第727住	1区8面	178号住居,出上遺物	759
第66338	1区8面	145号住居	703	第728住	1区8面	1・3号型穴状道構,出上遺物	761
第66448	1区8面	145号住居カマド	704	第729住	1区8面	4号型穴状道構,出上遺物	762
第66558	1区8面	145号住居出上遺物	705	第730住	1区8面	5号型穴状道構,出上遺物	763
第66668	1区8面	146号住居	705	第731住	1区8面	6・7号型穴状道構,出上遺物	764
第66778	1区8面	146号住居カマド,出上遺物	706	第732住	1区8面	54-57号溝,57号溝出上遺物	766
第66888	1区8面	147号住居,出上遺物	707	第733住	1区8面	54号溝出上遺物(1)	767
第66998	1区8面	148号住居	707	第734住	1区8面	54号溝出上遺物(2)	768
第67008	1区8面	149号住居	708	第735住	1区8面	59-61・71-73・75-77号土坑	769
第67118	1区8面	149号住居カマド,出上遺物	709	第736住	1区8面	78-80・86-90号土坑	770
第67228	1区8面	150号住居,出上遺物	710	第737住	1区8面	60-61・71-72・78-80・87-90号土坑・306号ビット 出上遺物	771
第67338	1区8面	151号住居,出上遺物	711	第738住	1区8面	202-215・303-307号ビット	772
第67448	1区8面	152号住居	712	第739住	1区8面	308-319号ビット	773
第67558	1区8面	152号住居出上遺物	713	第740住	1区8面	道構外出上遺物	774
第67668	1区8面	153号住居	714	第741住	2区8面	34-38号溝	777
第67778	1区8面	153号住居カマド	715	第742住	2区8面	35-37・39-41・45号溝	778
第67888	1区8面	153号住居出上遺物	716	第743住	2区8面	34-41・45号溝断面	779
第67998	1区8面	154号住居	717	第744住	2区8面	37・42・43号溝	784
第68008	1区8面	154号住居出上遺物	718	第745住	2区8面	1号遺物集中,出上遺物	781
第68118	1区8面	155号住居	719	第746住	2区8面	2号遺物集中,出上遺物	782
第68228	1区8面	156号住居,出上遺物	719	第747住	2区8面	17-19号土坑,17号土坑出上遺物	783
第68338	1区8面	157号住居	720				

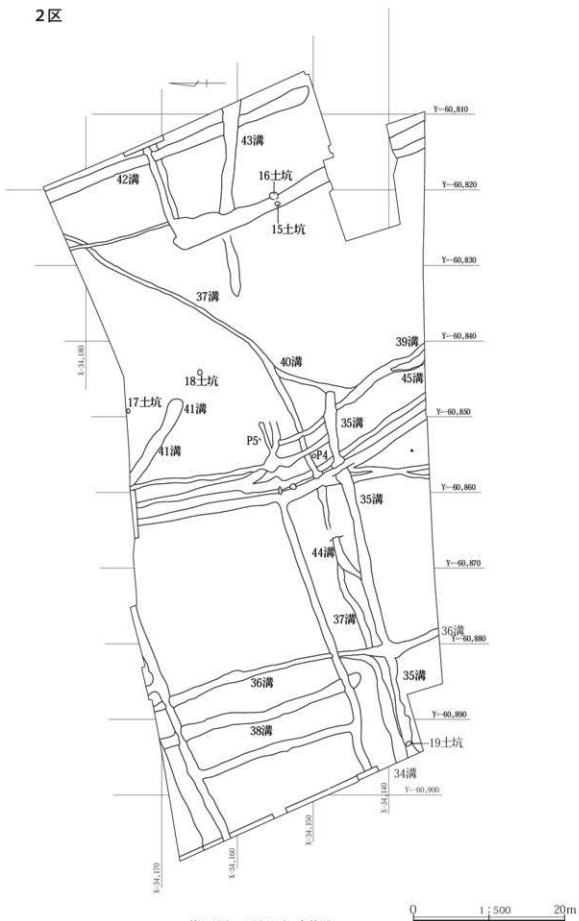
第7488F	2区8面	5号ビット	783	第813F	5区8面	32号住居, 出土遺物	842
第7496F	2区8面	道橋外出土遺物	784	第814F	5区8面	33号住居	843
第7500F	4区8面	77号溝	784	第815F	5区8面	33号住居カマド	844
第7511F	4区8面	2～4号堀	786	第816F	5区8面	33号住居出土遺物(1)	845
第7529F	4区8面	5～7号堀	787	第817F	5区8面	33号住居出土遺物(2)	846
第7533F	4区8面	8～12号堀	789	第818F	5区8面	33号住居出土遺物(3)	847
第7540F	4区8面	13～22号堀	791	第819F	5区8面	34号住居	847
第7550F	4区8面	23～24号堀	792	第820F	5区8面	34号住居カマド, 出土遺物	848
第7560F	5区8面	1号住居	793	第821F	5区8面	35号住居, 出土遺物	849
第7571F	5区8面	1号住居カマド	794	第822F	5区8面	36号住居, 出土遺物	850
第7581F	5区8面	1号住居出土遺物	795	第823F	5区8面	37号住居	851
第7590F	5区8面	2号住居	796	第824F	5区8面	37号住居出土遺物	852
第7600F	5区8面	2号住居出土遺物	797	第825F	5区8面	38号住居	852
第7611F	5区8面	3号住居, 出土遺物	797	第826F	5区8面	38号住居出土遺物	853
第7620F	5区8面	3号住居カマド	798	第827F	5区8面	39号住居, 出土遺物	853
第7630F	5区8面	4号住居	799	第828F	5区8面	40号住居, 出土遺物	854
第7640F	5区8面	4号住居カマド, 出土遺物	800	第829F	5区8面	41号住居	855
第7650F	5区8面	5号住居	801	第830F	5区8面	41号住居カマド	856
第7660F	5区8面	5号住居カマド, 出土遺物	802	第831F	5区8面	41号住居出土遺物	857
第7670F	5区8面	6号住居	803	第832F	5区8面	42号住居, 出土遺物	858
第7680F	5区8面	6号住居カマド	804	第833F	5区8面	48号住居	858
第7690F	5区8面	6号住居出土遺物	805	第834F	5区8面	48号住居カマド, 出土遺物	859
第7700F	5区8面	7号住居, 出土遺物	806	第835F	5区8面	50号住居, 出土遺物	860
第7711F	5区8面	8号住居, 出土遺物	807	第836F	5区8面	1号整穴状遺構, 出土遺物	861
第7720F	5区8面	8号住居カマド	808	第837F	5区8面	2～4号整穴状遺構, 4号整穴状遺構出土遺物	862
第7730F	5区8面	9号住居	809	第838F	5区8面	5号整穴状遺構, 出土遺物	863
第7740F	5区8面	9号住居出土遺物	810	第839F	5区8面	30・38号溝, 30号溝出土遺物	866
第7750F	5区8面	10号住居	810	第840F	5区8面	33号溝	867
第7760F	5区8面	10号住居カマド	811	第841F	5区8面	34～37・39号溝	868
第7770F	5区8面	10号住居出土遺物	812	第842F	5区8面	33～35号溝出土遺物	869
第7780F	5区8面	11号住居, 出土遺物	813	第843F	5区8面	13～20号土坑	870
第7790F	5区8面	12号住居	814	第844F	5区8面	21・24号土坑, 13・16・17・20・24号出土遺物	871
第7800F	5区8面	12号住居カマド	815	第845F	5区8面	1・2号ビット	871
第7810F	5区8面	12号住居出土遺物	816	第846F	5区8面	道橋外出土遺物	872
第7820F	5区8面	13号住居, 出土遺物	816	第847F	1区9面	全体区	873
第7830F	5区8面	13号住居カマド	817	第848F	1区9面	179号住居, 出土遺物(1)	875
第7840F	5区8面	14号住居, 出土遺物	818	第849F	1区9面	179号住居出土遺物(2)	876
第7850F	5区8面	15号住居	819	第850F	1区9面	179号住居出土遺物(3)	877
第7860F	5区8面	15号住居出土遺物	820	第851F	1区9面	179号住居出土遺物(4)	878
第7870F	5区8面	16号住居	820	第852F	1区9面	180号住居	880
第7880F	5区8面	16号住居出土遺物	821	第853F	1区9面	180号住居廻り方	881
第7890F	5区8面	17号住居, 出土遺物	822	第854F	1区9面	180号住居出土遺物	882
第7900F	5区8面	18号住居	823	第855F	1区9面	181号住居	883
第7910F	5区8面	18号住居廻り方, 出土遺物	824	第856F	1区9面	181号住居出土遺物	884
第7920F	5区8面	18号住居カマド	825	第857F	1区9面	182号住居, 出土遺物	885
第7930F	5区8面	19号住居, 出土遺物	826	第858F	1区9面	183号住居	886
第7940F	5区8面	20号住居, 出土遺物	827	第859F	1区9面	183号住居周溝, ビット断面図	887
第7950F	5区8面	21号住居, 出土遺物	828	第860F	1区9面	183号住居廻り方	888
第7960F	5区8面	22号住居, 出土遺物	829	第861F	1区9面	183号住居出土遺物	889
第7970F	5区8面	22号住居カマド	830	第862F	1区9面	184号住居	890
第7980F	5区8面	23号住居	831	第863F	1区9面	184号住居ビット断面図, 出土遺物	891
第7990F	5区8面	23号住居カマド, 出土遺物	832	第864F	1区9面	185号住居	892
第8000F	5区8面	24号住居	832	第865F	1区9面	185号住居出土遺物	893
第8010F	5区8面	24号住居カマド, 出土遺物(1)	833	第866F	1区9面	186号住居	894
第8020F	5区8面	24号住居出土遺物(2)	834	第867F	1区9面	186号住居型, ビット断面図	895
第8030F	5区8面	25号住居	834	第868F	1区9面	186号住居廻り方	896
第8040F	5区8面	25号住居カマド, 出土遺物	835	第869F	1区9面	186号住居出土遺物	897
第8050F	5区8面	26号住居, 出土遺物	836	第870F	1区9面	2号整穴状遺構	898
第8060F	5区8面	27号住居	837	第871F	1区9面	2号整穴状遺構出土遺物(1)	899
第8070F	5区8面	27号住居出土遺物	838	第872F	1区9面	2号整穴状遺構出土遺物(2)	900
第8080F	5区8面	28号住居	838	第8730F	1区9面	8・9号整穴状遺構	901
第8090F	5区8面	28号住居カマド, 出土遺物	839	第8740F	1区9面	10号整穴状遺構, 8～10号整穴状遺構出土遺物	902
第8100F	5区8面	29号住居, 出土遺物	840	第8750F	1区9面	11号整穴状遺構, 出土遺物	903
第8110F	5区8面	30号住居	841	第8760F	1区9面	58号溝	904
第8120F	5区8面	31号住居	841	第8770F	1区9面	59～62号溝	905

第87808	1区9面	51号畑	906	第89508	5区9面	44号住居,出土遺物	922
第87908	1区9面	51号畑断面・出土遺物,52号畑	907	第89608	5区9面	45号住居	923
第88008	1区9面	53号畑,出土遺物	908	第89708	5区9面	45号住居出土遺物(1)	924
第88108	1区9面	54号畑	909	第89808	5区9面	45号住居出土遺物(2)	925
第88208	1区9面	55~57号畑	911	第89908	5区9面	46号住居	926
第88308	1区9面	58~60号畑	912	第90008	5区9面	46号住居出土遺物	927
第88408	1区9面	63号畑	913	第90108	5区9面	47号住居,出土遺物	928
第88508	1区9面	1号遺物集中,出土遺物(1)	914	第90208	5区9面	6号竪穴状道横,出土遺物	929
第88608	1区9面	1号遺物集中出土遺物(2)	915	第90308	5区9面	10・11号畑	930
第88708	1区9面	1号遺物集中出土遺物(3)	916	第90408	5区9面	12号畑	931
第88808	1区9面	91~93号土坑,93号土坑出土遺物	916	第90508	5区9面	1号遺物集中	932
第88908	1区9面	94号土坑,出土遺物	917	第90608	5区9面	1号遺物集中出土遺物	933
第89008	1区9面	327~329号ピット	917	第90708	5区9面	2号遺物集中	934
第89108	1区9面	330~344号ピット,328・344号ピット出土遺物	918	第90808	5区9面	2号遺物集中出土遺物	935
第89208	1区9面	道横外出土遺物	918	第90908	5区9面	22・23号土坑	936
第89308	5区9面	43号住居	920	第91008	5区9面	3号ピット	936
第89408	5区9面	43号住居断面,出土遺物	921	第91108	5区9面	道横外出土遺物	936

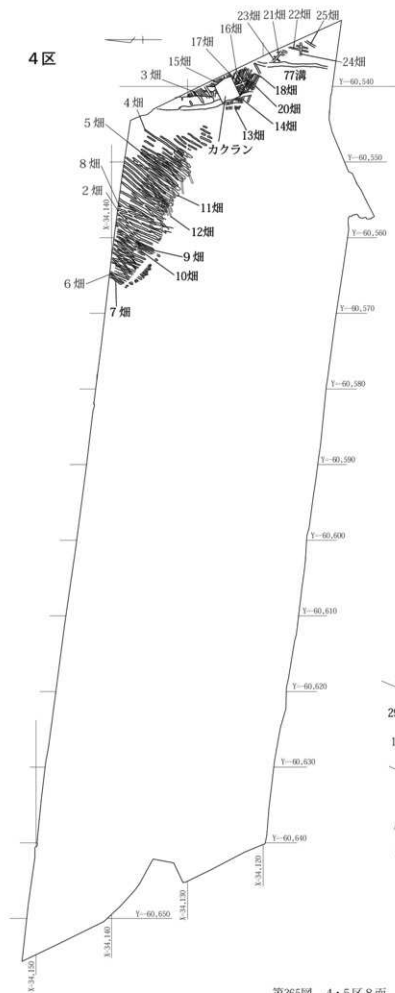


第363图 1区8面 全体图

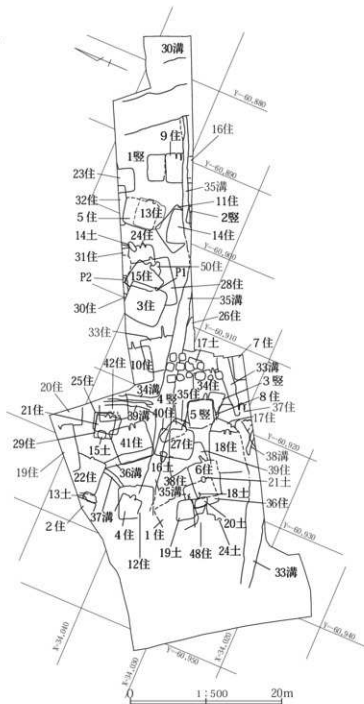
2区



第364图 2区8面 全体图



5区



第365図 4・5区8面 全体図

第11章 古墳時代後期～平安時代(8面)の遺構と遺物

1 概要

本章で報告するのは、As-B軽石層及びAs-B軽石混土層の下で、褐灰～灰黄褐色土を確認面とした遺構であり、8面として調査を行った。7面の確認面と近接する地点もあるが、古墳時代後期～平安時代の集落や畑を中心とした面である。この面の遺構は1・2・4・5区において存在し、旧中洲上に立地する1・5区では、222軒の住居を調査した。遺構の多くは古墳時代後期に属するが、奈良～平安時代の住居等も確認している。

2 1区の遺構と遺物

1区の8面に属する遺構としては、住居178軒、竪穴状遺構6基、溝4条、土坑16基、ピット31基である。遺構の分布は、東端部と傾斜地で近世に削平された南西部を除く全面で確認できる。調査区中央付近では住居の密度が高く、遺構確認が困難な状況であった。さらに遺構の確認面も埋没土もほぼ同じ洪水起源と考えられる褐灰色～灰黄褐色シルト質土である。そのため、遺構の範囲や深度を確認するためトレンチを多用せざるを得ない状況であった。

(1) 住居

本調査区における住居群は重複が複雑であり、平面図上重なっているものについては重複遺構の項に記載した。新旧が分かるものについては、前出している住居、後出している住居として、新旧が判明しないものについては、重複している住居として表記した。それらの中で、当該住居の事実記載の際に、内容に影響を及ぼし、関連性のある住居のみ本文中に記述した。

1号住居(第366図 PL.104・197)

1区西側の住居群内にある。6面26号溝・4面3号井戸により南西隅の使用面が壊されている。残存状態は良好でない。

位置：127～131・-022～-027にある。

規模形状：主軸長3.36m、幅4.28m 東西にやや長い長方形である。各辺は直線的だが、北西隅がなだらかな曲線を描く。**埋没土・壁**：褐灰色土及びにぶい黄褐色土で埋没している。不規則な埋没の状況がみられ人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.24mである。

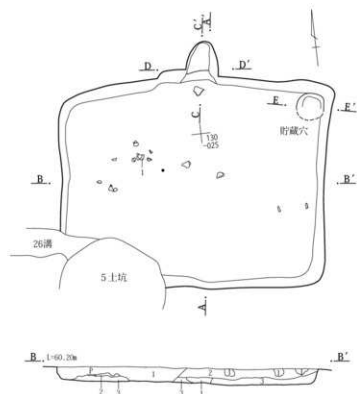
方位：N-8°-E **面積**：11.77㎡(推定) **床面**：北東にやや傾斜しているが、全体的に平坦である。貯蔵穴は確認できたが、柱穴の掘り込みは認められなかった。**掘り方**：認められない。 **壁溝**：認められない。

ピット(柱穴)：認められない。 **貯蔵穴**：北東隅直下で確認された。配置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、灰及び焼土粒を含む黄褐色シルト質土である。長軸0.44m、短軸0.43m、深さ0.12mである。円形である。

カマド：北辺中央やや東寄りに位置する。現存全長0.67m、幅は不明、焚口幅は不明、燃燒部幅は不明。煙道は壁外側に0.45m突出している。燃燒部は、住居内に位置しており、火床には支脚の礎が据えられている。支脚は、長さ0.17m、幅不明、厚さ0.16mである。礎は確認できなかった。 **重複遺構**：26号溝、3号井戸に前出しており、19・35号住居に後出している。 **遺物**：土師器(杯2点、甕1点、不明1点) 住居中央北西寄りを中心に出土した。そのうち上記の土器4点を図示した。杯(1)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(2)、甕(3)、不明土師器(4)は住居埋没土からの出土であり、これらが本住居に伴う出土であるか明瞭でない。その他、円礫の出土は見られなかった。図示した以外に、土師器(杯類287片、甕類854片)、須恵器(杯類6片、甕類12片)、不明土器5片が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると思われる。図示した遺物において、埋土、床面の遺物の時期差は認められない。

2 1区の遺構と遺物



1号住居 A-A'・B-B'

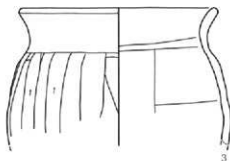
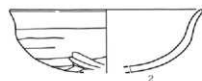
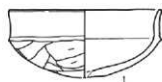
- 1 褐灰色土 シルト質土。酸化鉄混集に囲まれた層。粘性強い。
- 2 にふい・黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。
- 3 にふい・黄褐色土 シルト質土。灰を中量、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。粘性強い。
- 4 褐灰色土 シルト質土。灰、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。灰、黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。灰を多く、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質土。灰、黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質土。灰を少量、炭化物を中量含む。



1号住居貯蔵穴 E-E'

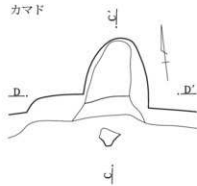
- 1 黄褐色土 シルト質土。灰、焼土粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。

0 1:60 2m



0 1:3 10cm

カマド



1号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 シルト質土。灰、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。灰、黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。灰、灰、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

0 1:30 1m

第366図 1区8面 1号住居、出土遺物

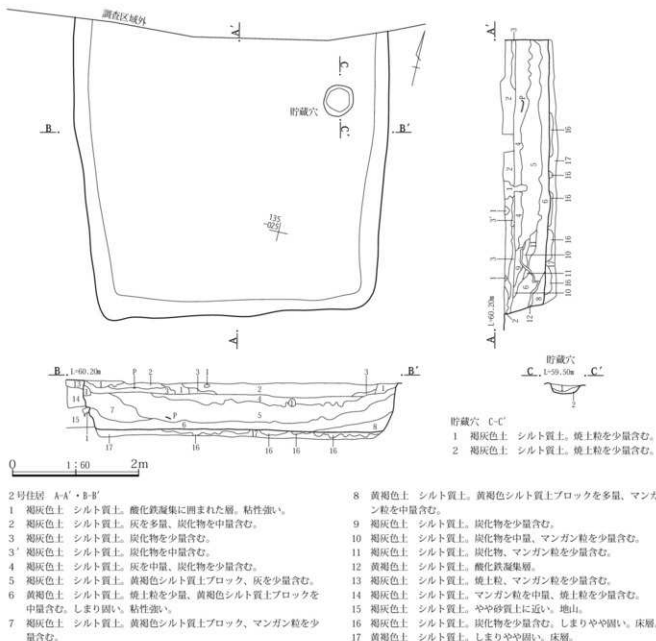
2号住居(第367～369図 PL.104・197・198)

1区西側の住居群内にある。住居北辺が調査区域外にあり、全容が明らかでない。複数の住居と重複しているものの、使用面は影響を受けていない。

位置：133～138・-023～-028にある。

規模形状：各辺若干歪んでいるが直線的である。南北に長い長方形を呈していると推察される。長軸長(4.67)m、短軸長4.66m 埋没土・壁：黄褐色土及び褐灰色土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。残存壁高は0.65mである。方位：N-11°-W 面積：(17.56)㎡ 床面：平坦である。貯蔵穴は確認でき

た。柱穴は、掘り方で複数確認できたが、使用面での確認はできなかった。掘り方：ほぼ全面に広がり、埋め土は、炭化物を含む褐灰色シルト質土及び黄褐色土であり、固く締まっている。南部は厚く北部にいくほど薄くなる。深さは、0.07～0.18m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：6本の柱穴を掘り方底面を確認した。P1・P6・P4・P2が、規則的な支柱穴配置による柱穴であると思われる。P2・P4は、P3・P5を各々柱材の据え換えをしたのであろう。埋没土は、焼土粒を含んだ褐灰色シルト質土である。各柱穴の規模は次の通りである。



第367図 1区8面 2号住居

(長径×短径×深さm)

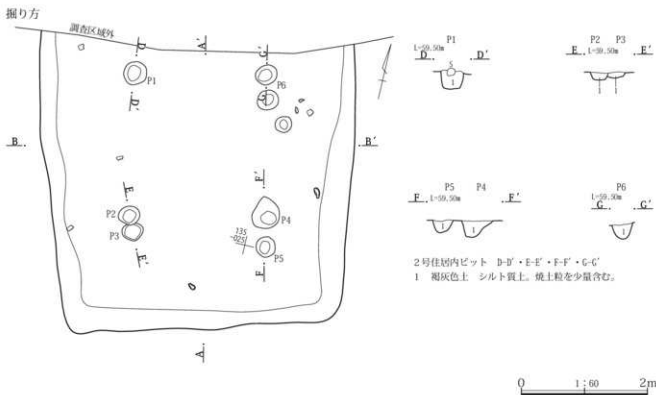
P 1 0.36×0.36×0.30 P 6 0.34×0.32×0.24

P 4 0.50×0.44×0.26 P 2 0.34×0.30×0.12

P 3 0.28×0.34×0.09 P 5 0.32×0.30×0.18

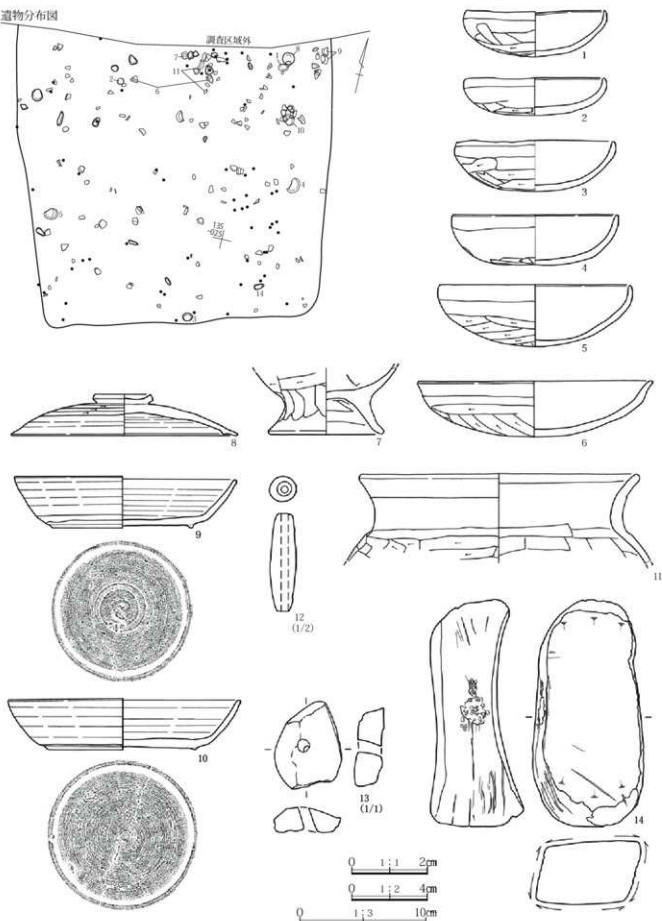
貯蔵穴：北東隅で確認した。小規模な施設だが、配置より貯蔵穴と思われる。埋没土は、焼土粒を含むシルト質の褐灰色土である。円形を呈し、径0.5m、深さ0.24mである。カマド：住居の形状から推察して調査区域外に存在すると思われる。今回確認できなかった。重複遺構：20・43・65号住居に後出している。遺物：土師器(杯6点、椀1点、甕1点)、土製品(土鍾1点)、須恵器(杯2点、甕1点)、石製品(砥石1点、白玉1点)住居北東部を中心に全体から散在するように多量の遺物が出土した。床上0.5m前後の高い位置の遺物が多く、住居廃絶後に廃棄されたような状態であったと思われる。そのうち上記の土器12点、石製品2点を図示した。

杯(1・2・3・4・5・6)は床から0.1～0.5m遊離した状態での出土である。杯(10)(須恵器)は床直上の出土であり、本住居に伴うものと思われる。杯(9)(須恵器)、蓋(8)(須恵器)は床から0.18～0.24m程浮いた位置から出土している。椀(7)、甕(11)、土鍾(12)は床から0.32～0.42m程遊離した位置または埋没土からの出土であり、本住居に伴うものか不明である。砥石(14)は床から0.13m程の位置からの出土であり、白玉(13)は埋没土からの出土であった。その他、円礫が出土している。モモの核が、中央部東寄り床上0.52mの位置から1点出土した。酋編石と思われる礫はなかった。図示した以外に、土師器(杯類948片、甕類2,482片)、須恵器(杯類56片、甕類31片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、形状から、8世紀前半であると思われる。図示した遺物において、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。



第368図 1区8面 2号住居掘り方

遺物分布図



第369図 1区8面 2号住居遺物分布図、出土遺物

3号住居(第370図 PL.104)

1区西側の住居群内にある。26号溝により、住居南部の使用面が一部壊されている。住居の西側の大半が調査区域外にあり、全容が明瞭でない。

位置：127～131・-028～-030にある。

規模形状：南北長(3.75)m、東西長(1.21)mである。東辺は直線で、北辺も確認された部分は直線である。大半が調査外のため、平面形状は不明である。**埋没土・壁**：基本2層の順層であり、褐灰色シルト質土で埋没している。不自然な堆積も見られ、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.26mである。**方位**：N-19°-W **面積**：(2.78)m² **床面**：傾斜はほぼなく、平坦である。北東隅と東部中央壁際に多量の灰の分布が確認された。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できなかった。**掘り方**：認められなかった。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**竈**：認められない。**カマド**：認められない。**重複遺構**：26号溝に前出しており、11・35号住居に後出している。**遺物**：土師器(杯1点) 住居埋没土から遺物が出土した。土器1点を図示した。杯(1)は住居埋没土からの出土であり、本住居に伴うものが明瞭でない。その他、円礫の出土もみられたが、鴈扁石と思われる礫はなかった。

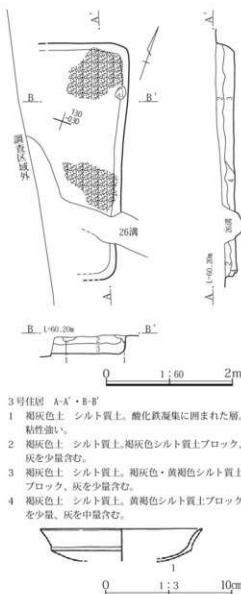
所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると思われる。図示した遺物において、埋土、床直の時期差は認められない。

4号住居(第371・372図 PL.105・198)

1区西側の住居群内にある。住居南部が、中近世洪水砂礫層に壊されている。また、住居西辺が調査区域外にあり全容が明らかでない。

位置：123～126・-023～-027にある。

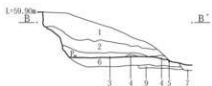
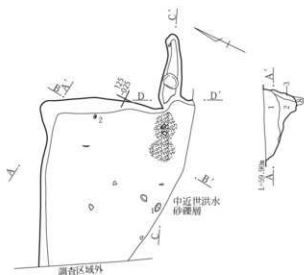
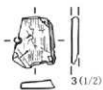
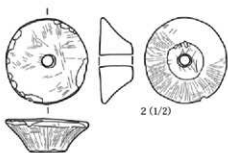
規模形状：主軸長(2.36)m、幅(2.33)mである。調査した範囲では、北辺・東辺共に直線的である。方形を呈していると推察できる。**埋没土・壁**：焼土粒炭化物を含むシルト質の黄褐色土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。残存壁高は0.76mである。**方位**：N-58°-E **面積**：(4.30)m² **床面**：傾斜はなくほぼ平坦である。カマド付近には多量の灰の分布が確認された。床面の締まりは弱い。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できなかった。**掘り方**：調査したほぼ全面に



第370図 1区8面 3号住居、出土遺物

認められる。深さは0.14m前後である。埋め土は、焼土粒を含む黄褐色シルト質土である。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：東辺の中央付近に位置すると思われる。現存全長1.21m、幅は不明、焚口幅は不明、燃焼部幅は不明。煙道は壁外側に1.05m張り出している。煙道の途中に、礫が据えられているが、カマド構築の一旦を担っていたと思われる。礫は、長さ0.26m、幅0.22m、厚さ0.15mである。燃焼部は、住居内に位置しており、火床上には灰の分布が見られる。袖は確認できなかった。掘り方は、火床下に0.16m前後認められ、埋め土は、焼土粒と灰を含む黄褐色土である。**重複遺構**：12号住居に後出している。**遺物**：須恵器(蓋1点)、石製品(紡輪

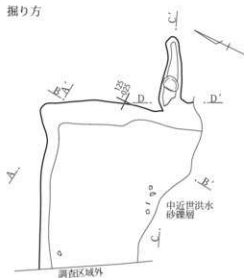
1点、不明石製品1点) 住居中央部から点在する状態で出土した。そのうち上記の土器1点、石製品2点を図示した。須恵器蓋(1)及び紡輪(2)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。石製品(3)は埋没土からの出土である。図示した以外に、土師器(杯類144片、斐類230片)が出土している。所見(帰属時期): 出土遺物から、7世紀代であると思われる。図示した遺物において、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。



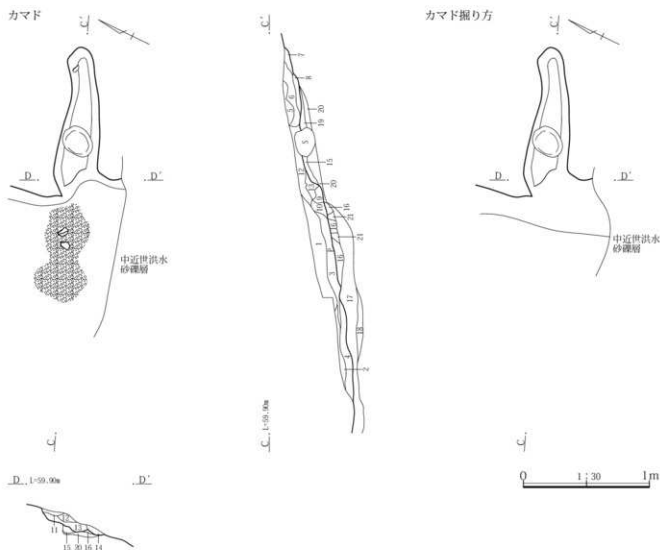
4号住居 A-A'・B-B'

- 1 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、炭化物、黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を中量、炭化物を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、炭化物を中量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。床層だが、しまり弱い。
- 7 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量含む。
- 9 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量、焼土粒を少量含む。床下土坑埋没上。

掘り方



第371図 1区8面 4号住居、出土遺物



4号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰、炭化物を少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を多量、焼土粒を中量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 9 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量含む。
- 10 黄褐色土 シルト質上。焼土塊、炭化物、灰を中量含む。
- 11 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 12 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を多量含む。
- 13 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 14 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 15 黄褐色土 シルト質上。灰を少量、黄褐色シルト質上ブロックを多量含む。
- 16 黄褐色土 シルト質上。灰、焼土粒を多量含む。
- 17 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。床層だがしり弱い。
- 18 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量、焼土粒を少量含む。床下土填埋段上。
- 19 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。
- 20 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 21 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。

第372図 1区8面 4号住居カマド

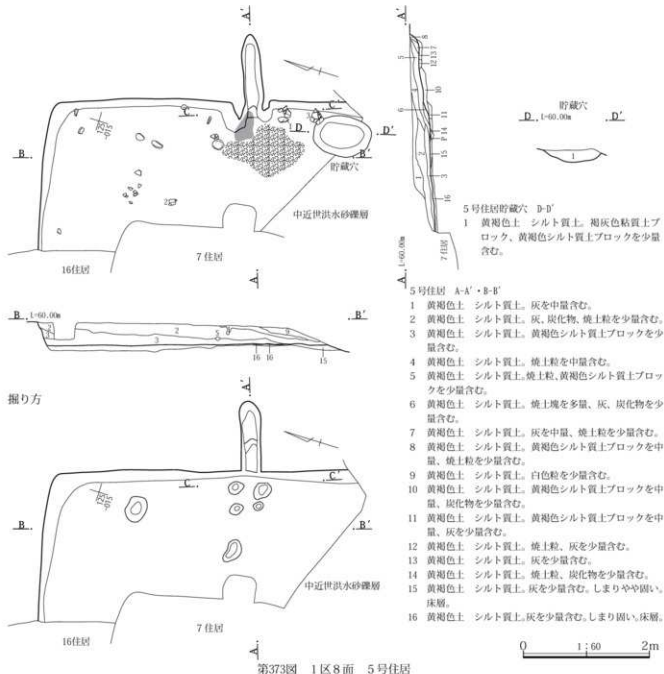
5号住居(第373・374図 PL.105)

1区西側の住居群内にある。7・16号住居により、住居西部の床面が、中近世洪水砂礫層の影響により住居南部の床面が壊されている。残存状態は不良である。

位置: 121 ~ 125・-012 ~ -017にある。

規模形状: 主軸長(4.90)m、幅(2.38)mである。北辺・東辺共に直線的である。整った方形を呈していたと推察される。埋没土・壁: 灰及び炭化物を含む黄褐色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。壁高は0.34mである。方位: N-71°-E 面積: (18.84)㎡ 床面: 北にやや傾斜しているが、

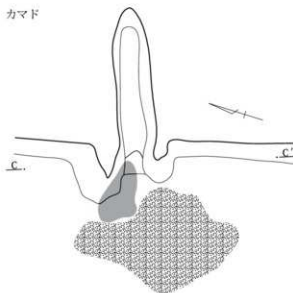
ほぼ平坦である。住居北東部とカマド前部及び南東隅に窪みが複数確認された。北東のものは、柱穴であると推察できるが明確ではない。カマド部分の4本のピットは、カマドの構築に関わるものと思われる。南東隅は、貯蔵穴と思われる。掘り方: ほぼ全面に認められる。中央部分は、掘り込みが浅い。埋め土は、灰を含む黄褐色シルト質土であり、固く締まっている。深さは0.04 ~ 0.1m前後である。壁溝: 認められない。ピット(柱穴): 明確でない。貯蔵穴: 南東隅に窪みが確認された、位置より貯蔵穴と思われる。埋め土は、シルト質土ブロックと粘質土ブロックを含む黄褐色土である。長径0.92m、



第373図 1区8面 5号住居

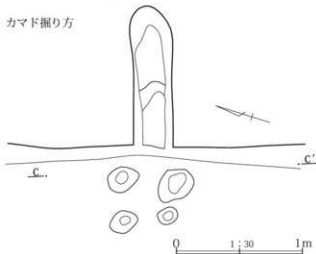
短径0.64m、深さ0.19mである。カマド：東辺中央付近に位置すると思われる。全長1.47m、幅0.82m、焚口幅0.51m、燃烧部幅0.42m。煙道は壁外側に1.16m張り出している。燃烧部は、住居内に位置しており、火床上には焼土及び灰の分布が見られる。袖はわずかに残存していた。袖材は、焼土と炭化物を含む黄褐色土である。掘り方は、火床下に0.07m前後認められ、埋め土は、灰及び炭化物を含むシルト質の黄褐色土である。また、両袖を構築していたと思われる袖石跡の窪みも確認された。重複遺構：7・16号住居に前出しており、39・41・42号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、甕1点) カマド周辺及び住居東部から遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1・2)、甕(3)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1)は埋没土からも出土しているが、本体が床直上のため本住居に伴うものとするのが自然である。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類155片、甕類374片)、須恵器(甕類7片)、不明土器8片が出土している。所見(編年時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であるとする。

カマド



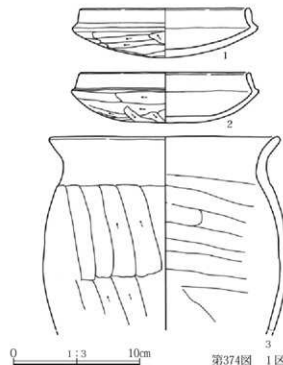
C-C, 1:40.00m

カマド掘り方



5号住居カマド C-C'

- 1 黄褐色土 シルト質上。灰を中量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を多量、灰、炭化物を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 9 暗赤褐色土 シルト質上。被熱にて赤化している。
- 10 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 11 黄褐色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 12 黄褐色土 シルト質上。灰を中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 13 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 14 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、灰を少量含む。
- 15 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量、灰を少量含む。
- 16 黄褐色土 シルト質上。灰を少量含む。



第374図 1区8面 5号住居カマド、出土遺物

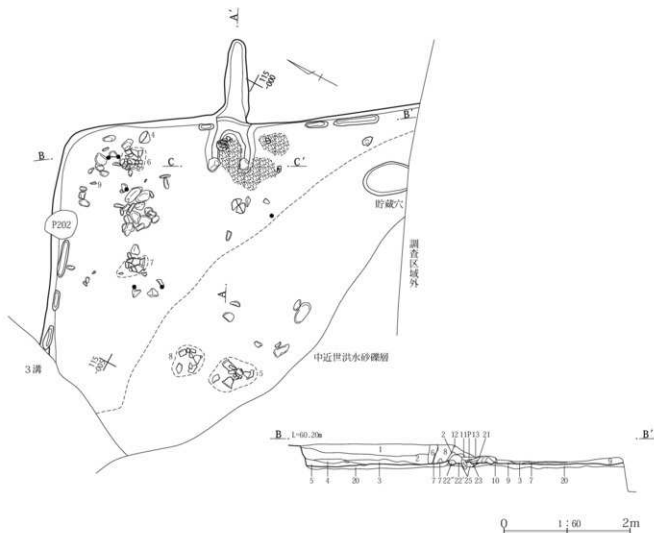
6号住居(第375～379図 PL.105・106・198)

1区西側の住居群内にある。3号溝により北西隅の使用面が、中近世洪水砂礫層の影響により南部の床面が壊されている。残存状態は不良で全容が明らかでない。

位置：111～117・-989～-006にある。

規模形状：主軸(5.30)m 幅(5.57)mである。北辺・東辺共に直線のである。北東隅はやや丸みを帯びている。整った方形をしている大型住居であると推察できる。

埋没土・壁：褐色シルト質土で埋没している。ブロックの多い埋没土であり、人為的な埋め戻しであると思わ



6号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐色土 シルト質上。灰白色小ブロックを多量、炭化物、酸化鉄蓄集を微量含む。上層は褐色味強い。
- 2 褐色土 シルト質上。灰白色小ブロックを少量含む。灰色味強い。
- 3 褐色土 シルト質上。円礫を多量含む。
- 4 褐色土 シルト質上。黒色味強い。
- 5 褐色土 シルト質上。焼土、炭化物を中量含む。
- 6 褐色土 シルト質上。灰白色粘質土ブロックを中量含む。
- 7 褐色の鉄分凝集層
- 8 褐色土 シルト質上。粘質土。しまりやや弱い。灰白色味強い。溝の壁面が変色、変質したものの。
- 9 褐色土 シルト質上。黄色上ブロック、暗褐色上ブロックを混在する。
- 10 褐色土 シルト質上。カマドの袖部を構成する粘土が崩れたもの。
- 11 褐色土 シルト質上。袖材。焼土化している。
- 12 褐色土 シルト質上。赤褐色土粒を微量含む。
- 13 褐色土 シルト質上。灰白色上ブロック、炭、炭化物を多量含む。
- 14 焼土 炭化物を中量含む。

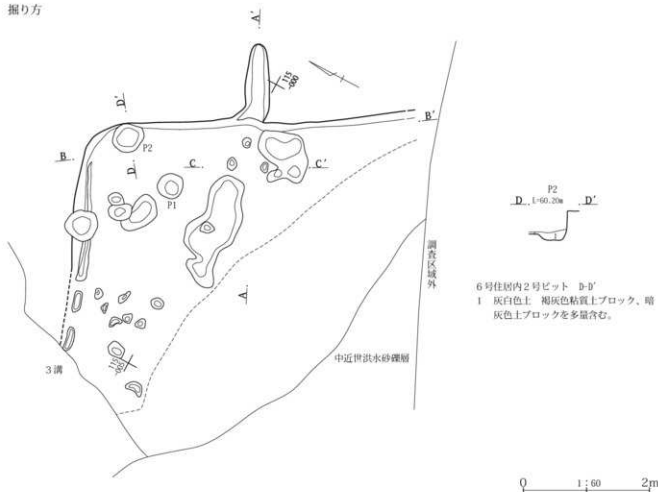
- 15 灰層 炭化物を少量含む。
- 16 褐色土 シルト質上。炭、炭化物を少量、焼土を微量含む。しまりやや弱い。
- 16' 褐色土 シルト質上。炭、炭化物を少量含む。しまりやや弱い。
- 17 褐色土 シルト質上。灰白色味強い。
- 17' 褐色土 シルト質上。焼土粒を微量含む。
- 18 褐色土 シルト質上。焼土、炭を少量、黄色土を微量含む。
- 19 褐色土 シルト質上。焼土化している。
- 20 褐色土 シルト質上。灰白色上、褐色上小ブロックの混土層。しまりやや弱い。
- 21 炭化物・焼土層
- 22 褐色土 シルト質上。灰白色上ブロックを中量含む。袖。
- 22' 褐色土 シルト質上。灰白色上ブロックを少量含む。袖。
- 22'' 褐色土 シルト質上。灰白色上ブロックを多量含む。
- 23 焼土ブロック
- 24 煙道部分の焼土ブロック
- 25 黄褐色土 シルト質上。炭を主体とした焼土との混土層。

第375図 1区8面 6号住居

れる。壁高は0.36mである。方位：N-65°-E 面積：(21.54)㎡ 床面：北にやや傾斜しているが、ほぼ平坦である。カマド袖下に灰が多量に確認できた。貯蔵穴及び柱穴を含む複数のピットが確認できた。掘り方はほぼ全面に認められた。深さは、0.03～0.08m程である。埋め土は、シルト質の褐灰色土であり、締まりは強くない。壁溝：北辺・東辺共に、一部が確認できた。幅0.1～0.2m、深さ0.05m程である。ピット(柱穴)：位置よりP1は柱穴と思われる。確認外に関連の柱穴があると推察され、規則的な主柱穴配置による柱穴の1つであると思われる。長軸0.43m、短軸0.4m、深さは不明である。P2は、性格が明確でない。埋め土は、褐灰色土と灰白色土の粘土ブロックの混土である。長径0.52m・短径0.46m、深さ0.14mである。貯蔵穴：南東隅に窪みが確認できた。位置及び規模より、貯蔵穴と思われるが、中近世洪水砂礫層に壊されており、明確な所見が得

られなかった。カマド：東辺中央付近に位置する。全長2.11m、幅0.79m、焚口幅0.32m、燃烧部幅0.36m、煙道は壁外側に1.21m突出している。燃烧部は、住居内にあり、火床上には支脚の礫が据えられている。灰の分布がみられた。両袖先端部分付近には袖石を据えている。焚口構築材の一部であると思われる。右袖石は、長さ0.18m、幅0.22m、厚さ0.12mである。左袖石は、長さ0.32m、幅0.21m、厚さ0.16mである。袖は、シルト質の褐灰色土で作られている。掘り方は、火床下に0.05m前後の掘り込みが確認でき、埋め土は、褐灰色土ブロックを含む黄褐色シルト質土である。掘り方面では袖石の据え方が認められた。重複遺構：3号溝が重複している。遺物：土師器(杯3点、甕3点、甕2点)、石製品(砥石1点)、礫石器(砥石1点) カマド周辺及び住居北東部から中央部にかけて遺物が出土した。そのうち土器8点、石製品1点、礫石器1点を図示した。杯(2)は住居埋没

掘り方

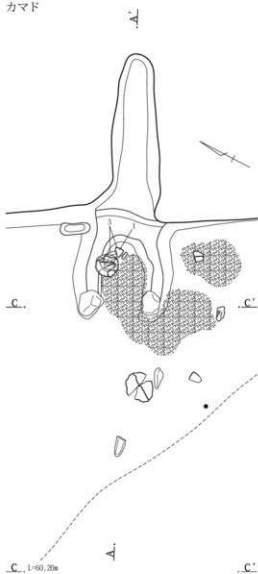


第376図 1区8面 6号住居掘り方

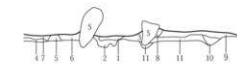
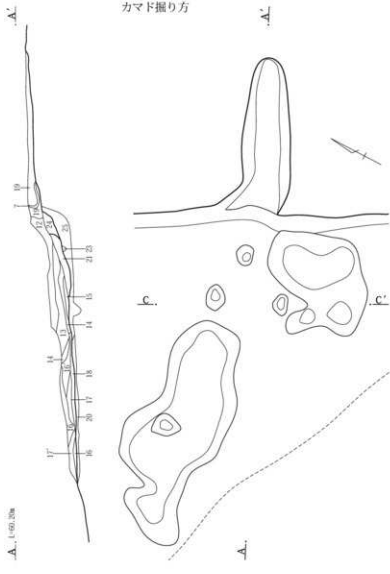
土からの出土である。杯(1・3)はカマドからの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(4・5・6)は、床直上から埋没土まで出土範囲が広い。甕(7・8)は床直上及び床上0.08mの出土であり、本住居に伴うものであると思われる。また、砥石(9)は床直上の出土で

あり、砥石(10)は床から0.22m遊離した位置での出土であった。円礫が多数出土している。図示した以外に、土師器(杯類32片、甕類109片)、須恵器(杯類1片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半であると思われる。

カマド



カマド振り方



6号住居 C-C'

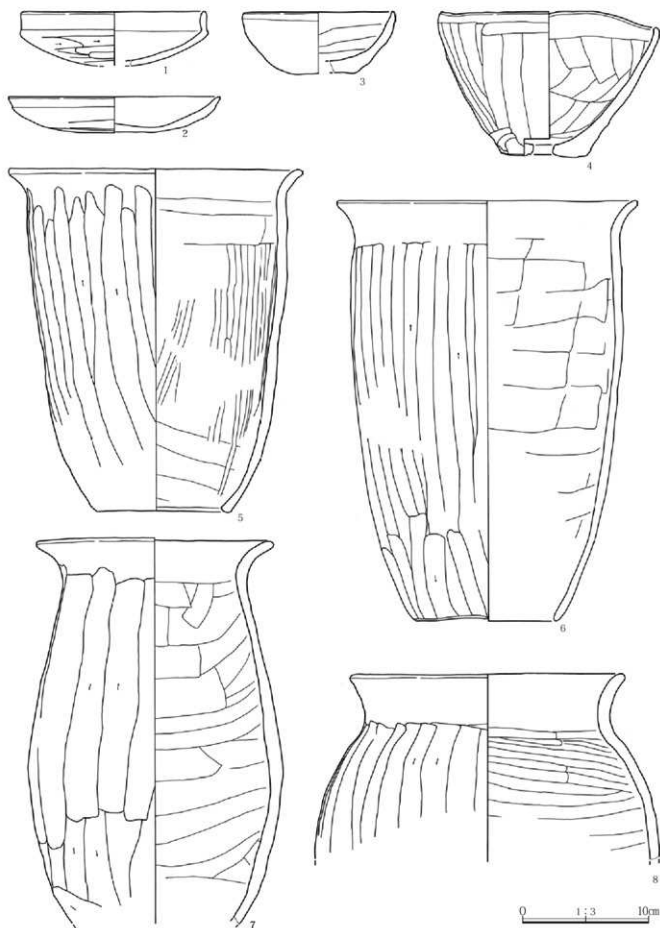
- 1 焼土ブロックと灰層
- 2 暗褐色土
- 3 灰を土体とした焼土との混土層。(A-A', B-B' 25相当)
- 4 褐色土 振り方。
- 5 暗褐色土 振り方。

6 褐色土 振り方。

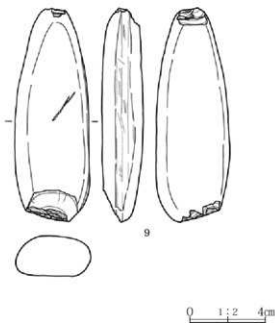
- 7 褐色土 褐色味強い、振り方。
- 8 暗褐色土 焼土ブロックを含む。
- 9 褐灰色土 焼土粒を含む。
- 10 炭化物層。
- 11 褐灰色土 焼土、炭化物を微量含む。

0 1:30 1m

第377図 1区8面 6号住居カマド



第378図 1区8面 6号住居出土遺物(1)



第379図 1区8面 6号住居出土遺物(2)

7号住居(第380・381図 PL.106)

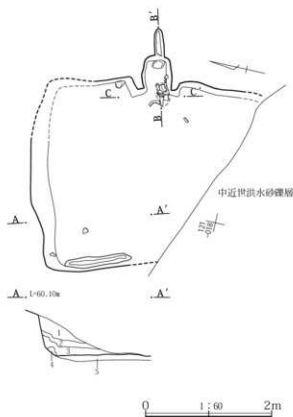
1区西側の住居群内にある。他住居と重複している。中近世洪水砂礫層により南部の使用面が壊されているため、全容が明らかでない。

位置：120～124・-015～-019にある。

規模形状：主軸長2.97m、幅(3.70)mである。東辺・西辺は、歪みがあり、北辺は、やや丸みを帯びている。全体としては、南北に長い歪んだ方形を呈していると思われる。埋没土・壁：焼土粒、炭化物、灰を含むシルト質の黄褐色土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。壁高は0.31mである。

方位：N-76°-E 面積：8.27㎡(推定) 床面：傾斜はなくほぼ平坦である。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できなかった。掘り方は認められなかった。壁溝：西辺の一部で確認されている。幅0.16m、深さ0.06mである。埋没土は明らかでない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央付近に位置する。全長1m、幅0.89m、焚口幅0.32m、燃焼部幅0.34m、燃焼部と煙道は壁外側に0.34m突出している。火床には支脚の礫が据えられている。支脚は、長さ0.22m、幅0.13m、厚さ0.11mである。両袖は確認できた。袖材は、黄褐色シルト質土である。掘り方は、火床下に0.16m前後の掘り込みが確認でき、埋め土は、

焼土粒を含む黄褐色シルト質土である。また、袖石が据えられていた窪みも確認できた。重複遺構：中央部をトレンチに切られている。5・8・16号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点)カマド周辺及び住居北西部から遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は掘り方から、甕(2)は床直上及び掘り方からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土が見られるが、磨礫石と思われる礫はなかった。図示した以外に、土師器(杯類121片、甕類279片)、須恵器(杯類3片、甕類1片)、不明土器1片が出土している。所見(属属時期)：出土遺物から、7世紀代であると考えられる。

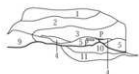
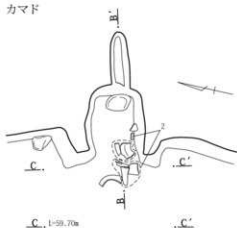


7号住居 A-A'

- 1 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物、灰を少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物、灰、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量、焼土粒を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質土。マンガン粒を少量含む。地山。

第380図 1区8面 7号住居

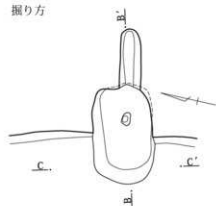
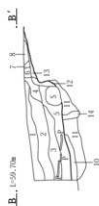
カマド



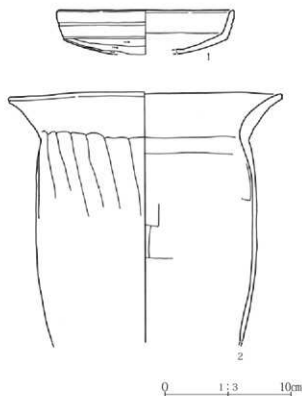
7号住居カマド B-B'・C-C'

- 1 黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質土。炭化物、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物、灰を中量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質土。焼土塊を多量、灰を中量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 9 黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。
- 10 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 11 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 12 黄褐色土 シルト質土。灰を中量、黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 13 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量、灰を少量含む。
- 14 黄褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土粒を中量含む。支脚跡か。

掘り方



0 1:30 1m



第381図 1区8面 7号住居カマド、出土遺物

8号住居(第382図 PL.106)

1区西側の住居群内にある。7号住居と中近世洪水砂礫層により北東部隅を残して使用面が大きく壊されているため、全容が明らかでない。

位置：122～124・-019～-023にある。

規模形状：長軸長(2.07m)、短軸長(1.54m)である。北東の縁辺部が確認されており、やや丸みを帯びた形状である。全体としては、方形を呈していると推察できる。

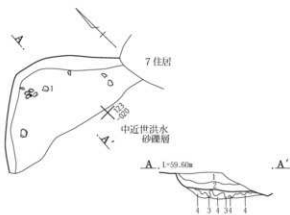
埋没土・壁：炭化物及び焼土粒を含む黄褐色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。壁高は0.26mである。方位：N-42°-W

面積：(1.80)m² 床面：確認の範囲では、南に傾斜しており起伏も伴う。柱穴と思われる窪みが確認できた。

掘り方：認められた。埋没土は、灰及び炭化物を含むシルト質の黄褐色土であり、やや締まっている。深さは、0.08～0.14m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：位置よりP1は柱穴と思われる。埋没土は、炭化物及び焼土粒を含んだ黄褐色シルト質土である。長径0.41m、短径0.34m、深さ0.36mである。貯蔵穴：

認められない。カマド：認められない。重複遺構：7号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点)住居北東隅から遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は床から0.11m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明確でない。円礫の出

土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類23片、甕類47片)が出土している。所見(帰属時期)：床直上出土の土器は少ないが、出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。

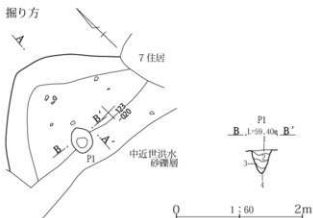


8号住居 A-A'

- 1 黄褐色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質上。灰、炭化物を中量含む。しまりやや固い。床層。
- 4 黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。



第382図 1区8面 8号住居、出土遺物



8号住居内1号ピット B-B'

- 1 黄褐色土 シルト質上。炭化物を中量、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

9号住居(第383・384図 PL.106・198)

1区西側の住居群内にある。4面3号溝(下層)により住居の北東隅から南西隅にかけて南北に床面に壊されている。その他の床面の残存状態は良好である。

位置：119～125・000～005にある。

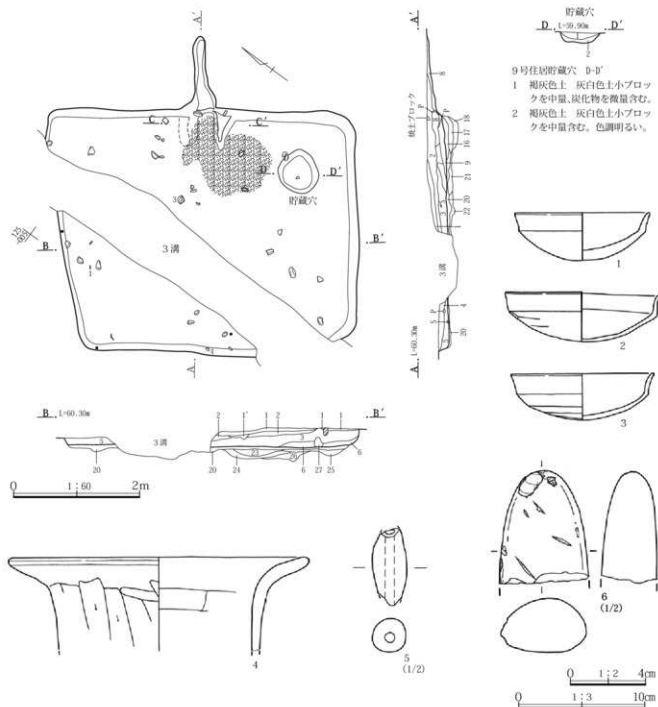
規模形状：主軸長3.80m、幅4.90mである。南北にやや長い長方形である。各辺は直線のだが、東辺に対して西辺は短い。埋没土・壁：黄灰色土及び褐色土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。壁高は0.31mである。方位：N-52°-E 面積：14.80㎡(推定) 床面：西にやや傾斜している。若干起伏があるが、ほぼ平坦である。カマド内から右袖周りに灰が多量に分布している。貯蔵穴は確認できたが、柱穴の掘り込みは認められなかった。掘り方：ほぼ全面に広がっていて、土坑状の掘り込みが複数確認された。い

わゆる床下土坑である。掘り方の埋め土は、炭化物を含む褐色土である。住居東部を中心に厚く、深さは0.06～0.14m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東隅寄りに確認できた。埋没土は、炭化物を含む褐色土である。長径0.71m、短径0.66m、深さ0.16mである。カマド：東壁中央付近に位置する。全長1.77m、幅0.89m、焚口幅0.42m、燃焼部幅0.48m、煙道は壁外側に1.14m突出している。燃焼部は、住居内にあり、火床面からカマド前部にかけて灰の分布が見られる。右袖は確認でき、灰を含む粘性の暗灰褐色土でつくられている。掘り方は、火床下に0.22m前後の深い皿状の掘り込みが確認できた。埋め土は、焼土、灰、炭化物、褐色土の混土と褐色土である。

重複遺構：3号溝(下層)に前出しており、18号住居に後出している。遺物：土師器(杯3点、甕1点)、土製

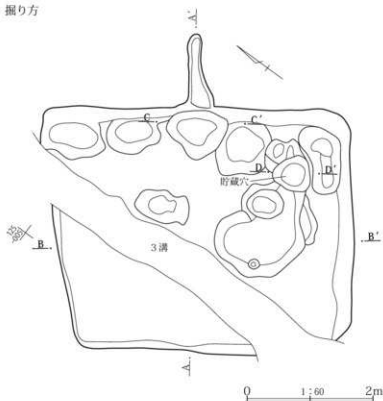
品(土鍾1点)、石製品(砥石1点) 住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器及び土製品5点、石製品1点を図示した。杯(2)はカマド内から、杯(1・3)は床直上からの出土である。甕(4)は壁及び埋没土からの出土であり、土鍾(5)は埋没土からの出土である。砥石(6)については埋没土からの出土であった。他に円

礫が少量出土している。図示した以外に、土師器(杯類179片、甕類571片)、須恵器(甕類1片)、不明土器(杯類2片)が出土している。 所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係、形状より7世紀前半であると考える。

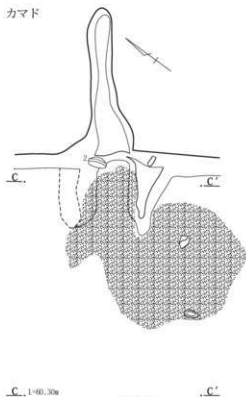


第383図 1区8面 9号住居、出土遺物

掘り方



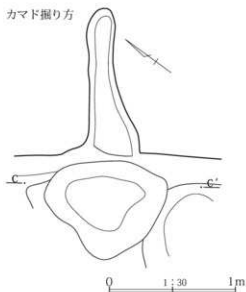
カマド



9号住居 A-A'・B-B'・C-C'

- 1 褐灰色土 シルト質土。灰白色土小ブロック。灰白色土粒を中量含む。
- 1' 褐灰色土 1層に類するが、黒色味強い。
- 2 褐灰色土 灰白色土ブロックを多量含む。
- 3 褐灰色土 褐色味強い。
- 4 褐灰色土 褐色土粒。酸化鉄凝集を中量含む。黄褐色味やや強い。
- 5 黄灰色土 褐色土粒。酸化鉄凝集を中量含む。
- 6 褐灰色土 褐灰色土粒を微量含む。しまりやや弱い。黒色味強い。
- 7 褐灰色土 炭化物を多量。焼土ブロックを中量含む。
- 8 褐灰色土 炭化物を少量。焼土ブロックを微量含む。
- 9 褐灰色土 焼土ブロックを多量。炭化物を中量含む。
- 10 褐灰色土 灰を中量含む。カマド材の崩れたものか。
- 11 暗褐色土 袖部残りか。
- 12 暗褐色土 11層に類似。色調暗い。
- 13 焼土ブロック
- 14 褐灰色土 焼土ブロックを少量含む。
- 15 褐灰色土 やや褐色味。カマド材の崩れたもの。
- 16 褐灰色土 焼土、灰、炭化物を多量含む。
- 17 褐灰色土 焼土小ブロックを多量含む。
- 18 褐灰色土 灰黄色土ブロック。褐色土ブロックを多量。炭化物を微量含む。
- 19 褐灰色土 右袖袖部。燃焼穴部を修復して構築し直している。
- 20 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量。炭化物を微量含む。黒色味やや強い。
- 21 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。灰白色味やや強い。
- 22 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。灰白色味強い。
- 23 褐灰色土 炭化物を少量含む。
- 24 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 25 褐灰色土 灰白色土大ブロックを少量含む。
- 26 褐灰色土 灰白色土大ブロックを少量含む。黒色味強い。
- 27 褐灰色土 褐色味強い。

カマド掘り方



第384図 1区8面 9号住居掘り方、カマド

10号住居(第385～388図 PL.106・107・198・199)

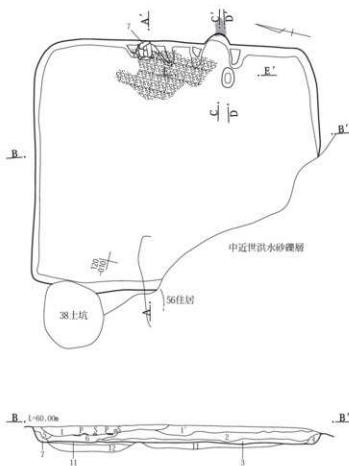
1区西側の住居群内にある。38号土坑により西壁が一部壊されている。中近世洪水砂礫層により、住居南西隅の使用面が壊されている。

位置：117～121・-004～-110にある。

規模形状：主軸長3.97m、幅4.51mである。各辺ほぼ直線の、北東隅は丸みを帯びている。南北にやや長い方形を呈している。埋没土・壁：炭化物を含む褐灰色土、及び褐灰色土と灰白色土の混土で埋没している。ブロックが含まれ、人為的な埋め戻しであると思われる。壁高は0.27mである。方位：N-83°-E 面積：13.50㎡(推定) 床面：傾斜はなく、起伏があるがほぼ平坦である。カマド内部からカマド左袖側にかけて、多量の灰を確認する。掘り方は全面に広がっており、床下土坑及び柱穴と思われる落ち込みが複数確認された。その性格は明らかにできなかった。掘り方は、北部が深くて深さ0.14m程、南部が浅くて0.08～0.12m程である。埋め土は、

北部が褐灰褐色土と炭化物の混土で、南部が炭化物粒を含む褐灰色土である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：掘り方において落ち込みが確認された。北東に位置するカマド左側に貯蔵穴であると思われる落ち込み及び全面にわたり床下土坑と思われる落ち込みが複数確認されるが、明確な調査はできなかった。カマド：東辺中央やや南寄りに位置する。全長0.57m、幅0.93m、焚口幅0.45m、燃焼部幅0.43m、煙道は屋外に0.54m、幅0.36mで突出する。燃焼部は、住居内から壁外にかけてあり、火床上から左袖周りにかけて灰の分布が見られる。両袖共に確認できたが、崩壊が顕著であった。袖材は、粘性のある褐灰色土である。掘り方は、火床下に0.15m前後の深い掘り込みが確認できた。埋め土は、灰、炭化物、褐灰色土の混土及び焼土、炭化物を含む褐灰色土である。火床は床面よりやや低い。

重複遺構：56号住居・38号土坑に前出している。遺物：土師器(杯5点、甕2点、甗1点)、石製品(砥石1点、

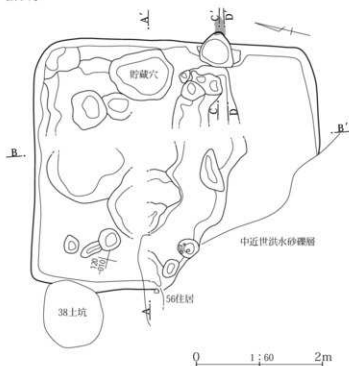


- 10号住居 A-A'・B-B'
- 1 褐灰色土 灰白色土ブロックを中量、炭化物、灰白色軽石を少量含む。
 - 1' 褐灰色土 灰白色土ブロックを多量、炭化物、灰白色軽石を少量含む。1層に似るが灰色味強い。
 - 2 褐灰色土 灰白色土ブロックを多量含む。
 - 3 褐灰色土 2層より暗褐色味強い。
 - 4 褐灰色土 炭化物を微量含む。灰黄色味の強い三角埋積層。
 - 5 褐灰色土 4層に似るが灰色味強い。
 - 6 褐灰色土 炭化物粒を多量含む。黒味強い。
 - 7 褐灰色土 粘性強い。黒味強い。
 - 8 褐灰色土
 - 9 炭化物層
 - 10 褐灰色土 褐色土、炭化物粒を少量含む。
 - 11 褐灰色土 炭化物粒を微量含む。
 - 11' 褐灰色土 11層よりも灰白色味強い。掘り方。
 - 12 褐灰色土と炭化物の混土層。
 - 13 褐灰色土 焼土を中量含む。

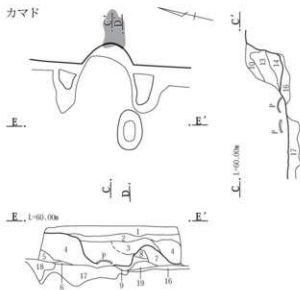
第385図 1区8面 10号住居

不明1点) 住居北部を中心に全体から散在するように遺物が出土した。そのうち土器8点、石製品2点を図示した。杯(1・2・3・4・5)、甕(7)及び敲石(9)、不明石製品(10)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(8)は床から0.11～0.16m程浮いた位置から出土している。甕(6)は床直上及び埋没土から出土している。本体が床直上から出土しているため本住居に伴うものと考えられるのが自然である。円礫が多数出土している。筒編石と思われる礫はなかった。図示した以外に、土師器(杯類22片、甕類660片)、須恵器(杯類1片、甕類5片)が出土している。 所見(帰属時期): 出土遺物、形状から、7世紀前半であると思われる。

掘り方



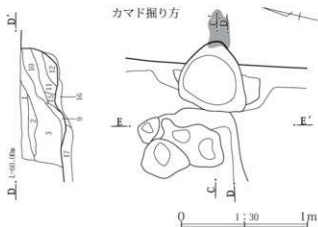
カマド



10号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

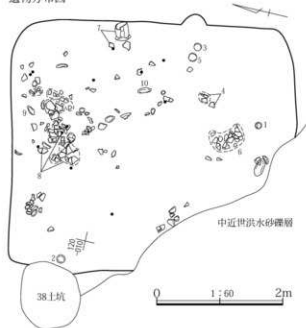
- 1 褐灰色土 灰白色土ブロックを中量含む。
- 2 褐灰色土 灰白色土ブロックを多量含む。白色味強い。
- 3 褐灰色土 灰白色土ブロック、褐色土を中量含む。黄色味強い。
- 4 褐灰色土 褐色土を多量含む。
- 5 褐灰色土 炭化物を含む。
- 6 褐灰色土 褐色味強い。粘性強い。
- 7 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量含む。
- 8 焼土ブロック
- 9 褐灰色土 粘性やや強い。褐色味強い。袖材の崩れたもの。

カマド掘り方

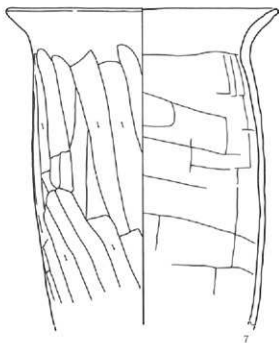
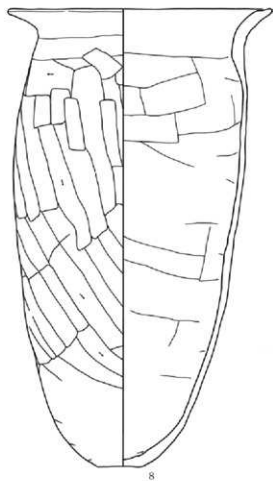
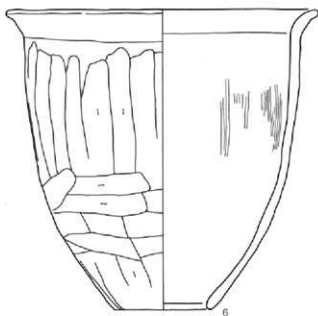
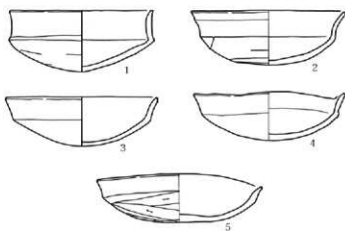


- 10 褐灰色土 灰白色土ブロック、黄褐色土ブロックを中量含む。壁面が崩れながら落ち込んだもの。
- 11 褐灰色土 灰白色土ブロックを多量、黄褐色土ブロックを中量含む。
- 12 褐灰色土
- 13 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量、灰白色土ブロックを少量、焼土を微量含む。
- 14 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量、灰白色土ブロックを少量含む。
- 15 焼土ブロック
- 16 炭化物と灰と褐灰色土の混土層。最終使用面。
- 17 褐灰色土 焼土、炭化物を微量含む。しまりやや固い。掘り方。
- 18 褐灰色土と炭化物の混土層。掘り方。

遺物分布図

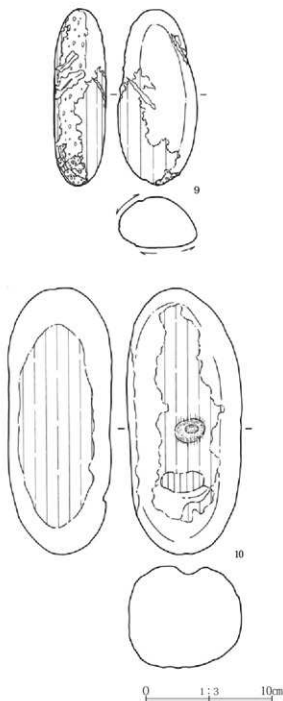


2 1区の遺構と遺物



0 1:3 10cm

第387図 1区8面 10号住居遺物分布図、出土遺物(1)



第388図 1区8面 10号住居出土遺物(2)

11号住居(第389・390図 PL.107・199)

1区西側住居群内にある。3号住居により北壁を、12号住居により南部使用面の一部を壊されている。26号溝と重複しているが床面は影響を受けていない。中央から西辺にかけて調査区域外にあり、全容が明らかでない。

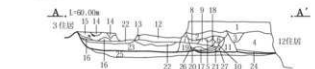
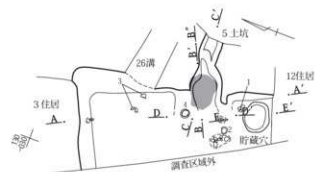
位置：126～129・-027～-030にある。

規模形状：東辺は、直線的である。北辺・南辺・西辺は3号住居、12号住居、調査区域外に延びていて確認でき

ない。主軸長(1.54)m、幅(3.70)mである。埋設土・壁：黄褐色シルト質土で埋設している。壁側から埋められており、自然堆積と思われるが、北部から3号住居が後出しており、不自然な埋設が見られ人為的な埋め戻しも考えられる。壁高は0.54mである。方位：N-70°-E面積：(2.76)m² 床面：傾斜はなくほぼ平坦である。南東部に貯蔵穴が確認される。柱穴や床下土坑等の窪みは確認されない。掘り方：全面に広がっている。埋め土は、黄褐色シルト質土ブロックを含む黄褐色土であり、壁際が深く中央が浅い。深さは0.05～0.1m程度である。

壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東部に落ち込みが確認された。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋設土は、灰及び炭化物を含む黄褐色シルト質土である。長径0.49m、短径0.41m、深さ0.06mである。カマド：東辺中央付近に位置すると思われる。現存全長1.17m、幅0.94m、焚口幅0.38m、燃焼部幅0.37m、現存煙道は壁外側に0.84m張り出している。燃焼部は、壁際から壁外にあり、火床面に焼土の分布が見られる。右袖は確認できたが、崩れが大きい。袖材は、炭化物を含む黄褐色シルト質土である。左袖は現存しないが、先端部付近に土器器裏が倒置して据えられており、焚口を形成していたことが窺える。掘り方は、火床下に0.12m前後の掘り込みが確認できた。埋め土は、灰や焼土を含む黄褐色シルト質土である。重複遺構：3・12号住居に前出しており、35号住居・26号溝に後出している。遺物：土師器(杯3点、甕1点)カマド周辺を中心に、点在するように遺物が出土した。そのうち土器4点を図示した。杯(3)及び甕(4)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1・2)は床から0.08～0.11m程遊離した位置から出土しており、円礫の出土は見られなかった。図示した以外に、土師器(杯類27片、甕類48片)が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物と重複関係から、6世紀後半であると思われる。図示した遺物において、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。

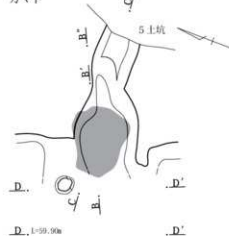


掘り方

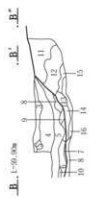


0 1:60 2m

カマド



D, 1:50.50m



0 1:30 1m

11号住居カマド B-B'・C-C'

- 1 黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を多量、灰を中量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質上。灰、焼土、黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質上。灰、黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。

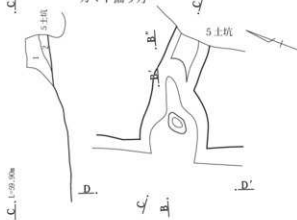
11号住居 A-A'

- 1 黄褐色土 シルト質上。灰、焼土粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。灰、黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、灰、焼土粒を少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質上。灰、黄褐色シルト質上ブロック少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質上。灰、焼土粒を少量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質上。灰を中量、黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- 9 黄褐色土 シルト質上。灰、黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- 10 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を中量含む。
- 11 黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。袖か。
- 12 黄褐色土 シルト質上。炭化物、灰を中量含む。
- 13 褐色土 シルト質上。酸化鉄凝集に囲まれている。
- 14 黄褐色土 シルト質上。灰を少量含む。
- 15 黄褐色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 16 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量含む。
- 17 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を少量含む。
- 18 黄褐色土 シルト質上。焼土塊、灰を中量含む。
- 19 黄褐色土 シルト質上。焼土粒中量、炭化物少量含む。
- 20 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。
- 21 黄褐色土 シルト質上。灰、焼土塊を多量含む。
- 22 黄褐色土 シルト質上。灰を中量含む。
- 23 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量含む。
- 24 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量、焼土粒を少量含む。
- 25 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量含む。
- 26 黄褐色土 シルト質上。焼土多く含む。
- 27 黄褐色土 シルト質上。焼土中程度含む。

11号住居貯蔵穴 E-E'

- 1 黄褐色土 シルト質上。灰を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量、炭化物を少量含む。

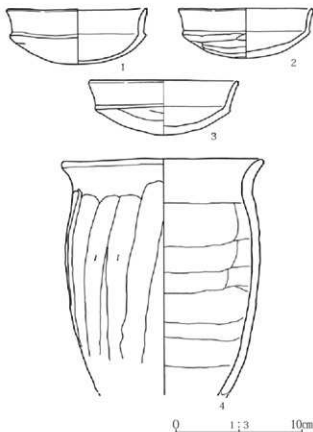
カマド掘り方



C, 1:50.50m

- 5 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を中量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を少量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質上。灰、焼土塊を多量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を多量、灰を中量含む。
- 9 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を中量含む。
- 10 黄褐色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 11 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 12 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を多量含む。
- 13 黄褐色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 14 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を多量、灰を少量含む。
- 15 黄褐色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 16 黄褐色土 シルト質上。灰を少量含む。

第389図 1区8面 11号住居



第390図 1区8面 11号住居出土遺物

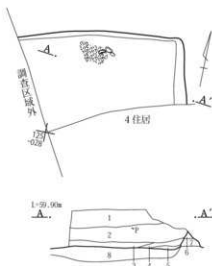
12号住居(第391図 PL.107)

1区西側の住居群内にある。4号住居により住居南部の床面が壊されている。また、住居の西半分が調査区外にあり全容が明瞭でない。

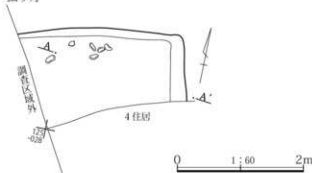
位置：125～126・-025～-028にある。

規模形状：東辺、北辺共に直線的である。整った方形を呈していると推察される。長軸長(2.52)m、短軸長(1.50)mである。埋没土・壁：炭化物、焼土、灰を含む黄褐色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。壁高は0.67mである。方位：N-11°-E 面積：(2.75)㎡ 床面：傾斜はなす多少の起伏を伴っているが平坦である。全体的に踏み固められており硬化面が確認できる。北辺壁面に灰が確認される。柱穴・貯蔵穴等は、確認されていない。掘り方：全面におよび、埋め土は、黄褐シルト質土ブロックを含む黄褐色シルト質土である。深さは、0.16～0.23m前後である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：北部は11号住居に後出しており、南

部は4号住居に前出している。遺物：土師器(杯類81片、甕類68片)が出土している。図示できる遺物は得られなかった。所見(帰属時期)：出土遺物は破片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。重複関係と土器片より6世紀後半から7世紀代であると考えられるが、時期決定の資料に欠く。



掘り方



12号住居 A-A'

- 1 黄褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒、灰、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒、灰を少量、黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質土。炭化物を中量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量、黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量含む。しまりやや強い。床層。

第391図 1区8面 12号住居

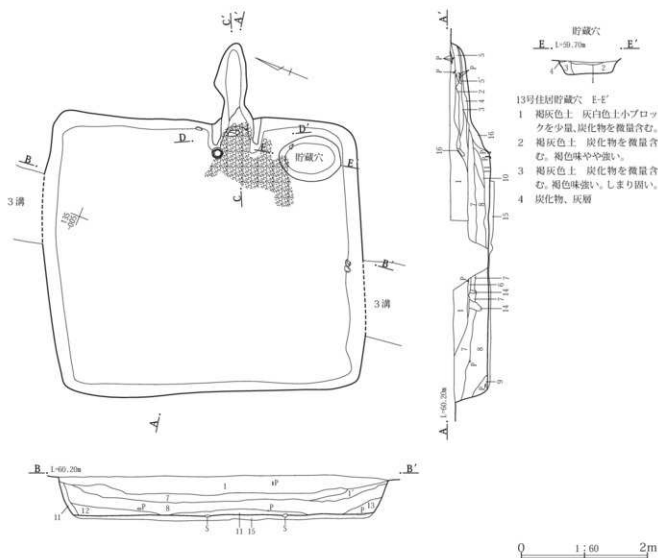
13号住居(第392～395図 PL.107・199・200)

1区西側の住居群内にある。3号溝により住居中央が南北に貫かれ北壁と南壁の一部を壊されている。床面は影響を受けていない。残存状態は良好である。

位置：129～135・-001～-007にある。

規模形状：各辺共に直線の形である。南北にやや長い長方形を呈している。主軸長4.44m、幅5.04mである。

埋没土・壁：褐灰色土及び、暗褐色土で埋没している。



13号住居 A-A'・B-B'

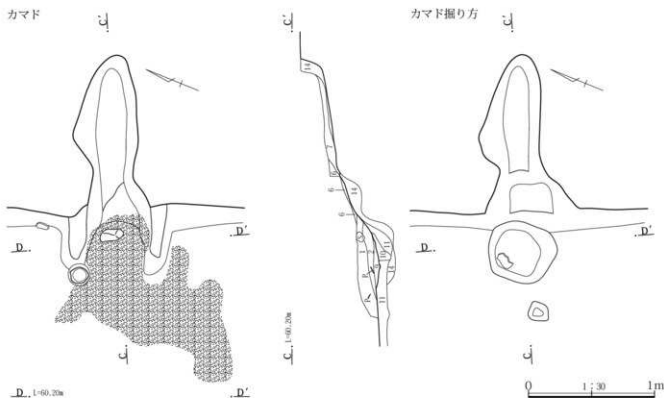
- 1 褐灰色土 (詳細不明)
- 1' 褐色灰土 色調異なる。
- 2 褐灰色土 焼土、炭化物を多量、灰白色土ブロックを含む。中量含む。
- 3 褐灰色土 灰白色味強い。
- 4 褐灰色土 黄褐色土ブロックを中量含む。
- 5 褐色土 褐灰色土ブロック、灰を中量含む。
- 5' 褐色土 褐灰色土ブロック、灰を中量、焼土ブロックを少量含む。
- 6 褐灰色土と炭化物の混土層。
- 7 褐灰色土 酸化鉄凝集を中量、炭化物を微量含む。

- 8 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量、炭化物を微量含む。
- 9 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。しまり強い。黒味強い。
- 10 褐灰色土 炭化物を少量含む。黒味強い。
- 11 褐灰色土 暗褐色土ブロック、灰白色土ブロックを中量含む。8層との間に炭化物の薄い層あり。
- 12 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量、炭化物を微量含む。
- 13 褐灰色土 炭化物を微量含む。しまり強い。黒味味強い。
- 14 褐灰色土 炭化物を多量含む。
- 15 褐灰色土 炭化物を微量含む。黄灰色味強い。
- 16 褐灰色土 (詳細不明)

第392図 1区8面 13号住居

壁側から埋もれており、床近くは自然堆積と思われる。その後は、不自然な埋没を呈しており、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.59mである。方位：N-64°-E 面積：16.21㎡ 床面：傾斜はなく、ほぼ平坦である。カマド内から前部及び貯蔵穴にかけて多量の灰が認められる。柱穴の窪みは認められない。掘り方は全面に認められ、埋め土は、褐灰色土である。炭化物はほとんど見られず、締まりが弱い。深さは、0.04～0.08m前後である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東隅直下に窪みが認められ、位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、褐灰

色土であり、一部に炭化物を含む灰層が見られる。長径0.98m、短径0.72m、深さ0.18mである。カマド：東辺中央やや南寄りに位置する。全長1.73m、幅0.88m、焚口幅0.48m、燃焼部幅0.36m、煙道は壁外側に1.18m張り出している。燃焼部は、壁際から壁外にかけてあり、火床上には支脚の礎が据えられ灰の分布が見られる。支脚は、長さ0.18m、幅0.09m、厚さ0.06mである。両袖共に確認できた。袖材は、灰白色土の小ブロックを含む締まりのある褐灰色土である。左袖は先端部には裏が据えられており、焚口の構築材になっている。掘り方は、火床下に0.14m前後の掘り込みが確認できた。埋め土は、



13号住居カマド C-C'・D-D'

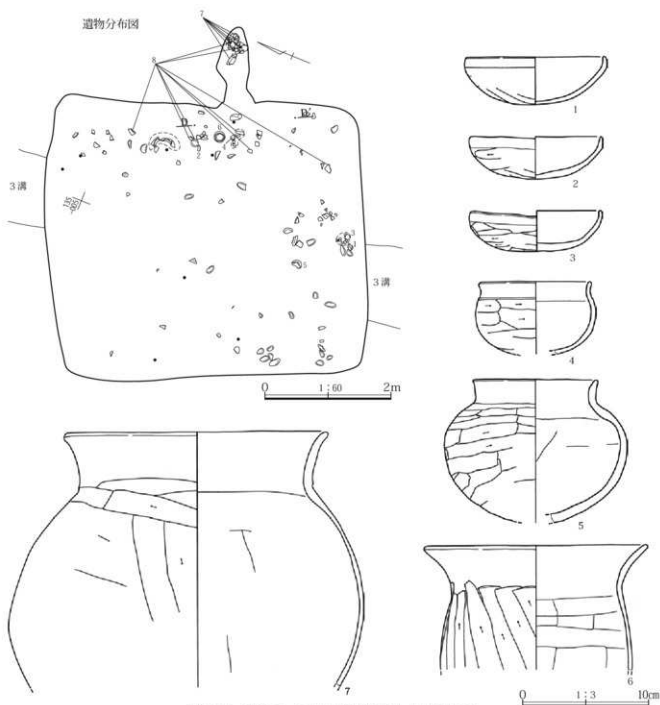
- 1 褐灰色土 炭化物、焼土粒を少量、黄褐色土粒を微量含む。
- 2 焼上ブロック 直下に炭化物、灰層あり。
- 3 褐灰色土 焼土を含み、赤褐色味やや強い。
- 4 褐灰色土 灰白色上ブロック、暗褐色土小ブロックを少量、炭化物、焼土を微量含む。
- 5 褐灰色土 灰白色上ブロック、暗褐色土小ブロックを少量、炭化物、焼土を微量含む。褐色味や強い。
- 6 褐灰色土 炭化物を微量含む。黄褐色味強い。

- 7 褐灰色土 炭化物を少量含む。
- 8 褐灰色土 炭化物を微量含む。
- 9 炭化物、灰層
- 10 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土を微量含む。
- 11 にぶい黄褐色土
- 12 褐灰色土 黄褐色味やや強い、色調濃い。
- 13 褐灰色土 袖材。灰白色土小ブロックを含む。しまりやや強い。
- 14 褐灰色土

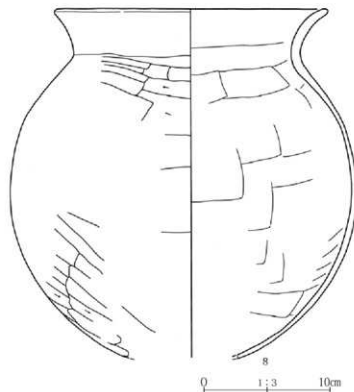
第393図 1区8面 13号住居カマド

炭化物の混入がないにぶい黄橙色土の上に炭化物及び焼土が散見したにぶい黄橙色土が覆っている。火床は使用面よりやや低い。重複遺構:36号住居に後出しており、3号溝(下層)に前出している。遺物:土師器(甕3点、小甕1点、杯4点) カマド周辺及び住居全体から散在するように遺物が出土した。そのうち土器8点を図示した。杯(1・2・3・4)、小甕(5)、甕(6)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(7)

はカマド床から0.07～0.17m程浮いた位置から、甕(8)は床直上から床上0.16mにかけて広範囲にわたり出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類487片、甕類1,036片)、須恵器(甕類18片)、不明土器2片が出土している。所見(帰属時期):出土遺物、重複関係、形状から、7世紀前半であると思われる。



第394図 1区8面 13号住居遺物分布図、出土遺物(1)



第395図 1区8面 13号住居(2)

14号住居(第396～401図 PL.108・200・201)

1区西側住居群内にある。他住居と多数重複しているが使用面は影響を受けていない。残存状態は良好である。

位置：123～131・-008～-015にある。

規模形状：各辺共に直線的である。南北にやや長い長方形を呈している。東辺に対して西辺がやや長い。カマドが2つ認められる。主軸長5.78m、幅6.56mである。

埋没土・壁：黄褐色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われるが2・3層は人為的な埋め戻しであると思われる。壁高は0.65mである。

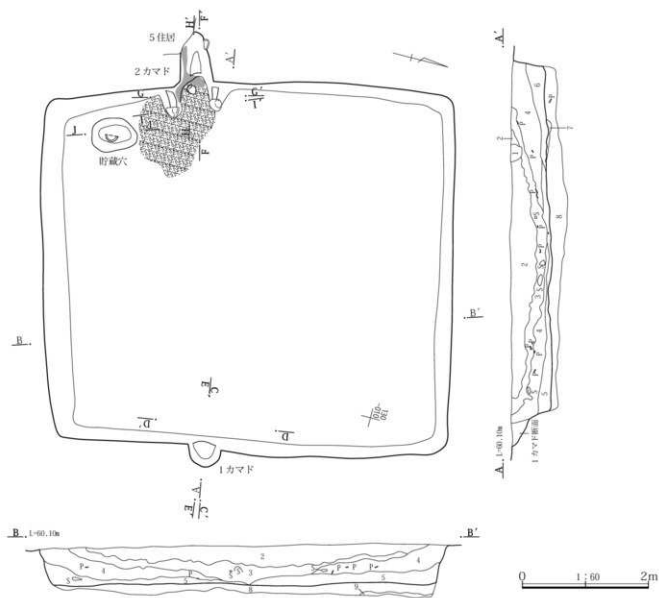
方位：N-80°-E 面積：27.89㎡ 床面：傾斜はなく、多少の起伏を伴うが、ほぼ平坦である。2号カマド内から前部にかけて多量の灰の分布が認められた。貯蔵穴は確認できた。

掘り方：全面に認められ、柱穴や床下土坑と思われる落ち込みも認められる。埋め土は中央部から南部にかけて深くなっており、深さは、0.08～0.32m程である。埋め土は、灰を含む黄褐色シルト質土で、締まりが強い。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：配置位置からP1・P2・P3が、規則的な主柱穴配置による柱穴であると思われる。P1の埋没土は、炭化物、焼土を含む褐灰色シルト質土である。規模は、長

径0.38m、短径0.36m、深さ0.16mである。貯蔵穴：南西隅、2号カマドの左袖側に認められる。埋没土は、焼土粒、炭化物を含む褐灰色シルト質土である。長径0.72m、短径0.52m、深さ0.52mである。カマド：東辺中央やや南寄りに1号カマドが、西辺中央南寄りに2号カマドが位置する。1号カマドは、現存全長0.49m、幅0.53m、焚口幅不明、燃焼部幅0.36m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、壁際から壁外にかけてあり、火床には支脚の礫が据えられている。支脚は、長さ0.2m、幅0.13m、厚さ0.11mである。両袖は確認できなかった。2号カマドは、全長1.31m、幅1.08m、焚口幅0.44m、燃焼部幅0.46m、煙道は壁外側に0.83m突出している。燃焼部は、壁際から壁外にかけてあり、火床には支脚の礫が据えられ、周囲には灰の分布が見られる。支脚は、長さ0.28m、幅0.16m、厚さ0.12mである。火床から煙道にかけては、焼土も確認できる。両袖先端部には礫が据えられており、焚口の構築材になっている。袖材は、炭化物を含む黄褐色シルト質土である。右袖石は、長さ0.45m、幅0.21m、厚さ0.18mである。左袖石は、長さ0.52m、幅0.2m、厚さ0.16mである。掘り方は、火床下に0.03～0.09m前後の掘り込みが確認できた。埋め土は、焼土粒とシルト質土ブロックを含む黄褐色土である。袖石の設置下には、窪みが確認された。重複遺構：22・23・24・25・39・41・44・53・61・82号住居に後出している。遺物：土師器(杯11点、高杯3点、小型甕1点、甕1点、鉢1点、甕4点、手捏ね1点)、土製品(土錘5点)、須恵器(杯1点、壺2点、鉢1点)、石製品(砥石2点)、礫石器(磨石1点)、鉄製品1点 住居中央部から全体に向けて散在するように多量の遺物が出土した。床上0.2～0.3m前後の高い位置の遺物が多く、埋没過程の中で廃棄され遺物が多く出土した。そのうち土器31点、石製品2点、礫石器1点、鉄製品1点を図示した。杯(7・10)、甕(23)は床直上から、甕(22)は掘り方からの出土である。杯(1・2・3・4・5・6・8・9・11)、高杯(13・14)、小型甕(21)、甕(20)は、床から0.09～0.23m程遊離した位置から、須恵器壺(18)は床から0.25m程遊離した位置から、須恵器鉢(17)は床から0.38m程遊離した位置から、高杯(15)、鉢(16)は、床直上から床上0.3mまでの範囲から、甕(25)は床直上から埋没土までの範囲から、手捏ね(26)、土錘(27・28・

29・30・31)、須恵器杯(12)、須恵器壺(19)は埋没土から出土した。裏(24)は、床直上から床上0.19m迄の範囲から出土しているが、本体が床直上にあるため本住居に伴うものと考えられる。砥石(32・33)、磨石は床上0.28m及び埋没土からの出土であり、鉄製品(34)も埋没土から

の出土であった。円礫の出土があった。図示した以外に、土師器(杯類1,429片、裏類1,838片)、須恵器(杯類14片、裏類27片)、不明土器7片が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、形状より、7世紀前半であると思われる。

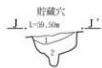
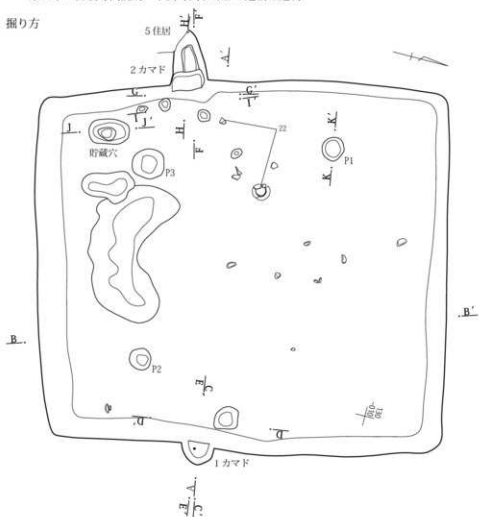


14号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質上。酸化鉄凝集に囲まれた層。粘性強い。
- 2 黄褐色土 シルト質上。灰、炭化物、褐灰色シルト質上ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質上。灰を多量、炭化物を中量、焼土粒を少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質上。灰、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、灰を少量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロック、焼土粒を少量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質上。灰を少量含む。床層。しまりやや固い。
- 9 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量含む。掘り方。

第396図 1区8面 14号住居

掘り方



14号住居貯蔵穴 J-J'

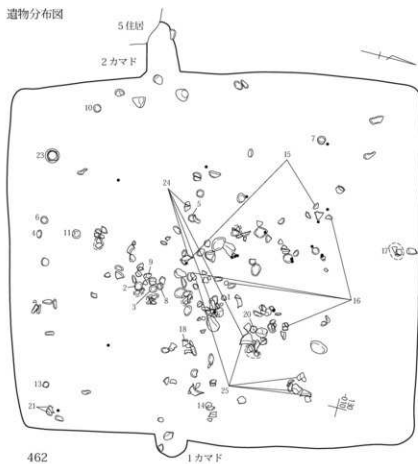
- 1 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。色調やや暗い。



14号住居内1号ピット K-K'

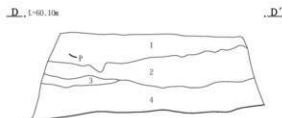
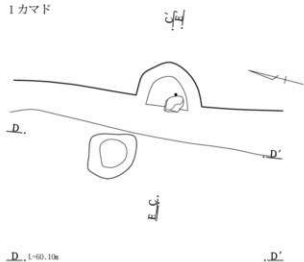
- 1 褐灰色土 シルト質土。炭化物、焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

遺物分布図



0 1:60 2m

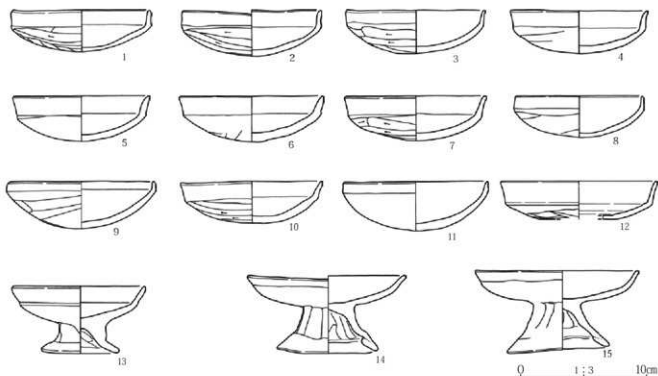
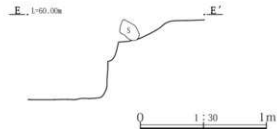
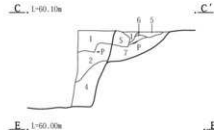
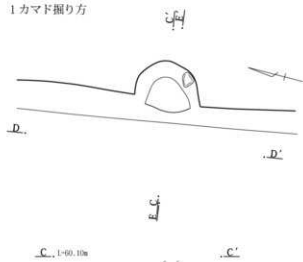
1 カマド



14号住居1号カマド C-C'・D-D'

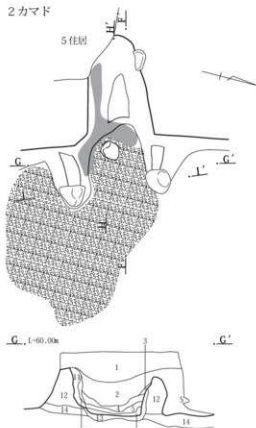
- 1 黄褐色土 シルト質土。灰を中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。

1 カマド掘り方

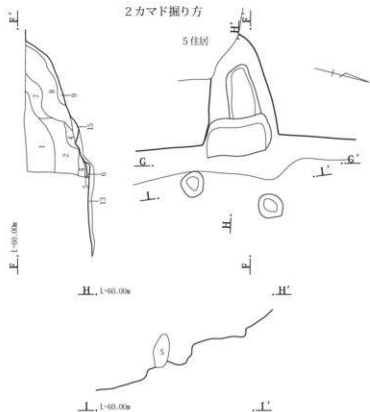


第398図 1区8面 14号住居1号カマド、出土遺物(1)

2号カマド

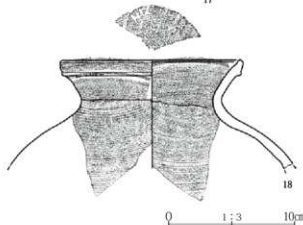
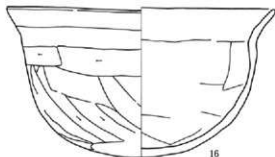
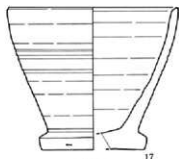
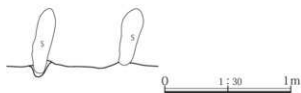


2号カマド掘り方

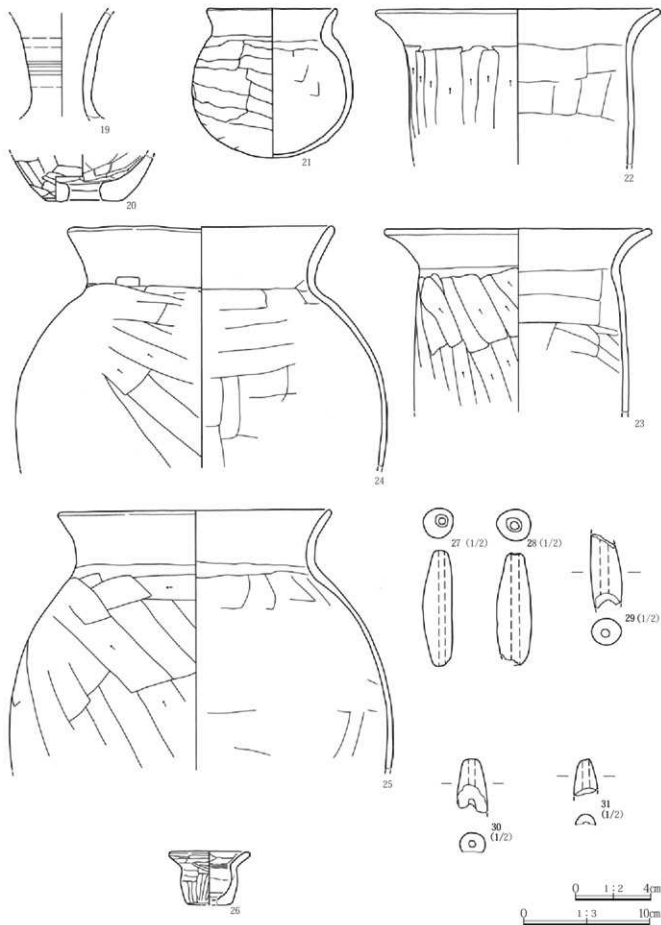


14号住居 2号カマド F-F'・G-G'

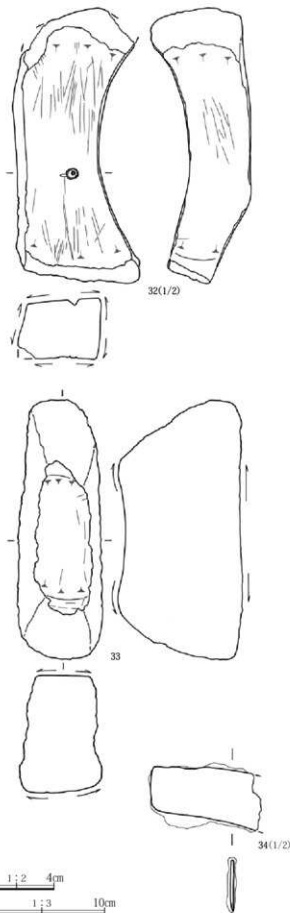
- 1 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰、炭化物を少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 7 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。
- 9 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 10 暗赤褐色土 焼土
- 11 黄褐色土 シルト質上。焼土化している。
- 12 黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。袖材。
- 13 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを多量、焼土粒を少量含む。
- 14 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを多量、炭化物を少量含む。
- 15 灰層



第399図 1区8面 14号住居2号カマド、出土遺物(2)



第400図 1区8面 14号住居出土遺物(3)



第401図 1区8面 14号住居出土遺物(4)

15号住居(第402・403図 PL.108)

1区西側住居群内にある。残存状態は、不良である。

位置：119～123・984～989にある。

規模形状：各辺共に直線的である。正方形を呈している。

主軸長3.49m、幅3.46mである。

埋没土・壁：褐灰色土で埋没している。カマドの崩壊土が一定の範囲に堆積している。壁高は0.07mである。

方位：N-60°-E 面積：10.91㎡ 床面：傾斜はなく、多少の起伏を伴うが、ほぼ平坦である。貯蔵穴が確認できたが、柱穴等の落ち込みは認められなかった。

掘り方：中央に落ち込みを確認できた。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東隅直下。円形、長径0.57m、短径0.56m、深さ0.13mを計る。

埋没土は、褐灰色土であり、表面には、黄褐色土粒が散見し、炭化物が少量見られた。カマド：東壁中央部から南寄りに備える。煙道等壁外の施設は認められなかった。

現存全長0.37m、幅0.84m、焚口幅0.41m、燃焼部幅0.37m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、壁際から壁外にかけてある。両袖共に確認できた。袖材は、黄褐色土粘土である。

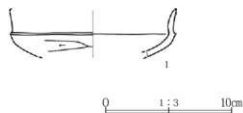
掘り方は、火床下に0.12～0.14m前後の掘り込みが確認できた。埋め土は、褐灰色土である。

重複遺構：49・71・76号住居に後出している。

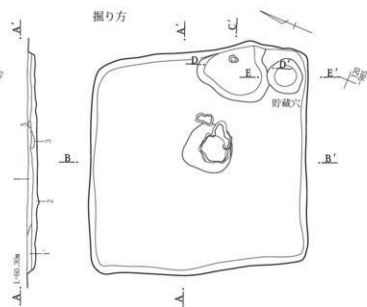
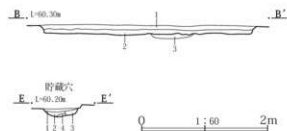
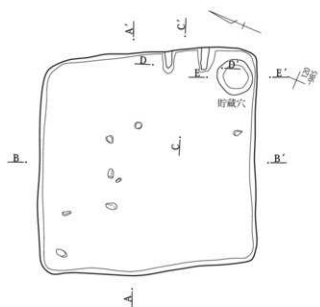
遺物：土師器(杯1点) 遺物の出土は僅かであった。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は貯蔵穴埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。

他に、円礫が見られる。図示した以外に、土師器(杯類31片、甕類54片)、須恵器(杯類1片)が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物、形状より、6世紀後半であると考える。



第402図 1区8面 15号住居出土遺物

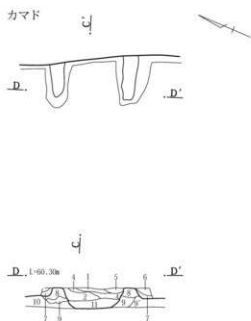


15号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 灰白色上粒、炭化物、酸化鉄凝集を微量含む。色調やや暗い。
- 1' 褐灰色土 灰白色上粒、酸化鉄凝集を微量含む。1層に似るが灰白色味強い。
- 2 褐灰色土 炭化物少量含む。色調暗い。
- 3 黄褐色土 カマド袖材と同じ土境が一定の範囲に堆積している。

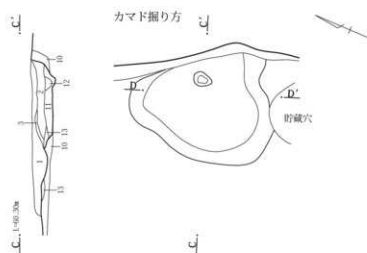
15号住居貯蔵穴 E-E'

- 1 褐灰色土 炭化物を少量、黄褐色土粒を微量含む。
- 2 褐灰色土 炭化物を少量、黄褐色土粒を微量含む。色調暗い。
- 3 褐灰色土 炭化物を少量、黄褐色土粒を微量含む。色調明るい。
- 4 褐灰色土 灰白色上ブロックを微量含む。色調暗い。



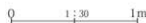
15号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 灰白色上ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 焼土、炭化物、灰を少量含む。
- 3 焼上ブロック
- 4 焼上ブロックと炭化物の混土层。
- 5 褐灰色土 焼土小粒を微量含む。



- 6 褐灰色土 焼土を少量含む。
- 7 黄褐色土 袖材が崩れたもの。炭化物を少量含む。
- 8 黄褐色土 袖材。粘性強い。
- 9 褐灰色土 袖材下の床層。
- 9' 褐灰色土 褐色味強い。
- 10 褐灰色土 褐灰色土ブロック、灰白色上ブロックを中量、炭化物を微量含む。
- 11 褐灰色土 褐灰色土ブロック、灰白色上ブロックを中量、炭化物を微量含む。黒色味強い。
- 12 焼上ブロック 支脚を抜いた痕跡か。
- 13 焼上ブロック

第403図 1区8面 15号住居



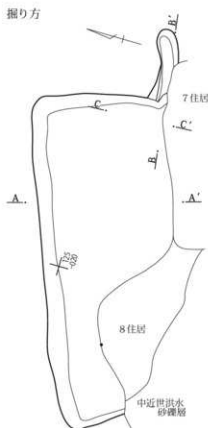
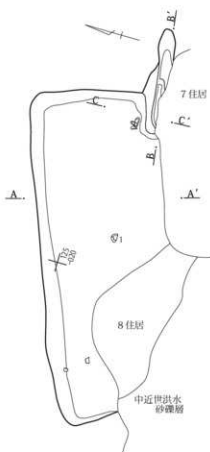
16号住居(第404・405図 PL.108)

1区西側住居群内にある。7・8号住居により中央から南部にかけて使用面が壊されている。南部は中近世洪水砂礫層の影響も受けており、全容が明瞭でない。

位置：123～126・-015～-022にある。

規模形状：西辺・東辺共に直線的である。全体的には、やや歪んだ方形を呈していると推察される。主軸長5.18m、幅(2.04)mである。埋没土・壁：炭化物、灰、焼土粒を含む黄褐色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれており、基本的には自然堆積と思われるが、3層からは人為的な埋没であると思われる。壁高は0.66mである。方位：N-81°-E 面積：(8.41)㎡ 床面：

傾斜はなく平坦である。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは認められない。掘り方：全面に広がっている。埋め土は、シルト質土ブロックを含む黄褐色土である。床層は確認されたが、締まりはやや弱い。深さは、0.1m前後である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央付近に位置すると思われる。他住居と重複しているため、カマド右部が欠損している。全長1.77m、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に1.03m突出している。燃焼部は、壁際から壁外にかけてであると思われる。左袖のみ確認できた。左袖は先端部近くに礫3点が集中的に出土している。袖材は、シルト質土ブロック及び焼土粒を



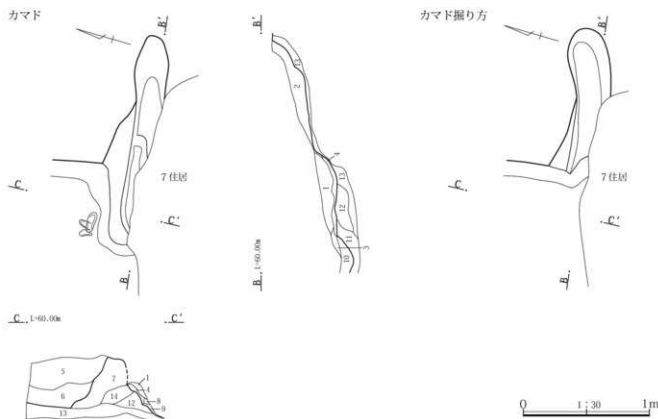
- 16号住居 A-A'
- 1 黄褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒、灰を少量含む。色調やや暗い。
 - 2 黄褐色土 シルト質土。灰、炭化物を少量含む。
 - 3 黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒、炭化物を少量含む。
 - 4 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物、灰を少量含む。
 - 5 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
 - 6 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。しまりやや弱い。床層。

0 1:60 2m

第404図 1区8面 16号住居

含む黄褐色土である。掘り方は、火床下に0.15m前後の掘り込みが確認できた。埋め土は、焼土粒、炭化物、シルト質土ブロックを含む黄褐色土である。重複遺構：5・39号住居に後出しており、7・8号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点) 住居中央部から北西部にかけて僅かに遺物が出土した。そのうち土器1点を図

示した。杯(1)は床から0.32m程遊離した位置から出土している。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類59片)、甕類(106片)、須恵器(杯類3片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると思われる。



16号住居カマド B-B'・C-C'

1 黄褐色土 シルト質土。焼土塊を多量、灰を中量含む。

2 黄褐色土 シルト質土。焼土塊を中量含む。

3 黄褐色土 シルト質土。焼土塊、灰を少量含む。

4 黄褐色土 シルト質土。灰、炭化物を中量、焼土粒を少量含む。

5 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。

6 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

7 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量、黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。袖材。

8 黄褐色土 シルト質土。焼土塊を中量含む。

9 黄褐色土 シルト質土。焼土塊、灰を少量含む。

10 黄褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒、灰、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

11 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量、焼土粒を少量含む。

12 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。

13 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量、焼土粒、炭化物を少量含む。

14 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量含む。袖の一部か。



第405図 1区8面 16号住居カマド、出土遺物

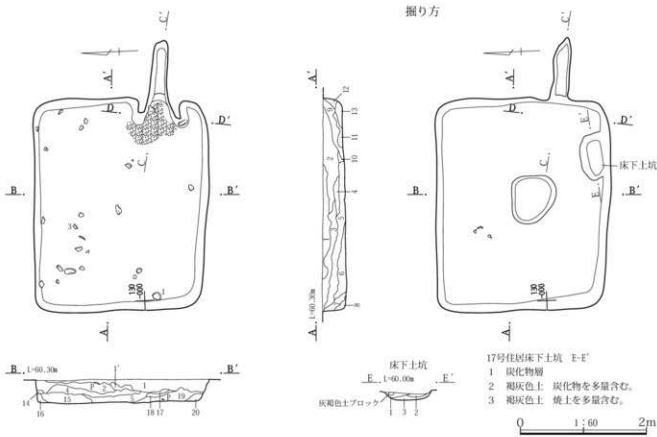
17号住居(第406・407図 PL.108・109)

1区西側の住居群内にある。他住居と重複しているが、床面は影響を受けていない。残存状態は良好である。

位置: 128 ~ 131・-995 ~ -000にある。

規模形状: 各壁共に直線的である。主軸方向に長い長方形を呈している。各隅は丸みを帯びている。主軸長3.40m、幅2.68mである。埋没土・壁: 褐灰色土で埋没している。壁側から埋もれているものの、不自然な堆積が見られ、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.39mである。方位: N-81°-E 面積: 7.74㎡ 床面:

傾斜はなく、多少の起伏を伴うが、ほぼ平坦である。カマド内から前部にかけて多量の灰の分布が認められる。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは確認できなかった。掘り方: 南東直下に床下土坑が認められた。埋め土は、褐灰色土と炭化物及び焼土の混土層上に、炭化物層が覆っている。長軸0.74m、短軸0.48m、深さ0.1mである。また、住居中央にも窪みを認めるが、床下土坑等の関連施設であるかは、明瞭でない。壁溝: 認められない。ピット(柱穴): 認められない。貯蔵穴: 認められない。カマド: 東辺中央部南寄りに位置する。全長1.37m、幅



17号住居 A-A'・B-B'

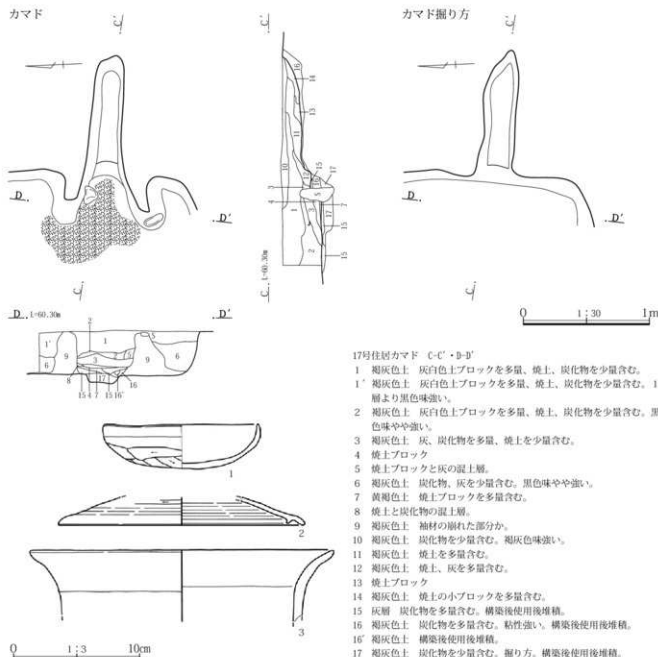
- 1 褐灰色土 シルト質土。灰白色土ブロック、酸化鉄凝集を微量含む。
- 1' 褐灰色土 シルト質土。灰白色土ブロック含む。酸化鉄凝集。
- 2 褐灰色土 シルト質土。炭化物、角閃石安山岩を微量含む。東側ほど多い。
- 3 褐灰色土 シルト質土。炭化物を微量含む。色調暗い。
- 4 褐灰色土 シルト質土。灰、炭化物を微量含む。黒色味強い。
- 5 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を少量、灰、炭化物を微量含む。黒色味強い。
- 6 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰、炭化物を微量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質土。灰白色土ブロックを少量、焼土粒、灰、炭化物を微量含む。灰白色味強い。
- 8 褐灰色土 シルト質土。褐色土ブロックを少量含む。しまりやや固い。黒味強い。

- 9 褐灰色土 シルト質土。炭化物、焼土、灰を多量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰、炭化物を微量含む。黒色味強い。
- 11 褐灰色土 シルト質土。炭化物を多量含む。
- 12 褐灰色土 シルト質土。炭化物を少量含む。褐色味やや強い。
- 13 褐灰色土 シルト質土。褐色土ブロックを少量含む。黒色味強い。
- 14 褐灰色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 15 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰、炭化物を微量含む。
- 16 褐灰色土 シルト質土。褐色土ブロックを少量含む。しまりやや固い。黒味強い。
- 17 褐灰色土 シルト質土。炭化物を多量含む。
- 18 褐灰色土 シルト質土。灰白色土粒を少量、炭化物含む。灰色味強い。
- 19 褐灰色土 シルト質土。炭化物を中量、焼土粒を少量、灰を微量含む。黒色味強い。
- 20 褐灰色土 シルト質土。褐色土ブロックを少量含む。しまりやや固い。黒味強い。

第406図 1区8面 17号住居

0.87m、焚口幅0.52m、燃焼部幅0.41m、煙道は壁外側に0.93m張り出している。燃焼部は、住居内にあり、火床上には支脚の礎が据えられ灰の分布が見られる。支脚は、長さ0.27m、幅0.15m、厚さ0.11mである。右袖は先端部には袖石が据えられており、焚口の構築材になっている。袖材は、褐色灰土である。掘り方は、火床下に0.11m前後の掘り込みが確認できた。埋め土は、炭化物を含む褐色灰土及び炭化物と褐色灰土の混土である。火床の表面を灰層が覆っている。重複遺構：62・63号住

居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点)、須恵器(蓋1点) 住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1)、甕(3)は床直上からの出土であり、蓋(2)(須恵器)は掘り方からの出土であった。杯(1)、甕(3)は、本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類119片、甕類283片)、須恵器(杯類2片、甕類2片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物より7世紀後半であると考えられる。



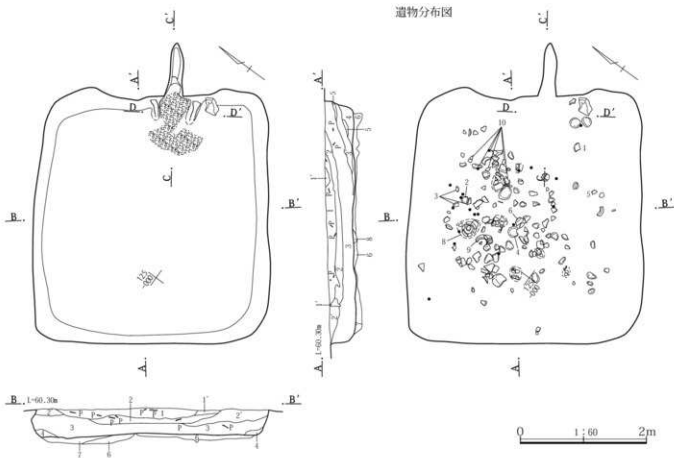
第407図 1区8面 17号住居カマド、出土遺物

18号住居(第408～410図 PL.109・201)

1区西側の住居群内にある。33号住居と重複しているが床面は影響をうけていない。残存状態は良好である。位置：123～127・-996～-001にある。

規模形状：各壁直線のだが、隅部は、丸みを帯びている。東西にやや長い歪んだ長方形を呈している。主軸長4.07m、幅3.60mである。埋没土・壁：褐灰色土で埋没した後、黒褐色土で埋没している。1・2層中に遺物を多く含むことから、1・2層は人為的な埋戻しである。壁高は0.41mである。方位：N-53°-E 面積：11.42㎡ 床面：傾斜はなく、多少の起伏を伴うが、

ほぼ平坦である。カマド内から焚口部にかけて多量の灰の分布が認められる。住居中央部分の1・2層中は、遺物の出土が顕著である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは確認できない。掘り方：ほぼ全面に広がっている。埋め土は、炭化物が散見している褐灰色土である。中央が浅く周辺が深い。深さは、0.04～0.11m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央部やや南寄りに位置する。全長1.26m、幅0.83m、焚口幅0.43m、燃焼部幅0.47m、煙道は壁外側に0.58m突出している。燃焼部は、壁際から壁外にかけてあり、火床上には灰の分布が見ら



18号住居 A-A'・B-B'

- 1 黒褐色土 灰褐色土小ブロックを中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 1' 黒褐色土 灰褐色土小ブロックを中量、炭化物、焼土粒を少量含む。1層よりも黒色味強い。
- 2 褐灰色土 炭化物を少量含む。
- 2' 褐灰色土 炭化物を微量含む。黒色味弱い。
- 3 褐灰色土 炭化物少量含む。灰白色味強い。遺物の出土量極端に少なくなる。

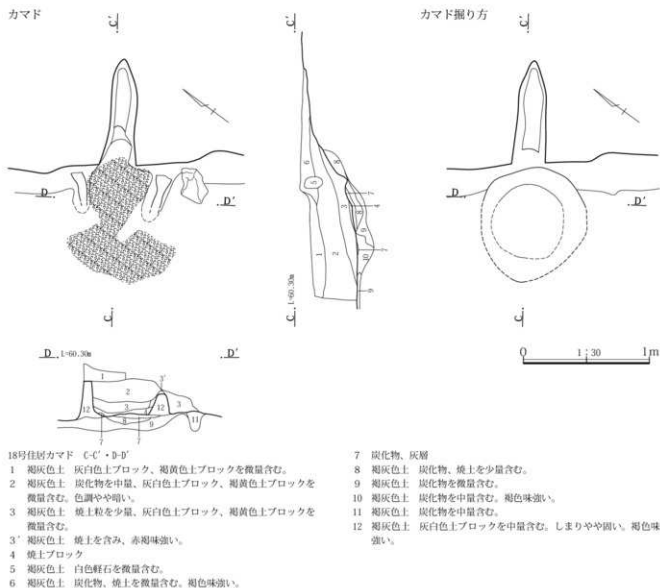
- 3' 褐灰色土 炭化物中量含む。黒色味強い。
- 4 褐灰色土 しまり強い。黄褐色味や中強い。
- 5 炭化物層
- 6 褐灰色土 炭化物、灰白色土、灰黄褐色土小ブロックを少量含む。灰白色味強い。
- 7 褐灰色土 炭化物を少量、灰白色土ブロック、灰黄褐色土小ブロックを微量含む。褐色味強い。
- 8 褐灰色土 炭化物を多量含む。

第408図 1区8面 18号住居

れる。右袖側には礎があった。掘り方は、火床下に0.12m前後の掘り込みが確認できた。埋め土は、炭化物及び焼土を含む褐灰色土の表面を焼土ブロック及び灰、炭化物層が覆っている。重複遺構：33号住居に後出し、9号住居に前出している。遺物：土師器(杯5点、鉢1点、甕3点)、土製品(土鍾1点)、灰袖陶器(壺1点)、石造物(板碑片1点) 住居中央部に集中して全体からも散在するように多量の遺物が出土した。床上0.3m前後の高い位置の遺物が多く、住居廃棄後埋没過程に、投棄されたような状態であったと思われる。そのうち土器11点を

図示した。杯(1・5)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(2・3・4)は0.25～0.41m程浮いた位置から出土している。土鍾(11)は床上0.11m、鉢(6)は床上0.35m、甕(8・9・10)は床上0.3～0.4mの出土である。カマド及び埋没土から壺(7)が、図示していないが住居の埋没土から板碑片が出土している。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類472片、甕類963片)、須恵器(杯類1片)が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係より、7世紀前半であると思われる。

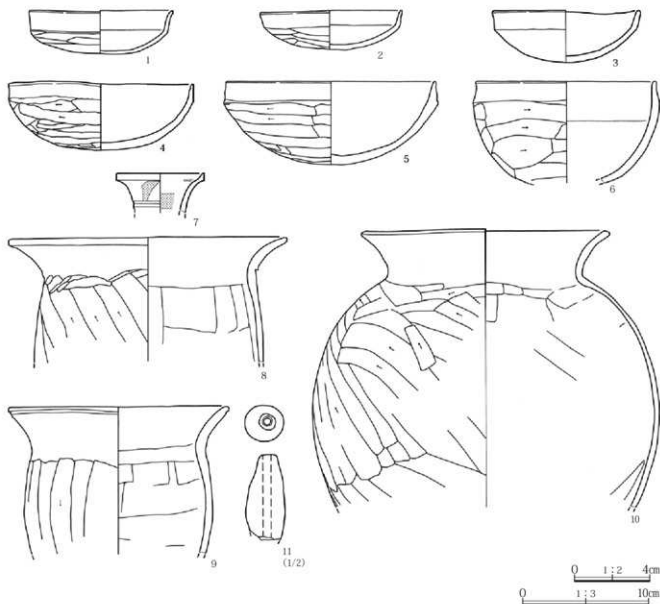


18号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 灰白色土ブロック、褐黄色土ブロックを微量含む。
- 2 褐灰色土 炭化物を中量、灰白色土ブロック、褐黄色土ブロックを微量含む。色調やや暗い。
- 3 褐灰色土 焼土粒を少量、灰白色土ブロック、褐黄色土ブロックを微量含む。
- 3' 褐灰色土 焼土を含み、赤褐色強い。
- 4 焼土ブロック
- 5 褐灰色土 白色軽石を微量含む。
- 6 褐灰色土 炭化物、焼土を微量含む。褐色味強い。

- 7 炭化物、灰屑
- 8 褐灰色土 炭化物、焼土を少量含む。
- 9 褐灰色土 炭化物を微量含む。
- 10 褐灰色土 炭化物を中量含む。褐色味強い。
- 11 褐灰色土 炭化物を中量含む。
- 12 褐灰色土 灰白色土ブロックを中量含む。しまりやや固い。褐色味強い。

第409図 1区8面 18号住居カマド



第410図 1区8面 18号住居出土遺物

19号住居(第411・412図 PL.109・201)

1区西側の住居群内にある。1号住居と重複しているが、床面は壊されていない。残存状態は良好でない。

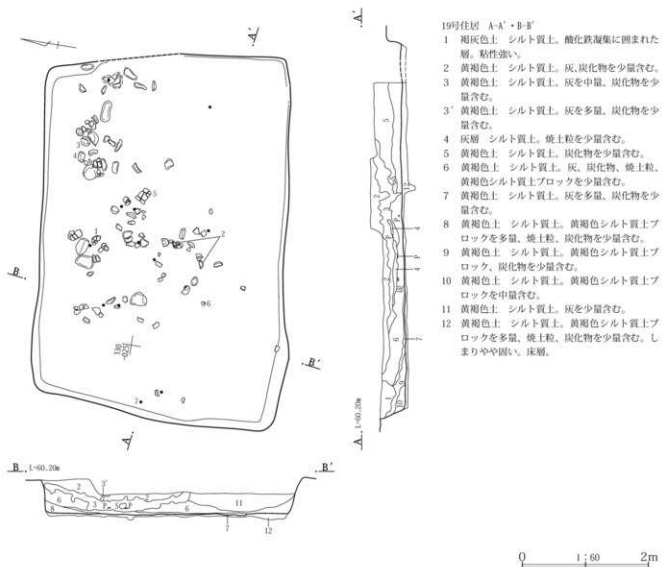
位置：127～131・-020～-026にある。

規模形状：各壁直線的である。西辺及び南辺西部はやや変形している。東西に長い長方形を呈している。主軸長5.87m、幅3.87mである。埋没土・壁：黄褐色シルト質土及び褐灰色土で埋没している。壁側から埋もれているもの、不自然な堆積が見られ、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.42mである。方位：N-87°-E 面積：21.30㎡(推定) 床面：傾斜はなく、多少の起伏を伴うが、ほぼ平坦である。住居北寄りに遺物の出土が顕著である。掘り方：ほぼ全面に認められる。東

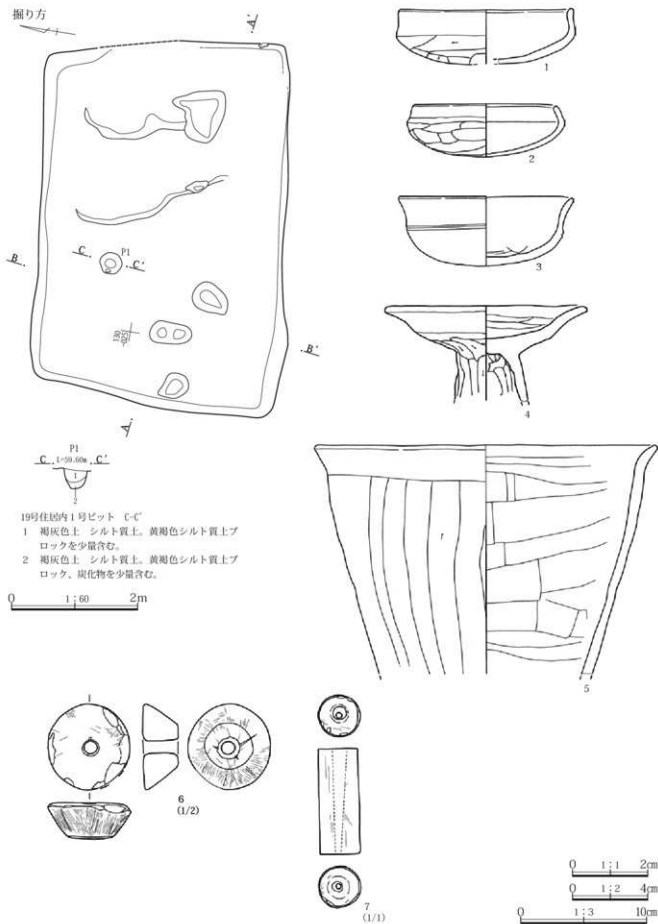
部は浅くて深さ0.04m前後、西部は深くて深さ0.1m前後である。埋め土は、焼土粒、炭化物、シルト質土ブロックを含む黄褐色土であり、締まりが強い。南東隅からやや中央寄りに床下土坑と思われる窪みが見られるが、明瞭でない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：掘り方でピットを複数調査したが、柱穴と考えられるピットはなかった。P1は、位置より規則的な主柱穴配置による柱穴の一つと思われる。埋没土は、炭化物を含む褐灰色シルト質土である。長径0.36m、短径0.34m、深さ0.29mである。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：34号住居に後出し、1号住居に前出している。遺物：土師器(杯3点、高杯2点、甕1点) 石製品(紡輪1点、管玉1点) 住居中央部か

ら北部にかけて遺物が出土した。そのうち土器5点、石製品2点を図示した。杯(1・2)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(3)は床から0.16m程浮いた位置から出土しており、高杯(4)、甕(5)は床から0.09m浮いた位置からの出土である。紡輪(6)、

管玉(7)は床直上の出土であった。円礫の出土がみられた。図示した以外に、土師器(杯類139片、甕類565片)、須恵器(杯類8片、甕類8片)が出土している。 所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると思われる。



第411図 1区8面 19号住居



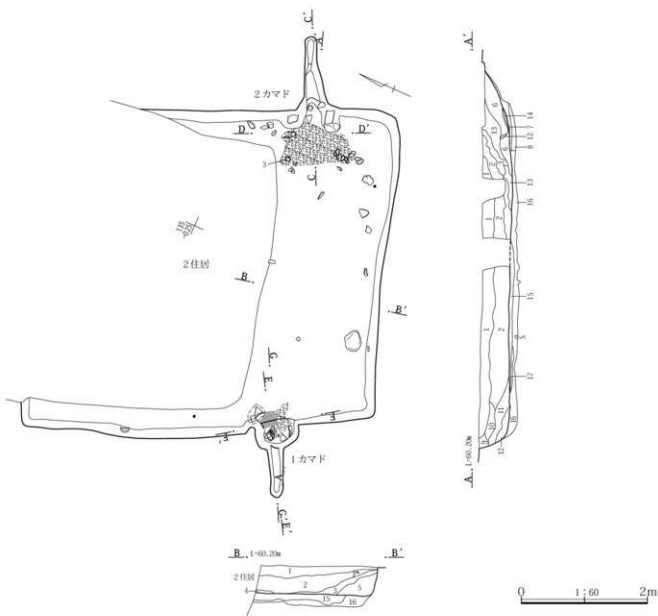
第412図 1区8面 19号住居掘り方、出土遺物

20号住居(第413～416図 PL.109・110・201)

1区西側の住居群内にある。2号住居により中央から北部にかけて広い範囲で使用面が壊されているため、残存状態が不良である。全容が明瞭でない。

位置：131～136・-021～-028にある。規模形状：東

壁・南壁・西壁はほぼ直線形である。北面は2号住居に前出している。ほぼ正方形を呈している。カマドは東西両壁に1基ずつ備えている。主軸長5.21m、幅(5.60)mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。壁高



20号住居 A-A'・B-B'

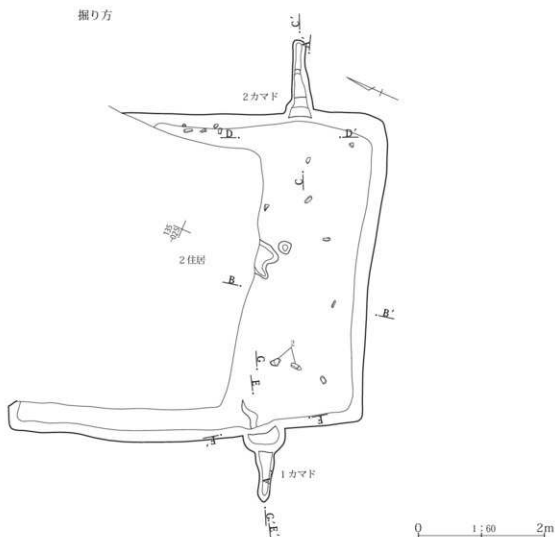
- 1 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、炭化物、灰を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックやや多く含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。灰、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質土。灰を少量、焼土粒を少量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。
- 9 黄褐色土 シルト質土。炭化物、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

- 10 褐灰色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 12 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 13 褐灰色土 シルト質土。灰、炭化物を少量含む。
- 14 褐灰色土 シルト質土。酸化鉄凝集を多量含む。
- 15 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、灰を中量含む。しまりやや強い。床期。
- 16 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 17 黄褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土粒を少量含む。

第413図 1区8面 20号住居

は0.38mである。方位：N-62°-E 面積：26.97㎡(推定) 床面：東にわずかに傾斜している。多少の起伏を伴うが、ほぼ平坦である。2号カマドの前部と1号カマドの前部に多量の灰の分布が確認できる。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは確認できない。掘り方：全面におよび、埋め土は、黄褐色シルト質土で、中央及び東部は深く西部は浅い。深さは、0.04～0.15m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：西辺中央部南寄りに1号カマドが、東辺中央部南寄りに2号カマドが位置する。1号カマドは、全長1.29m、幅0.98m、焚口幅0.54m、燃焼部幅0.47m、煙道は壁外側に1.09m突出している。燃焼部は、壁際から壁外にかけてあり、火床上には支脚の礫が据えられ灰と焼土の分布が見られる。支脚は、長さ0.16m、幅0.18m、厚さ0.11mである。右袖先端部に

は、糞により、焚口壁の補強がされている。袖材は、シルト質土ブロックを含む褐灰色土である。火床面は2枚あり、1面目廃棄時は、灰、焼土を含む褐灰色土であり、0.06m前後の掘り込みがある。2面目は、灰、焼土を含む褐灰色土であるが締めりが弱く、0.12m前後の掘り込みが確認できた。2号カマドは、全長1.49m、幅0.97m、焚口幅0.4m、燃焼部幅0.26m、煙道は壁外側に1.05m突出している。燃焼部は、壁際から壁外にかけてあり、火床上には支脚の礫が据えられ灰の分布が見られる。支脚は、長さ0.09m、幅0.08m、厚さ0.03mである。両袖共に確認できた。右袖は先端部には袖石が据えられており、焚口の補強材になっている。袖石は、長さ不明、幅0.24m、厚さ0.13cmである。袖材は、灰、炭化物、焼土粒を含む褐灰色シルト質土である。掘り方は、火床下に0.15m前後の掘り込みが確認できた。埋め土は、灰や焼

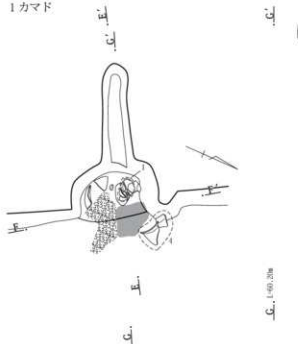


第414図 1区8面 20号住居掘り方

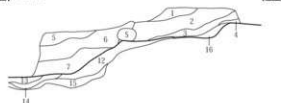
土を含む褐色シルト質土及び黄褐色土である。袖の欠損から、1号カマドが古い。重複遺構：2号住居に前出しており、34・35・43号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点)、須恵器(椀1点、杯1点) 2つあるカマド内及び周辺中心に遺物が出土した。そのうち土器4点を図示した。杯(1)はカマド床直上、杯(2)は床直上から、甕(5)は右袖からの出土であり、いずれ

も本住居に伴うものと考えられる。椀(4) (須恵器)は床から0.09m程遊離した位置及び埋没土からの出土である。杯(3) (須恵器)は、床直上及び掘り方からの出土である。円礫の出土があった。図示した以外に、土師器(杯類245片、甕類354片)、須恵器(杯類7片、甕類4片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、7世紀後半であると思われる。

1 カマド



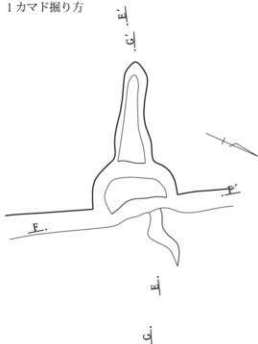
E., 1:60, 20m



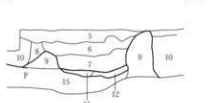
20号住居1号カマド E-E'・F-F'

- 1 褐色土 シルト質土。焼土粒、マンガン粒を少量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。焼土塊を中量、灰を少量含む。
- 3 褐色土 シルト質土。焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 褐色土 シルト質土。灰を少量含む。
- 5 褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 6 褐色土 シルト質土。灰を少量含む。
- 7 褐色土 シルト質土。焼土粒、灰、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

1 カマド掘り方



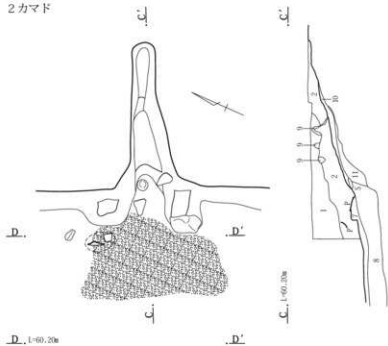
F., 1:60, 20m



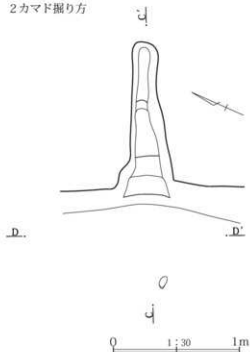
Q 1:30 1m

- 8 褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 9 褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 10 褐色土 シルト質土。褐色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 11 褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土塊を少量含む。
- 12 褐色土 シルト質土。灰、焼土塊を中量含む。
- 13 褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまりやや強い、床か。
- 14 褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 15 褐色土 シルト質土。灰、焼土粒を少量含む。しまり弱い。最初期の使用面か。
- 16 褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。

2カマド

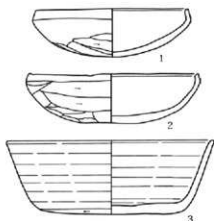
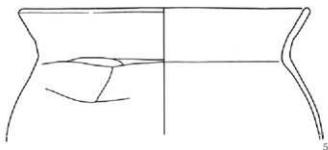


2カマド掘り方



20号住居2号カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 シルト質上。灰、炭化物を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。灰、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質上。灰を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質上。灰、焼土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質上。灰を少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質上。酸化鉄凝集を多量含む。(根の錯乱)
- 10 褐灰色土 シルト質上。灰、焼土粒を少量含む。
- 11 黄褐色土 シルト質上。灰、焼土粒を少量含む。



第416図 1区8面 20号住居2号カマド、出土遺物

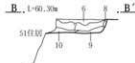
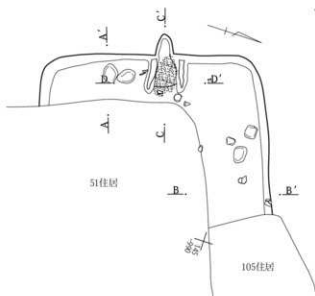
21号住居(第417・418図 PL.110・202)

1区西側の住居群内にある。51号住居により、中央から南東部にかけて使用面が大きく壊されているため、全容が明らかでない。

位置：141～146・-988～-992にある。

規模形状：南辺・東辺とも直線的であるが、隅は丸みを帯びている。51号住居に壊されているが、東西にやや長い長方形を呈していると思われる。主軸長(3.77)m、幅3.54mである。**埋没土・壁**：褐灰色土で埋没している。壁高は0.26mである。**方位**：N-79°-E **面積**：(4.78)m² **床面**：残存部分は傾斜もなく、平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窪みも確認できていない。カマド袖壁内から前部にかけて灰が確認された。カマド左袖側と住居南部に礫が据えられている。本住居の施設に関わるものと思われるが明確でない。**掘り方**：確認できなかった。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：東辺中央付近に位

置している。全長0.96m、幅0.63m、焚口幅0.39m、燃燒部幅0.31m、煙道は壁外側に0.33m突出している。燃燒部は、屋内に備えている。袖材は、黄色土と黄褐色土ブロックの混土となっている。掘り方は、火床の下に0.07mの窪みが認められた。埋め土は、灰、炭化物を含む灰層である。火床は、床面よりやや低い。**重複遺構**：51・105号住居に前出している。**遺物**：土師器(杯1点、甕1点)、剥片石器(打製石斧1点) カマド周辺及び住居北部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器2点、剥片石器1点を図示した。杯(1)は床直上、甕(2)は、カマド火床直上からの出土であり、本住居に伴うものであると思われる。石器(3)は、凝灰質砂岩の打製石斧で混入品であった。円礫の出土が見られるが、薔編石と思われる礫はなかった。図示した以外に、土師器(甕類16片)が出土している。また、51号住居と共通して土師器(杯類79片、甕類166片)が出土している。**所見(帰属時期)**：出土遺物から、6世紀前半であると考えられる。



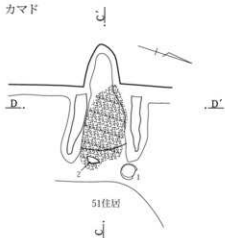
21号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 灰白色土粒、炭化物を少量含む。
- 2 褐灰色土 焼土粒、炭化物を中量、灰白色土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 しまり固い。色調もやや暗い。
- 4 褐灰色土 5層が上層から攪乱を受けたもの。
- 5 褐灰色土 灰白色土小ブロックを多量含む。灰色味強い。
- 6 褐灰色土 黄褐色味やや強い。
- 7 褐灰色土 炭化物を中量含む。黒色味強い。
- 8 褐灰色土 しまりやや固い。黄褐色味強い。
- 9 褐灰色土 しまりやや固い。褐色味強い。
- 10 褐灰色土 炭化物を中量含む。

0 1; 60 2m

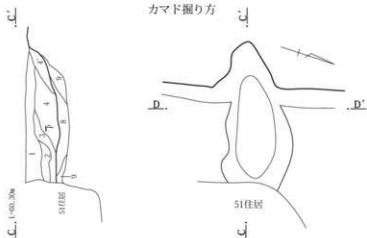
第417図 1区8面 21号住居

カマド

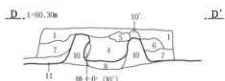


51住居

カマド掘り方



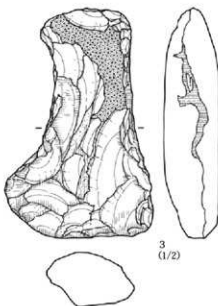
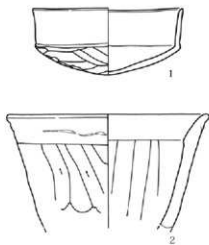
51住居



0 1:30 1m

21号住居カマド C-C' D-D'

- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロック、炭化物、焼土粒を少量、煙道部は焼土粒を多量含む。
- 2 褐色土 炭化物を多量、焼土粒を少量含む。
- 3 褐色土 焼土、炭化物を少量含む。
- 4 褐色土 炭化物、焼土ブロックを多量含む。下層に炭化物、灰屑。
- 4' 褐色土 炭化物、焼土ブロックを多量に含む。
- 5 黄褐色土ブロック 袖材の流れたもの。
- 6 黄褐色土ブロック 褐色土ブロックを少量含む。袖材の流れたもの。
- 7 褐色土 炭化物、焼土粒を少量含む。灰白色味強い。カマドの外側に炭化物の垢が見られない。
- 8 炭化物、灰屑
- 9 黄褐色土 焼土、炭化物を少量含む。粘性強い。
- 10 黄褐色土 褐色土ブロックを多く含む。袖材。
- 10' 黄褐色土 褐色土ブロックを多く含む。袖材が焼土化したもの。
- 11 黄褐色土 灰褐色土ブロックを少量含む。



0 1:2 4cm
0 1:3 10cm

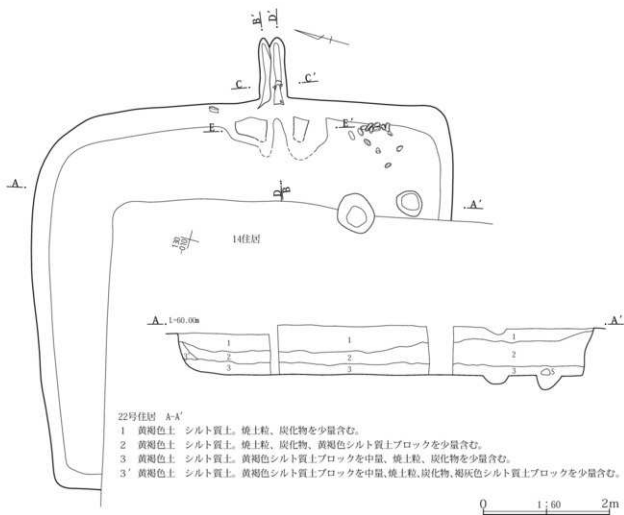
第418図 1区8面 21号住居カマド、出土遺物

22号住居(第419～421図 PL.110・202)

1区西側の住居群内にある。14号住居に切られ、中央から南西部にかけて使用面を大きく失っている。位置：126～132・-006～-014にある。

規模形状：各辺直線のだが、北東隅が丸みを帯びている。14号住居に前出しているが、南北にやや長い丸みを帯びた正方形を呈していると思われる。主軸長6.64m、幅5.82mである。 **埋没土・壁**：焼土粒、炭化物を含む黄褐色シルト質土で埋没している。2層土は、一括の埋没土であり、人為的埋め戻しである。壁高は0.6mである。 **方位**：N-70°-E **面積**：31.46㎡(推定) **床面**：傾斜はなく、平坦である。南東隅に貯蔵穴、柱穴と思われる窪みが認められるが、明瞭ではない。掘り方は認められない。カマド右袖側東壁直下の床面直上に、円礫が集中

して15点出土している。簡編石の可能性はある。 **壁溝**：認められない。 **ピット(柱穴)**：認められない。 **貯蔵穴**：認められない。 **カマド**：東壁ほぼ中央部に位置する。本カマドは、新旧2つの煙道を有する。旧煙道は新煙道の北に位置しており灰が認められる。全長1.9m、幅1.72m、焚口幅0.35m、燃焼部幅0.18m、煙道は新旧共に壁外側に0.97m突出している。燃焼部は、住居内に確認された。両袖は、左袖の位置からすると新旧共通のものでない。袖材は、黄褐色シルト質土である。新煙道部分において使用面が2面ある。2面目は、0.14m前後の掘り込みが認められた。埋め土は、焼土粒や灰を含む黄褐色シルト質土である。 **重複遺構**：14・23号住居に前出しており、25・28・39・41・53・61・82号住居に後出している。24・44号住居と重複している。 **遺物**：土

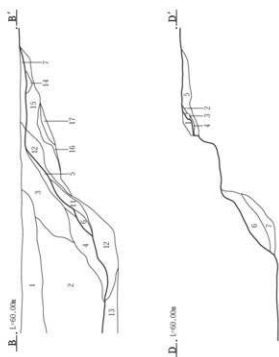
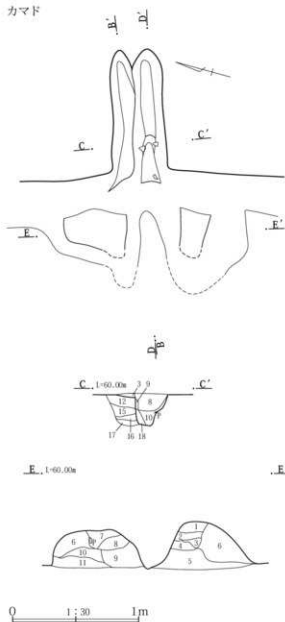


第419図 1区8面 22号住居

師器(杯2点、甕1点、甗1点)、土製品(土鍾2点) カマドを中心に遺物が出土した。そのうち土器6点を図示した。杯(1)はカマド煙道からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(2)、甕(4)、甗(3)、土鍾(5・6)は埋没土からの出土であり、いずれも本住居に伴うものであるか明瞭でない。カマド南東部隅部で円

が出土している。出土量と大きさがほぼ同じことから、蓆編石と考えられる。図示した以外に、土師器(杯類163片、甕類312片)、須恵器(杯類2片、甕類10片)、不明土器2片が出土している。 所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係、形状から、6世紀後半であると思われる。

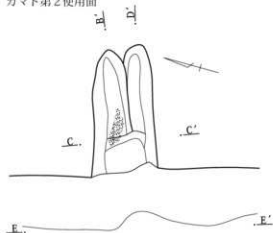
カマド



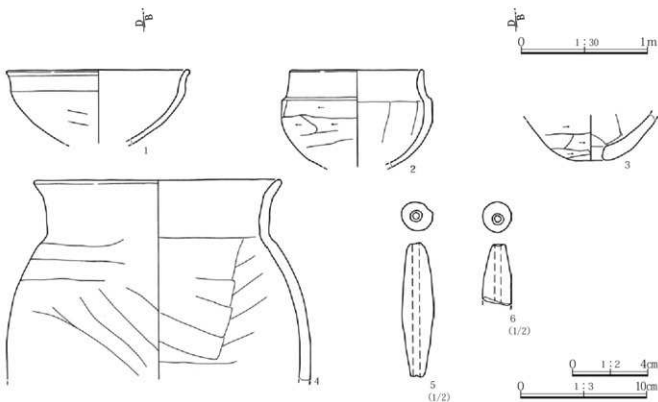
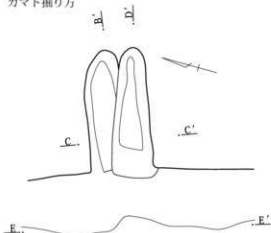
22号住居カマド B-B'・C-C'・D-D'・E-E'

- 1 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、炭化物、黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、焼土塊を少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質上。灰、焼土粒を少量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を少量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質上。暗灰色シルト質上ブロック、焼土粒を中量含む。
- 9 黄褐色土 シルト質上。焼土塊、焼土粒を多量含む。
- 10 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロック、焼土粒を少量含む。
- 11 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量、黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- 12 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 13 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量含む。
- 14 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を中量含む。
- 15 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。
- 16 黄褐色土 シルト質上。焼土塊、灰を中量含む。
- 17 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を微量含む。
- 18 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。

カマド第2使用面



カマド掘り方



第421図 1区8面 22号住居カマド、出土遺物

23号住居(第422図 Pl.110・202)

1区西側の住居群内にある。14号住居により北辺付近以外の床面が壊されているため、全容が明瞭でない。

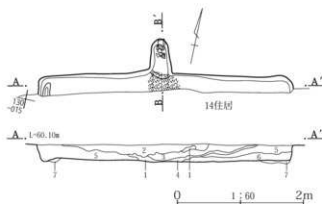
位置：130～131・-010～-014にある。

規模形状：北壁は直線的で方形であることは推察できるが、14号住居に前出しているため、全容は明瞭でない。主軸長(0.30)m、幅4.04mである。埋没土・壁：黄褐

色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれており自然堆積と思われるが、5層からは不自然な堆積を示しており、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.14mである。方位：N-9°-W 面積：(0.90)m² 床面：東にやや傾斜しているが、わずかな起伏を伴い平坦である。カマド前面に多量の灰の分布が確認できる。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは確認できない。掘り方：認められ

ない。壁溝：西壁下でのみ確認できる。埋没土は、黄褐色シルト質土であり、締まりが強い。西部の壁溝は、幅0.22m、深さは0.06m程である。東部の壁溝は、幅0.45m、深さは0.04m程である。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：北辺中央付近に位置する。現存全長0.59m、幅0.47m、焚口幅0.37m、燃焼部幅0.19m。燃焼部は、住居外に確認された。支脚は、長さ0.12m、幅0.07m、厚さ0.03mである。袖は確認されなかった。掘り方は、火床の下に0.08mの窪みが認められた。埋め土は、灰、炭化物を主体とした黄褐色土との混土である。火床は使用面よりわずかに低い。

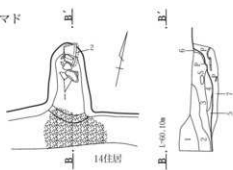
重複遺構：14・23号住居に前出しており、22・39号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点)カマド中心に遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)、甕(2)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。図示した以外に、土師器(杯類83片、甕類124片)、須恵器(杯類3片)、不明土器1片が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると考えられる。



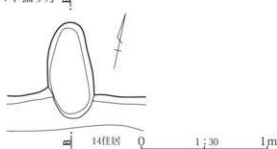
23号住居 A-A'

- 1 褐色土 砂質土。As-B線石を中量含む。埋没上でなく上面の植物痕(根)等の痕。
- 2 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質土。黄褐色・褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量含む。しまりややうい。

カマド

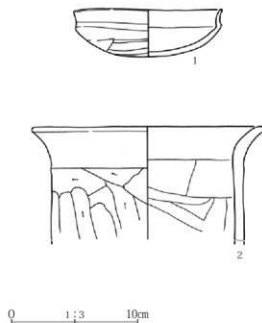


カマド掘り方



23号住居カマド B-B'

- 1 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。黄褐色・褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質土。焼土塊を多量、灰を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 7 黄褐色土 灰、炭化物を多量含む。



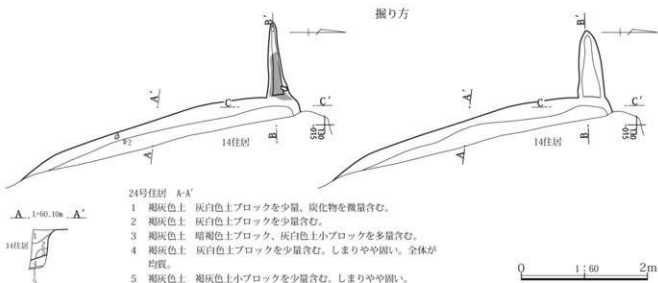
第422図 1区8面 23号住居、出土遺物

24号住居(第423・424図 PL.110・111)

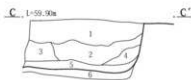
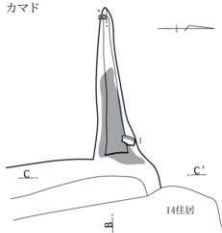
1区西側の住居群内にある。14号住居により西辺付近以外が壊されているため、全容が明瞭でない。

位置：125～129・-014～-016にある。

規模形状：西辺は外側に向けた曲線を描いている。14号住居に前出しているため、全容は明瞭でない。主軸長(0.35)m、幅(4.41)mである。埋没土・壁：褐灰色土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積の可



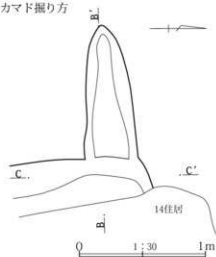
カマド



24号住居カマド B-B'・C-C'

- 1 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量、炭化物を少量含む。しまりやや固い。

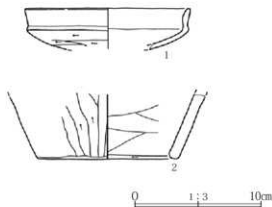
カマド振り方



- 7 黄褐色土 シルト質土。灰、焼土粒を少量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 9 黄褐色土 シルト質土。焼土塊を多量、灰を少量含む。
- 10 黄褐色土 シルト質土。灰、焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 11 黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 12 黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロックを中量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 13 黄褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 14 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 15 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、灰、炭化物を中量含む。
- 16 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 17 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

第423図 1区8面 24号住居

能性はあるが明瞭でない。壁高は0.52mである。方位：N-87°-E 面積：(0.71)㎡ 床面：大半が14号住居に切れ失っている。このため詳細は不明である。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは確認できなかった。調査できた部分については、掘り方が存在する。深さは、0.03m程である。埋め土は、褐灰色土で、褐灰色土のブロックが混入しており、締まりがある。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：西壁の北西隅に位置する。現存全長1.35m、幅不明、焚口幅不明、燃烧部幅不明、煙道は壁外側に1.22m張り出している。煙道中に焼土が確認できた。煙道部分の掘り方の埋め土は0.01～0.04m程度の厚さで、炭化物、灰を含む黄褐色シルト質土で構築されている。燃烧部は、住居内にあると思われる。袖は確認されなかったため袖材は不明である。掘り方は、火床の下に0.13mの窪みが認められた。埋め土は、炭化物を含む黄褐色シルト質土である。火床は使用面よりわずかに低い。重複遺構：4・14・44号住居に前出しており、39・41号住居に後出している。22号住居と重複している。遺物：土師器(杯1点、鉢1点) カマド及び西壁際から遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)はカマド煙道部の底面からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。鉢(2)は床から0.14m程浮いた位置から出土しており、図示した以外に、土師器(杯類2片、甕類3片)が出土している。所見(編属時期)：出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると思われる。



第424図 1区8面 24号住居出土遺物

25号住居(第425・426図 PL.111・202)

1区西側の住居群内にある。14・22号住居により、カマドを含む南東隅付近が大きく壊されているため、全容が明瞭でない。

位置：124～126・-007～-010にある。

規模形状：東壁及び南壁の一部は直線的である。14・22号住居に前出しているため、全容は明らかでないが、方形を呈していると思われる。主軸長(0.56)m、幅(2.94)mである。埋没土・壁：焼土粒を含む黄褐色シルト質土で埋没している。調査された埋没土が少なく、自然埋没であるか明瞭でない。壁高は0.18mである。方位：N-49°-W 面積：(1.39)㎡ 床面：14・22号住居に前出しているため、形状は明らかでない。確認された範囲では、掘り方は認められない。壁溝：認められない。

ピット(柱穴)：なし。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺の中央南寄りに位置する。全長0.94m、現存幅0.85m、焚口幅不明、燃烧部幅0.5m、煙道は壁外側に0.51m突出している。燃烧部は、屋内から屋外にかけて確認された。火床上には、支脚の礎が据えられており、周囲に土器が確認された。支脚は、長さ0.17m、幅0.13m、厚さ0.08mである。燃烧部右奥壁際には甕が倒置して据えられていた。掘り方は、火床の下に0.06m前後で認められた。埋め土は、灰、焼土粒を含む黄褐色シルト質土である。重複遺構：14・22号住居に前出している。

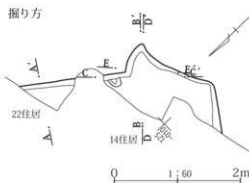
遺物：土師器(杯2点、甕1点、鉢1点) カマド周辺及び、住居南東部隅から遺物が出土した。そのうち土器4点を図示した。甕(4)は右袖上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1・2)は床から0.09～0.11m程浮いた位置から出土した。鉢(3)はカマド火床直上、床上0.06m、14号住居埋没土からの出土の接合である。円礎の出土が見られる。図示した以外に、土師器(甕類4片)が出土している。所見(編属時期)：出土遺物より、6世紀後半であると思われる。

2 1区の遺構と遺物

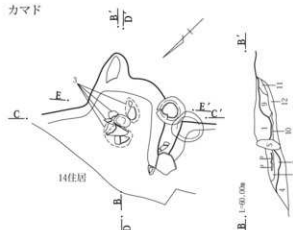


25号住居 A-A'

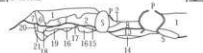
- 1 黄褐色土 シルト質上。黄褐色・褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。褐色土シルト質土ブロックを中量含む。



カマド



C-C', 1:60.00m



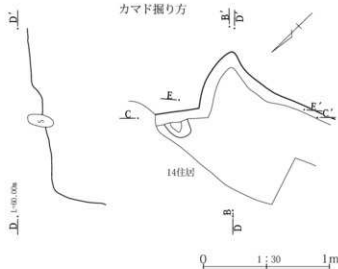
E-E', 1:60.00m



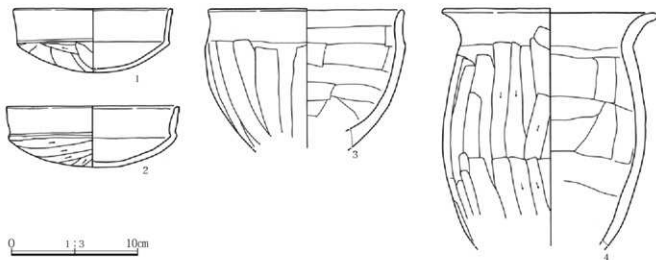
25号住居カマド B-B'・C-C'

- 1 黄褐色土 シルト質上。焼土塊、灰を中量、炭化物を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。焼土塊、焼土粒を中量、炭化物を少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質上。灰、炭化物を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を多量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。袖材。
- 8 黄褐色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を微量含む。
- 9 黄褐色土 シルト質上。灰、焼土粒を少量含む。
- 10 黄褐色土 シルト質上。焼土ブロックを少量含む。
- 11 黄褐色土 シルト質上。灰、焼土粒を中量含む。
- 12 黄褐色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 13 黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。

カマド掘り方



- 14 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを多量、焼土粒を少量含む。
- 15 黄褐色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 16 黄褐色土 シルト質上。灰、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 17 黄褐色土 シルト質上。灰、焼土粒を少量含む。
- 18 黄褐色土 シルト質上。焼土塊、灰を中量、炭化物を少量含む。
- 19 黄褐色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 20 黄褐色土 シルト質上。灰を少量含む。
- 21 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰、焼土粒を少量含む。



第246図 1区8面 25号住居出土遺物

26号住居(第427～429図 PL.111・202)

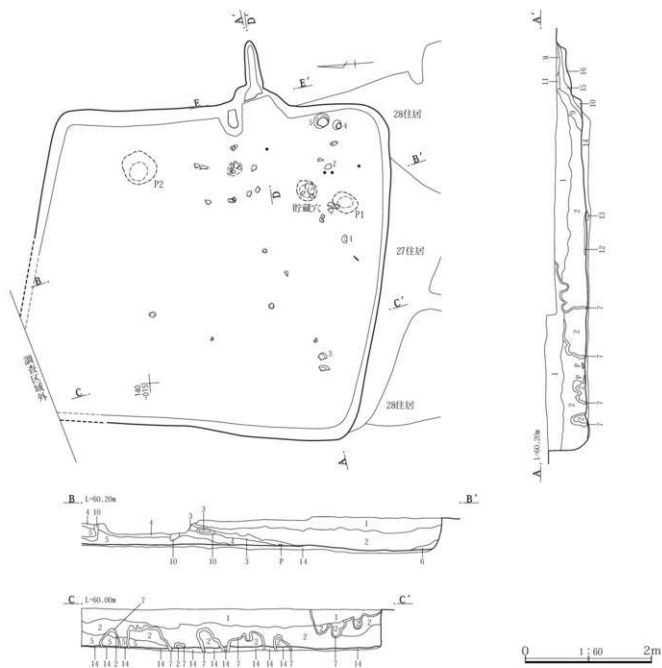
1区西側の住居群内にある。27号住居と重複しているが、床面は影響を受けていない。残存状態は良好である。北西隅が一部調査区域外にある。

位置：135～141・-009～-016にある。

規模形状：東壁と西壁はほぼ直線的である。南壁と北壁は曲線を描いている。四隅部はやや丸みを帯びた方形を呈している。主軸長5.49m、幅5.46mである。埋没土・壁：黄褐色シルト質土で埋没している。3～5層が短時間に人為的に埋め戻され、その後2層が自然堆積している。酸化鉄凝集層が確認される。壁高は0.66mである。

方位：N-83°-E 面積：22.95㎡(推定) 床面：南西に傾斜している。起伏はあるがほぼ平坦である。貯蔵穴や柱穴等の窪みが認められる。掘り方はほぼ全面に及んでいる。東部及び中央が厚い。深さは、0.04～0.12m程度であり、埋め土は、焼土粒、炭化物を含む黄褐色シルト質土である。壁溝：確認できない。ピット(柱穴)：位置よりP1・P2が、規則的な主柱穴配置による柱穴であると思われる。P1の埋没土は、焼土粒、炭化物を含む褐色シルト質土である。長径0.41m、短径0.36m、深さ0.12mである。P2の埋没土は、焼土粒、炭化物・灰を含む黄褐色シルト質土である。長径0.54m、短径0.52m、深さ0.16mである。貯蔵穴：北西隅に窪みが認められ、規模と位置より貯蔵穴と思われる。埋没土は、灰を含む褐色シルト質土である。長径0.36m、短

径0.32m、深さ0.18mである。カマド：東辺中央部南寄りに位置する。全長1.48m、現存幅1.12m、焚口幅不明、燃烧部幅0.56m、煙道は壁外側に1.02m突出している。燃烧部は、住居内から壁際にかけて確認された。左袖が確認されたが、右袖は失われていた。掘り方は、火床の下に0.18m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒を含む黄褐色シルト質土である。火床は使用面よりやや低い。重複遺構：27・28号住居に後出している。60・80号住居と重複している。遺物：土師器(杯2点、甕1点、小型甕1点、鉢1点) 須恵器(碗1点) カマド前部から住居南部にかけて遺物が出土した。そのうち土器6点を図示した。杯(2)、甕(5)、小甕(4)、鉢(3)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1)は床から0.12m程浮いた位置及び埋没土から出土している。碗(6)は埋没土からの出土であった。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類148片、甕類351片)、須恵器(甕類7片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、形状より、7世紀後半であるとする。

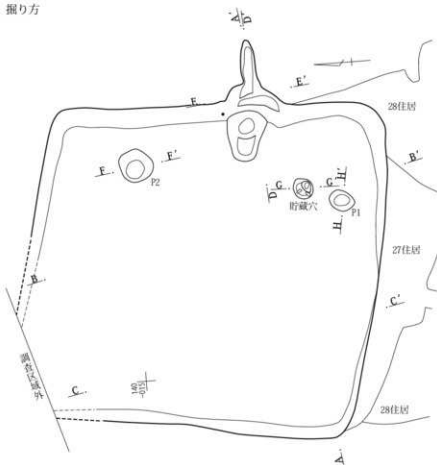


26号住居 A-A'・B-B'・C-C'

- | | |
|---|--|
| 1 黄褐色土 シルト質土。灰、焼土粒を少量含む。 | 9 黄褐色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。 |
| 2 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。 | 10 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。 |
| 3 黄褐色土 シルト質土。灰を多量含む。 | 11 黄褐色土 シルト質土。焼土塊を中量含む。 |
| 4 黄褐色土 シルト質土。灰、炭化物、焼土粒を少量含む。 | 12 灰層 |
| 5 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。 | 13 黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。しまり強い。 |
| 6 黄褐色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。 | 14 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。上面に灰層あり。しまり強い。床層。 |
| 7 明褐色土 酸化鉄凝集層。 | 15 褐灰色土 黄灰色土ブロックを多量、灰を少量含む。煙道部の底面には灰、炭化物を中量含む。黄色味強い。 |
| 8 褐灰色土 灰黄褐色土小ブロックを中量含む。 | 16 黄褐色土 褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。 |

第427図 1区8面 26号住居

掘り方



26号住居2号ピット F-F'

- 1 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。灰を多量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量含む。



26号住居貯蔵穴 G-G'

- 1 褐灰色土 シルト質土。灰を中量、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。



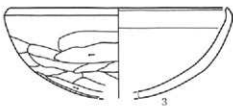
26号住居1号ピット H-H'

- 1 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。

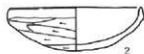
0 1; 60 2m



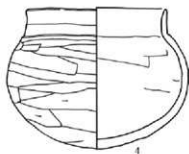
1



3



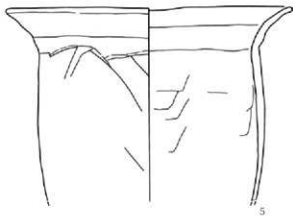
2



4



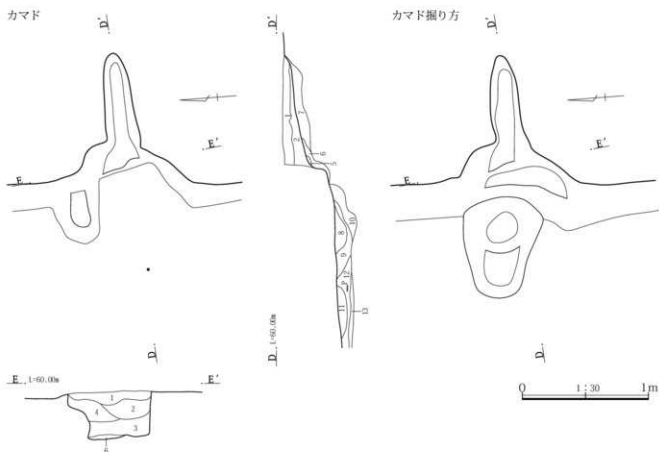
6



5

0 1; 3 10cm

第428図 1区8面 26号住居掘り方、出土遺物



26号住居カマド D-D'・E-E'

- 1 褐色土 黄灰色土小ブロックを含む。
- 2 褐色土 黄灰色土小ブロックを多量、灰を少量含む。煙道部の底面に灰、炭化物を少量含む。黄色味強い。
- 3 黄褐色土 褐色土粒を微量含む。3層の屑下層に炭化物の層。
- 4 褐色土 暗褐色土小ブロックを多量含む。色調暗い。
- 5 黄褐色土 灰、炭化物を中量含む。
- 6 黄褐色土 黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。

- 7 黄褐色土 褐色シルト質土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 8 黄褐色土 黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。
- 9 黄褐色土 灰、焼土粒を中量含む。
- 10 黄褐色土 黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。
- 11 黄褐色土 灰、焼土粒を少量含む。しまりやや強い。床層。
- 12 黄褐色土 焼土粒を少量含む。しまりやや強い。床層。
- 13 黄褐色土 灰を多量含む。しまりやや強い。

第429図 1区8面 26号住居カマド

27号住居(第430図 PL.111)

1区西側の住居群内にある。26号住居により、住居北側を切られている。このため、詳細は不明な点が多い。

位置：134～136°-011～-015にある。

規模形状：東壁と南壁の東部は直線的である。南辺の西部は丸みを帯びている。26号住居に壊されて全体像は明瞭でないが、方形であると思われる。主軸長(1.03)m、幅(4.05)mである。

埋没土・壁：焼土、炭化物を含む黄褐色シルト質土で埋没している。壁高は0.31mである。方位：N-16°-E 面積：(2.01)m² 床面：カマド前部に小規模な掘り込みが見られる。構築していた袖石の据方と考えられる。掘り方：調査した部分では認められた。埋め土は、黄褐色シルト質土で強く締まっている。深さは、0.08m程である。壁溝：認められない。

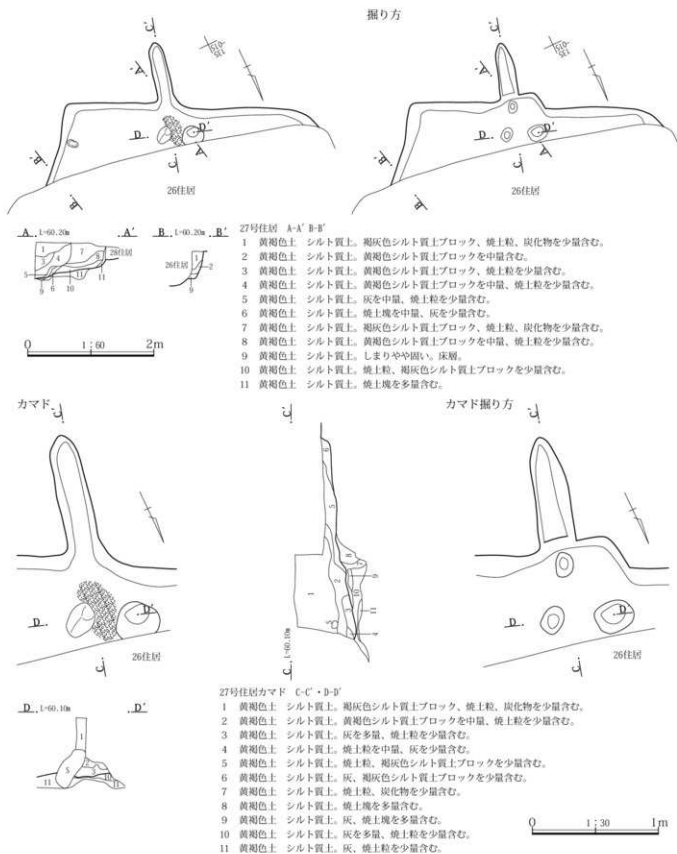
ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。

カマド：南壁中央部やや東寄りに位置する。残存長1.69m、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に1.04m突出している。燃焼部は、屋内に確認された。火床上に灰の分布が見られた。袖は確認されなかったが、左袖の先端部分の位置に袖石がカマド内倒れるように確認された。袖石は、長さ0.34m、幅0.2m、厚さ0.14mである。掘り方では、支脚及び焚口に据えられていた袖石の据方が認められた。掘り方は、火床の下に深さ0.08～0.16m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒を含む黄褐色シルト質土である。重複遺構：26号住居に前出しており、28号住居に後出している。

遺物：土師器(裏腹2片)が出土している。図示できる遺物は得られなかった。所見(帰属時期)：出土遺物は破

片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。
重複関係と少量の遺物から、7世紀前半から後半である

と考えるが、時期決定の資料に欠く。



第430図 1区8面 27号住居

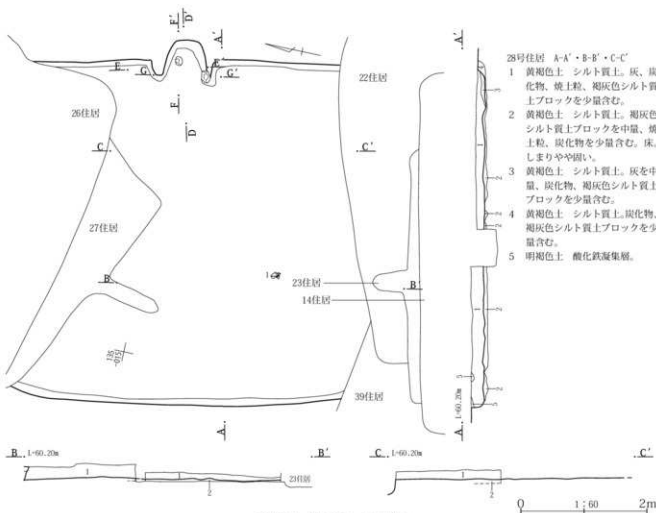
28号住居(第431・432図 PL.111・112)

1区西側の住居群内にある。26・27号住居により北壁側を、14・22・23号住居により南壁側を壊されているため、全容は明瞭でない。

位置：131～137・-009～-015にある。

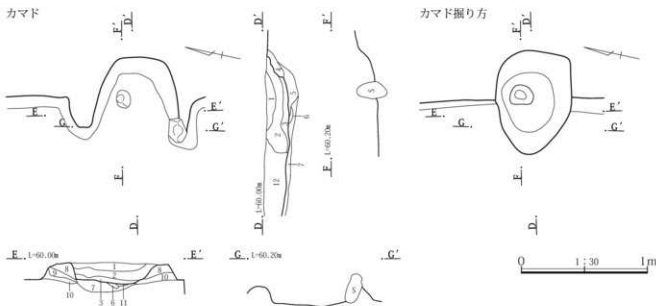
規模形状：東壁と西壁は直線的である。平面形状は、おそらく長方形状と考えられる。主軸長(5.60)m、幅(5.37)mである。 **埋没土・壁**：黄褐色シルト質土の一層で埋没しており、人為的な埋戻しであると思われる。鉄分凝集層が観察される。壁高は0.1mである。 **方位**：N-80°-E **面積**：24.81㎡(推定) **床面**：傾斜はないが、起伏があり平坦ではない。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは確認できない。 **掘り方**：ほぼ全面に及ぶ。東に対して西がやや深い。埋め土は、シルト質土ブロックを含む黄褐色土であり、締まりが強い。深さは、0.04～0.08m程度である。 **壁溝**：認められない。 **ピット(柱穴)**：認められない。 **貯蔵穴**：認められない。 **カマド**：

東壁中央付近に位置すると思われる。全長0.69m、幅1.09m、焚口幅0.64m、燃烧部幅0.43m、煙道は確認されなかった。燃烧部は、屋内から壁外にかけて確認された。火床には支脚の礎が据えられていた。支脚は、長さ0.24m、幅0.13m、厚さ0.11mである。右袖先端部には袖石が確認され、焚口の構築材の一部であると思われる。右袖石は、長さ0.24m、幅0.19m、厚さ0.14mである。掘り方では、火床下に両袖の先端部に据えられていた袖石の掘方が認められた。掘り方は、火床下に0.08～0.1m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物、焼土粒を含む黄褐色シルト質土である。火床は使用面よりわずかに低い。 **重複遺構**：14・22・23・26・27号住居に前出してあり、80号住居に後出している。39号住居と重複している。 **遺物**：土師器(杯1点、甕1点) 住居中央部から僅かに遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は床から0.20m程上位の位置及び埋没土から、甕(2)は埋没土から出土している。図示した以外に、



土師器(杯類109片、甕類232片)、須恵器(甕類2片)、不明土器2片が出土している。所見(帰属時期):出土遺

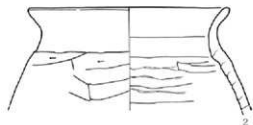
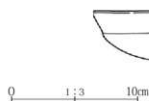
物、重複関係より、6世紀後半であると思われる。



28号住居カマド D-D'・E-E'

- 1 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。焼土粒、炭化物、灰を中量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質上。焼土塊を多量、焼土粒を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質上。灰、焼土粒を中量含む。

- 7 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質上。褐灰色シルト質上ブロック、焼土粒を少量含む。
- 9 黄褐色土 シルト質上。褐灰色粘質土ブロックを中量含む。袖の一部か。
- 10 黄褐色土 シルト質上。褐灰色シルト質上ブロック、黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。
- 11 黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量、焼土粒を少量含む。
- 12 黄褐色土 シルト質上。灰、炭化物、焼土粒、褐灰色シルト質上ブロックを少量含む。



第432図 1区8面 28号住居カマド、出土遺物

29号住居(第433・434図 PL.112・202)

1区西側の住居群内にある。40号住居と重複し、壁は若干壊されているが、床面は影響を受けていない。住居東部は削平により、調査不能であった。

位置: 135～140・986～991にある。

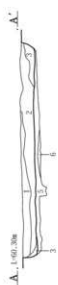
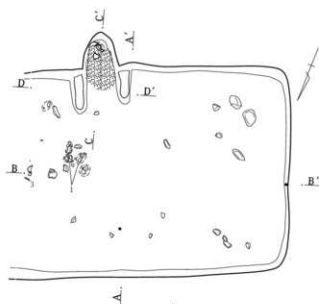
規模形状: 北壁・西壁・南壁は、ほぼ直線的である。東西に長い長方形を呈していると思われる。主軸長3.31m、幅(4.27)mである。埋没土・壁: 褐灰色土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と

思われる。壁高は0.19mである。方位: N-31°-W

面積: (12.85)㎡ 床面: 北にやや傾斜している。起伏はあるが平坦である。貯蔵穴、柱穴等は認められない。

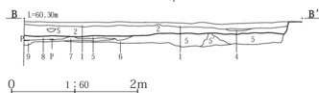
掘り方: 全面に及んでいる。埋め土は、西部は黄褐色土の粘質土粒が散見する褐灰色土が基本であり、東部は住居埋没土の褐灰色土が埋め戻されている。深さは、西部が0.14～0.18m、東部が0.1m程である。壁溝: 認められない。ビット(柱穴): 認められない。貯蔵穴: 認められない。カマド: 南辺中央やや東寄りに位置す

2 1区の遺構と遺物

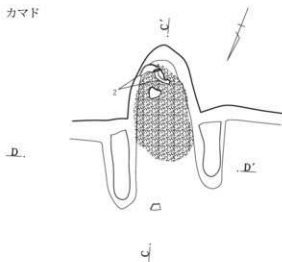


29号住居 A-A'・B-B'

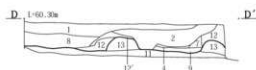
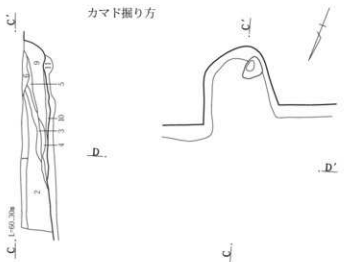
- 1 褐灰色土 炭化物、灰白色土小ブロックを少量、酸化鉄凝集を微量含む。やや褐色味強い。
- 2 褐灰色土 炭化物、灰白色土小ブロック、褐色土粒を少量、酸化鉄凝集を微量含む。褐色味強い。
- 3 褐灰色土 シルト質土。黄色味強い。カマドの右袖。
- 4 褐灰色土 炭化物を多量含む。
- 5 褐灰色土 黄褐色粘質土粒を少量含む。色調やや暗い。掘り方。
- 5' 褐灰色土 黄褐色粘質土粒を少量含む。掘り方。
- 6 褐灰色土 炭化物の層。
- 7 褐灰色土 炭化物を中量、焼土粒を少量含む。
- 8 褐灰色土 炭化物を少量含む。
- 9 褐灰色土 炭化物を中量、灰白色土小ブロックを含む。



カマド



カマド掘り方



29号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 焼土を少量、酸化鉄凝集を微量含む。
- 2 褐灰色土 焼土を少量含む。
- 3 褐灰色土 焼土ブロック多量含む。
- 4 褐灰色土 灰、炭化物を多量含む。
- 5 褐灰色土 灰、炭化物を多量、黄褐色土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 炭化物、白色軽石を少量含む。

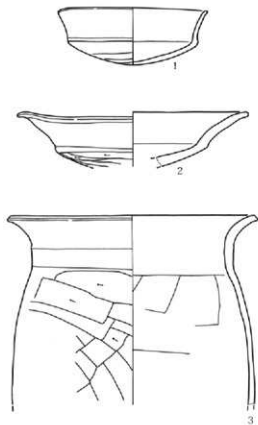
7 にぶい黄褐色土。

- 8 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを多量含む。褐色味強い。
- 9 褐灰色土 焼土、炭化物を多量含む。
- 10 炭化物、灰層
- 11 黄褐色土 掘り方。
- 12 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。カマド材の崩れたもの。
- 12' 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。灰白色味強い。カマド材の崩れたもの。
- 13 褐灰色土 色調暗い。

第433図 1区8面 29号住居

と思われる。全長1.25m、幅0.98m、焚口幅0.54m、燃焼部幅0.39m、煙道は確認されなかった。燃焼部は、屋内から屋外にかけて確認された。火床上には裏片が確認され、灰の分布も見られた。両袖確認できた。袖材は、地山に近い褐色土で構築されている。掘り方は、火床下に0.06m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、黄褐色土である。 **重複遺構**：51号住居に前出しており、40・130号住居に後出している。78号住居と重複している。

遺物：土師器(杯1点、高杯1点、甕1点) 住居中央部から東部にかけて点在するように遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1)は床直上、掘り方及び埋没土から、高杯(2)はカマド火床直上から、甕(3)は床直上から出土しており、いずれも本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類84片、甕類109片)、須恵器(杯類2片、甕類7片)が出土している。 **所見(帰属時期)**：出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると考えられる。



0 1:3 10cm

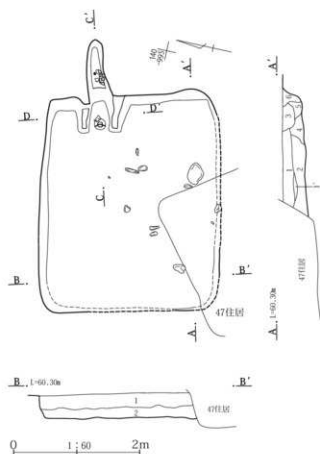
第434図 1区8面 29号住居出土遺物

30号住居(第435・436図 PL.112・202)

1区西側の住居群内にある。他住居と重複しているが、使用面は影響を受けていない。残存状態は良好である。

位置：138～141・995～999にある。

規模形状：各辺とも直線的である。南東・南西・北西隅はやや丸みを帯びている。東西に長い長方形を呈している。主軸長3.46m、幅2.86mである。 **埋没土・壁**：褐色土で埋没している。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.34mである。 **方位**：N-73°E **面積**：8.42㎡ **床面**：西にやや傾斜している。若干起伏があるが、平坦である。貯蔵穴・柱穴等の窪みは認められない。南部に見られる石は、本住居の施設に関連するものと思われるが、明瞭でない。 **掘り方**：認められない。 **壁溝**：認められない。 **ピット(柱穴)**：認められない。 **貯蔵穴**：認められない。 **カマド**：東辺中央部北寄りに位置する。全長1.48m、幅0.97m、焚口幅0.31m、燃焼部幅0.32m、煙道は壁外側に0.9m突出している。煙道途中に土器の出土を見る。燃焼部は、住居内に確認された。火床上には支脚の礫が据えられ甕が覆っている。支脚は、長さ0.22m、幅不明、厚さ0.12mである。両袖確認された。袖材は、褐色土と褐色土の小ブロック同士の混土で構築されている。掘り方は、火床の下に0.08m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、炭化物を含むにぶい黄褐色土である。 **重複遺構**：47・74号住居に前出しており、31・69・74・81号住居に後出している。 **遺物**：土師器(杯1点、鉢2点、甕1点) カマド内を中心に遺物が出土した。そのうち土器4点を図示した。杯(1)、鉢(2)はカマド床直上から、鉢(3)、甕(4)は煙道内からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類22片、甕類116片)、須恵器(甕類3片)が出土している。また、31号住居と共通して土師器(杯類1片、甕類3片)が出土している。さらに、31・47号住居と共通して土師器(杯類104片、甕類221片)、須恵器(杯類5片、甕類6片)不明土器3片が出土している。 **所見(帰属時期)**：出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると考えられる。



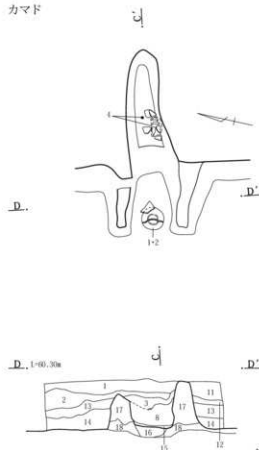
30号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土。灰白色土小ブロック、褐色土小ブロック、黄褐色土小ブロックを中量。炭化物を少量含む。
- 1' 褐灰色土 シルト質土。灰白色土小ブロック、褐色土小ブロック、黄褐色土小ブロックを中量。炭化物を少量含む。色調やや暗い。
- 2 褐灰色土 シルト質土。灰白色土小ブロック、褐色土小ブロック、黄褐色土小ブロックを中量。炭化物を少量。灰白色土を微量含む。
- 3 黄褐色土 褐灰色土ブロックを多量。炭化物を少量含む。
- 4 褐色土 灰白色土ブロックを多量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。褐色土小ブロック、黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。全体が均質。

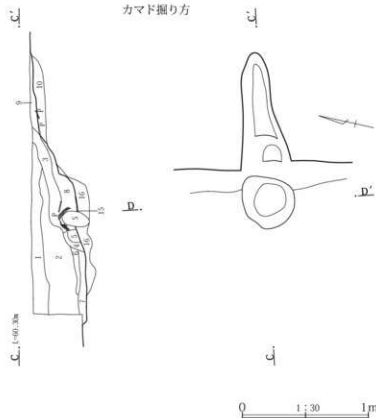
30号住居カマド C-C'・B-B'

- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロックを中量含む。
- 2 褐灰色土 褐色土小ブロックを中量。灰白色土ブロックを少量含む。
- 3 灰白色土 褐灰色土ブロックを中量含む。袖の崩れたものか。
- 4 暗褐色土 褐灰色土小ブロックを多量含む。
- 5 にぶい黄褐色土
- 6 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土を少量含む。灰白色味やや強い。
- 7 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土を少量含む。色調暗い。
- 8 にぶい黄褐色土 褐灰色土ブロックを中量。焼土、炭化物を少量含む。
- 9 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。やや赤色化。
- 10 褐灰色土 焼土化し赤色。
- 11 褐灰色土 灰白色土ブロックを多量含む。袖材。
- 12 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。黄色味強い。
- 13 褐灰色土 灰白色土小ブロック、炭化物を少量含む。色調暗い。
- 14 褐灰色土 炭化物少量。灰白色土小ブロックを微量含む。色調暗い。
- 15 炭化物、灰屑
- 16 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 17 褐灰色土 暗褐色土小ブロックを多量含む。袖材。
- 18 黄褐色土 しまり強い。

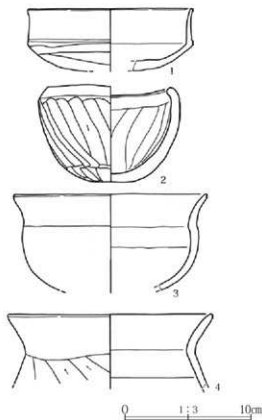
カマド



カマド掘り方



第435図 1区8面 30号住居



第436図 1区8面 30号住居出土遺物

31号住居(第437・438図 PL.112)

1区西側の住居群内にある。30号住居が重複しており、カマドの一部が壊されているものの、床面は壊されていない。また、残存状態は良好でない。

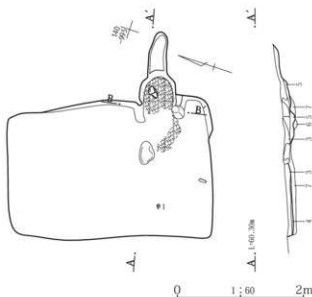
位置：131～141・994～998にある。

規模形状：東壁は、直線的である。南東隅はやや丸みを帯びている。南北に長い長方形を呈していると思われる。主軸長(2.07)m、幅(3.26)mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色シルト質土で埋没している。床面を炭化物主体の黄褐色土との混土層が覆っている。自然堆積であるかは明瞭でない。壁高は0.26mである。

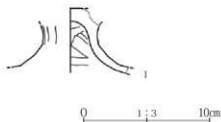
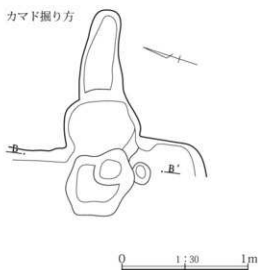
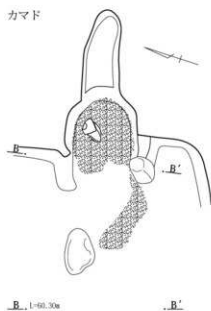
方位：N-75°-E面積：6.36㎡(推定) 床面：西にやや傾斜している。起伏がある。カマド前部には、灰が確認された。貯蔵穴、柱穴等は認められなかった。カマド前部に長軸0.38m、短軸0.24m、厚さ0.1m程の石が据えられており、カマド構築に関連があると思われるが、明瞭ではない。掘り方：確認された。埋め土は、褐灰色土ブロックが混入した黄褐色土であり、締まりが強い。深さは、0.07m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。

カマド：東辺中央部南寄りに位置する。全長1.43m、幅0.83m、焚口幅0.47m、燃焼部幅0.48m、煙道は壁外側に0.68m突出している。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、支脚の礎が据えられており土器を覆っていた。支脚は、長さ0.17m、幅0.1m、厚さ0.04mである。周囲には灰の分布が確認された。右袖先端部には袖石が認められ、袖壁を構成している構築材であったと思われる。右袖石は、長さ0.32m、幅0.21m、厚さ0.19mである。掘り方は、火床下右部に0.12m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物を主体として黄褐色土との混土層である。火床は、床面よりやや低い。

重複遺構：30・47号住居に前出しており、69・81号住居に後出している。遺物：土師器(高杯1点) カマド内及び住居南部から僅かに遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。高杯(1)は床から0.14m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴う出土であるか明瞭でない。円礫の出土も見られる。図示した以外に、土師器(杯類4片、甕類28片)、須恵器(甕類3片)が出土している。また、30号住居と共通して土師器(杯類1片、甕類3片)が出土している。さらに、30・47号住居と共通して土師器(杯類104片、甕類221片)、須恵器(杯類5片、甕類6片)不明土器3片が出土している。所見(編年時期)：出土遺物より6世紀後半であると思われる。



第437図 1区8面 31号住居



31号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土 黄褐色土小ブロックを多量含む。しまりやや強い。黄色味強い。カマド燃焼部内。
- 2 焼土ブロック
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土、炭化物を中量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 しまりやや強い。
- 5 炭化物、灰層
- 6 黄褐色土 炭化物を多量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質土。褐灰色土ブロックを中量含む。しまりやや強い。掘り方。

第438図 1区8面 31号住居カマド、出土遺物

32号住居(第439・440図 PL.112・113・202・203)

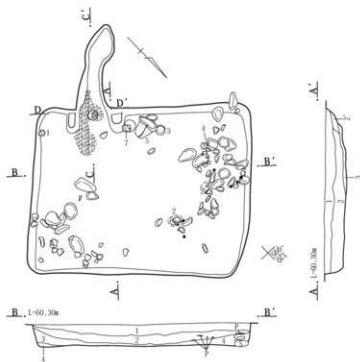
1区西側の住居群内にある。残存状態は良好である。

位置：115～119・-992～-996にある。

規模形状：各辺共に直線的である。北西部にやや丸みが見られる。東西に長い方形を呈している。主軸長3.44m、幅2.67mである。埋没土・壁：褐灰色土及びにぶい黄褐色土で埋没している。炭化物の層が壁側から埋もれておりその後、自然堆積で埋没したと思われる。壁高は0.26mである。方位：N-54°-E 面積：8.07㎡ 床面：中央部がわずかに窪んでいるが、傾斜はなく平坦である。カマド内から前部にかけて灰の分布が見られる。住居東隅及び西隅に集石を認める。本住居に関わる施設と思われるが明瞭でない。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みはない。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認

められない。カマド：南西辺の中央南東寄りに位置する。全長1.72m、幅0.93m、焚口幅0.51m、燃焼部不明、煙道は壁外側に1.34m突出している。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、支脚の裏が据えられており周囲には灰の分布が確認された。右袖先端部には裏が据えられており袖壁を構成している構築材であったと思われる。掘り方は、火床下に0.12m前後の窪みが認められた。埋め土は、褐灰色土と暗褐色土との混土で、支脚を支えるためであると思われる。

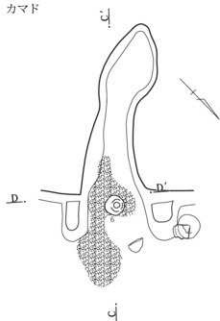
重複遺構：32・37・55・72・73・75号住居に後出している。**遺物**：土師器(杯3点、裏2点、甗1点)、須恵器(杯1点) カマド周辺、西部、東部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器7点を図示した。杯(3)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1・2)、杯(4)(須恵器)は床から0.09～0.11m



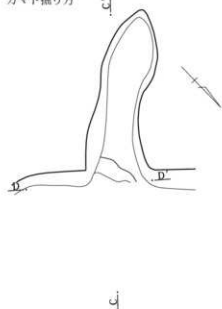
32号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 炭化物を少量、灰白色土小ブロック、黄褐色土小ブロックを少量含む。灰白色味強い。
- 2 にぶい黄褐色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 2' にぶい黄褐色土 灰白色土小ブロックを少量含む。2層に類するが、赤色味や強い。
- 3 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 4 炭化物層

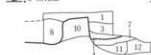
カマド



カマド掘り方



D., 1-60.20m



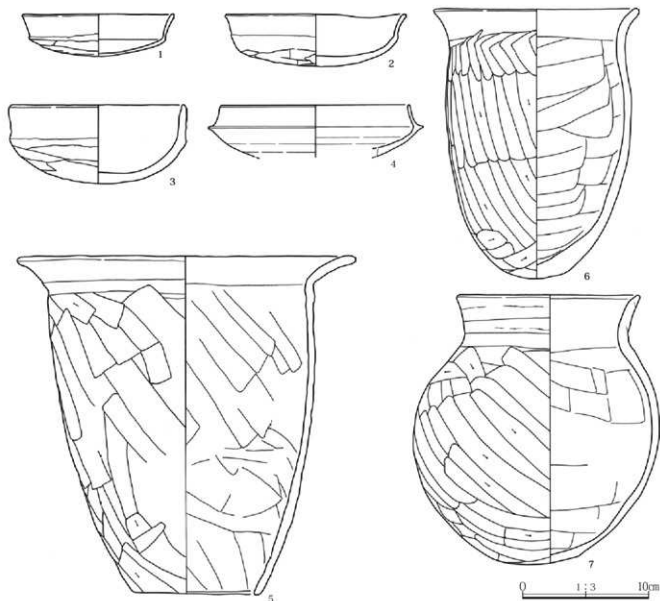
32号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 褐灰色土小ブロック、灰白色土小ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 灰白色土小ブロック、黄褐色土小ブロックを中量含む。
- 3 褐灰色土 焼土小ブロックを中量含む。
- 4 炭化物、灰層
- 5 褐灰色土 焼土、炭化物を多量含む。
- 6 褐灰色土 焼土小ブロックを中量含む。色調暗い。
- 7 褐灰色土 炭化物、灰、焼土を中量含む。
- 8 にぶい黄褐色土 炭化物を微量含む。
- 9 褐灰色土 暗褐色土小ブロックを多量含む。襖(支脚)を据えるための掘り方か。
- 10 褐灰色土 左袖。
- 11 にぶい黄褐色土
- 12 にぶい黄褐色土

第439図 1区8面 32号住居

程浮いた位置から出土した。甕(6)はカマド内から、甕(7)と甕(5)は床直上から出土した。いずれも木住居に伴うものであると考えられる。円礫が多数出土した。図示した以外に、土師器(杯類15片、甕類89片)が出土している。また、37・55・72・73・75号住居と共通して土師

器(杯類54片、甕類225片)、不明土器1点を出土している。
所見(帰属時期):出土遺物、形状より6世紀後半であると思われる。図示した遺物において、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。



第440図 1区8面 32号住居出土遺物

33号住居(第441図 PL.113)

1区西側の住居群内にある。18号住居によりカマドを含む東辺付近以外の床面が壊されており、全容が明瞭でない。

位置: 124 ~ 127・-996 ~ -999にある。

規模形状: 東壁と南壁は直線的である。北壁は西にいく

ほど開いている。18号住居に前出しているため全容が明らかでない。主軸長(1.17)m、幅3.29mである。

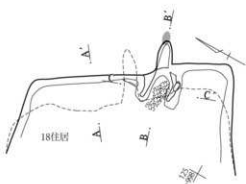
埋没土・壁: 褐灰色土及びにぶい黄褐色土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。壁高は0.37mである。方位: N-71°-E 面積: (2.08)m²
床面: 18号住居に後出されているため全容が明らかでない

いが、調査した範囲ではやや西に傾斜しており、若干起伏があると思われる。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みはない。

掘り方:認められない。**壁溝:**認められない。**ピット(柱穴):**認められない。**貯蔵穴:**認められない。

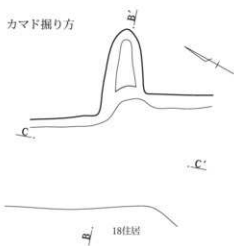
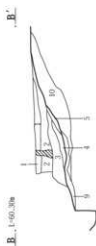
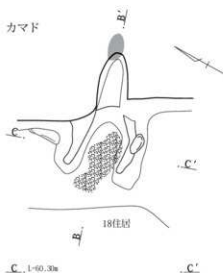
カマド:東辺中央部南寄りに位置する。全長1.21m、幅0.69m、焚口幅0.27m、燃焼部幅0.25m、煙道は壁外側に0.62m突出している。煙道の先端部には、焼土の分布が確認された。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、灰の分布が確認された。右袖中央部および左袖側に礫が据えられており袖壁を構成している構築材であったと思われる。右袖の礫は、長さ0.17m、

幅0.08m、厚さ不明であり、左袖の礫は、長さ0.26m、幅0.09m、厚さ不明である。袖材は、黄褐色土でやや締まりが強い。掘り方は、火床下に0.06m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物を含む黄褐色土を、炭化物を含む灰層が覆っている。**重複遺構:**18号住居に前出している。**遺物:**土師器(表類27片)が出土している。図示できる遺物は得られなかった。**所見(帰属時期):**出土遺物は破片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。表類を主体とした6世紀後半であると考えられるが、時期決定の資料に欠く。



33号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 黄褐色土粒、炭化物を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 しまりやや強い。
- 4 黄褐色土 上層に炭化物の薄い層。



33号住居カマド B-B'・C-C'

- 1 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを少量、焼土を微量含む。
- 2 褐灰色土 黄褐色土を多量含む。
- 3 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを多量含む。
- 4 焼土ブロック
- 5 褐灰色土 黄色味強い。
- 6 黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 7 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを中量、灰白色土小ブロックを少量含む。
- 8 黄褐色土 しまりやや強い。袖材。
- 9 炭化物、灰層
- 10 黄褐色土、炭化物を少量含む。

第441図 1区8面 33号住居

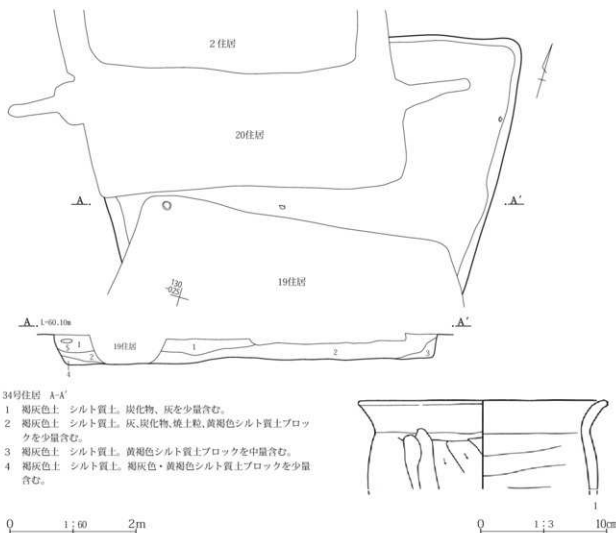
34号住居(第442図 PL.113)

1区西側の住居群内にある。2・20号住居により中央から北壁にかけて、19号住居により中央から南壁にかけて使用面が壊されており、全容が明瞭でない。北東部、中央の一部、西辺の一部の調査となった。

位置：130～135・-020～-027にある。

規模形状：2・19・20号住居に壊されているため全容は明らかでないが、確認した範囲では、東壁及び北壁は直線的である。西壁は、北に行くほど丸みを帯びている。歪んだ方形を呈していると推察される。東西長6.76m、南北長(3.27)mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。壁高は0.39mである。方位：N-68°-E 面積：(9.19)m² 床面：西に傾斜しており、中央より西がやや低く全体的に緩やかな起伏がある。貯蔵穴、柱穴

等の掘り込みは確認できなかった。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：埋没土及び周囲の住居の特徴からカマドがある住居であることは推察できるが、2・19・20号住居に後出されているため認められなかった。重複遺構：2・19・20・43号住居に前出しており、35号住居に後出している。遺物：土師器(裏1点) 住居北東部から僅かに遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。裏(1)は住居埋没土からの出土であり、本住居に伴う出土であるか明瞭でない。図示した以外に、土師器(杯類106片、裏類238片)、須恵器(杯類1片、裏類3片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると思われる。



34号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 シルト質土。炭化物、灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。灰、炭化物、焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。褐灰色・黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

第442図 1区8面 34号住居、出土遺物

35号住居(第443図 PL.113)

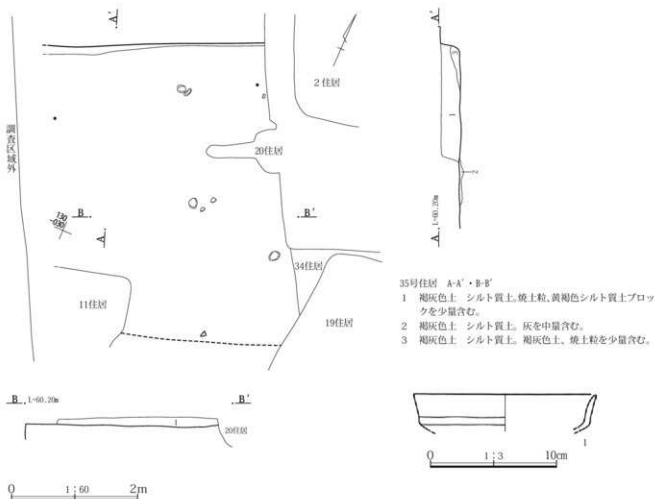
1区西側の住居群内にある。11号住居により南西隅を、19・20号住居により東壁を壊されている。1号住居に南東隅の壁を壊されているが使用面は影響を受けていない。残存状態は良好でない。また、西辺は調査区域外にあり、全容が明瞭でない。

位置：128～133・-026～-031にある。

規模形状：北壁及び東壁の一部は直線的である。他住居と重複しているため全容は明らかでないが、方形であると思われる。長軸長(4.76)m、短軸長(3.72)mである。

埋没土・壁：褐灰色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。壁高は0.28mである。方位：N-27°-W 面積：(15.55)m² 床面：傾斜はなく、わずかに起伏しているが平坦である。貯蔵

穴、柱穴等は確認できない。住居中央に灰を多く含む褐灰色土を確認するが、がななどの施設であるかは明瞭でない。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱が)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：周囲の住居の特徴、出土遺物からカマドがある住居であることは推察できるが、他住居と重複しているため認められなかった。重複遺構：1・3・11・19・20・34号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点)住居中央及び北部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は住居埋没土からの出土であり、本住居に伴うものか明瞭でない。円礫の出土も見られた。図示した以外に、土師器(杯類12片、甕類44片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物より6世紀後半であると思われる。



第443図 1区8面 35号住居、出土遺物

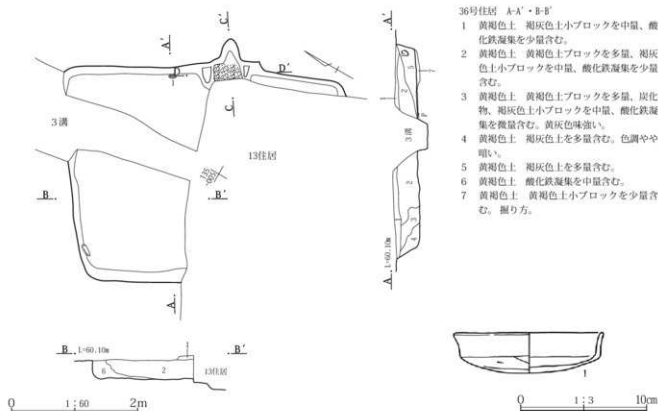
36号住居(第444・445図 PL.113・202)

1区西側の住居群内にある。13号住居により南部の使用面を、3号溝(下層)により住居中央の使用面を南北に壊されているため、全容が明らかでない。

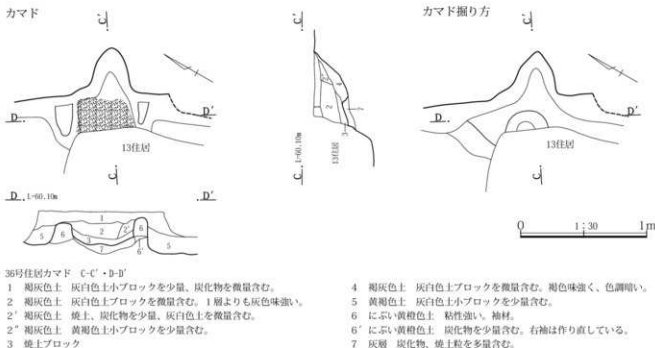
位置：133～137・-002～-007にある。

規模形状：東壁、北壁、西壁共に直線的である。北東隅は鋭角で、東壁より西壁のほうが短いと思われる。南北に長い長方形を呈していると思われる。主軸長3.42m、幅(4.47)mである。**埋没土・壁**：黄褐色土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。壁高は0.36mである。**方位**：N-58°-E **面積**：(5.62)㎡ **床面**：傾斜はほぼない。全体的に起伏はある。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められない。**掘り方**：住居東側周りに認められる。埋め土は、灰色の強い黄褐色土で、深さは0.06m程である。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：東壁中央部南寄りに位置する。13号住居に前

出しており、火床の約半分と袖の先端部が欠損している。現存全長0.79m、幅0.86m、焚口幅不明、燃燒部幅0.43m、煙道は、壁外側に0.32m突出している。燃燒部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、灰の分布が確認された。袖材は、粘性のあるにぶい黄褐色土である。断面より右袖は作り直していることが観察できる。掘り方は、火床下に0.07m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物、焼土を多く含む灰層である。**重複遺構**：3号溝(下層)、13号住居に前出しており、80号住居に後出している。**遺物**：土師器(杯1点) 住居東壁から僅かに遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は床から0.11m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円盤の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類18片、張類21片)が出土している。**所見(帰属時期)**：出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると思われる。



第444図 1区8面 36号住居、出土遺物

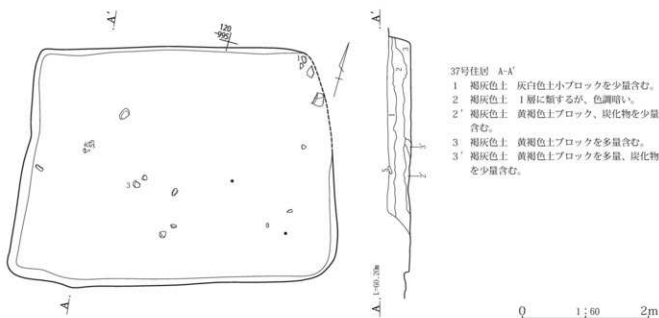


第445図 1区8面 36号住居カマド

37号住居(第446・447図 PL.114・203)

1区西側の住居群内にある。32・55住居と重複しているが、床面は壊されていない。残存状態は良好でない。
位置：115～120・992～997にある。
規模形状：各辺直線ののである。北壁に比べて南壁は長い台形を呈している。長軸長5.17m、短軸長3.73mである。
埋没土・壁：褐灰色土で埋没している。壁側から埋もれているものの、不自然な堆積が観察され人為的な埋戻し

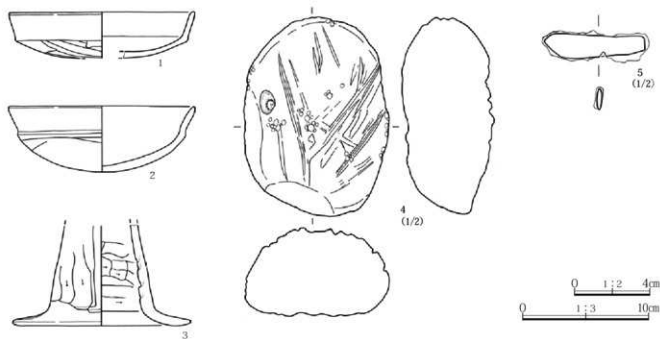
であると思われる。壁高は0.34mである。方位：N-76°-E 面積：16.90㎡(推定) 床面：中央部がやや盛り上がり、南に傾斜している。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは確認できない。西部中央に灰が分布している。掘り方：認められない。 壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：壊されている。東壁の北部に位置していたと思われる。重複遺構：32・55号住居に前出しており、38・



第446図 1区8面 37号住居

72・73・75号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、高杯1点) 石製品(砥石1点) 鉄製品1点 住居東部を中心に点在するように遺物が出土した。そのうち土器3点、石製品1点、鉄製品1点を図示した。杯(1)は床上0.18m、高杯(3)は床上0.21m、杯(2)は埋没土からの出土であった。いずれも本住居に伴うものか明瞭でない。砥石(4)、鉄製品(5)共に、埋没土からの

出土であった。円礫の出土がみられるが、図示した以外に、土師器(杯類36片、甕類73片)が出土している。また、32・55・72・73・75号住居と共通して土師器(杯類54片、甕類225片)、不明土器1点を出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると思われる。



第447図 1区8面 37号住居出土遺物

38号住居(第448・449図 PL.114・202)

1区西側の住居群内にある。37号住居により、カマドの右半分を含め南東隅を壊されているため、全容が明らかでない。

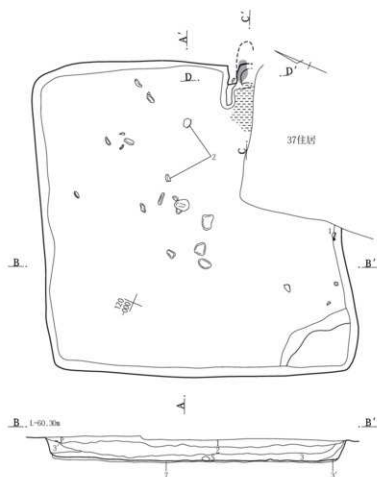
位置：116～122・995～001にある。

規模形状：各辺直線的であり、東西方向にやや潰れているが、ほぼ方形を呈している。主軸長5.01m、幅4.73mである。埋没土・壁：褐灰色土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。壁高は0.26mである。方位：N-72°-E 面積：(17.22)㎡ 床面：傾斜はほぼなく、多少の起伏を伴うがほぼ平坦である。カマド内部から前部にかけて炭の分布が確認できる。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは認められない。掘り方：ほぼ全面におよんでいる。埋め土は、黄褐色土と灰黄茶色土のブロック同士の混土である。深さは、0.02～0.05m

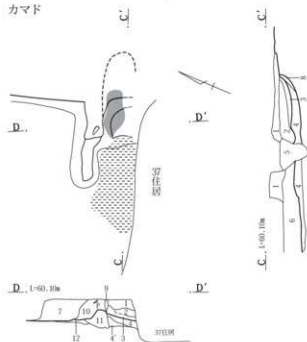
程である。南西隅に窪みが認められるが、明瞭でない。

壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。

貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央部南寄りに位置する。37号住居に前出しており、右袖が欠損している。全長1.08m、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に0.41m突出している。煙道内部には焼土の分布が確認された。燃焼部は、住居内に確認された。火床には、炭の分布が確認された。袖材は黄褐色の粘質土である。掘り方は、火床下に0.06m前後の窪みが認められた。埋め土は、黄褐色土と炭化物、焼土の混土である。重複遺構：37号住居に前出しており、75号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、甕1点) 住居北東部及び南部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1・2)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(3)



カマド



38号住居カマド C-C'・D-D'

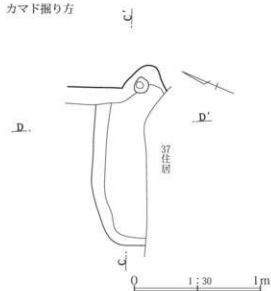
- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを多量含む。
- 3 黄褐色土 炭化物を多量、焼土を中量含む。
- 4 黄褐色土 焼土を多量、炭化物を中量含む。
- 4' 黄褐色土 焼土、炭化物を多量含む。



38号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロック、炭化物を少量含む。
- 2 褐灰色土 炭化物少量、灰白色土小ブロック少量含む。色調暗い。
- 3 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを多量含む。
- 3' 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを多量含む。色調暗い。
- 4 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量含む。
- 5 褐灰色土 炭化物を少量含む。
- 6 褐灰色土 灰白色土小ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 7 黄褐色土 灰黄褐色土ブロックを多量含む。掘り方。

カマド掘り方

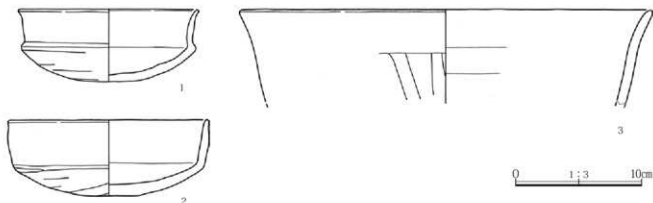


- 5 黄褐色土 灰白色粘質土を多量含む。掘乱。
- 6 黄褐色土 灰白色粘質土小ブロックを少量含む。
- 7 褐灰色土 灰白色土小ブロック、黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 8 黄褐色土 粘性強い。ブロック状に混入。立ち上がり部分に貼り付けたか。
- 9 焼土塊 壁面が焼土化したもの。
- 10 褐灰色土 黄褐色粘質土ブロックを多量含む。カマド材がわずかに掘乱を受けて内れたものか。
- 11 黄褐色土 粘質土 カマド材。
- 12 黄褐色土 褐灰色土小ブロックを少量含む。

第448図 1区8面 38号住居

は住居埋没土からの出土であり、本住居に伴う出土であるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類20片、甕類90片)が出土している。 所

見(帰属時期): 出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると思われる。



第449図 1区8面 38号住居出土遺物

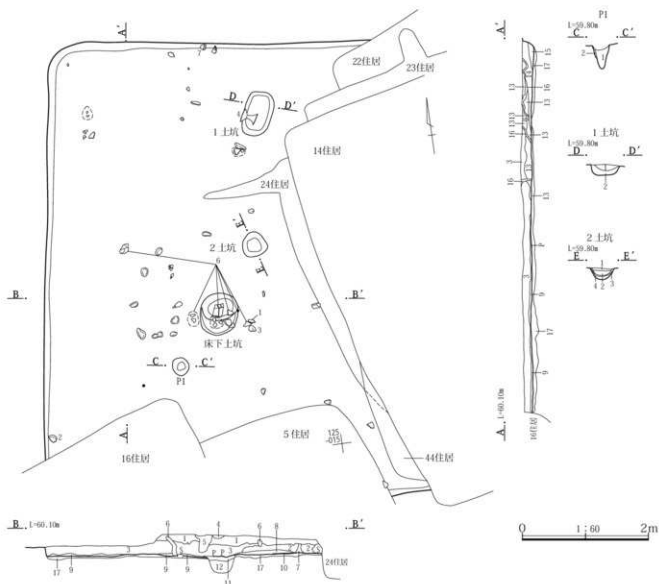
39号住居(第450・451図 PL.114・203)

1区西側の住居群内にある。5・16号住居により南部の使用面を、14・22・23・24・44号住居に東部の床面を大きく壊されているため、全容が明らかでない。

位置: 124 ~ 131・-013 ~ -019にある。

規模形状: 北壁、西壁、南壁の一部共に、直線的である。他の住居と重複して全容は明らかでないが、規模の大きい整った方形の住居であると思われる。長軸長7.20m、短軸長(5.21)mである。埋没土・壁: 褐灰色土を主体として埋没している。不自然な堆積の様子が観察され、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.31mである。方位: N-82°-W 面積: (15.67)㎡ 床面: 傾斜はほぼない。全体を通じて起伏が見られる。貯蔵穴、土坑等の落ち込みが複数みられる。中央に甕を伴う落ち込みが認められた。規模と位置より、床下土坑と思われる。埋没土は、シルト質土ブロックを含む褐灰色土である。長径0.66m、短径0.61m、深さ0.26mである。1号土坑は、高杯を有しており埋没土は、シルト質土ブロックと焼土を含む黄褐色土である。長径0.72m、短径0.44m、深さ0.17mである。2号土坑の埋戻し土は、褐灰色シルト質土である。長径0.38m、短径0.37m、深さ0.19mである。掘り方: ほぼ全面におよんでいる。埋め土は、白褐色土シルト質土ブロックを含む褐灰色土である。深さは0.02 ~ 0.12mと幅広く一定でない。壁溝:

認められない。ピット(柱穴): P1は位置より、規則的な主柱穴配置による柱穴の1つであると思われる。埋没土は、シルト質土ブロックを含む褐灰色土である。長径0.29m、短径0.27m、深さ0.38mである。貯蔵穴: 認められない。カマド: 認められない。重複遺構: 5・14・16・22・23・24・41・42・44号住居に前出している。遺物: 土師器(杯3点、手捏1点、高杯1点、甕1点)、須恵器(杯1点) 石製品(砥石1点) 土坑など住居内施設を中心に遺物が出土した。そのうち土器7点を図示した。杯(1・2・3)、手捏(7)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。高杯(4)は1号土坑から、甕(6)は床下土坑周辺から出土しており、本住居の施設に伴うものとするのが自然である。杯(5)(須恵器)は、埋没土からの出土であり、他の遺構の遺物で時期も異なり混入品であると思われる、本住居に伴うものであるか明瞭でない。砥石は、埋没土からの出土であり、本住居に伴うか明瞭でない。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類115片、甕類340片)、須恵器(杯類5片、甕類5片)、不明土器1片が出土している。所見(帰属時期): 出土遺物、形状より、6世紀中頃であると思われる。



39号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 黄灰色土小ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 2 褐灰色土 黄灰色土小ブロック、炭化物を中量含む。色調暗い。下面に炭化物の層がひろがる。
- 3 褐灰色土 黄灰色土小ブロックを中量、炭化物を微量含む。
- 4 褐灰色土 下面に酸化鉄凝集層あり。
- 5 褐灰色土 黄灰色土を微量含む。色調暗い。
- 6 褐色土 根雑か。
- 7 褐灰色土 炭化物を多量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質土。灰、焼土粒中量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、灰、焼土粒を少量含む。
- 12 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量含む。
- 13 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 14 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを多量、炭化物を少量含む。
- 15 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 16 明褐色土 酸化鉄凝集層。
- 17 褐灰色土 白褐色粘土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。しまり固い、床層

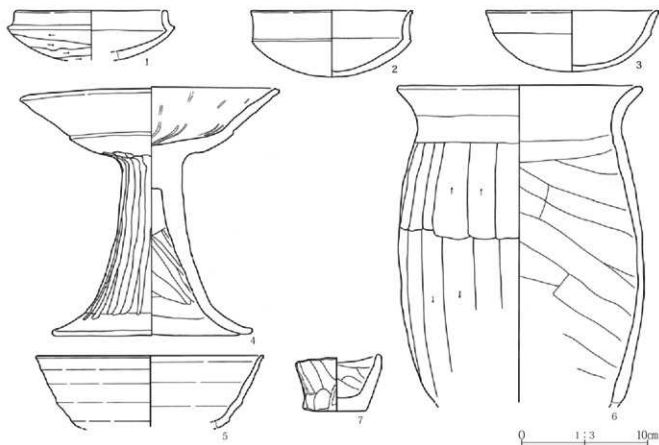
39号住居内1号土坑 D-D'

- 1 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

39号住居内2号土坑 E-E'

- 1 褐灰色土 シルト質土。白褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。白褐色粘質土ブロックを多量含む。床の一部と同じように粘土を貼ってある。
- 4 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。

第450図 1区8面 39号住居



第451図 1区8面 39号住居出土遺物

40号住居(第452・453図 PL.114・203)

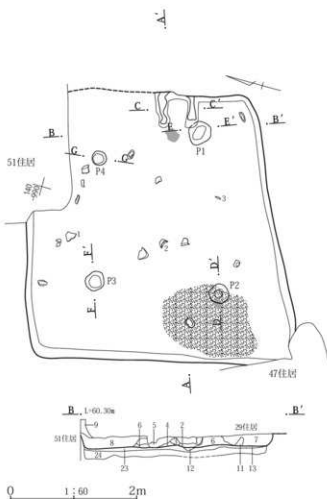
1区西側の住居群内にある。51号住居により北東隅の床面が壊されている。29号住居が重複しているが、使用面は壊されていない。全容は明瞭でない。

位置：135～140・-987～-992にある。

規模形状：各辺ほぼ直線状である。南西隅が鋭角なため東壁に比べて西壁が長い。ほぼ方形を呈している。主軸長4.25m、幅3.91mである。 **埋没土・壁**：褐灰色土を基本に埋没している。壁側から埋もれているもの、不自然な堆積が観察され、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.32mである。 **方位**：N-73°-E **面積**：(13.73)㎡ **床面**：北に傾斜しており、全面にわたり起伏がある。カマド前部に焼土の分布が、南西隅に広範囲にわたり灰の分布が認められる。柱穴と思われる窪みが認められる。 **掘り方**：全面におよんでいる。埋め土は、灰白色土及び褐色土小ブロックを含むにぶい黄褐色土である。深さ0.13～0.18mである。 **壁溝**：確認できない。 **ピット(柱穴)**：P1・P2・P3・P4共に、規則的な主柱穴配置による柱穴であると思われる。P2の埋没

土は、炭化物を含む黄褐色土であり、長径0.3m、短径0.29m、深さ0.28mである。P1の埋没土は、にぶい黄褐色土の上に黄褐色土、明黄褐色土、褐灰色土の混土が覆っており、長径0.39m、短径0.34m、深さ0.28mである。P3の埋没土は、炭化物を含む黄褐色土を褐灰色土との混土が覆っており、長径0.31m、短径0.29m、深さ0.21mである。P4の埋没土は、暗褐色土の上を褐灰色土と黄褐色土の混土が覆っており、長径0.24m、短径0.23m、深さ0.18mである。 **貯蔵穴**：確認できない。 **カマド**：東壁中央南寄りに位置する。煙道部分が削平されており確認できなかった。現存全長0.57m、幅0.67m、焚口幅0.28m、燃焼部幅0.32mである。煙道は確認されなかった。燃焼部は、住居内に確認された。袖材は灰白色土で構築されている。掘り方は、火床下に0.14m前後の窪みが認められた。埋め土は、淡黄色土ブロックを含む褐灰色土である。火床は、床面よりわずかに低い。 **重複遺構**：29・51号住居に前出しており、67・79・81号住居に後出している。 **遺物**：土師器(裏2点)、土製品(土錘1点)住居中央部から点在するように遺物が出土した。そのう

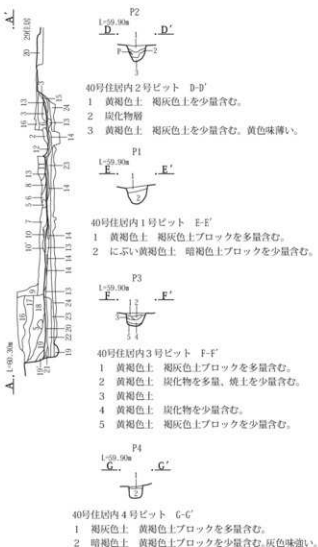
ち土器2点、土製品1点を図示した。裏(1)は床直上及び埋没土から、裏(2)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。土鍾(3)は床から0.13m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものである



40号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 灰黄褐色土ブロックを多量含む。
- 2 褐灰色土 焼土ブロック、炭化物を多量含む。
- 3 灰黄褐色土 カマド袖材。
- 4 褐灰色土 粘性強い。
- 5 灰黄褐色土 粘質土。カマド袖材。
- 6 褐灰色土 灰白色土小ブロック、灰黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 7 褐灰色土 黄褐色土ブロックを少量含む。
- 8 褐灰色土 灰黄褐色土小ブロック、炭化物を少量含む。
- 9 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 10 炭化物の層
- 10' 黄褐色土 炭化物を多量含む。
- 11 褐灰色土と鉄分凝集の黒褐色土の混土層。
- 12 灰層
- 13 褐灰色土 灰黄褐色土小ブロックを微量含む。

か明瞭でない。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類35片、甕類74片)、須恵器(甕類1片)が出土している。所見(帰属時期)：甕類に刷毛目が見られ6世紀前半であると思われる。



40号住居内 2号ピット D-D'

- 1 黄褐色土 褐灰色土を少量含む。
- 2 炭化物層
- 3 黄褐色土 褐灰色土を少量含む。黄色味薄い。

40号住居内 1号ピット E-E'

- 1 黄褐色土 褐灰色土ブロックを多量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 暗褐色土ブロックを少量含む。

40号住居内 3号ピット F-F'

- 1 黄褐色土 褐灰色土ブロックを多量含む。
- 2 黄褐色土 炭化物を多量、焼土を少量含む。
- 3 黄褐色土
- 4 黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 5 黄褐色土 褐灰色土ブロックを少量含む。

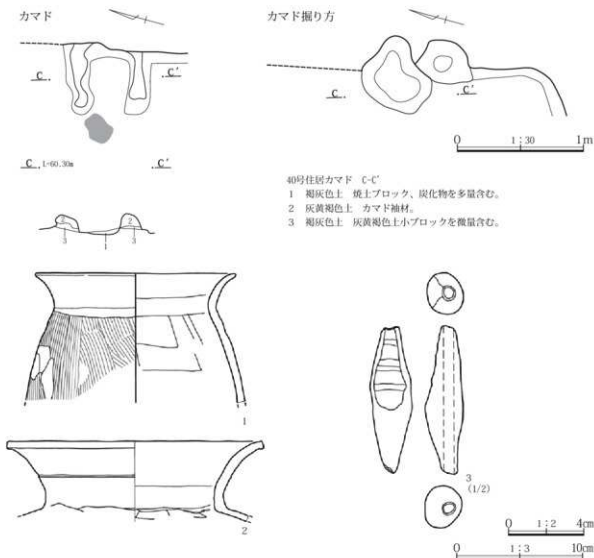
40号住居内 4号ピット G-G'

- 1 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量含む。
- 2 暗褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む。灰色味強い。

炭化物層

- 14 炭化物層
- 15 褐灰色土 炭化物を少量含む。カマド側方。
- 16 褐灰色土 炭化物、灰白色土小ブロックを少量、酸化鉄凝集を微量含む。灰色味強い。
- 17 褐灰色土 酸化鉄凝集、灰白色土小ブロック、褐色土粒を少量含む。赤褐色強い。
- 18 褐灰色土 黄褐色粘質土粒を少量含む。色調やや暗い。
- 19 黄褐色土 炭化物、黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 19' 黄褐色土 炭化物、黄褐色土小ブロックを少量含む。色調暗い。
- 20 黄褐色土 炭化物が弾く層状に堆積する。
- 21 黄褐色土 炭化物を微量含む。
- 22 黄褐色土
- 23 黄褐色土 褐色味やや強い。
- 24 にぶい黄褐色土 灰白色土、褐色土小ブロックを少量含む。

第452図 1区8面 40号住居



40号住居カマド C-C'

- 1 褐灰色土 焼土ブロック、炭化物を多量含む。
- 2 灰黄褐色土 カマド袖材。
- 3 褐灰色土 灰黄褐色土小ブロックを微量含む。

第453図 1区8面 40号住居カマド、出土遺物

41号住居(第454図 PL.115)

1区西側の住居群内にある。14・24号住居により大きく床面を壊されているためカマド一部のみ調査となり、全容が明らかでない。

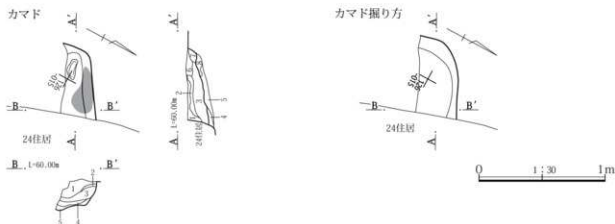
位置：125～126・-014～-015にある。

規模形状：不明 主軸長(0.58)m、幅(0.27)mである。

埋没土・壁：不明 壁高は0.13mである。

方位：計測不能 面積：(0.31)㎡ 床面：不明 壁溝：不明 ピット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：西辺に位置すると思われるが、詳細は不明である。現存全長0.58m、現存幅0.27m、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から住居外にかけてであると思われる。火床上には、支脚の礎が据えられており、右側には灰の分布が見られる。支脚は、長

さ0.17m、幅0.07m、厚さ不明である。袖は確認できなかった。掘り方は、火床の下に0.04～0.07m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物、灰、焼土粒を含む黄褐色シルト質土である。重複遺構：5・14・22・24号住居に前出しており、39号住居に後出している。44号住居と重複している。遺物：石製品(砥石1点) カマド使用面付近から遺物が出土した。砥石はカマド使用面から0.07m程浮いた位置から出土した。本住居に伴うものであると考えるのが自然である。所見(帰属時期)：出土遺物はほとんどなく、本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。重複から6世紀代の住居であると考えられるが、時期決定の資料に欠ける。



41号住居カマド A-A'・B-B'

- 1 黄褐色土 シルト質土。灰、焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を多量含む。焼土化している。
- 3 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量、褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質土。褐色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。

- 5 黄褐色土 シルト質土。褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物、灰を少量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

第454図 1区8面 41号住居カマド

42号住居(第455図 PL.115)

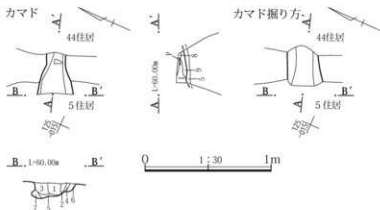
1区西側の住居群内にある。5号住居により住居床面を大きく壊され、44号住居によりカマド先端部を壊されているため、カマド一部の調査となった。全容は明らかでない。

位置：125～125・-014～-014にある。

規模形状：不明 主軸長(0.25)m、幅(0.15)mである。

埋没土・壁：不明 壁高は0.09mである。方位：計測不能 面積：(0.10)m² 床面：不明 壁溝：不明 ビット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：東辺に位置すると思われるが、詳細は不明である。現存全長0.35m、

現存幅0.27m、焚口幅不明、燃焼部幅不明である。確認できたのは、火床から煙道にかけての部分であると思われる。燃焼部は、住居内から住居外にかけてであると思われる。袖は確認できなかった。掘り方は、火床の下に0.03～0.04m前後の深さがあり、埋め土は、灰、焼土粒を含む黄褐色シルト質土である。重複遺構：5・44号住居に前出しており、39号住居に後出している。遺物：土師器(埴輪2片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物は破片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。重複関係と土器から、6世紀代であると考えられるが、時期決定の資料に欠ける。



42号住居カマド A-A'・B-B'

- 1 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。
- 9 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量、灰、炭化物を少量含む。

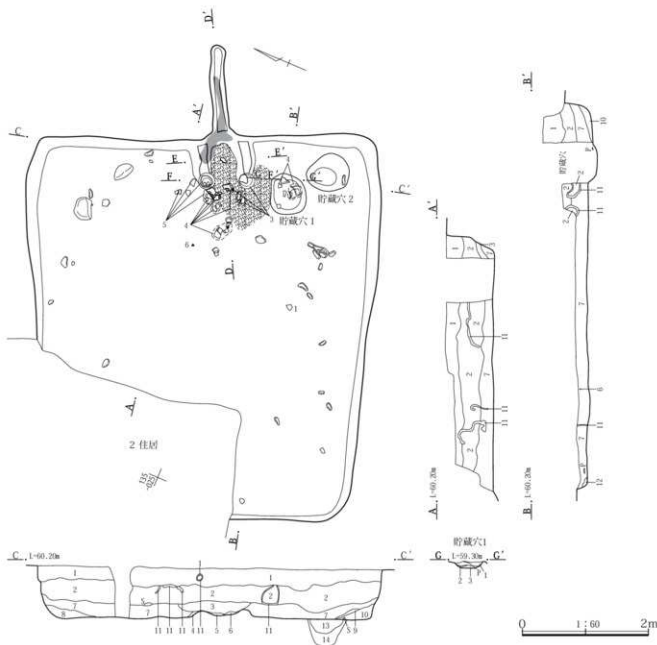
第455図 1区8面 42号住居カマド

43号住居(第456～459図 PL.115・203・204)

1区西側の住居群内にある。2号住居により北西部の床面を壊されている。20・37号住居と重複しているが、

床面は壊されていない。全容は明らかでないが、調査した範囲の残存状態は良い。

位置：132～138・-018～-025にある。



43号住居 A-A'・B-B'・C-C'

- 1 褐灰色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質上。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰を少量含む。

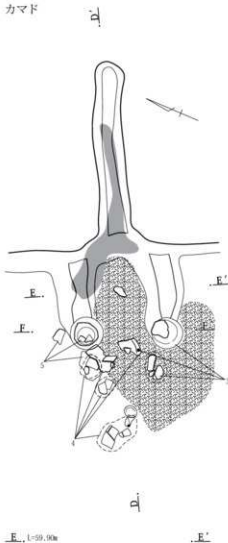
- 9 褐灰色土 シルト質上。灰を中量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 11 酸化鉄凝集層
- 12 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。
- 13 褐灰色土 シルト質上。炭化物を少量含む。
- 14 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

43号住居貯蔵穴 6-C'

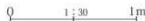
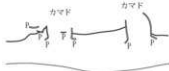
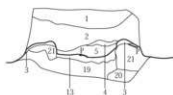
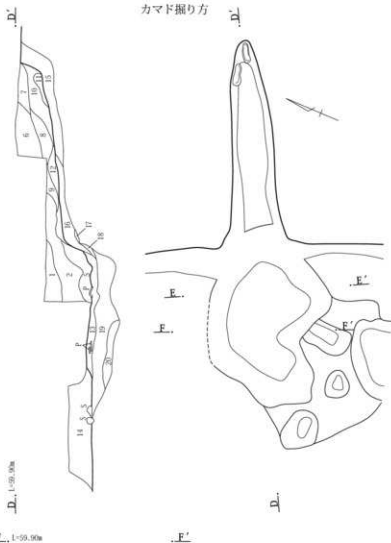
- 1 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。灰を中量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

第456図 1区8面 43号住居

カマド



カマド掘り方



43号住居カマド D-D'・E-E'

- 1 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質上。褐灰色・黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を中量、黄褐色シルト質土ブロック、

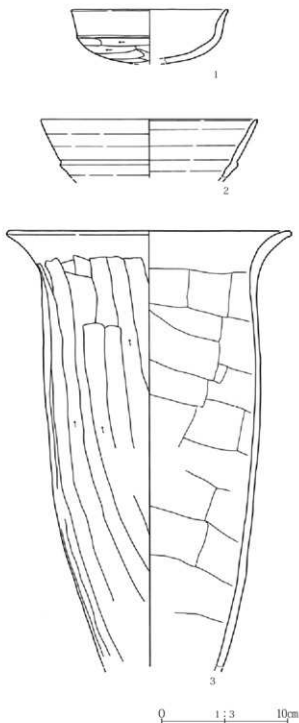
灰を少量含む。

- 11 褐灰色土 シルト質上。灰を多量、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 12 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。
- 13 褐灰色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を中量含む。
- 14 褐灰色土 シルト質上。灰、焼土粒を少量含む。
- 15 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロック、灰、焼土粒を少量含む。
- 16 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。
- 17 褐灰色土 シルト質上。灰を中量含む。
- 18 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を多量含む。
- 19 褐灰色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 20 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 21 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。カマド袖。

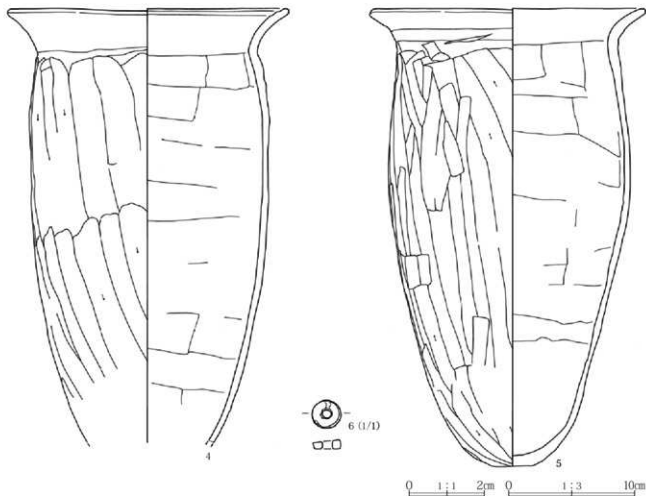
第457図 1区8面 43号住居カマド

規模形状：各辺直線のであるが、北東及び南東隅がやや丸みを帯びている。東壁に比べて西壁はやや短いと推察できる。東西に若干長い長方形を呈している。主軸長6.11m、幅5.25mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれており、自然堆積と思われる。酸化鉄凝集層が散見できる。壁高は0.6mである。方位：N-65°-E 面積：(10.44)㎡ 床面：傾斜はなく、中央部分に起伏がある他は平坦である。貯蔵穴1及び貯蔵穴2と思われる窪みが認められる。カマド内部から前部及び右袖周りに灰の分布が広がっている。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東隅に窪みが確認できる。位置より貯蔵穴1と思われる。埋没土は、灰を含んだ褐灰色シルト質土である。長径0.64m、短径0.54m、深さ0.11mである。また、その外側にもう一つ窪みがあるが、貯蔵穴2であると思われる。埋没土は、炭化物を含んだ褐灰色シルト質土である。長径0.68m、短径0.6m、深さ0.41mである。カマド：東壁中央部やや南寄りに位置する。全長2.29m、幅1.01m、焚口幅0.34m、燃焼部幅0.39m、煙道は壁外側に1.47m突出している立派なものである。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、土師器片が据えられており、周囲に灰の分布がみられた。焼土の分布は、火床から煙道半ば過ぎまで及んでいる。両袖先端部に倒置した甕が据えられており、袖壁の構築材であったと思われる。袖材は、黄褐色ブロックを含む褐灰色シルト質土である。掘り方は、火床の下に0.23m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、炭化物、焼土粒を含む褐灰色シルト質土である。カマド手前に小ピットがあるが、焚口入口部の施設跡のものであると想定する。重複遺構：2・20号住居に前出しており、34・52・65号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕3点)、須恵器(高杯1点)、石製品(白玉1点) カマド周辺を中心として住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器5点、石製品1点を図示した。杯(1)は床直上の出土であり、甕(4)は貯蔵穴及びカマド前部から、甕(3・5)はカマド構築材としての出土である。これらは確実に本住居に伴うものと考えられる。高杯(2)(須恵器)は、住居埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるが明瞭でない。白玉(6)は、床直上から出土してお

り、本住居に伴うものと考えられる。川原石状の礫の出土が認められた。煎礫石と思われる礫も確認できた。図示した以外に、土師器(杯類200片、甕類513片)、須恵器(杯類1片、甕類2片)が出土している。所見(縄文時期)：出土遺物、重複関係、形状より、7世紀中頃であると思われる。



第458図 1区8面 43号住居出土遺物(1)



第459図 1区8面 43号住居出土遺物(2)

44号住居(第460・461図 PL.115)

1区西側の住居群内にある。14号住居に大半の床面が壊されているため、住居南西隅のみの調査となった。全容は明らかでない。

位置：124～125・-013～-014にある。

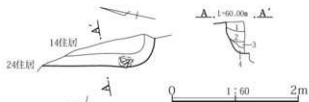
規模形状：西壁の一部は直線的である。南西隅はやや丸みを帯びている。形状から推察して、方形を呈していると思われる。長軸長(1.44)m、短軸長(0.46)mである。

埋没土・壁：埋没土は、褐灰色土でシルト質土である。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.27mである。

方位：計測不能 面積：(0.21)㎡ 床面：不明 壁溝：不明 ビット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：不明 重複遺構：14号住居に前出しており、24・42号住居に後出している。遺物：土師器(甕1点) 住居南西部から遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。甕(1)は埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。図示した以

外に、土師器(杯類5片、甕類34片)が出土している。

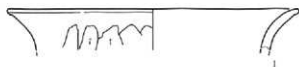
所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると考えられる。



44号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。黄褐色・褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。炭化物、焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

第460図 1区8面 44号住居



第461図 1区8面 44号住居出土遺物

45号住居(第462図 PL.115・116)

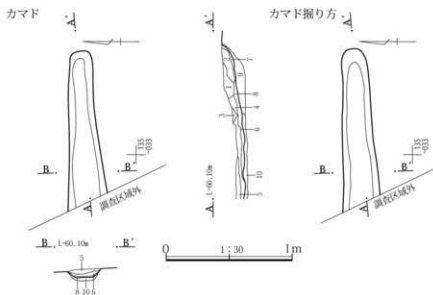
1区西側の住居群内にある。本体は調査区域外にあたるため、カマドの一部、煙道のみ調査となった。

位置：135～135・-032～-033にある。

規模形状：不明 主軸長(1.21)m、幅(0.29)mである。

埋没土・壁：不明 壁高は0.11mである。方位：N-86°-E 面積：(0.60)m² 床面：不明 壁溝：不明 ピット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：東辺に位置す

ると推察されるが、詳細は不明である。現存全長1.21m、現存幅0.29m、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側にどれ程突出しているか不明である。掘り方は、炭化物、焼土粒を含む褐灰色シルト質土である。燃焼部、袖、焚口等については不明である。重複遺構：なし 遺物：なし 所見(帰属時期)：調査範囲が僅かであった出土遺物はなく、時期決定の資料に欠ける。



第462図 1区8面 45号住居カマド

45号住居カマド A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、焼土塊を中量、白褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰、炭化物、白褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、白褐色粘質土ブロックを中量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を中量、灰、白褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、白褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。

46号住居(第463図 PL.116)

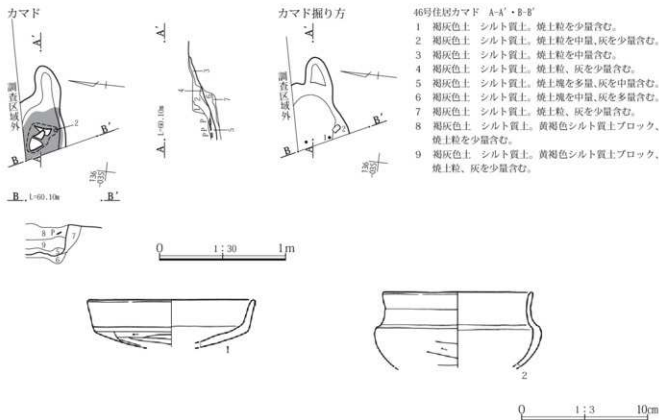
1区西側の住居群内にある。本体は調査区域外にあたるため全容が明らかでない。カマド一部の調査となった。

位置：136～136・-033～-033にある。

規模形状：不明 主軸長(0.76)m、幅(0.21)mである。

埋没土・壁：不明 壁高は0.12mである。方位：計測不能 面積：(0.50)m² 床面：不明 壁溝：不明 ピット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：東辺に位置すると推察されるが、詳細は不明である。現存全長0.76m、現存幅0.36m、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に0.32m突出している。燃焼部は、住居内から住居外にかけて位置すると思われる。火床上には、土師器片が

据えられており、周囲に焼土の分布が確認された。袖及び焚口については不明である。掘り方は、火床下に0.03m前後の掘り込みが認められた。埋没土は、灰を多く含む褐灰色シルト質土である。重複遺構：なし 遺物：土師器(杯2点) カマド内及び掘り方から遺物が出た。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は掘り方から、杯(2)は掘り方と床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。図示した以外に、土師器(杯類2片、裏類2片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物より、6世紀後半であるとする。



第463図 1区8面 46号住居カマド、出土遺物

47号住居(第464・465図 PL.116)

1区西側の住居群内にある。30号住居の南西側の床面を壊している。残存状態は良好である。

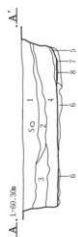
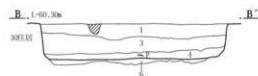
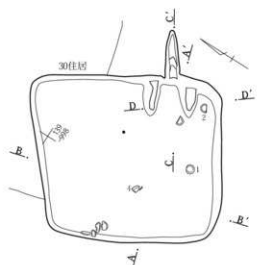
位置：136～139・-995～-999にある。

規模形状：各辺共に外側に向けて若干丸みを帯びている。南北にやや長い方形を呈している。主軸長2.31m、幅2.53mである。埋設土・壁：褐灰色土で埋没している。不自然な堆積が観察され、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.47mである。方位：N-64°-E
面積：6.38㎡ 床面：北にやや傾斜している。わずかな起伏を伴うが平坦である。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは認められない。掘り方：ほぼ全面におよんでいる。埋め土は、炭化物を含む灰層及び黄褐色土と焼土ブロックの混土である。深さは、0.02～0.09m程である。

壁溝：確認できない。ピット(柱穴)：確認できない。

貯蔵穴：確認できない。カマド：東壁中央南寄りに位置している。全長1.38m、幅0.86m、焚口幅0.51m、燃烧部幅0.34m、煙道は壁外側に0.72m突出している。燃烧部は、住居内に確認された。火床上には、右袖先端部付近に加工されたと思われる礫及び土師器片が確認さ

れる。袖壁の構築材であったと思われる。袖材は、やや粘性を帯びる、にぶい黄褐色土である。掘り方は、火床の下に0.09m前後の窪みが認められた。埋め土は、にぶい黄褐色土を、炭化物を含む灰層が覆っていた。重複遺構：30・31・69・81号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、甕1点)、須恵器(不明1点) カマド周辺及び住居中央から遺物が出土した。そのうち土器4点を図示した。杯(2)、甕(4)は床直上から、杯(1)は床上0.08mの位置からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1)と杯(2)は同時期であると考えるのが自然である。不明(3)(須恵器)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。川原石状の礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類34片、甕類139片)、須恵器(甕類3片)が出土している。また、30・31号住居と共通して土師器(杯類104片、甕類221片)、須恵器(杯類5片、甕類6片)不明土器3片が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物より、7世紀後半であると思われる。



47号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロック、黄褐色土小ブロックを多量含む。
- 2 褐灰色土 炭化物を少量含む。
- 3 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。灰白色味やや強い。
- 4 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量含む。しまりやや固い。
- 5 焼土ブロック、炭化物、灰層。カマド燃焼部内。
- 6 黄褐色土 褐灰色土ブロックを少量含む。
- 7 黄褐色土 褐灰色土ブロックを少量含む。黄色味強い。
- 8 炭化物、灰層

0 1:60 2m

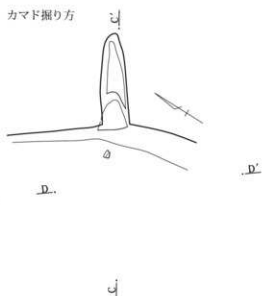
カマド



D, 1:60.306



カマド掘り方

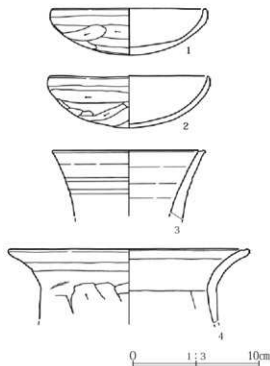


0 1:30 1m

47号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 黄褐色土 暗褐色土小ブロック、褐灰色土小ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 焼土を多量、灰を中量含む。
- 3 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。
- 4 褐灰色土 灰白色土ブロックを多量含む。
- 5 黄褐色土 黄色土ブロックを少量含む。下層に炭化物あり。
- 6 黄褐色土 焼土ブロックを多量含む。
- 7 炭化物、灰層 最終使用面。
- 7' 炭化物と焼土ブロック
- 7'' 炭化物、灰層
- 8 にぶい黄褐色土 炭化物を微量含む。
- 9 にぶい黄褐色土 粘性やや強い。袖材。

第464図 1区8面 47号住居



第465図 1区8面 47号住居出土遺物

48号住居(第466・467図 PL.116)

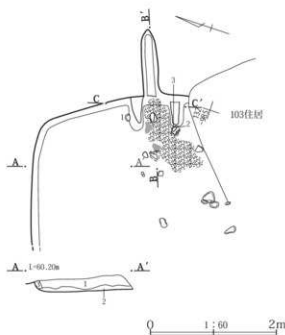
1区西側の住居群内にある。103号住居により南壁を壊されており、全容が明らかでない。

位置：131～134・-984～-987にある。

規模形状：北壁、東壁共に曲線を描いている。全容は明らかでないが、丸みを帯びた方形を呈していると推察される。主軸長(2.00)m、幅(2.27)mである。埋没土・壁：As-Bを含む褐灰色土及び褐灰色土で埋没している。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.07mである。

方位：N-67°-E 面積：計測不能 床面：確認された範囲では、やや北に傾斜している。カマド内から前部にかけて灰及び焼土の分布が確認できた。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できなかった。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央付近に位置していると思われる。全長1.59m、幅0.87m、焚口幅0.43m、燃燒部幅0.42m、煙道は壁外側に1.06m突出している。燃燒部は、住居内に確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており周囲には焼土及び灰の分布が確認された。支脚は、長さ0.16m、幅0.1m、厚さ0.06mである。両袖近くには裏の欠片が据えられており袖壁を構築している部材であったと思われる。袖材

は、にぶい黄褐色土である。右袖は5層が侵入していることから作り換えられたと思われる。掘り方は、火床下に0.1mの窪みが認められた。埋め土は、焼土ブロック及び焼土粒、炭化物を含む灰白色土である。また、両袖先端部に据えられていたと推察される袖石の据方が確認できた。重複遺構：64・103号住居に前出しており、150号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、甕1点) カマド周辺から散在するように遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1)、甕(3)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(2)は床直上及び他住居からの出土であり、本住居に伴うものであるか明確でない。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類30片、甕類140片)、須恵器(甕類1片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると思われる。

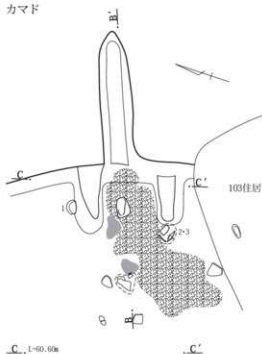


48号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 黄褐色土ブロック、灰白色土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 黄色味強い。
- 3 褐灰色土 炭化物を少量含む。黄色味強い。

第466図 1区8面 48号住居

カマド

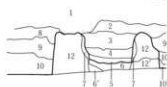


B. 1:60.50m

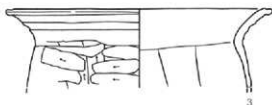
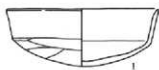
48号住居カマド B-B'・C-C'

- 1 褐灰色土 B段。
- 2 褐灰色土 酸化鉄澱集を微量含む。色調暗い。
- 3 褐灰色土 灰白色土を少量含む。
- 4 褐灰色土 灰白色土小ブロック、焼土ブロックを少量含む。
- 5 焼土ブロック
- 6 灰色土 焼土粒、炭化物を少量含む。
- 6' 炭化物層
- 7 焼土 袖が焼土化したものか。
- 8 暗褐色土 As-軽石を多量含む。
- 9 褐灰色土 褐色土粒を少量含む。
- 10 褐灰色土 黄褐色土を少量含む。
- 10' 褐灰色土 黄褐色土を中量含む。
- 11 黄褐色土 焼土ブロックを多量、炭化物、灰を少量含む。
- 12 にぶい黄褐色土 酸化鉄澱集を少量含む。しまりやや固い。灰色味やや強い。左袖に比して右袖の色調暗い。
- 12' にぶい黄褐色土 左から5層の焼土ブロックが入ることから右袖は作りかえか。
- 13 褐灰色土 炭化物、焼土を少量含む。黄褐色味強い。
- 14 褐灰色土 炭化物、灰、褐灰色土を少量含む。

C. 1:60.50m



0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第467図 1区8面 48号住居カマド、出土遺物

49号住居(第468・469図 PL.116・117・204)

1区西側の住居群内にある。15・75住居と重複しているが床面は影響を受けていない。調査した範囲の残存状態は良好である。

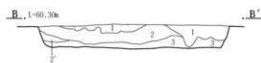
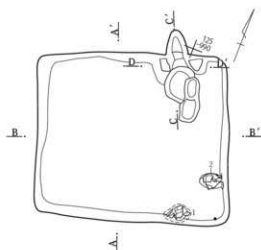
位置：121～125・-988～-992にある。

規模形状：各辺ほぼ直線状である。東西にやや長い整った長方形を呈している。主軸長2.65m、幅3.04mである。埋没土・壁：黄褐色土、褐灰色土が壁側から埋もれており自然堆積と思われるが、東部周辺に観察できる1層は、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.3mである。方位：N-12°-W 面積：6.70㎡ 床面：傾斜はない。中央部分に緩やかな落ち込みがあるが、ほぼ平坦である。カマド前部に窪みを複数認めるが、貯蔵穴

や柱穴等であるかは明瞭ではない。カマドの構築に関わる施設の痕跡であると思われる。掘り方：認められなかった。壁溝：確認できない。ピット(柱穴)：確認できない。貯蔵穴：確認できない。カマド：北壁中央部東寄り位置する。全長0.83m、幅0.87m、焚口幅0.55m、燃焼部幅0.26m、煙道は壁外側に0.39m突出している。燃焼部は、住居内に確認された。嘗て袖はより長く、カマド前部の窪みを火床として覆っていたと推察される。袖材は、炭化物を微量含む黄褐色シルト質土である。掘り方は、火床下に0.09m前後の窪みが認められた。埋め土は、黄褐色土である。重複遺構：15号住居に前出しており、71号住居に後出している。遺物：土師器(甕1点、甗1点) 住居南東部から集中して遺物が

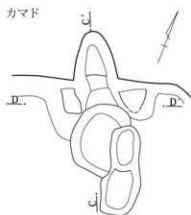
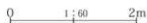
出土した。そのうち土器2点を図示した。甕(2)、甕(1)共に床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。甕(2)は、カマド及び埋没土からの出土もあるが、本住居に伴うものとするのが自然である。

図示した以外に、土師器(杯類16片、甕類48片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると考えられる。図示した遺物において、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。



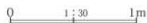
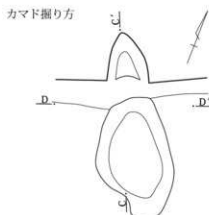
49号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロックを多量含む。2層との間に鉄分凝集の層。
- 2 褐色土 灰白色土、黄褐色土小ブロックを含む。
- 2' 褐色土 2層に類するが、黄褐色土を多量含む。
- 3 黄褐色土 黄褐色土ブロックを上に暗褐色土ブロックの混土層。
- 3' 黄褐色土 3層に類するが、黄褐色土を少量含む。色調が暗い。

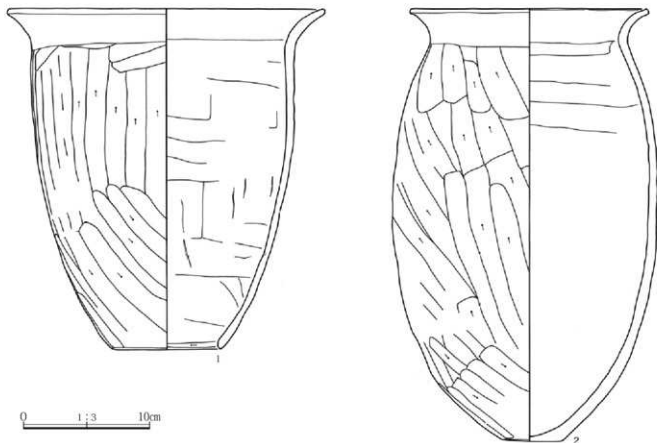


49号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐色土 黄褐色土小ブロックを少量、酸化鉄凝集を微量含む。
- 2 黄褐色土 褐色土小ブロックを少量含む。
- 2' 黄褐色土 褐色土小ブロックを少量含む。褐色味強い。
- 3 暗鉄褐色土 黄褐色土粒、炭化物を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 褐色土小ブロックを少量含む。黄色味強い。
- 5 黄褐色土 褐色土小ブロックを少量含む。
- 6 黄褐色土
- 7 黄褐色土 炭化物を微量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質。灰白色粘質土小ブロックを少量含む。



第468図 1区8面 49号住居



第469図 1区8面 49号住居出土遺物

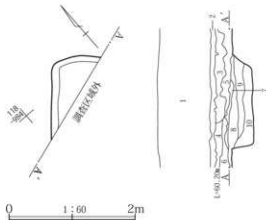
50号住居(第470図 PL.117)

1区西側の住居群内にある。本体のほぼ全域が調査区域外に属し、北東隅のみの調査となった。

位置：117～118・982～983にある。

規模形状：北壁は直線の、東壁は丸みを帯びている。全容は明らかでないが、方形を呈していると推察される。長軸長(0.92)m、短軸長(0.67)mである。埋没土・壁：黄褐色ブロックを含む暗褐色土が埋没しており、その上を褐灰色土が覆っている。壁側から埋もれているが、人為的な埋戻しであると考えられる。壁高は0.35mである。

方位：N-45°-E 面積：(0.31)㎡ 床面：東側にやや傾斜しており、調査した範囲では、掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：なし 遺物：土師器(杯類3片、甕類10片)が出土している。図示できる遺物が得られなかった。所見(帰属時期)：出土遺物は破片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかったが、土器片より6世紀代であると考えられるが、時期決定の資料に欠ける。



50号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 近世洪水層～褐灰色As-B軽石混土層(途中分層略)
- 2 黄褐色土 As-B軽石を中量含む。
- 3 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量含む。褐色味強い。
- 4 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、灰白色土小ブロックを少量含む。
- 5 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量、黒色の強い褐灰色土小ブロックを少量含む。
- 6 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、灰白色土小ブロックを少量含む。色調やや明るい。
- 7 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを微量含む。
- 8 褐灰色土 土層に灰白色土が層状に堆積する。
- 9 褐灰色土 黄褐色土、黒味の強い褐灰色土を多量含む。
- 10 暗褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。

第470図 1区8面 50号住居

51号住居(第471～473図 PL.117・205)

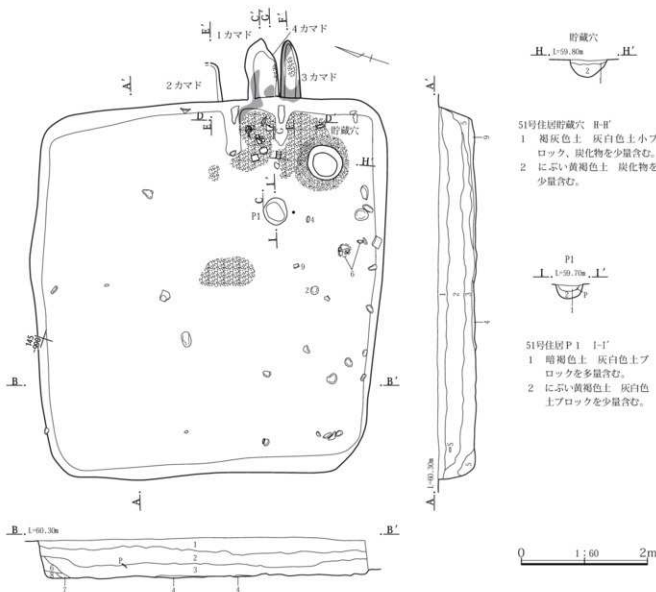
1区中央の住居群内にある。他住居と重複しているが、使用面は影響を受けていない。残存状態が良好である。

位置：139～145・-984～-991にある。

規模形状：各辺直線的である。南北方向にやや潰れた正方形に近い形を呈している。主軸長5.93m、幅5.25mである。埋没土・壁：褐灰色土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.47mである。方位：N-68°-E 面積：25.97㎡ 床面：傾斜はなく、細かい起伏を伴うが平坦

である。カマド内から前部にかけて、及び住居中央部に灰の分布を確認する。貯蔵穴の周辺には粘土が分布している。貯蔵穴、柱穴の窪みが確認できた。P1は柱穴であると思われる。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：P1は、規則的な主柱穴配置による柱穴の1つであると思われる。埋没土は、にぶい黄褐色土および暗褐色土と灰白色土の混土である。長径0.44m、短径0.38m、深さ0.2mである。

貯蔵穴：南東隅に窪みを確認する。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、炭化物を含むにぶい黄褐色土



51号住居貯蔵穴 H-H'

- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロック、炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。

51号住居P1 I-I'

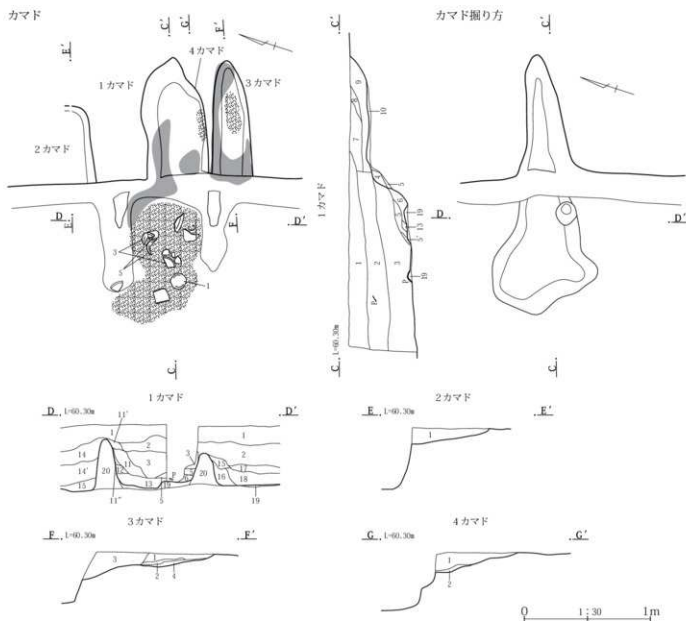
- 1 暗褐色土 灰白色土ブロックを多量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 灰白色土ブロックを少量含む。

51号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 黄褐色土ブロックを少量、灰白色小ブロックを微量含む。
- 3 褐灰色土 黄褐色土ブロックを少量含む。
- 4 褐灰色土 炭化物を多量含む。

- 5 褐灰色土 黄褐色土中ブロックを少量含む。
- 6 褐灰色土 炭化物を少量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 8 にぶい黄褐色土
- 9 褐灰色土 黄褐色土中ブロックを少量含む。

第471図 1区8面 51号住居



51号住居1号カマド C-C'・D-D'

- 1 褐色土 灰白色土小ブロックを多量含む。褐色味強い。
- 2 褐色土 灰白色土小ブロックを多量、炭化物を少量含む。
- 3 褐色土 灰白色土小ブロックを多量、炭化物を微量含む。灰色味強い。
- 4 焼上ブロック
- 5 褐色土 焼上ブロックを多量、炭化物を少量含む。
- 5' 褐色土 焼上ブロックを多量含む。
- 6 焼上ブロック
- 7 褐色土 焼上ブロックを少量含む。
- 8 黄褐色土
- 9 黄褐色土 焼上、炭化物を少量含む。
- 10 焼上
- 11 暗褐色土 炭化物を少量含む。黒色味強い。
- 11' 暗褐色土 炭化物を少量含む。
- 11'' 暗褐色土 焼上化している。
- 12 褐色土 焼上を多量含む。
- 13 褐色土 焼上ブロック、炭化物を多量含む。
- 14 褐色土 灰白色土小ブロックを多量含む。色調暗い。

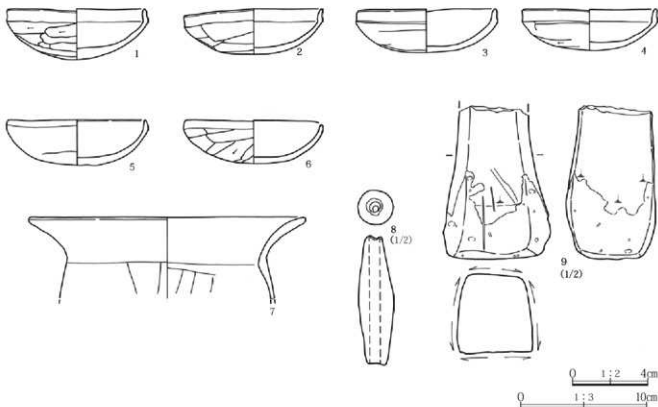
14' 褐色土 灰白色土小ブロックを中量含む。

- 15 炭化物 ブロック状に混入。
 - 16 にぶい黄褐色土 炭化物を多量含む。
 - 17 にぶい黄褐色土 炭化物を中量含む。
 - 18 にぶい黄褐色土 黄褐色土を多量含む。黄色味強い。
 - 19 炭化物、灰、焼上ブロックの混土層。
 - 20 褐色土 色調暗い。カマド袖材。
- 51号住居2号カマド E-E'
- 1 にぶい黄褐色土 灰白色土小ブロックを少量、焼上を微量含む。側面あまり焼けていない。
- 51号住居3号カマド F-F'
- 1 にぶい黄褐色土 焼上を多量含む。
 - 2 炭化物、灰層
 - 3 褐色土 灰白色土小ブロックを多量含む。
 - 4 赤褐色土 焼上化した底面。
- 51号住居4号カマド G-G'
- 1 にぶい黄褐色土 褐色土小ブロックを少量、炭化物、焼上を微量含む。
 - 2 炭化物と焼上の混土層。

第472図 1区8面 51号住居カマド

を褐色土が覆っている。長径0.56m、短径0.52m、深さ0.27mである。カマド：東壁の中央南寄りに位置する。本住居は、4回カマドをやり直している。最後に使用されたのが1号カマドである。1号カマドは、全長1.77m、幅1.06m、焚口幅0.55m、燃焼部幅0.57m、煙道は壁外側に0.97m突出している立派なものである。火床から煙道にかけて焼土の分布が見られた。燃焼部は、住居内に確認された。火床上には、甕及び礫が据えられており、焚口及び支脚を構築していた建材と思われる。周囲に多量の灰が分布していた。袖材は、褐色土である。掘り方は、火床下に0.03～0.05m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、炭化物、灰、焼土ブロックの混土层である。2号～4号カマドは、煙道のみ確認となった。焼土の残存の状態より3号・2号・4号カマドの順に新しいと思われる。3号カマドは、1号カマドの南に位置しており煙道は壁外側に0.92m突出している。煙道左を中心に焼土の分布が顕著である。4号カマドは、1号カマドと3号カマド間に位置しており煙道は壁外側に0.68m突出している。煙道付け根と中盤に焼土の分布

をみる。2号カマドは、1号カマドの0.8m程北に位置しており煙道は壁外側に0.61m程突出している。焼土の分布は見られなかった。重複遺構：21・29・40・78・79・105・130号住居に後出している。遺物：土師器(甕1点、杯6点)、土製品(土錘1点)、石製品(砥石1点)、礫石器(磨石1点) カマド内及び周辺、住居南から点在するように遺物が出土した。そのうち土器8点、石製品1点を図示した。甕(7)、土錘(8)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものか明瞭でない。杯(2・4・6)は床直上から、杯(1・3・5)は火床直上から出土しており、いずれも本住居に伴うものであると思われる。砥石(9)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。磨石は埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類197片、甕類518片)、須恵器(杯類5片、甕類10片)、不明土器10片が出土している。また、21号住居と共通して土師器(杯類79片、甕類166片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物と重複関係より、7世紀前半であると考えられる。



第473図 1区8面 51号住居出土遺物

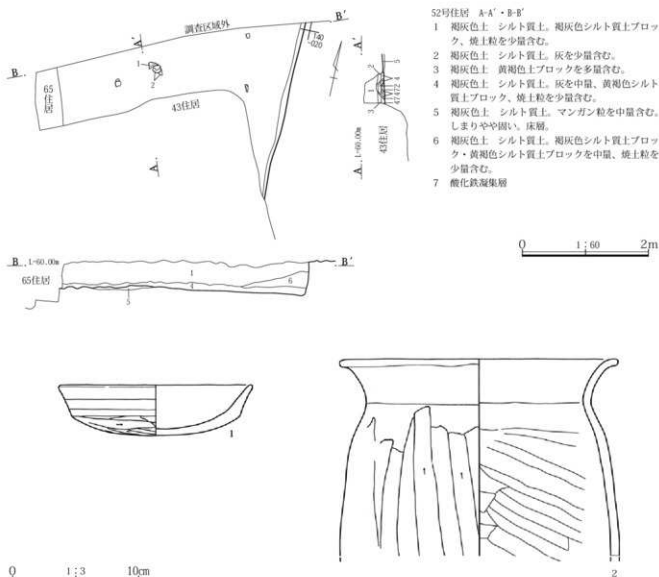
52号住居(第47図 PL.117)

1区西側の住居群内にある。43号住居により南部の床面を、65号住居により西部の床面を壊されている。北部が調査区域外にあるため、全容が明らかでない。

位置：137～140・-020～-023にある。

規模形状：東壁が、直線的である。全容は明らかでないが、方形を呈していると推察される。長軸長(3.34)m、短軸長(2.83)mである。埋没土・壁：褐灰色土のシルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.27mである。方位：N-2°-E 面積：(4.07)㎡ 床面：東へ傾斜しているが、ほぼ平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められ

ない。掘り方：中央部やや西寄りに認められる。埋め土は、マンガン粒を多く含む褐灰色シルト質土である。深さは0.07m前後である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：43・65号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点)住居中央付近から遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)、甕(2)共に床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土も見られた。図示した以外に、土師器(杯類1片、甕類17片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物より、6世紀後半であると考える。



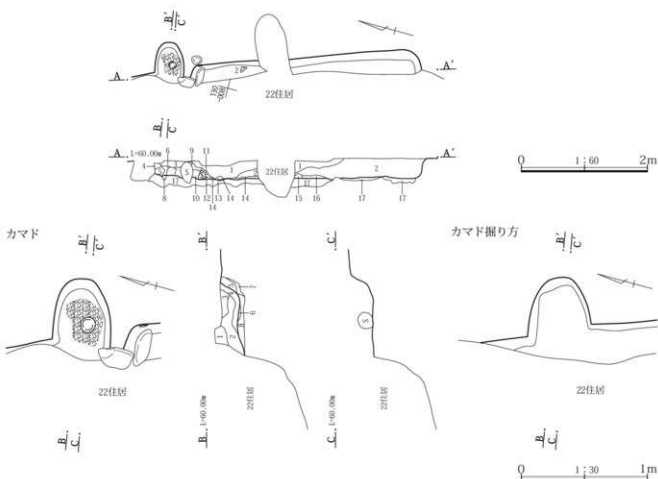
第474図 1区8面 52号住居、出土遺物

53号住居(第475・476図 PL.117・118)

1区西側の住居群内にある。22号住居により床面を大きく壊されている。カマド及び東壁一部の調査となり、全容が明瞭でない。

位置：127～131・-006～-008にある。

規模形状：東壁は直線的であるが、全容は明らかでない。方形を呈していると推察される。主軸長(0.37)m、幅(4.58)mである。 **埋没土・壁**：焼土粒と炭化物を含む黄褐色シルト質土で一氣に埋没している。不自然な堆積が観察され、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は



53号住居 A-A'

- 1 黄褐色土 シルト質土。焼土塊、褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。焼土塊、褐色・黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 4 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質土。褐色粘質土ブロックを多量、灰、焼土粒を少量含む。
- 6 黄褐色土 シルト質土。褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 7 黄褐色土 シルト質土。焼土塊を多量、灰、炭化物、褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 8 黄褐色土 シルト質土。灰、褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 9 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰、黄褐色・褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 10 黄褐色土 シルト質土。焼土塊を中量含む。
- 11 黄褐色土 シルト質土。焼土塊、灰、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

- 12 黄褐色土 シルト質土。焼土塊を多量、灰を少量含む。
- 13 黄褐色土 シルト質土。焼土塊を中量、灰を少量含む。
- 14 黄褐色土 シルト質土。灰、黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 15 黄褐色土 シルト質土。褐色粘質土ブロックを多量含む。
- 16 黄褐色土 シルト質土。褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 17 黄褐色土 シルト質土。褐色シルト質土ブロック・黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。しまりや中固い。床層。

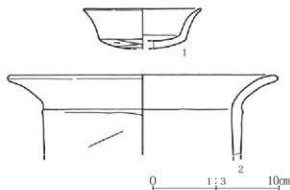
53号住居カマド B-B'

- 1 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰、黄褐色・褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 褐色土 シルト質土。焼土塊を中量、灰を少量含む。
- 4 褐色土 シルト質土。焼土塊、灰を中量含む。
- 5 褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 6 褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 7 褐色土 シルト質土。焼土塊を中量含む。
- 8 褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰、焼土粒を少量含む。

第475図 1区8面 53号住居

0.24mである。方位：N-74°-E 面積：(0.40)㎡
 床面：南に傾斜している。ほぼ平坦である。掘り方：ほぼ全面に確認された。埋め土は、褐灰色土、黄褐色土ブロックを含む黄褐色土で、締まりが強い。深さは、0.06～0.14m前後である。壁溝：不明 ビット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：東壁中央部北寄りに位置していると思われる。現存全長0.65m、現存幅0.71m、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、周囲に灰の分布が確認された。支脚は、長さ0.12m、幅0.12m、厚さ0.12mである。袖は削平が大きく右袖の付け根が残存しているのみである。袖内に石が確認された。袖壁の構築材であったと思われる。先端部の袖石は、長さ0.34m、幅0.2m、厚さ0.17mである。袖外側の礫は、長さ0.31m、幅0.16m、厚さ0.1mである。袖材は、黄褐色シルト質土である。掘り方は、火床下に0.05m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒を含む褐灰色シルト質土である。

重複遺構：22号住居に前出しており、61・82号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点) カマド及び東壁周辺から遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)はカマドの埋没土からの出土であり、甕(2)は床から0.15m浮いた位置からの出土であり、いずれも本住居に伴うものか明瞭でない。円礫の出土もある。図示した以外に、土師器(杯類1片、甕類3片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物と重複関係から、6世紀後半であると考えられる。



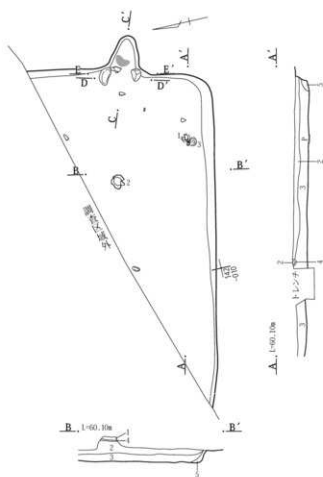
第476図 1区8面 53号住居出土遺物

54号住居(第477図 PL.118・205)

1区西側の住居群内にある。68号住居と重複しているが、床面は影響を受けていない。北半分以上が調査区域外に属しているため、全容は明らかでない。

位置：141～144・006～011にある。

規模形状：南壁・東壁共に直線的であり、直交している。整った長方形を呈していると思われる。主軸長(5.14)m、幅(2.61)mである。埋没土・壁：褐灰色土のシルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と思われる。壁高は0.21mである。方位：N-82°-E 面積：(8.49)㎡ 床面：傾斜はほぼなく、多少の起伏を伴い平坦である。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは認められない。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ビット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央部南寄りに位置していると思われる。全長0.77m、幅0.65m、焚口幅0.45m、燃焼部幅0.35m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、焼土が分布していた。両袖内には、袖壁を構築していた礫が確認された。特に左袖石は、本来の位置より住居外側に倒れ込んだ様子で出土した。これらは、カマドの構築材であったと思われる。右袖石は、長さ0.26m、幅0.2m、厚さ0.14mである。左袖石は、長さ0.29m、幅0.16m、厚さ0.09mである。掘り方は、火床の下に0.07m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒を含む褐灰色シルト質土である。重複遺構：60・68号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点) 礫石器(凹石1点) カマド周辺から点在するように遺物が出土した。そのうち土器2点、礫石器1点を図示した。杯(1)、凹石(3)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(2)は床から0.31m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものか明瞭でない。円礫の出土もある。図示した以外に、土師器(杯類37片、甕類72片)、須恵器(杯類2片、甕類1片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、7世紀後半であると考えられる。図示した遺物において、埋土、床直上の遺物の時差は認められない。



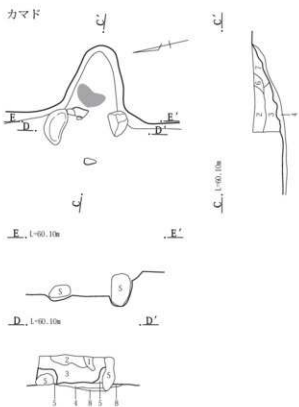
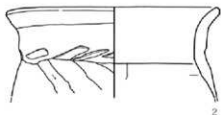
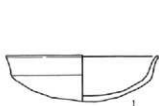
0 1:60 2m

54号住居 A-A'・B-B'

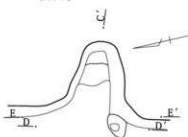
- 1 褐灰色土 シルト質上。炭化物を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。焼土粒、褐灰色シルト質上ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。褐灰色・黄褐色シルト質上ブロック、焼土粒を少量含む。
- 4 酸化鉄凝集層
- 5 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質上ブロックを中量、黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。

54号住居カマド C-C'・D-D'

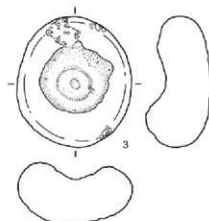
- 1 褐灰色土 シルト質上。炭化物を中量、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質上ブロック、炭化物を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質上ブロック、黄褐色シルト質上ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロック、焼土粒を中量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質上。焼土塊を多量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。



カマド掘り方



0 1:30 1m



0 1:3 10cm

第477図 1区8面 54号住居、出土遺物

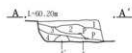
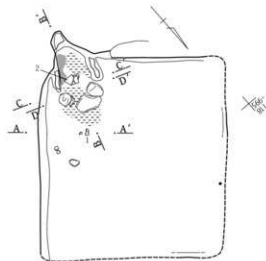
55号住居(第478・479図 PL.118・205)

1区西側の住居群内にある。32号住居と重複しており、北壁、東壁は壊されているが、床面は壊されていない。残存状態は良好でない。カマド周辺及び南東隅を中心と

した調査となった。

位置：115～119・990～995にある。

規模形状：東壁・南壁は直線的で直交している。整った長方形を呈していると思われる。主軸長3.18m、幅2.98m

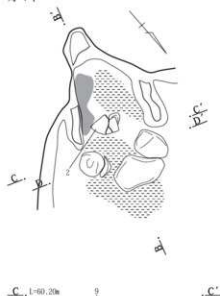


55号住居 A-A'

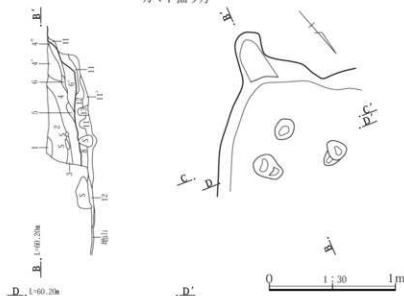
- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロック、黄褐色土小ブロックを少量、白色軽石を微量含む。
- 2 褐灰色土 炭化物、灰白色粘質土小ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 炭化物、焼上ブロックを多量含む。黒色味強い。
- 4 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、炭化物を多量含む。
- 4' 褐灰色土 粘質土、黄褐色土小ブロック、炭化物を多量含む。

0 1:60 2m

カマド



カマド掘り方



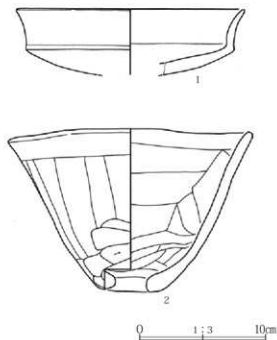
55号住居カマド B-B'・C-C'

- 1 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを多量、炭化物、焼上ブロックを中量含む。
- 2 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、炭化物を多量、焼上ブロックを中量含む。
- 3 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、炭化物、焼上ブロックを多量含む。色調が暗い。
- 4 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、炭化物を多量、焼上ブロックを中量、灰白色粘質土小ブロックを少量含む。
- 4' 褐灰色土 焼上ブロックを中量含む。
- 4'' 褐灰色土 焼上ブロックを多量含む。
- 5 炭化物、灰層

- 6 焼上ブロック
- 6' にふい黄褐色土 焼上を多量含む。
- 7 にふい黄褐色土
- 7' にふい黄褐色土 灰色味やや強い。
- 8 炭化物、灰層 焼上ブロック、灰白色粘質土小ブロックを少量含む。
- 9 褐灰色土 灰白色粘質土小ブロックを少量含む。
- 10 褐灰色土 粘性やや強い。袖の崩れたものか。
- 11 にふい黄褐色土 焼上、炭化物を少量含む。色調やや暗い。
- 11' にふい黄褐色土 焼上、炭化物を少量含む。
- 12 炭化物、灰層 最終使用面よりさらに下層の炭化物層。
- 13 にふい黄褐色土 ブロック状に混入。
- 14 暗灰白色土 粘性強い。カマド材の崩れたものか。
- 15 褐灰色土 粘性やや強い。カマドの袖材。

第478図 1区8面 55号住居

である。埋没土・壁：褐灰色土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ自然堆積と推察されるが、明瞭ではない。壁高は0.33mである。方位：N-29°-E 面積：8.48㎡(推定) 床面：確認された範囲では傾斜はなく平坦である。カマド前部に炭の分布が認められ礫が据えられている。カマド構築に関わると思われる。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。掘り方：確認できなかったが、全容は明らかでない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：南辺の南東隅に位置する。全長1.18m、幅0.81m、焚口幅0.23m、燃焼部幅0.51m、煙道は壁外側に0.27m突出している。燃焼部は、屋内から屋外にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、土師器片が覆っていた。支脚は、長さ0.19m、幅0.09m、厚さ0.11mである。周囲には、焼土と炭の分布が観察された。両袖先端部に相当する部分には礫が据えられている。右袖石は、長さ0.33m、幅0.21m、厚さ0.13mである。左袖石は、長さ0.28m、幅0.21m、厚さ0.15mである。左袖石は加熱のため割れている。両袖石の間に、焚口天井部分の建築材であったと思われる長さ0.43m、幅0.26m、厚さ0.1mの扁平な礫が焚口前部の床直上に確認できた。これらの礫は、焚口を構成していた構築材であると思われる。袖材は、やや粘性のある褐灰色土である。掘り方は、火床の下に0.11m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、炭化物、焼土を含むにぶい黄褐色土を、焼土ブロック、炭化物を含んだ灰層が覆っている。支脚、袖石が据えられたところには据方の痕跡が残っている。重複遺構：32号住居に前出してあり、37・72・73・75号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点) カマド周辺及び住居北壁から遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は床直上から、甕(2)はカマドからの出土であった。いずれも本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土がみられる。図示した以外に、土師器(杯類22片、甕類61片)が出土している。また、32・37・72・73・75号住居と共通して土師器(杯類54片、甕類225片)、不明土器1点を出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係より、6世紀後半であると考える。



第479図 1区8面 55号住居出土遺物

56号住居(第480図 PL.118)

1区西側の住居群内にある。中近世洪水砂礫層により本体はおおよそ壊されているため、カマドのみの確認となった。全容は明らかでない。

位置：118・119・009～010にある。

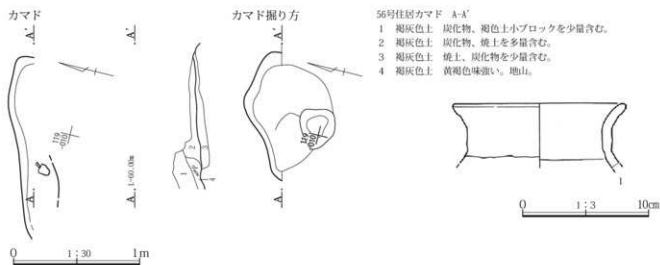
規模形状：不明 主軸長(1.43)m、幅(0.29)mである。

埋没土・壁：不明 壁高は0.04mである。方位：N-75°-E 面積：(0.70)㎡ 床面：不明 壁溝：不明 ピット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：東辺に位置すると思われるが、全容は明らかでない。現存全長1.43m、

現存幅0.29m、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側にどの程度張り出しているか不明である。掘り方は、焼土、炭化物を含む褐灰色土で構成されている。深さは、0.07m程である。燃焼部、袖等の施設は確認できなかった。

重複遺構：10号住居に後出している。遺物：土師器(甕1点) カマド煙道から遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。甕(1)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。図示した以外に、土師器(杯類16片、甕類64片)、須恵器(甕類1片)が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物より、7世紀後半であると考える。図示した遺物において、埋土、床直上の遺物の時期差は認められない。



第480図 1区8面 56号住居カマド、出土遺物

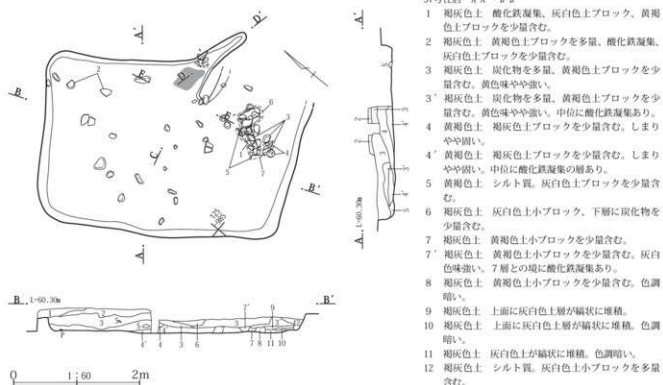
57号住居(第481～483図 PL.118・119・205・206)

1区西側の住居群内にある。他遺構と重複しているが、床面は影響を受けていない。全容は明瞭でない。

位置：124～128・982～986にある。

規模形状：各辺直線的である。西壁に対して東壁が長いと思われる。南北に長い長方形を呈している。主軸長2.68m、幅4.24mである。埋没土・壁：黄褐色土、褐灰色土で埋没している。不自然な堆積が観察され人為的

な埋戻しであると思われる。壁高は0.25mである。方位：N-85°-E 面積：(9.20)㎡ 床面：東にやや傾斜している。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められない。南東部の床直上に複数の土師器裏が確認され、床全体に礫が散見できる。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央やや南に位置する。東壁に対して南寄りに傾いている。全長1.43m、現存幅

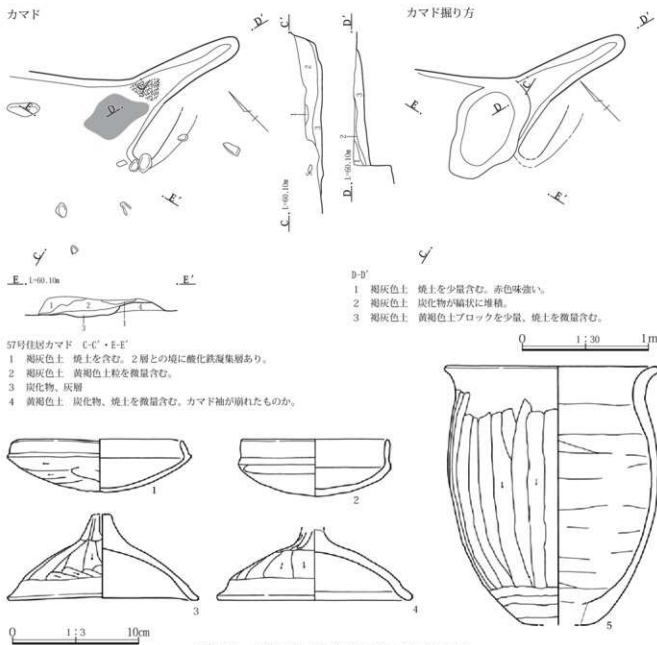


第481図 1区8面 57号住居

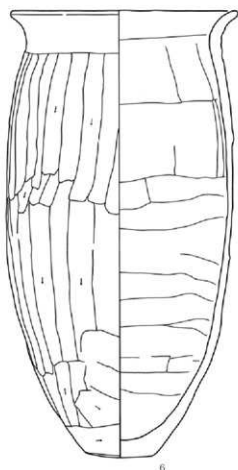
0.75m、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に0.95m突出している。燃焼部は、住居内から住居外にかけてであると思われる。火床上には、焼土の分布が見られ、煙道にかけて灰の分布が確認された。右袖先端部及び、左袖壁の先端部に相当する部分に礫が観察され、袖壁の構築材であったと思われる。袖材は、黄褐色土である。掘り方は、火床下に窪みが認められ、炭化物を含む灰層でおおわれていた。重複遺構：1号竪穴状遺構、77号住居に後出している。103号住居と重複している。遺物：土師器(杯2点、蓋2点、甕3点) 住居中央から南部にかけて散在するように遺物が出土した。そのうち土器7

点を図示した。杯(2)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1)は床から0.12m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。蓋(3・4)、甕(5・6・7)は本体が床直上にあるため、本住居に伴うものとするのが自然である。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類40片、甕類135片)、須恵器(甕類9片)が出土している。

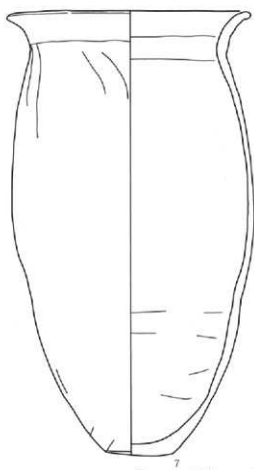
所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半であると考える。図示した遺物において、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。



第482図 1区8面 57号住居カマド、出土遺物(1)



6



7

0 1:3 10cm

第483図 1区8面 57号住居出土遺物(2)

58号住居(第484図 PL.119)

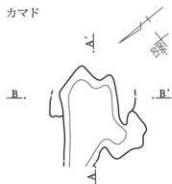
1区西側の住居群内にある。削平が進んでおり住居本体が失われているため、全容は明らかでない。カマドのみの調査となった。

位置：120～121・-989～-990にある。

規模形状：不明 主軸長(0.75)m、幅(0.65)mである。

埋没土・壁：不明 壁高は計測不能である。方位：計測不能 面積：(1.35)m² 床面：不明 壁溝：不明 ビット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：東辺に位置すると思われるが、削平されており全容は明らかでない。

カマド



カマド掘り方



58号住居カマド A-A'・B-B'

1 焼上ブロックを主体とした炭化物、灰との混土层。

2 炭化物、灰層。

3 黄褐色土、炭化物、灰を微量含む。

0 1:30 1m

第484図 1区8面 58号住居カマド

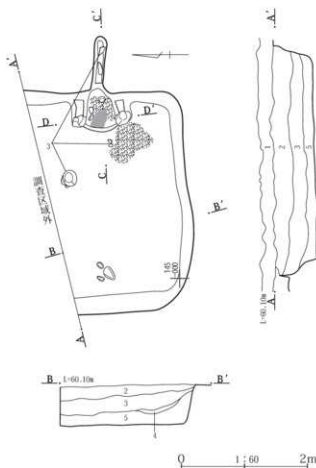
現存全長0.75m、現存幅0.68m、焚口幅不明、燃焼部幅0.43m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から住居外にかけてあると思われる。兩袖はわずかに残存している。掘り方は、火床の下に0.05～0.09m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物、灰を含む黄褐色土に炭化物を含んだ灰層が載る。重複遺構：71号住居に後出している。遺物：なし 所見(帰属時期)：重複関係から6世紀前半以前と考えられるが、時期決定の資料に欠ける。

59号住居(第485・486図 PL.119・206)

1区西側の住居群内にある。北辺から中央部分まで調査区域外にあり、全容が明らかでない。調査した範囲の残存状態は良好であった。

位置：144～147・-996～-000にある

規模形状：東壁、西壁はほぼ直線的である。南壁の西半分は丸みがみられる。方形を呈していると推察される。主軸長3.48m、幅(2.41)mである。埋没土・壁：褐灰色土のシルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.62mである。方位：N-87°-W 面積：(6.07)m² 床面：西にやや傾斜しているが、ほぼ平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窪みはみられない。カマド右袖壁前部に多量の灰の分布が認められる。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ビット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁の中央南寄りに位置すると思われる。全長1.43m、幅0.93m、焚口幅0.48m、燃焼部幅0.38m、煙道は壁外側に0.89m突出している。煙道中程には土師器片が認められた。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、周囲には灰及び焼土の分布が観察された。支脚は、長さ0.16m、幅0.11m、厚さ0.09mである。兩袖先端部分には礫が据えられており袖壁の構築材であると思われる。右袖石は、長さ0.31m、幅0.23m、厚さ0.2mである。左袖石は、長さ0.32m、幅0.19m、厚さ0.17mである。掘り方は、火床の下に0.13m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、シルト質土ブロック、焼土粒を含む褐灰色土である。重複遺構：なし 遺物：土師器(杯1点、甕1点)、須恵器(蓋1点) カマド火床上及び煙道、住居中央部から遺物が出土した。そのうち



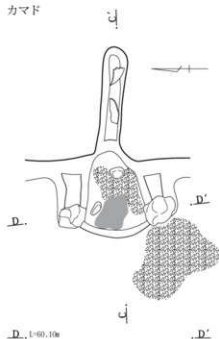
59号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック・黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。褐灰色・黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

第485図 1区8面 59号住居

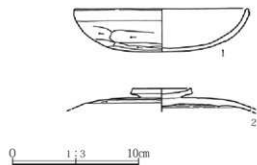
土器3点を図示した。甕(3)は床直上及び煙道からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1)、蓋(2)(須恵器)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるが明瞭でない。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類105片、甕類333片)、須恵器(杯類4片、甕類26片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、8世紀前半であると考えられる。図示した遺物は、埋土、床直の遺物の時期差が認められない。

カマド



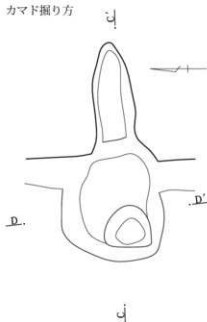
59号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。

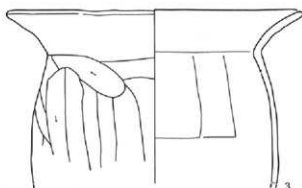


第486図 1区8面 59号住居カマド、出土遺物

カマド掘り方



- 3 褐灰色土 シルト質土。灰、焼土粒を中量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質土。黄褐色・褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質土。焼土塊を中量、灰を少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質土。焼土塊を中量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰、焼土粒を少量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。



60号住居(第487図 PL.119)

1区西側の住居群内にある。54号住居と重複しているが、床面は壊されていない。本体の北半分が調査区域外にあり、全容が明らかでない

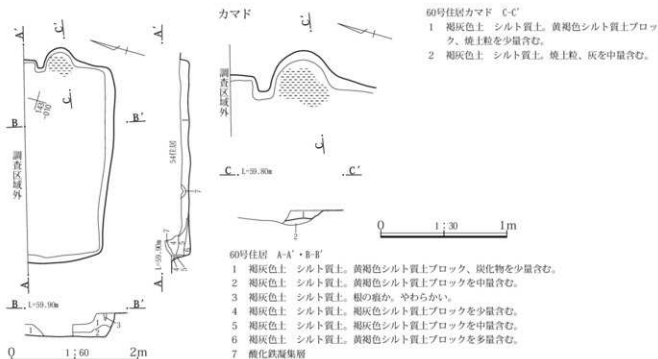
位置：141～143・-009～-012にある。

規模形状：南辺はほぼ直線的である。東壁・西壁はやや丸みを帯びる。全体としては、ほぼ方形を呈していると思われる。主軸長3.05m、幅(1.43)mである。埋没土・

壁：褐灰色土のシルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.16mである。方位：N-72°-E 面積：(3.64)㎡
床面：南にやや傾斜している。緩やかな起伏を伴うが、平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窪みはみられない。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カ

マド：東壁中央部南寄りに位置すると思われる。現存全長0.39m、現存幅0.67m、焚口幅不明、燃烧部幅0.43m、煙道は確認できなかった。燃烧部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床には、炭の分布が観察された。左袖がわずかに残存している。掘り方は、火床下に0.05m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、焼土粒、灰を含む褐灰色土である。 **重複遺構**：26・54・60号住

居に前出している。 **遺物**：土師器(杯類2片、表類2片)が出土している。図示できる遺物は得られなかった。
所見(帰属時期)：出土遺物は破片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。重複関係と土器片から、6世紀代から7世紀代であると考えられるが、時期決定の資料に欠ける。



第487図 1区8面 60号住居

61号住居(第488図 PL.119)

1区西側の住居群内にある。22・53号住居により住居本体を大きく壊されており、カマドと東辺一部の調査となった。全容は明らかでない。

位置：129～131・007～008にある。

規模形状：東壁はほぼ直線的である。方形を呈している。と推察される。主軸長(0.27)m、幅(1.81)mである。

埋没土・壁：黄褐色土のシルト質土で埋没している。自然堆積であるかは明瞭でない。壁高は0.17mである。

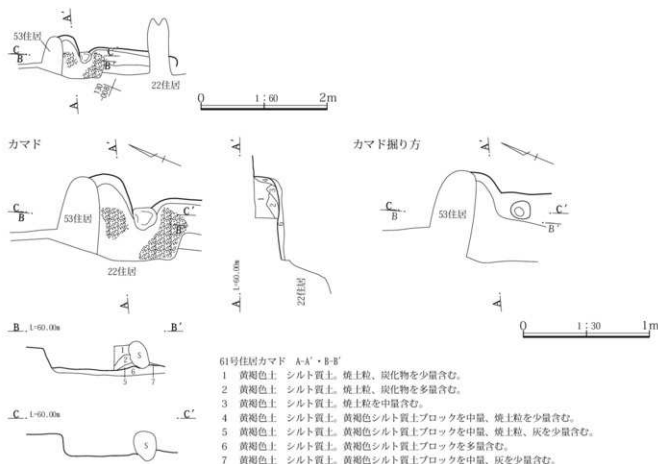
方位：N-56°-E 面積：(0.42)㎡ 床面：全容は明らかでないが、カマド右袖の周囲に灰の分布が確認された。

掘り方：確認された。埋め土は、シルト質土ブロックを含む黄褐色土である。深さは、0.05m程である。 壁溝：不明

ピット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：東壁中央付近に位置すると思われる。53号住居に前出して

いるため、左袖の周囲が欠損している。全長0.47m、現存幅0.45m、焚口幅不明、燃烧部幅不明、煙道は確認できなかった。燃烧部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床には、灰の分布が見られた。右袖先端部分に礎が認められる。袖壁の構築材であると思われる。袖石は、長さ0.27m、幅0.18m、厚さ0.17mである。掘り方は、火床の下に0.04m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、シルト質土ブロックを含む黄褐色土である。

重複遺構：22・53号住居に前出しており、82号住居に後出している。 **遺物**：土師器(杯類1片、表類2片)が出土している。図示する遺物は得られなかった。 **所見(帰属時期)**：出土遺物は破片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。重複関係と土器片から、6世紀後半であると考えられるが、時期決定の資料に欠ける。



第488図 1区8面 61号住居

62号住居(第489～491図 PL.120・206)

1区西側の住居群内にある。17号住居と重複しているが、床面は壊されていない。残存状態は良好である。

位置：128～133・-992～-997にある。

規模形状：各辺はほぼ直線である。南北にやや長い整った長方形を呈している。主軸長3.86m、幅4.19mである。

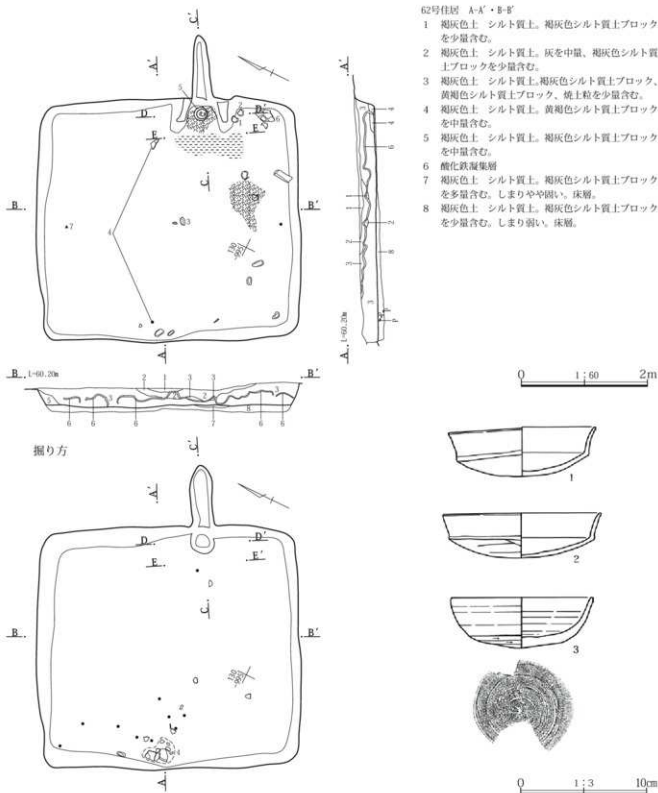
埋没土・壁：褐灰色土のシルト質土で埋没している。壁側が埋もれた後、一気に同質3層で埋没しており、人為的な埋戻しであると思われる。酸化鉄凝集層が散見できる。壁高は0.33mである。方位：N-63°-E 面積：13.04㎡ 床面：西にやや傾斜している。緩やかな起伏を伴いおおよそ平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められない。カマド前部に炭の分布が、南部中央に灰の分布が確認された。掘り方：ほぼ全面に及んでおり、中央から西部にかけて深い。埋め土は、シルト質土ブロックを含む褐灰色土であり、締まりは弱い。深さは、0.02～0.11m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：

東壁中央部南寄りに位置している。全長1.55m、幅1.03m、焚口幅0.58m、燃烧部幅0.45m、煙道は壁外側に1m突出している。燃烧部は、住居内に確認された。火床上には、支脚の土師器裏が倒置して据えられており、灰の分布が確認された。右袖側には、杯片の出土を見る。袖材は、褐灰色シルト質土ブロックを含む褐灰色土である。表面が焼土化している。掘り方は、火床の下に0.07m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒を含む褐灰色シルト質土である。支脚下にはピット状の掘方も見られた。重複遺構：17号住居に前出しており、63・66号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、裏2点、甕1点)、須恵器(杯1点) 石製品(白玉1点)

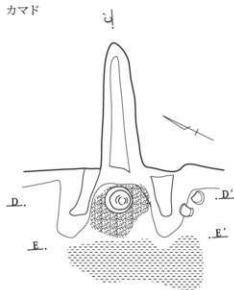
住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器6点、石製品1点を図示した。杯(1・2)、裏(6)はカマド右袖側、裏(5)はカマド支脚、いずれも床直上からの出土であり本住居に伴うものと考えられる。白玉(7)は床直上、甕(4)は掘り方からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(3)(須恵器)は床から

0.16m浮いた位置からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類145片、甕類353片)、須恵器(甕類1片)、不明土器9片が出土している。所見(帰属時期):

出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。図示した遺物は、埋土、床直の遺物の時期差が認められない。



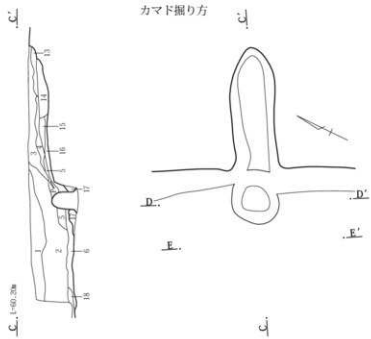
カマド



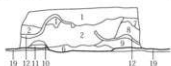
D., 1:40.20m



カマド掘り方



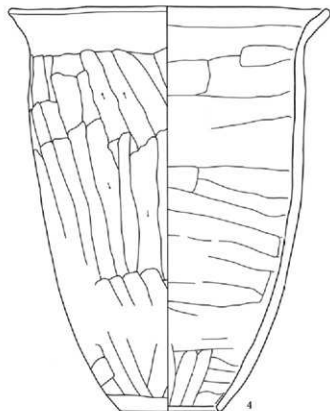
E., 1:40.20m



0 1:30 1m

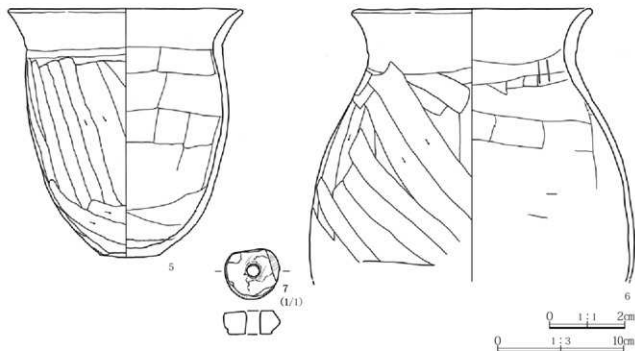
62号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

- 1 褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 2 褐色土 シルト質上。焼土粒、褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 4 褐色土 シルト質上。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 5 褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を中量含む。
- 6 褐色土 シルト質上。焼土粒を中量、灰を多量含む。
- 7 褐色土 シルト質上。焼土粒、褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 8 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 9 褐色土 シルト質上。黄褐色・褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 10 褐色土 シルト質上。褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 11 褐色土 シルト質上。灰を中量含む。
- 12 酸化鉄凝集層
- 13 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを少量、灰を中量含む。
- 14 褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。
- 15 褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を中量含む。
- 16 褐色土 シルト質上。焼土粒を少量、灰を中量含む。
- 17 褐色土 シルト質上。焼土粒、灰、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 18 褐色土 シルト質上。灰を少量含む。
- 19 褐色土 シルト質上。灰、炭化物を少量含む。
- 20 暗赤褐色土 シルト質上。焼土化している。
- 21 褐色土 シルト質上。褐色シルト質土ブロックを少量含む。袖。
- 22 褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。



0 1:3 10cm

第490図 1区8面 62号住居カマド、出土遺物(2)



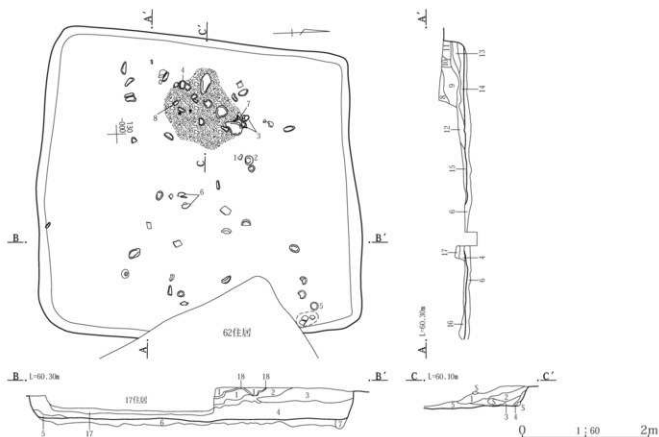
第491図 1区8面 62号住居出土遺物(3)

63号住居(第492・493図 PL.120・206・207)

1区西側の住居群内にある。62号住居により東壁付近を壊されている。全容は明らかでない。17号住居と重複しているが、床面は影響を受けていない。

位置: 128～133・-996～-001にある。 **規模形状:** 各辺丸みを帯びて若干歪んでいる。南北にやや長い方形を呈している。主軸長5.11m、幅4.48mである。 **埋設土・壁:** 褐灰色土のシルト質土で埋没している。壁側から埋もれているところもあるが、不自然な堆積が観察され、人為的な埋戻しであると推察される。壁高は0.38mである。 **方位:** N-3°-W **面積:** 17.96㎡ (推定) **床面:** 傾斜はほぼない。中央にわずかに落ち込みがあるが、平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められない。西部中央に多量の粘土の分布がみられた。カマドを構築していたと思われる。 **掘り方:** ほぼ全面に及んでいる。埋め土は、シルト質土ブロックを多く含む褐灰色土で、締まりが強い。深さは、0.03～0.12m程である。 **壁溝:** 北辺に一部認められる。 **ピット(柱穴):** 認められない。 **貯蔵穴:** 認められない。 **カマド:** 西辺中央部付近に位置していたと推察される。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は確認できなかった。燃焼部と思われる場所を中心に粘土の分布がみられる。火床は

住居内にあると思われる。火床上には、支脚の礎が据えられており、周囲に土師器杯が確認された。支脚は、長さ0.32m、幅0.15m、厚さ0.08mである。右袖先端部に据えられた礎及び加工石等が散見できる。カマド構築の痕跡であるか明瞭でない。右袖石は、長さ不明、幅0.18m、厚さ0.18mである。 **重複遺構:** 62・17号住居に前出している。 **遺物:** 土師器(杯5点、甕2点)、石製品(砥石1点) 住居中央部を中心に点在するように遺物が出土した。そのうち土器7点、石製品1点を図示した。杯(4)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1・2・3・5)は床から0.21～0.38m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。甕(6)は床直上から埋没土までの範囲から、甕(7)は、床上0.21mの位置からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。砥石(8)は、床直上からの出土であった。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類126片、甕類237片)、須恵器(杯類1片、甕類4片)が出土している。 **所見(帰属時期):** 出土遺物から、6世紀前半であると考える。図示した遺物は、埋土、床直の遺物の時期差が認められない。



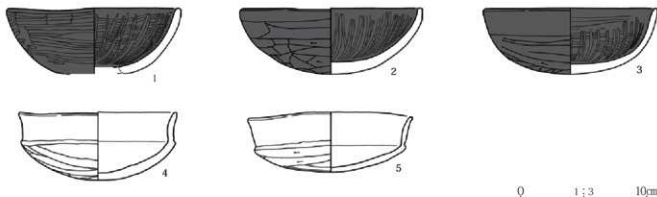
63号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐色土 シルト質上。褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 シルト質上。灰を中量含む。
- 3 褐色土 シルト質上。褐色シルト質土ブロックを中量、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 褐色土 シルト質上。褐色シルト質土小ブロックを中量含む。
- 5 褐色土 シルト質上。焼土粒を少量、灰を多量含む。
- 6 褐色土 シルト質上。褐色シルト質土ブロックを中量含む。しまりやや強い。床層。
- 7 褐色土 シルト質上。褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 8 褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。
- 9 褐色土 シルト質上。褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 10 褐色土 シルト質上。灰を中量含む。
- 11 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 12 褐色土 シルト質上。焼土粒を少量、灰を中量含む。
- 13 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、褐色シルト質土ブロックを少量含む。

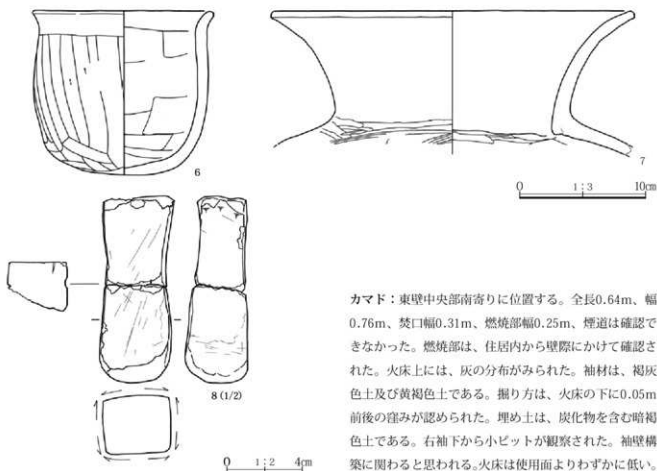
- 14 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 15 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。
- 16 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 17 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。色調暗い。

63号住居カマド C-C'

- 1 褐色土 シルト質上。白褐色粘質土ブロック、褐色粘質土ブロックを多量含む。
- 2 褐色土 シルト質上。白褐色粘質土ブロック、褐色粘質土ブロック、灰を少量含む。
- 3 褐色土 シルト質上。褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 5 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、褐色シルト質土ブロックを少量含む。



第492図 1区8面 63号住居、出土遺物(1)



第493図 1区8面 63号住居出土遺物(2)

64号住居(第494・495図 PL.120)

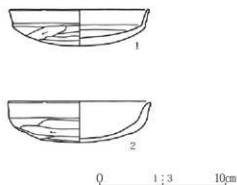
1区西側の住居群内にある。他遺構との重複はないが、残存状態は良好でない。

位置：134～137・-984～-987にある。

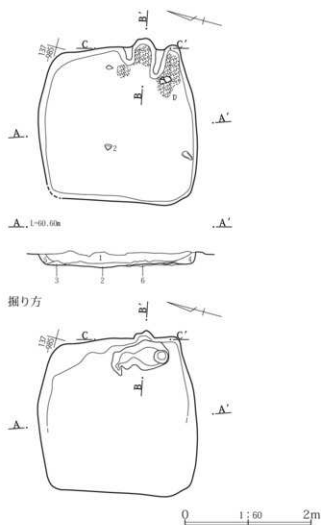
規模形状：全体的に歪んでおり、丸みを帯びた方形を呈している。小型の住居である。主軸長2.49m、幅2.36mである。埋没土・壁：黄褐色シルト質土で埋没している。壁側から4・2・5層が埋もれ、その後、1層が一気に埋没している。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.13mである。方位：N-79°-E 面積：4.94㎡ 床面：中央部分が緩やかに落ち込んでいる。北部は中央部に向けて傾斜しており平坦である。南部は、中央部へ向けて傾斜しているが、凹凸の起伏がある。左袖前及び右袖側に灰の分布が見られる。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められない。掘り方：南部に一部に認められる。埋め土は、炭化物を含む濃い黄褐色土である。深さは、0.02～0.04m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。

カマド：東壁中央部南寄りに位置する。全長0.64m、幅0.76m、焚口幅0.31m、燃焼部幅0.25m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、灰の分布がみられた。袖方は、褐灰色土及び黄褐色土である。掘り方は、火床の下に0.05m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物を含む暗褐色土である。右袖下から小ピットが観察された。袖壁構築に関わると思われる。火床は使用面よりわずかに低い。

重複遺構：48・150号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点) 住居西部から遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(2)は床直上及び掘り方から、杯(1)は掘り方からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土が若干見られる。図示した以外に、土師器(杯類11片、糞類36片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物より、7世紀前半であると考えられる。



第494図 1区8面 64号住居出土遺物



64号住居 A-A'

- 1 黄褐色土 シルト質土。灰白色土ブロックを少量含む。灰色味やや強い。
- 2 黄褐色土 シルト質土。灰白色土ブロックを少量含む。やや褐色味強い。
- 3 黄褐色土 シルト質土。黄褐色土ブロック、灰白色土ブロックを少量含む。
- 4 褐色土 シルト質土。黄褐色土ブロックを少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質土。灰白色味強い。
- 6 に近い黄褐色土 シルト質土。炭化物を微量含む。掘り方。

第495図 1区8面 64号住居

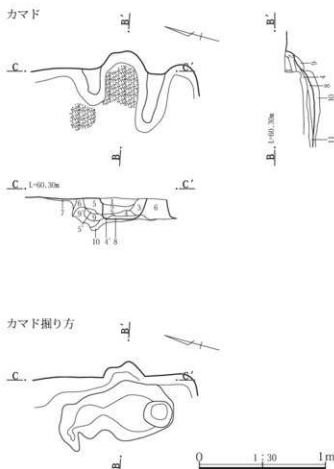
65号住居(第496図 PL.117)

1区西側の住居群内にある。2・43号住居に本体の大半を壊されているため、東壁一部のみの調査となり全容が明瞭でない。

位置：137～138・-023にある。

規模形状：東壁の一部は直線的である。方形を呈していると推察できる。長軸長(0.91)m、短軸長(0.42)mである。

埋没土・壁：褐色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。



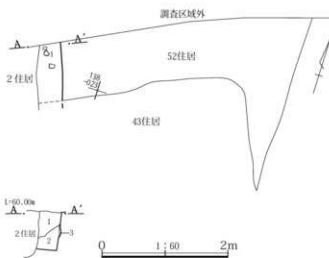
64号住居カマド B-B'・C-C'

- 1 褐色土 褐色味やや強い。
- 2 褐色土 焼土粒を少量含む。
- 3 褐色土 褐色味強い。
- 4 焼土ブロック
- 4' 黄褐色土 焼土を多量含む。
- 5 褐色土 カマド袖材。
- 6 黄褐色土 灰色味やや強い。
- 7 褐色土
- 8 炭化物、灰層
- 9 褐色土 カマド袖材。黄色味強い。
- 9' 褐色土 カマド袖材。
- 10 暗褐色土 炭化物を少量含む。
- 11 に近い黄褐色土

壁高は計測不能である。方位：計測不能 面積：(0.36) m² 床面：調査範囲が少なく、傾き、起伏及びその他の状況は不明である。掘り方：認められない。壁溝：不明 ピット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：不明 重複遺構：52号住居に後出しており、2・43住居に前出している。遺物：土師器(杯1点) 住居東壁付近から遺物が出土したと思われる。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は床から0.09m程浮いた位置から出土した。本住居に伴う出土であると考えるのが自然である。

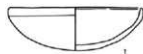
図示した以外に、土師器(杯類1片、甕類1片)が出土している。所見(帰属時期):出土遺物から7世紀代であり、43号住居との重複関係から、7世紀前半であると考

えられる。図示した遺物は、埋土、床直の時期差を認められない。



65号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 シルト質上。焼土粒、炭化物を少量含む。色調明るい。
- 2 褐灰色土 シルト質上。焼土粒、炭化物、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。



0 1:3 10cm

第496図 1区8面 65号住居、出土遺物

66号住居(第497・498図 PL.120・121・207)

1区西側の住居群内にある。62号住居により北壁から中央部にかけて壊されているため、全容が明らかでない。位置:127~130・-992~-996にある。

規模形状:東壁、南壁、西壁共に直線的である。南東隅、南西隅にやや丸みが見られる。歪んだ方形を呈している。南西が鋭角で交わっている。主軸長3.41m、幅(2.64)mである。

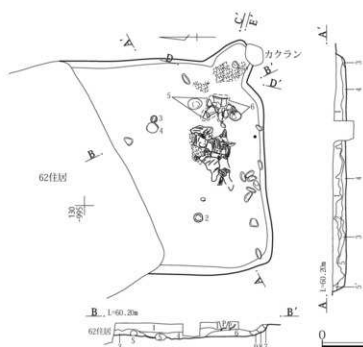
埋没土・壁:褐灰色土で埋没している。壁側から埋没している状況がみられ自然堆積と思われるが、その後は1層が堆積しており、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.24mである。

方位:N-43°-W 面積:(6.66)㎡ 床面:南部は傾斜もなく平坦である。北部は、凹凸状の起伏がみられる。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは認められない。南側中央部に多量の炭化物が確認された。焼失住居であるかは明瞭でない。

掘り方:認められない。壁溝:認められない。ピット(柱穴):認められない。貯蔵穴:認められない。カマド:東壁南東隅近くに位置している。現存全長0.65m、現存幅0.44m、焚口幅0.23m、燃焼部幅0.25m、煙道が確認できなかった。燃焼部は、屋内から屋外にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、周囲に灰の分布が見られる。支脚は、長さ0.21m、幅0.11m、厚さ0.09mである。袖は確認できなかったが、右袖先端

部分の位置には土師器甕が左袖先端部分の位置には礫が据えられており、袖を構築していたと推察される。袖材は、褐灰色土である。左袖石は、長さ0.22m、幅0.16m、厚さ不明である。焚口直下に甕片及び加工礫も散見され、カマドを構築していた痕跡が観察される。また、南壁直下には、細長い自然石が数点出土しており、鴈編石の可能性がある。掘り方は、火床の下に0.04m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物、焼土を含む黄褐色土及び、炭化物を含む灰層である。火床は、使用面よりわずかに低い。支脚にはピット状の窪みも観察された。

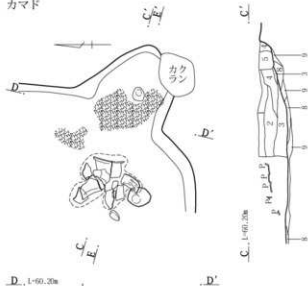
重複遺構:62号住居に前出している。遺物:土師器(杯3点、甕3点) カマド周辺及び住居南部全体から点検するように遺物が出土した。そのうち土器6点を図示した。杯(2・3)は床直上から、杯(1)はカマド掘り方からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(4)は床直上から、甕(5・6)はカマド前床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土が見られるが、住居南部から鴈編石と思われる礫が確認された。図示した以外に、土師器(杯類12片、甕類88片)が出土している。所見(帰属時期):出土遺物から、6世紀前半であると考える。



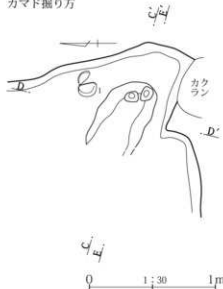
66号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 灰白色土小ブロックを少量含む。色調暗い。1層との間に酸化鉄凝集層あり。
- 3 褐色土 炭化物を多量含む。
- 4 褐色土 黄褐色土小ブロックを微量含む。
- 5 褐色土 酸化鉄凝集を少量含む。
- 6 黒褐色土 酸化鉄凝集層。
- 7 黄褐色土
- 8 不い黄褐色土 カマドの袖材。
- 9 暗赤褐色土 酸化鉄凝集層。

カマド

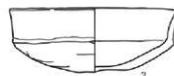
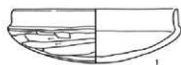


カマド掘り方



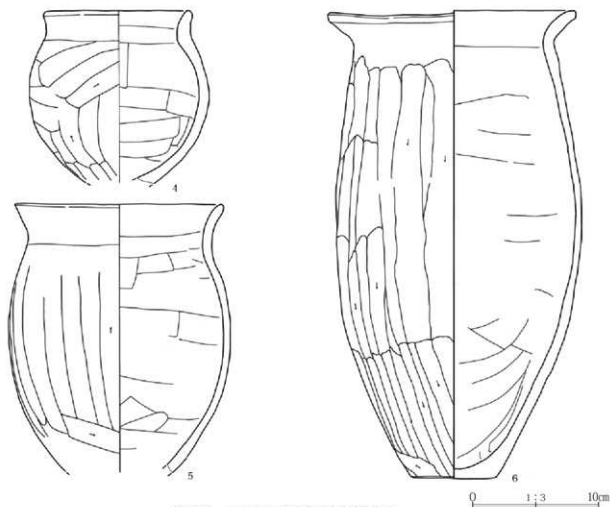
66号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 1' 褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。色調暗い。
- 2 褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。黄灰色見強い。
- 2' 褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。灰白色味強い。
- 3 黄褐色土 焼土ブロック、灰、炭化物を中量含む。
- 4 黄褐色土 焼土、炭化物を微量含む。
- 5 赤褐色土 酸化鉄凝集層。
- 6 褐色土 カマドの袖の崩れた部分。
- 7 褐色土 カマドの袖材。
- 8 炭化物、灰層
- 8' 炭化物、灰層
- 9 黄褐色土 焼土、炭化物を少量含む。



0 1:3 10cm

第497図 1区8面 66号住居、出土遺物(1)



第498図 1区8面 66号住居出土遺物(2)

67号住居(第499～501図 PL.121・207・208)

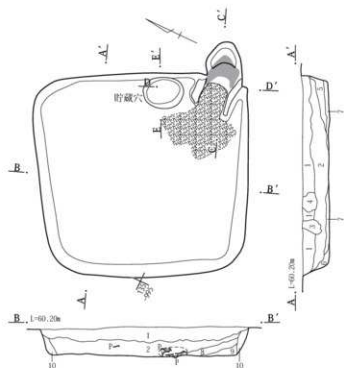
1区西側住居群内にある。他住居と重複しているものの床面は影響を受けていない。残存状態が良好である。位置：133～137・-990～-995にある。

規模形状：各辺直線的である。各隅は丸みを帯びている。西壁に対して東壁がやや長い、正方形に近い方形を呈している。主軸長3.40m、幅3.16mである。**埋没土・壁**：白灰色土及び黄褐色土ブロックを含む褐色灰色土で埋没している。埋没土の状況から人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.43mである。**方位**：N-71°-E **面積**：8.32㎡ **床面**：やや南に傾斜している。緩やかな起伏を伴うが、ほぼ平坦である。カマド内部から前部にかけて多量の灰が確認された。貯蔵穴は認められるが、柱穴の掘り込みは認められない。**掘り方**：認められない。

壁溝：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。

貯蔵穴：東壁中央直下に落ち込みが認められる。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、褐色灰色土で、

炭化物、灰の混入はほとんどない。長径0.65m、短径0.48m、深さ0.14m程である。**カマド**：東壁南東隅に位置している。全長1.24m、幅0.74m、焚口幅0.39m、燃焼部幅0.34m、煙道は壁外側に0.61m突出している。燃焼部は、住居内に確認された。火床上には、支脚の礎が据えられており、周囲に灰の分布が観察されカマド前部まで広範囲に及んでいる。支脚は、長さ0.18m、幅0.16m、厚さ0.12mである。火床から煙道にかけて焼土が確認された。カマド前部及び両袖側には、土師器片や礫が散見され、カマドを構築していた痕跡が認められる。掘り方は、火床の下に0.12m前後の窪みが認められた。埋め土は、黄褐色土と灰白色土の混土に炭化物、灰と焼土の混土層が重なり、にぶい黄褐色土と焼土・炭化物の混土層が覆っている。**重複遺構**：81号住居に後出している。**遺物**：土師器(甕4点、甗1点、杯6点、手捏ね1点) 石製品(紡輪1点) 住居全体から散在するように遺物が出土した。そのうち土器12点、石製品1点を図示した。

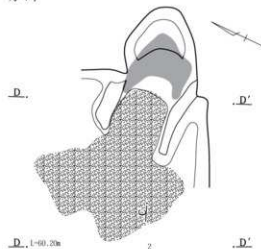


67号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。黄色味やや強い。
- 3 褐灰色土 褐灰色土ブロックを少量含む。
- 4 褐灰色土 暗褐色土ブロックを多量含む。

0 1:60 2m

カマド

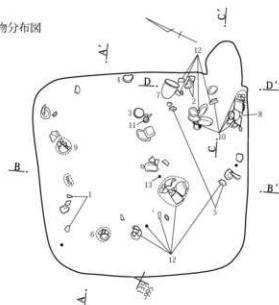


D, 1:60, 20m

67号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 黄褐色土 灰白色土小ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。
- 1' 黄褐色土 灰白色土小ブロックを微量含む。
- 2 黄褐色土 酸化鉄凝集を少量、灰白色土小ブロックを微量含む。
- 2' 黄褐色土 灰白色粘質土ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。
- 3 明黄褐色土 黄褐色土ブロック、灰白色土ブロックを少量含む。
- 4 炭化物、灰層

遺物分布図



- 5 褐灰色土 黄褐色土ブロック、褐色土ブロックを少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。灰色味強い。
- 7 にぶい黄褐色土 褐色土ブロックを少量含む。粘性強い。
- 8 黄灰色土 炭化物を稀状に多量、黄灰色土小ブロックを少量含む。
- 9 褐灰色土 黄褐色土ブロックを微量含む。灰色味強い。
- 10 褐灰色土 黄褐色土ブロックを微量含む。色調暗い。

貯蔵穴

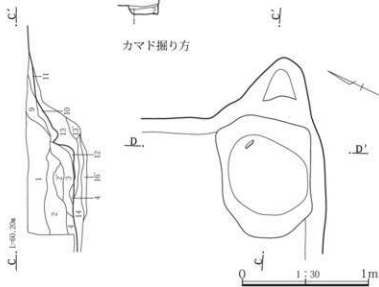
E, 1:60, 20m

67号住居貯蔵穴 E-E'

- 1 褐灰色土 灰色味強い。
- 2 褐灰色土 色調暗い。

0 1:30 1m

カマド掘り方



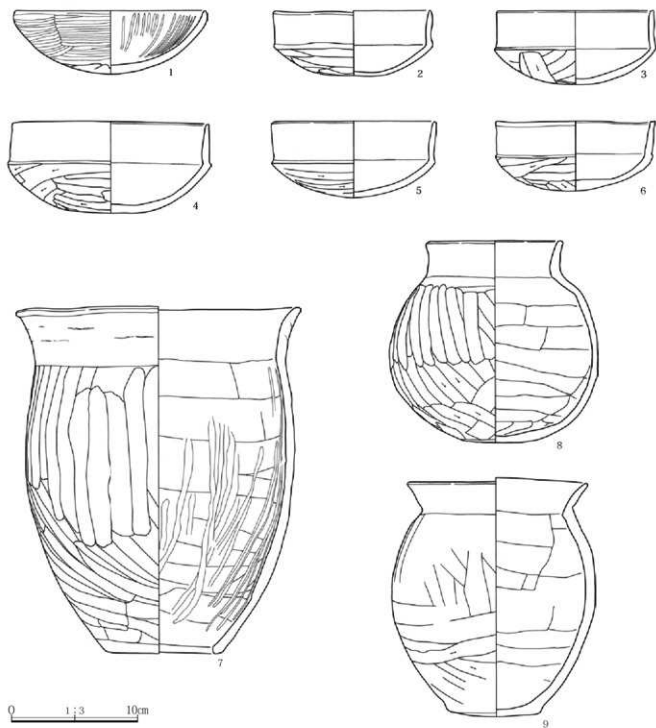
- 5 褐灰色土 粘性やや強い。袖材の崩れたものか。
- 6 にぶい黄褐色土 色調暗い。
- 7 黄褐色土 酸化鉄凝集を少量含む。色調暗い。
- 8 にぶい黄褐色土 黄色味やや強い。
- 9 褐灰色土 焼土ブロックを多量含む。
- 10 黄褐色土 焼土ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。色調暗い。
- 11 黄褐色土 褐灰色土ブロックを含む。
- 12 炭化物、灰層
- 13 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土を中量含む。
- 13' にぶい黄褐色土 焼土を多量、炭化物を中量含む。
- 14 炭化物、灰と焼土の混土層。
- 15 黄褐色土 黄色土小ブロック、灰白色土小ブロックを中量含む。
- 16 黄褐色土 灰白色土小ブロックを多量含む。灰色味強い。
- 16' 黄褐色土 灰白色土小ブロックを多量含む。黄褐色味強い。

第11章 古墳時代後期～平安時代(8面)の遺構と遺物

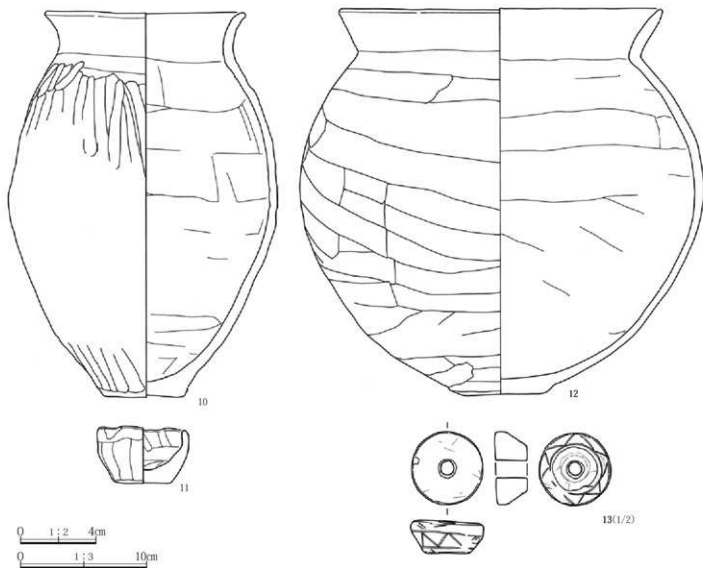
甕(12)は床上0.12～0.30mの位置から、杯(4)は床上0.09mの位置からの出土であり、本住居に伴うものであるが明瞭でない。甕(7)、杯(1・2・3・6)、甕(8・9)、手捏ね(11)、紡輪(13)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(10)、杯(5)は床直上及び0.09～0.12mと若干浮いた位置からの出土では

あるが、本体が床直上にあるため本住居に伴うものと考えられるのが自然である。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類32片、甕類134片)が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物、形状から、6世紀前半であると考えられる。図示した遺物は、埋土、床直の遺物の時期差が認められなかった。



第500図 1区8面 67号住居出土遺物(1)



第501図 1区8面 67号住居出土土遺物(2)

68号住居(第502図 PL.121)

1区西側の住居群内にある。3号溝により住居東部の床面が、54号住居により北西隅の使用面が壊されている。西部は削平が進んでいるため、全容が明らかでない。

位置：139～143・003～006にある。

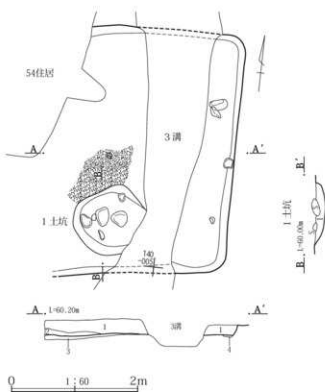
規模形状：東壁は直線的である。北壁、南壁は直線的であると思われる。全体的には、方形を呈していると推察される。長軸長3.91m、短軸長(3.03)mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質土で一気に埋没しており、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.26mである。

方位：N-6°-W 面積：(9.45)m² 床面：西に傾斜している。緩やかな起伏を伴うが、ほぼ平坦である。南部中央に1号土坑の掘り込みが見られる。埋没土は、灰、焼土粒を多く含む黄褐色シルト質土である。礫が数点出

土した。長径0.61m、短径0.51m、深さ0.08m程である。土坑の北には多量の灰及び粘土の分布が認められる。貯蔵穴、柱穴等の窠みは認められない。掘り方：住居中央部から西部にかけて認められる。埋め土は、黄褐色ブロックを含む褐灰色シルト質土である。深さは0.05m程である。壁溝：断面より東辺直下に一部痕跡が認められる。埋没土は、黄褐色ブロックを含む褐灰色シルト質土である。幅0.16m、深さ0.05m程である。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：3号溝、54号住居に前出しており、80・83号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点) 住居内土坑及び埋没土から遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)、甕(2)共に埋没土からの出土であり、本住居に伴うものである

第11章 古墳時代後期～平安時代(8面)の遺構と遺物

が明瞭でない。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類22片、甕類39片)、須恵器(甕類1片)が出土している。 **所見(帰属時期)**: 出土遺物、重複関係から、

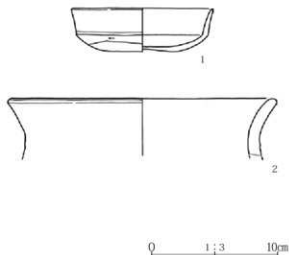


第502図 1区8面 68号住居、出土遺物

7世紀後半であると考えられる。図示した遺物は、埋土、床直の遺物の時期差が認められない。

68号住居 A-A'

- 1 褐色土 シルト質上。白褐色粘質土ブロック、炭化物を少量含む。
 - 2 褐色土 シルト質上。白褐色粘質土ブロック、褐色シルト質土ブロックを少量含む。
 - 3 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
 - 4 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 68号住居内1号土坑 B-B'
- 1 黄褐色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を中量含む。



69号住居(第503図 PL.122・208)

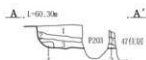
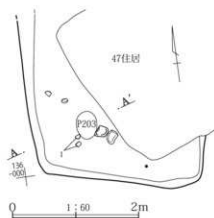
1区西側の住居群内にある。47号住居に中央から北東部にかけて床面を大きく壊されているため、全容は明らかでない。

位置: 135 ~ 138・-997 ~ -999にある。

規模形状: 西壁、南壁、東壁は直線的である。南東はやや丸みを帯びる。西壁と南壁が鈍角で交わるため、住居全体は歪んだ方形を呈していると思われる、南壁に対して北壁が長いと推察される。長軸長(2.80)m、短軸長2.75mである。 **埋没土・壁**: 黄褐色土、にぶい黄褐色土の次に褐色土が埋没している。各層黄褐色土及び灰白色土のブロックを含み、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.24mである。 **方位**: N-9°-E **面積**: (2.75)m² **床面**: 傾斜はなく平坦であると思われる。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められない。住居中央南寄りに

礫を数点出土するが本住居の施設に関連するかは明瞭でない。 **掘り方**: 認められない。 **壁溝**: 認められない。

ピット(柱穴): 認められない。 **貯蔵穴**: 認められない。 **カマド**: 認められない。 **重複遺構**: 47・31号住居、203号ピットに前出している。 **遺物**: 土師器(鉢1点) 住居南部から点在前出している。鉢(1)は床から0.09 ~ 0.10m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土もある。図示した以外に、土師器(甕類2片)が出土している。 **所見(帰属時期)**: 出土遺物から、6世紀後半であると考えられる。図示した遺物には、埋土、床直の遺物の時期差が認められない。



69号住居 A-A'

- 1 褐色土・黄褐色土・灰白色土小ブロックを少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 下層を中心に炭化物を中量含む。
- 4 黄褐色土 暗褐色土ブロックを少量含む。



第503図 1区8面 69号住居、出土遺物

70号住居 (第504～506図 PL.122・209)

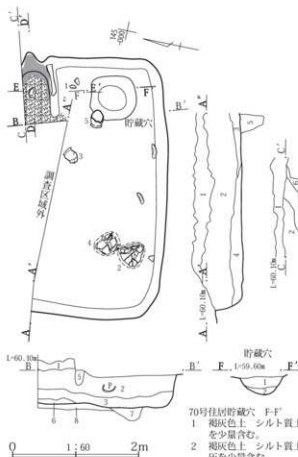
1区西側の住居群内にある。北半分が調査区域外に属するため、全容が明瞭でない。

位置：143～146・000～004にある。

規模形状：西壁、南壁、東壁はほぼ直線的だが、南東隅、南西隅は丸みを帯びている。各辺は直交しており整った

方形を呈していると思われる。主軸長4.15m、幅(3.06)mである。埋没土・壁：褐色シルト質土で埋没している。3・4層堆積の後、2層が一気に埋没しており、人為的な埋没であると思われる。壁高は0.55mである。

方位：N-70°-E 面積：(7.15)m² 床面：西にやや傾斜しているが、起伏も緩やかでほぼ平坦である。貯蔵



70号住居 A-A'

- 1 褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、白褐色粘質土ブロック、褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 3 褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、白褐色粘質土ブロック、焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 4 褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 5 褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロックを中量、白褐色粘質土ブロックを少量含む。

B-B'

- 1 褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、白褐色粘質土ブロック、褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 3 褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、白褐色粘質土ブロック、焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 4 褐色土 シルト質土。やわらかい。壁の痕か。
- 5 褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、白褐色粘質土ブロック、焼土粒を中量含む。
- 6 褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 7 褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 8 褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。

C-C'

- 1 褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。59号住居埋没土ではない。
- 2 褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、白褐色粘質土ブロック、褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 3 褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック白褐色粘質土ブロック、焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 4 褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック白褐色粘質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 5 褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック白褐色粘質土、焼土粒を中量含む。
- 6 褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。

D-D'

- 1 褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 3 褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 4 褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土粒を中量、白褐色粘質土ブロックを少量含む。

E-E'

- 1 褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量含む。

F-F'

- 1 褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 3 褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。

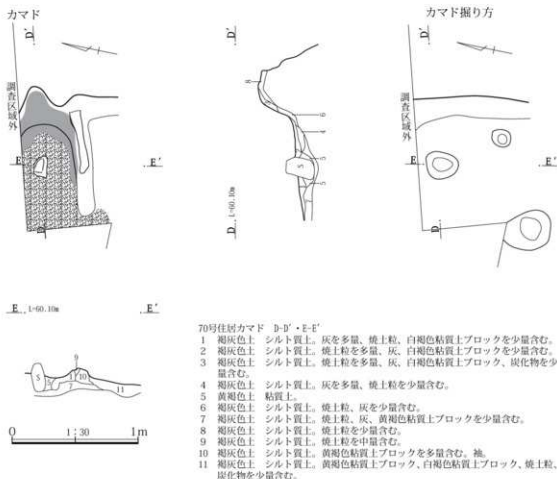
70号住居貯蔵穴 F-F'

- 1 褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量含む。

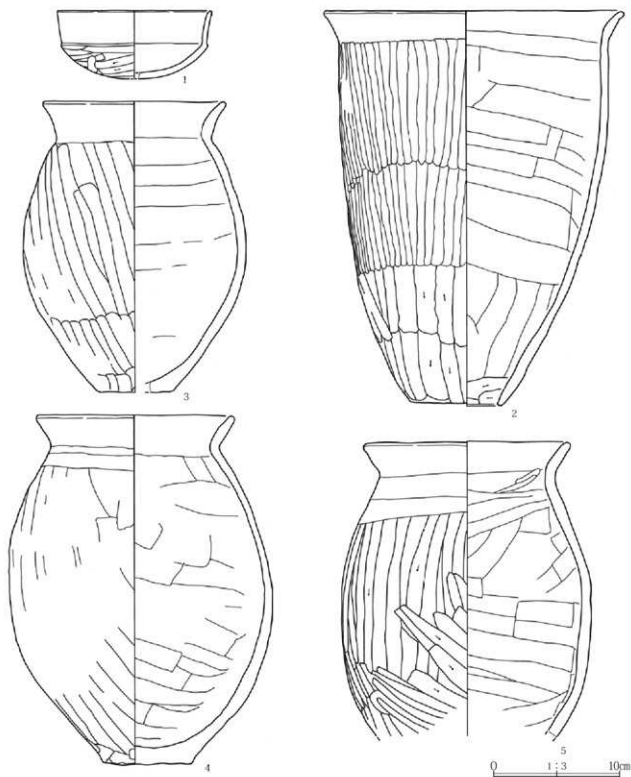
第504図 1区8面 70号住居

穴と思われる掘り込みが認められる。柱穴は認められない。掘り方：東部中央部に認められる。埋め土は、焼土粒を含む褐灰色シルト質土である。深さは、0.1m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東隅に掘り込みが認められた。位置と規模より貯蔵穴であると思われる。埋没土は、炭化物を含む褐灰色シルト質土である。長径0.70m、短径0.68m、深さ0.28m程である。カマド：東壁中央部に位置すると思われる。左袖が調査区域外にある。全長1.07m、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は確認できなかった。燃焼部は、屋内から壁際にかけて確認された。火床土には、支脚の礫が据えられており、周囲に灰及びカマド先端部に焼土を観察する。支脚は、長さ0.23m、幅0.16m、厚さ0.1mである。袖材は、粘性を持つ黄褐色ブロックを含んだ褐灰色土である。掘り方は、火

床の下に0.15m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒を含む褐灰色シルト質土であり、支脚の周囲は、黄褐色土の粘質土で固められている。重複遺構：なし 遺物：土師器(杯1点、甕3点、甕1点) 住居南部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器5点を図示した。甕(3・4)は床直上から、杯(1)は床直上、カマド及び埋没土から、甕(2)は床上0.06mの位置から出土しており、いずれも本住居に伴うものと考えるのが自然である。甕(5)は床から0.17m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類18片、甕類42片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀前半であると考えられる。図示した遺物は、埋土、床直の遺物の時期差が認められない。



第505図 1区8面 70号住居カマド



第506図 1区8面 70号住居出土遺物

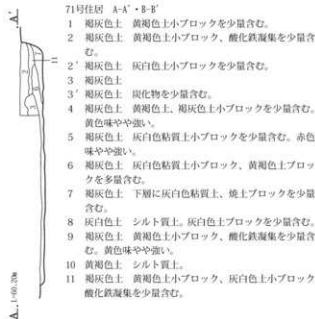
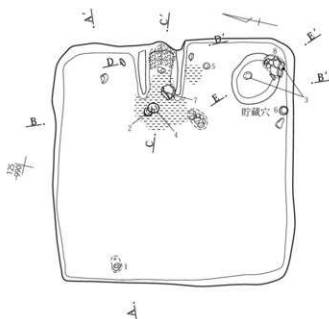
71号住居(第507・508図 PL.122・209・210)

1区西側の住居群内にある。15・49号住居と重複しているが床面は壊されていない。残存状態は明瞭でない。

位置：120～124・987～991にある。

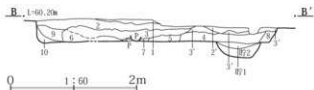
規模形状：各辺直線的であり、北東、南東、南西隅は丸

みを帯びている。ほぼ正方形を呈している。主軸長3.93m、幅3.82mである。埋没土・壁：褐灰色土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられるが、黄褐色土、白灰色土ブロックの混入及び不自然な堆積も観察され、人為的な埋戻しが行われたと思われる。壁高は0.38



71号住居 A-A'・B-B'

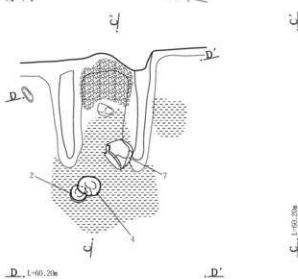
- 1 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。
- 2' 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土
- 3' 褐灰色土 炭化物を少量含む。
- 4 褐灰色土 黄褐色土、褐灰色土小ブロックを少量含む。黄色味やや強い。
- 5 褐灰色土 灰白色粘質土小ブロックを少量含む。赤色味やや強い。
- 6 褐灰色土 灰白色粘質土小ブロック、黄褐色土ブロックを多量含む。
- 7 褐灰色土 下層に灰白色粘質土、焼土ブロックを少量含む。
- 8 灰白色土 シルト質土。灰白色土ブロックを少量含む。
- 9 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。黄色味やや強い。
- 10 黄褐色土 シルト質土。
- 11 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、灰白色土小ブロック 酸化鉄凝集を少量含む。



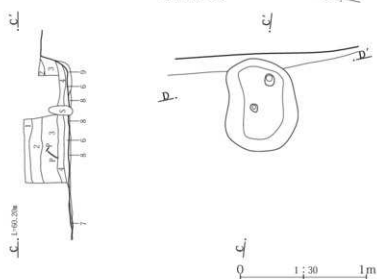
71号住居貯蔵穴 E-E'

- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロックを多量、炭化物粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。色調弱い。

カマド



カマド掘り方



71号住居カマド C-C'・D-D'

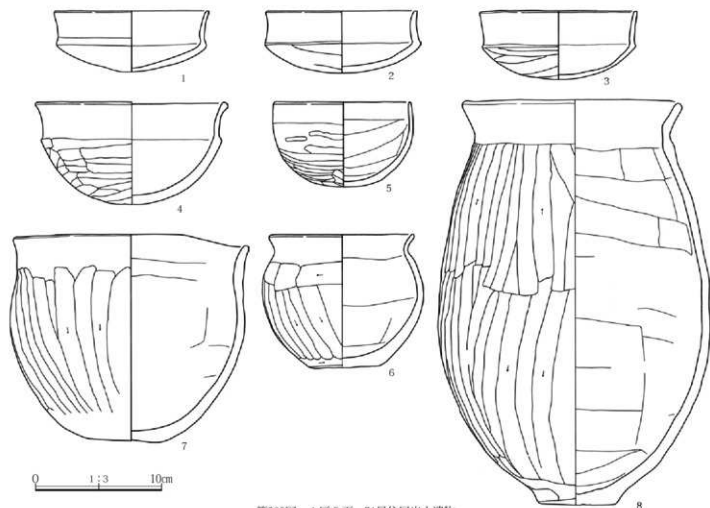
- 1 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。
- 2 褐灰色土 酸化鉄凝集、灰白色粘質土小ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、酸化鉄凝集炭化物、焼土ブロックを少量含む。
- 4 焼土ブロック
- 5 褐灰色土 黄褐色土を少量含む。黄色味やや強い。

- 6 褐灰色土 炭化物、灰を多量含む。
- 7 炭化物、灰層
- 8 におい黄褐色土 炭化物、灰を少量含む。
- 9 暗灰色土 炭化物、褐灰色粘質土ブロックを多量含む。燃焼部裏に、貼り付けたものか。
- 10 焼土ブロック
- 11 黄褐色土 灰白色粘質土小ブロック、焼土粒を少量含む。
- 12 黄褐色土 灰白色粘質土小ブロック、焼土粒を少量含む。

第507図 1区8面 71号住居

mである。方位：N-78°-E 面積：12.92㎡
 床面：北西に傾斜している。緩やかな凹凸があるがほぼ平坦である。カマド内部から前部及び右袖側に炭が観察される。貯蔵穴と思われる窪みも確認されたが、柱穴の窪みは認められない。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東隅に掘り込みが認められる。位置より貯蔵穴と思われる。埋没土は、白灰色土ブロックを含み炭化物粒が散見される褐色土である。長径0.84m、短径0.7m、深さ0.22m程である。カマド：東壁中央に位置する。全長0.94m、幅0.82m、焚口幅0.34m、燃焼部幅0.44m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、屋内から壁際にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、周囲に炭及び灰が確認された。支脚は、長さ0.19m、幅0.13m、厚さ0.08mである。右袖先端部分には土師器甕が、左袖先端部分付近には土師器杯が据えられており袖壁の構築材であると思われる。袖材は、灰白色粘質土

ブロック、焼土粒を含む黄褐色土である。掘り方は、火床の下に0.06m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、炭化物と褐色土の混土層、暗灰色土である。燃焼部奥に張り付けたものと考えられる。炭化物、灰を含むにぶい黄褐色土が、支脚の周囲を固めている。重複遺構：15・49・58号住居に前出しており76号住居に後出している。遺物：土師器(杯4点、小型甕1点、鉢2点、甕1点) カマド周辺、貯蔵穴周辺、西壁際から遺物が出土した。そのうち土器8点を図示した。杯(1・2・3・4)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(2・4)はカマド前、杯(3)は貯蔵穴からの出土である。鉢(5・7)、小型甕(6)、甕(8)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものである。甕(8)は貯蔵穴、鉢(7)はカマド使用面からの出土である。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類14片、甕類94片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀前半であると考える。



第508図 1区8面 71号住居出土遺物

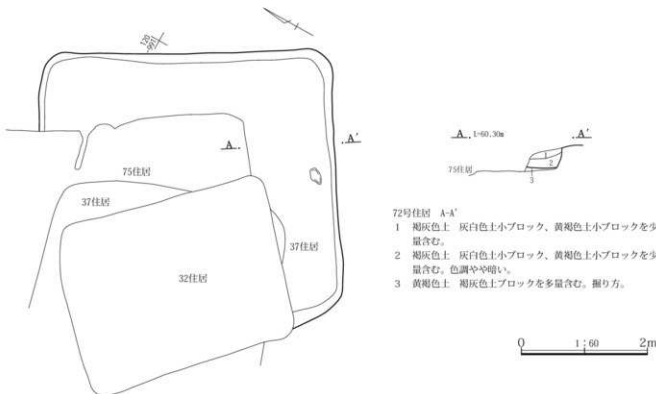
72号住居(第509図 PL.122)

1区西側の住居群内にある。32・37・75号住居と重複しており、中央部から北西部にかけて床面が大きく壊されている。全容は明らかでない。

位置：115～121・-989～-994にある。

規模形状：北壁、東壁、南壁共に直線的で、北東、南東隅は丸みを帯びている。南西隅は鈍角に交わっている。方形を呈していると思われる。長軸長4.64m、短軸長(4.56)mである。 **埋没土・壁**：褐灰色土で埋没している。確認した範囲では、壁側から埋もれている状況がみられるが、灰白色土、黄褐色土ブロックが含まれており、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.28mである。 **方位**：N-53°-E **面積**：(6.76)m² **床面**：傾斜はなく、緩やかな起伏があるがほぼ平坦であると思われる。貯蔵

穴、柱穴等の落ち込みは認められない。 **掘り方**：確認した範囲では、埋め土は、黄褐色土と褐灰色土の混土层であり、深さは、0.07m程度である。 **壁溝**：認められない。 **ピット(柱穴)**：認められない。 **貯蔵穴**：認められない。 **カマド**：認められない。 **重複遺構**：32・37・75号住居に前出している。55・73号住居に後出している。 **遺物**：土師器(杯類2片、甕類4片)が出土している。また、32・37・55・73・75号住居と共通して土師器(杯類54片、甕類225片)、不明土器1点を出土している。図示できる遺物が得られなかった。 **所見(帰属時期)**：出土遺物は破片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。重複関係と土器片から、6世紀代であると考えられるが、時期決定の資料に欠ける。



第509図 1区8面 72号住居

73号住居(第510・511図 PL.123・210)

1区西側の住居群内にある。32・37・72号住居と重複していたため、住居北部が大きく壊されている。南壁付近が調査区域外にあり全容が明らかでない。

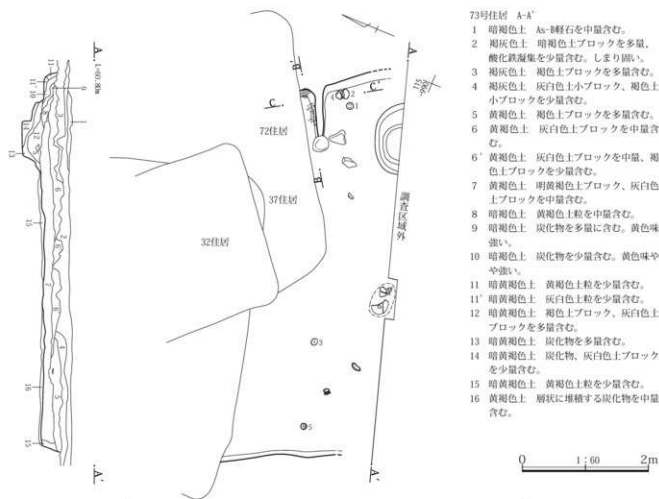
位置：113～116・-990～-996にある。

規模形状：東壁、西壁共に歪んでいる。全体としては、方形を呈していると思われる。主軸長5.87m、幅(1.8)

mである。 **埋没土・壁**：壁際に暗黄褐色土が流入した後、黄褐色土が堆積している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高0.17mである。

方位：N-67°-E **面積**：(9.56)m² **床面**：傾斜はなく平坦である。貯蔵穴は南壁より確認できた。柱穴は認められなかった。 **掘り方**：ほぼ全面に確認できた。埋め土は、炭化物が層状に堆積しており、黄褐色土との混

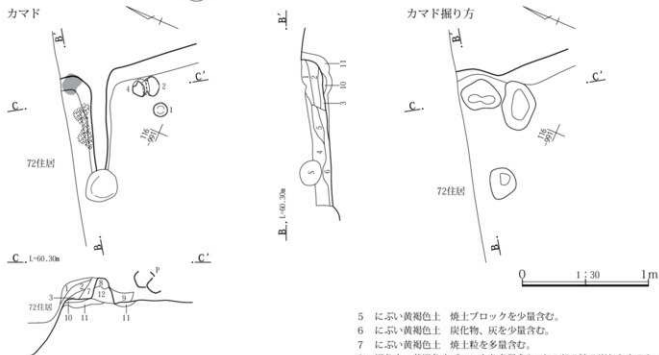
2 1区の遺構と遺物



73号住居 A-A'

- 1 暗褐色土 As-B軽石を中量含む。
- 2 褐色土 暗褐色土ブロックを多量、酸化鉄凝集を少量含む。しまり強い。
- 3 褐色土 褐色土ブロックを多量含む。
- 4 褐色土 灰白色土小ブロック、褐色土小ブロックを少量含む。
- 5 黄褐色土 褐色土ブロックを多量含む。
- 6 黄褐色土 灰白色土ブロックを中量含む。
- 6' 黄褐色土 灰白色土ブロックを中量、褐色土ブロックを少量含む。
- 7 黄褐色土 明黄褐色土ブロック、灰白色土ブロックを中量含む。
- 8 暗褐色土 黄褐色土粒を中量含む。
- 9 暗褐色土 炭化物を多量に含む。黄色味強い。
- 10 暗褐色土 炭化物を少量含む。黄色味やや強い。
- 11 暗黄褐色土 黄褐色土粒を少量含む。
- 11' 暗黄褐色土 灰白色土粒を少量含む。
- 12 暗黄褐色土 褐色土ブロック、灰白色土ブロックを多量含む。
- 13 暗黄褐色土 炭化物を多量含む。
- 14 暗黄褐色土 炭化物、灰白色土ブロックを少量含む。
- 15 暗黄褐色土 黄褐色土粒を少量含む。
- 16 黄褐色土 層状に堆積する炭化物を中量含む。

0 1:60 2m



73号住居カマド B-B'・C-C'

- 1 暗褐色土 焼土小ブロック、砂粒、黄褐色土ブロックを中量含む。
- 2 焼土ブロック
- 3 炭化物、灰刷
- 4 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロック、褐色土ブロックを中量含む。

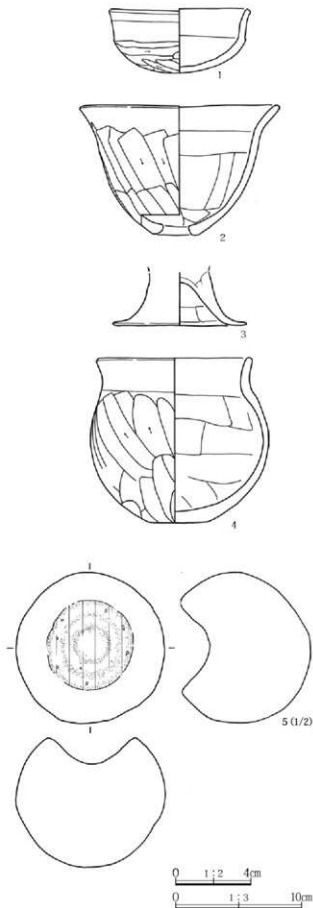
- 5 にぶい黄褐色土 焼土ブロックを少量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 炭化物、灰を少量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 焼土粒を多量含む。
- 8 褐色土 黄褐色土ブロックを多量含む。カマドの袖の崩れたものか。
- 9 褐色土 黄褐色土、焼土、炭化物を少量含む。粘性やや強い。黒色味強い。カマド袖の崩れたものか。
- 10 にぶい黄褐色土 焼土を少量含む。
- 11 褐色土 焼土を多量、炭化物を少量含む。
- 12 暗褐色土 黄褐色土粒を少量含む。しまり強い。カマドの袖。

0 1:30 1m

第510図 1区8面 73号住居

土層である。深さは、0.04～0.08mである。壁溝：認められない。ビット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：断面より、住居南東隅に確認できる。規模と位置より貯蔵穴と思われる。埋没土は、暗黄褐色土である。灰白色土ブロック、炭化物を含む。二重構造になっており、蓋のついた貯蔵穴であったと思われる。外形長径1.14m、内径長径0.65m、外形短径不明 内形短径不明、外形深さ0.18m、内径深さ0.14m、合計深さ0.32mである。

カマド：東壁に位置していると思われる。左袖を含めて半分が72号住居に前出している。現存全長1.02m、現存幅0.38m、焚口幅不明、燃焼部不明、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、右側に灰、先端部に焼土が確認される。右袖先端部には丸礫が据えられており袖壁を構築している。袖石は、長さ0.27m、幅0.24m、厚さ0.17mである。袖材は、暗茶褐色土に褐色土と黄褐色土の混土を載せたものである。右袖脇に土師器甕が出土しており、カマド構築に関連したものであると思われる。掘り方は、火床の下に0.07m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、灰、焼土及び炭化物を含む褐色土である。重複遺構：32・37・55・72・75号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点、甕1点、台付甕1点)、礫石器(凹石1点) カマド周辺及び南西部から遺物が出土した。そのうち土器4点、礫石器1点を図示した。杯(1)、甕(2)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(4)、台付甕(3)、凹石(5)は床から0.07～0.10m程浮いた位置から出土した。これらが本住居に伴う出土であるか明瞭でない。円礫の出土もあった。図示した以外に、土師器(杯類41片、甕類159片)、須恵器(甕類3片)が出土している。また、32・37・55・72・75号住居と共通して土師器(杯類54片、甕類225片)、不明土器1点を出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀代であると考えられる。図示した遺物においては、埋土、床直の時期差が認められない。図示した遺物においては、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。



第511図 1区8面 73号住居出土遺物

74号住居(第512・513図 PL.123)

1区西側の住居群内にある。30号住居と重複しているが、床面は壊されていない。残存状態は良好でない。

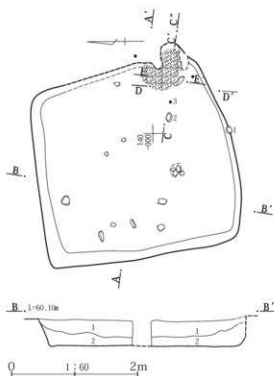
位置：138～141・998～002にある。

規模形状：北壁、東壁、西壁がほぼ直線である。南壁は外に向けて若干丸みを帯びている。北壁に対して南壁がやや長い。歪んだ方形を呈している。主軸長3.18m、幅2.79mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.46mである。方位：N-75°-E

面積：(7.50)㎡ 床面：東にやや傾斜している。多少の起伏を伴い、ほぼ直線的である。カマド内部から左袖壁前部にかけて多量の灰の分布が見られる。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁南東隅に位置する。カマド全体の崩れが大きく明瞭な観察とはならなかった。全長0.45m、幅0.58m、焚口幅0.28m、燃焼部幅0.29

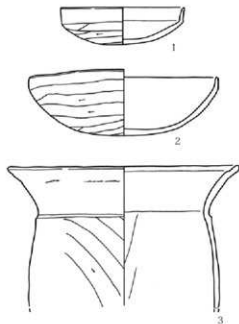
m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、屋内から屋外にかけて確認された。火床上からカマド前部にかけて灰の分布が顕著であった。右袖先端部付近から礫が観察され、袖石として焚口を構築していたであろうと推定される。袖材は、褐灰色シルト質土と思われる。袖石は、長さ0.29m、幅0.21m、厚さ0.07mである。掘り方は、煙道部分に落ち込みを認める。かつては煙道があったと推察される。

重複遺構：30号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、甕1点) 住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(2)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1)は住居南壁から、甕(3)は床直上及び埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られる。図示した以外に、土師器(杯類75片、甕類149片)、須恵器(杯類3片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、7世紀後半であると考え。図示した遺物において、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。



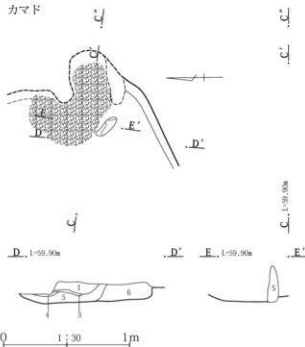
74号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 2 褐褐色シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 褐褐色シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、灰を少量含む。

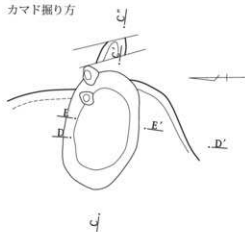


第512図 1区8面 74号住居、出土遺物

カマド



カマド掘り方



74号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質上。灰を中量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。

第513図 1区8面 74号住居カマド

75号住居(第514・515図 PL.123・210)

1区西側の住居群内にある。32・37住居と重複しており、中央部から南西部にかけて床面が大きく壊されている。全容は明瞭でない。

位置：117～122・-991～-997にある。

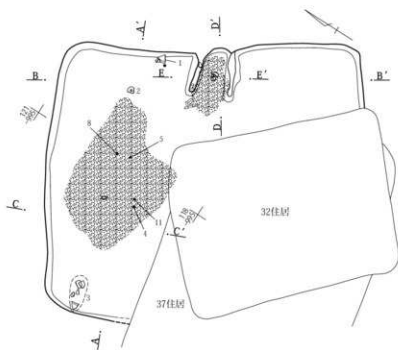
規模形状：北壁は、外に向け張り出している。東壁は、北半分が内側に、南半分が外側に曲線を描いている。西壁は、直線的である。北西・北東隅は、丸みを帯びている。南北にやや長い長方形を呈している。主軸長4.33m、幅4.46mである。**埋没土・壁**：壁側から暗褐色土が埋もれ、その後黄褐色土が埋没している状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.28mである。**方位**：N-65°-E **面積**：(10.57)㎡ **床面**：東にやや傾斜している。わずかな起伏を伴い、ほぼ平坦である。北部中央に広範囲にわたって灰の分布が確認された。この範囲から白玉の出土が4例あった。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できない。**掘り方**：認められない。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：東壁中央部分に位置している。全長0.84m、幅0.83m、焚口幅0.45m、燃焼部幅0.42m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、屋内から屋外にかけて確認された。火床上には、支脚の礎が据えられてお

り、周囲に土師器片が確認された。支脚は、長さ不明、幅0.08m、厚さ0.07mである。カマド内は灰の分布が顕著であった。袖材は、粘質土の黄褐色土と褐灰色土の混土である。左袖先端部分付近に、黄褐色粘質土が観察され、袖表面を構築していた部材であると推察される。掘り方は、火床の下に0.07m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、炭化物を含んだ灰層及び、焼土、炭化物を含んだ黄褐色土である。**重複遺構**：32・37号住居前出し、55・72・73号住居に後出している。**遺物**：土師器(杯1点、高杯1点、甕1点) 石製品(白玉8点) 住居北部を中心に点在するように遺物が出土した。そのうち土器3点、石製品8点を図示した。杯(1)、高杯(2)、甕(3)及び白玉(4・5・8・11)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。白玉は、住居北部中央の灰が多量に分布した位置より出土した。残りの白玉(6・7・9・10)は床面掘削土から篩にかけて抽出したものである。図示した以外に、土師器(杯類4片、甕類20片)が出土している。また、35・37・55・72・73号住居と共通して土師器(杯類54片、甕類225片)、不明土器1点を出土している。**所見(帰属時期)**：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。

2 1区の遺構と遺物

75号住居 A-A'・B-B'・C-C'

- 1 黄褐色土 黄褐色土小ブロックを多量、暗灰白色土小ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 灰白色土ブロック、黄褐色土小ブロックを多量含む。白色味強い。
- 3 黄褐色土 下層を中心に炭化物を多量含む。
- 4 暗褐色土 黄褐色土を少量含む。灰色味や強い。色調暗い。
- 5 黄褐色土 褐灰色土ブロックを多量含む。
- 6 黄褐色土 粘質土。褐灰色土ブロックを中量含む。袖材。
- 7 黄褐色土 黄褐色土ブロック、下層に炭化物を少量含む。



37号住居

A-A' 1/60.30m

0 1/60 2m

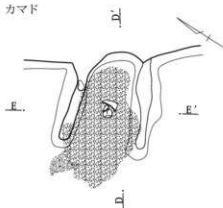
B-B' 1/60.30m



C-C' 1/60.30m



カマド

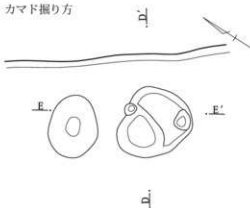


E-E' 1/60.10m



D-D' 1/60.10m

カマド掘り方



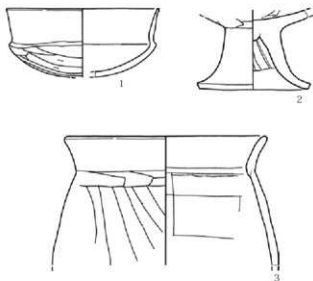
0 1/30 1m

75号住居カマド D-D'・E-E'

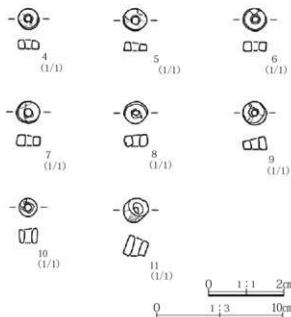
- 1 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量含む。
- 1' 褐灰色土
- 1'' 褐灰色土 ブロック状に混入。
- 2 黄褐色土 焼土ブロックを多量含む。
- 3 炭化物、灰層

- 4 黄褐色土 粘質土。褐灰色土ブロックを中量含む。袖材
- 5 褐灰色土 炭化物を多量含む。
- 6 黄褐色土 黄褐色土ブロック、下層に炭化物を少量含む。
- 7 炭化物、灰層
- 8 黄褐色土 焼土ブロック、炭化物を多量含む。
- 9 炭化物、灰層
- 10 黄褐色土 焼土、炭化物を少量含む。
- 11 黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 12 黄褐色土 焼土、炭化物を少量含む。
- 13 褐灰色土 黄褐色土ブロックを少量含む。

第514図 1区8面 75号住居



第515図 1区8面 75号住居出土遺物



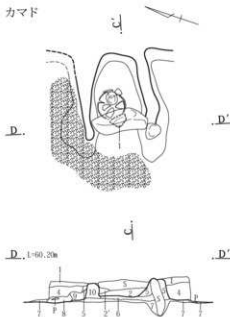
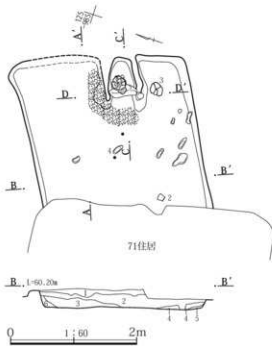
76号住居(第516図 PL.123・124・210)

1区西側の住居群内にある。71号住居と重複しており、西壁付近の床面を壊されている。南部は15号住居と重複しているが、床面は影響を受けていない。全容は明瞭でない。

位置：122～125・-985～-988にある。

規模形状：北壁、南壁は直線的で平行である。東壁は、外に向かって、丸みを帯びている。北東隅は鋭角で交わり、やや歪んだ方形を呈している。主軸長(2.43)m、幅2.63mである。 **埋没土・壁**：褐灰色シルト質土が壁側から埋もれており、その後いぶい黄褐色シルト質土が埋没している。鉄分凝集粒もみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.26mである。 **方位**：N-73°-E **面積**：(5.69)㎡ **床面**：南西にやや傾斜している。わずかな起伏を伴い、ほぼ平坦である。カマド前部及び左袖側に灰が分布している。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できない。住居周縁部近くの床直上及び多少浮いた高さから、長さ0.12～0.28m程度の細長い自然石7点が散在して出土した。磨礪石と推察される。 **掘り方**：認められない。 **壁溝**：認められない。 **ピット(柱穴)**：認められない。 **貯蔵穴**：認められない。 **カマド**：東壁中央部やや南に位置する。全長0.86m、幅0.74m、焚口幅0.37m、燃焼部幅0.35m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、屋内から壁際にかけて確認された。火床上には、支

脚の礎が据えられており、土器器裏が覆っていた。支脚は、長さ不明、幅0.1m、厚さ0.09mである。左袖側に灰の分布が見られた。右袖先端部分には袖石が据えられており、基礎を、灰白色土ブロックを含む黄褐色土で固められていた。右袖石は、長さ0.31m、幅0.13m、厚さ0.12mである。また、焚口天井部分の構築材であったと思われる長さ0.46m、幅0.18m、厚さ0.07mの平たい礎が、焚口部から袖石が支えるように床から浮いた状態で出土した。これらの部材で焚口が構成されていたと思われる。袖材は、左袖が粘性のある黒褐色土、右袖が粘性のある暗褐色土である。掘り方は、火床の下に0.04m前後の窪みが認められた。埋め土は、黄褐色土を、炭化物を含む灰層が覆っていた。 **重複遺構**：15・71号住居に前出している。1号竪穴と重複している。 **遺物**：土器器(杯1点、埴1点、甕1点)、石製品(砥石1点) カマド内及び住居中央から南部にかけて散在するように遺物が出土した。そのうち土器3点、石製品1点を図示した。杯(1)、埴(2)、甕(3)、砥石(4)共に床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。杯(1)はカマド使用面からの出土である。円礎の出土が見られ、磨礪石と思われる礎が観察された。図示した以外に、土器器(杯類15片、甕類17片)が出土している。 **所見(帰属時期)**：出土遺物から、6世紀前半であると考

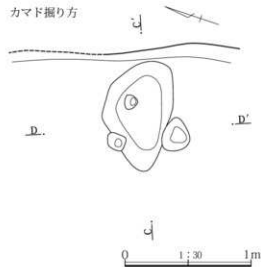


76号住居 A-A'・B-B'

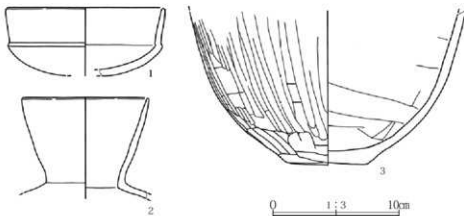
- 1 にふい黄褐色土 シルト質土。灰白色土小ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。
- 2 にふい黄褐色土 シルト質土。灰白色土小ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。しまり固い。色調やや暗い。
- 3 にふい黄褐色土 シルト質土。灰白色土、黄褐色土小ブロック、下層に炭化物を少量含む。
- 4 にふい黄褐色土 シルト質土。炭化物を多量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。黄褐色土ブロックを少量含む。黄色味やや強い。
- 6 褐灰色土 シルト質土。黄褐色土ブロックを少量含む。黒色味強い。

76号住居カマド C-C'・D-D'

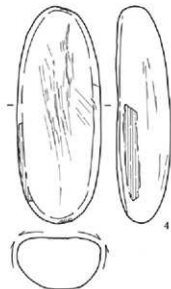
- 1 黄褐色土 灰白色土小ブロック、下層に炭化物を少量含む。
- 2 にふい黄褐色土 炭化物、焼土を多量、黄褐色土小ブロックを中量含む。
- 2' にふい黄褐色土 炭化物を少量含む。ブロック状に混入。
- 3 黄褐色土
- 4 黄褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 5 暗褐色土 粘性やや強い。カマド袖材が崩れたもの。
- 6 炭化物、灰層
- 7 黄褐色土 灰白色土ブロックを少量含む。
- 8 炭化物層
- 9 黄褐色土 炭化物を微量含む。
- 10 黒褐色土 褐色土粒を微量含む。粘性強い。カマド袖材。



C, C'



0 1:3 10cm



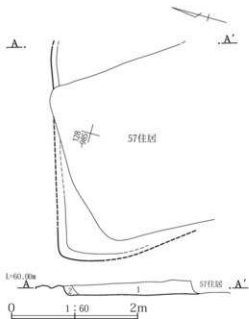
第516図 1区8面 76号住居、出土遺物

77号住居(第517図 PL.124)

1区西側の住居群内にある。57号住居に中央部分の使用面を大きく壊されているため、全容が明らかでない。位置：125～128・-983～-986にある。

規模形状：北壁は直線的であると思われる。西壁は、外側に向け丸みを帯びていると思われる。歪んだ方形を呈していると推定されるが、全容は明らかでない。長軸長(3.41)m、短軸長(2.04)mである。埋没土・壁：にぶい黄橙色シルト質土で埋没している。一気に埋もれている状況がみられ、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.18mである。方位：N-71°-E 面積：(1.38)㎡ 床面：傾斜はほぼない。起伏もなく平坦である。灰等の分布、貯蔵穴、柱穴等の有無は明らかでない。

掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：不明 重複遺構：57号住居に前出している。1号竪穴、48号住居と重複している。遺物：土師器(甕類5片)が出土している。図示できる遺物は得られなかった。所見(帰属時期)：出土遺物は破片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。重複関係と土器片より、6世紀代から7世紀代であると考えられるが、時期決定の資料に欠けている。



77号住居 A-A'

- 1 にぶい黄橙色土 シルト質土。酸化鉄混集を少量含む。
- 2 にぶい黄橙色土 黄色味強い。

第517図 1区8面 77号住居

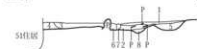
78号住居(第518・519図 PL.124・210)

1区西側の住居群内にある。51号住居により北壁付近が壊されている。住居本体は削平されており全容は明らかでない。東部の一部及びカマドのみの調査となった。位置：137～140・-985～-987にある。

規模形状：東壁は直線的であり方形を呈していると推定される。主軸長(0.53)m、幅(2.25)mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色土で埋没している。自然堆積であるかは、明瞭でない。壁高は0.24mである。方位：N-70°-E 面積：(0.76)㎡ 床面：北に傾斜している。平坦であるが、全容は明らかでない。掘り方：認められなかった。壁溝：不明 ピット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：東壁の南東隅に位置すると思われる。全長1.92m、幅0.97m、焚口幅0.41m、燃焼部幅0.45m、煙道は壁外側に1.35m突出している。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、土師器裏片が出土した。また、先端部分には灰の分布が見られた。両袖先端部分には、倒置した土師器甕が据えられており、これらの部材で焚口が構築されていたと思われる。袖材は、混入物の見られない褐色土で、地山を掘り残して袖を作っている。掘り方は、火床の下に0.08m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、炭化物を含んだ灰層である。重複遺構：51号住居に前出しており、55号溝、130号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕2点) カマド周辺から集中して遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。甕(2・3)はカマド袖材を構築しており、確実に本住居に伴うものと考えられる。杯(1)は床から0.10m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類10片、甕類26片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、7世前半であると考えられる。図示した遺物において、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。



A, 1:60.40m

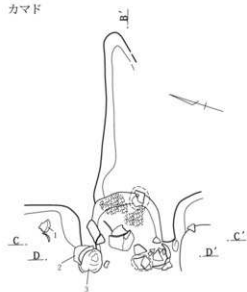


0 1:60 2m

78号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 炭化物、焼土を少量含む。
- 2 炭化物、灰、焼土の混入層。
- 3 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 灰黄褐色味強い。
- 5 にぶい黄褐色土 炭化物を多量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土を少量含む。
- 7 暗灰黄色土 ブロック状に混入。
- 8 暗灰黄色土 カマド掘り方。

カマド



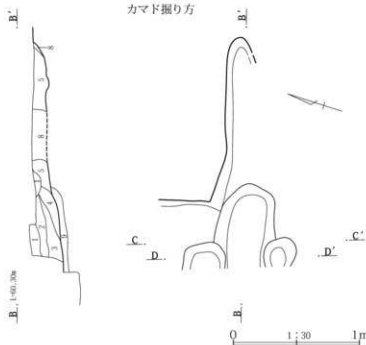
C, 1:60.30m



D, 1:60.30m



カマド掘り方



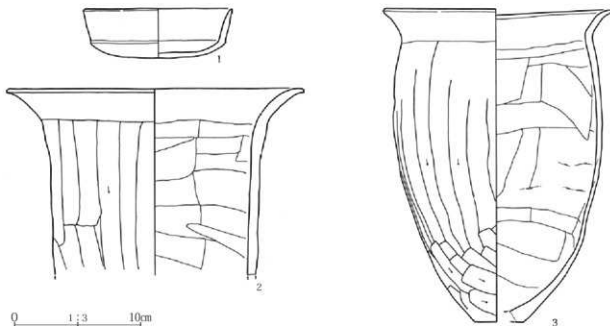
B, 1:60.30m

B, 1:30

0 1:30 1m

78号住居カマド B-B'・C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 灰白色土ブロックを微量含む。
- 3 褐灰色土 焼土ブロック、炭化物を少量含む。
- 4 褐灰色土 焼土ブロック、炭化物、灰を中量含む。
- 5 褐灰色土 焼土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 炭化物を少量含む。
- 6' 褐灰色土 炭化物、焼土を少量含む。
- 7 褐灰色土 炭化物を多量含む。
- 8 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。
- 9 炭化物、灰層
- 10 にぶい黄褐色土 地山に近いが、色調やや暗い。



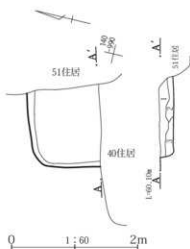
第519図 1区8面 78号住居出土遺物

79号住居(第520図 PL.124)

1区西側の住居群内にある。40・51号住居により床面を大きく壊されており北西隅のみの調査となった。全容は明らかでない。

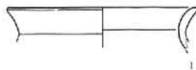
位置：139～141・-990～-991にある。規模形状：西壁は直線的であり、北壁は丸みを帯びていると思われる。各辺は直交しており、全体は方形であると思われる。長軸長(1.25)m、短軸長(1.14)mである。埋没土・壁：壁側からにぶい黄褐色土が埋もれて、その後、黄褐色土及び褐灰色土が埋没している。確認した範囲だけでは、自然堆積であるか明瞭でない。壁高は0.21mである。

方位：N-18°-W 面積：(1.20)㎡ 床面：東にやや傾斜しており平坦であると思われるが、全容は明らかでない。掘り方：認められない。壁溝：不明 ビット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：不明 重複遺構：40・51号住居に前出している。遺物：土師器(甕1点) 住居北西隅から遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。甕(1)は埋没土から出土したものであり、本住居に伴うものか明瞭でない。図示した以外に、須恵器(裏類1片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物は6世紀後半から7世紀のものであるが、流入したものと推察でき、重複から6世紀前半であると考えられる。



79号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 暗褐色土ブロックを少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロック、暗褐色土ブロックを中量含む。

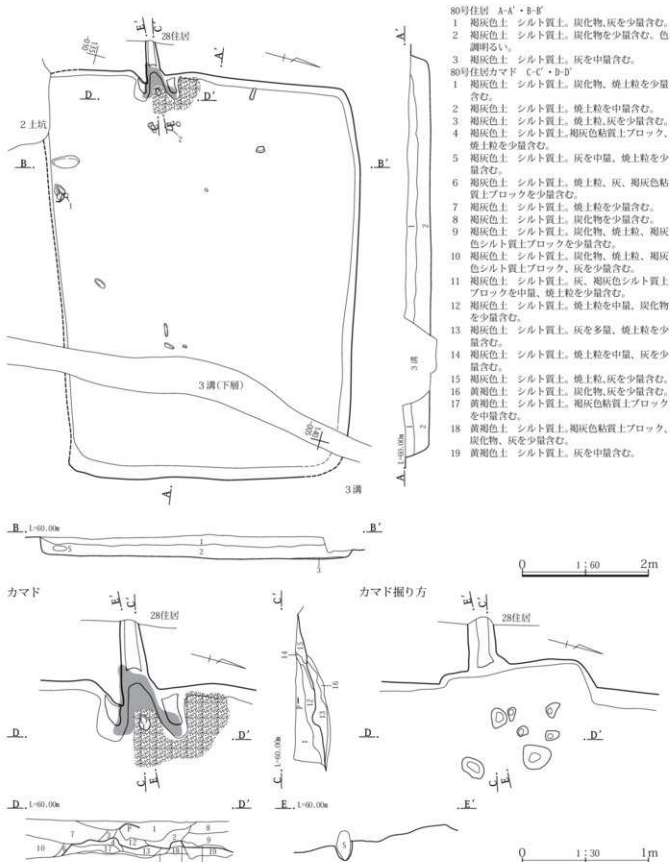


第520図 1区8面 79号住居、出土遺物

80号住居(第521・522図 PL.124・210)

1区西側の住居群内にある。3号溝(下層)により、住

居東部を南北に貫いて床面を壊されている。36・83号住居が重複しているが、床面は壊されていない。残存状態



第521図 1区8面 80号住居

は良好でない。

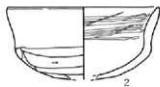
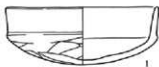
位置：134～140・-003～-010にある。

規模形状：各辺直線的である。南壁に対して北壁が、西壁に対して東壁がそれぞれ長い。東西に長い長方形を呈している。主軸長6.50m、幅(4.58)mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.38mである。方位：N-70°-E 面積：(14.61)㎡

床面：北に傾斜している。起伏はなく平坦である。カマド前部及び右袖側に灰の分布が見られる。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できない。掘り方：認められない。

壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。

貯蔵穴：認められない。カマド：西辺中央部南寄りに位置している。煙道先端が28号住居に壊されている。現存全長0.96m、幅0.68m、焚口幅0.36m、燃焼部幅0.25m、煙道は壁外側に現存の範囲で0.51m突出している。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、支脚の礎が据えられており、周囲に灰の分布が確認された。支脚は、長さ0.24m、幅0.11m、厚さ0.08m



3(1/2)



第522図 1区8面 80号住居出土遺物

81号住居(第523・524図 PL.124・125)

1区西側の住居群内にある。40・67号住居により、南東部及び南部の壁付近の床面が壊されている。全容は明らかでない。

位置：136～42・-991～-995にある。

規模形状：西壁、北壁は直線的である。南北に長い長方形を呈していると思われる。長軸長(5.55)m、短軸長(4.09)mである。埋没土・壁：黄褐色土及びにぶい黄褐色土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.41mである。

方位：N-10°-W 面積：(19.68)㎡ 床面：北に傾斜している。わずかな起伏があるが平坦といえる。カマドから中央にかけて広範囲にわたって灰の分布がみられた。貯蔵穴はカマドの左右に1つずつあり、柱穴は確認

である。火床先端部から煙道にかけては焼土の分布が観察された。よく使用されていたカマドであると推察される。袖材は、黄褐色シルト質土を褐灰色シルト質土が覆っている。掘り方は、火床の下に0.1m前後の窪みが認められた。埋没土は、炭化物、灰を含む黄褐色シルト質土を灰、焼土を含む褐灰色シルト質土が覆っている。重複遺構：3号溝(下層)、2号土坑、28・38・68・83号住居に前出している。遺物：土師器(杯2点)、土製品(白玉1点) カマド周辺及び住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器2点、土製品1点を図示した。杯(1)は床直上及び埋没土から、杯(2)は床から0.11m程浮いた位置から出土した。これらは本住居に伴うものであるか明瞭でない。白玉(3)の出土が確認された。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類23片、甕類88片)、須恵器(甕類1片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀前半であると考える。図示した遺物において、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。

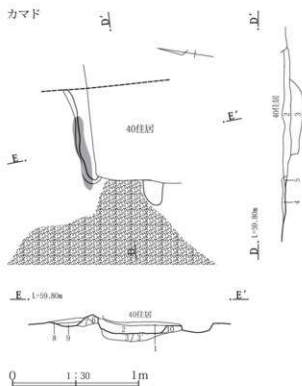
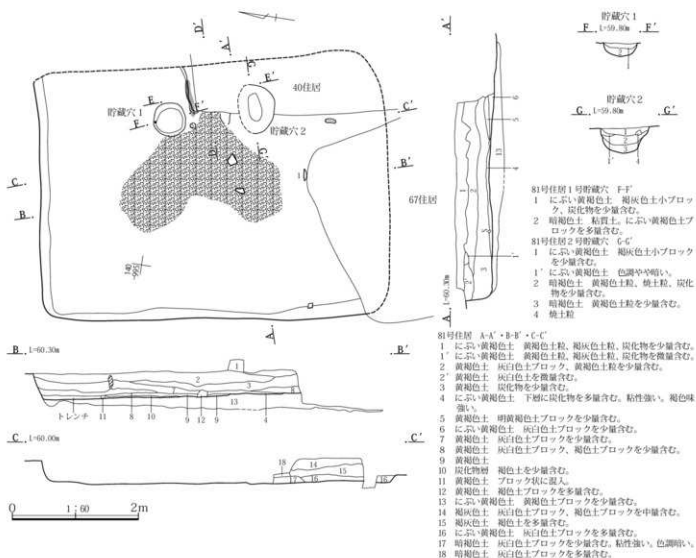
できなかった。掘り方：ほぼ全面にわたっている。埋め土は、黄褐色土ブロックを含んだにぶい黄褐色土である。南にいくほど深く、深さは、0.08～0.22m程である。

壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。

貯蔵穴：カマド両袖壁の外側に2つの落ち込みが認められた。位置からして、双方とも貯蔵穴であると思われる。貯蔵穴1の埋没土は、暗褐色土をにぶい黄褐色土が覆っている。長径0.54m、短径0.52m、深さ0.2mである。貯蔵穴2の埋没土は、暗褐色土の上を、焼土粒を含んだにぶい黄褐色土が覆っている。長径0.78m、短径0.58m、深さ0.38mである。住居の埋没土と類似した土で埋没しているため、住居使用時に開口していたと思われる。

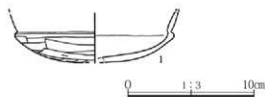
カマド：東壁中央部に位置している。40号住居に後出されているため、削平がすすんでいる。全長不明、幅不明、

2 1区の遺構と遺物



第523図 1区8面 81号住居

焚口幅不明、燃焼部幅0.54m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、屋内から屋外にかけてであると推察される。左袖先端部付近には、焼土が観察できる。袖材は、右袖が黄褐色土を含む褐灰色土で左袖が粘性のあるにぶい黄褐色土及び暗茶褐色土との混土である。掘り方は、火床の下に0.08m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、焼土を含むにぶい黄褐色土と炭化物の混土層である。重複遺構：40・47・67号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点) カマド周辺から住居中央にかけて点在するように遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は床から0.12m程浮いた位置から出土しており、時期から本住居に伴うものでない。図示した以外に、土師器(杯類28片、甕類73片)、須恵器(杯類1片)が出土している。所見(帰属時期)：出土土器は6世紀中頃を示しているが、流入したものであると推察され、重複から6世紀前半であると考えられる。



第524図 1区8面 81号住居出土遺物

82号住居(第525・526図 PL.125)

1区西側の住居群内にある。22・53号住居により床面を大きく壊されており、東壁付近のみの調査となった。全容は明らかでない。

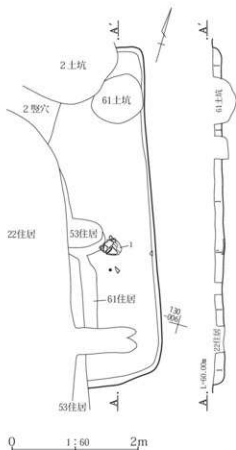
位置：128～134・-006～-008にある。

規模形状：東壁は直線的である。わずかに認められた北壁と直交しており、方形を呈していると思われる。長軸長(5.37)m、短軸長(1.35)mである。埋没土・壁：焼土粒、炭化物を含む黄褐色シルト質土で一気に埋没している。人為的な埋戻しであると推察される。壁高は0.15mである。方位：N-21°-W 面積：(5.56)m² 床面：傾斜はない。緩やかな起伏があるが、ほぼ平坦である。灰等の分布は認められなかった。貯蔵穴、柱穴等の窺みは確認できなかった。掘り方：認められなかった。

壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。

貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。

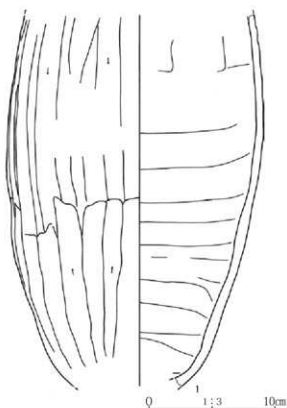
重複遺構：2・61号土坑、14・22・53号住居に前出している。遺物：土師器(甕1点) 住居東壁際から遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。甕(1)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。川原石状の礫の出土は見られなかった。図示した以外に、土師器(杯類8片、甕類2片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半であるとする。



82号住居 A-A'

1 黄褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。

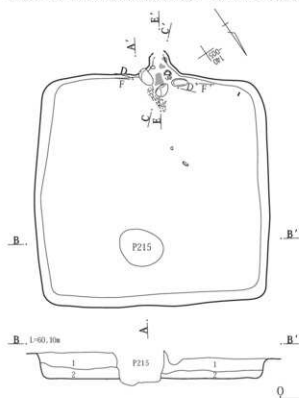
第525図 1区8面 82号住居



第526図 1区8面 82号住居出土遺物

83号住居(第527・528図 PL.125)

1区西側の住居群内にある。3号溝、68・80号住居と重複しているが、床面は影響を受けていない。残存状態



第527図 1区8面 83号住居、出土遺物

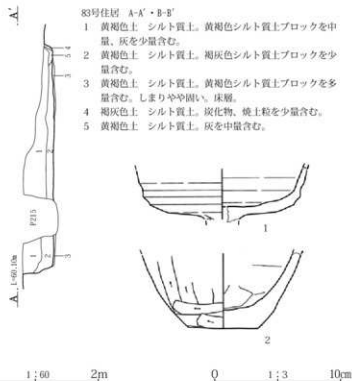
は良好でない。

位置：139～142・001～006にある。

規模形状：各辺外側にやや丸みを帯びている。各辺の長さはほぼ等しく正方形に近い方形を呈している。主軸長3.73m、幅3.51mである。埋没土・壁：黄褐色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。北東隅のみ人為的な埋没であると思われる。壁高は0.47mである。方位：N-17°-E 面積：11.22㎡ 床面：わずかに北東に傾斜している。多少の起伏があるがほぼ平坦である。カマド前部に灰を認める。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できなかった。掘り方：西辺、東辺から中央に向けて見られる。埋め土は、シルト質土ブロックを含んだ黄褐色土で締まりが強い。深さは、0.04m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央部に位置する。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃燒部幅不明、煙道は確認できなかった。燃燒部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、周囲に土師器片が確認された。支脚は、長さ0.33m、幅0.15m、厚さ0.11mである。焼土及び灰も観察され、よく使われたカマドである。両右袖に礫が据えられており、袖

83号住居 A-A'・B-B'

- 1 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質土。褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量含む。しまりやや固い。床層。
- 4 褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。



の構築材であると思われる。右袖石は、長さ0.26m、幅0.12m、厚さ0.08mである。左袖石は、長さ0.29m、幅0.21m、厚さ0.11mである。支脚、袖石共に、角閃石安山岩である。袖材は、黄褐色土である。掘り方は、火床の下に0.08m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、炭化物を含んだ灰層及び焼土を含む褐色土色である。

重複遺構：3号溝と重複している。80号住居に後出しており、68号住居・215号ピットに前出している。 **遺物**：須恵器(高杯1点)、土師器(甕1点) カマド周辺から遺

物が出土した。そのうち土器2点を図示した。甕(2)はカマド火床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。高杯(1)(須恵器)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が若干見られた。図示した以外に、土師器(杯類24片、甕類29片)、須恵器(杯類1片、甕類1片)が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。図示した遺物において、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。



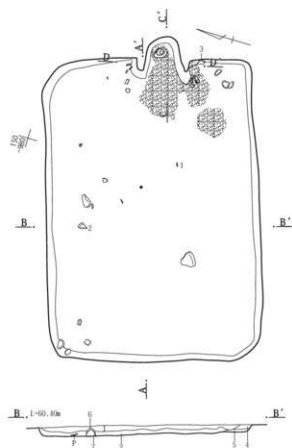
第528図 1区8面 83号住居カマド

84号住居(第529・530図 PL.125・210)

1区中央部の住居群内にある。床面は影響を受けていないが、残存状態は良好でない。

位置：145～149・-977～-983にある。 **規模形状**：各辺共に直線的である。北東隅が丸みを帯びている。東西に大幅に長い長方形を呈している。主軸長4.80m、幅3.28mである。 **埋没土・壁**：褐色土シルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.15mである。 **方位**：N-79°-E **面積**：14.10㎡ **床面**：わずかに北西に傾斜している。緩やかに起伏があるかほぼ平坦である。カマド内部から

前部および右袖壁側、南東隅にかけて灰の分布を認める。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できなかった。掘り方は、認められない。 **壁溝**：認められない。 **ピット(柱穴)**：認められない。 **貯蔵穴**：認められない。 **カマド**：東壁中央やや南寄りに位置する。全長0.72m、幅0.93m、焚口幅0.55m、燃烧部幅0.36m、煙道は確認できなかった。燃烧部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、周囲からカマド前部にかけて灰の分布が顕著であった。支脚は、長さ不明、幅0.22m、厚さ0.15mである。両袖周辺には、土師器片が散見しており、袖の構築材であると思われる。

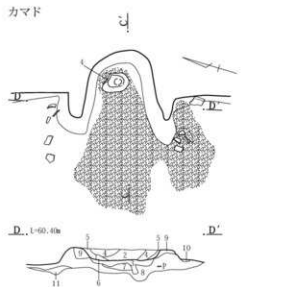


84号住居 A-A'・B-B'

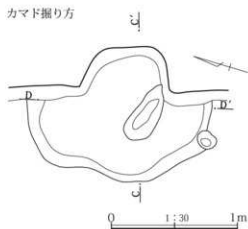
- 1 褐灰色土 シルト質土。白褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。白褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、白褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 6 褐色土 酸化鉄凝集層。
- 7 褐灰色土 シルト質土。マンガン粒を中量、褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

0 1:60 2m

カマド



カマド掘り方



0 1:30 1m

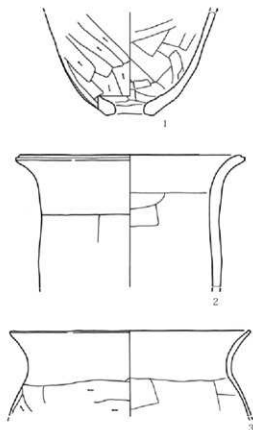
84号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を中量、炭化物、灰を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。灰を中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。灰を中量含む。

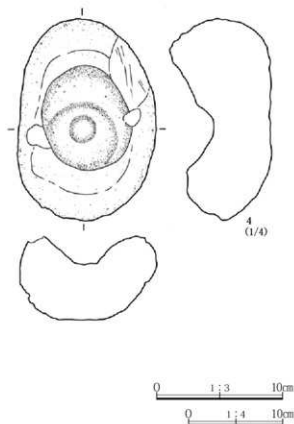
- 7 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を多量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を中量、マンガン粒を少量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質土。炭化物を多量、焼土粒を少量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

袖材は、褐灰色シルト質土である。掘り方は、火床の下に0.1m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、炭化物、焼土粒を含む褐灰色シルト質土である。重複遺構：90・92・98・110・143号住居に、後出している。遺物：土師器(甕2点、甕1点) 礫石器(凹石1点) カマド周辺から住居北部にかけて点在するように遺物が出土した。そのうち土器3点、礫石器1点を図示した。甕(2)、甕(1)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと

考えられる。甕(3)はカマド右袖側床直上から、凹石(4)はカマド床直上からの出土であり、本住居に伴うものであると思われる。円礫の出土もあった。図示した以外に、土師器(杯類41片、甕類159片)、須臾器(甕類1片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、形状から、7世紀後半であると考えられる。図示した遺物においては、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。



第530図 1区8面 84号住居出土遺物



85号住居(第531・532図 PL.125・210)

1区中央部の住居群内にある。床面は影響を受けていないが、残存状態は良好でない。

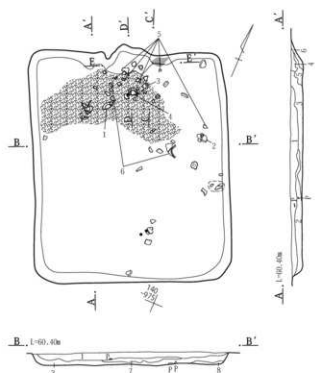
位置：139～143・-974～-978にある。

規模形状：各辺直線的である。各隅はやや丸みを帯びている。東壁に対して西壁が、北壁に対しては南壁がわずかに長い。南北に長い長方形を呈している。主軸長3.72m、幅3.10mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.16mである。方位：

N-24°-E 面積：9.64㎡ 床面：わずかに西に傾斜している。緩やかな起伏があるがほぼ平坦である。カマド前部から中央部及び西辺に至るまで、広範囲に灰の分布が見られる。貯蔵穴、柱穴等の窪みは確認できなかった。

掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。

カマド：北壁中央部に位置する。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃烧部幅不明、煙道は確認できなかった。燃烧部は、屋内から壁際にかけてあると思われる。火床上には、土師器片が散見できて支脚を設置していた痕跡が

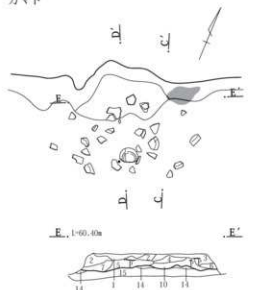


85号住居 A-A'・B-B'

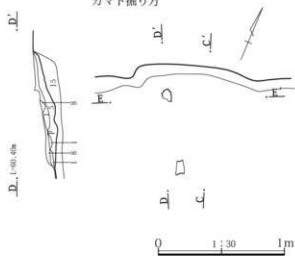
- 1 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、炭化物を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を中量、炭化物を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、炭化物、灰を少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

0 1:60 2m

カマド



カマド掘り方



85号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

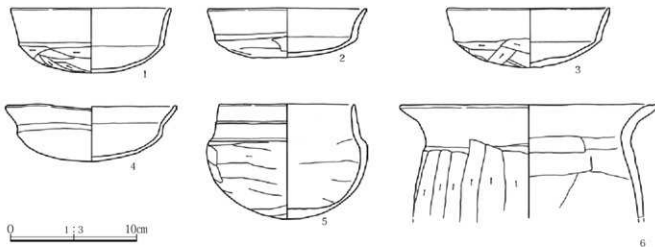
- 1 褐灰色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物、灰を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質上。炭化物を中量含む。

- 7 褐灰色土 シルト質上。炭化物、灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質上。炭化物、灰を少量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 12 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 13 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、灰を中量含む。
- 14 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 15 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。

何える。周囲には灰の分布が観察される。土層の様子より、袖は崩れてしまったものと思われる。両袖があったと思われる付近でも土師器片が出土しており、袖の構築材に関するものであると思われる。右袖付け根付近には焼土が見られる。掘り方は、火床の下に0.07m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒及び、黄褐色土、褐灰色土ブロックを含む褐灰色シルト質土である。

重複遺構：99・126号住居に後出している。 **遺物**：土師器(杯4点、甕2点) カマド周辺から住居東部にか

けて、集中して遺物が出土した。そのうち土器6点を図示した。杯(1・2・3・4)及び鉢(5)、甕(6)は床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。杯(1・3・4)はカマド前部の灰の分布範囲から出土したものである。円礫の出土が僅かに見られた。図示した以外に、土師器(杯類81片、甕類179片)が出土している。 **所見(帰属時期)**：出土遺物、形状から、6世紀後半であると考え。図示した遺物においては、埋土、床直上の遺物の時期差は認められない。



第532図 1区8面 85号住居出土遺物

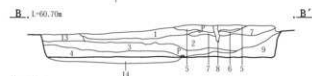
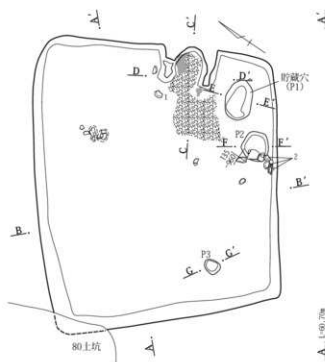
86号住居(第533・534図 PL.126・210)

1区中央部の住居群内にある。床面は影響を受けていないため、残存状態は良好である。

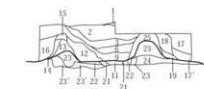
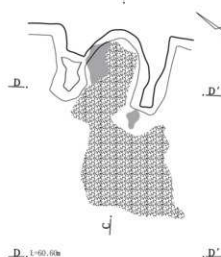
位置：133～138・-958～-963にある。

規模形状：東壁、南壁、西壁はほぼ直線的である。北壁は外側に向け丸みを帯びている。北辺が南辺に対して長いため、西壁と東壁は平行ではない。東西に長い台形を呈している。主軸長4.71m、幅3.72mである。 **埋没土・壁**：褐灰色土で埋没している。壁脚から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.43mである。 **方位**：N-63°-E **面積**：13.23㎡ **床面**：傾斜はなく、わずかな起伏があるがほぼ平坦である。カマド内から前部かけて灰の分布が見られる。住居南東隅及び南西隅に複数の落ち込みが確認できた。 **掘り方**：北西部から中央部にかけて認められる。埋め土は、炭化物がしま状に混入した褐灰色土である。深さは、0.06m前後である。 **壁溝**：確認できない。 **ピット(柱穴)**：P 3

は位置より、規則的な主柱穴配置による柱穴の1つであると推定される。埋没土は、黄褐色ブロックが混入した褐灰色土であり締まりが強い。長径0.26m、短径0.24m、深さ0.08mである。 **貯蔵穴**：南東隅に落ち込みを2つ認める。P 1は位置より貯蔵穴と思われる。貯蔵穴(P 1)の埋没土は、焼土、炭化物、黄褐色ブロックを含んだ褐灰色土に、黄褐色ブロックを含む褐灰色土が載っている。長径0.68m、短径0.43m、深さ0.25mである。P 2の埋没土は、焼土、炭化物、灰と黄褐色土の混土層であり、締まりが強い。長径0.5m、短径0.44m、深さ0.07mである。 **カマド**：東壁中央やや南寄りに位置している。全長0.65m、幅0.95m、焚口幅0.41m、燃焼部幅0.43m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内に確認された。火床上には、灰と焼土の分布が顕著であり、よく使われカマドであることを示している。袖材は、黄白色土ブロックを含む黄褐色土である。掘り方は、火床の下に0.07m前後の落ち込みが認められた。埋め土は炭化

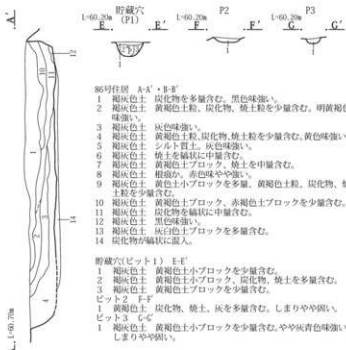


カマド



86号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐色土 黄褐色土ブロック、炭化物を少量含む。
- 2 褐色土 黄褐色土ブロック、炭化物、褐色土粒を少量含む。
- 3 褐色土 炭化物を少量含む、黒色味強い。
- 4 にぶい黄褐色土 炭化物を編状に中層、焼土を少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 焼土を少量含む、灰色味強い。
- 6 褐色土 炭化物、焼土を多量、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土を多量含む。
- 8 赤褐色土 にぶい黄褐色土ブロック、焼土を多量含む。



86号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐色土 炭化物を多量含む、灰色味強い。
- 2 褐色土 黄褐色土粒、炭化物、焼土粒を少量含む、明黄褐色味強い。
- 3 褐色土 灰色味強い。
- 4 褐色土 黄褐色土粒、炭化物、焼土粒を少量含む、黄色味強い。
- 5 褐色土 シルト質土、灰色味強い。
- 6 褐色土 焼土を編状に中層含む。
- 7 褐色土 黄褐色土ブロック、焼土を中層含む。
- 8 褐色土 粗粒砂、赤色味やや強い。
- 9 褐色土 黄褐色土小ブロックを多量、黄褐色土粒、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 10 褐色土 黄褐色土ブロック、赤褐色土ブロックを少量含む。
- 11 褐色土 炭化物を編状に中層含む。
- 12 褐色土 灰色味強い。
- 13 褐色土 灰白色土ブロックを多量含む。
- 14 炭化物が編状に散入。

貯蔵穴(ピット) E-E'

- 1 褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 黄褐色土小ブロック、炭化物、焼土を多量含む。
- 3 褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む。

ピット2 F-F'

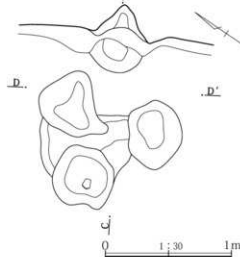
- 1 黄褐色土 炭化物、焼土、灰を多量含む。しまりやや強い。

ピット3 G-G'

- 1 褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。やや灰青色味強い。しまりやや強い。

0 1:60 2m

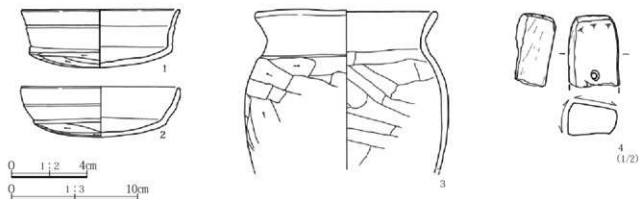
カマド掘り方



- 9 にぶい黄褐色土 焼土ブロックを多量含む。
- 10 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土、明黄褐色土ブロック(カマド袖材)を中層含む。
- 11 炭化物、灰層
- 12 にぶい黄褐色土 焼土を多量、下層に炭化物を少量含む。
- 13 黄褐色土 カマド材の崩れたものか。炭化物を少量含む。
- 14 黄褐色土 褐色土小ブロックを多量含む。
- 15 褐色土 ブロック状に散入。
- 16 にぶい黄褐色土
- 17 褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 18 褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。色調暗い。
- 19 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土を少量含む。
- 20 黄褐色土 黄褐色土小ブロック(カマド材)を少量含む。
- 21 黄褐色土 褐色土小ブロックを多量含む。
- 22 褐色土 赤色味やや強い。
- 23 炭化物、灰層
- 24 黄褐色土 灰黄褐色土小ブロックを多量含む。カマド袖材。
- 25 黄褐色土 焼土ブロックを少量含む。
- 26 にぶい黄褐色土 黄褐色土小ブロック、灰白色土小ブロックを少量含む。
- 27 にぶい黄褐色土 内層は焼土。大熱を帯び赤色味やや強い。色調暗い。

第533図 1区8面 86号住居

物を含む灰層である。重複遺構：80号土坑に前出しており、101・117号住居、7号竪穴に後出している。遺物：土師器(杯2点、甕1点) 石製品(砥石1点) カマド周辺住居東部から遺物が出土した。そのうち土器3点、石製品1点を図示した。杯(2)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1)は床から0.08m程浮いた位置及び埋没土から、砥石(4)は埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。甕(3)は貯蔵穴埋没土及び本住居のみならず101号住居の



第534図 1区8面 86号住居出土遺物

87号住居(第535・536図 PL.126・210・211)

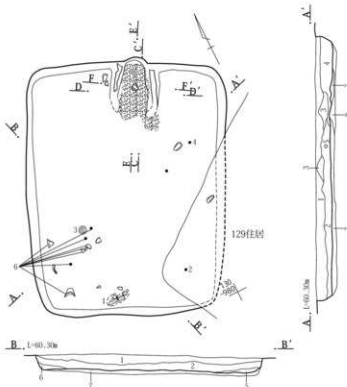
1区中央部の住居群内にある。床面は影響を受けていないため、残存状態は良好である。

位置：130～134・978～982にある。

規模形状：北壁と東壁は直線的である。西壁と南壁は外に膨らんでいる。南北に長い丸みを帯びた長方形を呈している。主軸長4.01m、幅3.14mである。埋没土・壁：褐灰色土及び暗褐色土で埋没している。4層に不自然な堆積が観察され人為的な埋戻しが見られる。その後、壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.28mである。方位：N-38°-E 面積：10.48㎡ 床面：北西に傾斜している。ほぼ平坦であるが、南部の一部に起伏が見られる。カマド内から右袖壁前にかけて灰の分布が見られる。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは確認できなかった。掘り方：ほぼ全面に認められた。埋め土は、褐灰色土であり締まりを帯びる。深さは、0.07m前後である。壁溝：認められない。ヒット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：北壁中央部に位置する。全長0.96m、幅0.78m、焚口幅

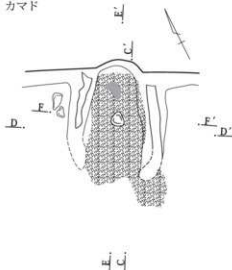
埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか不明である。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類70片、甕類155片)、須恵器(杯類1片、甕類4片)、不明土器2片が出土している。また、101号住居と共通して土師器(杯類34片、甕類66片)、不明土器2片を出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、7世紀前半の住居であると考えられる。図示した遺物においては、埋土、床直上の遺物の時期差は認められない。

0.41m、燃焼部幅0.48m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、周囲に灰及び焼土が顕著に確認された。支脚は、長さ0.24m、幅0.11m、厚さ0.12mである。よく使用されたカマドであることが観察された。袖は認められたが、土層の様子より崩れかかったものである。袖材は、灰白色土及び黄灰白色土ブロックを含むにぶい黄褐色土である。掘り方は、火床の下に0.15m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、にぶい黄褐色土ブロックと炭化物の混土である。重複遺構：129号住居に前出しており89・150号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、小型甕1点、鉢2点、高杯1点) 住居南西部から東部を中心に散在するように遺物が出土した。そのうち土器6点を図示した。杯(2)、鉢(4)、高杯(3)、小型甕(6)は共に床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。杯(1)は床から0.10m程遊離した位置及び89号住居埋没土から、鉢(5)は本住居埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。



- 87号住居 A-A'・B-B'
- 1 褐色土 酸化鉄凝集、褐色土ブロックを少量含む。
 - 2 褐色土 黄褐色土粒を多量含む。赤色味強い。
 - 3 褐色土 褐色土粒を中量。酸化鉄凝集を少量含む。

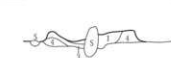
カマド



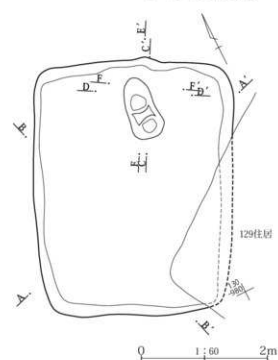
D., 1:60.30m



E., 1:60.30m

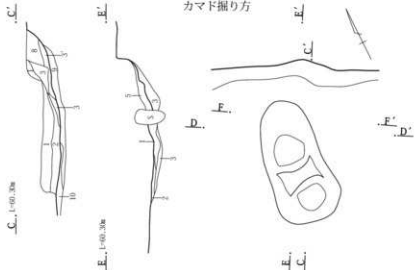


0 1:30 1m



- 4 暗褐色土 灰白色土ブロック、赤褐色土粒を少量含む。
- 5 暗褐色土 灰白色土ブロックを少量含む。
- 6 暗褐色土 赤色味や強い。
- 7 暗褐色土 しまりや強い。やや赤色味強く、暗い。
- 8 暗褐色土 炭化物、焼土を微量含む。

カマド掘り方



C., 1:60.30m

E., 1:60.30m

D., 1:60.30m

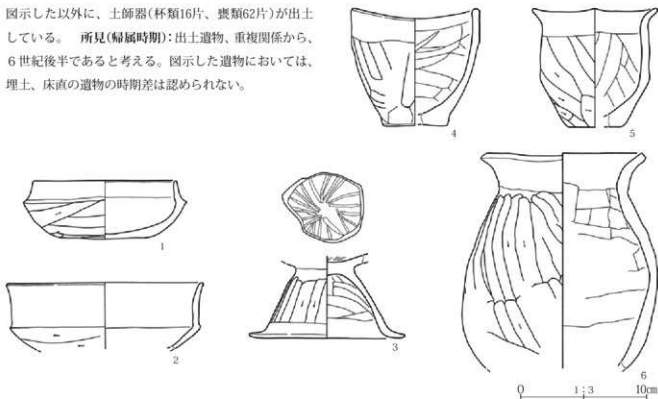
- 87号住居カマド C-C'・D-D'
- 1 に深い黄褐色土 炭化物、焼土を少量、灰白色土ブロックを微量含む。
 - 1' に深い黄褐色土 炭化物を少量、灰白色土ブロックを微量含む。
 - 2 に深い黄褐色土 炭化物、焼土を少量含む。色調強い。
 - 3 に深い黄褐色土 焼土を多量含む。
 - 3' に深い黄褐色土 焼土を中量含む。
 - 4 焼土ブロック
 - 5 に深い黄褐色土 赤色味強い。
 - 6 炭化物と焼土の混土層。
 - 7 に深い黄褐色土 灰色味や強い。
 - 7' に深い黄褐色土 灰色味強い。
 - 8 に深い黄褐色土 炭化物、焼土を少量含む。
 - 9 炭化物、灰層
 - 9' に深い黄褐色土 炭化物を多量含む。
 - 10 に深い黄褐色土 灰黄褐色土ブロックを少量含む。
 - 11 に深い黄褐色土 灰白色土小ブロック、黄灰白色土小ブロックを少量含む。カマド袖材。

87号住居カマド E-E'・F-F'

- 1 炭化物、灰層
- 2 暗黄褐色土 焼土を少量含む。
- 3 暗黄褐色土 灰黄褐色土小ブロックを多量含む。
- 4 黄褐色土 灰黄褐色土小ブロック。灰白色土の小ブロックを少量混入。カマド袖材。
- 5 に深い黄褐色土 炭化物、焼土を少量含む。

第535図 1区8面 87号住居

図示した以外に、土師器(杯類16片、甕類62片)が出土している。所見(帰属時期):出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。図示した遺物においては、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。



第536図 1区8面 87号住居出土遺物

88号住居(第537～540図 PL.126・127・211)

1区中央部の住居群内にある。北辺は調査区域外にある。床面は影響を受けていないため、残存状態は良好である。

位置: 149～155・964～972にある。

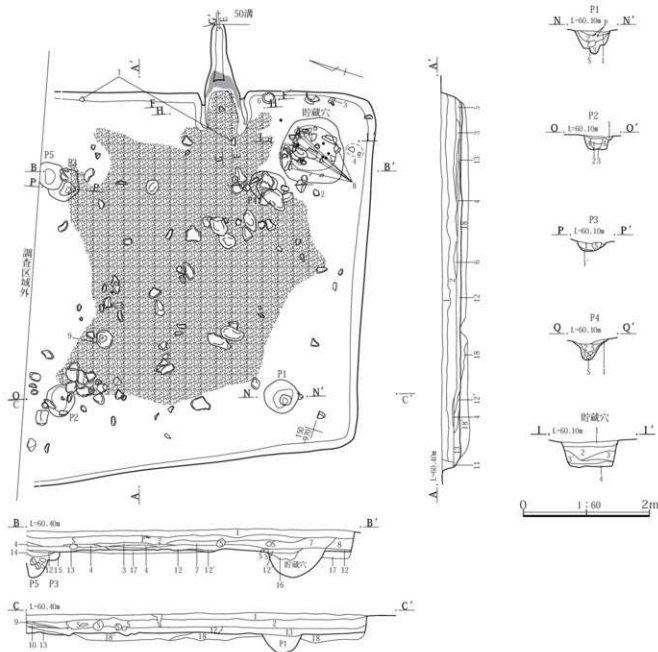
規模形状: 東壁、南壁、西壁共に直線的である。南東、南西隅はやや丸みを帯びている。南壁と西壁が鈍角に交わることによって、南壁に対して北壁がやや長いと推測できる。方形を呈していると推察される大型の住居である。主軸長5.75m、幅(5.30)mである。 **埋没土・壁:** 暗黄灰褐色土と炭化物の混土層が、中央に水平に堆積している。炭化物を含む灰層が水平に散見している。その後、にぶい黄褐色土の層が意図的に埋没しており、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.24mである。

方位: N-72°-E **面積:** (23.38)㎡ **床面:** わずかに東に傾斜している。ほぼ平坦であるが、中央部から北部にかけて起伏が見られる。カマド内からカマド前部にかけて灰の分布が見られる。住居の中央部分をほぼ埋め尽くすほど広大な灰の分布が認められた。灰の分布に重なるように大小118個の礫が出土している。大きいもので長径0.4m程、小さいもので0.05m程である。住居内の

施設に関わるものであると推察するが明瞭でない。細長いものは、磨礫石と推察される。貯蔵穴は確認できた。

掘り方: ほぼ全面に認められた。埋め土は、灰白色土ブロックを含む褐色土である。深さは0.05～0.12m前後である。北西部、中央部、南部に床下土坑の落ち込みが見られた。床下土坑1の埋没土は、灰白色土ブロックを含んだ褐色土である。長径0.72m、短径0.66m、深さ0.14mである。使用目的は明瞭でない。床下土坑2の埋没土は、灰白色土ブロックを含んだ褐色土である。長径0.9m、短径0.82m、深さ0.18mである。炉の想定できる位置にあるが焼土・炭化物粒等は確認できなかった。床下土坑3の埋没土は、炭化物、灰白色土ブロックを含んだ褐色土である。長径0.6m、短径0.54m、深さ0.13mである。炉の想定できる位置にあり、炭化物が確認できたが明瞭ではない。床下土坑4の埋没土は、褐色シルト質土である。黄褐色ブロック、粘土粒、焼土粒、灰を含む。長径1.50m、短径0.92m、深さ0.51mである。貯蔵穴の想定できる位置にあり、隣接する貯蔵穴とほぼ同様な土で埋没しており、ほぼ同時期に貯蔵穴として使われていたものと思われる。また、住居四隅に柱穴と思われる落ち込みも確認された。 **壁溝:** 認められない。

2 1区の遺構と遺物



88号住居 A-A'・B-B'・C-C'

- 1 にぶい黄褐色土 灰黄褐色土小ブロック,炭化物を少量含む。赤褐色味や強い。
- 2 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロックを中量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロックを多量含む。黄色味強い。
- 4 炭化物,灰層
- 5 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロックを多量含む。
- 6 黄褐色土 炭化物,灰を多量含む。
- 7 褐灰色土 にぶい黄褐色土小ブロック,炭化物を少量含む。
- 8 褐灰色土 にぶい黄褐色土小ブロックを多量含む。
- 9 炭化物,灰層 レンズ状に入り込んでいる。
- 10 褐灰色土 暗褐色土粒を少量含む。
- 11 暗褐色土 赤色味や強い。
- 12 暗灰黄色土 炭化物を多量含む。中央では水平に堆積。
- 12' 暗灰黄色土 炭化物を多量含む。
- 13 暗灰黄色土 灰白色土ブロック,黄褐色土ブロックを少量含む。
- 14 暗灰黄色土 炭化物を微量含む。
- 15 暗灰黄色土 炭化物を中量含む。
- 16 暗灰黄色土 炭化物を少量含む。
- 17 褐灰色土 灰白色土ブロック,炭化物を多量含む。
- 18 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。色調暗い。
- 18' 褐灰色土 暗褐色土ブロックを少量含む。色調暗い。

88号住居内ゼット N-N'

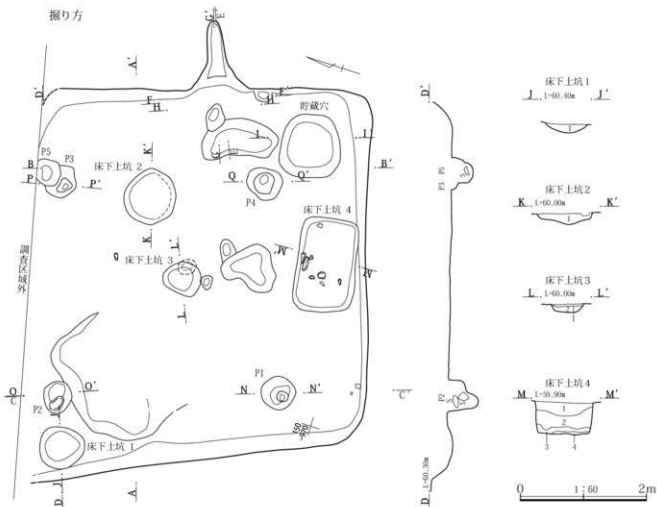
- 1 にぶい黄褐色土 炭化物をレンズ状に中量含む。
 - 2 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。
 - 3 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 0-0'
- 1 褐灰色土 炭化物を少量含む。黒色味強い。
 - 2 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量,炭化物を少量含む。
 - 3 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量含む。
 - 4 褐灰色土 黄褐色土を微量含む。色調暗い。
- P-P'
- 1 にぶい黄褐色土 炭化物を多量含む。
 - 1' にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 0-Q'
- 1 褐灰色土 黄色味や強い。
 - 2 黄褐色土 炭化物多量含む。
 - 3 黄褐色土 灰黄褐色土ブロックを多量含む。
- 88号住居貯蔵穴 1-1'
- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロック,黄褐色土小ブロックを少量含む。
 - 2 褐灰色土 灰白色土小ブロック,黄褐色土小ブロックを少量含む。灰色味薄く,色調暗い。
 - 3 褐灰色土 色調暗い。
 - 3' 褐灰色土 炭化物を微量含む。色調暗い。
 - 4 暗褐色土 粘性強い。灰色味強い。

第537図 1区8面 88号住居

ピット(柱穴):各隅近くに掘り込みが見られた。位置より、規則的な主柱穴配置による柱穴であると思われる。P 5はP 3をやり直したものであると思われる。P 1の埋没土は、にぶい黄褐色土で、途中炭化物がレンズ状に堆積していた。長径0.54m、短径0.53m、深さ0.36mである。P 2の埋没土は、柱周りは、褐灰色土で固められており、柱を抜いた後、褐灰色土と黄褐色土の混土で埋没している。長径0.5m、短径0.44m、深さ0.21mである。P 3の埋没土は、にぶい黄褐色土と炭化物の混土である。長径0.52m、短径0.5m、深さ0.16mである。P 4の埋没土は、黄褐色土が主体で、炭化物及び灰白色土

が混入する。長径0.58m、短径0.52m、深さ0.3mである。

貯蔵穴:南東部に窪みが見られた。位置と規模より貯蔵穴であると思われる。埋没土は、粘性のある暗褐色土堆積の後、褐灰色土が主体で、炭化物、灰白色土ブロック、黄褐色土ブロックが混入している。長径1.01m、短径0.98m、深さ0.4mである。カマド:東壁中央やや南寄りに位置する。全長1.79m、幅0.89m、焚口幅0.45m、燃烧部幅0.45m、煙道は壁外側に1.09m突出している。燃烧部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、周囲からカマド前部にかけて灰が、煙道にかけて焼土が観察された。支脚は、



88号住居床下土坑 J-J'

1 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。

K-K'

1 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。

L-L'

1 褐灰色土 灰白色土ブロック、炭化物を中量含む。

2 褐灰色土 灰白色土ブロック、炭化物を少量含む。

M-M'

1 褐灰色土 シルト質土。黄褐色粘質土粒、炭化物、灰、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

2 褐灰色土 シルト質土。黄褐色粘質土粒、灰を少量含む。

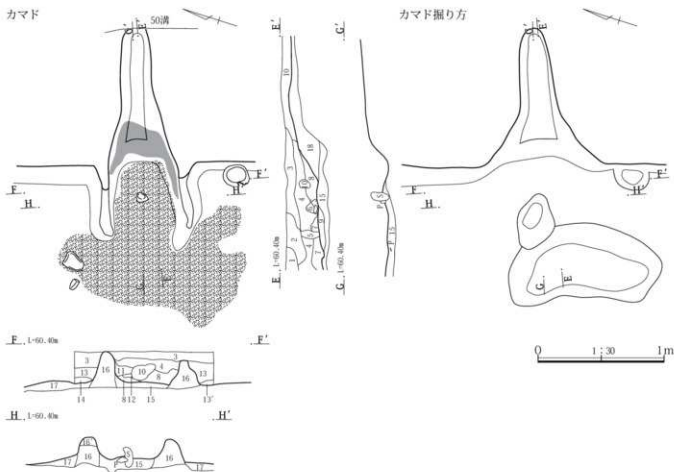
3 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を中量含む。

4 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

第538図 1区8面 88号住居掘り方

長さ0.16m、幅0.06m、厚さ0.07mである。袖材は黄褐色土を主体にして、褐灰色土及び灰白色土を混ぜて塗り固めている。掘り方は、火床下に0.08m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、炭化物を含んだ灰層である。
重複遺構: 121・135・147号住居に後出している。 **遺物**: 土師器(杯4点、小型甕1点、甕2点、甕1点)、礫石器(凹石1点) 貯蔵穴及び住居北西部、床下土坑を中心に遺物が出土した。そのうち土器8点、礫石器1点を図示した。杯(1・2・3・4)、小型甕(6)及び凹石(9)は床

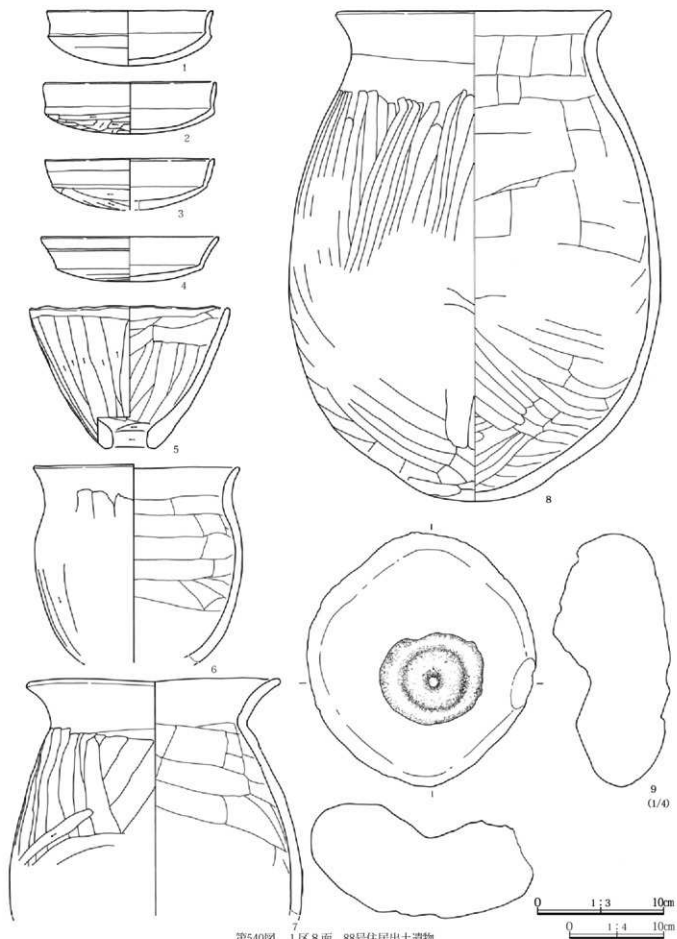
直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(7)は住居埋没土からの出土である。甕(8)は貯蔵穴から、甕(5)はP4からの出土であり、本住居に伴うものと思われる。円礫が数多く出土した。磨礫石と思われる礫も観察された。図示した以外に、土師器(杯類82片、甕類438片)、須恵器(杯類3片、甕類1片)、不明土器3片が出土している。 **所見(帰属時期)**: 出土遺物、形状から、6世紀後半の住居であると考えられる。図示した遺物において、埋土、床直の遺物の時期差は認められない。



88号住居カマド E-E'・F-F'・G-G'・H-H'

- 1 褐灰色土 黄褐色土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、褐灰色土小ブロックを多量含む。
- 3 褐灰色土 暗褐色土ブロックを多量、焼土を少量含む。
- 4 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 5 褐灰色土 炭化物、焼土を微量含む。
- 6 焼土ブロック
- 7 黄褐色土 焼土ブロックを多量含む。
- 8 褐灰色土 焼土ブロックを多量含む。
- 9 焼土ブロック 下層に炭化物、灰。

- 10 黄褐色土 赤褐色土を少量含む。焼土化している。
- 11 褐灰色土 炭化物、焼土を少量含む。
- 12 灰黄褐色土 ブロック状に混入。カマド材の崩落したもののか。
- 13 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量含む。
- 13' 褐灰色土 13層より黄褐色土ブロックを多量含む。
- 14 灰黄褐色土 黄褐色土ブロックを多量含む。カマド材の流れたものか。
- 15 炭化物、灰層
- 16 黄褐色土 褐灰色土小ブロック、灰白色土小ブロックを少量含む。しまりややが固い。カマド袖材。
- 16' 黄褐色土 袖が焼化したものか。カマド袖材。
- 17 黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 18 黄褐色土 焼土ブロックを多量含む。



第540図 1区8面 88号住居出土遺物

89号住居(第541・542図 PL.127・211)

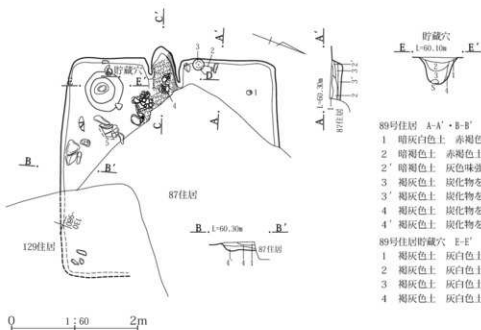
1区中央部の住居群内にある。87号住居により、中央部から北東部にかけて床面が大きく壊されている。カマド付近中心調査となった。全容は明らかでない。

位置：129～132・-979～-983にある。

規模形状：各辺ともに直線的で直交している。整った正方形に近い方形を呈していると思われる。主軸長(3.47)m、幅(3.36)mである。埋没土・壁：暗褐色土、及び褐灰色土、暗灰白色土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ自然堆積と推察されるが全容は明らかでない。壁高は0.12mである。方位：N-65°-E
面積：(3.74)m² **床面**：傾斜の有無は確認できない。カマド内からカマド前部にかけて灰の分布が見られる。貯蔵穴は、確認できた。柱穴は認められなかった。カマド及び貯蔵穴周りから、大小16個の礫が出土した。大きいもので長径0.2～0.25m、小さいもので0.05～0.1m程である。カマド及び貯蔵穴構築の建材等であると推察される。細長いものは、磨礫石と推察される。掘り方は認められない。壁溝：確認できない。ピット(柱穴)：確認できない。貯蔵穴：南西隅に落ち込みが見られた。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、褐灰色土が主体で、炭化物、灰白色土ブロックが混入している。長径0.66m、短径0.58m、深さ0.44mである。カマド：西壁中央部やや南に位置する。全長0.67m、幅0.64

m、焚口幅0.35m、燃焼部幅0.34m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、手前に隣接するように倒置した土師器甕が確認された。支脚は、長さ0.15m、幅0.1m、厚さ0.8mである。周囲からカマド前部にかけて灰が認められ、右袖沿いに焼土も確認された。左袖先端部分には甕が認められ近くの礫とともに焚口を構築していたと思われる。袖材は、褐灰色土が主体で、黄褐色土を混ぜて使用していた。左壁内側は焼土化していた。掘り方は、火床下に0.09m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、炭化物を含んだ灰層である。燃焼部は壁際に確認され、火床上に灰が確認された。煙道は認められない。短い袖壁は認められた。重複遺構：87・129号住居に前出しており、150号住居に後出している。

遺物：土師器(鉢1点、小型甕1点、甕1点、高杯1点、甕1点) カマド周辺及び住居西部中心に散在するように遺物が出土した。そのうち土器5点を図示した。鉢(2)、小型甕(4)、甕(3)、高杯(1)、甕(5)は、共に床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。小型甕(4)はカマド使用面からの出土である。円礫の出土が見られ、磨礫石と思われる礫が観察された。図示した以外に、土師器(杯類10片、甕類7片)、須恵器(杯類1片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。



89号住居 A-A'・B-B'

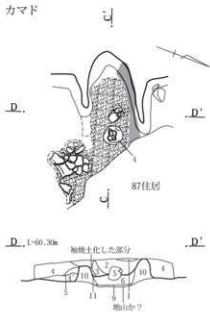
- 1 暗灰白色土 赤褐色土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 赤褐色土粒を少量含む。
- 2' 暗褐色土 灰色味強い。
- 3 褐灰色土 炭化物を縞状に中量含む。
- 3' 暗灰白色土 炭化物を薄い縞状に少量含む。
- 4 褐灰色土 炭化物を縞状に中量含む。灰色味強い。
- 4' 褐灰色土 炭化物を微量含む。灰色味強い。

89号住居貯蔵穴 E-E'

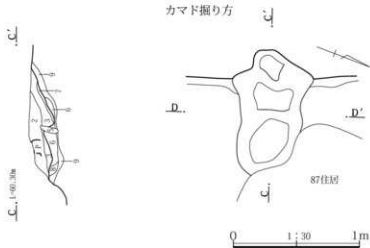
- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。色調暗い。
- 3 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量。炭化物を微量含む。
- 4 褐灰色土 灰白色土を多量含む。色調明るい。

第541図 1区8面 89号住居

カマド



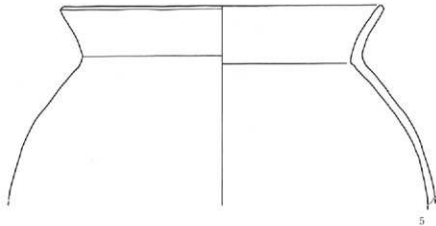
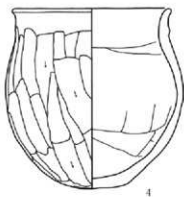
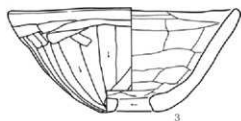
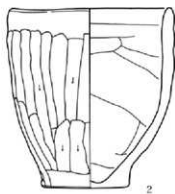
カマド掘り方



89号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 焼土を少量含む。
- 2 褐灰色土 焼土小ブロックを多量、炭化物を少量含む。
- 3 焼土ブロック
- 4 褐灰色土 赤褐色土粒を多量含む。
- 4' 褐灰色土 色調やや暗い。
- 5 暗褐色土 粘性やや強い。灰色味やや強い。

- 6 炭化物、灰層
- 7 褐灰色土 炭化物、焼土を少量含む。
- 8 酸化鉄凝集層
- 9 にぶい黄褐色土 やや焼土化。
- 10 褐灰色土 黄褐色土を少量含む。カマド袖材。
- 11 袖が焼土化した部分。



0 1:3 10cm

第542図 1区8面 89号住居カマド、出土遺物

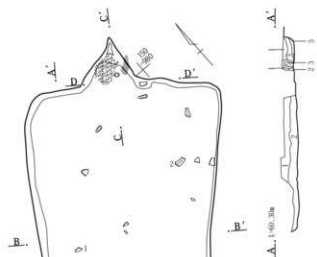
90号住居(第543・544図 PL.127・212)

1区中央部の住居群内にある。84号住居と重複しているが、床面は壊されていない。残存状態は良好でない。

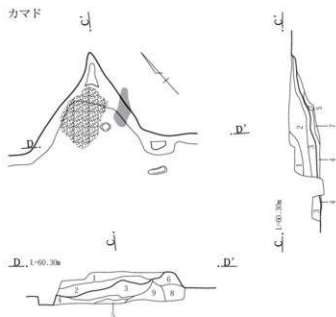
位置：146～150・-979～-983にある。

規模形状：東壁、南壁は直線的である。西壁、北壁はや

や丸みを帯びる。南壁に対して北壁がやや長い。南北に長い方形を呈している。主軸長3.27m、幅2.73mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質土を主体に埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.25mである。方位：N-36°-E



カマド



90号住居カマド C-C'・D-D'

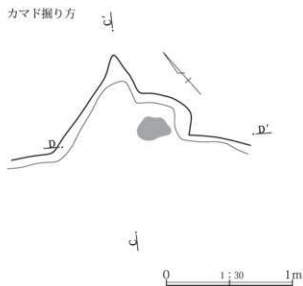
- 1 褐灰色土 褐灰色・黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 褐灰色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 焼土粒を中量含む。
- 4 褐灰色土 焼土粒、灰を中量含む。
- 5 褐灰色土 灰を多量、焼土粒を中量含む。

90号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土、褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土、褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色土粒を少量含む。
- 3 褐色土 酸化鉄凝集層。
- 4 褐灰色土 シルト質土、マンガン粒を中量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土、褐灰色シルト質土ブロックを多量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土、黄褐色土を中量含む。



カマド掘り方



- 6 褐灰色土 褐灰色シルト質土ブロックを中量、黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 7 褐灰色土 黄褐色シルト質土ブロックを多量含む。
- 8 褐灰色土 黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 9 褐灰色土 黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。

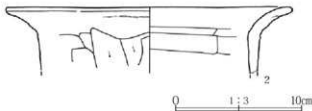
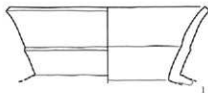
面積：8.16㎡ **床面**：南西に傾斜している。灰は見られない。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは確認できなかった。

掘り方：認められない。 **壁溝**：認められない。 **ピット(柱穴)**：認められない。 **貯蔵穴**：認められない。

カマド：北壁中央部やや西寄りに位置する。全長0.86m、残存幅1.13m、焚口幅不明、燃焼部幅0.57m、煙道は壁外側に0.28m突出している。燃焼部は、屋内から屋外にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、周囲に灰及び焼土が確認された。支脚は、長さ不明、幅0.08m、厚さ0.06mである。右袖はわずかに残存して

おり、袖を構築していた礫も観察された。左袖は残っていなかった。掘り方は、火床下に0.04m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒を含む褐色土である。

重複遺構：84・98・143号住居に前出している。 **遺物**：土師器(甕2点) 住居南部を中心にして点在するように遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。甕(1・2)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土もある。 **所見(帰属時期)**：出土遺物から、7世紀前半であると考えられる。



第544図 1区8面 90号住居出土遺物

91号住居(第545～548図 PL.127・212・213)

1区中央部の住居群内にある。北辺が調査区域外にあるが、調査個所の残存状態は良好である。

位置：146～150・983～988にある。

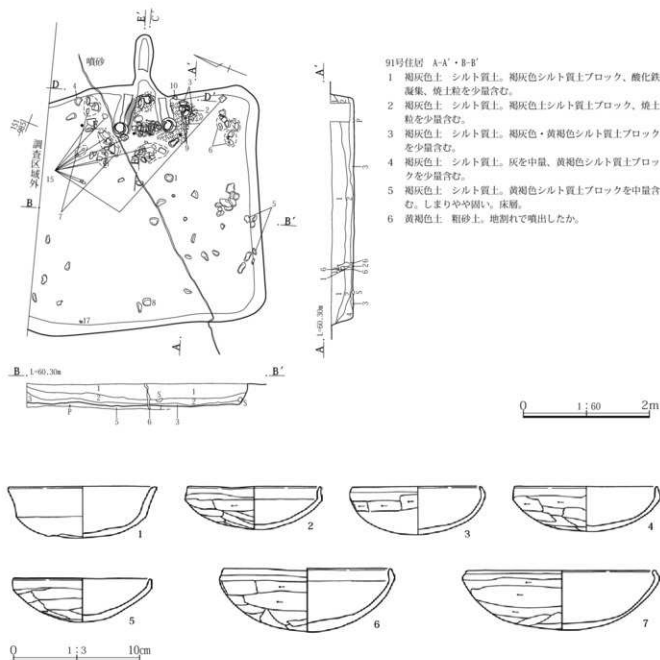
規模形状：南壁はほぼ直線的である。東壁は、カマドより北が丸みを帯びており、南壁は直線的である。西壁は直線的であるが、隅に行くほど丸みを帯びている。全体としては、南北にやや長い長方形を呈していると思われる。主軸長3.67m、幅(3.58)mである。 **埋没土・壁**：褐色シルト質土主体で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。黄褐色土の粗い砂層が観察され噴砂の痕跡が確認される。埋没土にも噴砂があるので、埋没後の地震であると考えられる。壁高は0.42mである。 **方位**：N-68°-E **面積**：(11.66)㎡ **床面**：わずかに東に傾斜している。南部はほぼ平坦であるが、北部は大きな起伏がある。床面にも噴砂が残っていた。カマド右袖側に灰の分布を認める。貯蔵穴や柱穴等の落ち込みは確認できなかった。住居南部、北部、カマド周りを中心に、大小32個の礫が出土した。大きいもので長径0.15m前後、小さいもので0.05m前後である。

細長いものは煎礪石と推察される。 **掘り方**：中央に一部認められた。埋め土は、褐色シルト質土で、黄褐色土ブロックを含み締まりが強い。深さは、0.06m前後である。 **壁溝**：認められない。 **ピット(柱穴)**：認められない。 **貯蔵穴**：認められない。 **カマド**：東壁中央やや南寄りに位置する。全長1.64m、幅0.93m、焚口幅0.55m、燃焼部幅0.31m、煙道は壁外側に0.79m突出している。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、土師器片が隣接して確認された。支脚は、長さ0.27m、幅0.16m、厚さ0.09mである。周囲には、灰の分布が確認され左袖側には焼土も確認された。両袖先端部分には倒置した土師器甕が据えられている。焚口部直上には、土師器片が多量に出土しており、甕と土師器片が焚口の構築材であったと思われる。袖材は、褐色シルト質土である。掘り方は、火床下に0.1m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、褐色シルト質土が主体で、灰、焼土粒、炭化物を含む。 **重複遺構**：98・105号住居に後出している。

遺物：土師器(杯9点、甕6点) 須恵器(高杯1点) 石製品(紡輪1点、礫石1点) カマド周辺及び、

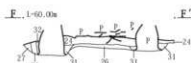
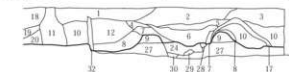
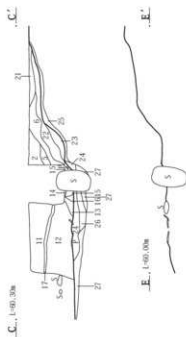
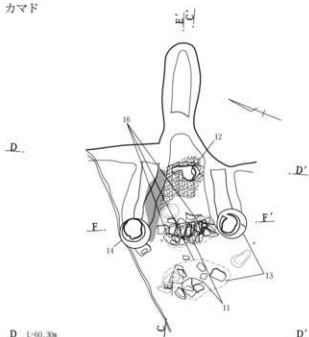
西壁、南壁から遺物が出土した。そのうち土器16点、石製品1点、礫石器1点を図示した。杯(1・2・3・4・5・6・7・8・9)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。一部埋没土に含まれているものもあるが、本体が床直上にあるため、本住居に伴うものと考えられるのが自然である。甕(11・15)は床直上から、甕(12・16)はカマド火床直上から、甕(13・14)は両袖先端部から出土しており、いずれも本住居に伴うものである

と思われる。高杯(10)(須恵器)は床上0.08mの位置及び埋没土から出土しており、本住居に伴うか明瞭でない。紡輪(17)は床直上からの出土であった。凹石(18)は埋没土からの出土であった。円礫の出土が見られ、礫編石と思われる礫が観察された。図示した以外に、土師器(杯類121片、甕類411片)、須恵器(杯類2片、甕類2片)、不明土器3片が出土している。 所見(帰属時期)：出土遺物から、7世紀中頃であると考える。

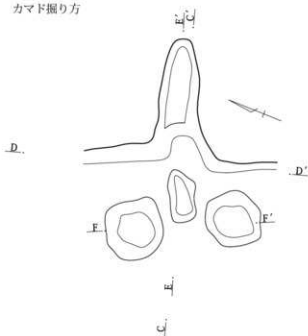


第545図 1区8面 91号住居、出土遺物(1)

カマド



カマド掘り方



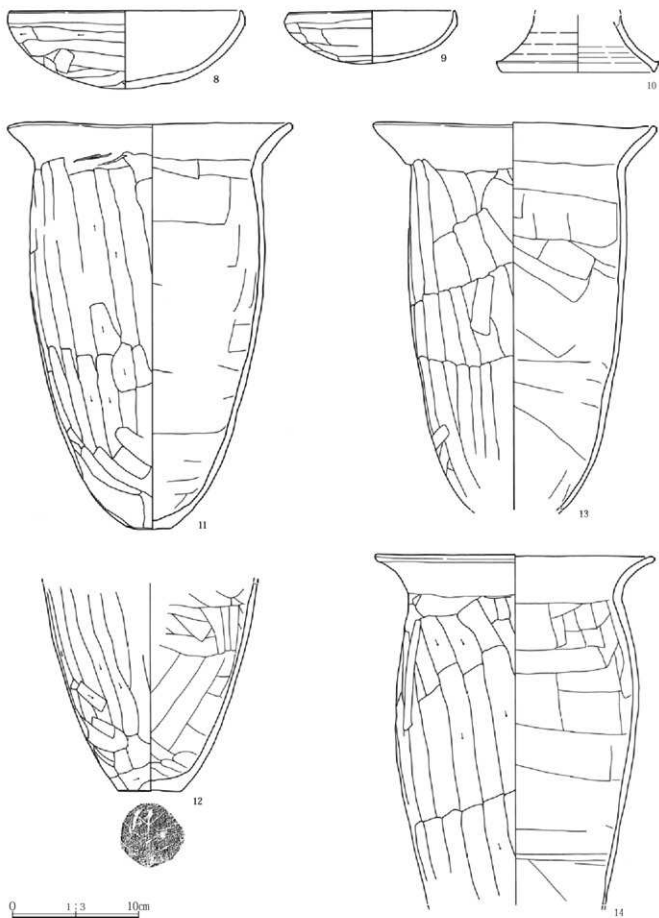
91号住居カマド C'-C'・D-D'・F-F'

- 1 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量、褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を多量含む。焼土化している。
- 8 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを多量含む。袖
- 10 褐灰色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 12 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 13 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 14 褐灰色土 シルト質土。灰を多量含む。
- 15 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。
- 16 褐灰色土 シルト質土。炭化物、灰を中量含む。
- 17 褐色土 酸化鉄腐蝕層。
- 18 褐灰色土 シルト質土。マンガン粒を中量、褐灰色・黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 19 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 20 褐灰色土 シルト質土。褐灰色・黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 21 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 22 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。一部焼土化している。

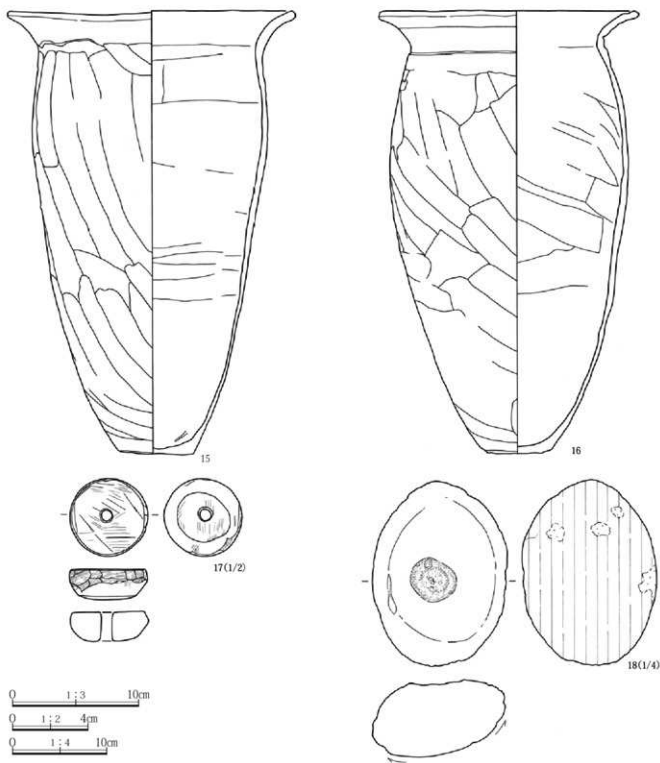
- 23 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 24 褐灰色土 シルト質土。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 25 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 26 褐灰色土 シルト質土。焼土化している。
- 27 褐灰色土 シルト質土。炭化物を微量含む。
- 28 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 29 褐灰色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 30 褐灰色土 シルト質土。炭化物、灰を少量含む。
- 31 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。裏を埋めた上。
- 32 黄褐色土 粗砂土。地割れで噴出したか。

0 1:30 1m

第546図 1区8面 91号住居カマド



第547図 1区8面 91号住居出土遺物(2)



第548図 1区8面 91号住居出土遺物(3)

92号住居(第549～551図 PL.128・213)

1区中央部の住居群内にある。他住居と重複しているが床面は影響を受けていない。残存状態は良好である。

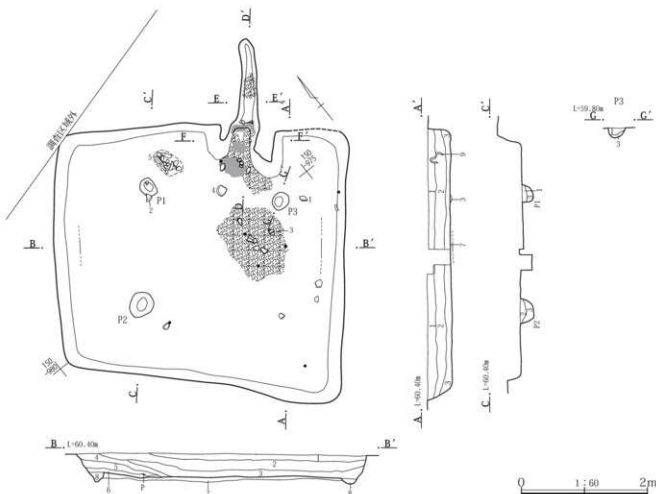
位置：146～152・-974～-979にある。

規模形状：北壁、東壁は直線的である。西壁はやや丸み

を帯びる。南壁は直線的だが、東で丸みをおびる。西壁に対して東壁が長い。東西に長い長方形を呈している。主軸長3.78m、幅4.55mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質土が主体で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.36m

である。方位：N-44°-E 面積：15.70㎡ 床面：傾斜はほぼない。南部は平坦であるが、北部は起伏がある。カマド前部と中央やや東寄りに灰の分布を確認する。中央寄りの灰の分布は、P3の位置ではあるが、明瞭でない。住居周辺近くに柱穴と思われる窪みが確認される。貯蔵穴は確認できなかった。掘り方：全面に認められ

た。埋め土は、褐灰色シルト質土で、黄褐色ブロックを含み締まりが強い床層である。上面に灰層が広がる。深さは、0.06m程である。壁溝：断面より東辺と西辺に認められたが、平面露出は叶わなかった。東辺の壁溝は、幅0.22m、深さ0.12mであり、埋没土は、黄褐色ブロックを含む褐灰色土である。西辺の壁溝は、幅0.22m、深



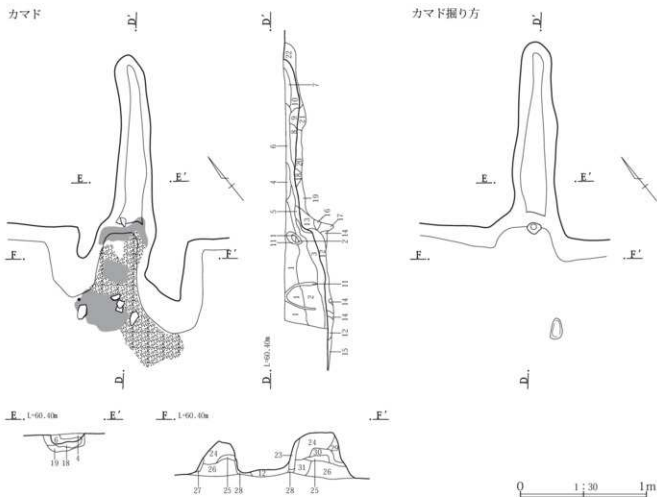
92号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色土粒、酸化鉄凝集、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。灰を中量、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。上面に灰層が広がる。しまりやや強い、床層。
- 8 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。壁溝か。
- 9 酸化鉄凝集層

92号住居内1～3号ピット C-C'・G-G'

- 1 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。炭化物を多量、褐灰色シルト質土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

第549図 1区8面 92号住居



92号住居カマド D-D'・E-E'・F-F'

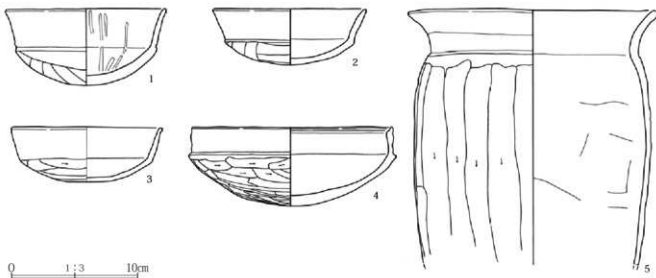
- 1 潮灰色土 シルト質土。潮灰色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 2 潮灰色土 シルト質土。潮灰色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 潮灰色土 シルト質土。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 4 潮灰色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 5 潮灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を中量含む。
- 6 潮灰色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 7 潮灰色土 シルト質土。潮灰色シルト質土ブロックを多量、焼土粒を少量含む。
- 8 潮灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 9 潮灰色土 シルト質土。潮灰色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 10 潮灰色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 11 褐色土 酸化鉄凝集層。
- 12 潮灰色土 シルト質土。灰を多量、炭化物、焼土粒を中量含む。
- 13 潮灰色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。焼土化している。
- 14 黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

- 15 潮灰色土 シルト質土。黄褐色土、炭化物、灰を少量含む。
- 16 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 17 黄褐色土 シルト質土。焼土粒を多量含む。
- 18 潮灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を中量含む。
- 19 潮灰色土 シルト質土。焼土粒を微量含む。
- 20 潮灰色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 21 潮灰色土 シルト質土。潮灰色シルト質土ブロックを多量含む。
- 22 潮灰色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 23 潮灰色土 シルト質土。焼土化している。壁。
- 24 潮灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。カマド袖。
- 25 潮灰色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロックを多量含む。カマド袖。
- 26 潮灰色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロックを中量含む。カマド袖。
- 27 潮灰色土 シルト質土。灰を少量含む。
- 28 潮灰色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、灰を少量含む。
- 29 潮灰色土 シルト質土。炭化物を少量含む。カマド袖。
- 30 潮灰色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、灰を中量含む。カマド袖。
- 31 潮灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。カマド袖。

第550図 1区8面 92号住居カマド

さ0.16mであり、埋没土は、東辺と同様である。ピット(柱穴)：南西、北西、北東の三か所に柱穴と思われる位置に落ち込みが認められた。これらは規則的な支柱穴配置による柱穴であると思われる。南東には確認できなかった。P 1の埋没土は、褐灰色シルト質土で灰を含む。長径0.29m、短径0.24m、深さ0.18mである。P 2の埋没土は、褐灰色シルト質土で炭化物及び灰を含む。長径0.41m、短径0.38m、深さ0.22mである。P 3の埋没土は、褐灰色シルト質土で灰を含む。長径0.29m、短径0.25m、深さ0.16mである。貯蔵穴：認められない。カマド：北辺中央やや東寄りに位置する。全長2.19m、幅1.2m、焚口幅0.38m、燃燒部幅0.31m、煙道は壁外側に1.39m張り出している。燃燒部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、灰と焼土の分布が確認された。袖材は、褐灰色シルト質土に黄褐色ブロックを混ぜて構

築している。左袖に対して右袖が大きい。掘り方は、火床下に0.06m前後の窪みが認められた。埋没土は、褐灰色シルト質土であり、灰、焼土粒、炭化物を含む。重複遺構：84号住居に前出しており、96・109号住居に後出している。遺物：土師器(杯4点、甕1点)カマド周辺から住居東部にかけて遺物が出土した。そのうち土器5点を図示した。杯(1・2・3・4)及び甕(5)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(5)については、埋没土からも出土しているが、大半が床直上からの出土であるため本住居に伴うものと考えられるのが自然である。円礫が僅かに見られる。図示した以外に、土師器(杯類63片、甕類256片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀前半であると考えられる。



第551図 1区8面 92号住居出土遺物

93号住居(552～554号 PL.128・213・214)

1区中央部の住居群内にある。他遺構と重複しており、全容が明らかでない。38・50号溝により住居中央の南北及び住居東辺付近の床面を壊されており、残存状態は良好でない。

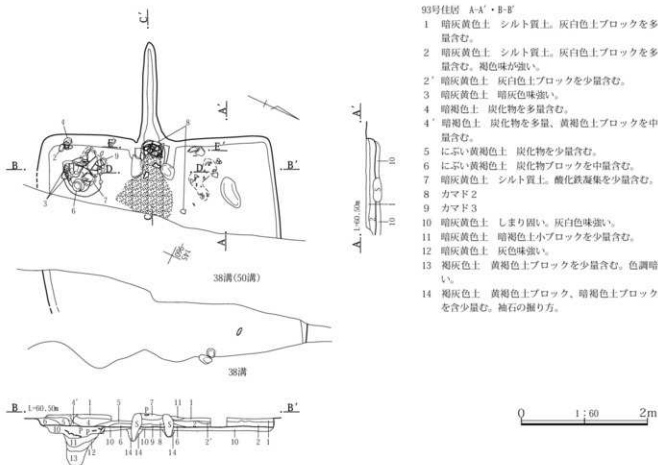
位置：142～146・958～962にある。

規模形状：北壁、西壁の北半分は直線的である。南壁と西壁南半分は丸みを帯びている。方形を呈していると推察される。主軸長3.80m、幅(3.56)mである。埋没土・壁：灰白色土を含む暗黄灰色シルト質土で埋没してい

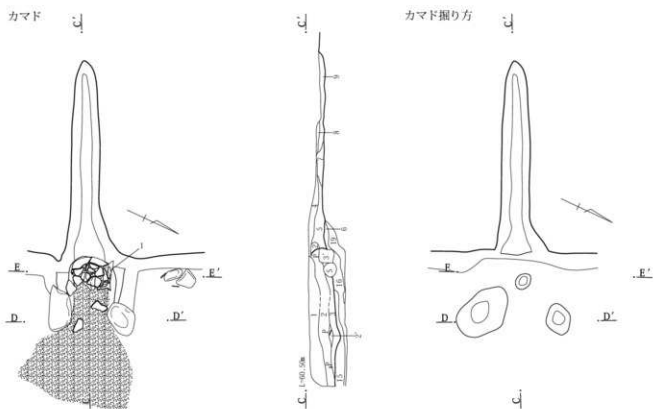
る。壁際から一気に埋没しており人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.25mである。方位：N-68°-E面積：(10.98)㎡床面：北に傾斜している。緩やかな起伏を伴うがほぼ平坦である。カマド内部から前部にかけて灰の分布が見られる。貯蔵穴は認められたが、柱穴の落ち込みは認められなかった。北西隅に礫を認める。長径0.52m、短径0.24m、厚さ0.14mである。焚口天井部分の構築材の可能性が考えられる。掘り方：全面に及んでいる。埋め土は、暗黄灰色土で、灰白色味が強く締まりがある。深さは0.04～0.08m程である。壁溝：

認められない。ピット(柱穴):認められない。貯蔵穴:南西隅に窪みが認められる。規模と位置より貯蔵穴と思われる。埋没土は、褐灰色土と暗黄灰色土である。住居の埋没土と類似の土で埋没しており、住居使用時には開口していたと思われる。長径0.63m、短径0.57m、深さ0.62mである。カマド:西壁の中央部やや南寄りに位置する。全長2.17m、幅0.74m、焚口幅0.28m、燃焼部幅0.34m、煙道は壁外側に1.54m突出している。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、周囲に土師器片が確認された。支脚は、長さ0.2m、幅0.08m、厚さ0.1mである。両袖先端部分には大きな礫が据えられている。右袖の礫は、長径0.38m、短径0.28m、厚さ0.19mである。左袖の礫は、長径0.42m、短径0.36m、厚さ0.18mである。袖石の掘り方は、黄褐色土及び暗褐色土を含む褐灰色土で固められている。住居北西隅に出土した礫が焚口天井

部分の構築材と考えられ、これらの袖石とともに、焚口を構成していたと思われる。また、掘り方は、火床下に0.06m前後の窪みが認められた。埋め土は炭化物を含む灰層である。重複遺構:114・118号住居、38・50号溝に前出している。遺物:土師器(杯3点、甗2点、小型甗1点、甗3点)カマド内、カマド周辺及び貯蔵穴から遺物が出土した。そのうち土師器9点を図示した。甗(5)、小型甗(6)、甗(7・9)は貯蔵穴から、甗(8)はカマドから出土した。いずれも床直上であり本住居に伴うものと考えられる。杯(1・2・3)及び甗(4)は床から0.09～0.16m程浮いた位置から出土しており、これらが本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類27片、甗類259片)が出土している。所見(編属時期):出土遺物から、6世紀後半であるとする。



第552図 1区8面 93号住居



D, L=60.50m



0 1:30 1m

E, L=60.50m



93号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

- 1 暗灰黄色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。
- 2 暗灰黄色土 炭化物を少量含む。
- 3 にふい黄褐色土 焼土ブロックを多量含む。
- 3' にふい黄褐色土 焼土ブロックを中量含む。
- 4 褐灰色土 焼土を少量含む。
- 5 暗褐色土 焼土ブロックを少量含む。
- 6 暗褐色土 赤色味強い。
- 7 にふい黄褐色土 焼土を多量含む。
- 8 にふい黄褐色土 焼土を少量含む。
- 9 暗褐色土と炭化物。焼土の脱土層。
- 10 にふい黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 11 にふい黄褐色土 炭化物を中量含む。
- 12 暗灰黄色土 灰色味強い。
- 13 暗灰黄色土 シルト質土。灰白色土ブロックを多量含む。
- 14 暗灰黄色土 シルト質土。灰白色土ブロックを多量含む。褐色味が強い。
- 15 暗灰黄色土 炭化物を少量含む。
- 16 炭化物。灰層
- 17 暗灰黄色土 しまり強い。灰白色味強い。
- 18 褐灰色土 黄褐色土ブロック、暗褐色土ブロックを少量含む。袖石の掘り方。
- 19 黄褐色土 焼土化している。
- 20 暗褐色土 しまりやや強い。黒色味強い。
- 20' 暗褐色土 しまりやや強い。焼土化している。



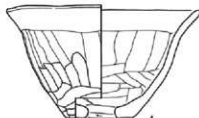
1



2



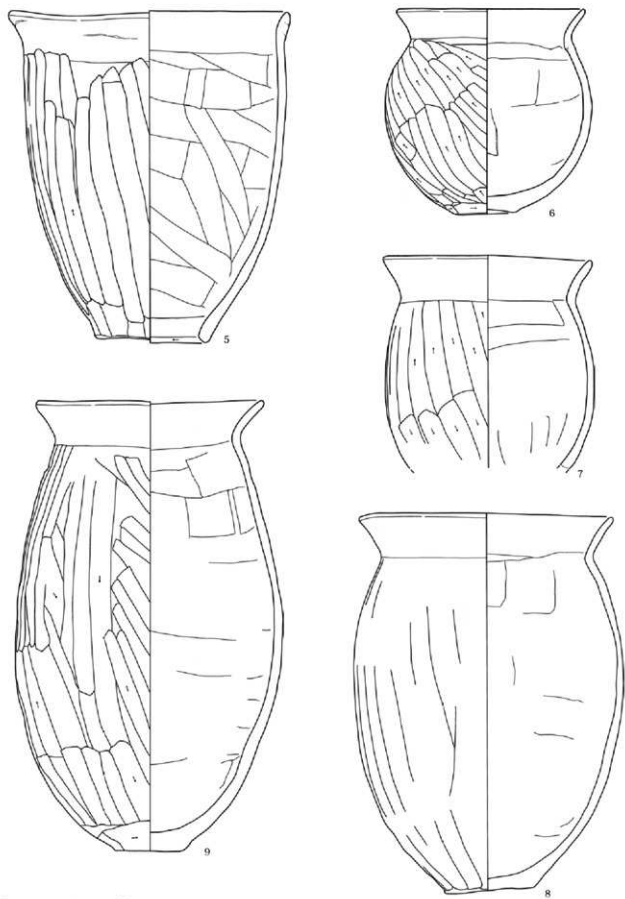
3



4

0 1:3 10cm

第553図 1区8面 93号住居カマド、出土遺物(1)



第554図 1区8面 93号住居出土遺物(2)

94号住居(第555・556図 PL.128)

1区中央部の住居群内にある。残存状態は良好でない。
位置：151～155・950～953にある。

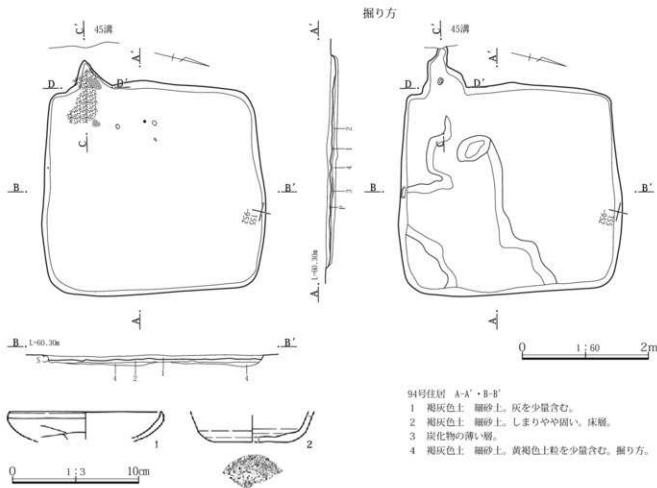
規模形状：東壁、南壁が直線的である。北壁、西壁は丸みを帯びる。北壁に対して南壁がやや長いが、およそ方形を呈している。主軸長3.22m、幅3.54mである。

埋没土・壁：褐灰色土主体で一気に埋没しているため、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.06mである。

方位：N-65°-E 面積：10.05㎡ 床面：北西にわずかに傾斜している。中央部分に起伏がみられる。カマド内部から前部にかけて灰及び焼土の分布がみられる。貯蔵穴、柱穴は認められない。カマド前部に窪みを確認する。位置から貯蔵穴の可能性はあるが、明瞭ではない。掘り方は、ほぼ全域に確認できる。埋め土は、黄褐色土粒を含む褐灰色土の細砂層で固く締まっている。深さは、0.06～0.1m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カ

マド：西壁中央部南寄りに位置している。削平が進んでおり残存状態が良好でない。現存全長0.52m、幅0.69m、焚口幅不明、燃燒部幅0.31m、煙道は確認できなかった。燃燒部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、灰及び焼土が確認された。袖前れが大きく確認できなかった。掘り方は、火床下に0.03m前後の窪みが認められた。埋め土は、褐灰色土が主体の細砂層で、灰を含んでいる。重複遺構：138号住居に後出している。

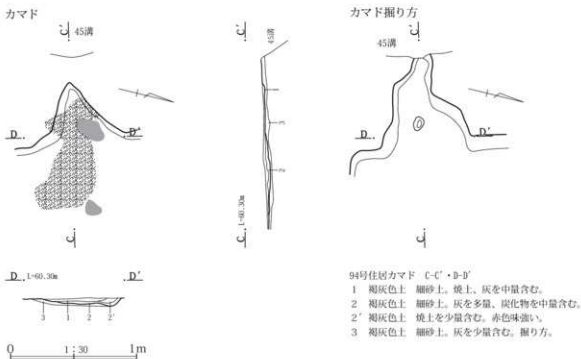
遺物：土師器(杯1点)、須恵器(杯1点)カマド周辺から遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(2)(須恵器)は住居埋没土からの出土であり、本住居に伴う出土であるか明瞭でない。図示した以外に、土師器(杯類26片、甕類40片)、須恵器(甕類3片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、形状から、7世紀後半であるとする。



第555図 1区8面 94号住居、出土遺物

94号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 細砂土。灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 細砂土。しまりやや固い。床層。
- 3 灰化物の薄い層。
- 4 褐灰色土 細砂土。黄褐色土粒を少量含む。掘り方。

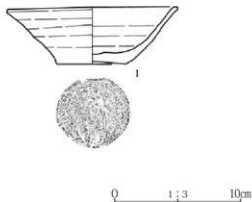


第556図 1区8面 94号住居カマド

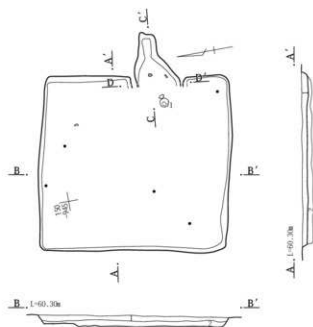
95号住居(第557・558図 PL.128・129・214)

1区中央の住居群内にある。残存状態は良好でない。
 位置：147～150・-942～-946にある。
 規模形状：各辺直線ののである。南北にやや長い長方形を呈している。主軸長2.78m、幅3.01mである。
 埋没土・壁：褐灰色土主体の細砂層で埋没しており、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.09mである。
 方位：N-82°-W 面積：7.41㎡ 床面：傾斜はほとんどない。緩やかな起伏を伴うがおよそ平坦である。貯蔵穴、柱穴等は確認できない。掘り方：ほぼ全面に認められる。北部と北東部がやや浅い。埋め土は、黄褐色土主体の細砂層で、灰を上面に含み固く締まっている。
 壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。
 貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央部やや南寄りに位置する。残存全長0.84m、幅0.96m、焚口幅不明、燃焼部幅0.47m、煙道は壁外側に0.45m張り出している。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、支脚の礎が据えられていた。支脚は、長さ不明、幅0.06m、厚さ0.04mである。両袖共に、削平が進んでおり痕跡がわずかに認められるだけで明瞭でなかった。袖材は、褐灰色土主体の細砂層である。掘り方は、火床下に0.08m前後の窪みが認められた。埋め土は、黄褐色

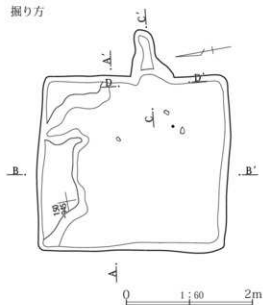
土を、灰を多く含む褐灰色土が覆っている。重複遺構：54号溝、108号住居に後出している。遺物：須恵器(杯1点) カマド周辺及び住居全体から点在するように遺物が出土した。掘り方からも遺物の出土が見られた。そのうち土器1点を図示した。杯(1)(須恵器)は、床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。図示した以外に、土師器(杯類14片、甕類50片)、須恵器(杯類3片、甕類2片)が出土している。所見(婦属時期)：出土遺物、形状から、9世紀代であるとする。



第557図 1区8面 95号住居出土遺物

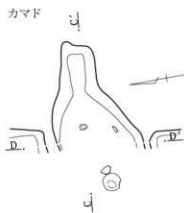


掘り方

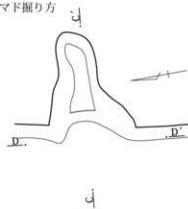


95号住居 A-A'・B-B'

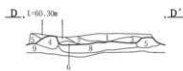
- 1 褐灰色土 細砂上。褐灰色細砂土ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 細砂上。褐灰色細砂土ブロックを少量、炭化物、灰を上面に少量含む。しまりやや強い。床層。



カマド掘り方



0 1:30 1m



95号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 細砂上。焼土粒、灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 細砂上。灰を中量含む。
- 3 褐灰色土 細砂上。焼土粒、灰を中量含む。
- 4 褐灰色土 細砂上。灰を少量含む。
- 5 褐灰色土 細砂上。褐色砂ブロックを多量含む。
- 6 褐灰色土 細砂上。焼土粒、灰を少量含む。
- 7 褐灰色土 細砂上。灰を中量、焼土粒少量含む。
- 8 褐灰色土 細砂上。灰を中量、焼土粒、黄褐色土粒を少量含む。
- 9 黄褐色土 細砂上。褐灰色砂ブロックを少量含む。

96号住居(第559～561図 PL.129・214・215)

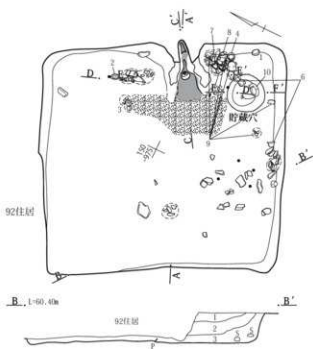
1区西側の住居群内にある。92号住居により、西壁及び北壁の一部が壊されている。床面は壊されていない。位置：147～152・972～977にある。

規模形状：南壁、北壁の東半分と東壁は、ほぼ直線的である。南北にやや長い方形を呈していると思われる。主軸長(3.56)m、幅3.89mである。**埋没土・壁**：褐灰色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、確認した範囲では自然堆積と推察される。壁高は0.45mである。**方位**：N-52°-E **面積**：(11.86)㎡ **床面**：西に傾斜している。中央部は平坦であるが、東部カマド周りは起伏がある。カマド前部に灰の分布がみられた。貯蔵穴は確認できたが、柱穴は認められなかった。住居南部に土師器片が散在しており、カマド右袖側に遺物が集中している。**掘り方**：認められなかった。

壁溝：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：南東部に窪みが確認され、位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、焼土粒、炭化物を含む褐灰色シルト質土である。長径0.59m、短径0.58m、深

さ0.22mである。土師器裏、杯が出土した。埋没土は住居と同様であった。**カマド**：東壁中央部やや南寄りに位置する。全長1.01m、幅0.87m、焚口幅0.47m、燃焼部幅0.27m、煙道は壁外側に0.46m張り出している。燃焼部は住居内に確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、土師器裏が倒置して覆いかぶせてあった。支脚は、長さ0.14m、幅0.04m、厚さ0.06mである。火床から煙道にかけて焼土の分布が観察され、よく使用されていた住居であると推察される。両袖は崩れており、袖材は、粘性のある黄褐色土及び、褐灰色シルト質土である。掘り方は、火床下に0.15m前後の窪みが認められた。埋め土は、褐灰色シルト質土で、灰、焼土粒を多く含んでいる。**重複遺構**：92号住居に前出している。

遺物：土師器(杯4点、鉢1点、ミニチュア土器1点、小型甕2点、甕2点、甕1点) 礫石器(磨石1点) カマド周辺及び住居南部に、集中して遺物が出土した。そのうち土器11点を図示した。杯(3)は床直上からの出土であり、杯(1・2・4)は床上0.06～0.09m浮いた位置からの出土であった。やや浮いている土器もあるが本



96号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土。マンガン粒、酸化鉄凝集を中量、黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。灰を中量、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。褐灰色・黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。



92号住居貯蔵穴 F-F'

F-F', 1.00.00m

- 1 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量、黄褐色土粒、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

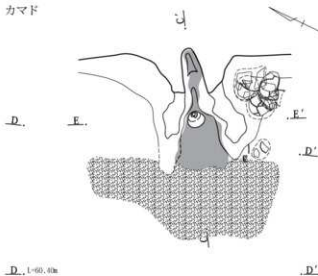
A-A', 1.00.00m

B-B'

0 1:60 2m

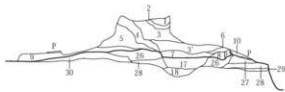
- 4 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。白褐色粘質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。白褐色粘質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質土。白色粘質土粒、焼土粒、灰を少量含む。

カマド



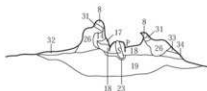
D, 1:60.40m

D'



E, 1:60.40m

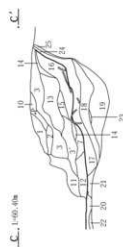
E'



0 1:30 1m

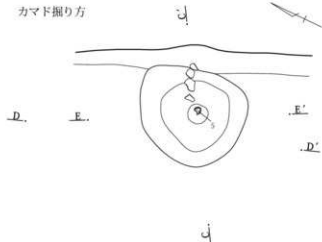
96号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

- 1 褐灰色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを多量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3' にふい黄褐色土 黄褐色粘質土ブロックを中量、炭化物、焼土粒を少量含む。含む。
- 4 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを多量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロック、炭化物、焼土粒、灰を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを多量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質上。灰を多量、黄褐色粘質土ブロック、炭化物、焼土粒を中量含む。
- 8 黄褐色土 粘質土。
- 9 褐灰色土 シルト質上。褐灰色細砂を多量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを多量、焼土粒を少量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロック、炭化物、焼土粒、灰を少量含む。
- 12 褐灰色土 シルト質上。灰を多量、炭化物、焼土粒を中量含む。
- 13 黄褐色土 粘質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 14 焼土層 焼土粒主体。
- 15 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。



C, 1:60.40m

カマド掘り方



D

E

D'

E'

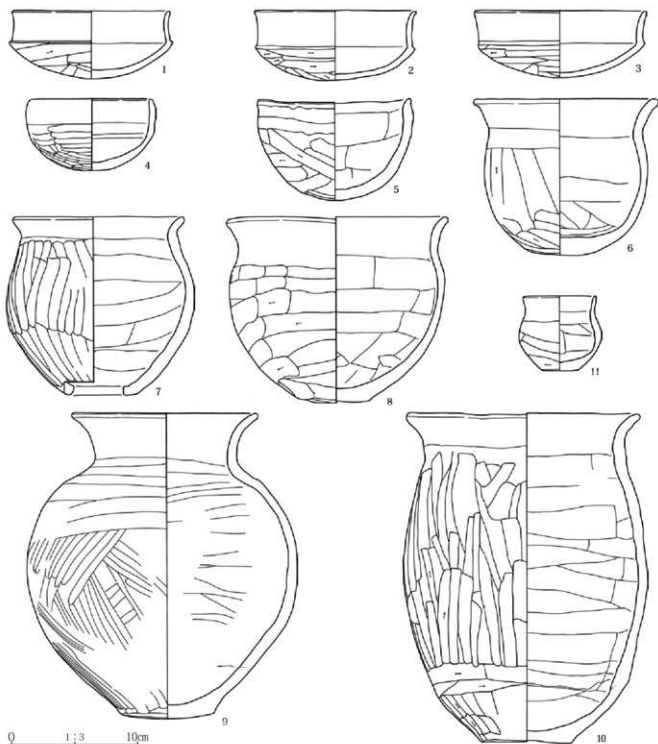
- 16 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを多量、焼土粒を中量含む。
- 17 褐灰色土 シルト質上。焼土粒、灰を多量含む。
- 18 褐灰色土 シルト質上。焼土粒、灰を中量含む。
- 19 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 20 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 21 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 22 褐灰色土 シルト質上。炭化物を少量含む。
- 23 黄褐色土 粘質土。
- 24 焼土層 焼土粒主体。
- 25 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 26 黄褐色土 粘質土。黄褐色粘質土ブロック主体の層。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 27 褐灰色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 28 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土粒、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 29 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土粒を少量含む。
- 30 褐灰色土 シルト質上。白褐色粘質土ブロックを中量含む。
- 31 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土粒、焼土粒を少量含む。
- 32 褐灰色土 シルト質上。白褐色・黄褐色粘質土粒、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 33 褐灰色土 黄褐色粘質土ブロックを中量含む。
- 34 褐灰色土 黄褐色粘質土粒、焼土粒を少量含む。

第560図 1区8面 96号住居カマド

第11章 古墳時代後期～平安時代(8面)の遺構と遺物

住居に伴うものと考えるのが自然である。ミニチュア土器(11)は埋没土からの出土であった。小型甕(6)は貯蔵穴と床直上から、甕(10)は貯蔵穴から、甕(9)は貯蔵穴周りの床直上から出土した。小型甕(8)は床上0.13mの位置から出土した。小型甕(6)・甕(9)は本住居に伴うものと思われる。甕(7)は床上0.06mの位置から出土し

たが、本住居に伴うものと考えるのが自然である。鉢(5)はカマド掘り方からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土もあるが、図示した以外に、土師器(杯類52片、甕類394片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀前半であると考えられる。



第561図 1区8面 96号住居出土遺物

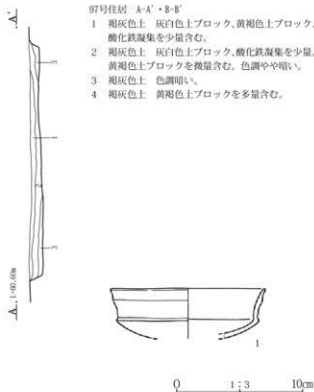
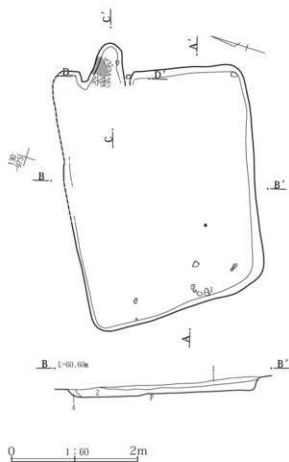
97号住居(第562・563図 PL.129)

1区中央部の住居群内にある。残存状態は良好でない。位置：125～129・972～977にある。

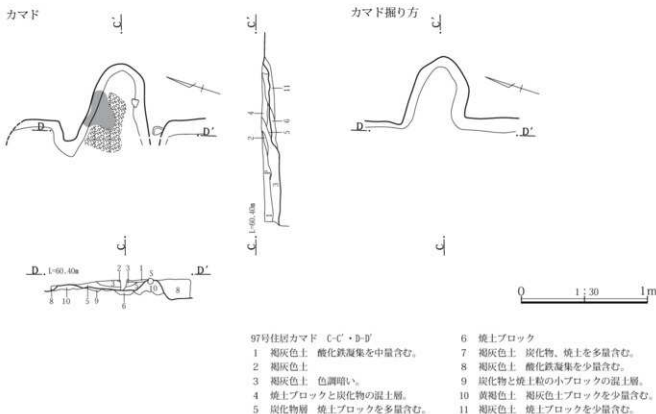
規模形状：各辺直線的である。南壁に比べて北壁が長い。東西に長い方形を呈している。主軸長4.18m、幅2.89mである。**埋没土・壁**：褐灰色土主体の土で埋没している。灰白色土、黄褐色土、鉄分凝集粒を含む。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.25mである。**方位**：N-76°-E **面積**：(10.18)㎡ **床面**：北東に傾斜している。およそ平坦であるが、北部はやや低い。**貯蔵穴、柱穴等**は認められなかった。**掘り方**：認められなかった。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。

カマド：東壁中央部北寄りに位置する。全長0.76m、幅0.89m、焚口幅不明、燃焼部幅0.31m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認

された。火床上には、灰と焼土が観察された。両袖共に崩れが大きく、袖材は、黄褐色土に褐灰色土を混ぜたもので作っている。掘り方は、火床下に0.04m前後の窪みが認められた。埋め土は、焼土ブロック、及び焼土ブロックを含む褐灰色土である。**重複遺構**：145・146・162・163・164・172・176号住居に前出している。**遺物**：土師器(杯1点) 住居西壁際及びカマド周辺から散在するように遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は床から0.08m程浮いた位置から出土している。周囲の遺物土器から本住居に伴うものであると考えるのが自然である。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類17片、甕類41片)が出土している。また、145・146号住居と共通して土師器(杯類45片、甕類161片)が出土している。**所見(帰属時期)**：出土遺物、重複関係から、6世紀後半以降であると考えたい。



第562図 1区8面 97号住居、出土遺物



第563図 1区8面 97号住居カマド

98号住居(第564～566図 PL.129・130・215・216)

1区中央部の住居群内にある。84・90・91・143号住居と重複しているが床面は壊されていない。残存状態は良好である。

位置：146～150・-980～-985にある。

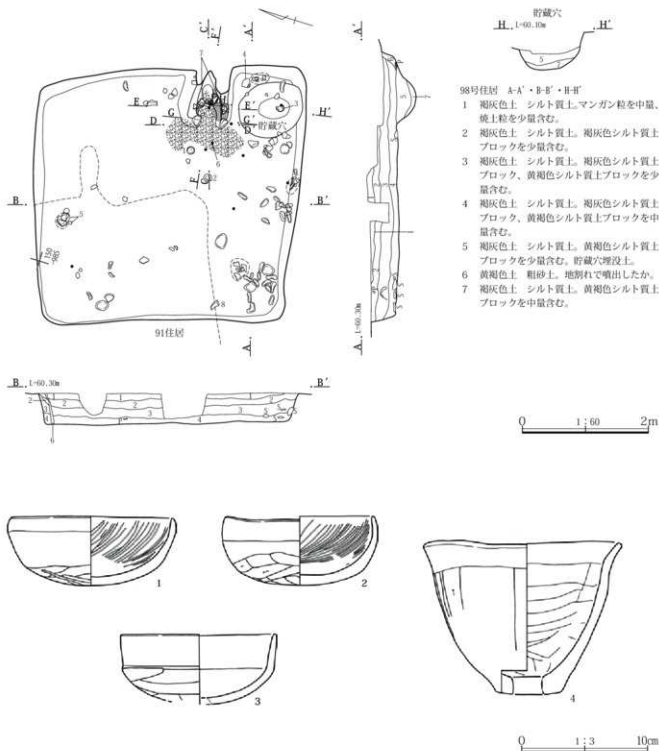
規模形状：各辺やや丸みを帯びている。東壁と南壁が鋭角に交わっているため、全体がやや菱形に近い形を呈している。主軸長(3.93)m、幅4.28mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質土主体で埋没しており、壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.36mである。方位：N-80°-E 面積：15.06㎡

床面：北にやや傾斜している。緩やかな起伏はあるがおおよそ平坦である。カマド内部から前部にかけて灰の分布が確認された。貯蔵穴は認められたが、柱穴は確認できなかった。南西隅と南部に大小礫の集積が見られる。細長い自然石も観察され、磨礪石を含む施設があったと推察される。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ビット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東隅に窪みが確認できた。規模と位置より貯蔵穴と思われる。埋没土は、黄褐色ブロックを含む褐灰色シルト

質土である。住居の埋没土とほぼ同様であり、住居使用時は開口していたと思われる。長径0.99m、短径0.88m、深さ0.3mである。カマド：東壁中央部南寄りに位置する。全長0.92m、幅0.84m、焚口幅0.22m、燃焼部幅0.15mである。短い煙道は確認できたが壁外側に突出していない。燃焼部は、住居内に確認された。火床には、支脚の礫が据えられており、周囲に土師器片が確認された。支脚は、長さ0.21m、幅0.1m、厚さ0.09mである。両袖先端部分には礫が据えられている。袖石は、褐灰色シルト質土で塗り固められており、焚口を構築している。右袖石は、長さ0.32m、幅0.17m、厚さ0.1mである。左袖石は、長さ0.26m、幅0.15m、厚さ0.11mである。袖材は、褐灰色シルト質土である。黄褐色シルト、白褐色粘質土粒、焼土粒、灰を含む。掘り方は、火床下に0.2m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒、炭化物、白褐色粘質土ブロックを含む褐灰色シルト質土である。重複遺構：84・90・91・143号住居に前出している。遺物：土師器(甕1点、杯3点、甕3点) 礫石器(スタンプ型石器1点) 金属器1点 カマド周辺及び住居全体から散在するように遺物が出土した。そのうち土

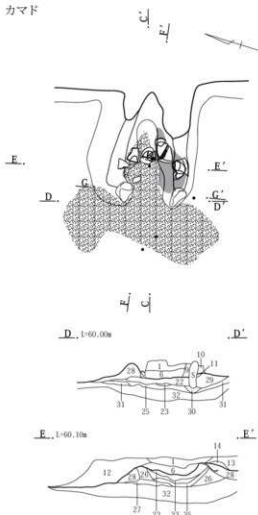
器7点、礫石器1点、金属器1点を図示した。甕(4)は貯蔵穴周辺床直上から出土しており、本住居に伴うものであると考えるのが自然である。杯(2)は貯蔵穴から、杯(1・3)、甕(5・6)は床直上から、甕(7)はカマダからの出土であり、いずれも本住居に伴うものであると考えられる。金属器(9)が出土している。スタンプ型石

器(8)は、混入であると考える。円礫の出土が見られるが、磨編石と思われる礫が南部に観察された。図示した以外に、土師器(杯類5片、甕類50片)、不明土器15片が出土している。所見(縄縄時期)：出土遺物から、6世紀前半であると考える。

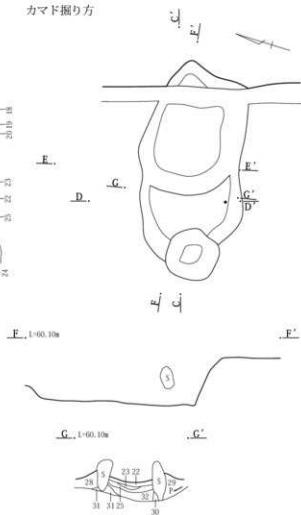


第564図 1区8面 98号住居、出土遺物(1)

カマド



カマド掘り方



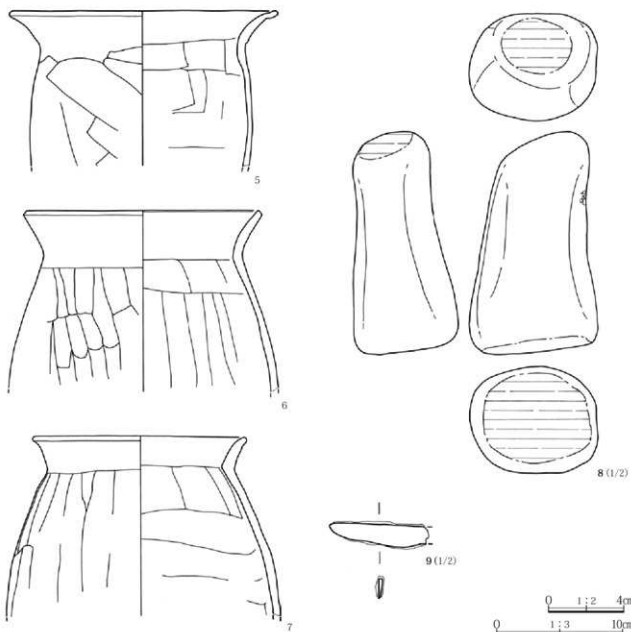
0 1:30 1m

98号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'・G-G'

- 1 褐灰色土 シルト質上。白褐色粘質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を多量、灰を中量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。白褐色粘質土粒、褐灰色細砂土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 4 褐灰色土 細砂土。
- 5 褐灰色土 シルト質上。焼土粒、灰を中量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質上。焼土化した白褐色粘質土ブロック、焼土塊を中量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質上。白褐色粘質土ブロックを中量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質上。白褐色粘質土ブロック、灰を少量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質上。白褐色粘質土ブロック、炭化物、焼土粒、灰を少量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質上。白褐色粘質土ブロックを多量含む。
- 12 褐灰色土 シルト質上。白褐色粘質土。焼土粒を少量含む。
- 13 褐灰色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 14 褐灰色土 シルト質上。灰を中量含む。
- 15 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、白褐色粘質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。

- 16 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 17 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を中量、炭化物を少量含む。
- 18 褐灰色土 シルト質上。焼土粒、灰を中量含む。第2使用面か。
- 19 褐灰色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を中量含む。
- 20 灰褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 21 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 22 褐灰色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を中量含む。
- 23 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を多量、灰を中量含む。
- 24 褐灰色土 シルト質上。灰を中量含む。
- 25 褐灰色土 シルト質上。白褐色粘質土ブロック、灰を少量含む。
- 26 褐灰色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。袖。
- 27 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。袖。
- 28 褐灰色土 シルト質上。白褐色粘質土粒を少量含む。袖。
- 29 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 30 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを多量含む。
- 31 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 32 褐灰色土 シルト質上。白褐色粘質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。

第565図 1区8面 98号住居カマド



第566図 1区8面 98号住居出土遺物(2)

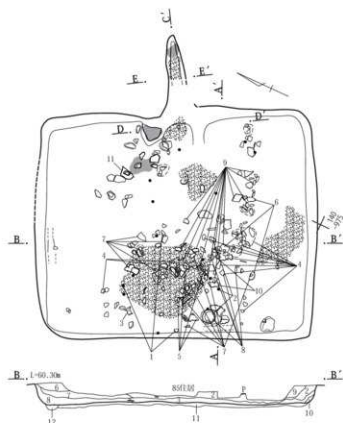
99号住居(第567～570図 PL.130・216・217)

1区西側の住居群内にある。85号住居と重複しているが床面は影響を受けていない。残存状態は良好でない。位置：139～144・-973～-978にある。

規模形状：各辺およそ直線的である。各辺が直交しているため整った形の南北に長い長方形を呈している。主軸長3.58m、幅4.47mである。 **埋没土・壁**：褐灰色シルト質土主体で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.34mである。

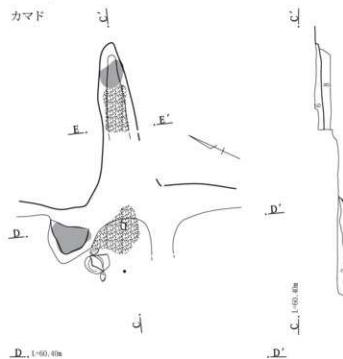
方位：N-55°-E **面積**：13.92㎡ **床面**：傾斜はほとんどない。緩やかな起伏は認められるがおおよそ平坦で

ある。カマド前部に焼土と灰、中央部西寄り、南部中央部に広範囲にわたって灰の分布が確認された。貯蔵穴、柱穴等は確認できなかった。住居中央部から南東部にかけて土師器片等多量の土器の出土を確認する。 **掘り方**：ほぼ全面に認められた。埋め土は、褐灰色シルト質土である。灰、炭化物を多く含む、黄褐色シルト質土ブロック、白褐色粘質土を少量含む。締まりの強い床層である。深さは、0.03～0.07mである。 **壁溝**：断面より、住居北辺と西辺の一部に確認できた。埋没土は、褐灰色シルト質土である。炭化物、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。北辺は、幅0.19m、深さ0.07mである。西



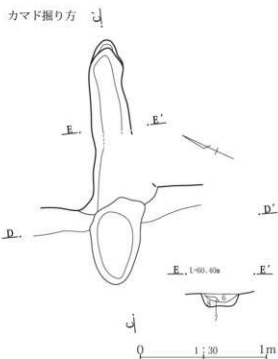
99号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質上ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。炭化物、灰、褐灰色シルト質上ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。炭化物、灰を中量、褐灰色シルト質上ブロックを少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質上。黄褐色土粒、焼土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質上ブロックを中量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質上。マンガン粒を中量、褐灰色シルト質上ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロック、灰を少量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質上。黄褐色土粒、焼土粒を少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質上ブロック、炭化物を少量含む。
- 10 黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質上。灰、炭化物をやや多く含む。黄褐色シルト質上ブロック、白褐色粘質土を少量含む。やや固くしまる。床層。
- 12 褐灰色土 シルト質上。炭化物、黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。



99号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

- 1 褐灰色土 シルト質上。黄褐色土粒、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。黄褐色土粒、焼土粒、褐灰色シルト質上ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。黄褐色土粒、焼土粒、炭化物を少量含む。

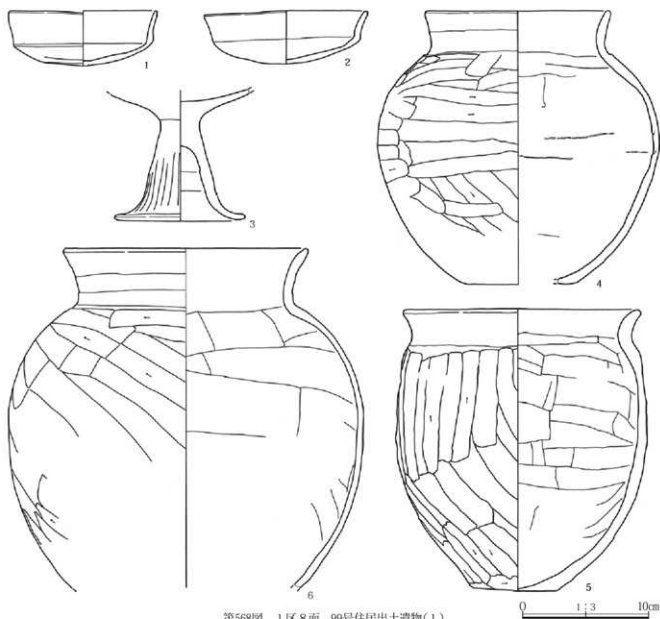


- 4 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質上。黄褐色土粒、焼土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質上。黄褐色土粒、焼土粒、炭化物、灰を少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質上。白褐色粘質土上ブロック、焼土粒、炭を少量含む。

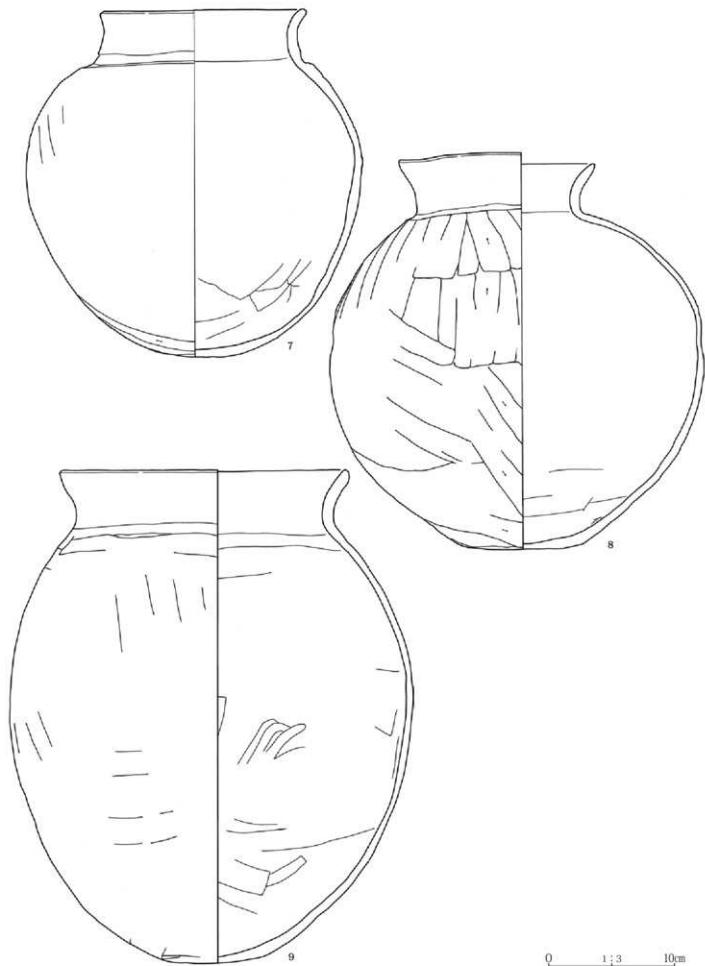
第567図 1区8面 99号住居

辺は、幅0.21m、深さ0.08mである。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央部に位置する。全長1.73m、幅不明、焚口幅不明、燃烧部幅不明、煙道は壁外側に1.21m突出している。燃烧部は、住居内から壁際にかけてであると思われる。火床上には、灰の分布が見られた。左袖先端部分付近に土師器襷片が認められ袖壁を構築していたと思われる。袖材は、褐灰色シルト質土である。掘り方は、火床下に0.11m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒、炭化物、白褐色粘質土ブロックを含む褐灰色シルト質土である。重複遺構：85・113・119・126・140・142号住居に前出している。遺物：土師器(杯2点、高杯1点、

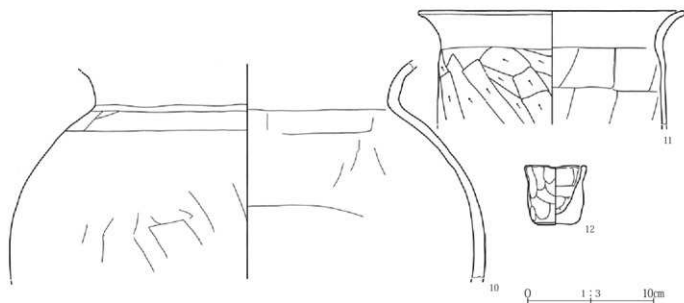
小型甕1点、甕6点、壺1点、手捏ね1点)カマド前部及び、住居中央部から東壁かけて帯状に遺物が出土した。そのうち土器12点を図示した。杯(1・2)、高杯(3)、小型甕(5)、甕(4・6・7・9・10・11)、壺(8)は床直上からの出土であり、散在しているものもあるが、いずれも本住居に伴うものと考えるのが自然である。手捏ね(12)は、埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類165片、甕類635片)、須恵器(甕類2片)が出土している。所見(縄属時期)：出土遺物から、6世紀後半であると考えられる。



第568図 1区8面 99号住居出土遺物(1)



第569图 1区8面 99号住居出土遗物(2)



第570図 1区8面 99号住居出土遺物(3)

100号住居(第571～574図 PL.130・217・218)

1区西側の住居群内にある。144号住居により北壁及び付近の床面が壊されている。その他の残存状態は良好である。

位置：131～139・-966～-974にある。

規模形状：各辺ほぼ直線形である。隅は丸みを帯びている。整った形の正方形を呈した大型住居である。主軸長6.56m、幅6.40mである。埋没土・壁：褐灰色土主体で埋没している。灰白色土ブロックを含む。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.34mである。方位：N-60°-E 面積：(30.27)㎡

床面：北にやや傾斜している。西部に起伏がみられる。他は緩やかな起伏は認められるが、およそ平坦である。カマド内部から前部及び両袖側に灰が確認できる。左袖側及びP9付近には焼土が確認される。貯蔵穴は確認された。柱穴は、複数認められた。掘り方：ほぼ全面に認められた。四方と中心の間を枠状に高く残して、残りを深く掘っている。掘り方中央方形部分の埋め土は、にぶい黄褐色土で、炭化粒子、褐灰色土ブロックが混入しており、よく踏み固められており締まりが強い。深さは、0.14～0.22m程である。掘り方周辺部分の埋め土は、暗褐色土で、褐灰色土・褐色土ブロック、炭化物が混入しており、やはり締まりが強い。深さは、0.16～0.24m程である。その後、中央部、周辺部共に、暗褐色土で貼床を施している。褐色土、褐色土ブロック、炭化物を

含み締まりが強い。深さは、0.04m前後である。

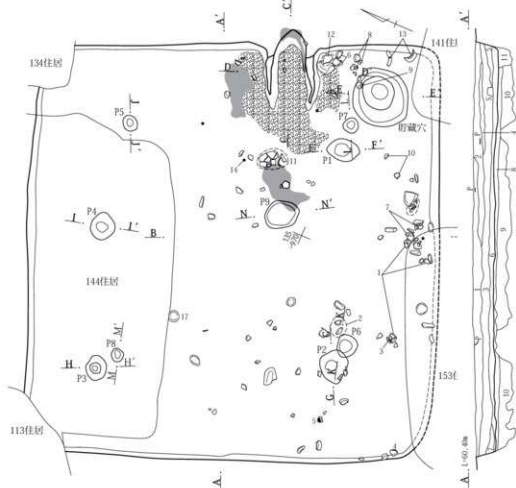
壁溝：東辺の断面に認められる。埋没土は、黄褐色ブロック、炭化物を含むにぶい黄褐色土であり、締まりが弱い。幅0.34m、深さ0.22mである。ピット(柱穴)：全部で9つ確認された。これらは規則的な主柱穴配置による柱穴であると思われる。P7はP1を、P6はP2をP8はP3をやり直したものであると思われる。位置・規模及び埋没土より、P1・P2・P3・P4及びP7・P6・P8・P5が同時期の主柱穴配置のものであると思われる。P9については、明確な判断ができなかった。

各柱穴の規模及び埋没土は次の通りである。

(長径×短径×深さm)

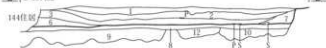
P1	0.52×0.37×0.22	灰黄褐色土	シルト質
P2	0.50×0.44×0.23	灰黄褐色土	シルト質
P3	0.39×0.32×0.28	灰黄褐色土	シルト質
P4	0.44×0.38×0.26	灰黄褐色土	シルト質
P5	0.24×0.22×0.23	にぶい黄褐色土	暗褐色度
P6	0.36×0.32×0.25	灰黄褐色土	シルト質
P7	0.25×0.24×0.32	にぶい黄褐色土	暗褐色度
P8	0.22×0.19×0.11	暗褐色土	細砂を含む
P9	0.54×0.44×0.16	暗褐色度褐色土	灰黄褐色土に にぶい黄褐色土

貯蔵穴：南東隅に窪みが確認された。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、灰、炭化物、焼土粒を含む灰黄褐色土に、シルト質土ブロックを含む灰黄褐色土が



- 100号住居 A-A'・B-B'
- 1 褐灰色土 黄褐色土、灰白色土小ブロックを少量含む。黄色味や強い。
 - 2 褐灰色土 炭化物を少量含む。
 - 3 褐灰色土 炭化物を中量含む。
 - 4 褐灰色土 2層と3層の善移層。黄褐色土ブロックを少量含む。
 - 5 褐灰色土 炭化物を中量含む。
 - 6 褐灰色土 炭化物を多量含む。
 - 7 褐灰色土 炭化物を微量含む。色調暗い。
 - 8 暗褐色土 褐色土ブロック、炭化物、酸化鉄分粒を少量含む。しまり強い。床層。
 - 9 にふい黄褐色土 褐灰色土ブロック。炭化物を少量含む。しまりやや弱い。
 - 10 暗褐色土 褐色土小ブロック、褐色土小ブロック。炭化物を中量含む。しまりやや弱い。
 - 11 にふい黄褐色土 黄褐色土小ブロック。炭化物を少量含む。しまりやや弱い。
 - 12 にふい黄褐色土 炭化物を少量含む。しまりやや弱い。

B. 1:60. 40m



100号住居貯蔵穴 E-E'

- 1 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。
- 3 灰黄褐色土 シルト質上。炭化物、焼土粒、灰を少量含む。

貯蔵穴 E. 1:60. 10m



P1 E. 1:60. 10m



P2 G. 1:60. 10m



P3 H. 1:60. 00m



P4 I. 1:60. 30m



P5 J. 1:59. 80m



P6 K. 1:60. 00m



P7 L. 1:59. 90m



P8 M. 1:59. 80m



P9 N. 1:60. 00m



100号住居内ビット F-F'・G-G'・H-H'・I-I'・J-J'・K-K'・L-L'・M-M'・N-N'

- 1 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。
- 3 灰黄褐色土 シルト質上。炭化物、焼土粒、灰を少量含む。
- 4 灰黄褐色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 にふい黄褐色土 シルト質上。黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。

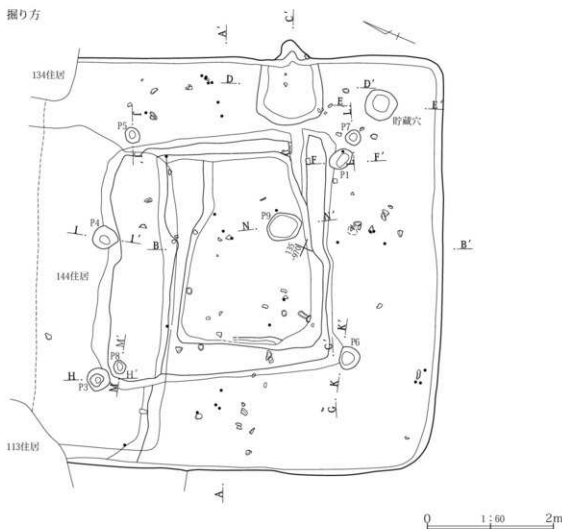
- 6 暗褐色土 シルト質上。しまりやや弱い。
- 7 暗褐色土 シルト質上。褐灰色土小ブロックを少量含む。しまり強い。
- 8 暗褐色土 シルト質上。細砂土を少量含む。
- 9 褐色土 粘質土。細砂土を微量含む。粘性強い。
- 10 暗褐色土 細砂土。褐灰色土小ブロックを少量含む。
- 11 灰黄褐色土 シルト質上。
- 12 にふい黄褐色土 シルト質上。褐灰色土ブロックを微量含む。粘性やや強い。



第571図 1区8面 100号住居

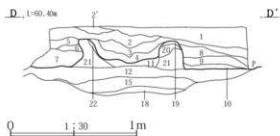
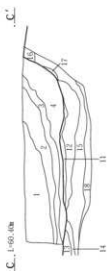
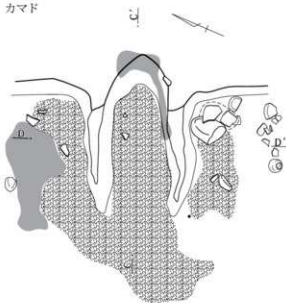
載っている。長径0.92m、短径0.86m、深さ0.68mである。カマド：東壁中央部やや南寄りに位置する。全長1.28m、幅0.89m、焚口幅0.44m、燃焼部幅0.41m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、灰の分布が、先端には焼土の分布が見られた。よく使用されたカマドであることを示している。右袖側には礫と土師器片が出土しており、袖壁の構築材であったと思われる。袖材は、黄褐色土で、表面が焼土化している。掘り方は、火床下に0.24m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰黄褐色土で、灰、焼土ブロック、炭化物を含む。重複遺構：131・149・151号住居に後出してあり、107・113・134・140・141・144・153号住居に前出している。遺物：土師器(杯8点、小型壺1点、小型台付鉢1点、甗1点、甗2点)、土製

品(土錘2点、丸玉1点) 礫石器(石皿1点) カマド周辺及び住居南部から散在するように遺物が出土した。そのうち土器13点、土製品3点、礫石器1点を図示した。杯(1・2・3・4・5・6・7・8)、小型壺(10)、小型台付鉢(9)、甗(11)、甗(12・13)、丸玉(14)、石皿(17)は床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。土錘(15・16)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られるが、図示した以外に、土師器(杯類490片、甗類1,070片)、須恵器(甗類2片)が出土している。また、140・144号住居と共通して土師器(杯類15片、甗類33片)、須恵器(甗類1点)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀前半であると考える。

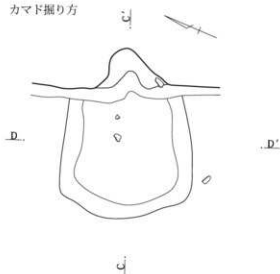


第572図 1区8面 100号住居掘り方

カマド



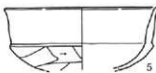
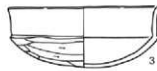
カマド掘り方



100号住居カマド C-C'・D-D'

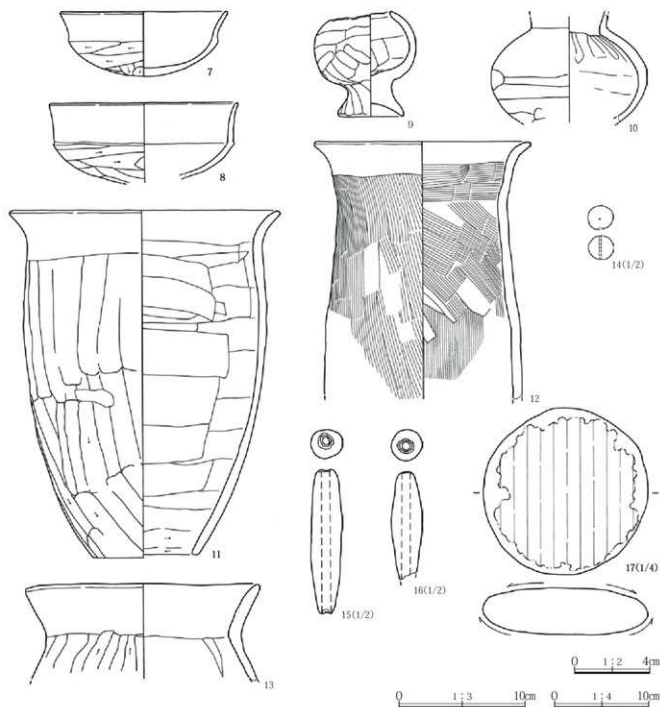
- 1 褐灰色土 黄褐色土ブロック(カマド材の崩れたもの)を多量、焼土ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 焼土ブロックを多量含む。
- 2' 黄褐色土 焼土ブロックを中量含む。
- 3 焼土、炭化物、灰の混土层。
- 4 焼土ブロック 3層との間に炭化物が薄く堆積。奥壁寄りには褐灰色土ブロック、灰を含む。
- 5 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量含む。黄色味強い。
- 6 暗灰色土 炭化物、灰を多量含む。黒色味強い。
- 7 にぶい黄褐色土 褐灰色土ブロック、炭化物を多量含む。
- 8 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量含む。黄色味強い。
- 9 褐灰色土 炭化物、焼土粒を微量含む。
- 10 褐灰色土 にぶい黄褐色土ブロックを少量、炭化物、焼土粒を微量含む。
- 11 灰黄褐色土 灰を多量、黄褐色土ブロック、黄褐色土ブロック、炭化物、焼土粒を中量含む。
- 12 灰黄褐色土 黄褐色土ブロック、焼土ブロック、炭化物、灰を中量含む。

- 13 灰黄褐色土 焼土粒、灰を中量含む。
- 14 灰黄褐色土 焼土粒、灰を少量含む。
- 15 灰黄褐色土 灰を中量含む。
- 16 灰黄褐色土 焼土ブロックを中量含む。
- 17 灰黄褐色土 焼土ブロックを中量、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 18 灰黄褐色土 灰白色土ブロック、浅黄褐色土ブロックを少量含む。
- 19 黄褐色土 袖。
- 20 黄褐色土 焼土ブロックを中量含む。袖。
- 21 黄褐色土 焼土粒を少量含む。袖。
- 22 黄褐色土 焼土化している。袖。



第573図 1区8面 100号住居カマド、出土遺物(1)

0 1:3 10cm



第574図 1区8面 100号住居出土遺物(2)

101号住居(第575・576図 PL.131)

1区中央部の住居群内にある。他遺構と重複しているため、全容が明らかでない。86号住居と重複して西壁を壊されているが、床面は壊されていない。

位置：133～139・-958～-963にある。

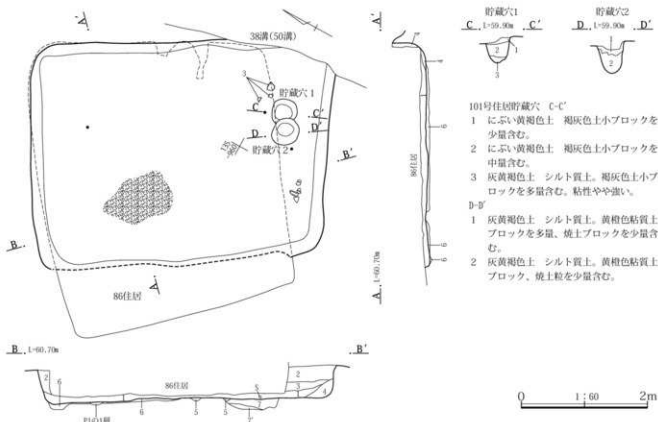
規模形状：北壁は丸みを帯びている。その他の壁はおおよそ直線的である。西壁に対して東壁がやや長いと思われる。南北に長い長方形を呈している。長軸長(4.79)m、

短軸長(3.50)mである。埋没土・壁：黄褐色土ブロックとにぶい黄褐色土の混土の上に褐色土色が埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.49mである。方位：N-30°-W
面積：(12.46)㎡ 床面：北に傾斜している。緩やかな起伏を伴いおおよそ平坦である。中央部よりやや北西に灰が認められる。貯蔵穴の窪みが確認された。掘り方：ほぼ全面に認められた。埋め土は、褐色土色である。深さ

は0.04m程である。掘り方には、複数のピットと床下土坑が2つ確認された。床下土坑1の埋没土は、灰白色土ブロックの混入した褐色土である。長径0.48m、短径0.44m、深さ0.08mである。床下土坑2の埋没土は、黄褐色土ブロックを混入したふい黄褐色土及び暗黄灰色土である。長径2.18m、短径1.48m、深さ0.22mである。

掘り方：中央部がやや低く掘られている。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：床下に3つ認められた。もう一つの窪みを含めると、規則的な主柱穴配置による柱穴であると思われる。重複した住居の柱穴か本住居のものであるか明瞭でない。または、共通の柱穴である場合も考えられる。P1の埋没土は、灰白色ブロックを含む褐色土である。長径0.28m、短径0.26m、深さ0.25mである。P2の埋没土は、黄褐色土ブロックを含むふい黄褐色土である。長径0.24m、短径0.23m、深さ0.26m

である。P3の埋没土は、灰白色ブロックを含む褐色土である。長径0.29m、短径0.26m、深さ0.08mである。**貯蔵穴**：南部やや東寄りに、落ち込みが2つ認められる。位置より貯蔵穴と思われる。貯蔵穴2が1を切っていることから、貯蔵穴2が新しい。貯蔵穴1の埋没土は、灰黄褐色土及びふい黄褐色土が主体である。褐色土小ブロックを含んでいる。長径0.42m、短径0.38m、深さ0.32mである。貯蔵穴2の埋没土は、黄褐色粘質土ブロックを含む灰黄褐色である。長径0.43m、短径0.42m、深さ0.41mである。**カマド**：認められない。**重複遺構**：7号竪穴状遺構に重複しており、86・38・117号溝に前出している。**遺物**：土師器(杯2点、甕1点)、土製品(土鏝1点) 住居南部中心に遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1)は床下土坑からの出土である。杯(2)は埋没土から、甕(3)は床直上から床上0.06m



101号住居 A-A'・B-B'

- 1 黄褐色土ブロックとふい黄褐色土の混入層。最下層に炭化物の薄い層。
- 2 褐色土 黄色味強い。
- 3 褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 4 褐色土 色調暗い。

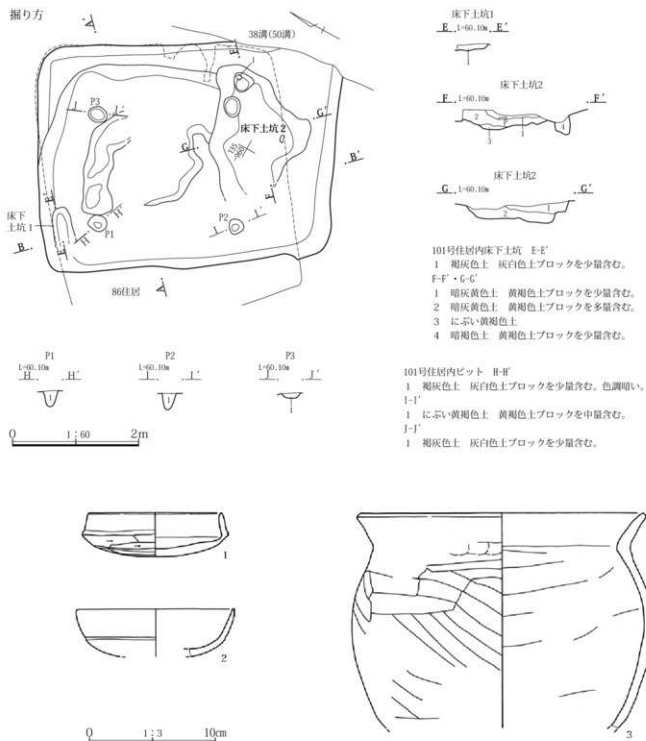
- 5 褐色土 黄褐色土ブロックを多量含む。

- 6 褐色土 色調暗い。掘り方。
- 7 褐色土 暗褐色土ブロック、灰白色土ブロック中量含む。2号床下土坑埋没土。
- 7' 褐色土 暗褐色土ブロック、灰白色土ブロック中量、褐色土小ブロックを少量含む。2号床下土坑埋没土。

第575図 1区8面 101号住居

にかけて出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。土師が出土しているが、86号住居と本住居のどちらの埋没土から出土したのか判明しなかった。円礫の出土が見られるが、図示した以外に、土師器(杯類10片、甕56片)、須恵器(甕類1片)、不明土器1片が出土

している。また、86号住居と共通して土師器(杯類34片、甕類66片)、不明土器2片を出土している。所見(帰属時期): 出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考える。図示した遺物においては、埋土、床直の時期差は認められない。



第576図 1区8面 101号住居掘り方、出土遺物

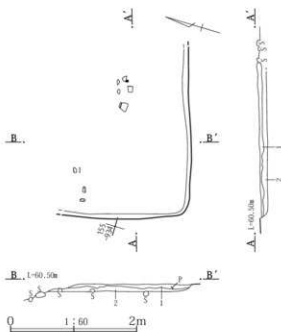
102号住居(第577図 PL.131)

1区東側の住居群内にある。床面が削平されており、全容が明らかでない。Hr-FP泥流を含む河川の礫層に浸食されているため南西隅一部の調査となった。

位置：153～156・-930～-934にある。

規模形状：西壁、南壁とも直線的である。両辺が直交していることから、整った形の方形であったと推察できる。長軸長(2.80)m、短軸長(2.06)mである。埋没土・壁：使用面が削平されており、掘り方のみ残存している。

方位：N-73°-E 面積：(5.24)㎡ 床面：使用面は削平されており確認できなかった。掘り方は認められた。



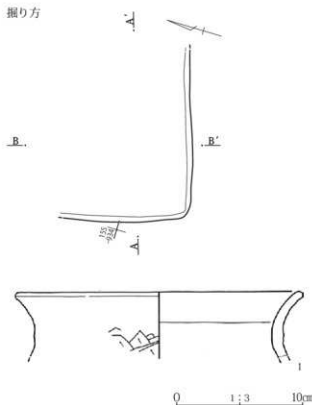
102号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土、黄褐色細砂土ブロックを少量含む。上層に灰。上面が削られた床層か。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色細砂土ブロックを多量、黄褐色細砂土ブロックを少量含む。

第577図 1区8面 102号住居、出土遺物

埋め土は、黄褐色、褐灰色細砂ブロックを含む褐灰色土である。残存している深さは0.12mなので、本来の深さはそれ以上であると思われる。壁溝：認められない。

ビット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：不明
重複遺構：なし 遺物：土師器(甕1点) 住居南西部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。甕(1)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土も僅かに認められた。図示した以外に、土師器(杯類10片、甕類29片)、須恵器(杯類2片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、7世紀代であると考えられる。



103号住居(第578・579図 PL.131・218)

1区中央部の住居群内にある。48号住居と重複しているため、北壁が明瞭でない。残存状態も良好でない。

位置：127～132・-983～-987にある。

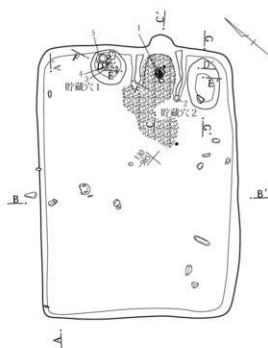
規模形状：各辺丸みを帯びている。東西に長い長方形を呈していると推察される。主軸長4.35m、幅3.15mである。埋没土・壁：褐灰色土で埋没している。壁側から

埋もれている状況がみられるが、住居中央部分に不自然な堆積が観察され、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.28mである。方位：N-56°-E 面積：11.37㎡ 床面：傾斜はほぼない。南部にやや起伏が見られるが、およそ平坦である。カマド内から前部にかけて灰の分布を確認する。カマドの左右に2つ貯蔵穴の窪みが確認できた。柱穴は認められなかった。掘り方：認めら

れなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：1号貯蔵穴は東辺直下中央やや北寄りに、2号貯蔵穴は南東隅に落ち込みを確認する。位置及び規模より双方共に貯蔵穴と思われる。1号貯蔵穴の埋没土は、褐灰色土で、上層に炭化物が散見される。長径0.56m、短径0.53m、深さ0.12mである。2号貯蔵穴の埋没土は、炭化物、焼土を含む灰黄褐色土及び褐灰色土、にぶい黄褐色土である。酸化鉄凝集層も観察でき

た。長径0.81m、短径0.51m、深さ0.32mである。

カマド：東壁中央やや南寄りに位置する。全長0.97m、幅0.86m、焚口幅0.48m、燃焼部幅0.53m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内に確認された。火床上には、支脚の礎が据えられており、杯が覆っていた。支脚は、長さ0.24m、幅0.11m、厚さ0.14mである。周囲には、灰の分布が確認された。右袖先端部に高杯が認められ袖壁の構築材であったと思われる。袖材は、褐灰色



103号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、酸化鉄凝集を中量含む。
- 1' 褐灰色土 黄褐色土ブロック、鉄分凝集粒を多量に含む。
- 2 褐灰色土 黄灰白色土のブロックを少量、酸化鉄凝集、炭化物、焼土を微量含む。
- 2' 褐灰色土 ブロック状に混入。灰色味強い。
- 3 褐灰色土 黄褐色土粒を少量含む。しまり強い。色調暗い。
- 3' 褐灰色土 黄褐色土粒を少量含む。しまり非常に強い。色調暗い。

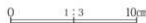
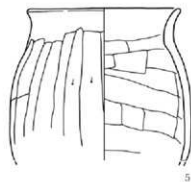
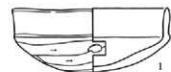


103号住居貯蔵穴1 E-E'

- 1 褐灰色土 上層に炭化物を含む。黄色味やや強い。

103号住居貯蔵穴2 F-F'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 4 酸化鉄凝集層
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。

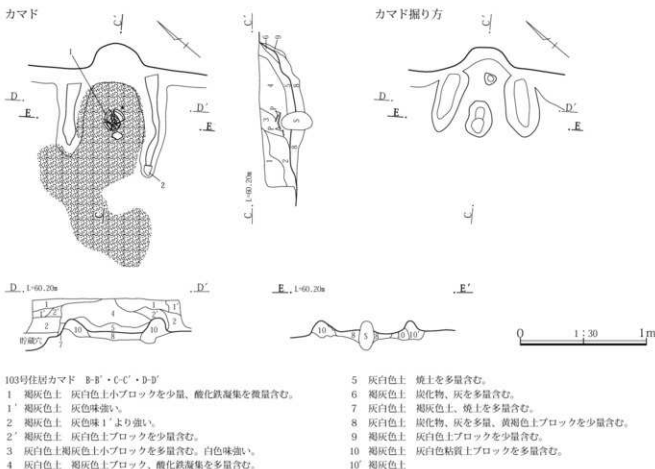


第578図 1区8面 103号住居、出土遺物

第11章 古墳時代後期～平安時代(8面)の遺構と遺物

土と灰白色土の粘質土ブロックの混土である。掘り方は、火床下に0.12m前後の窪みと支脚の石の窪みが確認できた。埋め土は、炭化物・灰層である。灰白色土、黄褐色ブロックを含む。 重複遺構：48・57号住居と重複しており、150号住居に後出している。 遺物：土師器(杯1点、高杯1点、小型壺2点、小型甕1点) カマド周辺及び貯蔵穴を中心に遺物が出土した。そのうち土器5点を図示した。杯(1)はカマド使用面直上、高杯(2)は右

袖からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。小型壺(3・4)、小型甕(5)は、貯蔵穴から出土しており、本住居の施設に伴うものであると考えるのが自然である。川原石状の礫の出土は見られなかった。図示した以外に、土師器(杯類19片)、甕類46片)が出土している。 所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半であると考ええる。



第579図 1区8面 103号住居カマド

104号住居(第580～582図 PL.131・218)

1区東側の住居群内にある。残存状態は良好である。

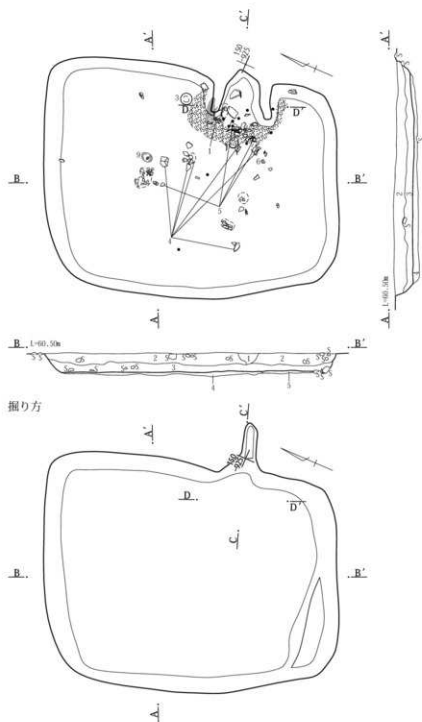
位置：147～152・-924～-929にある。

規模形状：北辺、西辺は曲線を描いている。南辺は直線的である。南北に長い丸みを帯びた長方形を呈している。長軸長4.60m、短軸長3.22mである。 埋没土・壁：砂質土の暗褐色土主体で埋没している。壁高は0.26mである。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察されるが、1層は人為的な埋戻しであると思われる。

方位：N-68°-E 面積：12.53㎡ 床面：傾斜はほとんどない。ゆるやかな起伏を伴うがおおよそ平坦である。カマド前部から両袖側に灰の分布を確認する。貯蔵穴、柱穴等は認められなかった。掘り方は、ほぼ全面に認められた。埋め土は、灰、炭化物、焼土粒を含む砂質土の暗褐色土である。締まりが強い。深さ0.08m程である。壁溝：認められない。 ビット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。 カマド：東壁中央や南寄りに位置する。全長0.88m、幅1.18m、焚口幅0.62m、燃

焼部幅0.41m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、周囲から焚口部にかけて土師器片が散見される。支脚は、長さ0.2m、幅0.12m、厚さ0.06mである。両袖共に礫を複数積み重ねて芯材とし、砂質土の暗褐色土及び褐灰色シルト質土を袖材として塗り固めてカマドを構築している。左袖表面には焼土が観察でき

た。右袖先端部では、礫を4段重ねており、左袖先端部では、礫を3段重ねている。最も大きなもので、左袖中段で、長さ0.33m、幅0.2m、厚さ0.11mである。火床下に0.06～0.12m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒、炭化物を含む砂質土の暗褐色土である。
重複遺構：なし **遺物**：土師器(杯3点、甕4点)、須恵器(甕1点)、礫石器(凹石1点) カマド周辺を中心とし



104号住居 A-A'・B-B'

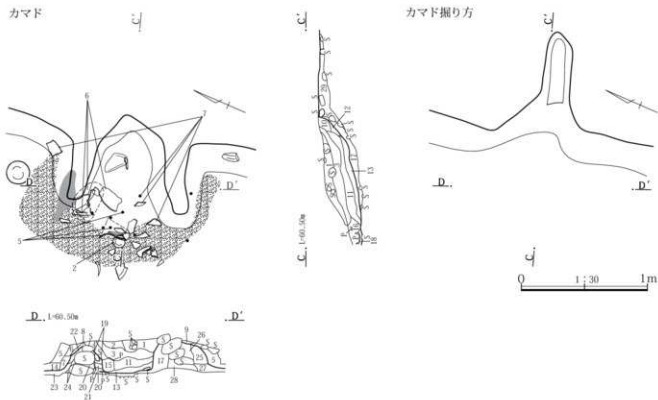
- 1 黄褐色土 砂質土。褐灰色砂質土ブロックを中量含む。
- 2 暗褐色土 砂質土。小礫、褐灰色砂質土を中量、焼土粒を少量含む。
- 3 暗褐色土 砂質土。小礫、褐灰色砂質土を中量、黄褐色砂質土ブロック、炭化物、焼土粒、灰を少量含む。
- 4 暗褐色土 砂質土。炭化物、灰を中量、焼土粒を少量含む。しまりやや固い。床層。
- 5 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、炭化物、灰を少量含む。しまりやや固い。床層。

第580図 1区8面 104号住居

第11章 古墳時代後期～平安時代(8面)の遺構と遺物

て住居全体から遺物が出土した。そのうち土器8点、礫石器1点を図示した。杯(1・2・3)及び甕(4・5・6・7)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(8)(須恵器)は、住居埋没土からの出土であり、本住居に伴う出土であるか明瞭でない。凹石(9)は床から0.23m浮いた位置での出土であり、本住居に伴

う出土であるか明瞭でない。図示した以外に、土師器(杯類129片、甕類462片)、須恵器(杯類5片、甕類12片)が出土している。所見(編属時期):出土遺物から、7世紀前半であると考える。図示した遺物において、埋土、床直の時期差は認められない。

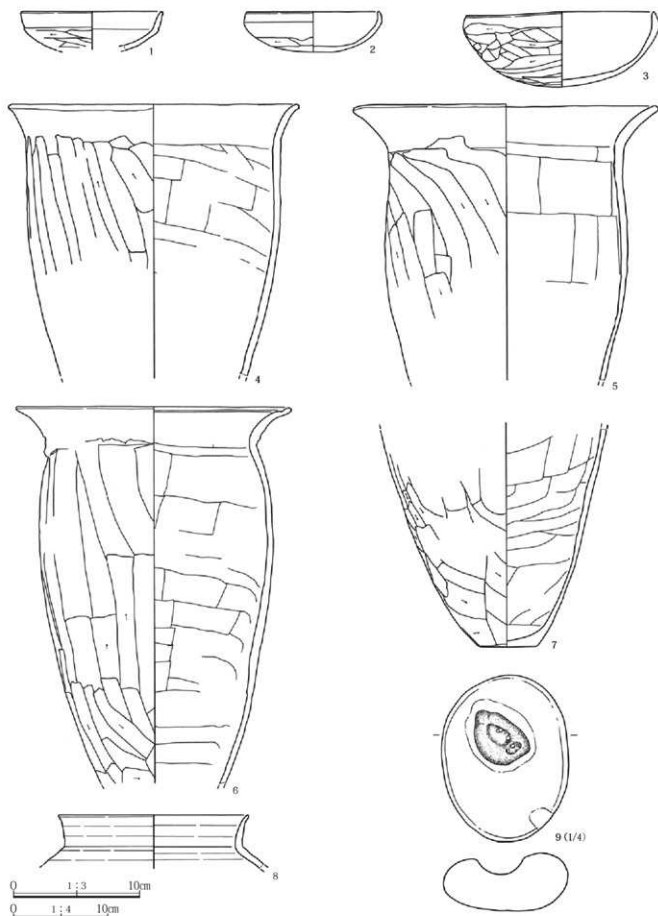


104号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 暗褐色土 砂質土。褐色砂質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 暗褐色土 砂質土。焼土粒を中量、褐色砂質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 3 暗褐色土 砂質土。焼土粒を多量、炭化物、灰、黄褐色砂質土ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 砂質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 暗褐色土 砂質土。小礫(φ1～10cm)、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 6 暗褐色土 砂質土。炭化物を中量、焼土粒を少量含む。
- 7 暗褐色土 砂質土。炭化物を中量含む。
- 8 焼土塊
- 9 暗褐色土 砂質土。小礫(φ1～15cm)、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 10 暗褐色土 砂質土。小礫(φ1～5cm)、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 11 暗褐色土 砂質土。炭化物、焼土塊、焼土粒を多量含む。
- 12 暗褐色土 砂質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 13 暗褐色土 砂質土。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 14 暗褐色土 砂質土。褐色細砂土ブロックを中量、炭化物を少量含む。

- 15 暗褐色土 砂質土。焼土粒を多量含む。
- 16 暗褐色土 砂質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 17 暗褐色土 砂質土。灰を多量、焼土粒を中量、炭化物を少量含む。
- 18 暗褐色土 砂質土。灰を多量、焼土粒、炭化物を中量含む。
- 19 暗褐色土 砂質土。褐色砂質土ブロックを中量、炭化物、焼土粒を少量含む。袖。
- 20 暗褐色土 砂質土。炭化物を中量、褐色砂質土ブロックを少量含む。袖。
- 21 褐色土 砂質土。シルト質土。袖。
- 22 暗褐色土 砂質土。焼土粒を多量含む。袖。
- 23 暗褐色土 砂質土。炭化物を中量含む。袖。
- 24 暗褐色土 砂質土。焼土粒を少量含む。袖。
- 25 褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。袖。
- 26 褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。袖。
- 27 褐色土 シルト質土。炭化物を中量含む。袖。
- 28 褐色土 粘質土。袖。
- 29 暗褐色土 砂質土。小礫を少量含む。袖。

第581図 1区8面 104号住居カマド



第582図 1区8面 104号住居出土遺物

105号住居(第583～585図 PL.131・132・219)

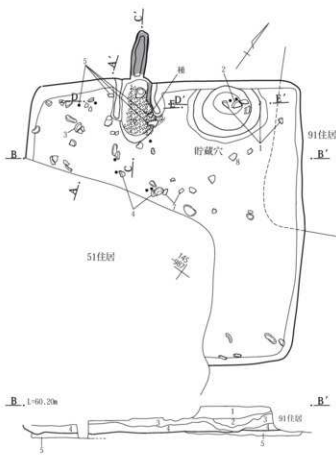
1区中央部の住居群内にある。複数の住居と重複しているため全容が明らかでない。51号住居により中央から南西部分にかけて床面を壊されている。91号住居により、東壁の一部は壊されているが床面は壊されていない。

位置：144～148・-984～-990にある。

規模形状：北壁、東壁、南壁とも直線的である。東壁と南壁が鈍角に交わることから、東西にやや潰れた方形を呈していると思われる。主軸長(4.49)m、幅(4.39)mである。埋没土・壁：黄褐色土主体で埋没している。灰白色土、灰白色粘質土ブロックが含まれる。壁側から埋もれている部分のみなら自然堆積と推察されるが、一部不自然な堆積も見られ明瞭ではない。壁高は0.39mである。

方位：N-32°-E 面積：(11.35)㎡ 床面：北西に傾斜している。緩やかな起伏が見られるが、ほぼ平坦である。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は認められなかった。掘り方：中央部以外で認められた。埋没土は、黄褐色土と炭化物の混土である。深さは、0.04～0.08m程度である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認

められない。貯蔵穴：北東隅北壁直下に窪みを確認する。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、締まりのある褐色土をにふい黄褐色土が埋めており、炭化物を含んでいる。長径0.75m、短径0.7cm、深さ0.4mである。カマド：北壁中央に位置すると思われる。全長1.45m、幅0.82m、焚口幅0.6m、燃烧部幅0.41m、煙道は壁外側に0.76m突出している。燃烧部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が据えられており、周囲に灰の分布が確認された。支脚は、長さ不明、幅0.17m、厚さ0.14mである。右袖沿い及び煙道では焼土が観察され、よく使用されていたカマドであることを示している。袖材は、粘性のある灰白色土と黄褐色土を混ぜて塗り固めて作っている。加熱を受けて焼土化した部分も観察される。掘り方は、火床下に0.08m前後の窪みが認められた。埋没土は、炭化物、焼土の混土及び、炭化物を含む灰層である。掘り方の埋没土が右袖下に認められるため、右袖は作り替えた可能性がある。重複遺構：51・91号住居に前出しており、130号住居に後出している。遺物：土師器(杯3点、鉢2点、甕2点)、



105号住居貯蔵穴 E-E'

- 1 にふい黄褐色土 炭化物を多量含む。
- 2 にふい黄褐色土 黄色味強い。
- 3 褐色土 黄褐色土ブロック、炭化物を少量含む。しまりやや強い。

105号住居 A-A'・B-B'

- 1 黄褐色土 灰白色土小ブロック、灰白色粘質土小ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 灰白色土小ブロック、炭化物を少量含む。
- 3 黄褐色土 炭化物を多量含む。
- 4 黄褐色土 褐色土上ブロック、炭化物を多量含む。
- 5 黄褐色土 炭化物多量含む。掘り方。
- 6 黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 7 黄褐色土 炭化物を少量含む。掘り方。

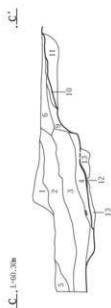
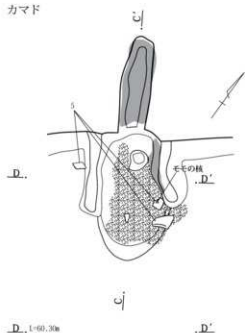
0 1:60 2m

第583図 1区8面 105号住居

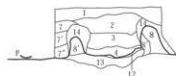
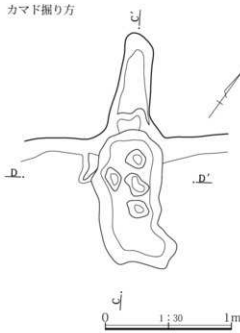
須恵器(鉢1点)カマド周辺から住居北部にかけて遺物が出土した。そのうち土器8点を図示した。杯(3)、鉢(5)、甕(7)は床直上から、杯(1・2)は貯蔵穴及びその周辺からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。鉢(4)は床直上から床上0.1m及び埋没土から、甕(8)は床上0.07m、鉢(6)(須恵器)は埋没土からの出土であった。これらは本住居に伴うものであるか明瞭でない。モ

ノ核が、カマド床上0.11mの位置から1点出土した。円礫の出土が見られ、磨礫石と思われる礫が観察された。図示した以外に、土師器(杯類129片、甕類537片)、須恵器(甕類4片)が出土している。 所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考える。図示した遺物において、埋土、床直の時期差は認められない。

カマド



カマド掘り方



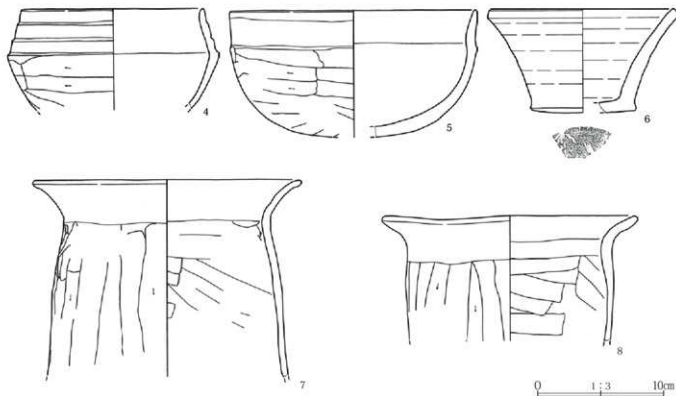
105号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 灰白色土小ブロックを少量含む。灰色味強い。
- 2 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 炭化物を中量含む。黄色味強い。
- 4 にぶい黄褐色土 焼土ブロックを多量含む。
- 5 黄褐色土 炭化物を多量含む。
- 6 黄褐色土 焼上し赤褐色味強い。
- 7 黄褐色土 灰白色土ブロックを多量、炭化物を少量含む。
- 7' 黄褐色土 灰白色土ブロックを多量含む。黄褐色味強い。
- 7'' 黄褐色土 灰白色土ブロックを多量、炭化物を少量含む。色調暗い。
- 8 黄褐色土 灰白色土ブロックを多量含む。粘性やや強い。灰色味強い。袖材。
- 8' 袖が加熱を受け焼上化している。袖材。
- 9 にぶい黄褐色土 焼土粒を少量含む。
- 10 炭化物層 層状に混入。
- 11 にぶい黄褐色土 焼土ブロックを多量含む。
- 12 炭化物、灰層
- 13 炭化物と焼上の混上期。右袖は、作りかえか。
- 14 黄褐色土 灰白色土ブロック、黄褐色土ブロックを少量含む。



0 1:3 10cm

第584図 1区8面 105号住居カマド、出土遺物(1)



第585図 1区8面 105号住居出土遺物(2)

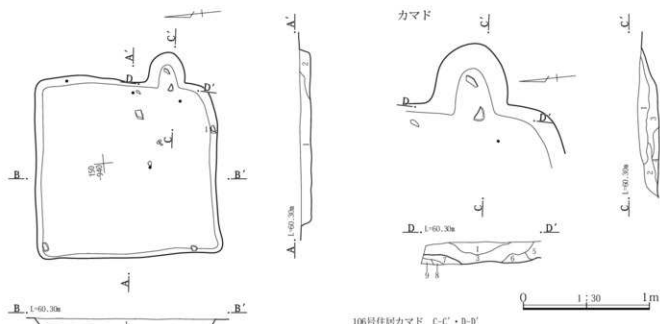
106号住居(第586・587図 PL.132)

1区東側の住居群内にある。残存状態は良好でない。
 位置：148～151・938～941にある。
 規模形状：北壁、西壁、南壁は直線的である。東壁はやや丸みを帯びる。南壁に対して北壁がやや長い、長方形に近い方形を呈している。主軸長2.91m、幅2.81mである。埋没土・壁：東壁際を褐灰色土が埋められ、その後褐色土で一気に埋没している。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.18mである。方位：N-83°-W 面積：6.95㎡ 床面：南にやや傾斜している。中央がやや低く緩やかに起伏しているがおよそ平坦である。貯蔵穴、柱穴等は認められなかった。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央やや南寄りに位置する。削平が進んでおり残存状態が良好でない。現存全長0.59m、現存幅0.63m、焚口幅不明、燃焼部幅0.32m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、支脚の礎が据えられており、壊れた状態で出土した。周囲に土師器片が確認された。断面より両袖の痕跡は確認できるが、明瞭ではない。重複遺構：108・133

号住居と重複している。遺物：須恵器(椀) 住居壁際及び全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。椀(1)(須恵器)は住居南壁からの出土であり、本住居に伴う出土であるか明瞭でない。円礫の出土も見られた。図示した以外に、土師器(杯類25片、甕類65片)、須恵器(杯類10片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から9世紀代、133号住居との重複から9世紀中頃から後半であると考えられる。



第586図 1区8面 106号住居出土遺物



106号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐色土 細砂上。褐色細砂土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 細砂上。褐色細砂土ブロック、灰を少量含む。

106号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐色土 細砂上。褐色細砂土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 細砂上。灰を中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 褐色土 細砂上。灰を中量、褐色細砂土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 4 褐色土 細砂上。灰を少量含む。
- 5 暗褐色土 砂上。炭化物を少量含む。
- 6 褐色土 細砂上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 7 褐色土 細砂上。焼土粒を少量含む。
- 8 褐色土 細砂上。灰を多量含む。
- 9 褐色土 細砂上。褐色砂質土ブロックを中量含む。

第587図 1区8面 106号住居

107号住居(第588・589図 PL.132・219)

1区中央部の住居群内にある。複数の住居と重複しているが、床面は影響を受けていない。残存状態は良好である。

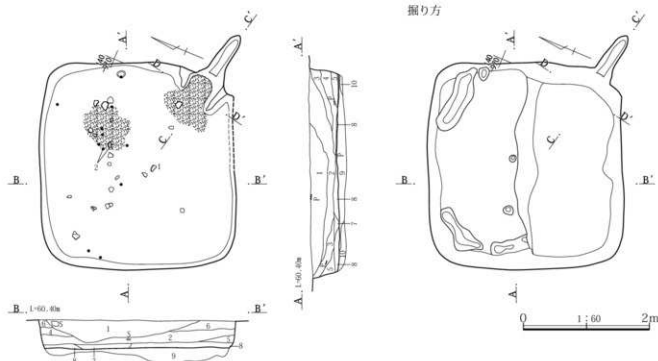
位置：137～140・-968～-973にある。

規模形状：各辺曲線を描いている。丸みを帯びた正方形に近い方形を呈している。主軸長3.28m、幅3.09mである。埋没土・壁：褐色土主体の土で埋没している。炭化物を含む層がレンズ状に堆積している。壁側から埋もれている状況がみられるが、不自然な堆積も観察され自然堆積であるか明瞭でない。壁高は0.41mである。

方位：N-77°-W 面積：8.30㎡ 床面：傾斜は確認できない。起伏も少なくおよそ平坦である。カマド内部から前部にかけて、及び中央部やや北東に灰の分布を確認する。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。掘り方：ほぼ全面に認められた。北部に対して南部が深く掘られている。埋め土は、西辺直下の一部が、地山の汚れた黄褐色土であり、その他は、褐色土主体で、黄褐色・灰白色土ブロック、炭化物を含んでいる。深さは、南部0.12～0.24m、北部0.04～0.12m程である。壁溝：北東隅、北西隅、西辺の一部に、周溝が残存している。本住居に重複した掘張前の住居のものと思われる。幅0.2～0.3m程である。ピット(柱穴)：確認できない。貯蔵穴：確認できない。カマド：東壁南東隅に位置している。全長1.32m、幅0.89m、焚口幅0.45m、燃焼部幅0.39m、煙道は壁外側に0.83m張り出している。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床には、灰の分布がよく確認された。素材は、暗褐色土を重ねて作っている。掘り方は、火床下に0.13m前後の窪みが認められた。埋め土は炭化物を含む灰層が厚く堆積しており、焼土ブロックを含む暗褐色土が薄く乗っている。

重複遺構：100・140・144号住居に後出している。

遺物：土師器(杯1点、甕1点)、土製品(土錘3点) 住居中央部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器2点、土製品3点を図示した。杯(1)、甕(2)は床直上から、土錘(5)は掘り方からの出土であり、いずれ

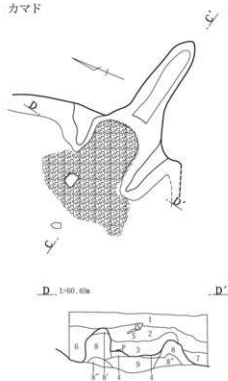


107号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 炭化物を多量含む。レンズ状に堆積。
- 2 褐灰色土 黄褐色土を少量。炭化物を微量含む。
- 3 褐灰色土 炭化物を多量含む。黄色味強い。
- 4 褐灰色土 炭化物を微量含む。黄色味強い。
- 5 褐灰色土 粘性やや強い。黒色味強い。

- 6 褐灰色土 炭化物を微量含む。
- 7 褐灰色土 炭化物を少量含む。
- 8 褐灰色土 黒色味強く、色調いい。
- 9 褐灰色土 黄褐色土ブロック、灰白色土小ブロック、炭化物を少量含む。掘り方。
- 10 黄褐色土 色調やや暗い。

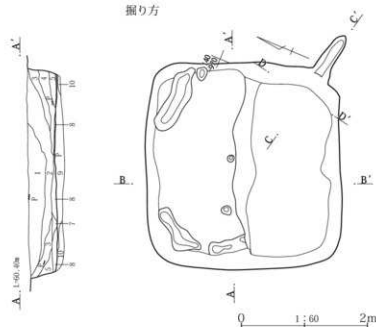
カマド



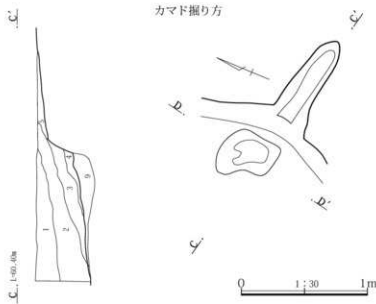
107号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 黄褐色土小ブロック・灰白色土小ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 煙道部寄りに焼土ブロックを多量。炭化物を少量含む。

掘り方

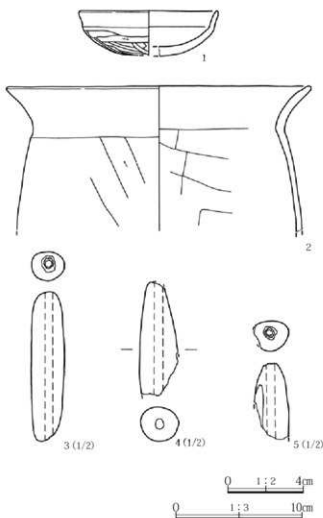


カマド掘り方



- 3 暗褐色土 炭化物、灰、焼土を少量含む。灰色味、赤褐色味強い。
- 4 暗褐色土 焼土ブロックを多量含む。
- 5 黄褐色土 焼土ブロック、炭化物を少量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 炭化物を微量含む。灰色味強い。
- 7 褐灰色土 炭化物、焼土粒を少量含む。
- 8 暗褐色土 褐色味強い。カマド袖材。
- 8' 暗褐色土 カマド袖材が崩れたもの。
- 9 暗褐色土 粘性やや強い。黒色味強い。カマド袖材。
- 9 炭化物、灰層

も本住居に伴うものと考えられる。土鍾(3・4)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。図示した以外に、土師器(杯類220片、甕類605片)、須恵器(甕類7片)が出土している。所見(帰属時期):出土遺物から、6世紀後半の住居であると考えられる。図示した遺物において、埋土、床直の時期差は認められない。



第589図 1区8面 107号住居出土遺物

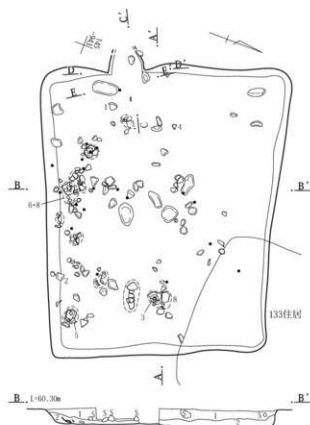
108号住居(第590・591図 PL.132・219)

1区東側の住居群内にある。複数の遺構と重複しているが床面は影響を受けていない。残存状態は良好でない。

位置: 144 ~ 149・938 ~ 943にある。

規模形状: 西壁は若干丸みを帯びている。その他の各壁は直線の形である。東壁に対して西壁がやや長い。東西

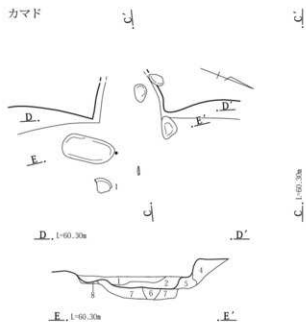
に長い長方形を呈している。主軸長4.60m、幅3.44mである。埋没土・壁: 東壁側から褐色土が埋もれており、その後砂質土の褐色土が埋没している。自然堆積であるかは明瞭でない。壁高は0.29mである。方位: N-66°-E 面積: 14.39㎡ 床面: 南東に傾斜している。東西にはほぼ平坦である。南面に対して北面が若干高い。貯蔵穴、柱穴等の窪みは確認されない。使用面から浮いた高さから多量の礫が出土した。住居中央に大きな礫が集積している。本住居に関わる施設である可能性があるが明瞭ではない。掘り方: 確認できなかった。壁溝: 認められない。ピット(柱穴): 認められない。貯蔵穴: 認められない。カマド: 西壁中央部南寄りに位置する。削平が進んでおり、残存状態が良好でない。残存全長0.35m、残存幅0.58m、焚口幅不明、燃焼部幅0.51m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認された。掘り方から、支脚の礫が据えられている。支脚は、長さ0.31m、幅0.1m、厚さ0.14mである。両袖には礫が据えられている。右袖石は直立しており、左袖石は据えられたところから内側に倒れている。右袖石は、長さ0.36m、幅0.12m、厚さ0.18mである。左袖石は、長さ0.37m、幅0.19m、厚さ0.13mである。これらは、袖を構築していた構築材であったと思われる。掘り方は、火床下に0.08m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物、焼土粒を含む砂質土の褐色土である。重複遺構: 5号竪穴状遺構に後出しており、95・106・133号住居に前出している。遺物: 土師器(杯2点、台付甕1点、甕3点)、須恵器(杯1点、甕1点) 住居南部を中心にして全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土師器8点を図示した。杯(1)、台付甕(3)、甕(6・7)、甕(8)(須恵器)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(2)は壁からの出土で、本住居に伴うものかは明瞭でない。杯(4)(須恵器)は床から0.12m程浮いた位置から甕(5)は0.1m浮いた位置から出土しており、本住居に伴うか明瞭でない。円礫が数多く出土している。図示した以外に、土師器(杯類12片、甕類117片)、須恵器(甕類1片)が出土している。所見(帰属時期): 出土遺物から、7世紀前半であると思われる。杯(4)(須恵器)は8世紀のものであり、混入と考えられる。



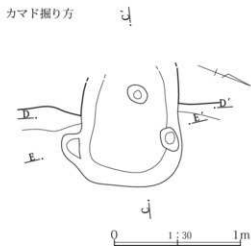
108号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐色土 砂質土。褐色砂質土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 砂質土。黄褐色砂土ブロック、褐色・黄褐色砂質土ブロックを中量含む。
- 3 褐色土 粘砂土。
- 4 酸化鉄凝集層

0 1:60 2m



C-C' 1:60.30m



0 1:30 1m

108号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐色土 砂質土。褐色砂質土、黄褐色砂質土を少量含む。
- 2 褐色土 砂質土。炭化物、焼土粒、灰を少量含む。
- 3 褐色土 砂質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 4 褐色土 砂質土。黄褐色砂土ブロック、褐色砂質土ブロック、黄褐色砂質土ブロックを中量含む。
- 5 褐色土 砂質土。褐色砂質土ブロックを少量含む。
- 6 褐色土 砂質土。炭化物を少量含む。
- 7 褐色土 砂質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 8 褐色土 砂質土。褐色砂質土ブロック、焼土粒を少量含む。

第590図 1区8面 108号住居



第591図 1区8面 108号住居出土遺物

109号住居(第592図 PL.133)

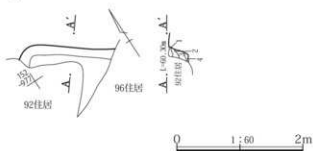
1区中央部の住居群内にある。92・96号住居により、ほとんどの使用面を壊されており、北東隅のみの調査となり、全容は明らかでない。

位置：151～152・-975～-977にある。

規模形状：北壁の一部は直線的である。北西隅は丸みを帯びている。方形を呈していると推察されるが、全容は

明らかでない。長軸長(1.42)m、短軸長(1.10)mである。
埋没土・壁：調査した範囲では、褐灰色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察されるが全容は明らかでない。壁高は0.3mである。方位：N-50°-W 面積：(0.33)㎡ 床面：不明 壁溝：不明 ビット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：不明 重複遺構：92・96号住居に前出している。

遺物: 図示できる遺物を得られなかった。**所見(帰属時期):** 本住居に伴う遺物を抽出できなかった。重複関係により6世紀前半であると考え、時期決定の資料に欠く。



109号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒を中量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

第592図 1区8面 109号住居

110号住居(第593・594図 PL.133・219)

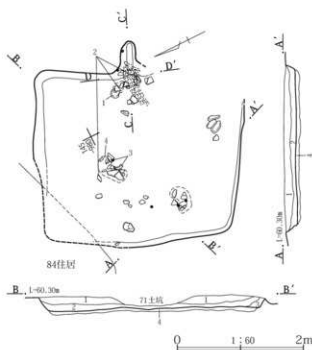
1区中央部の住居群内にある。他遺構と重複しており、残存状態が良好でない。北西隅壁を84号住居に壊されているが、床面は影響を受けていない。

位置: 142～146・-978～-982にある。

規模形状: 東壁、北壁、南壁は直線的である。西壁は、やや丸みを帯びている。西壁に対して東壁が若干長い方形であると推察できる。主軸長(2.71)m、幅3.29mである。**埋没土・壁:** 褐灰色シルト質土主体の土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられるが、褐灰色・黄褐色シルト質土ブロックを含んでおり、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.22mである。**方位:** N-67°-W **面積:** (7.29)㎡ **床面:** 北東に傾斜している。緩やかな起伏を伴いおよそ平坦であるが、北東にやや落ち込んでいる。カマド内部から前部かけて灰の分布を確認する。貯蔵穴、柱穴等の窠みは確認されない。南東隅に礫の集積を確認するが、住居に関連する施設であるか明瞭でない。中央、南西隅にそれぞれ土師器片を確認する。**掘り方:** 全面に認められる。埋め土は、褐灰色シルト質土である。灰を中量含む締まりの強い床層である。深さは0.02～0.06mである。**壁溝:** 確認でき

ない。**ピット(柱穴):** 認められない。**貯蔵穴:** 認められない。**カマド:** 東壁中央部に位置している。残存全長0.62m、残存幅0.57m、焚口幅不明、燃焼部幅0.32m、煙道は壁外側に0.51m突出している。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、灰の分布と土師器片が確認された。両袖共に崩れて残存していなかったが、袖を構築したと思われる土師器片が隣接していた。火床下に0.07m前後の窠みが認められた。埋め土は、炭化物、灰、焼土粒を含む褐灰色シルト質土である。

重複遺構: 71号土坑と重複しており、84・119号住居に前出している。**遺物:** 土師器(杯1点、甕3点)カマド周辺から住居中央部西部にかけて遺物が出土した。そのうち土器4点を図示した。杯(1)、甕(2)はカマド床直上から、甕(3・4)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類19片、甕類142片)が出土している。**所見(帰属時期):** 出土遺物から、6世紀後半であると考えられる。

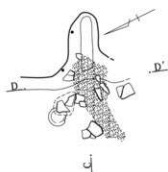


110号住居 A-A'・B-B'

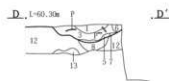
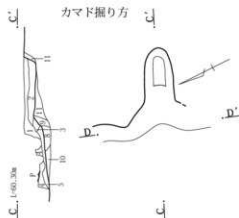
- 1 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色・黄褐色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒、灰を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。灰を少量含む。しまりやや固い。床層。

第593図 1区8面 110号住居

カマド



カマド掘り方



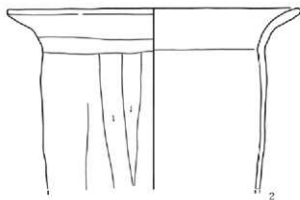
0 1:30 1m

110号住居カマド C-C'・D-D'

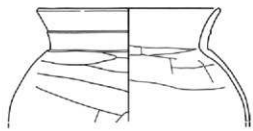
- 1 褐灰色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。炭化物、焼土粒、灰を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を中量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを多量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質土。炭化物、灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質土。炭化物、焼土粒、灰を少量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 12 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 13 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。



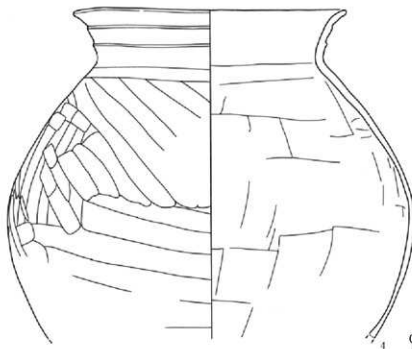
1



2



3



4

0 1:3 10cm

第594図 1区8面 110号住居カマド、出土遺物

111号住居(第595～597図 PL.133・219)

1区東側の住居群内にある。他遺構と重複しているが、使用面は影響を受けていない。北辺が調査区域外にあり、全容は明らかでない。

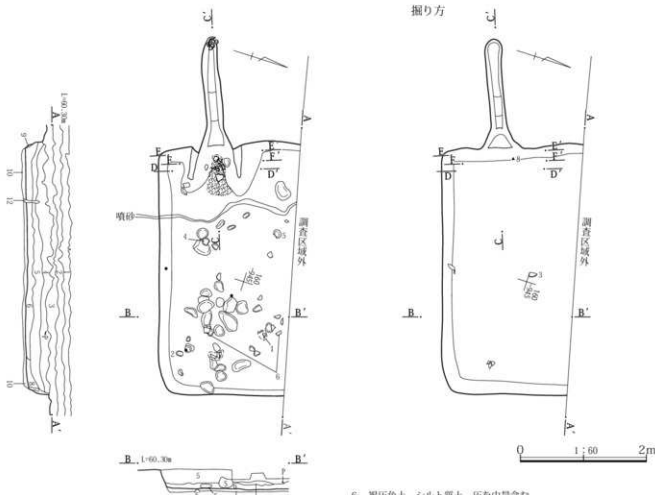
位置：158～161・-942～-948にある。

規模形状：東壁、南壁は直線的である。西壁はやや丸みを帯びる。各壁が直交していることから、整った方形を呈していると推察される。長軸長4.06m、短軸長(2.14)mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質土主体に埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。住居西で噴砂が確認される。その影響で細砂層が観察される。壁高は0.28mである。

方位：N-71°-E 面積：(7.03)㎡ 床面：傾斜していない。緩やかな起伏が見られるがおよそ平坦である。貯蔵穴、柱穴等は認められなかった。カマド前部及び住居中央から礫の集積が確認された。本住居に関連している施設であるかは明瞭でない。掘り方は、ほぼ全面に認められた。埋め土は、シルト質土ブロックを含む褐灰色土であり、締まりが強い。深さは、0.04m前後である。

壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。

貯蔵穴：認められない。カマド：西壁中央南寄りに位置すると思われる。全長2.5m、幅1.22m、焚口幅0.3m、燃焼部幅0.27m、煙道は壁外側に1.68m張り出している。燃焼部は、住居内に確認された。火床上には、支脚の礫



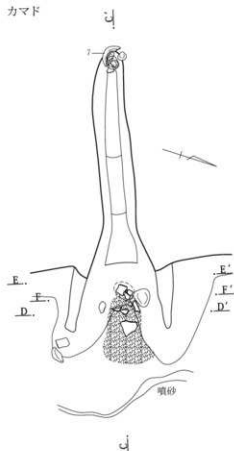
111号住居 A-A'・B-B'

- 1 黄褐色土 砂質土。As-B軽石を多量含む。
- 2 褐灰色土 砂質土。As-B軽石を少量含む。
- 3 暗褐色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

- 6 褐灰色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色粗砂を中量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質土。黄褐色粗砂を中量、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 10 褐灰色土 砂質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。しまりややが固い、床層。
- 11 黄褐色土 粗砂土。灰を少量含む。
- 12 黄褐色土 粗砂土。地割れで噴出したか。

第595図 1区8面 111号住居

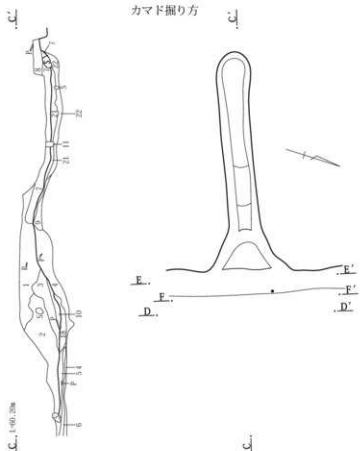
カマド



111号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

- 1 褐灰色土 砂質上。褐灰色砂質上ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 砂質上。褐灰色砂質上ブロック、焼上粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 砂質上。焼上粒を中量、炭化物を少量含む。
- 4 褐灰色土 砂質上。褐灰色砂粒を少量含む。
- 5 黄褐色土 粗砂上。褐灰色、黄褐色砂質上ブロック、灰を少量含む。
- 6 褐灰色土 砂質上。黄褐色砂質上ブロックを少量含む。
- 7 褐灰色土 砂質上。灰を多量含む。
- 8 黄褐色土 粗砂上。
- 9 黄褐色土 粗砂上。FP泥流、地山。
- 10 褐灰色土 砂質上。灰を中量、焼上粒を少量含む。
- 11 褐灰色土 砂質上。灰を中量含む。袖。
- 12 褐灰色土 砂質上。炭化物を少量含む。袖。

カマド掘り方

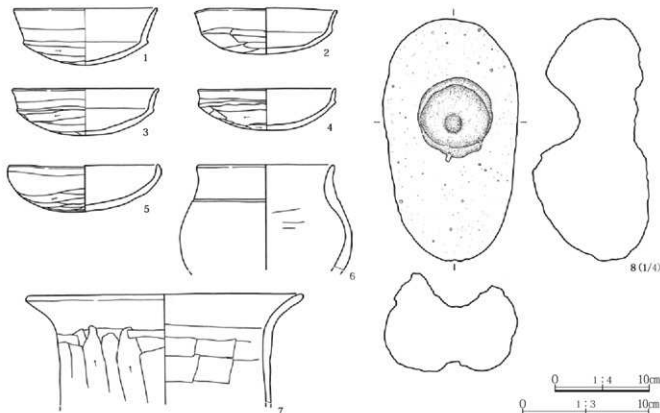


- 13 褐灰色土 シルト質上。袖。
- 14 褐灰色土 砂質上。黄褐色砂質上ブロックを少量含む。
- 15 褐灰色土 砂質上。灰を少量含む。
- 16 褐灰色土 砂質上。黄褐色砂質上ブロックを少量含む。袖。
- 17 褐灰色土 シルト質上。焼上粒を中量含む。袖。
- 18 褐灰色土 砂質上。灰を中量、焼上粒を少量含む。
- 19 褐灰色土 シルト質上。灰を中量、焼上粒を少量含む。
- 20 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロック、炭化物を少量含む。
- 21 褐灰色土 砂質上。灰を中量含む。
- 22 褐灰色土 砂質上。黄褐色砂質上ブロックを中量含む。
- 23 褐灰色土 砂質上。褐灰色細砂上ブロック、黄褐色細砂上ブロックを少量含む。
- 24 褐灰色土 砂質上。白褐色粗石、褐灰色細砂上ブロックを少量含む。
- 25 褐灰色土 砂質上。黄褐色細砂上ブロックを少量含む。
- 26 褐灰色土 砂質上。炭化物を少量含む。
- 27 褐灰色土 砂質上。褐灰色シルト質上ブロックを少量含む。
- 28 褐灰色土 砂質上。褐灰色シルト質上ブロック、炭化物を少量含む。
- 29 褐灰色土 砂質上。黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- 30 褐灰色土 砂質上。白褐色粗石、黄褐色砂質上ブロックを少量含む。
- 31 褐灰色土 砂質上。焼上粒を多量、炭化物を少量含む。
- 32 褐灰色土 砂質上。灰を中量、白褐色粗石、焼上粒を少量含む。
- 33 褐灰色土 砂質上。褐灰色シルト質上ブロックを中量、焼上粒を少量含む。
- 34 褐灰色土 砂質上。黄褐色細砂上ブロックを中量、褐灰色シルト質上ブロックを少量含む。

第596図 1区8面 111号住居カマド

が据えられており、周囲に土師器片が確認された。支脚は、長さ0.07m、幅0.06m、厚0.05mである。右袖付け根部分には、長さ0.25m、幅0.14m、厚さ0.12m程の礎が据えられており、袖壁の構築材であったと思われる。袖材は、褐灰色シルト質土に砂質褐灰色土を載せて作っている。火床下に0.07m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒を含む砂質の褐灰色土である。 **重複遺構**：北辺が調査区域外にある。54号溝に前出している。 **遺物**：土師器(杯5点、小型甕1点、甕1点) 礫石器(凹石1点) 住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器7点、礫石器1点を図示した。杯(1・5)

は床直上から、杯(3)は掘り方の出土であり、これらは本住居に伴うものと考えられる。杯(2・4)は床から0.15～0.20m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴う出土であるか明瞭でない。小型甕(6)は床直上から0.08m浮いた位置より出土しており、本住居に伴うものか明瞭でない。甕(7)は煙道先端からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。凹石(8)は掘り方カマド付近からの出土である。円礫の出土が顕著であるが、図示した以外に、土師器(杯類28片、甕類57片)、須恵器(甕類1片)が出土している。 **所見(帰属時期)**：出土遺物から、6世紀後半であると考えられる。



第597図 1区8面 111号住居出土遺物

112号住居(第598・599図 PL.133・219・220)

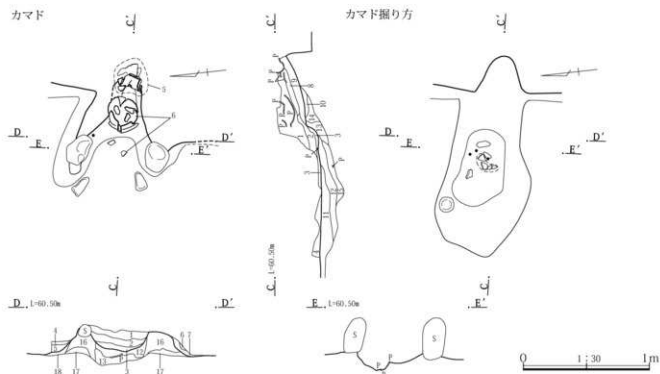
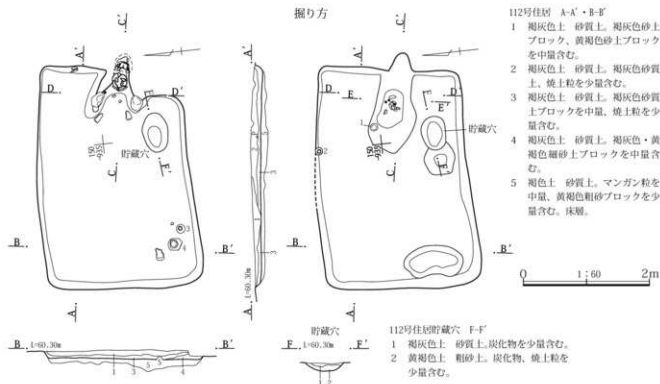
1区東側の住居群内にある。削平を多分に受けており、残存状態が良好でない。

位置：148～151・-933～-937にある。

規模形状：北壁は曲線を描いている。南壁は直線的である。西壁は南に向かうほど丸みを帯びる。東壁は、カマ

ド北の部分が南に対して張り出している。全体的には、東西に長い方形を呈している。主軸長3.56m、幅2.46mである。 **埋没土・壁**：砂質の褐灰色土が東西から交互に埋没している状況が見られ、人為的な埋戻しであると推察される。壁高は0.17mである。 **方位**：N-74°-W **面積**：6.97㎡ **床面**：東にやや傾斜している。

2 1区の遺構と遺物



112号住居カマド C-C'・D-D'

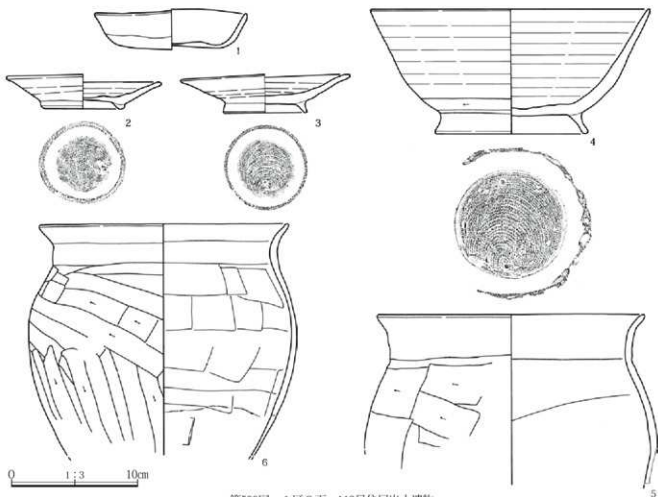
- 1 潮灰色土 砂質土。潮灰色砂質土ブロック、黄褐色砂質土ブロック、灰を少量含む。
- 2 潮灰色土 砂質土。黄褐色砂質土ブロックを中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 潮灰色土 砂質土。黄褐色砂質土ブロック、灰を中量含む。
- 4 潮灰色土 砂質土。潮灰色砂質土、焼土粒を少量含む。
- 5 潮灰色土 砂質土。潮灰色砂質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 6 褐色土 砂質土。黄褐色粗砂を少量含む。
- 7 褐色土 砂質土。黄褐色砂質土ブロックを中量含む。

- 8 暗褐色土 砂質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 9 暗褐色土 砂質土。黄褐色砂質土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 10 暗褐色土 砂質土。潮灰色砂質土ブロックを少量含む。
- 11 暗褐色土 砂質土。潮灰色砂質土ブロック、灰を少量含む。
- 12 暗褐色土 砂質土。灰を中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 13 暗褐色土 砂質土。潮灰色砂質土ブロック、灰を少量含む。
- 14 暗褐色土 砂質土。潮灰色砂質土ブロック、黄褐色細砂土ブロックを少量含む。
- 15 潮灰色土 砂質土。黄褐色細砂土ブロック、炭化物を少量含む。
- 16 暗褐色土 砂質土。マンガン粒を多量含む。袖。
- 17 暗褐色土 砂質土。黄褐色砂質土ブロックを中量含む。袖。
- 18 暗褐色土 砂質土。黄褐色砂質土ブロックを中量、灰を少量含む。

第598図 1区8面 112号住居

緩やかな起伏が見られるがおよそ平坦である。貯蔵穴の落ち込みは確認できた。柱穴は認められなかった。掘り方：ほぼ全面に認められた。埋め土は、砂質の褐色土で、黄褐色細砂ブロックを含む。締まりは弱い。深さは0.06～0.2m程である。南東部は、床面より張り出している。西辺南寄り直下及び南辺中央直下に窪みが見られるが、床下土坑であるか明確でない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東隅に落ち込みを認める。位置と規模より貯蔵穴であると思われる。埋没土は、炭化物、焼土を含む黄褐色土を砂質の褐灰色土が覆っている。長径0.62m、短径0.39m、深さ0.14mである。カマド：東壁ほぼ中央に位置する。全長0.89m、幅0.96m、焚口幅0.41m、燃焼部幅0.33m、煙道は壁外側に0.34m突出している。煙道の付け根部分と先端部分には、土師器甕が据えられていた。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。両袖先端部分には、袖壁の構築材として礫が据えられていた。右礫は

長さ0.34m、幅0.24m、厚さ0.18mである。左礫は長さ0.28m、幅0.25m、厚さ0.17mである。袖材は、黄褐色砂質土ブロックを含む暗褐色土を基礎にして暗褐色土が載っている。掘り方は、火床下に0.12m前後の落ち込みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒、炭化物を含む砂質の暗褐色土である。重複遺構：なし 遺物：土師器(杯1点、甕2点)、須恵器(皿2点、椀1点) カマド付近、カマド掘り方付近および住居西部中心に遺物が出土した。そのうち土師器6点を図示した。杯(1)、皿(2)(須恵器)、はカマド掘り方から、皿(3)(須恵器)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(5・6)はカマド直上からの出土であり、椀(4)(須恵器)は住居西部床直上からの出土である。いずれも本住居に伴うものと考えられる。円礫が出土した。図示した以外に、土師器(杯類14片、甕類44片)、須恵器(杯類5片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、9世紀前半であると考えられる。



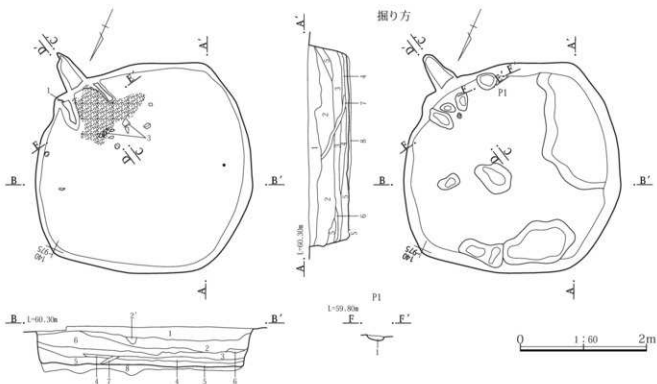
第599図 1区8面 112号住居出土遺物

113号住居(第600・601図 PL.133・134)

1区中央部の住居群内にある。他住居と重複しているが床面は影響を受けていない。残存状態は良好である。位置：136～140・973～977にある。

規模形状：全体的に丸みを帯びている。特に西壁は大きく張り出している。北東、南東、南西隅は確認できるが、北西隅は辺との境が明瞭でない。主軸長3.45m、幅3.14mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色土主体の土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられるが、中間で締まりの強い層もあり、人為的な埋戻しの要素も見られる。壁高は0.64mである。方位：N-67°-W 面積 8.46㎡ 床面：わずかに東に傾斜している。中央部やや西寄りに起伏を認めるが、およそ平坦である。カマド内部から前部にかけて灰の分布を認める。貯蔵穴、柱穴等は認められなかった。掘り方：北西部の一部を除き全面に認められた。埋め土は、混入物のないにぶい黄褐色土である。深さは、0.04～0.15m程度である。掘

り方は、中央部、南西部、北部に窪みを認めるが、床下土坑、柱穴であるかは明瞭でない。カマド右側にピットを認める。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：掘り方のカマド右側にP1を確認する。埋没土は、炭化物と黄褐色土の混土である。柱穴等の施設跡ではなく、床面中の灰だまりであると思われる。長径0.34m、短径0.26m、深さ0.08mである。貯蔵穴：認められない。カマド：南壁南東隅に位置する。全長1.18m、幅0.82m、焚口幅0.51m、燃烧部幅0.41m、煙道は壁外側に0.62m突出している。燃烧部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、灰の分布が確認された。袖材は、左袖が黄褐色土ブロックを含む褐色灰土で、右袖にぶい黄褐色土である。左袖の下層に異なる袖材が確認でき、カマドの袖をやり直した経緯が観察される。掘り方は、火床下に0.08m前後の窪みが認められた。埋め土は、にぶい黄褐色土に炭化物を含んだ灰層が載っている。カマド掘り方は、火床下に窪みが複数確認され、支脚及び袖



113号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 灰白色土小ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 灰白色土小ブロックを少量含む。灰色味強い。
- 2' にぶい黄褐色土 灰色味強い。
- 3 にぶい黄褐色土 しまりやや固い。黄色味弱く、色調暗い。
- 4 にぶい黄褐色土 しまり固い。褐色味強い。
- 5 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。色調暗い。

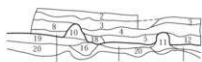
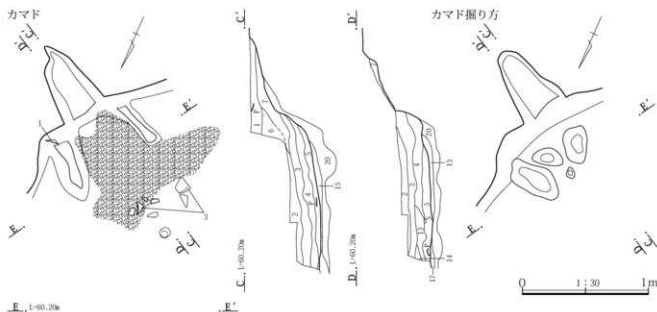
- 6 にぶい黄褐色土 炭化物を多量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 炭化物を中量含む。根痕か。
- 8 にぶい黄褐色土 黄色味強い。掘り方。

113号住居内ピット F-F'

- 1 黄褐色土 炭化物を多量含む。床層中の灰だまり。

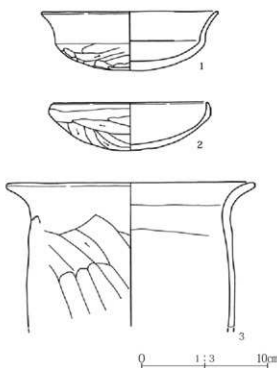
石の施設跡であると思われる。重複遺構：99・126・139・140号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、甕1点) カマド前部及び西壁際から遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1)はカマド左袖から、甕(3)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(2)は、掘り方及び埋没土からの出土であり、本住居に混入したものと考えられる。川原

石状の礫の出土が若干見られた。図示した以外に、土師器(杯類137片、甕類253片)、須恵器(杯類2片、甕類2片)が出土している。また、119・139号住居と共通して土師器(杯類125片、甕類220片)須恵器(甕類4片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、形状から、6世紀後半であると考え。図示した遺物は、埋土、床直の時期差がない。



113号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

- 1 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土を少量、褐色土小ブロックを微量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 黄褐色土ブロックを多量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 炭化物のブロックを少量含む。黄色味強い。
- 5 にぶい黄褐色土 炭化物を多量含む。
- 6 にぶい黄褐色土
- 7 暗赤褐色土 炭化物を少量含む。焼土化し赤色味強い。
- 8 褐色土 黄褐色土ブロック、炭化物を少量含む。
- 9 褐色土 黄褐色土ブロック、炭化物を少量含む。色調暗い。
- 10 褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む。袖。
- 11 にぶい黄褐色土 袖。
- 12 黄褐色土 褐色土ブロックを多量、炭化物を少量含む。
- 13 にぶい黄褐色土 炭化物のブロックを少量含む。灰色味強い。
- 14 にぶい黄褐色土
- 15 炭化物、灰層
- 16 灰黄褐色土 炭化物を少量含む。カマド袖材。
- 17 黄褐色土 灰色味や中強い。
- 18 にぶい黄褐色土 袖材の崩れたもの。
- 19 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 20 にぶい黄褐色土 掘り方。



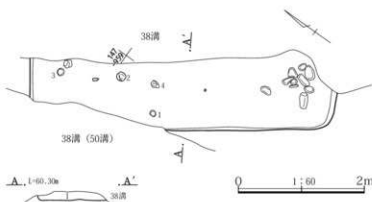
第601図 1区8面 113号住居カマド、出土遺物

114号住居(第602図 PL.134・220)

1区中央部の住居群内にある。38・50号溝により、使用面の多くが壊されており、住居西部のみの調査となった。残存状態が良好でなく全容が明らかでない。

位置：143～148・-957～-960にある。

規模形状：北壁、南壁、西壁は直線的である。各辺が直交していることから整った方形を呈していると推察できる。長軸長4.86m、短軸長(1.27)mである。埋没土・壁：調査した範囲では、褐色シルト質土で一気に埋没しており、人為的な埋戻しであると推察される。壁高は0.09mである。方位：N-32°W 面積：(3.90)㎡



114号住居 A-A'

1 褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量、褐色シルト質土プロックを少量含む。



0 1:3 10cm

第602図 1区8面 114号住居、出土遺物

床面：調査した範囲では、傾斜はない。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは認められない。南西隅に礫の集積をみるが、明瞭でない。掘り方：認められない。壁溝：不明 ビット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：不明 重複遺構：93・116・137住居、38・50号溝、6号竈穴状遺構と重複している。遺物：土師器(杯3点) 礫石器(凹石1点) 住居北西部から遺物が出土した。そのうち土器3点、礫石器1点を図示した。杯(1・2・3)、凹石(4)は床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。南西隅に円礫の出土が見られた。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半であると考えられる。



115号住居(第603図 PL.134)

1区中央部の住居群内にある。他遺構と重複しているため、全容は明らかでなく、カマドのみの調査となった。

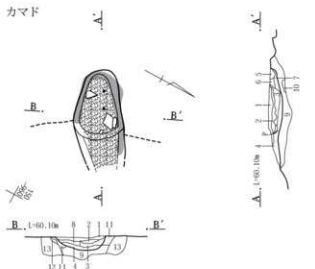
位置：計測不能

規模形状：不明 長軸長 計測不能、短軸長 計測不能 埋没土・壁：不明 壁高 計測不能 方位：計測不能 面積：計測不能 床面：不明 壁溝：不明 ビット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：西辺に位置していると思われる。現存全長0.72m、現存幅0.39m、焚口幅

不明、燃焼幅0.28m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、西壁が明確でないが、住居内から住居外にかけてであると推察される。火床上には、灰の分布がみられ、火床縁辺部には焼土が観察される。よく使い込まれたカマドである。両袖共に崩れが大きく、わずかに確認された。袖材は、黄褐色土を練り込んだ粘性の褐色土で作られている。掘り方は、火床下に0.07m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒、炭化物を多く含む褐色土の細砂層である。重複遺構：116住居・38号溝と重

複している。遺物：土師器(杯1点) カマドからのみ遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は掘り方埋没土からの出土であり、本住居に伴うものと

考えられる。図示した以外に、土師器(杯類3片、甕類20片)が出土している。所見(編属時期)：出土遺物から、7世紀代であるとする。

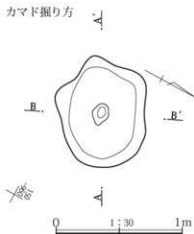


115号住居カマド A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 細砂上。白褐色粘質土ブロック、褐灰色砂土、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 細砂上。白褐色粘質土ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。
- 3 褐灰色土 細砂上。焼土粒を中量、白褐色粘質土ブロック、灰を少量含む。
- 4 褐灰色土 細砂上。灰を中量含む。
- 5 褐灰色土 細砂上。白褐色粘質土粒、炭化物、焼土粒を少量含む。



第603図 1区8面



- 6 褐灰色土 細砂上。白褐色粘質土粒、焼土粒を中量含む。
- 7 褐灰色土 細砂上。白褐色粘質土粒、炭化物、焼土粒を中量含む。
- 8 褐灰色土 細砂上。灰を中量、白褐色粘質土粒、焼土粒を少量含む。
- 9 褐灰色土 細砂上。灰を多量、炭化物、焼土粒を中量含む。
- 10 褐灰色土 細砂上。焼土粒、灰を少量含む。
- 11 褐灰色土 細砂上。焼土粒、灰を中量含む。
- 12 褐灰色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 13 褐灰色土 粘質土。黄褐色粘質土ブロック、炭化物を少量含む。袖。

0 1:30 10m

115号住居、出土遺物

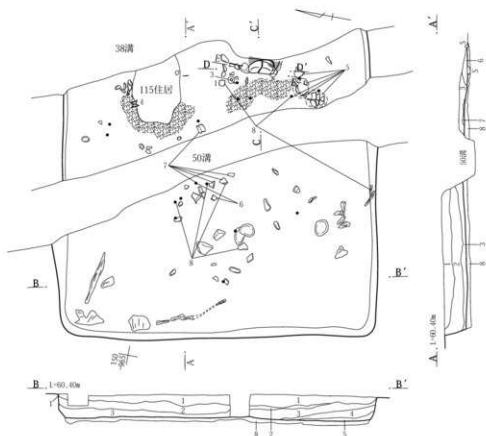
116号住居(第604～606図 PL.134・220)

1区中央部の住居群内にある。38号溝によりカマド及び東壁付近を、50号溝により住居中央を南北に壊されているため、全容が明瞭でない。115号住居カマドに床面を壊されている。炭化材が確認された。

位置：146～151・-959～-964にある。

規模形状：各辺直線的である。各辺が直交していることより整った方形を呈していると推察される。主軸長4.96m、幅(4.73)mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質土主体の土で埋没している。炭化材は、3層及び5層の下面で見られる。その後、周囲から3・4・5層が流入した状況がみられる。壁高は0.36mである。方位：N-74°-E 面積：(18.93)㎡ 床面：やや南に傾斜し

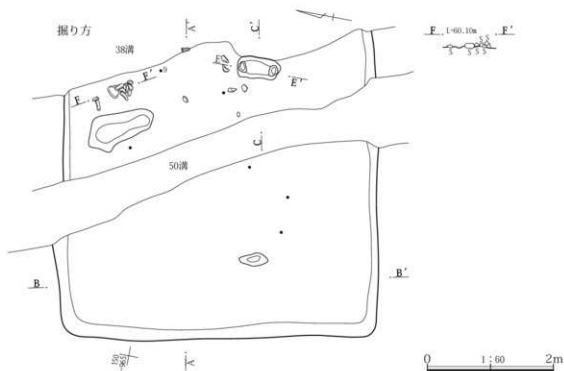
ている。東部に細かい起伏がみられるが、およそ平坦である。カマド前部及び北東部に灰の分布が確認される。北東部の灰の分布は、115号住居のカマドに間わるものではなく、本住居のものであると捉えたいほうが自然である。貯蔵穴、柱穴等は認められなかった。北西及び南部に炭化材が出土しており、焼失家屋であった可能性がある。北東隅には、細長い自然石10点が散在して出土している。磨礪石であると思われる。掘り方は、ほぼ全面に認められた。埋め土は、灰、炭化物を多く含む褐灰色シルト質土であり、締まりがある。深さは、0.06～0.08m程である。掘り方：北東部及び南西部に窪みを認めるが、床下土坑、柱穴であるかは、明瞭でない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵



116号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
 3 褐灰色土 シルト質土。炭化物を中量、褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

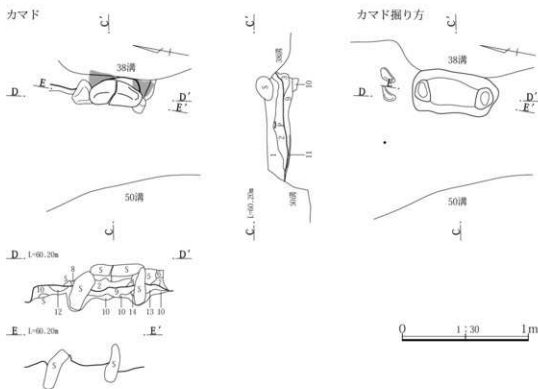
- 4 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
 5 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を中量含む。
 6 褐灰色土 細砂土。焼土粒、灰を少量含む。
 7 褐灰色土 砂質土。白褐色粘質土ブロック、炭化物、焼土粒、灰を少量含む。
 8 褐灰色土 シルト質土。炭化物、灰を中量含む。しまりやや固い。



第604図 1区8面 116号住居

穴：認められない。カマド：東辺中央やや南寄りに位置すると推察される。残存全長0.28m、幅0.64m、焚口幅不明、燃焼部幅0.27m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内にあると推察する。両袖先端部分には、礫が据えられており、焚口天井部分の構築材の礫を両袖石が支えている。両袖石は、基礎を、黄褐色シルト質土ブロックを含む褐色灰土で固められている。右袖石は、長さ0.3m、幅0.13m、厚さ0.09mである。左袖石は、長さ0.32m、幅0.19m、厚さ0.18mである。焚口天井部構築材の礫は、長さ0.44m、幅0.2m、厚さ0.09mである。これらの礫で焚口が構成されていたと思われる。掘り方は、火床下に0.08m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒、炭化物を含む褐色灰土シルト質土である。重複遺構：115号住居、38・50号溝に前出しており、

137号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、高杯2点、甕1点、小型甕1点、甕2点)、土製品(土鍾1点) 住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器8点、土製品1点を図示した。杯(1)、高杯(3・4)、甕(5)、小型甕(6)、甕(7・8)は床直上から、土鍾(9)は掘り方からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(2)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるが明瞭でない。川原石状の礫の出土が見られるが、菌編石と思われる礫が観察された。図示した以外に、土師器(杯類89片、甕類188片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられるが、杯(2)は7世紀前半のものである。

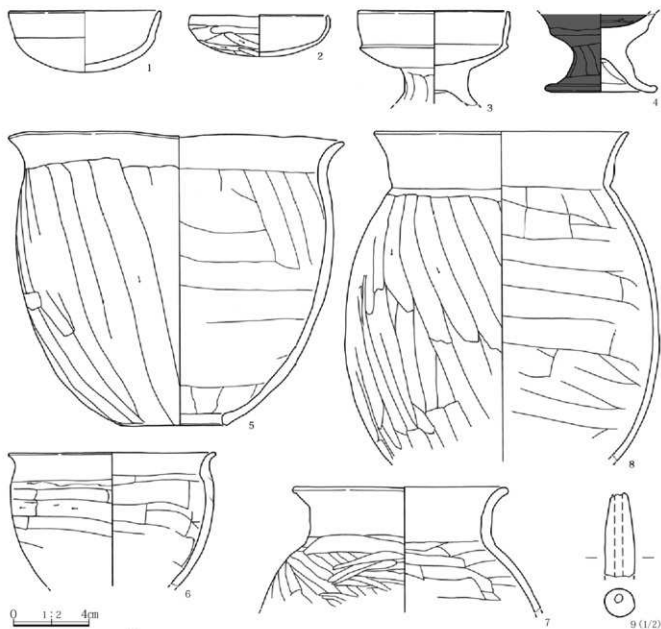


116号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐色土 シルト質土。褐色シルト質土ブロックを中量、酸化鉄凝集、灰を少量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量含む。
- 3 褐色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 4 褐色土 褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 5 褐色土 黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 6 褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒、酸化鉄凝集を少量含む。
- 7 褐色土 シルト質土。褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 8 褐色土 シルト質土。褐色シルト質土ブロックを少量含む。

- 9 褐色土 シルト質土。灰を多量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 10 褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 11 褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 12 褐色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 13 褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 14 褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量、灰を少量含む。

第605図 1区8面 116号住居カマド



第606図 1区8面 116号住居出土遺物

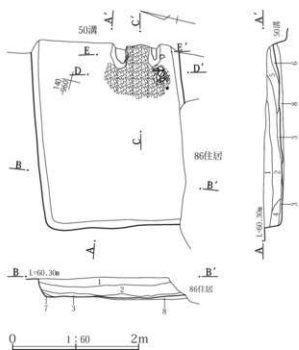
117号住居(第607図 PL.134・135)

1区中央部の住居群内にある。50号溝によりカマド及び東壁付近を、86号住居により南壁の一部を壊されており、全容が明らかでない。

位置：137～140・-959～-962にある。

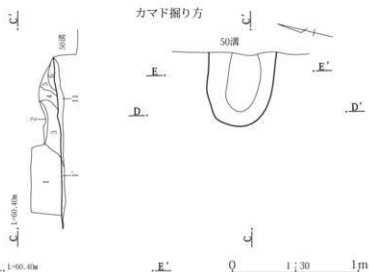
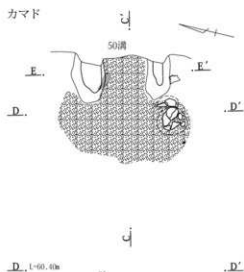
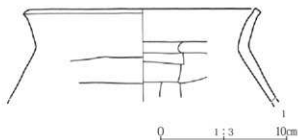
規模形状：西壁、北壁共に直線的である。両辺が直交していることから整った形の東西に長い方形を呈していると推察される。小型の住居である。主軸長(2.94)m、幅2.35mである。**埋没土・壁**：にぶい黄褐色土主体の土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.23mである。**方位**：

N-74°-E 面積：(6.06)㎡ 床面：西にやや傾斜している。中央部がやや落ち込んでいる。他は緩やかな起伏を伴いおおよそ平坦である。カマド内部から前部にかけて灰の分布を確認する。貯蔵穴、柱穴等の窺みは認められなかった。**掘り方**：ほぼ全面に認められた。埋め土は、炭化物を散見するにぶい黄褐色土である。深さは、0.04～0.08m程である。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：東壁中央南寄りに位置していると推察される。残存全長0.39m、幅0.78m、焚口幅0.34m、燃焼部幅0.33m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、屋内から壁際に向け



117号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 灰白色土小ブロックを少量含む。黄色味強い。
- 3 にぶい黄褐色土 炭化物を多量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 しまりやや固い。暗褐色味強い。
- 5 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土を少量含む。
- 6 暗褐色土 黄灰色粘質土、炭化物を多量含む。
- 7 黄褐色土 炭化物を多量含む。
- 8 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。掘り方。



117号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

- 1 にぶい黄褐色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 1' にぶい黄褐色土 黄色味強い。
- 2 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 灰白色土小ブロックを少量、焼土ブロックを微量含む。赤色味やや強い。
- 3' にぶい黄褐色土 暗褐色土ブロック(カマドの袖材)を少量含む。
- 4 褐色土 黄灰色粘質土ブロック、焼土ブロックを少量含む。
- 5 黄灰色土 粘質土。焼土ブロックを多量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土を多量含む。

- 7 褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む。
- 7' 褐色土 黒色味強い。
- 8 にぶい黄褐色土 黄灰色粘質土ブロック、炭化物、焼土を少量含む。
- 9 にぶい黄褐色土 やや粘性あり。
- 10 焼土ブロック
- 11 炭化物、灰層
- 12 炭化物、灰層 床面直上に薄く堆積。
- 13 暗褐色土 焼土ブロック、炭化物を少量含む。カマド袖材。
- 14 灰白色土 粘質土。カマド袖材。付け替えか。
- 15 暗褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む。カマド袖材。

第607図 1区8面 117号住居、出土遺物

であると推察される。火床上には、灰と少量の焼土が確認された。右袖先端部付近には、土師器片が出土していた。袖材は、右袖は、暗褐色土で構成されているのに対し、左袖は、粘性のある灰白色ブロックに暗褐色土を載せて作っている。左袖は、14層の層位より補修されたものであろう。掘り方は、火床下に0.06m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物を含んだ灰層である。重複遺構：86号住居、50号溝に前出しており、101号住居に後出している。154号住居、7号竪穴遺構と重複している。

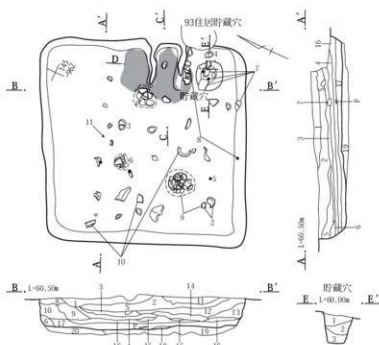
遺物：土師器(裏1点) カマド右袖付近から遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。裏(1)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。図示した以外に、土師器(杯類7片、甕類81片)、須恵器(甕類1片)が出土している。所見(編年時期)：床直上の出土ではないが、出土遺物及び重複関係から、7世紀前半であると考えられる。

118号住居(第608～610図 PL.135・220)

1区中央部の住居群内にある。93号住居と重複しているが、床面は影響を受けていない。93号住居貯蔵穴により若干東壁の一部が壊されている。残存状態は良好である。

位置：141～145・-960～-964にある。

規模形状：各辺はほぼ直線で、互いに直交している。正方形に近い方形を呈している。主軸長3.25m、幅3.20mである。埋没土・壁：褐灰色土、にぶい黄褐色土、黄褐色土、暗灰色土主体の土で複雑に埋没している。不自然な堆積の状況がみられ、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.43mである。方位：N-68°-E 面積：(8.40)㎡ 床面：傾斜はほぼない。中央部にやや落ち込みがある。わずかな起伏があるが、およそ平坦である。カマド内部から周囲にかけて焼土の分布を認める。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は認められなかった。細長い自然石が数点散在して出土している。礎石であると思われる。掘り方は、住居西部以外は確認できた。埋め土



118号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 褐灰色土ブロック、酸化鉄塊を少量含む。レンズ状に堆積。
- 2 にぶい黄褐色土 褐灰色土ブロック、黄褐色土ブロックを多量、炭化物を微量含む。
- 3 黄褐色土 ブロック状の上層が層状に堆積。
- 4 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。灰色味やや強い。
- 5 にぶい黄褐色土 炭化物ブロックを多量含む。
- 6 暗灰色土 黒色味強い。
- 7 灰白色土 粘質土。
- 8 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量含む。
- 9 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。色調やや暗い。
- 10 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。灰色味やや強い。
- 11 褐灰色土 灰白色粘質土ブロックを中量含む。
- 12 にぶい黄褐色土 褐色味やや強い。
- 13 褐灰色土 灰白色土ブロック、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 14 褐灰色土 灰白色粘質土ブロック、炭化物、焼土を多量含む。
- 15 褐灰色土 灰白色粘質土ブロックを少量含む。
- 16 にぶい黄褐色土 灰白色土ブロック、炭化物を少量含む。灰色味やや強い。
- 17 にぶい黄褐色土 炭化物を少量含む。灰色味強い。
- 18 灰白色土 粘性强い。
- 19 にぶい黄褐色土 褐色味強い。掘り方。
- 20 にぶい黄褐色土 黄色味強い。掘り方。

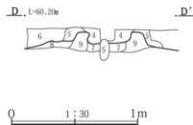
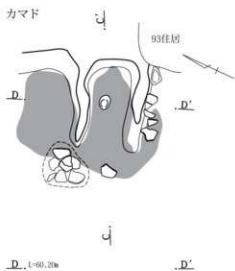
118号住居貯蔵穴 E-E'

- 1 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、褐灰色シルト質土ブロック、白褐色粘質土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。黄褐色土ブロックを中量、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。

0 1; 60 2m

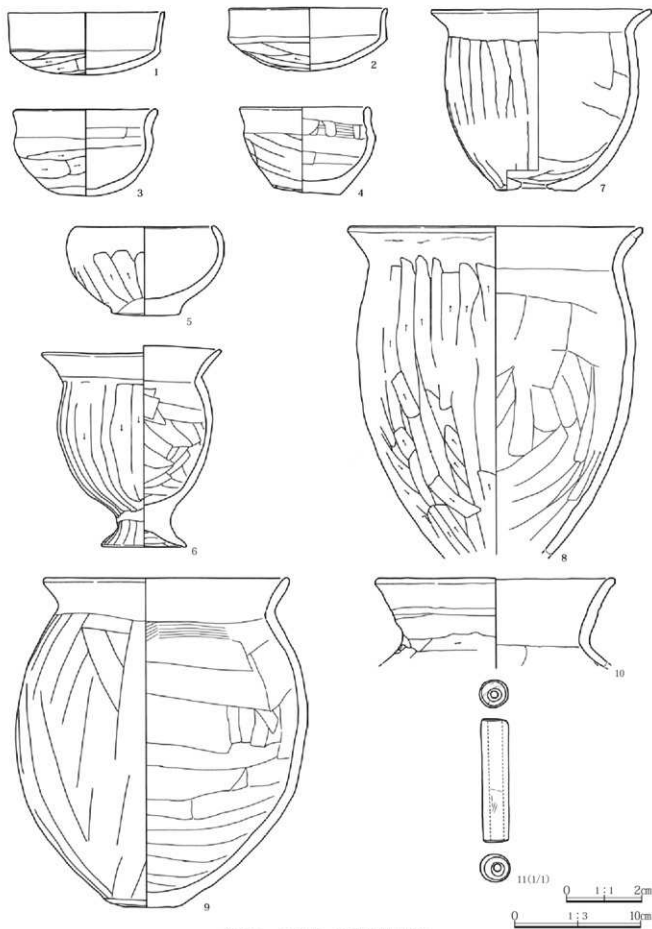
は、にぶい黄褐色土主体の土で埋没している。深さは、0.02～0.12m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東隅に窪みを認める。位置と規模から貯蔵穴と思われる。埋没土は、シルト質土ブロックを含む褐灰色土である。長径0.56m、短径0.42m、深さ0.44mである。カマド：東壁中央やや南寄りに位置する。現存全長0.73m、幅0.65m、焚口幅0.31m、燃焼部幅0.3m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内に確認された。掘り方から、支脚の礫が据えられており、周囲に焼土が観察され、よく使用されたカマドであることを示している。支脚は、安山岩の円礫で、長さ0.17m、幅0.08m、厚0.12mである。袖材は、褐灰色土を混ぜ込んだ粘性のある灰白色土で作られている。掘り方は、火床下に0.07m前後の窪みが認められた。埋め土は、焼土ブロック、炭化物を含んだ灰層である。重複遺構：93号住居と重複しており、124号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、鉢3点、

台付甕1点、小型甕1点、甕3点) 石製品(管玉1点) 住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器10点、石製品1点を図示した。鉢(3・5)は床直上及び埋没土から、鉢(4)は床直上及び貯蔵穴からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(2)は床上0.23～0.24m程浮いた位置から、杯(1)は埋没土から、台付甕(6)は床上0.14mの位置から、小型甕(7)は床上0.13～0.24mの位置から、甕(9)は床直上から埋没土までの位置から、甕(10)は床直上から床上0.09mまでの位置から、甕(8)は床直上から床上0.14mまでの位置からそれぞれ出土しており、いずれも本住居に伴うものであるか明瞭でない。管玉(11)は、床直上からの出土であり本住居に伴うものである。円礫の出土が見られ、磨礫石と思われる礫が観察された。図示した以外に、土師器(杯類58片、甕類248片)、須恵器(杯類2片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、形状から、6世紀後半であると考える。



118号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 焼土ブロックを少量、褐灰色土ブロックを微量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 焼土ブロック(主体)を多量含む。
- 2' にぶい黄褐色土 焼土ブロックを多量、炭化物を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 焼土ブロックを多量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 焼土ブロックを含む。
- 5 にぶい黄褐色土 褐灰色土を少量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 褐灰色土ブロックを少量含む。
- 7 炭化物、灰層 焼土ブロックを少量含む。
- 8 炭化物、灰層 焼土ブロックを中量含む。
- 9 灰白色粘質土 褐灰色土ブロックを少量含む。カマド袖材。



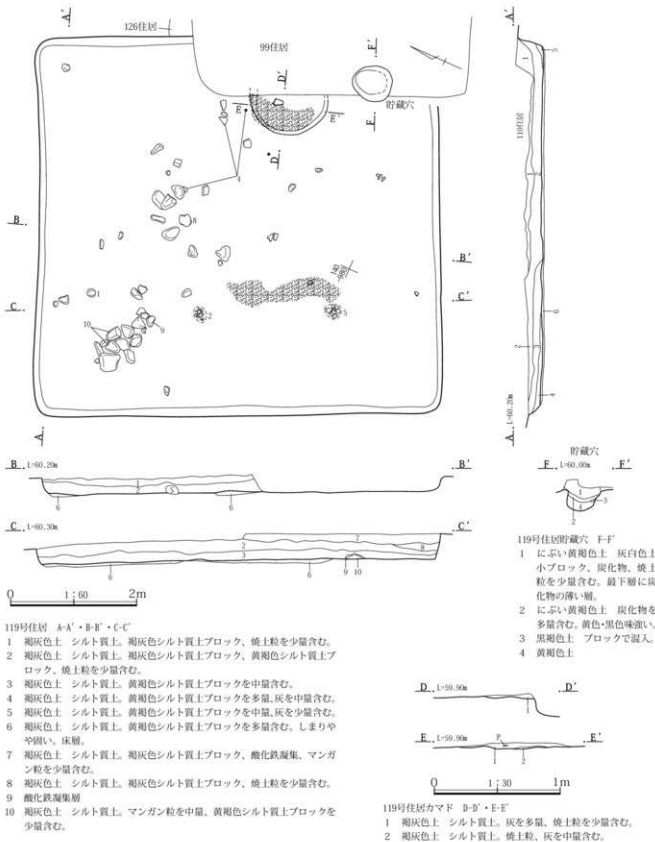
第610図 1区8面 118号住居出土遺物

119号住居(第611～613図 PL.135・221)

1区中央部の住居群内にある。85・99号住居により、カマド及び東壁の南部を壊されているため、全容は明らかでない。

位置: 137°145' - 977° - 984にある。

規模形状: 各辺直線形でそれぞれ直交している。形の

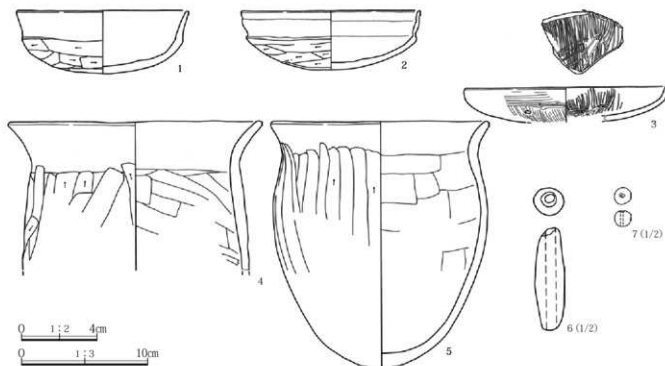


第611図 1区8面 119号住居

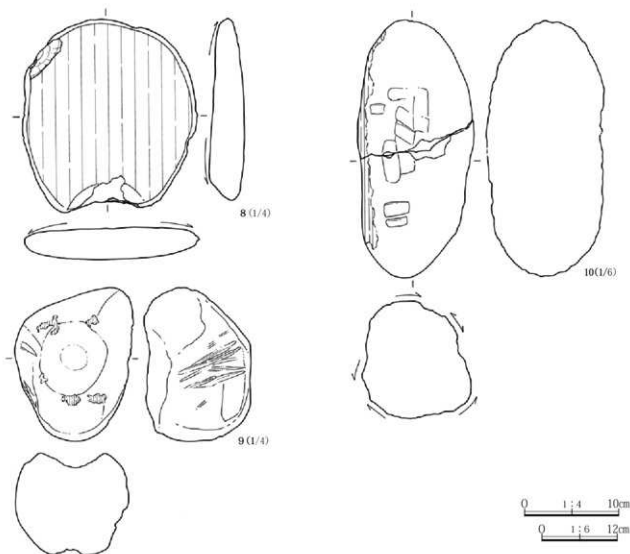
整った方形を呈している。大型住居である。主軸長(6.48)m、幅6.02mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質土主体の土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.41mである。

方位：N-76°-E 面積：(19.78)㎡ 床面：傾斜はほぼない。緩やかな起伏が見られるが、およそ平坦である。カマド周り及び中央部やや南西寄りに灰の分布を認める。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は認められなかった。住居北西部と中央部やや北寄りに礫の集積を確認する。住居の施設に関連するが明瞭でない。掘り方：中央部から北部にかけて広範囲で認められた。埋め土は、黄褐色ブロックを含む褐灰色シルト質土であり、固く締まっている。深さは、0.05m前後である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東隅に落ち込みを確認する。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、焼土粒、炭化物の混入した黄褐色土、黒褐色土、にぶい黄褐色土である。長径0.63m、短径0.58m、深さ0.38mである。カマド：東壁中央やや南寄りに位置していると思われる。削角が進んでおり使用面は確認できなかった。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は確認できなかった。燃焼部は、

掘り方の一部のみ確認された。埋め土は、灰、焼土を含む褐灰色土である。深さは不明である。袖、焚口に関わる施設は、確認できなかった。重複遺構：85・99・110号住居に前出しており、126号住居に後出している。130・139号住居、71号土坑と重複している。遺物：土師器(杯3点、甕2点)、土製品(土鍾1点、丸玉1点)、礫石器(不明1点二ツ岳石、凹石2点、石皿1点) 住居北部から中央部にかけて点在するように遺物が出土した。そのうち土器7点、礫石器3点を図示した。杯(1・2)、甕(4・5)は床直上から、丸玉(7)は床直上掘削土中からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。杯(3)、土鍾(6)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるが明瞭でない。不明礫石器(10)、凹石(9)、石皿(8)は住居北西部床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えるのが自然である。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類321片、甕類727片)、須恵器(杯類6片、甕類7片)が出土している。また、113・139号住居と共通して土師器(杯類125片、甕類220片)須恵器(甕類4片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係、形状から、6世紀後半であるとする。



第612図 1区8面 119号住居出土遺物(1)



第613図 1区8面 119号住居出土遺物(2)

120号住居(第614・615図 PL.135)

1区中央部の住居群内にある。住居中央部から西部にかけて削平されており、全容が明らかでない。

位置：124～128・980～983にある。

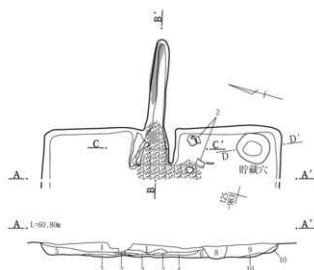
規模形状：各辺共直線的である。北東隅が鈍角、南東隅が鋭角に交わっているため、南北に潰れた形の方形を呈していると推察できる。主軸長(0.86)m、幅3.76mである。

埋没土・壁：褐灰色土主体の土で埋没している。黄褐色土ブロックを含む。壁側から埋もれている状況もあるが、不自然な堆積も観察され、自然堆積であるかは明瞭でない。壁高は0.15mである。方位：N-78°-E
面積：(2.47)m² 床面：南に傾斜している。中央部を中心に細かい起伏が見られる。カマド内部から前部にかけて灰の分布を認める。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴

は認められなかった。掘り方：認められなかった。

壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。

貯蔵穴：南東隅に落ち込みを認める。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、にぶい黄褐色土である。炭化物の混入はほとんどない。長径0.52m、短径0.5m、深さ0.22mである。カマド：東壁中央部に位置する。全長2.08m、幅0.75m、焚口幅0.43m、燃焼部幅0.35m、煙道は壁外側に1.42m突出している。煙道左半分は焼土も確認された。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、灰と一部焼土が確認された。袖は、粘性のある黄色土で作られている。内面は焼土化している。掘り方は、火床下に0.1m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物を含む灰層である。重複遺構：128号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点)



120号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 2 黄褐色土 粘質土。褐灰色土ブロックを多量含む。
- 3 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを中量含む。
- 4 褐灰色土 水平に堆積する炭化物を中量含む。
- 5 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。色調暗い。
- 6 褐灰色土 水平に堆積する炭化物を少量含む。
- 7 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量含む。水平に堆積。
- 8 褐灰色土 撥鼠状に入り込む。
- 9 褐灰色土 灰色味強い。
- 10 炭化物層

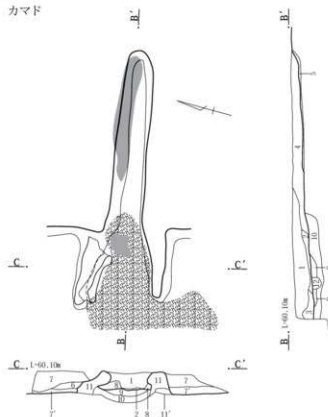


120号住居貯蔵穴 D-D'

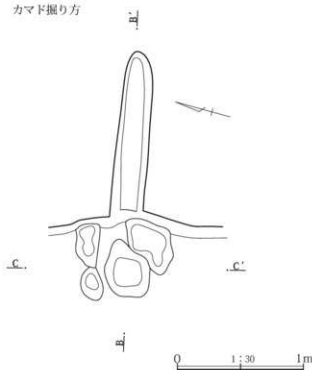
- 1 にぶい黄褐色土 炭化物を微量含む。灰色味強い。
- 2 にぶい黄褐色土 炭化物を微量含む。色調暗い。

0 1:60 2m

カマド



カマド掘り方

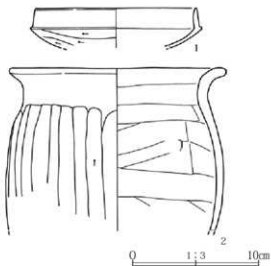


120号住居カマド B-B'・C-C'

- 1 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 焼土ブロック。炭化物を多量含む。
- 3 褐灰色土 焼土ブロックを多量含む。
- 4 褐灰色土 焼土を少量含む。赤色味強い。
- 5 炭化物の薄い層。
- 6 褐灰色土 黄褐色土小ブロック(カマド袖材の崩れ)を多量含む。
- 7 褐灰色土 酸化鉄凝集を少量含む。

- 7' 褐灰色土 色調暗い。
- 8 焼土ブロック
- 9 灰層
- 10 炭化物、灰層
- 11 明黄褐色土 粘質土。カマド袖材。内面は焼けて赤色化。
- 11' 明黄褐色土 粘質土。色調暗い。カマド袖材。
- 12 黄褐色土 ビット状に落ち込む。

カマド周辺を中心にして散在するように遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)はカマドから、甕(2)は床直上及び床上0.08mからの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。図示した以外に、土師器(杯類6片、甕類12片)が出土している。所見(帰属時期): 出土遺物から、6世紀後半であると考えられる。



第615図 1区8面 120号住居出土遺物

121号住居(第616図 PL.136)

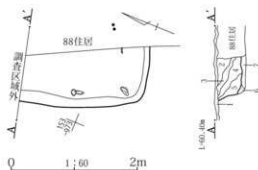
1区中央部の住居群内にある。住居北部が調査区域外にあり、全容が明らかでない。88号住居に床面を壊されているため、南西隅のみの調査となった。

位置: 152 ~ 154・-971 ~ -973にある。

規模形状: 西壁は丸みを帯びている。南壁はほぼ直線的である。方形を呈していると思われるが、全容は明らかでない。長軸長(1.97)m、短軸長(0.89)mである。埋没土・壁: 褐灰色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.34mである。方位: N-22°-W 面積: (1.34) m² 床面: 調査した範囲では傾斜していないが、全容は明らかでない。掘り方: 確認できた。埋め土は、褐灰色シルト質土であり、黄褐色シルト質土ブロックを多く、灰を少量含んでいる。深さは、0.08m程である。壁溝: 認められない。ビット(柱穴): 不明 貯蔵穴: 不明 カマド: 不明 重複遺構: 88号住居に前出している。

遺物: 土師器(杯類2片、甕類15片)が出土している。図示できる遺物を得られなかった。所見(帰属時期):

出土遺物は破片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。重複関係と土器片から6世後半以前の住居と考えるが、時期決定の資料に欠ける。



121号住居 A-A'

- 1 黄褐色土 砂質土。As-礫石を多量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、酸化鉄凝集を中量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。灰を中量、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを多量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、褐灰色細砂土ブロックを中量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量、灰を少量含む。

第616図 1区8面 121号住居

122号住居(第617図 PL.136・221)

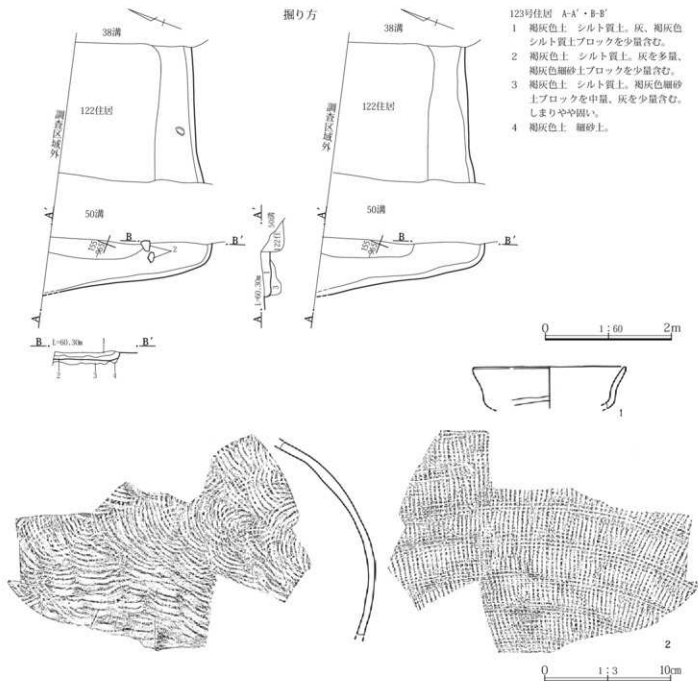
1区中央部の住居群内にある。住居北部が調査区域外にあり、50号溝により西部の床面が壊されているため、全容が明瞭でない。

位置: 154 ~ 156・-961 ~ -965にある。

規模形状: 西壁は丸みを帯び南壁は直線的である。方形を呈していると思察されるが、全容は明瞭でない。長軸長(3.41)m、短軸長(1.42)mである。埋没土・壁: 褐灰色土で埋没している。不自然な堆積の状況がみられ、人為的な埋戻しであると推察される。壁高は0.23mである。方位: N-73°-E 面積: (4.62) m² 床面: 調査した範囲内ではほぼ傾斜していない。わずかな起伏があるが、およそ平坦である。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは認められなかった。掘り方: ほぼ全面で認められた。特に西部で掘り方が深い。埋め土は、黄褐色シルト質土ブロックを含む褐灰色土である。深さは、0.03 ~ 0.08 m程である。掘り方中央付近から、細長い自然石が出土する。薦編石の可能性ある。壁溝: 認められない。

程である。壁溝：西辺、南辺断面に認められる。西は、幅0.3m、深さ0.2mである。埋没土は、掘り方に類似する。南は、幅0.1m、深さ0.05mである。埋没土は、褐灰色土の細砂層である。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：38・50号溝、122号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点)、須恵器(甗1点) 鉄滓1点 住居南西部中心に遺物が出土した。そのうち土器2点を図示

した。甗(2)(須恵器)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が若干見られた。図示した以外に、土師器(杯類8片、甗類12片)、須恵器(甗類5片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半から7世紀前半であると考える。



第618図 1区8面 123号住居、出土遺物

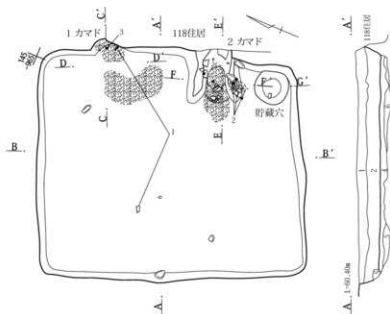
124号住居(第619～621図 PL.136・221)

1区中央部の住居群内にある。118号住居によりカマド及び東壁の一部が壊されている。複数の住居と重複しているが、残存状態は良好である。

位置：139～144・-963～-968にある。

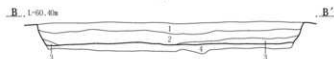
規模形状：北壁、西壁、南壁はほぼ直線的である。東壁は南半分が内側に凹んでいる。北壁に対して南壁が僅かに短い。南北にやや長い方形を呈している。主軸長3.47m、幅4.27mである。埋没土・壁：褐灰色シルト質

土主体の上で埋没している。褐灰色土・黄褐色砂質土ブロックを含んでおり人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.28mである。方位：N-77°-E 面積：12.25㎡ 床面：傾斜は認められない。僅かな起伏があるが、およそ平坦である。1号カマド前部及び2号カマドの内部から前部にかけて灰の分布を認める。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は認められなかった。掘り方：ほぼ全面に確認できた。黄褐色・褐灰色シルト質土ブロックを含む褐灰色土が床層である。深さは、中央から

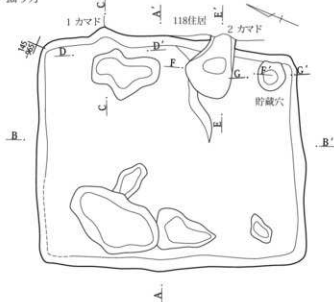


124号住居貯蔵穴 C-C'

- 1 褐灰色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。



掘り方



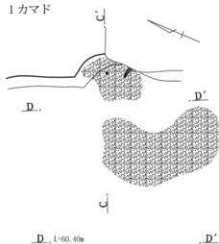
124号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土。褐灰色砂質土ブロック、黄褐色砂質土ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色砂土ブロック、黄褐色砂土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、褐灰色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。床層。
- 5 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、褐灰色シルト質土ブロック、マンガン粒を中量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

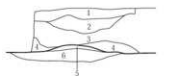
0 1:60 2m

第619図 1区8面 124号住居

1カマド

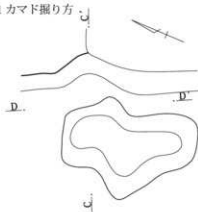


D., 1=60.46m



C., 1=60.46m

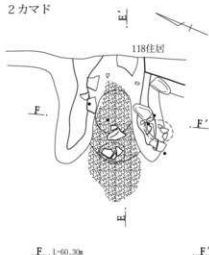
1カマド掘り方



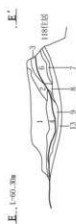
124号住居1号カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 砂質土。褐灰色砂質土ブロック、黄褐色砂質土ブロック、マンガン粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 砂質土。褐灰色砂質土ブロック、黄褐色砂質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 砂質土。褐灰色砂質土ブロック、焼土粒、炭化物、灰を少量含む。
- 4 褐灰色土 砂質土。黄褐色砂質土ブロックを中量含む。
- 5 褐灰色土 砂質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 砂質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

2カマド

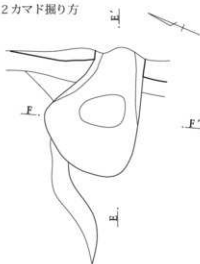


F., 1=60.30m



E., 1=60.30m

2カマド掘り方



124号住居2号カマド E-E'・F-F'

- 1 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を中量、灰を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。灰、焼土粒を中量、炭化物を少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質土。炭化物を中量、灰を少量含む。
- 12 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 13 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 14 褐灰色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロックを少量含む。

0 1:30 1m

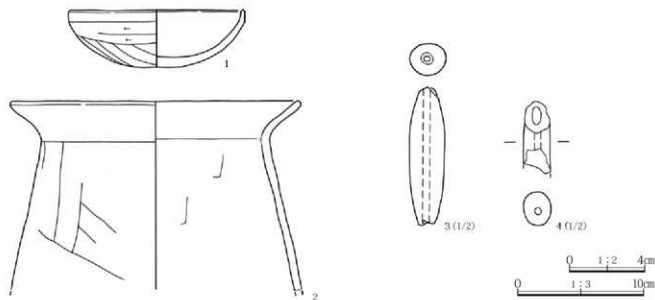
北部が0.1m、南部が0.07m、東部、西部が0.18mである。1号カマド前部、西壁付近に複数の落ち込みが観察されるが、床下土坑及び柱穴等であるかは、明瞭でない。

壁溝：認められない。 ビット(柱穴)：認められない。

貯蔵穴：南東隅に落ち込みを認める。位置と規模より貯蔵穴であると思われる。埋没土は、黄褐色シルト質土ブロックを含む褐色土に灰、焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを含む褐色土が載っている。長径0.53m、短径0.52m、深さ0.21mである。カマド：東壁中央部北寄りに1号カマド、東壁中央部南寄りに2号カマドが位置する。1号カマドは、崩れが大きくカマドの形状を維持していない。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、灰の分布がみられた。袖は明瞭でなかったが、4層の黄褐色砂質土ブロックを含む褐色土が、袖材の流れたものであると思われる。掘り方は、火床下に0.12m前後の窪みが認められた。埋め土は、黄褐色ブロックを含む砂質の褐色土に灰、焼土粒を含む褐色土が覆っている。2号カマドは、残存全長0.88m、幅0.84m、焚口幅0.37m、燃焼部幅0.3m、煙道は118号住居に前出しているため、確認できなかった。燃焼部は、住居内から確認された。火床上には、灰の分布が見られ、周囲に土器器片が確認された。右袖先端部から土器片が出土し、中頃から礫が1

点、袖付け根からさらに1点確認された。袖壁を構築していたと思われる。手前の礫が、長さ0.16m、幅0.11m、厚さ不明であり、右袖壁側の礫が、長さ0.16m、幅不明、厚さ不明である。袖材は、左袖が、褐色・黄褐色ブロックを含む褐色シルト質土であり、右袖が、焼土粒を含む褐色土である。掘り方は、火床下に0.09m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒を含む褐色シルト質土である。火床は、使用面より0.06m程低い。カマドの残存状況から1号カマドより2号カマドが新しいと考える。重複遺構：118住居に前出し、125・134号住居に後出している。131号住居とは重複している。

遺物：土師器(杯1点、甕1点)、土製品(土鍾2点)カマド周辺に集中して遺物が出土した。住居中央に僅かに遺物の出土が見られた。そのうち土器4点を図示した。甕(2)は2号カマド床直上から、土鍾(3)は1号カマド床直上から、土鍾(4)は貯蔵穴から出土しており、いずれも本住居に伴うものと考えられる。杯(1)は、床直上から埋没土まで出土範囲が広いが、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類258片、甕類175片) 須恵器(甕類4片)が出土している。所見(帰属時期)：杯(1)は7世紀前半の遺物であるが、混入の可能性が高い。出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると思われる。図示した遺物において、埋土、床直の時期差は認められない。



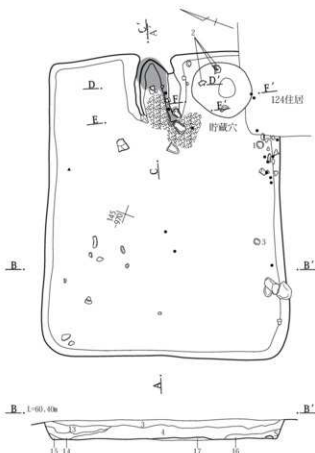
第621図 1区8面 124号住居出土遺物

125号住居(第622～624図 PL.136・221)

1区中央部の住居群内にある。複数の住居と重複しているが、床面は影響を受けていない。南東隅を124号住居に若干壊されているが、残存状態は良好である。

位置：141～146・966～972にある。

規模形状：各辺直線的である。南西隅にやや丸みをみる。東壁に対して西壁がやや長い。東西に長い長方形を呈している。主軸長4.91m、幅3.65mである。



125号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐色土 シルト質上。褐色シルト質上ブロック、灰を少量含む。
- 2 褐色土 シルト質上。灰を中量、炭化物、黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- 3 褐色土 シルト質上。褐色シルト質上ブロック、黄褐色シルト質上ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。
- 4 褐色土 シルト質上。褐色シルト質上ブロック、炭化物、灰を少量含む。
- 5 褐色土 シルト質上。褐色シルト質上ブロック、黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。
- 6 褐色土 シルト質上。にぶい黄褐色細砂土ブロック、酸化鉄凝集を中量含む。
- 7 褐色土 シルト質上。褐色粘質土ブロックを中量、黄褐色粘質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 8 褐色土 砂質上。褐色細砂土ブロック、黄褐色細砂土ブロックを中量含む。
- 9 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロック、焼土粒を少量含む。

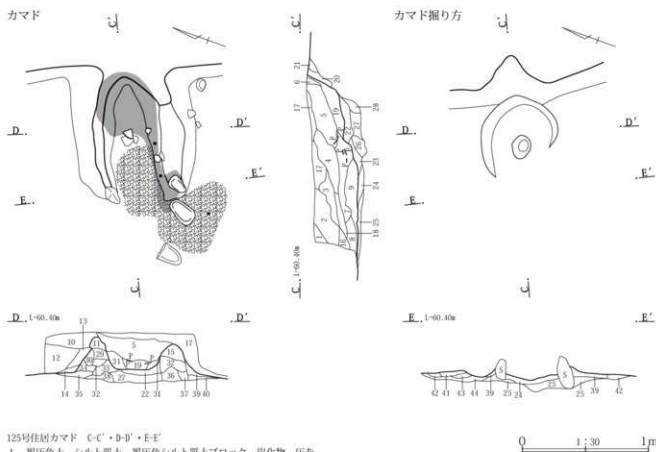
埋没土・壁：褐色土主体の土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ1・2層がレンズ状に堆積しているが、不自然な堆積も観察され人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.31mである。 方位：N-72° -E 面積：15.69m²(推定) 床面：傾斜は認められない。中央部に若干落ち込みがある。わずかな起伏があるが、およそ平坦である。カマド内部から右袖前にかけて灰の分布を認める。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は



125号住居貯蔵穴 F-F'

- 1 褐色土 シルト質上。褐色シルト質上ブロック、黄褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 シルト質上。褐色シルト質上ブロック、黄褐色粘質土粒、焼土粒、灰を少量含む。
- 3 褐色土 シルト質上。灰を中量、黄褐色粘質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 4 褐色土 シルト質上。褐色土・黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- 5 褐色土 シルト質上。褐色土・黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。床層。

- 10 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 11 褐色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。
- 12 褐色土 砂質上。褐色細砂土ブロック、黄褐色細砂土ブロックを少量含む。
- 13 褐色土 シルト質上。褐色シルト質上ブロック、黄褐色シルト質上ブロック、炭化物を少量含む。
- 14 褐色土 シルト質上。炭化物、灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 15 褐色土 シルト質上。褐色シルト質上ブロックを中量、灰を少量含む。
- 16 褐色土 シルト質上。褐色シルト質上ブロックを中量、黄褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 17 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。しまりやや固い。床層。
- 18 褐色土 砂質上。焼土粒を少量含む。



125号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

- 1 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロック、炭化物、灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 砂質上。褐灰色細砂土ブロック、黄褐色細砂土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。褐灰色粘質土ブロックを中量、黄褐色粘質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。
- 6 褐灰色土 砂質上。焼土粒を中量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 8 褐灰色土 砂質上。焼土粒を少量含む。
- 9 褐灰色土 砂質上。焼土粒を多量、灰を少量含む。
- 10 褐灰色土 砂質上。黄褐色粘質土粒、焼土粒を少量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質上。焼土化した。
- 12 褐灰色土 砂質上。黄褐色粘質土粒を少量含む。
- 13 褐灰色土 砂質上。黄褐色粘質土ブロックを中量含む。
- 14 褐灰色土 砂質上。灰を中量、黄褐色粘質土粒を少量含む。
- 15 褐灰色土 砂質上。黄褐色粘質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 16 褐灰色土 砂質上。褐灰色細砂土ブロック、黄褐色細砂土ブロックを中量含む。
- 17 褐灰色土 シルト質上。非常に黄褐色細砂土ブロック、酸化鉄凝集を中量含む。
- 18 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 19 褐灰色土 砂質上。焼土粒を多量、炭化物を中量含む。
- 20 褐灰色土 砂質上。焼土塊を多量、黄褐色粘質土ブロック、炭化物、灰を少量含む。
- 21 褐灰色土 砂質上。黄褐色粘質土ブロックを多量含む。
- 22 褐灰色土 砂質上。焼土粒、灰を中量含む。

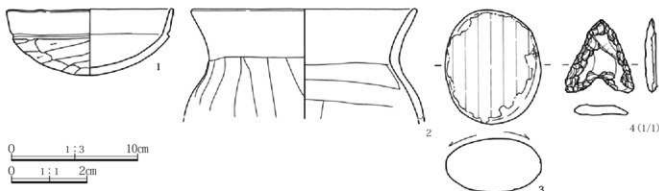
- 23 褐灰色土 砂質上。灰を多量、焼土粒を中量含む。
- 24 褐灰色土 砂質上。灰を多量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 25 褐灰色土 砂質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 26 褐灰色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 27 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒、灰を少量含む。
- 28 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を多量、灰を中量、黄褐色粘質土粒を少量含む。
- 29 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を中量、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 30 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 31 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。
- 32 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。
- 33 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 34 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロック、灰を中量含む。
- 35 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 36 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。
- 37 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 38 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 39 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 40 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを中量含む。
- 41 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを多量含む。
- 42 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土粒、灰を少量含む。
- 43 褐灰色土 シルト質上。黄褐色粘質土粒、焼土粒、灰を少量含む。
- 44 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。

第623図 1区8面 125号住居カマド

認められなかった。**掘り方**:確認できなかった。**壁溝**:認められない。**ピット(柱穴)**:認められない。**貯蔵穴**:南東隅に窪みを認める。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、灰、焼土、炭化物、褐灰色・黄褐色ブロックが混入した褐灰色土である。長径0.96m、短径0.88m、深さ0.22mである。**カマド**:東壁ほぼ中央に位置する。全長1.06m、幅0.97m、焚口幅0.41m、燃焼部幅0.27m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内に確認された。火床上には、灰の分布と土師器片が確認された。火床縁辺部には焼土がまわっている。両袖先端部分には礫が据えられている。右袖石は、長さ0.27m、幅0.1m、厚さ0.16mである。左袖石は、長さ0.17m、幅0.1m、厚さ0.16mである。近くに礫が2片確認でき、焚口天井の構築材と思われる、袖石と共に焚口を構成していたと考える。掘り方は、火床下に0.11m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒、炭化物を含む褐灰

色シルト質土の上に砂質の褐灰色土が載っている。**重複遺構**:124号住居に前出しており、134・135・148号住居に後出している。152号住居と重複している。**遺物**:土師器(杯1点、甕1点) 礫石器(磨石1点) 剥片石器(石鏃1点) カマド周辺、北西部、南部に遺物が出土した。そのうち土器2点、礫石器1点、剥片石器1点を図示した。杯(1)は床直上から、甕(2)は貯蔵穴からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。磨石(3)は床から0.08m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。石鏃(4)が出土しているが、住居とは関係なく混入品であると考えられる。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類111片、甕類355片)須恵器(杯類2片、甕類2片)が出土している。

所見(帰属時期):出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。図示した遺物において、埋土、床直の時期差は認められない。



第624図 1区8面 125号住居出土遺物

126号住居(第625・626図 PL.136・137・221)

1区中央部の住居群内にある。住居中央が85・99号住居と重複しているが、床面はほとんど影響を受けていない。119号住居により西壁が、113号住居により若干南西隅が、壊されている。複数の住居と重複しており、残存状態が良好でない。

位置:139～145・-973～-978にある。

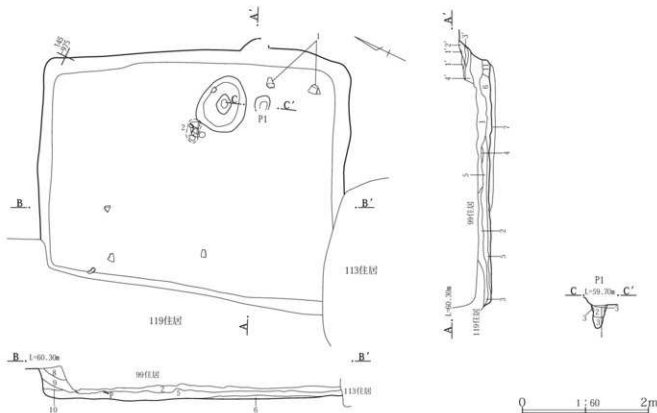
規模形状:各辺直線の対で互いに直交していることから、整った方形を呈していると推察できる。北壁に対して南壁が長い。主軸長(3.51)m、幅4.90mである。**埋没土・壁**:褐灰色シルト質土で埋没している。褐灰色シルト質土ブロック、白褐色粘質土粒、焼土粒、炭化物が混入し

ている。不自然な堆積も見られ人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.41mである。**方位**:N-71°-E
面積:(15.42)㎡ **床面**:傾斜はほとんどない。中央部に若干落ち込みがあるが、平坦である。貯蔵穴及び柱穴の窪みは認められた。**掘り方**:中央部から東部にかけて確認できた。埋め土は、褐灰色シルト質土ブロック、白褐色粘質土ブロック、焼土粒、炭化物を含んだ褐灰色シルト質土である。深さは、0.08m前後である。**壁溝**:認められない。**ピット(柱穴)**:住居南東隅に窪みを確認する。位置より規則的な主柱穴配置による柱穴の1つであると思われる。埋没土は、黄褐色粘土粒、焼土、炭化物を含む褐灰色シルト質土である。長径0.24m、短径

0.22m、深さ0.36mである。貯蔵穴：カマド北西部、全体では東側中央部に位置する。位置と規模より貯蔵穴と思われる。長径0.92m、短径0.72m、である。埋没土は不明である。カマド：崩れが大きく、ほぼ原形をとどめない。燃焼部は東壁際であると推察される。煙道、壁は確認できなかった。断面に焼土が確認できた。掘り方は、火床下に0.09m前後の窪みが認められた。埋め土は、褐灰色シルト質土ブロック、白褐色粘質土ブロック、焼土粒、炭化物を含んだ褐灰色シルト質土である。

重複遺構：85・99・113・119号住居に前出しており、

139・140・142・152号住居に後出している。遺物：土師器(高杯1点、甕1点) 住居南東部及び北東部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。高杯(1)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(2)は床から0.16m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が若干見られた。図示した以外に、土師器(杯類28片、甕類77片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。



126号住居 本A'・B-B'

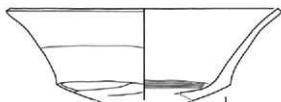
- 1 褐灰色土 シルト質土。白褐色粘質土粒、炭化物、焼土粒を中量含む。
- 1' 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。白褐色粘質土粒、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2' 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 3' 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 4' 褐灰色土 シルト質土。白褐色粘質土粒、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、白褐色粘質土粒、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、白褐色粘質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。

- 7 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、白褐色粘質土ブロック、炭化物を少量含む。床。
- 8 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 11 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、白褐色粘質土ブロック、炭化物を少量含む。床礫。

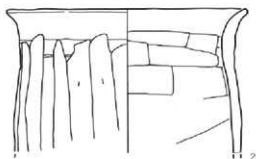
126号住居内1号ピット C-C'

- 1 褐灰色土 シルト質土。黄褐色粘質土粒、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。黄褐色粘質土粒、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

第625図 1区8面 126号住居



0 1:3 10cm



第626図 1区8面 126号住居出土遺物

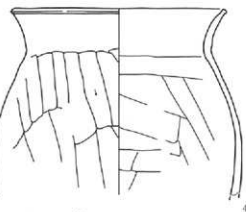
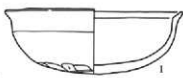
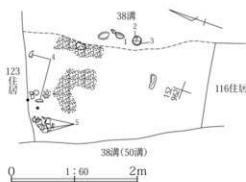
127号住居(第627図 PL.137・221)

1区中央部の住居群内にある。123・116号住居より南北壁が、38・50号溝により東西壁が壊されており、中央付近の部分的な床面の調査となった。そのため全容が明らかでない。

位置：151～154・-961～-963にある。

規模形状：不明 長軸長(3.00)m、短軸長(1.74)mである。埋没土・壁：不明 壁高計測不能 方位：N-24°-W 面積：(4.05)m² 床面：灰の分布が認められた。細長い自然石が出土しており、磨礪石の可能性が

ある。壁溝：不明 ビット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：不明 重複遺構：116・123号住居、38・50号溝に前出している。遺物：土師器(杯3点、甕2点) 住居中央部から遺物が出土していると思われる。そのうち土器5点を図示した。杯(1・2・3)、甕(4・5)は床直上からの出土であると推察され、いずれも本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土が見られた。磨礪石と思われる。図示した以外に、土師器(杯類5片、甕類18片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀前半であると考える。



0 1:3 10cm

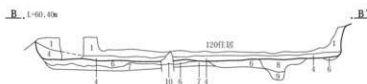
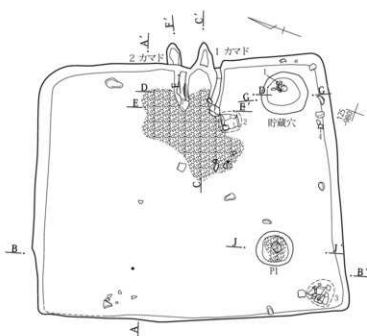
第627図 1区8面 127号住居、出土遺物

128号住居(第628～630図 PL.137・221)

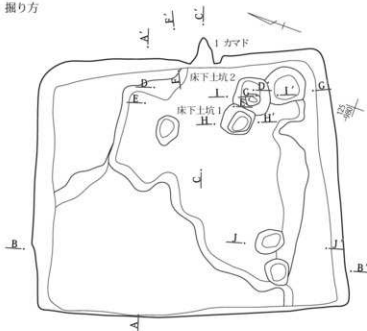
1区中央部の住居群内にある。57・77・120住居により西壁が、89号住居により北壁の一部が壊されているが、

床面は壊されていない。他住居と重複しているため、内容が明らかでない。

位置：124～129・979～984にある。

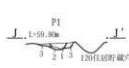


掘り方



128号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 灰白色土、黄褐色土ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。
- 2 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。灰白色味強い。
- 3 褐灰色土 酸化鉄凝集を微量含む。
- 4 褐灰色土 灰化物のブロックを微量含む。
- 5 暗褐色土 粘性強い。地山が流れ込んだものか。
- 6 褐灰色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 7 褐灰色土 黄色味や強い。
- 8 褐灰色土 暗褐色味強い。
- 9 褐灰色土 褐灰色土ブロックを少量含む。
- 10 褐灰色土 酸化鉄凝集。



128号住居貯蔵穴 G-G'

- 1 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 黄灰白色粘質土小ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 焼土、炭化物を少量含む。
- 4 褐灰色土 炭化物を少量含む。しまりやや強い。黄色味強い。
- 5 黄褐色土 しまり強い。色調暗い。

128号住居床下土坑 H-H'

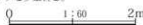
- 1 褐灰色土 灰白色土ブロック、黄灰色土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 黄灰色土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 黄灰色土ブロックを少量含む。暗褐色味強い。
- 4 褐灰色土 黒褐色味強い。

128号住居床下土坑 I-I'

- 1 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 灰白色土ブロックを中量含む。
- 3 褐灰色土 酸化鉄凝集のため赤褐色味強い。
- 4 褐灰色土 暗褐色味強い。
- 5 褐灰色土 暗褐色味強い。

128号住居内ピット J-J'

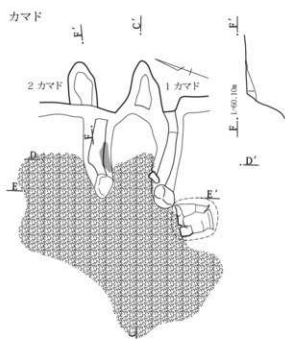
- 1 黄灰白色土 粘質土。
- 2 炭化物
- 3 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。



第628図 1区8面 128号住居

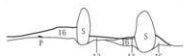
規模形状：各辺直線的である。北東隅がやや丸みを帯びる。東壁に対して西壁がやや長いと推察できる。南北に長い長方形を呈している。主軸長(4.06)m、幅4.92mである。**埋没土・壁**：褐灰色土で埋没している。灰白色土、黄褐色土ブロックを含む。鉄分凝集粒も観察される。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.3mである。**方位**：N-69°-E **面積**：17.81㎡ **床面**：傾斜はほぼない。緩やかな起伏があるがほぼ平坦である。カマド内部から前部にかけて及びP1に灰の分布を認める。貯蔵穴及び柱穴の窪みは確認できた。P1に隣接する窪みは120号住居の貯蔵穴である

と思われる。住居南部を中心に、大小27個の礫が出した。大きいもので長径0.3～0.4m前後、小さいもので0.1～0.15m前後である。細長いものは磨礫石と推察される。**掘り方**：ほぼ全面に確認できた。特に中央から南東にかけて2層になり深くになっている。埋め土は、黄褐色土ブロックを含む褐灰色土である。深さは、0.09～0.26m程である。南東隅に床下土坑が2つ確認された。床下土坑1の埋没土は、黄灰色土・灰白色土ブロックを混入する褐灰色土である。長径0.56m、短径0.50m、深さ0.51mである。床下土坑2の埋没土は、灰白色土ブロックを混入する褐灰色土である。鉄分の凝集も見られる。長径



E, 1:60, 10m

E'



D, 1:60, 10m

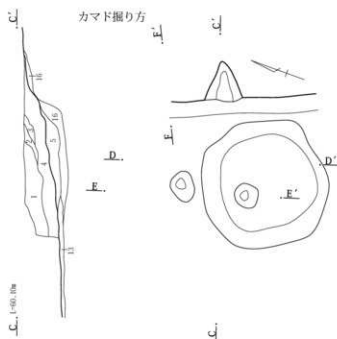
D'



F-F'

1 褐灰色土 灰白色土ブロック、黄褐色土ブロック、焼土ブロックを少量含む。

0 1:30 1m



128号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

- 1 褐灰色土 黄褐色土小ブロック、褐灰色土小ブロックを少量含む。黄色味強い。
- 2 褐灰色土 灰白色味強い。
- 3 褐灰色土 焼土を含む。赤色味強い。
- 4 褐灰色土 焼土ブロック、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 5 褐灰色土 炭化物、焼土粒を多量含む。黄褐色味強い。
- 6 褐灰色土 黄褐色土ブロックを中量含む。
- 7 褐灰色土 黄褐色土ブロックを多量含む。
- 8 褐灰色土 黄褐色土ブロックを少量含む。灰色味強い。
- 9 褐灰色土 黄褐色土ブロックを少量含む。黒褐色味強い。
- 10 黄褐色土 カマド材の濡れたもの。
- 11 黒褐色土 炭化物を多量含む。
- 12 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。
- 12' 褐灰色土 礫状に堆積する灰白色土ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 13 炭化物、灰層
- 14 にぶい黄褐色土 カマド床の崩れたもの。
- 15 にぶい黄褐色土 灰黄褐色土ブロックを少量含む。カマド床材。
- 16 炭化物 黄褐色土ブロックを少量含む。

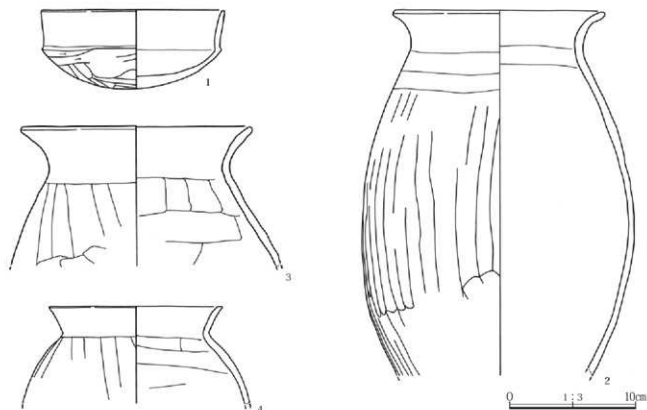
第629図 1区8面 128号住居カマド

0.64m、短径0.58m、深さ0.46mである。平面図より床下土坑1が新しい。中央部やや東、南西部に窪みを認めるが、P1以外の柱穴であるかは明らかでない。

壁溝：認められない。 **ピット(柱穴)：**南西隅にP1を認める。位置より規則的な主柱穴配置による柱穴の1つであると思われる。埋没土は、炭化物の上に黄灰白色粘質土が載っていた。長径0.64m、短径0.58m、深さ0.46mである。他の柱穴は確認できなかった。 **貯蔵穴：**南東隅に窪みを認める。位置と規模より、貯蔵穴と思われる。埋没土は、黄褐色土及び褐灰色土である。炭化物、灰白色土ブロック、黄灰白色粘質土ブロックを含む。長径0.74m、短径0.68m、深さ0.31mである。 **カマド：**東壁中央部やや南寄りに1号カマドが、東壁中央部やや北寄りに2号カマドが位置する。1号カマドは、全長1.17m、幅0.78m、焚口幅0.29m、燃焼部幅0.35m、煙道は壁外側に0.39m突出している。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上から前部にかけて灰の分布が確認された。左袖際には、築土が確認された。両袖先端部分には礫が据えられており、焚口を構築している。土師器甕が隣接しており、袖石とともに焚口を構成していたと思われる。右袖石は、長さ0.32m、幅0.18m、厚

さ0.17mである。左袖石は、長さ0.29m、幅0.18m、厚さ0.14mである。袖材は、黄白色土ブロックを含むにふい黄褐色土を塗り込められている。掘り方は、火床下に0.1m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物を含む灰層である。2号カマドは、崩れが大きく、取り壊された可能性が大きい。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に0.34m張り出している。燃焼部は、住居内にあると推察される。火床、袖、その他の施設は確認できなかった。残存状況より、2号カマドより1号カマドが新しいと思われる。

重復遺構：57・89・120号住居に前出しており、77号住居と重複している。
遺物：土師器(杯1点、甕2点、小型甕1点)住居北西及び中央部から南部にかけて散在するように遺物が出土した。そのうち土器4点を図示した。杯(1)は貯蔵穴から、甕(2・3)は床直上から、小型甕(4)は南壁床上0.1m及び床下土坑からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられるのが自然である。円礫の出土が見られた。磨編石と思われる礫が観察された。図示した以外に、土師器(杯類72片、甕類273片)須恵器(杯類3片)が出土している。 **所見(帰属時期)：**出土遺物、重複関係から、6世紀前半であると考えられる。



第630図 1区8面 128号住居出土遺物

129号住居(第631・632図 PL.137)

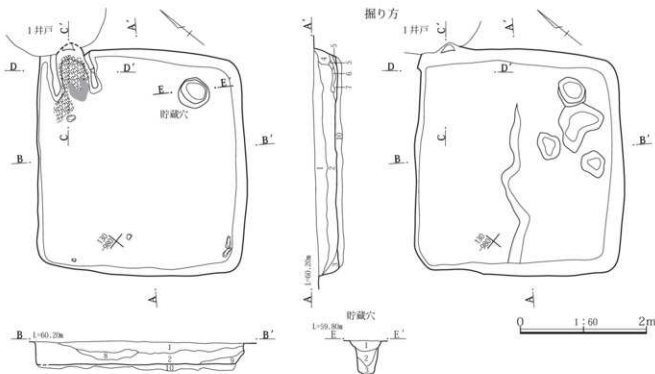
1区中央部の住居群内にある。87・89号住居に北壁と西壁の一部が壊されているが、床面は影響を受けていない。残存状態は良好でない。

位置：128～132・-976～-980にある。

規模形状：東壁、南壁、西壁はわずかに丸みを帯びる。東西にやや長い方形を呈している。主軸長3.69m、幅(3.23)mである。**埋没土・壁：**褐灰色土主体の土で埋没している。灰白色土、黄褐色土を含む。鉄分凝集が観察される。黒褐色粘質土ブロックを含む層が見られる。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.33mである。**方位：**N-46°-E **面積：**9.80㎡ **床面：**傾斜は確認できない。わずかな起伏があるがおよそ平坦である。カマド左袖前部に灰を認める。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は認められなかった。

掘り方：ほぼ全面に認められた。南部が北部に対して深い掘り方となっている。埋め土は、黄褐色ブロックが混入した褐灰色土である。深さは、北部が0.03～0.08m、南部が0.06～0.12m程である。南東隅に複数の窪みを認めるが、床下土坑及び柱穴であるかは明瞭でない。**壁溝：**認められない。**ピット(柱穴)：**認められない。

貯蔵穴：南東隅に窪みを認める。位置と規模より貯蔵穴であると思われる。埋没土は、灰白色土ブロック、黄褐色土ブロック、炭化物を含む褐灰色土である。長径0.5m、短径0.48m、深さ0.52mである。**カマド：**東壁北東隅に位置する。現存全長0.94m、幅0.81m、焚口幅0.39m、燃焼部幅0.41m、煙道は1号井戸により削られていると思われる。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上から左袖前部かけて灰が確認された。一部焼土も観察された。袖材は、黒色粘質土で、暗褐色と

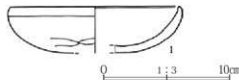


129号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 灰白色土、鉄分凝集の赤褐色土を含む。褐色味強い。
- 2 褐灰色土 灰白色土、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 色調暗い。
- 4 褐灰色土 灰白色土、黄褐色土ブロックを少量含む。灰白色味強い。
- 5 灰白色土 粘質土。ブロック状に混入。カマド袖が濡れたもの。
- 6 灰白色土 砂質土。
- 7 褐灰色土 しまり固い。黒色味強い。
- 8 褐灰色土 黒褐色粘質土ブロックを含む。
- 9 褐灰色土 灰白色土、黄褐色土ブロックを少量含む。赤色味やや強い。
- 10 褐灰色土 黄褐色土ブロックを少量含む。掘り方。

129号住居貯蔵穴 E-E'

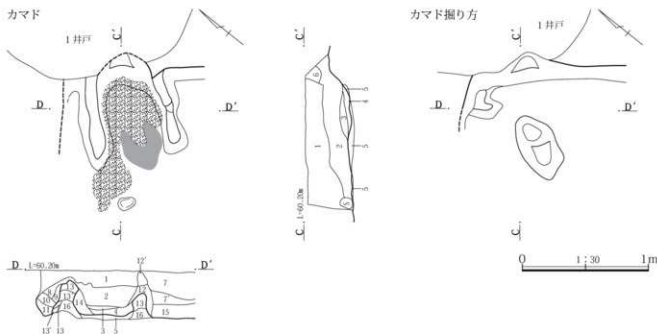
- 1 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量、炭化物を微量含む。
- 2 褐灰色土 黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 色調暗い。



第631図 1区8面 129号住居、出土遺物

褐灰色土との混土を積み上げて作っており、加熱を受けて焼土化していた。左袖先端部分に隣接して礎が出土している。礎口の構築材であると思われる。長さ0.15m、幅0.11m、厚さ0.08mである。掘り方は、火床の下に0.05m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物を含んだ灰層である。重複遺構：1号井戸と重複しており、87・89・146号住居に後出している。遺物：土師器(杯

1点) 住居使用面からの遺物の出土はほとんど確認できなかったが、土器1点を図示した。杯(1)は掘り方からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。円礎の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類26片、甕類47片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、7世紀代であるとする。



129号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 灰白色土ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。
- 2 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。1層に類するが、黄色味強い。
- 3 暗褐色土 赤色味強い。
- 4 焼土ブロック
- 5 炭化物、灰層
- 6 灰白色土 粘質土。カマド構築材。
- 7 褐灰色土 灰白色土ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。赤色味強い。
- 7' 褐灰色土 黄色味強い。
- 8 赤褐色土 酸化鉄凝集層。

- 9 暗褐色土 明赤褐色味や強い。
- 10 黒褐色土 粘質土。焼土を多量含む。
- 11 褐灰色土 赤褐色味や強い。
- 12 褐灰色土 灰白色味や強い。
- 12' 褐灰色土 灰白色粘質土を少量含む。
- 13 暗褐色土 褐灰色土ブロックを多量含む。カマド材。
- 13' 暗褐色土 加熱を受け赤褐色味強い。カマド袖材。
- 14 黒褐色土 焼土を多量含む。カマド袖が崩れたもの。
- 15 黒褐色土 粘質土。灰白色粘質土、焼土ブロックを多量含む。
- 16 黒色土 粘質土。カマド袖材。

第632図 1区8面 129号住居カマド

130号住居(第633～635図 PL.137・138・221)

1区中央部の住居群内にある。119号住居により東壁を壊されているが、床面は壊されていない。51号住居に中央から北西部にかけて壊されているため、全容が明らかでない。

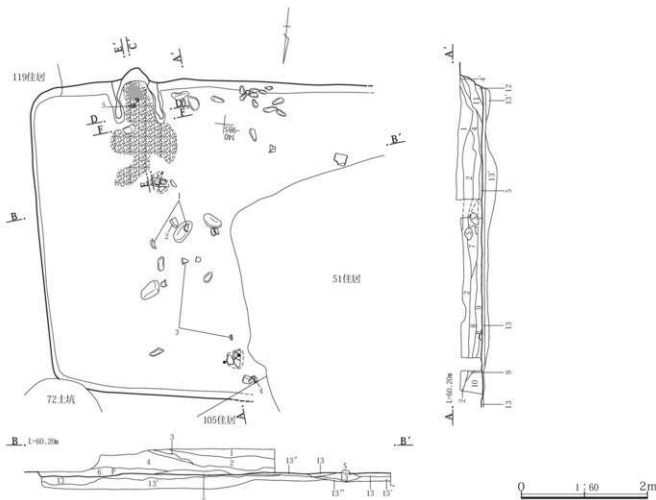
位置：139～144・-982～-987にある。

規模形状：北壁、南壁共に、わずかに丸みを帯びている。

南東隅が鋭角に交わっていると思われる。東西に長い方形を呈していると推察される。主軸長(5.57)m、幅4.93mである。埋没土・礎：褐灰色土主体の土に、灰白色ブロック及び黄褐色ブロック、炭化物、焼土ブロックが混入している。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.42mである。方位：N-16°-W 面積：(12.85)m² 床面：傾斜は確認できない。壁際は若干落ち込んで

いるが、緩やかな起伏を伴いおおよそ平坦である。カマド内から前部にかけて灰の分布を認める。貯蔵穴、柱穴等は認められなかった。南壁中央部直下に、10点ほどの細長い自然石を確認する。薦石であると思われる。掘り方は、ほぼ全面に認められた。中央部から東部にかけて深い掘り方となっている。埋め土は、灰白色土ブロック、暗褐色土ブロックを含む褐色土であり、締まりが強い。深さは、西部が0.12～0.14m、東部が0.2～0.25m程である。南東隅に落ち込みを認める。床下土坑2つとカマドの掘り方であると思われる。カマド両側下に床下土

坑を2つ認める。床下土坑1の埋没土は、灰白色ブロック、黄褐色土を含む褐色土である。長径0.72m、短径0.53m、深さ0.21mである。床下土坑2の埋没土は、灰白色ブロック、黄褐色土ブロックを含む褐色土である。長径0.52m、短径0.44m、深さ0.14mである。北東隅にも落ち込みを認めるが、柱穴であるかは明瞭でない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：南壁中央東寄りに位置する。全長0.96m、幅0.8m、焚口幅0.48m、燃焼部幅0.51m、煙道は明瞭でなかった。燃焼部は、住居内



130号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐色土 灰白色土ブロックを少量含む。黄色味強い。
- 2 褐色土 2層に類するが、灰白色土を少量含む。色調暗い。
- 3 に近い黄褐色土 褐色土ブロック、黄褐色土ブロックを中量含む。
- 4 褐色土 炭化物、焼土ブロックを少量、灰白色土ブロック、黄褐色土ブロックを微量含む。
- 5 灰白色土 粘質土。黄褐色土ブロック(カマド構築材)、褐色土ブロックを多量含む。
- 6 褐色土 炭化物、焼土ブロックを少量、灰白色土ブロック、黄褐色土ブロックを微量含む。色調やや暗い。
- 7 褐色土 炭化物大ブロックを中量含む。

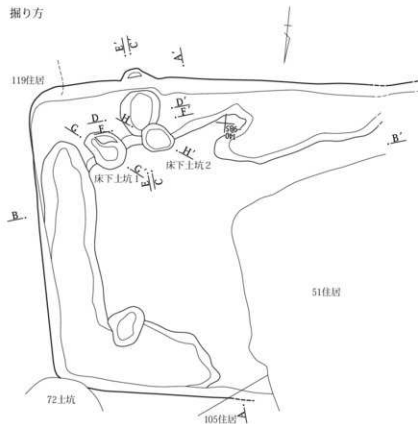
- 8 褐色土 灰白色土ブロックを少量含む。
- 9 褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む。
- 10 褐色土 黄褐色土ブロックを少量、灰白色土ブロックを微量含む。
- 11 褐色土 暗灰白色粘質土を少量含む。
- 12 褐色土
- 13 褐色土 灰白色土ブロック、暗褐色土ブロックを少量含む。色調暗い。
- 13' 褐色土 黄色味強い。
- 13'' 褐色土 しまりやや強い。暗褐色味強い。
- 13''' 褐色土 しまりやや強い。赤褐色味強い。

第633図 1区8面 130号住居

から壁際にかけて確認された。火床上には、土師器片が確認され、周囲には、灰と焼土が観察された。左袖先端部分に礎が据えられており、袖石として礎口を構成している構築材であったと思われる。左袖石は、長さ0.36m、幅0.13m、厚さ0.12mである。基礎を黄灰色粘質土ブロックの混入した褐灰色土で固められていた。袖材は、黄灰色粘質土で作られている。掘り方は、火床下に0.06m前

後の窪みが認められた。埋め土は、焼土ブロックを多く含む炭化物・灰層である。支脚、袖石に相当する位置にビット状の窪みを認める。重複遺構：72号土坑、51・78・105・119号住居に前出しており、78号土坑に後出している。遺物：土師器(杯2点、支脚1点、甕1点、小型甕1点) カマドから住居中央を通り北部にかけて遺物が出土した。そのうち土器5点を図示した。支脚(5)

掘り方



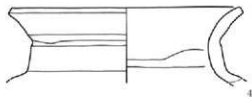
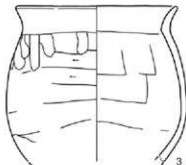
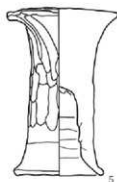
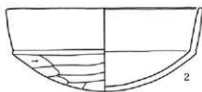
130号住居床下土坑 G-C'

- 1 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。黄色味やや強い。
- 2 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 灰白色土ブロック、黄褐色土ブロックを少量含む。

H-H'

- 1 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。黄色味やや強い。
- 2 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。灰色味強い。
- 3 褐灰色土 黄褐色土ブロックを少量含む。

0 1:60 2m

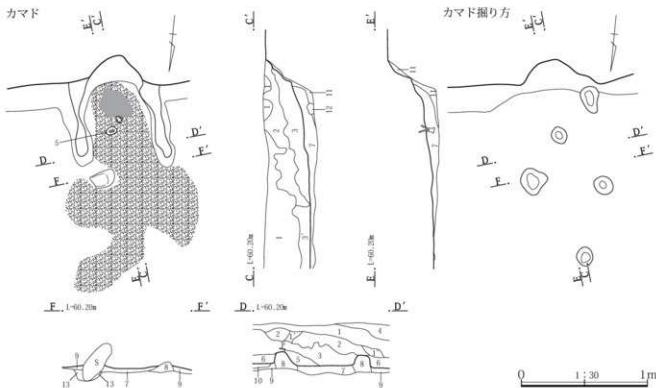


0 1:3 10cm

第634図 1区8面 130号住居掘り方、出土遺物

はカマドに据えられており、確実に本住居に伴うものである。杯(1・2)は床上0.15～0.27m浮いた位置から、小型壺(3)は床上0.04～0.12m浮いた位置から、裏(4)は床上0.08m浮いた位置から出土しており、いずれも床直上からの出土ではないが、重複する住居に6世紀前半のものはないので、本住居に伴うと考えるのが自然であ

る。円礫が多数出土しており、薦編石と思われる礫も観察された。図示した以外に、土師器(杯類52片、裏類278片)、不明土器1片が出土している。所見(婦属時期):出土遺物、重複関係から、6世紀前半であると考える。図示した遺物において、埋土、床直の時期差は認められない。



130号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'・F-F'

- 1 褐灰色土 灰白色上ブロックを少量含む。
- 1' 褐灰色土 灰白色上小ブロックを少量含む。
- 2 灰白色土 粘質土。黄褐色上ブロックを多量含む。
- 3 褐色土 黄褐色上ブロック、焼土ブロック、炭化物、灰を中量含む。
- 3' 褐色土 焼土、炭化物を少量含む。
- 4 灰白色土 粘質土。褐色上ブロックを多量含む。
- 5 褐色土 焼土、炭化物、灰を多量含む。

- 6 褐色土 黄褐色上ブロックを少量含む。
- 7 炭化物、灰層 焼土ブロックを多量含む。中位と底面に灰層。
- 8 黄灰色土 粘質土。カマド袖構築材。
- 9 暗褐色土 焼土、灰を少量含む。赤色味を帯びる。
- 10 暗褐色土 焼土を少量含む。
- 11 暗褐色土 焼土、灰を少量含む。赤色味やや強い。
- 12 黄灰色土 粘質土。ブロック状に混入。
- 13 褐色土 黄灰色粘質上ブロックを少量含む。

第635図 1区8面 130号住居カマド

131号住居(第636～638図 PL.138・222)

1区中央部の住居群内にある。7号竪穴により南東隅が、100・151号住居により西壁から南西部にかけて壊されているため、全容が明らかでない。

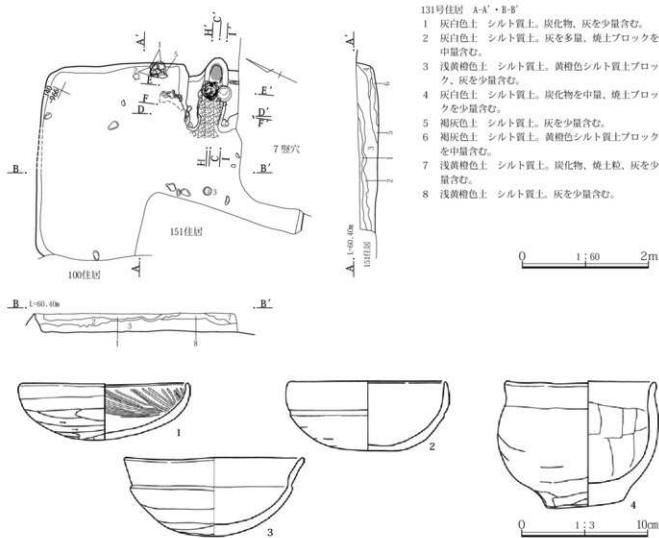
位置: 135～140・-964～-968にある。

規模形状: 北壁、東壁共に曲線を描く。南北に長い丸みを帯びた長方形を呈していると推察される。主軸長(3.06)m、幅4.22mである。埋没土・壁: 灰白色土及、浅黄橙色土、及び褐色土で埋没している。黄橙色シル

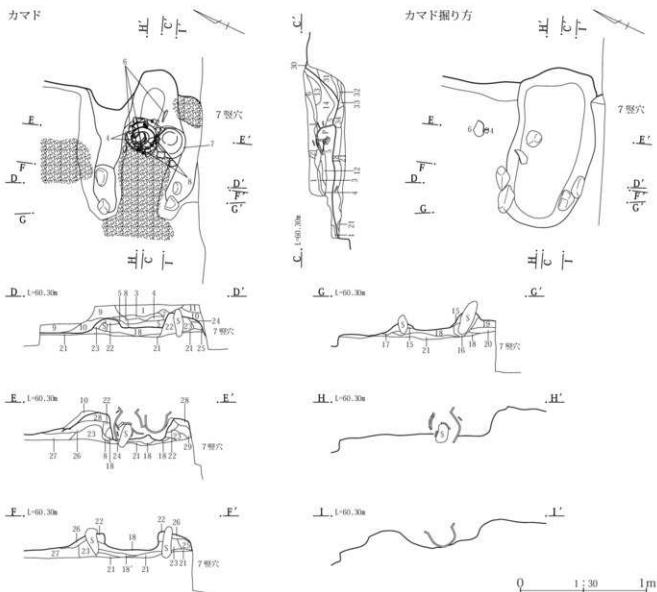
ト質土ブロック、灰、炭化物、焼土ブロックを含んでおり、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.25mである。方位: N-71°-E 面積: (8.08)㎡ 床面: 東にやや傾斜している。わずかな起伏があるが、およそ平坦である。カマド内部から前部にかけて灰の分布を認める。貯蔵穴、柱穴は認められなかった。掘り方: 確認できなかった。壁溝: 認められない。ピット(柱穴): 認められない。貯蔵穴: 認められない。カマド: 東壁中央やや南に位置していると推察される。袖が十分に

確認されており残存状態の良いなカマドである。全長1.24m、幅0.98m、焚口幅0.32m、燃燒部幅0.38m、煙道は壁外側に0.31m突出している。燃燒部は、住居内に確認された。火床上には、支脚の礫が据えられてある。土師器甕が置いてあり、隣接するようにもう一つ土師器甕が重ねて出土した。支脚は、長さ0.19m、幅0.12m、厚さ0.08mである。両袖先端部分には、礫が2つずつ据えられており、袖壁を構築している構築材であったと思われる。右袖石は、手前が長さ0.28m、幅0.12m、厚さ0.1mであり、奥が長さ0.22m、幅0.1m、厚さ0.06mである。左袖石は、手前が長さ0.14m、幅0.12m、厚さ0.08mであり、奥が長さ0.21m、幅0.14m、厚さ0.09mである。袖材は、褐灰色土ブロックを含む暗褐色シルト質土である。内側は熱を受けて焼土化している。掘り方は、火床

下に0.09m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰褐色土ブロックを含む暗褐色土の上に、灰を多く焼土粒を少量含む黒色土が埋戻されている。重複遺構：7号竪穴状遺構、100・124・151号住居、80号土坑に前出している。遺物：土師器(杯3点、鉢2点、甕1点、甕2点)カマド内及び周辺を中心にして遺物が出土した。そのうち土器8点を図示した。鉢(7)、甕(8)はカマド内と並んで出土し、同じ場所から鉢(4)、甕(6)が出土しており、いずれ確実に本住居に伴うものと考えられる。杯(1・2・3)、甕(5)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものであると考えられる。円礫の出土が見られるが、図示した以外に、土師器(甕類8片)が出土している。所見(婦屬時期)：出土遺物から、6世紀前半であると考える。



第636図 1区8面 131号住居、出土遺物(1)

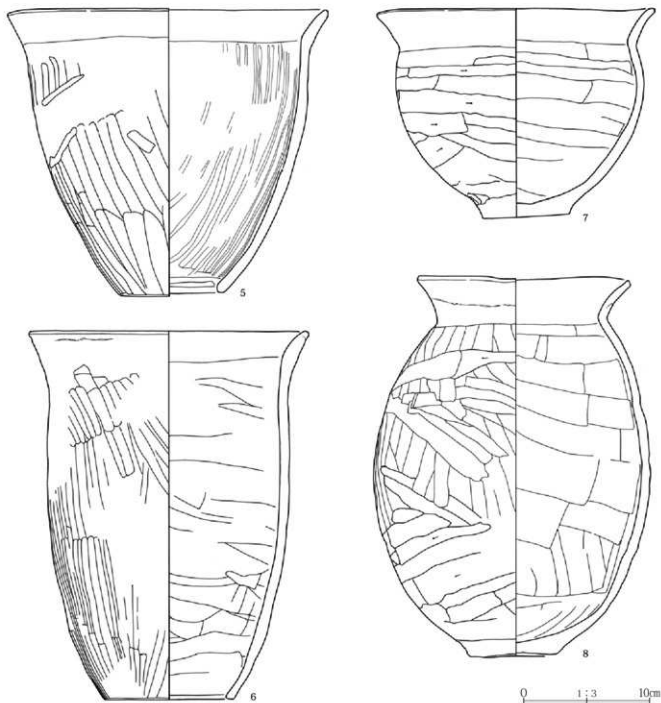


131号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'・F-F'・G-G'

- 1 褐色土 シルト質土。炭化物粒、焼土粒を少量含む。しまりやや強い。
- 2 褐色土 焼土粒を少量含む。しまり強い。
- 3 暗褐色土 炭化物を多量、焼土粒を少量含む。粘性強く、しまりやや弱い。
- 4 にぶい黄褐色土 灰白色粘土ブロックを多量含む。粘性強く、しまり強い。
- 5 暗褐色土 焼土ブロックを多量含む。しまりやや弱い。
- 6 褐色土 炭化物、焼土粒を中量含む。しまり強い。
- 7 にぶい黄褐色土 粘質土ブロック、粘質土粒を多量、焼土粒を少量含む。粘性強い。しまり強い。
- 8 暗褐色土 焼土粒、粘土粒を少量含む。しまりやや弱い。
- 9 にぶい黄褐色土 灰黄褐色土ブロックを少量含む。しまりやや弱い。シルト質土。
- 10 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土粒を微量含む。しまり強い。
- 11 にぶい黄褐色土 炭化物、焼土粒を少量含む。しまり強い。
- 12 暗褐色土 焼土粒を中量、炭化物を少量含む。しまりやや弱い。
- 13 褐色土 焼土ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 14 暗褐色土 焼土ブロックを中量含む。しまりやや弱い。
- 15 褐色土 粘質土、焼土粒を少量含む。粘性強い。しまり強い。
- 16 暗褐色土 焼土小ブロックを多量含む。粘性強い。しまりやや弱い。
- 17 褐色土 炭化物を少量含む。シルト質土。

- 18 黒色土 灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 18' 黒褐色土 灰を少量、焼土粒を多量含む。
- 19 黒褐色土 灰を多量、褐色土小ブロックを中量含む。
- 20 褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを微量含む。
- 21 暗褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを微量含む。
- 22 赤褐色土 焼土層。粘土ブロック、褐色土小ブロックを少量含む。
- 23 暗褐色土 シルト質土。褐色土ブロック、炭化物を少量含む。粘性強い。しまり強い。
- 24 暗褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。粘性強い。しまりやや弱い。
- 25 暗褐色土 シルト質土。褐色土、炭化物層の互層。粘性強い。しまりやや弱い。
- 26 暗褐色土 シルト質土。焼土ブロック、炭化物を中量含む。粘性強い。
- 27 暗褐色土 シルト質土。褐色土、黄褐色土小ブロックを中量含む。しまり強い。
- 28 暗褐色土 シルト質土。褐色土ブロック、焼土粒を少量含む。しまり強い。
- 29 褐色土 シルト質土。黄褐色土ブロックを中量含む。
- 30 暗褐色土 シルト質土。焼土ブロックを少量含む。
- 31 褐色土 シルト質土。焼土ブロック、炭化物、灰を中量含む。粘性強い。
- 32 黒褐色土 灰層。焼土粒を少量含む。しまり強い。
- 33 黒褐色土 焼土ブロックを多量、灰を少量含む。しまり強い。
- 34 褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを少量含む。

第637図 1区8面 131号住居カマド



第638図 1区8面 131号住居出土遺物(2)

132号住居(第639図 PL.138)

1区東側の住居群内にある。3号竪穴に北壁が壊されており、全体的に削平が進んでいるため、残存状態が良好でない。

位置：140～142・-935～-939にある。

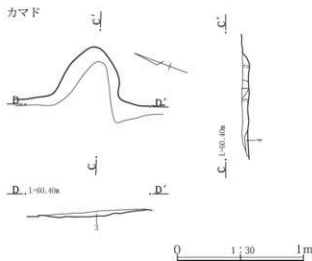
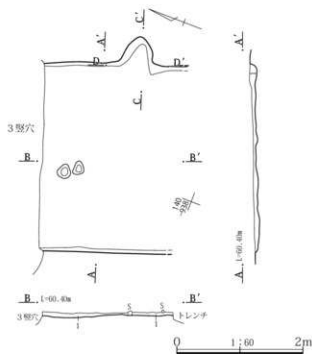
規模形状：東壁、西壁共に直線的である。整った方形を呈していると推察される。主軸長2.99m、幅(2.13)mである。埋没土・壁：壁高は0.06mである。方位：

N-80°-E 面積：(5.98)㎡ 床面：使用面は削平されており、床層の一部のみ残存している。貯蔵穴、柱穴等の窠みは認められなかった。北部中央にビット状の窠みを確認するが、柱穴等何等かの施設であるかは明瞭でない。掘り方は、ほぼ全面に確認できた。埋め土は、白褐色形跡(Hr-PP)、黄褐色粒砂、褐灰粒砂土ブロックを含む褐色土である。壁溝：不明 ビット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：東壁中央部付近に位置している

と推察される。削平が進み、残存状態は良好でない。現存全長0.61m、現存幅0.51m、焚口幅不明、燃焼部幅0.35m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から住居外にかけてあったと思われる。火床上には、観察できるものはなかった。袖は削平が進み確認できなかった。掘り方は、火床下にあったと思われる、埋め土は、灰、

黄褐色砂土ブロックを含む暗褐色土及び褐色土の砂層である。重複遺構：3号竪穴状遺構に前出している。

遺物：なし 所見(帰属時期)：出土遺物は確認できなかった。重複関係より6世紀後半以前と考えるが、時期決定の資料に欠ける。



132号住居 A-A'・B-B'

1 褐色土 砂質土。白濁色軽石(PP)が、黄褐色砂土、褐色土ブロックを少量含む。床層。

132号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐色土 細砂土。灰、焼土粒、黄褐色砂土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 砂土。灰を中量、黄褐色砂土ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 砂土。灰を少量含む。
- 4 暗褐色土 砂土。黄褐色細砂土ブロックを中量含む。

第639図 1区8面 132号住居

133号住居(第640・641図 PL.138)

1区中央部の住居群内にある。他住居と重複しており、残存状態が良好でない。108号住居により南壁と西壁の一部が壊されているが、掘り方の底部までは壊されていない。

位置：148～150・-938～-941にある。

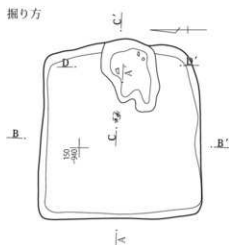
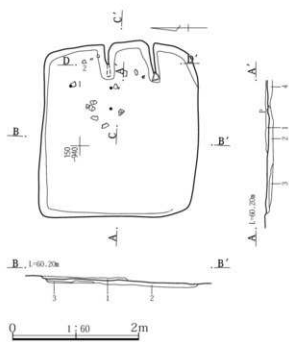
規模形状：北壁、西壁共に直線的である。東壁は丸みを帯びている。東西にやや長い方形を呈していると推察される。主軸長2.72m、幅(2.43)mである。埋没土・壁：床面直上は、黄褐色細砂土ブロック、褐色細砂土ブロック及び灰を含む褐色土である。自然埋没か人為埋没か明らかでない。壁高は0.22mである。方位：N-80°-E 面積：(5.88)m² 床面：南東に傾斜している。わずかな起伏があるがおよそ平坦である。上面近くまで削平

されており、床層のみ残存している状態である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。掘り方：ほぼ全面に確認できた。埋め土は、黄褐色細砂土ブロック、褐色細砂土ブロック及び灰を含む褐色土である。深さは、0.07m前後であると思われる。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中部やや南寄りに位置している。全長0.69m、幅0.93m、焚口幅0.55m、燃焼部幅0.51m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床の上には、土師片が散見される。右袖先端部分には礫が据えられており、焚口の構築材であったと思われる。右袖石は、構築前に削られており意図的に工作されたものであろう。長さ0.1m、幅0.15m、厚さ不明である。袖材は、褐色細砂土ブロック、白褐

色軽石を含む褐灰色土である。掘り方は、火床下に0.07 m前後の窪みが認められた。埋め土は、黄褐砂土ブロックを含んだ褐灰色土の上に灰、焼土粒を含んだ褐灰色土が埋められている。重複遺構：108号住居に後出しており、106号住居と重複している。遺物：須恵器(椀1点)、土師器(甕1点) 使用面、掘り方共にカマド付近から集中して遺物が出土した。そのうち土器2点を図示

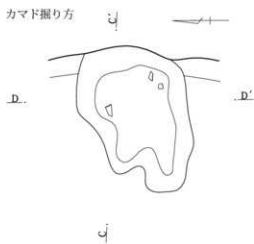
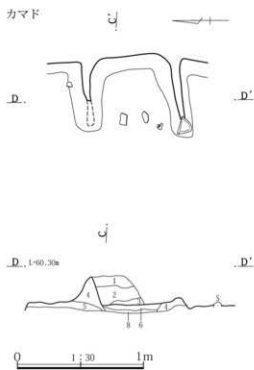
した。椀(1)(須恵器)、甕(2)共に、床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。川原石状の礫の出土も僅かに見られた。図示した以外に、土師器(杯類20片、甕類57片)、須恵器(杯類6片)が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物から、9世紀中頃であると考える。



133号住居 A-A'・B-B'

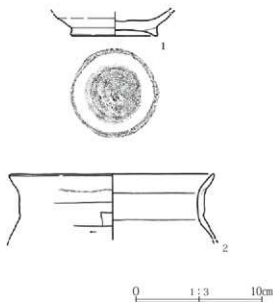
- 1 褐灰色土 砂質土。褐灰色細砂土ブロック、黄褐色細砂土ブロック。灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 砂質土。褐灰色細砂土ブロック、黄褐色細砂土ブロックを中量、灰を少量含む。床礫。
- 3 褐灰色土 砂土。黄褐色軽石ブロックを中量含む。
- 4 褐灰色土 砂土。灰を中量、焼土粒を少量含む。



133号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 砂質土。白褐色軽石、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 砂質土。白褐色軽石、褐灰色細砂土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 砂質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 4 褐灰色土 砂質土。褐灰色細砂土ブロックを中量、白褐色軽石を少量含む。
- 5 褐灰色土 砂質土。黄褐色細砂土ブロックを中量含む。
- 6 褐灰色土 砂質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 7 黄褐色土 砂質土。黄褐色砂土ブロックを中量含む。
- 8 褐灰色土 砂質土。黄褐色砂土ブロックを少量含む。

第640図 1区8面 133号住居



第641図 1区8面 133号住居出土遺物

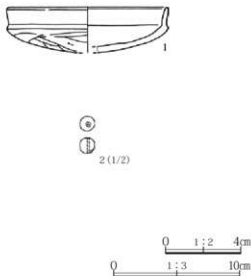
134号住居(第642・643図 PL.139・222)

1区中央部の住居群内にある。124号住居に東部の使用面を125号住居に北部の床面を壊されているため、全容が明瞭でない。

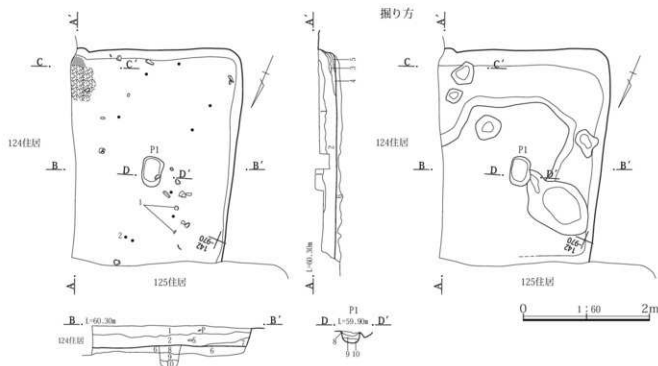
位置：139～143・-966～-970にある。

規模形状：西壁、南壁共に直線的である。両辺は若干鋭角に交わる。全体としては、方形を呈していると推察される。長軸長(3.37)m、短軸長(2.67)mである。**埋没土・壁**：褐灰色土で埋没している。褐灰色土ブロック、黄褐色土ブロック、灰、焼土を含むため、人為的な埋没であると思われる。壁高は0.29mである。**方位**：N-49°-W **面積**：(7.91)㎡ **床面**：東に傾斜している。緩やかな起伏があるが、およそ平坦である。カマド周りに灰及び焼土を認める。貯蔵穴の窪みは確認できなかった。柱穴は認められた。**掘り方**：調査した範囲ではほぼ全面に確認できた。中央部がやや低い。西部及びカマド前部に、複数の窪みを認めるが、床下土坑、柱穴等であるかは明瞭でない。埋め土は、黄褐色土ブロックを含む褐灰色シルト質土である。炭化物が混入して締まりが強い。深さは、0.04～0.16mである。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：住居の南西と思われる位置より窪みを認める。位置と規模より、P1は、規則的な主柱穴配置による柱穴の1つであると思われる。埋没土は、褐灰色シルト質土ブロックを含む褐灰色土である。長径0.48m、短径0.32m、深さ0.18mである。**貯蔵穴**：確

認できない。**カマド**：南壁中央部付近に位置すると推察される。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から壁際にかけてあると思われる。火床上には、灰及び焼土の分布が見られた。袖は明瞭でなかった。袖材は、断面より黄褐色土ブロックを含む褐灰色土であると思われる。掘り方は、火床下に0.1m前後の窪みが認められた。埋め土は、黄褐色シルト質土ブロック、灰、焼土粒、炭化物を含む褐灰色シルト質土である。下層は床層で締まりが強い。**重複遺構**：124・125号住居に前出しており、100・142・152号住居に後出している。**遺物**：土師器(杯1点)、土製品(丸玉1点) 住居南西部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は床上0.07～0.15m浮いた位置及び埋没土から、丸玉(2)は床上0.20m浮いた位置から出土しており、いずれも本住居に伴うものか明瞭でない。川原石状の礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類84片、甕類241片)、須恵器(杯類1片、甕類1片)が出土している。**所見(婦塚時期)**：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。



第642図 1区8面 134号住居出土遺物

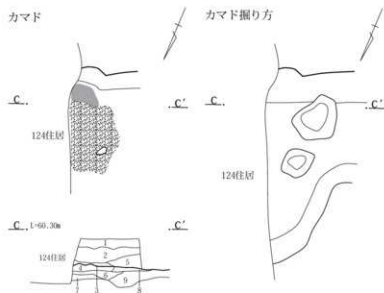


134号住居 A-A'・B-B'・D-D'

- 1 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロック、マンガン粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。灰を多量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。

- 6 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。しまりやや強い、床層。
- 7 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 8 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを多量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

カマド



134号住居カマド C-C'

- 1 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロック、マンガン粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。灰を多量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。しまりやや強い、床層。
- 8 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを多量含む。

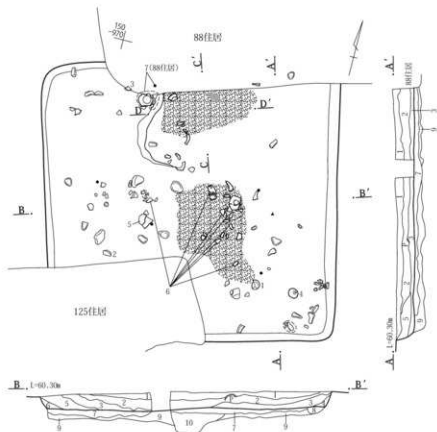
第643図 1区8面 134号住居

135号住居(第644～646図 PL.139・222)

1区中央部の住居群内にある。88号住居により北壁を125号住居により南西壁と床面を壊されているため、全

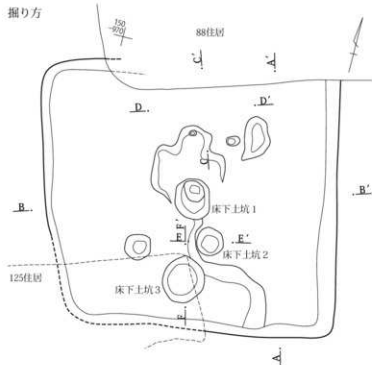
容が明らかでない。125号住居により掘り方の底面は壊されていない。

位置：145～150・-965～-971にある。



135号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質上, マンガン粒を中量, 褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。灰を中量, 黄褐色シルト質土ブロック, 炭化物, 焼土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 褐灰色土 砂質上。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロックを中量, 黄褐色粘質土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロック, 黄褐色シルト質土ブロックを中量, 炭化物を少量含む。しまりやや固い, 床層。
- 8 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。
- 9 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量, 炭化物を少量含む。
- 10 褐灰色土 シルト質上。褐灰色シルト質土ブロック, 黄褐色シルト質土ブロック, 炭化物を少量含む。



床下土坑2



床下土坑3



135号住居床下土坑 E-E'

- 1 褐灰色土 シルト質上。白褐色粘質土粒, 褐灰色シルト質土ブロック, 灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。褐灰色・黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

F-F'

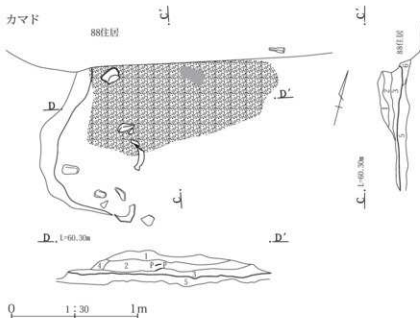
- 1 褐灰色土 白褐色粘質上, 褐灰色シルト質土ブロック, 焼土粒, 灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 黄褐色シルト質土ブロックを中量, 灰を少量含む。

0 1:60 2m

第644図 1区8面 135号住居

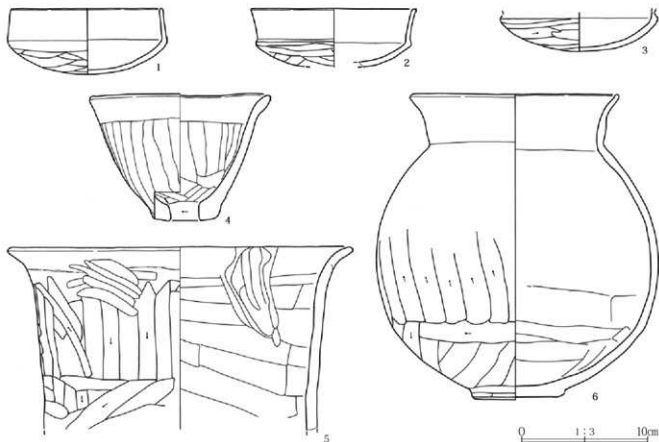
規模形状:各辺共直線的で直交している。整った方形をしていると推察される。長軸長4.72m、短軸長(4.00)mである。**埋没土・壁:**褐灰色土主体の土で埋没している。褐灰色・黄褐色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒等を含むが、壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.26mである。**方位:**N-74°-E **面積:**(15.89)m² **床面:**傾斜はほぼない。中央部にやや落ち込みがある。わずかな起伏があるが、ほぼ平坦である。カマド前部及び中央部に広く灰の分布を認める。貯蔵穴の窪みは確認できなかった。柱穴は認められなかった。**掘り方:**ほぼ全面に確認できた。埋没土は、褐灰色・黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を含む褐灰色土であり、締まりが強い。深さ0.12~0.20mである。床下土坑が3つ確認された。床下土坑1の埋没土は、褐灰色土ブロック、黄褐色土ブロック、炭化物を含む褐灰色土である。長径0.64m、短径0.54m、深さ0.34mである。床下土坑2の埋没土は、白褐色粘質土、褐灰色・黄褐色シルト質土ブロック、灰を含む褐灰色シルト質土である。長径0.44m、短径0.42m、深さ0.18mである。床下土坑3の埋没土は、白褐色粘質土、褐灰色、黄褐色シルト質土ブロック、灰、焼土粒を含む褐灰色土である。長径0.72m、短径0.66m、深さ0.2mである。その他複数の窪みが認められたが、床下土坑や柱穴

であるかは明瞭でない。**壁溝:**東辺の断面に認められない。**ピット(柱穴):**認められない。**貯蔵穴:**認められない。**カマド:**北辺の中央付近に位置すると推察される。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内一部は確認できた。灰及び焼土の分布が確認できた。周囲には土師器片が確認された。左袖先端部分に相当する位置に、礫及び土師器片が出土した。袖の構築材であったと思われる。掘り方は、火床下に0.07m前後の窪みが認められた。埋め土は、褐灰色土ブロック、灰を含む褐灰色土である。**重複遺構:**88・125住居に前出しており、147・148号住居に後出している。**遺物:**土師器(杯3点、甕2点、甕1点)、原石(滑石)2点 住居中央部床下土坑周辺から遺物が出土した。そのうち土器6点を図示した。杯(2)、甕(4)、原石(滑石)2点は、床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1)は床上0.15mから、杯(3)は床上0.07m及び埋没土から、甕(6)は床上0.07~0.14mから、甕(5)は床上0.07mからの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類73片、甕類327片)が出土している。**所見(帰属時期):**出土遺物、重複関係から、6世紀後半であるとする。



135号住居カマド C-C・D-D'

- 1 褐灰色土 シルト質土。白褐色粘質土ブロック、黄褐色粘質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、焼土粒を中量、白褐色粘質土ブロック、炭化物、灰を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。灰を多量、黄褐色粘質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。黄褐色粘質土粒、炭化物、焼土粒を少量含む。



第646図 1区8面 135号住居出土遺物

136号住居(第647・648図 PL.139)

1区東側の住居群内にある。住居北半部以上が調査区域外にあり、西壁が45号溝に壊されているため、全容が明らかでない。

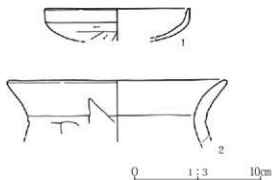
位置：157～158・-952～-956にある。

規模形状：南壁は歪んでいる。方形を呈していると推察されるが、全容は明確でない。長軸長(3.80)m、短軸長(1.37)mである。埋没土・壁：褐灰色土主体の土で埋没している。自然埋没か、人為埋没か明瞭でない。壁高は0.21mである。方位：N-76°-E 面積：(4.14)m²

床面：傾きはほとんどない。中央部に若干落ち込みがある。わずかな起伏があるが、およそ平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窠みは認められなかった。調査した範囲では、掘り方：全面に認められた。南東部に2つ窠みを認めるが、床下土坑であるかは明瞭でない。埋め土は、黄褐色シルト質土ブロックを含む砂質土の褐灰色土である。深さ0.08m前後である。南東部の窠みは、東壁際には、深さ0.12m前後であり、南壁際は、深さ0.1m前後である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。

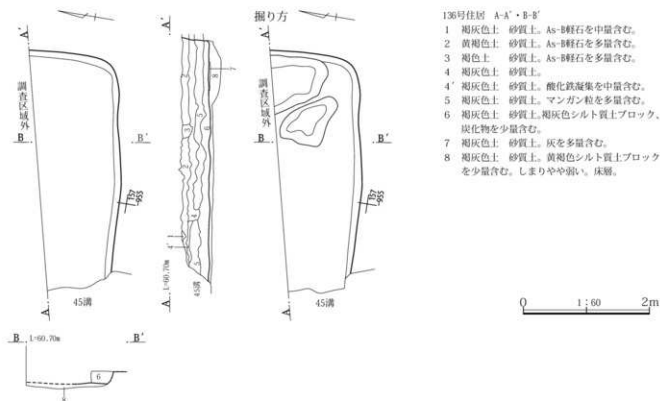
貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。

重複遺構：45号溝に前出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点) 住居掘り方から遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)、甕(2)共に掘り方からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。川原石状の礫の出土は見られなかった。図示した以外に、土師器(杯類1片、甕類21片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から7世紀代であるとする。



第647図 1区8面 136号住居出土遺物

2 1区の遺構と遺物



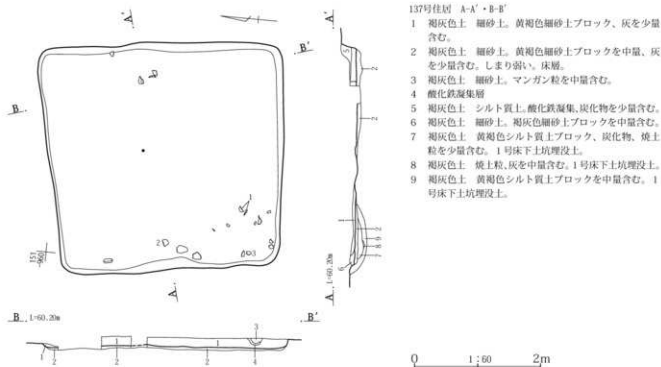
第648図 1区8面 136号住居

137号住居(第649・650図 PL.139・223)

1区中央部の住居群内にある。全体的に削平が進んでおり他住居と重複しているため、全容が明らかでない。

位置：147～151・-956～-960にある。

規模形状：各辺直線的である。西壁に対して東壁が長い。正方形に近い方形を呈している。長軸長(3.77)m、短軸



第649図 1区8面 137号住居

長3.53mである。埋没土・壁：黄褐色細砂土ブロック、灰を含む褐灰色土で一氣に埋没している。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.23mである。方位：N-7°-W 面積：11.88㎡ 床面：傾斜はほとんどない。中央がわずかに盛り上がっている。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。掘り方：ほぼ全面で認められた。埋め土は、黄褐色細砂土ブロック、灰を含む褐灰色土である。締まりは弱い。深さ0.05～0.08mの床層である。南西部に広大な窪みが認められた。床下土坑1と思われる。土坑中央に縦0.27m横0.14m厚さ0.09mの礫が据えられていた。この施設に関連したものであるが、明瞭でない。床下土坑1の埋没土は、黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物、灰を含む褐灰色

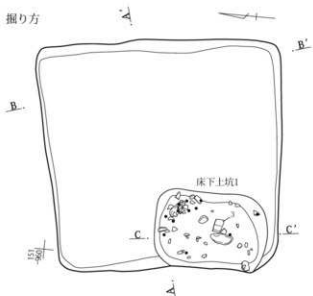
土である。長径1.78m、短径1.3m、深さ0.25mである。

壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。

貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。

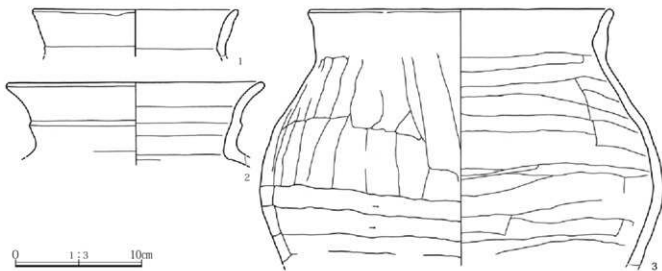
重複遺構：6号竪穴状遺構に後出しており、114・115・116号住居に前出している。遺物：土師器(甕3点)住居東寄り及び西壁付近から遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。甕(2)は床直上から、甕(1・3)は床直上及び床下土坑からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土が若干見られた。図示した以外に、土師器(杯類3片、甕類216片)、須恵器(甕類3片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀前半であるとする。

掘り方



137号住居床下土坑1 C-C'

- 1 褐灰色土 細砂土。黄褐色細砂土ブロックを中量、灰を少量含む。しまり弱い。床層。
- 2 褐灰色土 細砂土。黄褐色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 細砂土。焼土粒、灰を中量含む。
- 4 褐灰色土 細砂土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。



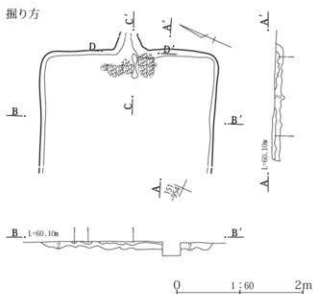
第650図 1区8面 137号住居掘り方、出土遺物

138号住居(第651図 PL.140)

1区中央部の住居群内にある。全体的に削平が進んでいるため残存状態が良好でない。

位置：150～153・-951～-954にある。

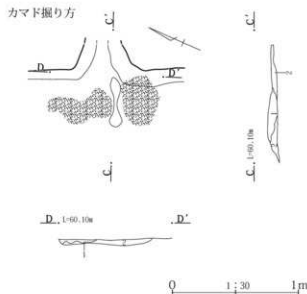
規模形状：各辺直線の形で、互いに直交している。整った方形であると推察される。主軸長(1.86)m、幅2.73mである。埋没土・壁：使用面が削平されているため不明である。壁高は0.1mである。方位：N-57°-E 面積：(4.56)㎡ 床面：上面は削平されており、床層のみ残存している。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。カマド周りに灰が見られた。掘り方：調査した範囲で、ほぼ全面に確認できた。埋め土は、褐灰色細砂土ブロックを含む灰褐色土及び黄褐色砂土ブロックを含む



138号住居 A-A'・B-B'

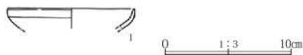
- 1 褐灰色土 シルト質上、黄褐色砂ブロック、灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 砂質上、褐灰色細砂土ブロックを中量含む。

褐灰色土である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央部付近に位置している。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は明瞭でなかった。燃焼部は、住居内から壁際にかけてであると推察される。袖は確認できなかった。火床下に窪みが認められ、灰が確認された。埋め土は、灰、焼土粒を含む砂質の褐灰色土及び、灰を含むにぶい黄褐色土である。重複遺構：94号住居と重複している。遺物：土師器(杯1点) 住居埋没土から遺物が確認された。土器1点を図示した。杯(1)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものか明瞭でない。図示した以外に土器片は確認できなかった。所見(帰属時期)：出土遺物から、7世紀代であるとする。



138号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 砂質上、焼土粒、灰を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 砂質上、灰を少量含む。



第651図 1区8面 138号住居、出土遺物

139号住居(第652・653図 PL.140)

1区中央部の住居群内にある。全容が明らかでない。119号住居に北壁を壊されているが、床面は壊されていない。また、南東隅を113号住居に壊されている。全容は明瞭でない。

位置：134～140・-976～-981にある。

規模形状：各辺直線の形で互いに直交している。北西隅は若干丸みを帯びている。整った方形をいっていると思われる。長軸長(4.96)m、短軸長4.85mである。埋没土・壁：褐灰色土主体の土で埋没している。西壁側から

だけ暗褐色で埋もれている。その他も壁側から埋もれている状況が観察され、自然堆積と推察される。壁高は0.34mである。方位：N-60°-E 面積：(18.56)m² 床面：南に傾斜している。わずかな起伏があるが、およそ平坦である。中央部および中央部北西寄りに広範囲に灰を認める。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。掘り方：全面で確認できた。中央から南東にかけて広く盛り上がっている。埋め土は、黄褐色土ブロック、炭化物を含む褐灰色土である。深さ0.12～0.18mである。柱穴と思われる窪みを複数確認している。それら以外の窪みを認めるが柱穴であるかは明瞭ではない。壁溝：西辺、北辺、東辺に認められる。埋没土は、均質の褐灰色土である。西辺は、幅0.08～0.18m、深さ0.07mである。北辺は、幅0.12～0.18m、深さ0.12mである。東辺は、幅0.15～0.18m、深さ不明である。ピット(柱穴)：床下に確認された柱穴は、使用面からのものであると推察される。P1・P2・P6・P4は、規則的な主柱穴配置による柱穴であると思われる。P2はP5を掘り直して柱を建て替えたものであると推察できる。P3の意

味は明瞭でない。各柱穴の規模及び埋没土は次の通りである。

(長径×短径×深さm)

P1 0.32×0.28×0.25

褐灰色土、黄褐色・灰白色土ブロック

P2 0.38×0.32×0.16

褐灰色土、黄褐色・灰白色土ブロック

P3 0.30×0.27×0.17

褐灰色土、灰白色土ブロック

P4 0.22×0.20×0.16

褐灰色土、黄褐色・灰白色土ブロック

P5 0.66×0.49×0.36

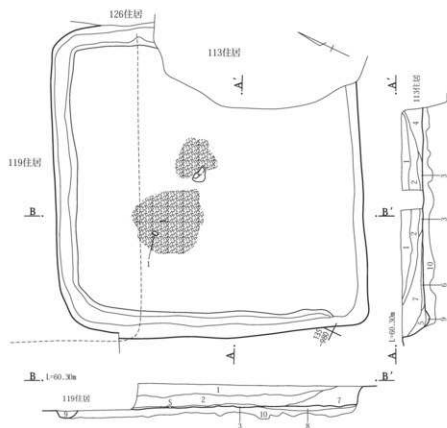
暗褐色土 褐灰色土ブロック、焼土 締まりが強い

P6 0.52×0.46×0.42

褐色土、褐灰色・黄褐色土ブロック

貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重

複遺構：79号土坑に後出し、113・126号住居に前出し、119号住居と重複している。遺物：土師器(杯1点、大口壺1点)、土製品(土鍾1点) 住居使用面中央部及び



139号住居 A-A'・B-B'

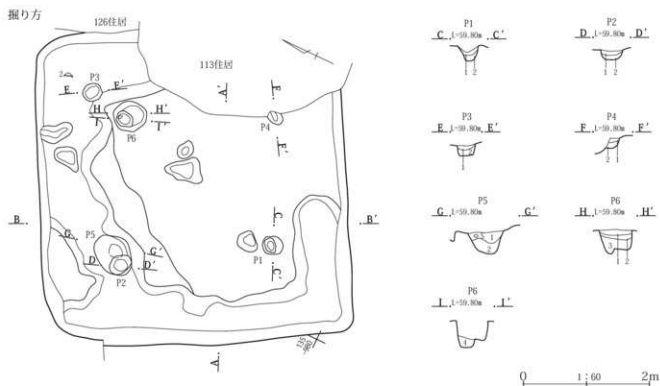
- 1 褐灰色土 黄褐色土粒、酸化鉄凝集を少量含む。
- 2 褐灰色土 灰白色土を縞状に中量含む。
- 3 褐灰色土 炭化物を多量含む。灰色味強く、色調暗い。
- 4 褐灰色土 炭化物を多量含む。黄色味強い。
- 5 暗褐色土 粘性強い、黒褐色味強い。
- 6 褐灰色土 暗黄色味強い。粘性やや強い。
- 7 褐灰色土 炭化物を微量含む。
- 8 褐灰色土 しまりやや固い。暗褐色味やや強く、色調暗い。
- 9 褐灰色土 暗黄褐色味強い。周溝埋没土。
- 10 褐灰色土 黄褐色土ブロック、炭化物を少量含む。

0 1:60 2m

第652図 1区8面 139号住居

掘り方北東部から僅かに遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は床直上及び埋没土から、広口壺(2)は掘り方からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。土鍾は113・119・139住居の排土からのもので、本住居に伴うものであるが明瞭でない。円礫の出土が若干見られた。図示した以外に、土師器(杯類54片、

甕類69片)、須恵器(杯類2片、甕類1片)が出土している。また、113・119号住居と共通して土師器(杯類125片、甕類220片)、須恵器(甕類4片)が出土している。所見(帰属時期):出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。図示した遺物において、埋土、床直の時期差は認められない。



139号住居内ビット C-C'・F-F'

- 1 褐灰色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 黄褐色土ブロックを少量含む。

D-D'

- 1 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。色調暗い。
- 2 褐灰色土 黄褐色土ブロックを少量含む。色調暗い。

E-E'

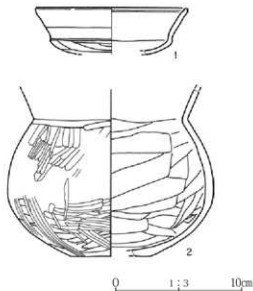
- 1 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 色調暗い。

G-G'

- 1 暗褐色土 褐灰色土ブロックを少量、焼土粒を微量含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 褐灰色土ブロックを多量含む。しまりやや弱い。

H-H'・I-I'

- 1 褐色土 シルト質土。褐灰色土小ブロック、黒褐色土粒を少量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。褐灰色土小ブロック、黄褐色土小ブロックを少量含む。粘性やや強い。
- 3 褐色土 粘質土。
- 4 暗褐色土 シルト質土。炭化物を微量含む。



第653図 1区8面 139号住居掘り方、出土遺物

140号住居(第654図 PL.140)

1区中央部の住居群内にある。107号住居により中央部から南東隅までを、113号住居により西壁を、126号住居により北壁の一部を壊されているため、全容が明らかでない。

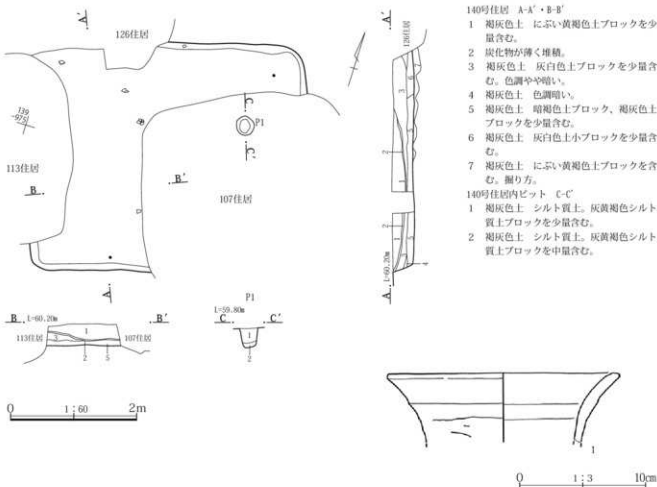
位置：136～141・-970～-975にある。

規模形状：各辺直線的であると思われる。北東隅、南西隅が鈍角で交わっていることから、東西に長い平行四辺形を呈していると推察される。長軸長(3.78)m、短軸長(3.52)mである。埋没土・壁：褐灰色土主体の土で埋没している。途中炭化物が薄く堆積している。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.27mである。方位：N-69°-E 面積：(6.14)㎡ 床面：傾斜はほとんどない。わずかな起伏があるが、およそ平坦である。貯蔵穴の窪みは確認できなかった。柱穴は1つ認められた。

掘り方：中央部から北部にかけて確認できた。埋め土は、

にふい褐色土を含む褐灰色土である。深さ0.06～0.11m程である。壁溝：確認できない。ピット(柱穴)：住居北東隅中央寄りにP1を確認できる。規則的な主柱穴配置による柱穴のひとつであると思われる。埋没土は、灰黄褐色土ブロックを含む褐灰色土である。長径0.3m、短径0.28m、深さ0.3mである。貯蔵穴：認められない。

カマド：認められない。重複遺構：107・113・126号住居に前出しており、100・142・144号住居に後出している。遺物：土師器(甕1点) 住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。甕(1)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。図示した以外に、土師器(杯類17片、甕類48片)が出土している。また、100・144号住居と共通して土師器(杯類15片、甕類33片)、須恵器(甕類1点)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であるとする。



第654図 1区8面 140号住居、出土遺物

141号住居(第655～657図 PL.140・141・223)

1区中央部の住居群内にある。100号住居により北西隅を壊されている。残存状態は良好でない。

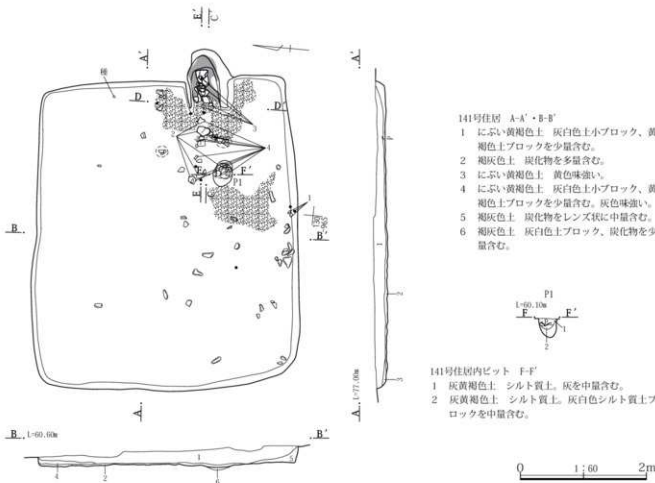
位置：130～134・962～968にある。

規模形状：北壁、東壁は直線的である。西壁、南壁は若干曲線を描いている。南西隅は丸みを帯びる。東西に長い方形を呈している。主軸長4.93m、幅4.13mである。

埋没土・壁：灰白色土ブロック、黄褐色土ブロックを混入するにふい黄褐色で埋没している。1層は、一気に埋没しており、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.19mである。方位：N-73°-E 面積：18.18㎡

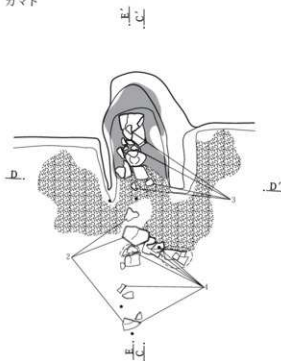
床面：傾斜はほとんどない。細かい起伏が多い。カマド周り及び南部に灰の分布を認める。貯蔵穴の窪みは確認できなかった。柱穴は1つ認められた。掘り方：確認できなかった。断面から、中央部南側に窪みを認める。床下土坑であるかは明瞭でない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：南東隅中央寄りに窪みを確認する。

P1は、位置より規則的な主柱穴配置による柱穴の1つであると思われる。埋没土は、灰白色土ブロック、灰を含む灰黄褐色シルト質土である。長径0.42m、短径0.3m、深さ0.3mである。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央やや南寄りに位置する。全長1.24m、幅0.79m、焚口幅0.39m、燃烧部幅0.41m、煙道は確認できなかった。燃烧部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床には、支脚の礫が据えられており、周囲に土師器破片が確認された。支脚は、長さ0.19m、幅0.17m、厚さ0.11mである。灰、焼土の分布が多分に観察されよく使い込まれたカマドであることを示している。袖材は、焼土粒を含む灰黄褐色土である。左袖は、基礎に焼土粒を含む粘土の暗褐色土である。焚口前には、土師器片が散見していた。掘り方は、火床下に窪みが認められた。掘り方の様相から、火床が移動しており、外側の火床下の掘り方は、深さ0.12m程である。埋め土は、浅黄褐色シルト質土ブロックの上に灰、焼土粒、焼土ブロックを

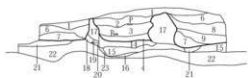


第655図 1区8面 141号住居

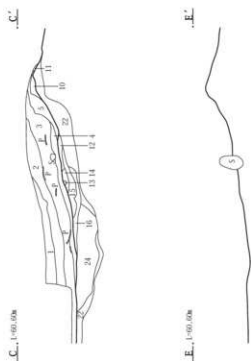
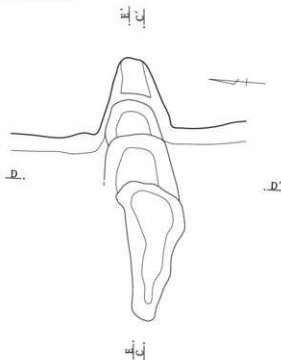
カマド



D, 1/60, 0.0m



カマド掘り方



C, 1/60, 0.0m

E, 1/60, 0.0m

141号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 黒褐色土大ブロックを少量含む。カマド材か。
- 3 褐灰色土 ブにふい黄褐色土ブロックを多量、焼土、炭化物を少量含む。
- 4 暗赤褐色土 焼土を多量、炭化物を少量含む。赤色味強い。
- 5 赤褐色土 焼土ブロック、最下層に薄く堆積する炭化物を少量含む。
- 6 にふい黄褐色土 黒褐色土小ブロック、焼土を少量含む。
- 7 にふい黄褐色土 黒褐色土ブロックを少量含む。
- 8 褐灰色土 黄褐色土ブロック、黒褐色土ブロックを少量含む。
- 9 褐灰色土 黒褐色土ブロックを微量含む。
- 10 褐灰色土 黄褐色土ブロック、最下層に薄く堆積する炭化物を少量含む。
- 11 にふい黄褐色土 焼土粒を少量含む。
- 12 灰黄褐色土 焼土ブロックを中量含む。
- 13 灰黄褐色土 焼土ブロックを多量含む。
- 14 灰黄褐色土 灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 15 灰黄褐色土 焼土ブロックを少量含む。
- 16 灰黄褐色土 焼土粒を少量含む。
- 17 灰黄褐色土 焼土粒を少量含む。袖。
- 18 暗褐色土 粘質土。焼土粒を中量含む。袖。
- 19 灰層
- 20 暗褐色土 粘質土。焼土粒を少量含む。
- 21 灰黄褐色土 灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 22 灰黄褐色土 浅黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 23 灰黄褐色土 焼土粒、灰を少量含む。
- 24 灰黄褐色土 焼土ブロック、灰を少量含む。

0 1/30 1m

第656図 1区8面 141号住居カマド

含む灰黄褐色土である。内側の火床下の掘り方は、深さ0.2m程である。埋没土は、灰、焼土粒、焼土ブロックを多く含む灰黄褐色土である。外側の火床下の埋没土が、内側の火床下の埋没土の上に載っているため、外側の火床の方が新しい。火床下の窪みは、幾層にも重なっており、火床が住居外側へ推移していった状況を示している。

重複遺構：100号住居に後出しており、151・168号住居と重複している。 **遺物**：土師器(杯1点、甕3点)カマド内、前部及び住居南部から遺物が出土した。そのうち土器4点を図示した。杯(1)は南壁際床直上から、甕(4)はカマド前床直上から、甕(3)はカマド内から、甕(2)はカマド火床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。東壁際床直上からモモの核1点が出土した。円礫の出土が見られ、南壁際に薦編石と思われる礫が観察できた。図示した以外に、土師器(杯類58片、甕類162片)、須恵器(甕類2片)が出土している。 **所見(帰属時期)**：出土遺物から、6世紀後半であると考える。



第657図 1区8面 141号住居出土遺物

142号住居(第658・659図 PL.141・223)

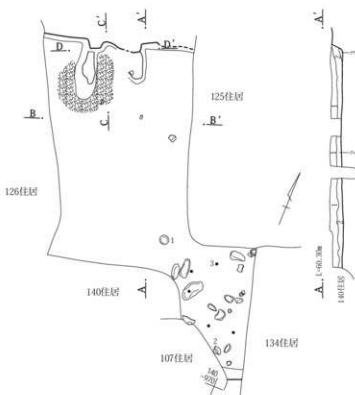
1区中央部の住居群内にある。126号住居により西壁を、125・134号住居により東壁を、107・140号住居により南壁及び中央部を壊されており、残存状態が良好でなく、全容が明らかでない。

位置：140～144・-969～-974にある。

規模形状：北壁、南壁共に、調査した範囲では直線的で平行である。全体としては方形を呈していると推察される。主軸長(5.16)m、幅(3.28)mである。**埋没土・壁**：褐灰色土で埋没している。褐灰色・黄褐色ブロック、灰、焼土が混入している。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.23mである。**方位**：N-18°-W **面積**：(9.52)㎡ **床面**：東に若干傾斜している。緩やかな起伏があるがおおよそ平坦である。カマド左袖壁周りに灰の分布を認める。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。住居南東部に、礫の集積を認めるが、住居に関連する施設のものであるかは明瞭でない。**掘り方**：確認できなかった。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：北壁中央部付近に位置していると推察される。全長0.93m、幅1.12

m、焚口幅0.65m、燃烧部幅0.51m、煙道は確認できなかった。燃烧部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上左袖沿いに灰の分布がみられた。袖材は、褐灰色粘質土ブロック、焼土、炭化物を含む褐灰色シルト質土である。掘り方は、火床下に0.2m前後の窪みが認められた。埋め土は、黄褐色ブロックを含む褐灰色土の上に、灰、焼土粒、炭化物を含む褐灰色シルト質土が載っている。**重複遺構**：107・125・126・134・140号住居に前出しており、152号住居と重複している。**遺物**：土師器(杯1点、鉢1点) 土製品(丸玉1点) 石製品(石製品1点) カマド周辺及び住居南部から遺物が出土した。そのうち土器2点、土製品1点を図示した。杯(1)、鉢(2)、丸玉(3)は床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。石製品は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。川原石状の礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類18片、甕類117片)、須恵器(杯類1片)が出土している。

所見(幅員時期)：出土遺物から、6世紀後半であると考える。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時的に差の少ないものである。



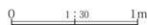
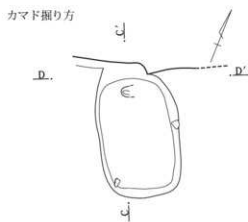
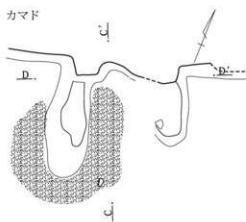
142号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土。褐灰色・黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。



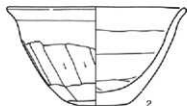
0 1:60 2m

第658図 1区8面 142号住居



142号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐灰色土 シルト質上。焼土粒を多量、炭化物、灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 3 黄褐色土 砂質上。焼土粒を少量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質上。褐灰色粘質土ブロックを多量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。
- 7 褐灰色土 シルト質上。褐灰色粘質土ブロックを少量含む。



①
②
3 (1/2)



第659図 1区8面 142号住居カマド、出土遺物

143号住居(第660図 PL.141)

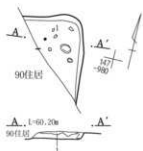
1区中央部の住居群内にある。90号住居に大きく壊されており南東隅隅のみの調査となった。全容は明らかでない。

位置：147～148・-979～-980にある。

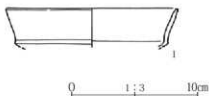
規模形状：調査した範囲では、東壁、南壁共に直線的であり、南東隅は丸みを帯びている。全体としては方形を呈していると推察されるが、全容は明らかでない。長軸長(1.14)m、短軸長(0.86)mである。埋没土・壁：褐灰色土で埋没している。褐灰色・黄褐色シルト質土ブロックを含む。自然埋没か人為埋没か明らかでない。壁高は0.1mである。方位：N-81°-E 面積：(0.59)m² 床面：調査した部分では、若干南に傾斜しているが、

全容は明らかでない。南東隅で、礎が出土しているが、関連する施設の一部であるか明瞭でない。掘り方：確認できなかった。壁溝：不明 ビット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：不明 重複遺構：84・90号住居に前出しており、98号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点) 住居南東隅から遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は床から0.07m程浮いた位置から出土した。住居に伴うものであると考えるのが自然である。円礫の出土が若干見られた。図示した以外に、土師器(杯類1片、甕類4片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考える。

第11章 古墳時代後期～平安時代(8面)の遺構と遺物



- 143号住居 A-A'
- 1 褐色土 シルト質土。褐色シルト質土ブロックを少量含む。
 - 2 褐色土 シルト質土。褐色・黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。



第660図 1区8面 143号住居、出土遺物

144号住居(第661・662図 PL.141)

1区中央部の住居群内にある。107・140号住居により住居中央部から北壁にかけて大きく壊されており、全容が明らかでない。

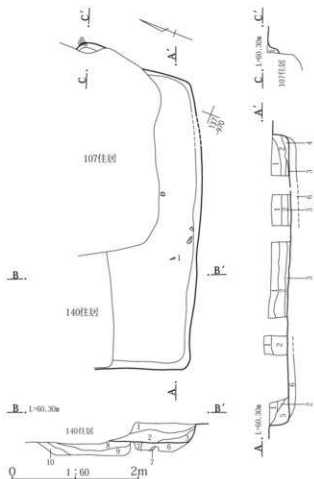
位置：135～139・-969～-974にある。

規模形状：西壁は直線的である。南壁、東壁は丸みを帯びている。全体としては方形を呈していると推察される。長軸長(4.76)m、短軸長1.43mである。埋没土・壁：褐色土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.31mである。

方位：N-71°-E 面積：(3.75)㎡ 床面：傾斜は見られない。東部がわずかに落ち込んでいるが、およそ平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは確認できない。調査した範囲では、掘り方が確認できた。埋め土は、暗褐色土である。黄褐色土ブロックを含む。深さ0.08m前後である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央南寄り位置すると推察される。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃烧部幅不明、煙道は確認されなかった。燃烧部は、袖など、カマドのおおよその施設は107号住居に削られていて確認できない。カマド燃烧部先端と思われる窪みの埋め土は、炭化物、焼土の少ない暗褐色土であり、左側は焼土化していた。

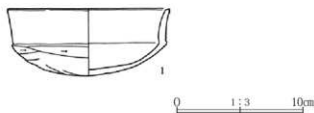
重複遺構：107・113・140号住居に前出しており、100・155号住居と重複している。遺物：土師器(杯1点) 住居南から出土している。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は床直上及び100・140・144号住居共通の排土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。土師器(杯類14片、甕類25片)が出土している。また、100・140号住居と共通して土師器(杯類15片、甕類33片)、須恵器(甕類1点)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物は破片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。

た。周辺遺構との重複関係及び土器片より6世紀前半から6世紀中頃の住居であると考えられる。



- 144号住居 A-A'・B-B'
- 1 褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。
 - 2 褐色土 炭化物を少量含む。灰色味強い。
 - 3 褐色土 炭化物を少量含む。
 - 4 暗褐色土 灰色味強い。しまりやや強い。
 - 5 褐色土 灰白色味強い。
 - 6 暗褐色土 黒色味や強い。掘り方。
 - 7 暗褐色土 褐色味や強い。掘り方。
 - 8 暗褐色土 黄褐色土ブロックを多量含む。
 - 9 暗褐色土 黄褐色土ブロックを多量含む。黒色味や強い。
 - 10 暗褐色土 黄褐色土ブロックを多量含む。黒色味強い。
- C-C'
- 1 暗褐色土 炭化物、焼土を微量含む。黄褐色味強い。右側はやや焼土化。

第661図 1区8面 144号住居



第662図 1区8面 144号住居出土遺物

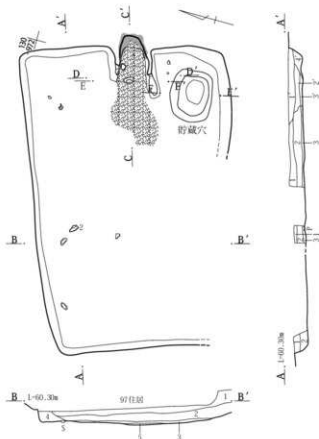
145号住居(第663～665図 PL.141・142)

1区中央部の住居群内にある。97号住居に埋没土を削られているが床面は影響を受けていない。残存状態は良好でない。

位置：126～130・-971～-976にある。

規模形状：北壁、西壁は直線的である。東壁、南壁は丸みを帯びる。東西に長く縦横比のバランスが他の住居と異なる方を呈している。主軸長4.86m、幅(3.12)mである。埋没土・壁：褐灰色土主体の土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。東側に一部人為的埋戻しも観察される。壁高は0.39mである。方位：N-79°-E 面積：(12.53)㎡
床面：西に傾斜している。起伏があり、中央部分がレン

ズ状に落ち込んでいる。カマド内部から前部にかけて灰の分布を認める。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は認められなかった。掘り方：確認できなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東隅に窪みを認める。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、浅黄褐色ブロック、焼土粒、焼土ブロック、灰を含む灰黄褐色土である。長径0.81m、短径0.68m、深さ0.48mである。カマド：東壁中央部に位置する。全長1.03m、幅0.72m、焚口幅不明、燃焼部幅0.45m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内に確認された。火床上には掘り方から、支脚の礎が据えられており、周囲に土師器片が確認された。灰が多量に分布し、燃焼部外壁際には焼土が観察される。よく使い込まれているカマドである。支脚は、長さ0.22m、幅0.13m、厚さ0.09mである。左袖材は、炭化物を含む褐灰色土であり、右袖は、褐色土を基礎にして粘質の黄褐色土主体の土で構築しており、表面にふい黄褐色土を積んでいる。焼土化した層も観察できる。全体的に締まりが強い。掘り方は、火床下に0.12m前後の窪みが認められた。埋め土は、焼土粒ブロック、炭化物を含むふい黄



第663図 1区8面 145号住居

145号住居 A-A'・B-B'

1 褐灰色土 シルト質土。灰白色土、ふい黄褐色土を少量含む。黄色味やや強い。

1' 褐灰色土 1層が鉄分凝集の影響を受け全体に色調暗い。

2 褐灰色土 灰白色土ブロックを含む。黄色味やや強い。

2' 褐灰色土 2層が鉄分凝集の影響を受け全体に色調暗い。

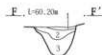
3 褐灰色土 炭化物を少量含む。黒色味あり。

3' 褐灰色土 3層が鉄分凝集の影響を受け全体に色調暗い。

4 到ふい黄褐色土 灰白色土ブロックを少量含む。

4' 到ふい黄褐色土 鉄分凝集の影響で全体に色調暗い。

5 到ふい黄褐色土 灰白色土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。



145号住居貯蔵穴 F-F'

1 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。

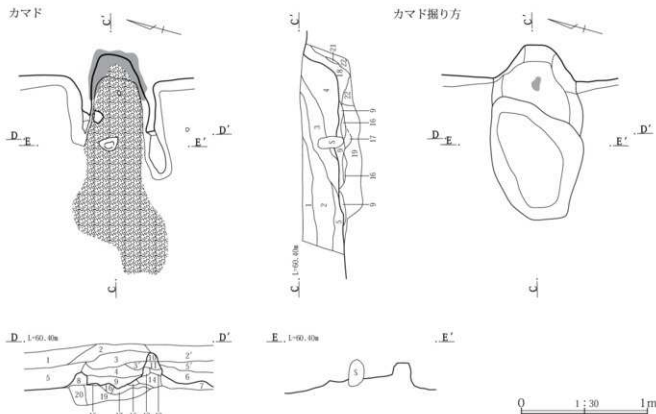
2 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、焼土ブロック、灰を少量含む。

3 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

褐色土である。上面は焼土化していた。火床下には、窪みが二重に確認でき、火床が住居内部に推移したことが何れされる。重複遺構：146・162・163・172・176号住居に後出しており、97・164号住居と重複している。

遺物：土師器(杯1点、甕1点) カマド周辺及び住居北部から散在するように遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は掘り方から出土しているが、下位の住居からの混入である。甕(2)は床直上からの出土

であり、本住居に伴うものと考えられる。川原石状の礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類36片、甕類107片)、須恵器(杯類1片)が出土している。また、97・146号住居と共通して土師器(杯類45片、甕類161片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、7世紀前半の住居であると考えられる。杯(1)は6世紀後半の遺物であり、下位の住居の混入であると思われる。

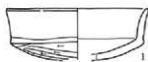


145号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 褐色土 灰黄褐色土(カマド材)小ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。
- 2 褐色土 炭化物、焼土を少量含む。黄色味強い。
- 2' 褐色土 焼土粒を中量含む。
- 3 灰黄褐色土 褐色土ブロックを中量含む。
- 3' 3層に繋がるが、褐色土ブロックを多量含む。
- 4 焼土ブロック
- 5 褐色土 灰黄褐色土ブロックを中量含む。色調やや強い。
- 5' 褐色土 焼土粒を少量含む。
- 6 褐色土 灰黄褐色土ブロック、焼土ブロックを多量含む。
- 7 暗褐色土 赤褐色味強い。
- 8 褐色土 灰黄褐色土ブロックを多量含む。袖。
- 9 灰層 焼土ブロック、焼土粒、褐灰粘質土小ブロックを多量含む。しまり強い。
- 10 黄褐色土 粘質土、焼土小ブロックを中量含む。粘性強い。しまり強い。
- 11 にぶい黄褐色土 粘質土、焼土小ブロックを中量含む。粘性強い。しまり強い。袖。

- 12 赤褐色土 焼土層。しまり強い。袖。
- 13 褐色土 焼土小ブロックを中量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。袖。
- 14 黄褐色土 粘質土、焼土粒、褐色土小ブロックを中量含む。粘性強い。しまりやや強い。袖。
- 15 黒色土 焼土粒を少量。炭化物、灰を含む。しまり弱い。
- 16 にぶい黄褐色土 粘質土、上面の一部焼土化。粘性強い。しまり強い。
- 17 にぶい黄褐色土 焼土の大ブロック、炭化物を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 18 にぶい黄褐色土 焼土の大～小ブロックを極めて多量含む。しまりやや強い。
- 19 にぶい黄褐色土 焼土ブロック、粘土小ブロック、炭化物を中量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 20 にぶい黄褐色土 焼土小ブロック、粘土粒、炭化物を少量含む。粘性やや強い。しまり強い。
- 21 にぶい黄褐色土 焼土層。しまりやや強い。
- 22 にぶい黄褐色土 シルト質土、焼土粒を微量含む。しまりやや強い。

第664図 1区8面 145号住居カマド



0 1:3 10cm

第665図 1区8面 145号住居出土遺物

146号住居(第666・667図 PL.142・223)

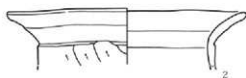
1区中央部の住居群内にある。145号住居により中央部から南壁にかけて大きく壊されている。129号住居により北西隅を壊されている。残存状態は良好でなく、全容が明らかでない。

位置：128～131・-972～-977にある。

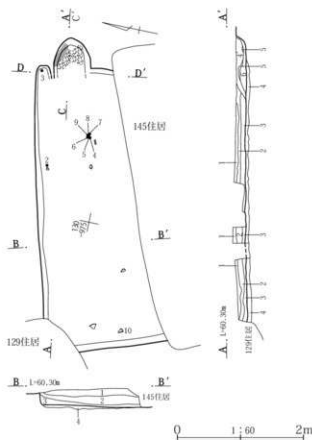
規模形状：北壁、西壁は直線的である。東壁は丸みを帯びる。北壁と西壁は鋭角に交わる。全体としては方形を呈していると推察される。主軸長4.44m、幅(1.73)mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色土、褐灰色土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.14mである。方位：N-80°-E 面積：(6.24)㎡ 床面：南西に傾斜している。緩やかな起伏があるがおおそ平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。掘り方：ほぼ全面に確認できた。埋め土は、灰白色シルト質土ブロックを含む灰黄褐色土である。深さ0.04～0.08m程である。

壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。

貯蔵穴：認められない。カマド：東壁北東隅に位置している。現存全長0.55m、現存幅0.69m、焚口幅不明、燃烧部幅0.44m、煙道は確認できなかった。燃烧部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上壁際には、灰と焼土の分布が確認された。袖は付け根のみで明確に確認できなかった。断面から袖材は、灰黄褐色シルト質土である。掘り方は、火床下に0.05m前後認められた。埋め土は、灰白色シルト質土ブロックを含む灰黄褐色土である。重複遺構：97・129・145号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点)、土製品(丸玉8点) 石製品(砥石1点) 住居北部から集中するように遺物が出土した。そのうち土器1点、土製品8点、石製品1点を図示した。杯(1)、丸玉(2・3・4・5・6・7・8・9)、砥石(10)は床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。図示した以外に、土師器(杯類



17片、鬚類44片)が出土している。また、97・145号住居と共通して土師器(杯類45片、鬚類161片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半であると考える。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期的に差のないものである。

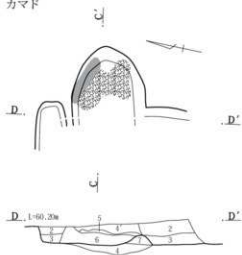


146号住居 A-A'・B-B'・C-C'・D-D'

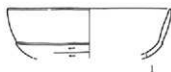
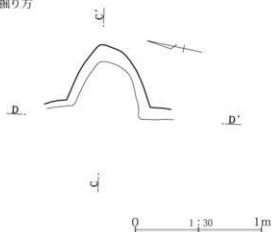
- 1 褐灰色土 褐灰色土を多量、にぶい黄褐色土を含む。灰白色味強い。
- 2 褐灰色土 褐色土、暗褐色土を含む。
- 3 にぶい黄褐色土 色調暗い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを中量含む。
- 4' 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を中量含む。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 7 灰黄褐色土 シルト質土。袖。

第666図 1区8面 146号住居

カマド



カマド掘り方



第667図 1区8面 146号住居カマド、出土遺物

147号住居(第668図 PL.142)

1区中央部の住居群内にある。88・135号住居により大きく壊されているため、西辺一部のみ調査となった。位置：149～151・-970にある。

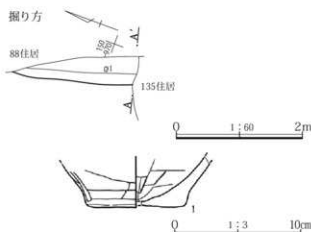
規模形状：西壁は丸みを帯びているが、形状は不明である。長軸長(1.99)m、短軸長(0.45)mである。埋没土・壁：褐灰色土で埋没している。黄褐色シルト質土ブロックを含む。自然埋没であるか人為的な埋戻しであるか不明瞭でない。壁高は0.21mである。方位：N-20°-W 面積：(0.44)m² 床面：傾斜があるか不明である。調査した範囲では、床面の様子は不明瞭でない。掘り方：確

認された。埋め土は、黄褐色シルト質土ブロックを含む褐灰色土であり、固く締まっていた。深さ0.06m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：不明 重複遺構：88・135号住居に前出している。遺物：土師器(甕1点) 住居西壁際から遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。甕(1)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。図示した以外に、土師器(杯類1片、裏類3片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半であると考えられる。



147号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、酸化鉄凝集を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。しまりやや固い。



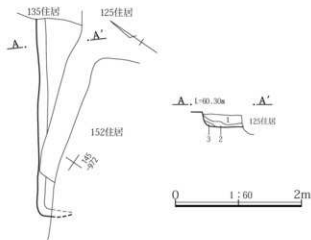
第668図 1区8面 147号住居、出土遺物

148号住居(第669図 PL.142)

1区中央部の住居群内にある。135・125・152号住居により大きく壊されているため、北西隅及び北辺一部のみの調査となった。

位置：144～146・970～972にある。

規模形状：北壁は直線的である。北西隅は丸みを帯びている。方形を呈していると思われるが、全容は不明である。長軸長(3.13)m、短軸長(0.72)mである。埋没土・壁：褐灰色土で埋没している。褐灰色・黄褐色シルト質土ブロックを含む。自然埋没であるか人為的な埋戻しであるか明瞭でない。壁高は0.24mである。方位：N-47°-W 面積：(0.66)㎡ 床面：傾斜があるか不明



148号住居 A-A'

- 1 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。焼土粒、灰を中量、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。

第669図 1区8面 148号住居

である。調査した範囲だけでは、床面の様子は明瞭でない。掘り方：確認されない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：不明 重複遺構：125・135・142・152号住居に前出している。遺物：なし 所見(帰属時期)：遺物は確認できなかった。周囲遺構の重複関係から6世紀後半以前であると考えられるが、時期決定の資料に欠ける。

149号住居(第670・671図 PL.142・143)

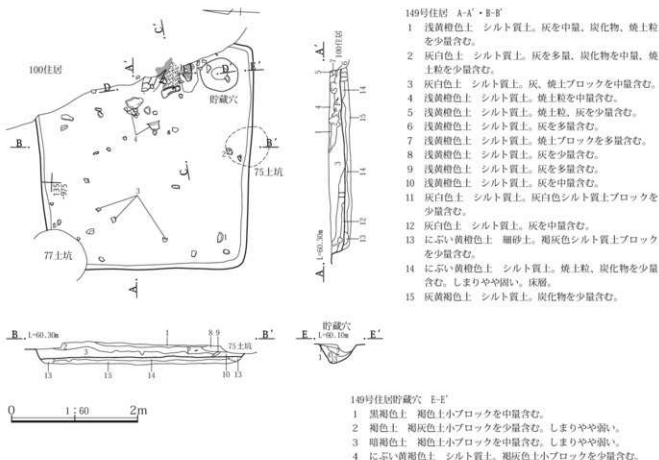
1区中央部の住居群内にある。100号住居によりカマド及び東壁付近を壊されている。77号土坑により北西隅が壊されている。75号土坑により南壁の一部が壊されているが床面は壊されていない。全容は明らかでない。

位置：131～135・972～976にある。

規模形状：各辺、ほぼ直線的である。西壁から東に行くほど北壁、南壁が開いていることから、西壁に対して東壁が長いと推察される。方形を呈していると思われる。主軸長(3.57)m、幅3.19mである。埋没土・壁：浅黄褐色土、灰白色土で埋没している。炭化物、焼土ブロック、灰を多く含む。不自然な堆積がみられ、人為的埋戻しであると思われる。壁高は0.17mである。方位：N-72°-E 面積：(9.02)㎡ 床面：南西にやや傾斜している。起伏はほぼなく平坦である。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は認められなかった。掘り方：ほぼ全面に確認できた。埋め土は、にぶい黄褐色土及び灰黄褐色土であり、固く締まっている。炭化物、焼土粒を含む。深さ0.1～0.14mである。壁溝：断面から、各辺に確認できる。北辺は、幅0.22m、深さ0.08mである。東辺は、

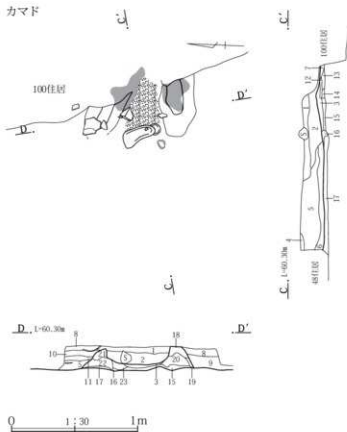
幅0.21m、深さ0.11mである。南辺は、幅0.22m、深さ0.07mである。西辺は、幅0.23m、深さ0.07mである。埋没土は類似しており、褐灰色シルト質土ブロックを含む細砂層のにぶい黄橙色土である。ピット(柱穴):認めない。貯蔵穴:南東隅に窪みを認める。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、にぶい黄褐色土、暗褐色土、褐色土、黒褐色土である。褐色土・褐灰色土ブロックを含んでいる。長径0.6m、短径0.52m、深さ0.31mである。カマド:東壁中央南寄りに位置していると推察される。全長不明、幅0.88m、焚口幅0.41m、燃焼部幅0.29m、煙道は100号住居に削られているため確認できなかった。燃焼部は、住居内にある。火床上には、支脚の礫が据えられており周囲に焼土の分布が確認された。支脚は、長さ0.09m、幅0.1m、厚さ0.09mである。左袖先端部分には甕が認められ袖の構築材であったと思われる。右袖壁上には焼土が確認された。また、焚口天井部分の構築材であったと思われる長さ0.27m、幅0.1m、厚さ0.08

mの平たい礫が、焚口部直上から出土しており、周辺で確認できた礫とともに焚口を構成していたと思われる。袖材は、浅黄橙色土である。灰黄褐色粘質土ブロック及び焼土ブロックを含んでいる。掘り方は、火床下に0.05m前後の窪みが認められた。埋め土は、浅黄褐色シルト質土を灰層が覆っている。重複遺構:77号土坑、100号住居に前出している。遺物:土師器(杯2点、鉢1点、甕1点)住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器4点を図示した。杯(1・2)、鉢(3)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(4)は床直上から床上0.16m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類54片)、甕類190片)が出土している。所見(帰属時期):出土遺物から、6世紀前半であると考え。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時間的に差の少ないものであった。



第670図 1区8面 149号住居

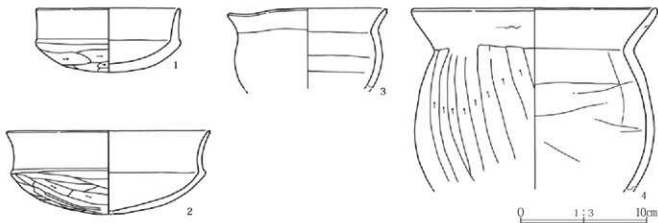
カマド



149号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 灰白色土 シルト質土。灰を多量、焼土ブロック、炭化物を中量含む。
- 2 灰白色土 シルト質土。灰を多量、炭化物、焼土粒を中量含む。
- 3 灰層
- 4 浅黄褐色土 シルト質土。灰を中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 5 灰白色土 シルト質土。灰を多量、炭化物を中量、焼土粒を少量含む。
- 6 灰白色土 シルト質土。灰、焼土ブロックを中量含む。
- 7 灰白色土 シルト質土。灰、焼土粒を少量含む。
- 8 浅黄褐色土 シルト質土。灰、焼土粒を少量含む。
- 9 浅黄褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 10 浅黄褐色土 シルト質土。灰を多量含む。
- 11 浅黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを多量含む。
- 12 浅黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを多量、炭化物、灰を中量含む。
- 13 浅黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 14 浅黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 15 浅黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。
- 16 浅黄褐色土 シルト質土。灰、焼土ブロックを中量含む。
- 17 浅黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 18 浅黄褐色土 シルト質土。焼土塊を多量含む。袖。
- 19 浅黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色粘質土ブロックを中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 20 浅黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色粘質土ブロック、焼土ブロックを中量含む。
- 21 浅黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色粘質土ブロック、灰を中量、炭化物、焼土粒を少量含む。袖。
- 22 浅黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、炭化物、灰を中量含む。袖。
- 23 浅黄褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒、灰を中量含む。

第671図 1区8面 149号住居カマド、出土遺物



150号住居(第672図 PL.143・223)

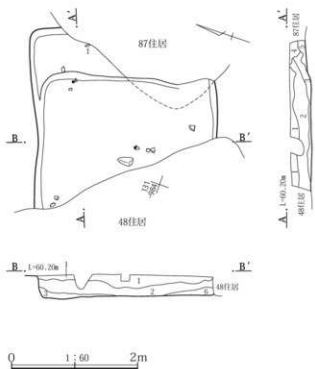
1区中央部の住居群内にある。本住居自体が、拡張した形跡が観察される。87号住居により、東部の床が高い部分は壊されているが、中部から西部にかけて床が低い部分は壊されていない。48号住居により住居西部が壊されている。全容が明瞭でない。

位置：130～133・-982～-984にある。

規模形状：北壁は東部の床高の部分との境でやや内側に折れている。東壁は直線的で、南壁は丸みを帯びてい

る。全体としては方形を呈している推察される。長軸長(2.86)m、短軸長2.83mである。埋没土・壁：灰白色土で埋没している。壁際から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.3mである。方位：N-67°-E 面積：(4.70)m² 床面：傾斜はほぼないが、北部はやや落ち込んでいる。段差を境に、東部と西部に分けられる。東部の床が高く、高低差は0.1m程である。東部の床高の部分は、棚状遺構であると推察できる。埋没土の状況から、住居閉口直前には、床面と棚状遺構は

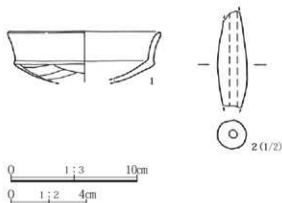
同時に使用されていたと考えるのが自然である。掘り方：確認できなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：48・87・89・103号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点)、土製品(土鍾1点) 住居全体から散在するように遺物が出土した。そのうち土器1点、土製品1点を図示した。杯(1)



は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。土鍾(2)は埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類5片、甕類30片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期的に差の少ないものであった。

150号住居 A-A'・B-B'

- 1 灰白色土 シルト質土。灰を中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 灰白色土 シルト質土。炭化物、焼土粒、灰を少量含む。
- 3 灰白色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 4 灰白色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 5 灰白色土 シルト質土。灰黄褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 6 灰白色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを少量含む。



第672図 1区8面 150号住居、出土遺物

151号住居(第673図 PL.143・223)

1区中央部の住居群内にある。100号住居に床面を大きく壊されており、全容は明らかでない。

位置：134～137・966～967にある。

規模形状：各辺直線的で直交している。全体としては整った方形を呈していると推察される。主軸長(1.16)m、幅4.00mである。埋没土・壁：灰白色シルト質土ブロックを含む灰黄褐色土で埋没している。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.32mである。方位：N-69°-E 面積：(2.21)m² 床面：傾斜はほぼない。緩やかな起伏があり、中央に比べ壁際は若干高い。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。掘り方：南北の壁際に確認できた。埋め土は、灰白色・黄褐色シルト

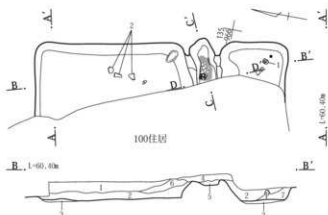
質土ブロックを含む灰黄褐色土であり、締まりは強くない。深さ0.04～0.06m程である。壁溝：認められない。

ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。

カマド：東壁中央南寄りに位置する。100号住居に削られており、両袖先端部から手前にかけて調査できなかった。現存全長0.63m、幅0.94m、焚口幅不明、燃焼部幅0.25m、煙道は壁外側に0.27m突出している。燃焼部は、住居内に確認された。火床上には、土師器片と焼土が確認された。袖材は、微砂質のにぶい黄褐色土である。右袖付け根側に礫を確認するが、袖の構築材であったと思われる。長さ0.23m、幅0.13m、厚さ不明である。掘り方は、火床下に0.1m前後の窪みが認められた。埋め土は、焼土ブロック、炭化物ブロックを含む褐色土・

灰黄褐色土である。重複遺構：100・141号住居に前出してあり、131号住居に後出している。遺物：土師器(高杯1点、甕1点) 住居東部から点在するに遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。高杯(1)は床上0.07mの位置から、甕(2)は床直上から埋没土までの位置からの出土であり、本住居に伴うものか明瞭でない。

円礫の出土が若干見られた。図示した以外に、土師器(杯類5片、甕類43片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物と重複関係から6世紀前半であると思われる。図示した遺物において、埋土、床直の時期差は認められない。

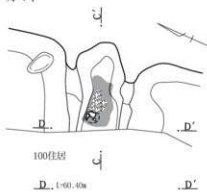


151号住居 A-A'・B-B'

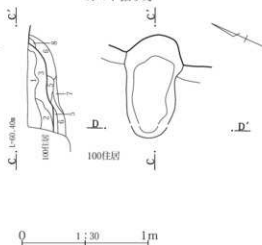
- 1 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰白色シルト質土ブロックを少量含む。しまりやや強い。床層。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を中量含む。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 7 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。

0 1:60 2m

カマド

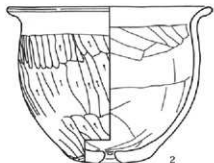


カマド掘り方



151号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、黄褐色粘質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を中量含む。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 5 褐色土 粘土、焼土、炭化物小ブロックを中量、灰を少量含む。
- 6 褐色土 粘土、焼土ブロックを少量含む。しまり強い。
- 7 暗褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 8 褐色土 焼土小ブロックを中量含む。しまり強い。
- 9 にぶい黄褐色土 粘質土。褐色土小ブロックを少量含む。粘性強い。しまり強い。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を微量含む。
- 11 褐色土 シルト質土。炭化物、焼土小ブロックを少量含む。



0 1:3 10cm

第673図 1区8面 151号住居、出土遺物

152号住居(第674・675図 PL.143)

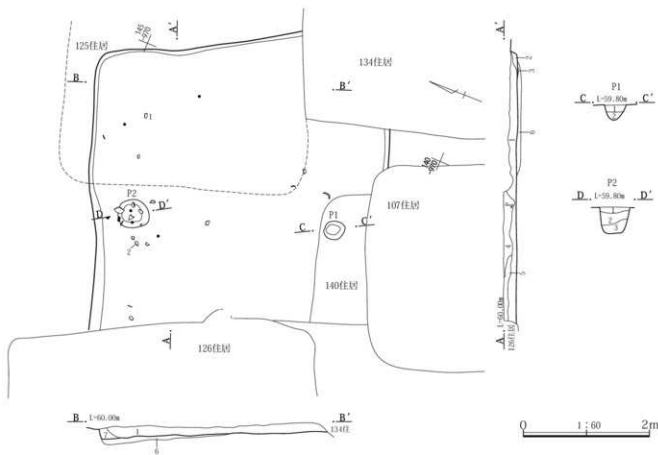
1区中央部の住居群内にある。126号住居により西壁が、134・140・107号住居により南壁が壊されている。125号住居により北壁の一部が壊されているが床面は壊されていない。複数の住居と重複しており残存状態が良好でなく、全容が明らかでない。

位置：139～145・-968～-974にある。

規模形状：各辺歪んでいる。全体としては方形を呈していると思われる。長軸長(4.71m)、短軸長(4.60m)であ

る。埋没土・壁：浅黄橙色シルト質土ブロックを含む褐灰色土で一氣に埋没している。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.33mである。方位：N-65°-E

面積：(18.42)㎡ 床面：北に傾斜している。緩やかな起伏があるが、およそ平坦である。貯蔵穴は確認できなかった。柱穴は認められた。掘り方：北東部に見られた。埋め土は、浅黄橙色シルト質土ブロックを含む褐灰色シルト質土である。深さ0.07m前後である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：P1は、位置より規則



152号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土。浅黄橙色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。浅黄橙色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。浅黄橙色シルト質土ブロックを少量、灰を中量含む。
- 4 褐灰色土 シルト質土。浅黄橙色シルト質土ブロック、褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。
- 5 褐灰色土 シルト質土。浅黄橙色シルト質土ブロック、褐灰色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 6 褐灰色土 シルト質土。浅黄橙色シルト質土ブロックを中量含む。床層。
- 7 褐灰色土 シルト質土。浅黄橙色シルト質土ブロック、灰白色シルト質土ブロックを少量含む。

152号住居内ピット C-C'

- 1 褐灰色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。浅黄橙色シルト質土ブロックを中量、灰白色シルト質土ブロックを少量含む。

D-D'

- 1 にふい黄橙色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 2 にふい黄橙色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 3 にふい黄橙色土 シルト質土。黄橙色シルト質土ブロックを中量、灰白色シルト質土ブロックを少量含む。

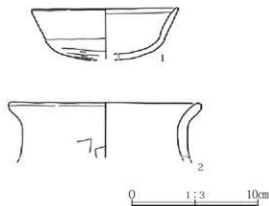
第674図 1区8面 152号住居

的な主柱穴配置による柱穴の1つであると思われる。埋没土は、灰白色・浅黄橙色シルト質土ブロックを含む褐灰色土である。長径0.34m、短径0.3m、深さ0.24mである。P2は位置より、P1と規則的な主柱穴配置の関係にあるか明瞭でない。埋没土は、灰白色・黄橙色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物を含むにぶい黄橙色土である。長径0.49m、短径0.44m、深さ0.42mである。

貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。

重複遺構：125・126・134・140号住居に前出しており、148号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点) 住居北部柱穴周辺及び南部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(2)は床から0.17m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。図示した以外に、土師器(杯類18片、甕類116片)が出土している。

所見(幅属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と时期的に差の少ないものである。



第675図 1区8面 152号住居出土遺物

153号住居(第676～678図 PL.143・144・223)

1区中央部の住居群内にある。複数の住居と重複しており、全容が明らかでない。100号住居に北面を壊されている。西壁を145・146号住居に一部壊されているが、床面は壊されていない。

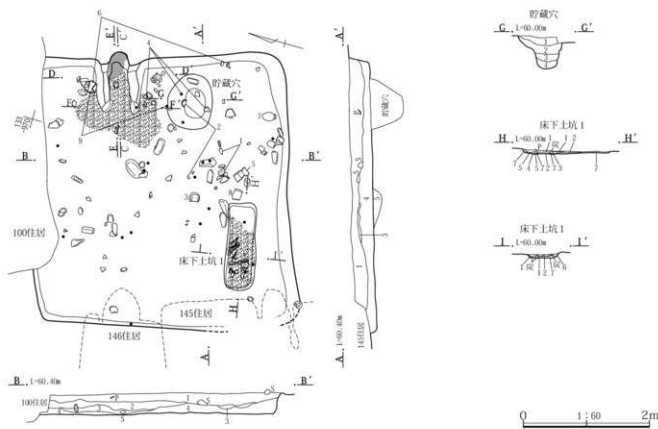
位置：128～133・968～972にある。

規模形状：各辺直線的である。南西隅が鋭角であり、北壁に対して南壁が長いと推察される。方形を呈している。

主軸長4.36m、幅(4.11)mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色土、黒色土、褐色土で埋没している。褐灰色土ブロックを含んでいる。壁側から埋められている状況がみられるものの、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.35mである。方位：N-62°-E 面積：(14.76)㎡ 床面：西に傾斜している。若干起伏があるが、およそ平坦である。カマド内部から周囲にかけて灰の分布を認める。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は認められなかった。南西部に床下土坑1が認められ、土坑内には炭化材及び灰の分布も確認された。埋没土は、暗褐色土、褐色土、黒色土、褐灰色土である。炭化物、灰、焼土粒を含み、焼土層も観察される。長径1.38m、短径0.49m、深さは、西へ行くほど深く、0.02～0.06m程である。住居中央部から南部にかけて礫の集積が顕著である。北部の礫の中には細長い自然石もあって磨礫石の可能性もある。掘り方：確認できなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：東辺直下南東寄りに窪みを認める。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、褐色土である。焼土粒、灰褐色土ブロック、炭化物ブロックを含む。長径0.88m、短径0.7m、深さ0.52mである。カマド：東壁中央やや北寄りに位置すると推察される。全長1.01m、幅0.76m、焚口幅0.26m、燃烧部幅0.29m、煙道は壁外側に0.21m突出している。燃烧部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床には、掘り方から支脚の礫が据えられており、周囲に灰の分布が認められた。支脚は、長さ0.23m、幅0.11m、厚さ0.08mである。燃烧部から煙道にかけては焼土が観察された。よく使い込まれたカマドである。両袖先端部分は礫が据えられていた。袖壁を構成している構築材であると思われる。袖材は、褐色土ブロックを含む粘質土のにぶい黄褐色土である。締まりは強い。締まりが強い。右袖石は、長さ0.37m、幅0.21m、厚さ0.13mである。左袖石は、長さ0.31m、幅0.22m、厚さ0.12mである。これらの構築材とカマド周囲に出土した礫等で焚口を構成していたと思われる。カマド埋没土に、褐灰色粘土ブロックを含む明赤褐色土の焼土層が観察されるが、天井部焼土が崩落したのと考えられる。掘り方は、火床下に0.1m前後の窪みが認められた。埋没土は、焼土粒、炭化物を含む暗褐色土に灰、焼土ブロック、

黄褐色土ブロックを含む黒褐色土である。重複遺構：100号住居に前出しており、145・146号住居と重複している。遺物：土師器(杯4点、甕5点) 住居全体から散在するように多量の遺物が出土した。床上0.2～0.3m前後の高い位置の遺物が多く、住居廃絶時に投棄されたような状態であったと思われる。そのうち土器9点を図示した。杯(3)、甕(6)は床直上から、杯(4)、甕(9)は床直上から床上0.18m迄の出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(4)、甕(9)は大半が床直上であり、本住居に伴うと考えるのが自然である。杯(1・2)、

甕(5・7・8)は床から0.13～0.32m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。甕(7)は6世紀後半のものであり本住居に伴わないと判断する。円礫の出土が見られ、磨礫石と思われる礫が観察された。図示した以外に、土師器(杯類81片、甕類281片)、須恵器(甕類1片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀前半であると思われる。図示した遺物は、埋土、床直の時期差が認められた。



153号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐色土 シルト質土。褐灰色土ブロックを多量、黒褐色土粒を中量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。褐灰色土を中量、黒褐色土粒を少量含む。
- 3 黒色土 シルト質土。炭化物を極めて多量含む。下層および中間に焼土層あり。
- 4 にぶい黄褐色土 褐灰色土小ブロック、黒褐色土粒を少量含む。
- 5 褐色土 褐灰色土、黒色土粒を少量含む。粘性やや強い、しまりやや弱い。床層。

153号住居貯蔵穴 C-C'

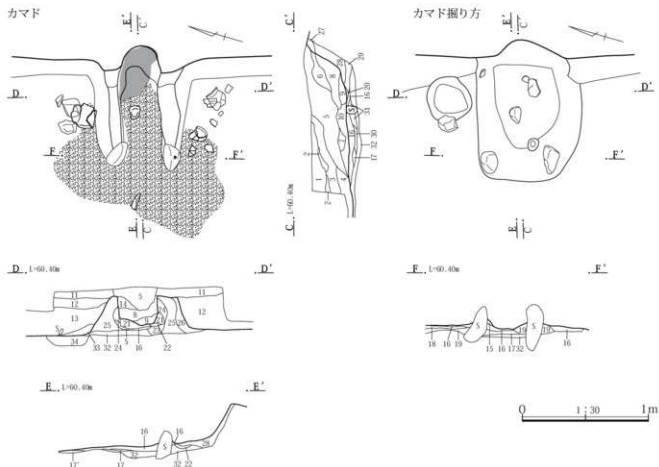
- 1 褐色土 シルト質土。褐灰色土小ブロックを少量、焼土粒を微量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。褐灰色土小ブロックを中量、焼土粒を微量含む。
- 3 褐色土 シルト質土。炭化物小ブロックを中量、焼土粒を微量含む。

- 4 褐色土 シルト質土。褐灰色土小ブロックを中量、炭化物を少量、焼土粒を微量含む。

153号住居床下土坑 H-H'・I-I'

- 1 褐灰色土 シルト質土。炭化物を多量、焼土粒、灰を中量含む。
- 2 黒色土 炭化物層。灰を多量、褐色土小ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 3 褐色土 焼土層。炭化物を少量含む。しまり強い。
- 4 暗褐色土 シルト質土。焼土粒、黄褐色土小ブロックを少量含む。粘性やや強い。
- 5 暗褐色土 シルト質土。焼土細粒を多量含む。
- 6 暗褐色土 シルト質土。焼土細粒、炭化物を多量含む。
- 7 暗褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。

第676図 1区8面 153号住居

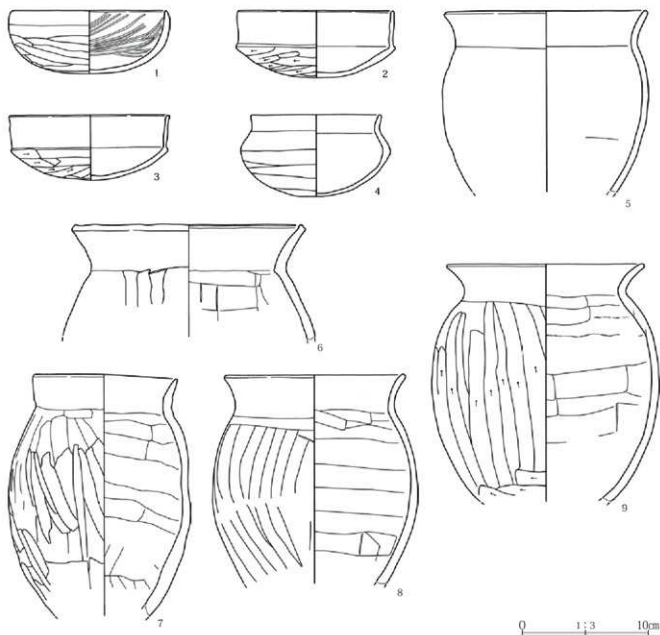


153号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'・F-F'

- 1 褐色土 シルト質上。黒褐色土ブロック褐色土ブロックを少量含む。
- 2 黒褐色土 炭化物を多量、褐色土ブロックを中量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰白色粒、炭化物、焼土粒、を少量含む。粘性やや強い。しまり固い。
- 4 褐色土 シルト質上。灰白色粘土ブロック、焼土ブロックを中量含む。粘性やや強い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質上。褐色土ブロックを多量、黒褐色土粒を中量含む。
- 6 褐色土 シルト質上。褐色土大ブロックを中量含む。
- 7 明赤褐色土 焼土層。褐色土大ブロックを少量含む。しまり固い。天井部焼土崩落か。
- 8 暗褐色土 シルト質上。焼土大ブロックを少量含む。粘性やや強い。
- 9 褐色土 シルト質上。焼土大ブロックを多量含む。粘性やや強い。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土ブロック、灰を少量含む。
- 11 暗褐色土 シルト質上。褐色土小ブロックを少量含む。
- 12 褐色土 シルト質上。褐色土ブロックを中量含む。
- 13 褐色土 シルト質上。褐色土小ブロックを少量含む。
- 14 灰黄褐色土 粘土質。褐色土ブロックを少量含む。粘性強い。しまり固い。
- 15 にぶい黄褐色土 粘土質。焼土ブロックを中量含む。粘性強い。しまり固い。

- 16 黒褐色土 灰を多量、焼土小ブロック、黄褐色土ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 17 暗褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 17 層に同質。灰を中量含む。
- 18 にぶい黄褐色土 シルト質上。酸化鉄分を少量含む。
- 19 褐色土 シルト質上。粘土小ブロックを少量含む。
- 20 にぶい赤褐色土 シルト質上。焼土粒を多量含む。
- 21 褐色土 シルト質上。黒褐色土小ブロックを少量含む。
- 22 褐色土 灰層。焼土小ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 23 褐色土 シルト質上。焼土粒、炭化物を中量含む。しまり弱い。
- 24 明褐色土 粘土質。焼土ブロックを中量含む。しまり固い。
- 25 にぶい黄褐色土 粘土質。褐色土ブロックを中量含む。粘性強い。しまり固い。
- 26 褐色土 シルト質上。黒褐色土粒を中量含む。
- 27 褐色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。
- 28 暗褐色土 シルト質上。褐色土小ブロックを少量含む。
- 29 暗褐色土 シルト質上。灰を少量含む。
- 30 黒褐色土 炭化物、灰を多量含む。しまり弱い。
- 31 暗褐色土 シルト質上。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 32 暗褐色土 シルト質上。褐色土小ブロックを少量含む。
- 33 暗褐色土 シルト質上。焼土粒、炭化物を中量含む。
- 34 にぶい黄褐色土 シルト質上。褐色土小ブロック、黄褐色土粘土ブロックを少量含む。

第677図 1区8面 153号住居カマド



第678図 1区8面 153号住居出土遺物

154号住居(第679・680図 PL.144・224)

1区中央部の住居群内にある。38号溝が住居西部を南北に壊しているため、全容が明らかでない。

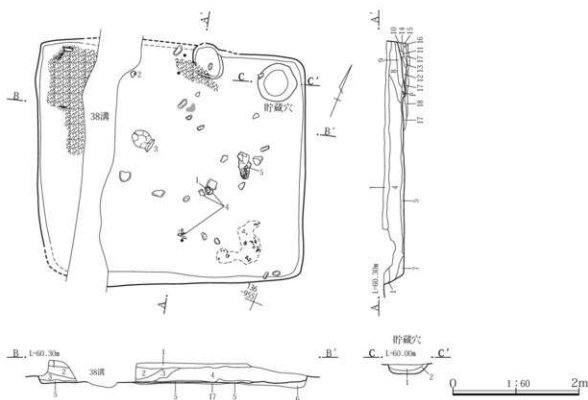
位置：135～139・-954～-959にある。

規模形状：各辺若干曲線を描くが、ほぼ直線的である。東西にやや長い方形を呈している。主軸長3.58m、幅4.24mである。 **埋没土・壁**：にぶい黄褐色土で埋没している。黄褐色粘質土ブロックを含む。4層で埋没した後、2・3層がレンズ状に堆積している。壁側から埋もれている状況もみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.14mである。 **方位**：N-37°-W **面積**：14.26㎡(推定)

床面：傾斜はほとんどない。南東部に若干起伏がみられるが、およそ平坦である。カマド前部及び北西隅に灰の分布を認める。カマド前部より中央寄りに僅かに焼土を認める。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は認められなかった。 **掘り方**：カマドから北東部にかけて認められた。埋め土は灰を含む灰黄褐色シルト質土である。深さ0.04～0.1mである。 **壁溝**：認められない。 **ピット(柱穴)**：認められない。 **貯蔵穴**：北東隅に、窪みを認める。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、炭化物を含む灰黄褐色シルト質土である。掘り方と同質の土で埋没している。長径0.62m、短径0.6m、深さ0.14

mである。カマド：北壁中央やや東寄りに位置する。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から壁際にかけてであると推察される。火床上には、礫が出土したが、支脚であるか明瞭でない。左袖の位置には灰が分布していた。袖は確認できなかった。掘り方は、火床下に0.12m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒を含む灰黄褐色シルト質土である。重複遺構：38号溝に前出しており、157号住居に後出している。117号住居と重複している。遺物：土師器(杯1点、高杯1点、甕2点、甗

1点) 中央部に遺物が出土した。そのうち土器5点を図示した。杯(1)、高杯(2)、甗(3)、甕(4)は床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。甕(5)は床から0.22m程浮いた位置及び埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類81片、甗類383片)、不明土器1片が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物と重複関係から7世紀中頃であると思われる。図示した遺物は、床直、埋土の時期差を認める。

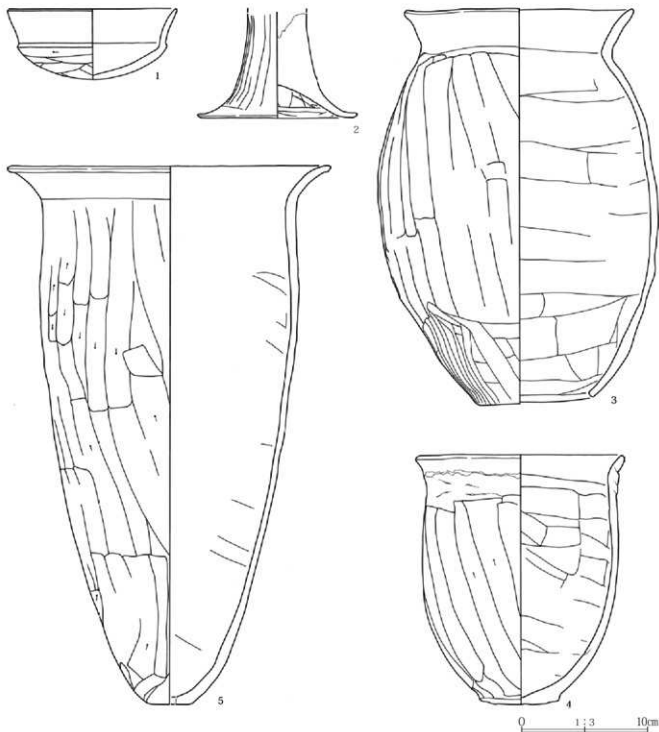


154号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色細砂土ブロック、炭化物を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 8 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 9 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、焼土粒、炭化物、灰を少量含む。

- 10 灰黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
 - 11 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロック、炭化物を少量含む。
 - 12 灰黄褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土ブロックを中量含む。
 - 13 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロックを多量含む。
 - 14 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロックを中量含む。
 - 15 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
 - 16 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色細砂土ブロックを中量含む。
 - 17 灰黄褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土粒を中量含む。しまりやや固い。床層。
 - 18 灰黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。
- 154号住居 C-C'
- 1 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
 - 2 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を中量含む。

第679図 1区8面 154号住居



第680図 1区8面 154号住居出土遺物

155号住居(第681図 PL.144)

1区中央部の住居群内にある。削平が進んでいるため、住居南部一部の調査となった。南壁が僅かに確認された。位置：134～136・-971～-972にある。

規模形状：削平されており、全容が明らかでない。長軸長(2.02)m、短軸長(0.47)mである。 **埋没土・壁**：褐灰色土ブロックを含む褐色土で埋没している。自然埋没

か人為的な埋戻しであるかは明瞭でない。壁高は0.03mである。 **方位**：N-26°-W **面積**：(0.88)m² **床面**：傾斜はほぼないと思われる。調査した範囲では、掘り方：確認できた。埋め土は、褐灰色土ブロックを含むにぶい黄褐色土の上に粘性の強い黒褐色土を敷いて踏み固めてある。深さ0.05m程である。 **壁溝**：不明 **ピット(柱穴)**：不明 **貯蔵穴**：不明 **カマド**：不明 **重複遺構**：

100・144号住居と重複している。遺物：土師器(襷類3片)が出土している。図示できる遺物は得られなかった。所見(帰属時期)：出土遺物は破片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。重複関係と土器片から6世紀前半であると考え、時期設定の資料に欠ける。



155号住居 A-A'

- 1 褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや強い。
- 2 黒褐色土 酸化鉄分を少量含む。粘性やや強い。しまり強い。床層。
- 3 にぶい黄褐色土 褐色土大ブロックを中量含む。しまりやや強い。掘り方。

第681図 1区8面 155号住居

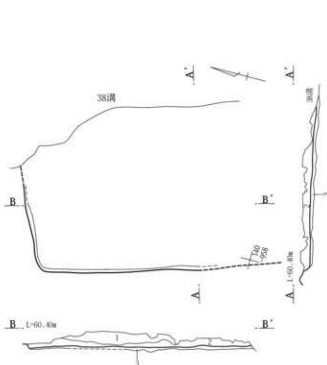
156号住居(第682図 PL.144)

1区中央部の住居群内にある。東西を38・50号溝に壊され削平も進んでおり残存状態が良好でない。全容が明らかでない。

位置：139～143・-954～-959にある。

規模形状：西壁、北壁共に直線的であり、鈍角に交わっている。全体としては方形を呈していると推察される。長軸長(3.62)m、短軸長(2.61)mである。埋没土・壁：粗砂層の灰白色土で埋没している。炭化物、焼土、灰を含み、酸化鉄凝集も観察できる。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.17mである。方位：N-13°-W
面積：(8.57)m² 床面：38号溝に向けて大きく傾斜している。落ち込んでいる地形に影響を受けていると推察される。カマド、貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。掘り方：調査した範囲では、全面に認められた。埋め土は、浅黄褐色細砂ブロック、焼土粒、灰を含む灰白色土であり、固く締まった床層である。深さ0.06m前後である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：38号溝、157号住居に前出して

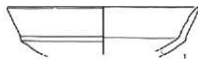
いる。遺物：土師器(杯1点) 住居埋没土から遺物が出土した。土器1点を図示した。杯(1)は住居埋没土からの出土であり本住居に伴うものか明瞭でない。図示した以外に、土師器(杯類4片、襷類35片)、須恵器(襷類1片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半から7世紀前半であると考え。



156号住居 A-A'・B-B'

- 1 灰白色土 粗砂土。炭化物、灰、酸化鉄凝集を少量含む。
- 2 灰白色土 粗砂土。炭化物、焼土粒、灰を少量含む。
- 3 灰白色土 粗砂土。浅黄褐色細砂土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。しまりやや強い。床層。

0 1:60 2m



0 1:3 10cm

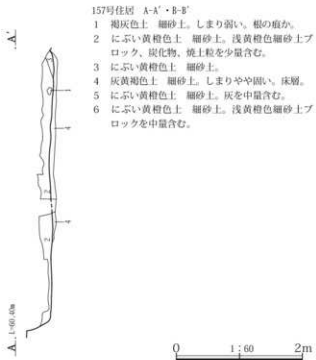
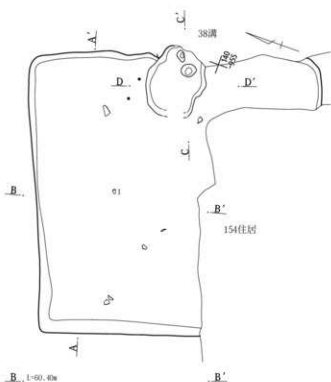
第682図 1区8面 156号住居、出土遺物

157号住居(第683・684図 PL.144)

1区中央部の住居群内にある。154号住居に南部から南西部にかけて大きく壊されている。残存状態が良好でなく、全容が明らかでない。

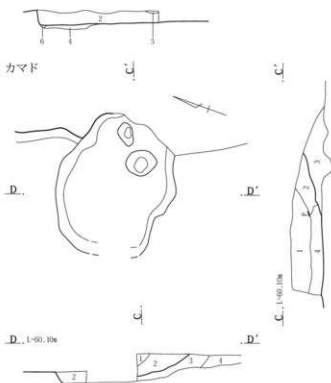
位置：138～142・-954～-959にある。

規模形状：北壁、西壁は直線的である。東壁、南壁の一部は丸みを帯びている。全体としては方形を呈していると思われる。主軸長4.64m、幅4.84mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色土の細砂層で一気に埋没している。浅黄褐色細砂ブロック、炭化物、焼土粒を含んでおり、人



157号住居 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 細砂土。しまり弱い。根の痕か。
- 2 にぶい黄褐色土 細砂土。浅黄褐色細砂土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 細砂土。
- 4 灰黄褐色土 細砂土。しまりやや固い。床層。
- 5 にぶい黄褐色土 細砂土。灰を中量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 細砂土。浅黄褐色細砂土ブロックを中量含む。



157号住居カマド C-C'・D-D'

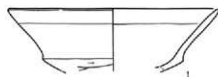
- 1 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色粘質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色粘質土粒、焼土ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。灰を中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。

第683図 1区8面 157号住居

為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.38mである。

方位：N-67°-E **面積**：(12.04)㎡ **床面**：北に若干傾斜している。起伏がみられるが、およそ平坦である。**貯蔵穴**、**柱穴**等の窪みは認められなかった。**掘り方**：中央部から北東方向にかけて認められた。埋め土は、灰黄褐色土の細砂層であり固く締まった床層である。深さ0.08m前後である。**壁溝**：断面より、北辺に確認できる。幅0.11m、深さ0.06mである。埋め土は、浅黄褐色細砂ブロックを含むにぶい黄褐色土である。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：東壁ほぼ中央に位置する。削平が進んでおり、残存状態が良好でない。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃

焼部幅不明、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から壁際にかけてであると思われる。掘り方は、火床下に0.03m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒、炭化物を含む灰黄褐色シルト質土である。**重複遺構**：117号住居、154号住居に前出しており、156号住居に後出している。**遺物**：土師器(高杯1点) カマド周辺及び中央部、西部から僅かに遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。高杯(1)は床から0.19m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。図示した以外に、土師器(杯類9片、甕類26片)が出土している。**所見(帰属時期)**：出土遺物、重複関係から、6世紀後半から7世紀前半であると考えられる。



第684図 1区8面 157号住居出土遺物

158号住居(第685図 PL.145)

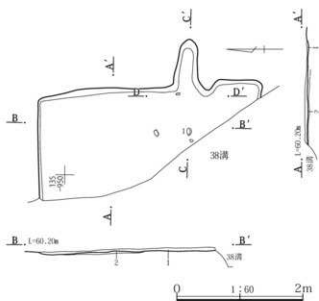
1区中央部の住居群と東側住居群の間に位置する。周辺の住居は削平されている。38号溝により住居中央部から西部にかけて大きく壊されているため、全容が明らかでない。

位置：131～135・947～950にある。

規模形状：北壁は直線的で、東壁はやや丸みを帯びる。全体としては方形であったと推測できる。主軸長(1.72)m、幅3.52mである。**埋没土・壁**：褐灰色細砂ブロック、灰を含むにぶい黄褐色シルト質土で埋没している。自然埋没か人為的な埋戻しであるか明瞭でない。壁高は0.03mである。**方位**：N-86°-W **面積**：(3.99)㎡ **床面**：傾斜はほとんどない。起伏がみられるが、およそ平坦である。全体的に削平が進んでおり、貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。**掘り方**：北東部に認められた。埋め土は、にぶい黄褐色土の細砂層で、締まりが強い。深さ0.03m前後である。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。

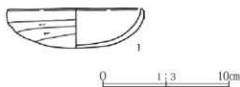
カマド：東壁中央南寄りに位置する。全長0.91m、幅0.75m、焚口幅不明、燃焼部幅0.32m、煙道は壁外側に0.71m突出している。燃焼部は、住居内から壁際であると推察される。火床上には、灰跡が見られるが明瞭でない。袖は痕跡を残すが、明瞭でなかった。削平が進んでおり、火床の埋め土は、灰を多く含むにぶい黄褐色シルト質土である。**重複遺構**：38号溝に前出している。**遺物**：土師器(杯1点) カマド周辺から点在するように遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は床直上及び埋没土からの出土である。大半は床直上にあり本住居に伴うものと考えられる。図示した以外に、土師器(杯類1片、甕類8片)が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、7世紀後半から8世紀前半であると考えられる。図示した遺物は、床直の時期差が認められない。

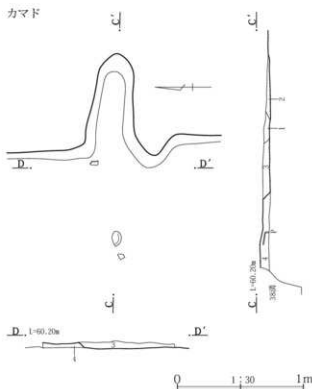


158号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐灰色細砂土ブロック、灰を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 細砂土。しまりやや固い。



第685図 1区8面



158号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 細砂土。灰を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を多量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐灰色細砂土ブロック、灰を少量含む。

158号住居、出土遺物

159号住居(第686～691図 PL.145・146・224～228)

1区中央部の住居群内にある。南辺付近は調査区域外にあるため、全容が明らかでない。

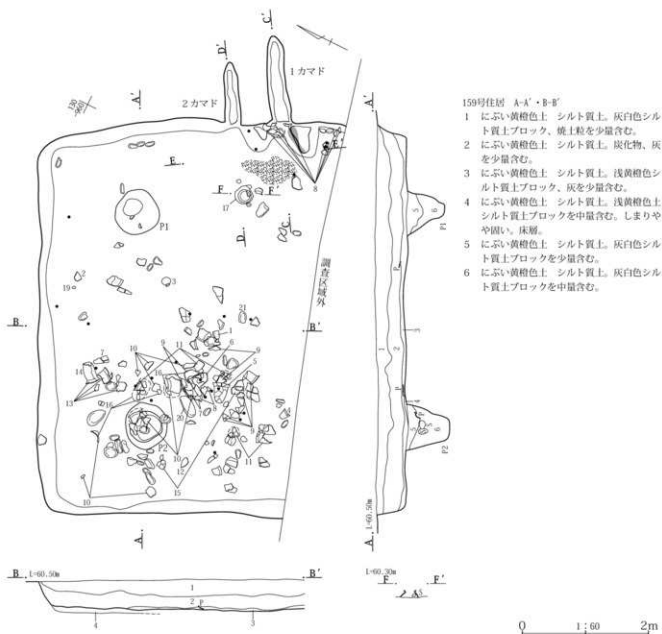
位置：124～130・-957～-965にある。

規模形状：西壁、北壁は直線的であるが若干歪んでいる。東壁はやや丸みを帯びている。各辺は、直交しており、整った方形を呈していると思われる。大型住居である。主軸長6.25m、幅(4.71)mである。**埋没土・壁**：にぶい黄褐色土で埋没している。浅黄褐色・灰白色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物、灰を含む。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.49mである。**方位**：N-62°E **面積**：(23.97)㎡ **床面**：傾斜はほとんどないが、起伏は大きい。カマド前部に灰の分布を認める。貯蔵穴の窪みは確認できなかったが、柱穴は2つ認められた。調査区外に関連の施設があると思われる。住居中央部やや西寄りに、土師器甕、杯が多く出土している。P2の周囲に大きい礫も集積しており、何等かの目的により持ち込まれたものと思

われるが明確でない。北寄りの東壁直下に細い自然石が出土した。薦編石の可能性がある。**掘り方**：北部から中央部まで確認できたが、南部は明らかでない。埋め土は、浅黄褐色ブロックを含むにぶい黄褐色シルト質土であり、固く締まっている床層である。深さ0.05m前後である。**壁溝**：認められない。**ビット(柱穴)**：北東隅と北西隅に窪みを認める。位置及び埋没土よりP1、P2共に、同時期の規則的な主柱穴配置による柱穴であると思われる。P1の埋没土は、灰白色シルト質土ブロックを含むにぶい黄褐色土である。長径0.72m、短径0.7m、深さ0.66mである。P2の埋没土は、P1に類似している。東石が据えられており、周囲に土師器甕が出土した。P2は、長径0.76m、短径0.66m、深さ0.61mである。東石は、長さ0.22m、幅0.14m、厚さ0.08mである。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：東壁中央部やや南寄りに2号カマドが、2号カマドより0.74m程南寄りに並ぶように1号カマドが位置する。1号カマドは、全長1.98m、幅1.22m、焚口幅不明、燃焼部不明、煙

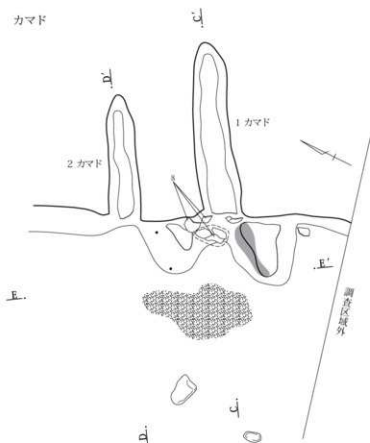
道は壁外側に1.39m突出している。燃焼部は、住居内から壁際外にかけて確認された。火床上には、灰の分布が見られ、煙道との境には土師器片が出土した。右袖火床側には、焼土が観察された。火床の位置より両袖共により長かったと推察できる。袖材は、灰白色シルト質土ブロック、炭化物を含むにぶい黄褐色土である。掘り方は、火床下に0.11m前後の窪みが認められた。埋め土は、浅黄褐色ブロックを含むにぶい黄褐色土の上に焼土ブロック、灰を含むにぶい黄褐色土が載っている。2号カマドは、全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に0.97m張り出している。燃焼部は、住居内

にあったと推察される。火床上及び袖は、使用の痕跡を残していない。掘り方は、火床下に0.1m前後の窪みが認められた。埋め土は、浅黄褐色ブロックを含むにぶい黄褐色土である。右袖付け根の位置にビット状の窪みが観察された。カマドの残存状態及び使用痕より、1号カマドが新しいと思われる。重複遺構：160・168・171号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、小型甕1点、甕1点、甕13点)、土製品(土錘1点) 石製品3点(石製品、砥石、不明) カマド周辺及び住居中央部から北西部にかけて多量の遺物が出土した。そのうち土器17点、土製品1点、石製品3点を図示した。杯(1・2)、

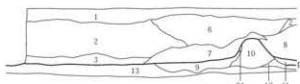


第686図 1区8面 159号住居

カマド



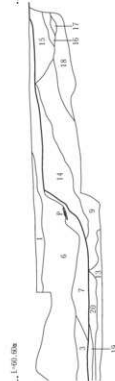
.E., 1-60.0m



159号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰白色シルト質上ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物、灰を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロック、灰を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物、灰を少量含む。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰白色シルト質上ブロックを中量、炭化物を少量含む。袖。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土ブロック、灰を少量含む。
- 12 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物を中量含む。
- 13 にぶい黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。
- 14 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土ブロック、灰を少量含む。
- 15 にぶい黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。
- 16 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰を中量、黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- 17 にぶい黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを多量含む。
- 18 にぶい黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロック、灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 19 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物、灰を少量含む。
- 20 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰を多量、炭化物を中量含む。
- 21 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土粒を多量含む。

.C.



.C., 1-60.0m

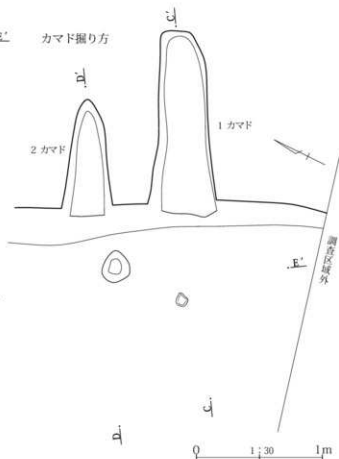
.D.



.D., 1-60.0m

.E.

カマド掘り方

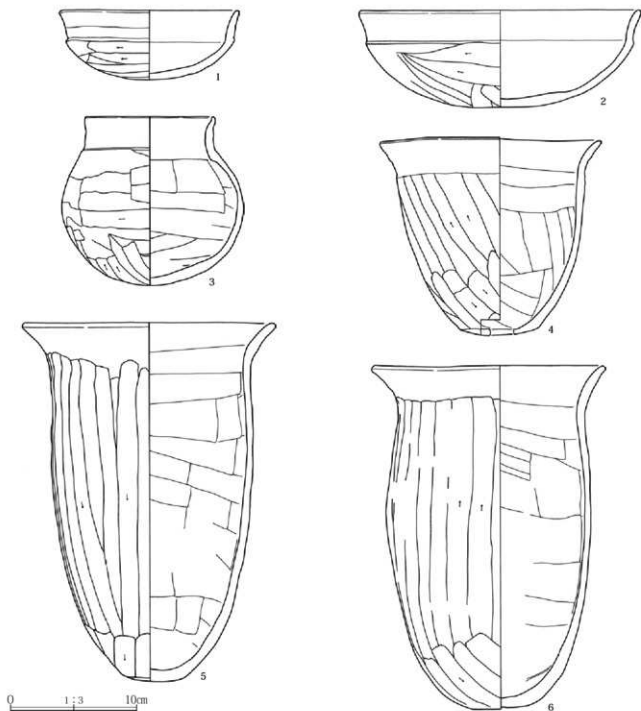


.E.

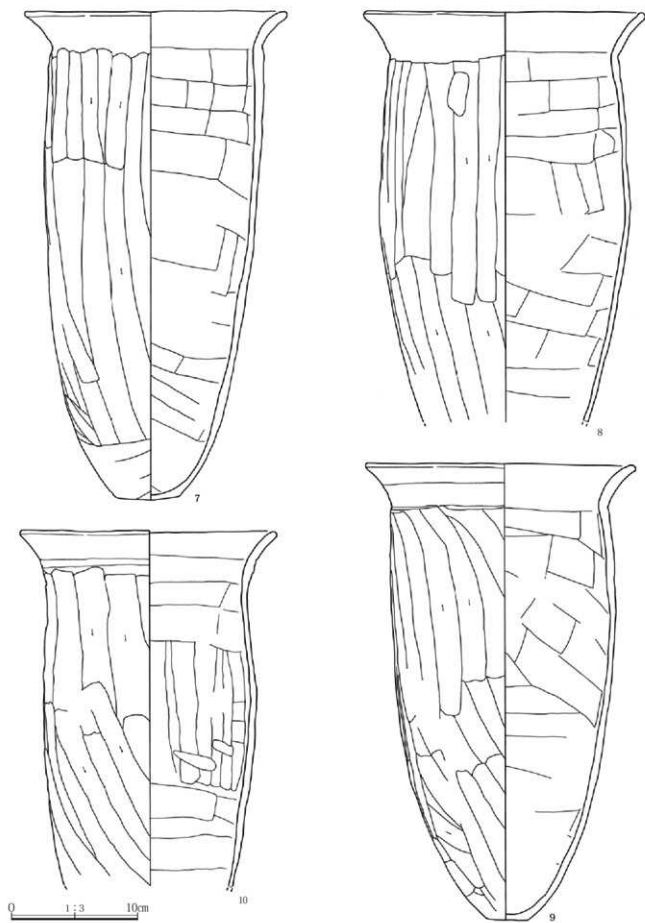
- 22 にぶい黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。
- 23 にぶい黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロック、焼土ブロックを少量含む。
- 24 にぶい黄褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質上ブロックを中量、焼土粒を少量含む。

小型甕(3)、甕(4)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(5～17)は床直上から出土しそれぞれの個体が周辺にまともっており、いずれも本住居に伴うものであると考えられる。土鍾(18)は埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。石製品(19)は床上0.06mの位置から、砥石(20)は床上0.08mの位置から、不明石製品(21)は床直上から出

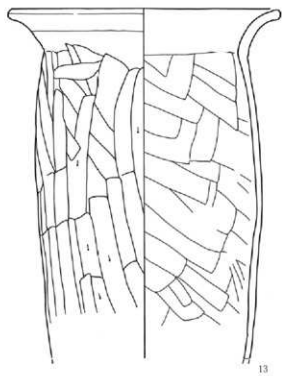
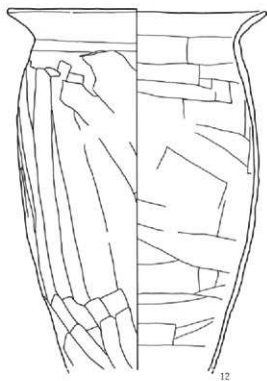
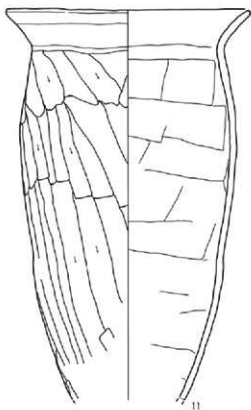
土している。若干床から浮いているが、いずれも本住居に伴うものと考えられるのが自然である。円礫の出土が見られ、磨礫石と思われる礫が観察された。図示した以外に、土師器(杯類296片、甕類1,237片)、須恵器(甕類25片)が出土している。 所見(帰属時期)：出土遺物から、7世紀前半であると考えられる。



第688図 1区8面 159号住居出土遺物(1)

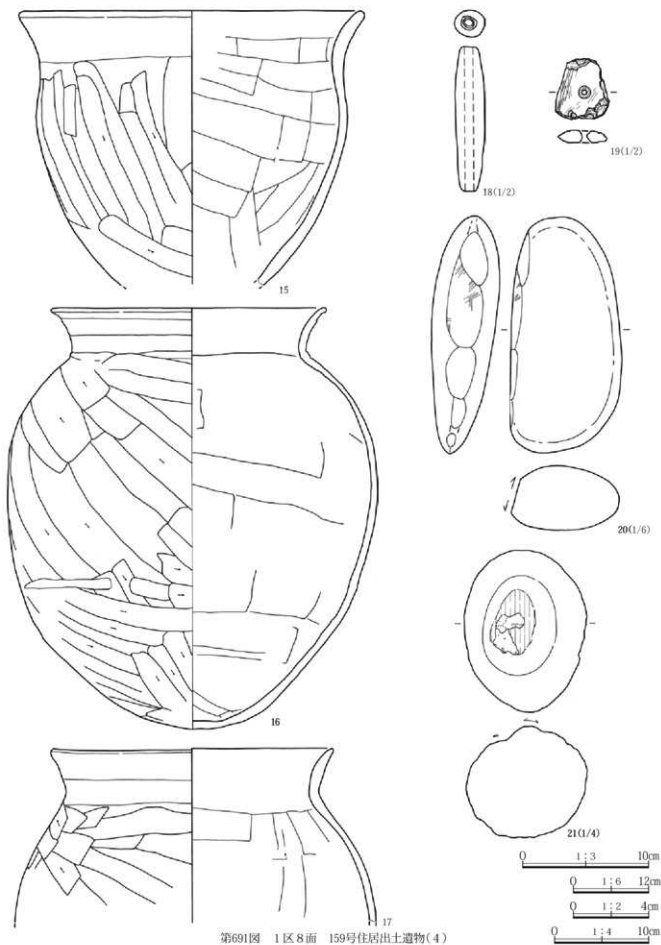


第689図 1区8面 159号住居出土遺物(2)



0 1:3 10cm

第690図 1区8面 159号住居出土遺物(3)



第691図 1区8面 159号住居出土遺物(4)

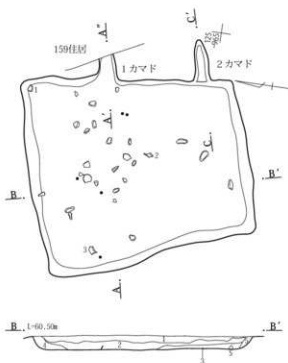
160号住居(第692・693図 PL.146)

1区中央部の住居群内にある。159号住居によりカマドが一部壊されている。残存状態は、良好でない。

位置：124～128・-965～-969にある。

規模形状：北壁、南壁は直線的であるが、やや歪んでいる。西壁、東壁は大きく歪んでいる。南壁に対して北壁が長く、台形を呈している。主軸長2.55m、幅3.48mである。**埋没土・壁**：にぶい黄褐色土で埋没している。炭化物、灰を含む層の上に浅黄褐色細砂ブロック、焼土粒、炭化物を含む層が堆積している。壁側から埋もれている状況がみられるが、人為的な埋戻しであると推察される。壁高は0.25mである。**方位**：N-76°-E **面積**：8.15㎡ **床面**：傾斜はなく、平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。カマドは2つ確認され、1号カマドの前に遺物の出土が顕著であった。**掘り方**：確認できなかった。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：東壁中央部やや北寄りに1号カマドが、東壁中央部南寄りに2号カマドが位置する。1号カマドは、現存全長0.48m、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側から159号住居に壊されるまで0.36m突出している。燃焼部は、住居内から壁際外にかけてであると思

われる。袖は確認できなかった。掘り方は、火床下に0.03m前後の窪みがあると思われ、埋め土は、浅黄褐色・灰白色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒を含むにぶい黄褐色シルト質土である。2号カマドは、現存全長0.74m、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に0.67m突出している。燃焼部は、住居内にあると思われる。袖は確認できなかった。掘り方は、窪みが認められなかった。住居埋没土と2号カマド周辺の埋め土が同質の土で埋没している様子から、1号カマド使用中には、2号カマドは閉口していたと思われる。その他、カマドの残存状態、使用痕及びカマド前の遺物より2号カマドより1号カマドが新しいと思われる。**重複遺構**：159・165号住居に前出しており、168・169・171号住居に後出している。**遺物**：土師器(杯1点、高杯1点、甕1点) 住居中央部から北部にかけて散在するように遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。高杯(2)、甕(3)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1)は床から0.07m程浮いた位置から出土しているものの、周辺の土器から本住居に伴うものであると考えるのが自然である。円障の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類4片、甕類151片)、須恵器(甕類4片)が出土している。**所見(帰属時期)**：



160号住居 A-A'・B-B'

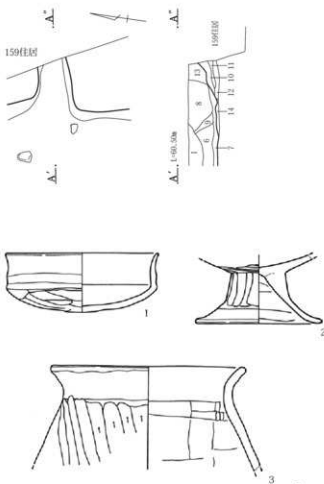
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色細砂上ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、炭化物を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を多量含む。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを中量含む。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、炭化物を少量含む。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 12 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 13 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを少量含む。
- 14 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。

0 1:60 2m

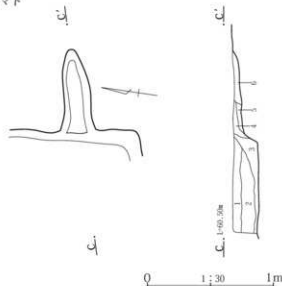
第692図 1区8面 160号住居

出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考ええる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が認められない。

1カマド



2カマド



160号住居カマド C-C'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色細砂土ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を中量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を少量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物、焼土、灰を中量含む。

第693図 1区8面 160号住居カマド、出土遺物

161号住居(第694・695図 PL.146・228)

1区中央部の住居群内にある。南壁は調査区域外にあるため、全容が明らかでない。

位置：121～125・-969～-973にある。

規模形状：各辺直線的であり、直交している。南北に長い整った方形を呈していると推察される。主軸長2.91m、幅(3.20)mである。埋没土・壁：浅黄褐色・灰白色シルト質土ブロックを含むにぶい黄褐色土で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.1mである。方位：N-69°-E
面積：(8.57)m² 床面：北東に傾斜している。若干起伏があるが、およそ平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。東壁沿い及び中央、西部に礫の出土

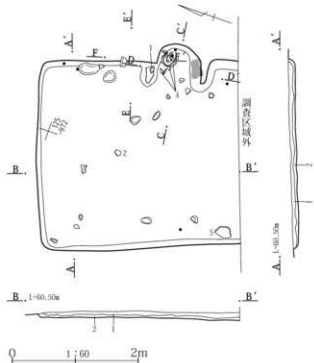
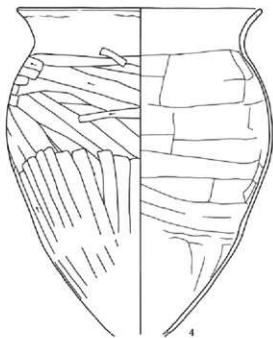
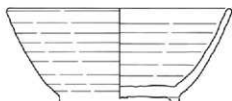
を見る。カマド掘り方で、2号カマドを確認する。東壁沿いの礫は、2号カマドの関連するものと思われる。

掘り方：確認できなかった。壁溝：認められない。

ビット(柱穴)：認められない。

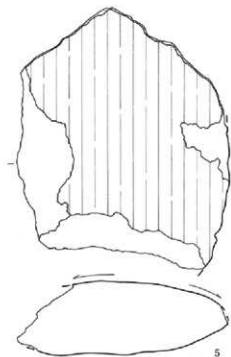
カマド：東壁中央南寄りに1号カマドが、東壁中央やや北寄りに2号カマドが位置すると思われる。1号カマドは、全長0.75m、幅1.14m、焚口幅0.56m、燃焼部幅0.52m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、土師器裏が出土した。袖材は、明黄褐色シルト質土ブロックを含むにぶい黄褐色土である。炭化物、焼土粒を含む。右袖燃焼部側には、焼土を観察する。掘り方は、火床下に0.1m前後の窪みが認められた。埋め土は、焼土粒、炭化物、

浅黄棕色土ブロックを含むふい黄棕色土である。2号カマドは、掘り方の段階で確認された。現存全長0.46m、現存幅0.45m、焚口幅不明、燃烧部幅不明、煙道は壁外側に0.36m張り出している。煙道部掘り方の埋め土は、焼土粒、炭化物を含むふい黄棕色シルト質土である。直下の床層は、炭化物・灰を含むふい黄棕色シルト質土である。燃烧部は、住居内にあると思われる。使用面



161号住居 A-A'・B-B'

- 1 1にふい黄棕色土シルト質土。浅黄棕色シルト質土ブロック、灰白色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 1にふい黄棕色土シルト質土。浅黄棕色シルト質土ブロックを中量含む。

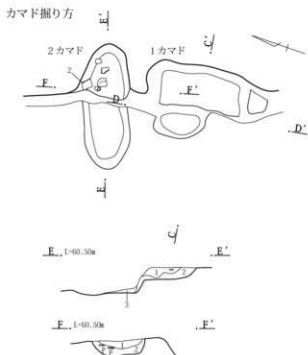
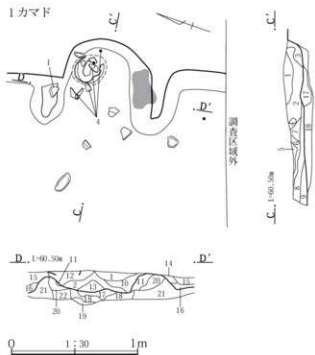


0 1:3 10cm

第694図 1区8面 161号住居、出土遺物

の東壁直下で出土した礫は、本カマドの袖及び焚口の構築材であったと思われる。火床下には窪みが認められた。カマドの残存状態、焼土などの使用痕及びカマド出土の遺物の状態から、2号カマドより1号カマドが新しいと思われる。 **重複遺構**：164・165・169・173・176号住居に後出している。 **遺物**：土師器(杯2点、甕1点)、須恵器(椀1点) 石製品(不明1点) カマド周辺及び住居全体から散在するように遺物が出土した。そのうち土器4点、石製品1点を図示した。杯(2)は床直上及びカマド掘り方から、杯(1)はカマド左袖内から、甕(4)は

カマド使用面直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。椀(3)(須恵器)は埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。不明石製品(5)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものであると考える。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類90片、甕類220片)、須恵器(甕類10片)が出土している。 **所見(帰属時期)**：出土遺物、重複関係から、8世紀後半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期的差が認められない。



161号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰白色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、炭化物を少量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を中量含む。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、焼土粒を中量含む。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を多量含む。
- 12 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 13 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 14 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。

- 15 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 16 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 17 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 18 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 19 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 20 にぶい黄褐色土 シルト質土。明黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物、焼土粒を少量含む。袖。
- 21 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。袖。
- 22 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。

E-E'・F-F'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量含む。しまりやや固い。床礫。

第695図 1区8面 161号住居カマド

162号住居(第696～698図 PL.146・147)

1区中央部の住居群内にある。削平が進んでいるため、残存状態が良好でなく全容が明らかでない。

位置：123～128・-971～-978にある。

規模形状：各辺曲線を描いているが、全体としては方形を呈していると思われる。主軸長(4.44)m、幅4.16mである。埋没土・壁：埋没土の残存がなく観察できなかったため、全容が明らかでない。壁高は0.41mである。

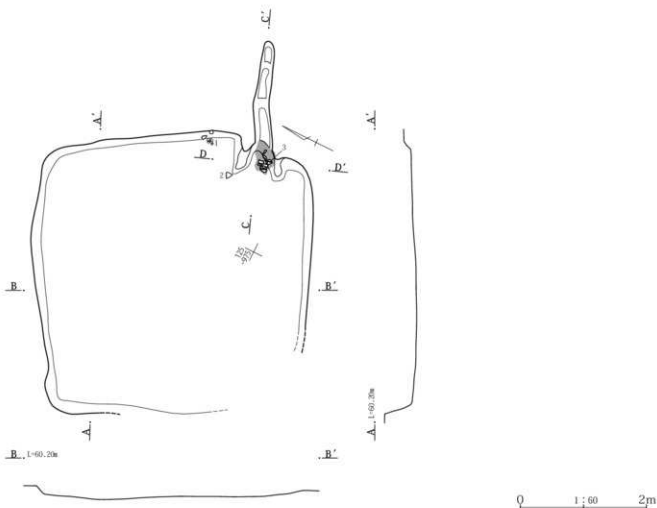
方位：N-67°-E 面積：(15.41)m²(推定) 床面：傾斜はほとんどないが、南東部を中心に緩やかな落ち込みがある。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。

掘り方：確認できなかった。壁溝：認められない。

ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。

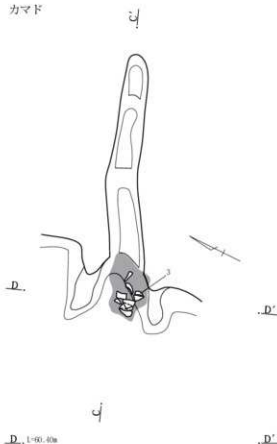
カマド：東壁南東隅に位置する。全長2.21m、幅0.85m、焚口幅0.55m、燃焼部幅0.27m、煙道は壁外側に1.68m突出している。煙道の掘り方は、深さ0.15m程で、埋

め土は、浅黄橙色シルト質土ブロック、炭化物を含むにぶい黄橙色土である。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床土には、土師器片と焼土の分布を確認する。袖材は、焼土粒を含み粘性の強い褐灰色土で塗り込めている。掘り方は、火床下に0.15m前後の窪みが認められた。埋め土は、炭化物、焼土粒、浅黄橙色シルト質土ブロック、褐灰色粘質土ブロックを含むにぶい黄橙色シルト質土である。本住居の使用面の壁からさらに東におよそ約0.15m高い床が確認できた。かつての住居の使用面であると考えられる。当時の火床も確認できる。掘り方は、火床下に0.1m前後の窪みが認められた。埋没土は、焼土粒を含むにぶい黄橙色土である。カマドが住居内側へ移動したことに伴い壁も移動したと思われる。また、カマド前部に、床下土坑を確認する。新しいカマド火床の掘り方の層が上に堆積していることから縮小前の住居の施設であると思われる。埋没土は、浅黄橙



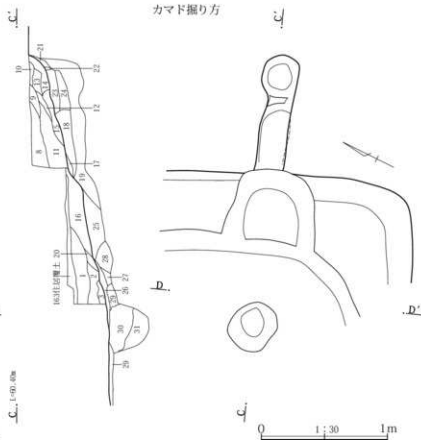
第696図 1区8面 162号住居

カマド



D, 1:60.000

カマド掘り方



0 1:30 1m



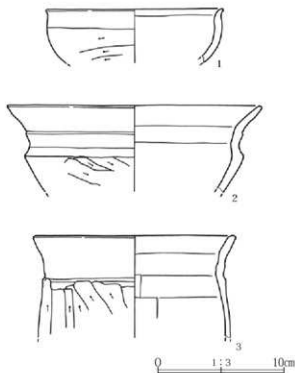
162号住居カマド
C'-D''

- 1 にふい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、焼上粒、灰を少量含む。
- 2 にふい黄褐色土 シルト質土。焼上粒を中量含む。
- 3 にふい黄褐色土 シルト質土。焼上ブロックを中量含む。
- 4 にふい黄褐色土 シルト質土。焼上粒を少量含む。
- 5 にふい黄褐色土 シルト質土。潮灰色粘質土ブロックを中量含む。
- 6 にふい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを少量含む。
- 7 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 8 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、灰を少量含む。
- 9 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、焼上ブロックを中量含む。
- 10 にふい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 11 にふい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 12 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、焼上粒、炭化物を少量含む。
- 13 にふい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼上粒、炭化物を少量含む。
- 14 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物、焼上粒を少量含む。
- 15 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼上粒を少量含む。

- 16 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、焼上粒、炭化物を少量含む。
- 17 にふい黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 18 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを多量含む。
- 19 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 20 にふい黄褐色土 シルト質土。焼上ブロックを多量含む。
- 21 にふい黄褐色土 シルト質土。潮灰色粘質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 22 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを多量含む。
- 23 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼上ブロック、灰を少量含む。
- 24 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼上粒、灰を少量含む。
- 25 にふい黄褐色土 シルト質土。焼上粒を少量含む。
- 26 にふい黄褐色土 シルト質土。潮灰色粘質土ブロックを中量、焼上粒を少量含む。
- 27 にふい黄褐色土 シルト質土。焼上ブロックを中量含む。
- 28 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを多量、焼上粒を少量含む。
- 29 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 30 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、焼上粒、炭化物を少量含む。
- 31 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 32 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを多量、潮灰色粘質土ブロックを中量含む。袖。
- 33 潮灰色土 粘質土。焼上粒を少量含む。袖。
- 34 にふい黄褐色土 シルト質土。潮灰色粘質土ブロックを多量、焼上粒を少量含む。
- 35 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土を少量含む。

第697図 1区8面 162号住居カマド

色シルト質土ブロック、焼土、灰、炭化物を含むにぶい黄橙色土である。長径0.80m、短径0.76m、深さ0.63mである。重複遺構：176・178号住居に後出しており、97・145・163・164・167・172・175号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点、甕2点) カマド内及び周辺から遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1)、鉢(2)は床直上から、甕(3)はカマド使用面からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。図示した以外に、土師器(杯類4片、甕類25片)が出土している。所見(帰属時期)：杯(1)は6世紀前半の特徴を有しているが、その他の出土遺物、重複関係から6世紀後半であると考えられる。図示した遺物においては、時期差を認める。



第698図 1区8面 162号住居出土遺物

163号住居(第699・700図 PL.147)

1区中央部の住居群内にある。複数の住居と重複しているため壁は壊されているものの床面は影響を受けていない。残存状態は良好でない。

位置：123～129・973～978にある。

規模形状：各辺直線形であるが若干歪んでいる。南壁に

対して北壁が、西壁に対して東壁がそれぞれ長く、北東隅が鋭角に交わっている。全体としては歪んだ方形を呈している。主軸長4.75m、幅3.99mである。埋没土・壁：灰黄褐色シルト質土及びにぶい黄橙色土で埋没している。中央部分に1・2層がレンズ状に堆積している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.28mである。方位：N-74°-E 面積：18.15㎡ 床面：傾斜はほとんどない。緩やかな起伏があるが、およそ平坦である。カマド右袖側に灰を認める。貯蔵穴の窪みは確認できなかったが、柱穴は複数認められた。北側東壁直下に、細長い自然石を4点確認する。磨礫石の可能性もある。掘り方：確認できなかった。

壁溝：認められない。ピット(柱穴)：P3・P4・P5が規則的な主柱穴配置の柱穴であると思われる。P1、P2は位置より関連性を持つと推測されるが明らかでない。P6、P7については、明瞭でない。各柱穴の規模及び埋没土は次の通りである。

(長径×短径×深さm)

P1 0.60×0.52×0.22

灰黄褐色土、浅黄褐色シルト質土ブロック

P2 0.50×0.49×0.19

灰黄褐色土、浅黄褐色シルト質土ブロック

P3 0.36×0.34×0.18

灰黄褐色土、浅黄褐色シルト質土ブロック

P4 0.30×0.29×0.28

灰黄褐色土、浅黄褐色シルト質土ブロック

P5 0.35×0.32×0.34

灰黄褐色土、浅黄褐色シルト質土ブロック 炭化物含む

P6 0.44×0.40×0.36

灰黄褐色土、浅黄褐色シルト質土ブロック

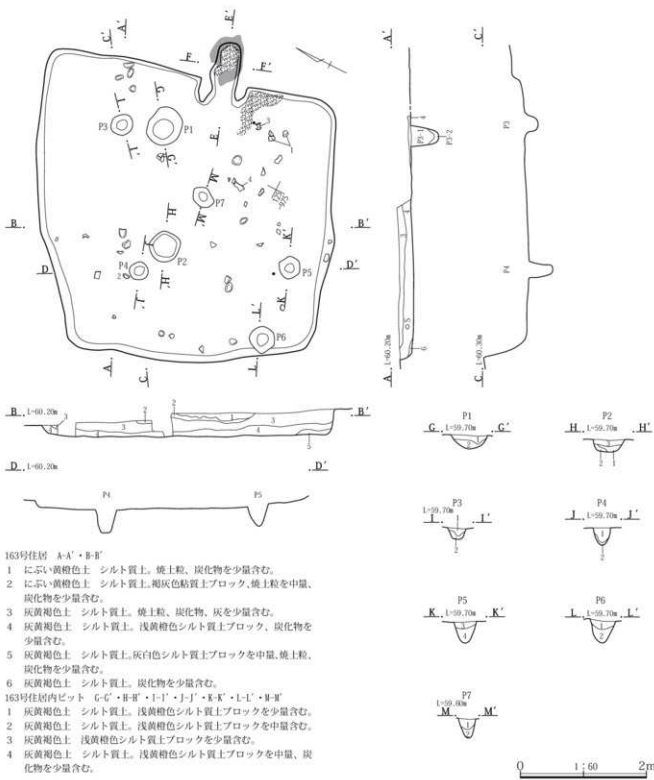
P7 0.30×0.28×0.31

灰黄褐色土、浅黄褐色シルト質土ブロック

貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央やや南寄りに位置する。全長1.12m、幅0.85m、焚口幅0.28m、燃焼部幅0.34m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、灰と焼土が確認できた。袖材は、焼土粒を含むにぶい黄褐色シルト質土である。掘り方は、火床下に0.04m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土ブロックを含むにぶい黄褐色シルト質土である。重複遺構：97・145・

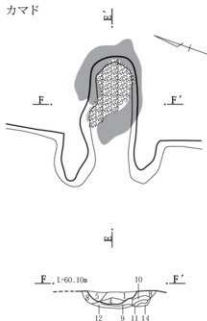
146・164・167号住居に前出しており、162・170・172・175・176・178号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、高杯1点、甕1点) 住居全体から散在するように遺物が出土した。そのうち土器4点を図示した。杯(1・2)、高杯(3)、甕(4)は床直上からの出土であり、

いずれも本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土が見られ、蒔編石と思われる礫が観察された。図示した以外に、土師器(杯類92片、甕類237片)が出土している。所見(帰属時期)：6世紀後半であると考える。

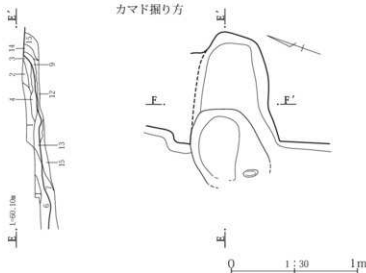


第699図 1区8面 163号住居

カマド



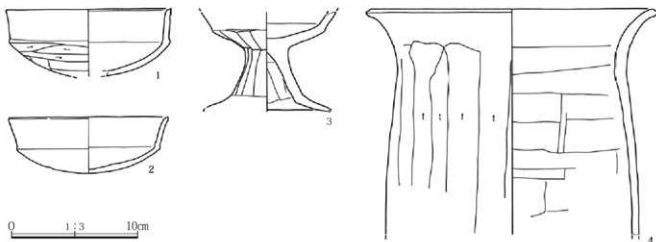
カマド掘り方



163号住居カマド E-E'・F-F'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを多量、灰を中量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。

- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土ブロックを中量含む。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 12 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。
- 13 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 14 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土ブロックを少量含む。
- 15 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。



第700図 1区8面 163号住居カマド、出土遺物

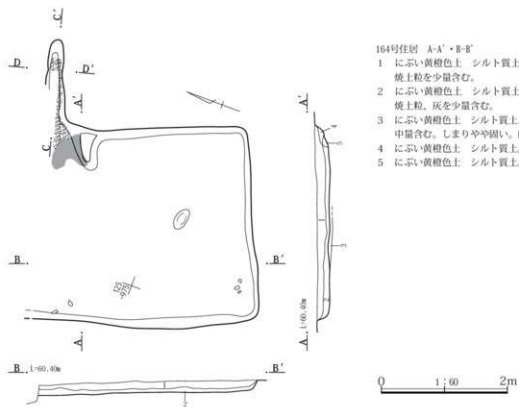
164号住居(第701・702図 PL.147)

1区中央部の住居群内にある。複数の住居と重複しているため、残存状態が良好でなく住居北側は確認できなかった。全容は明らかでない。

位置：122～127・971～976にある。

規模形状：東壁、南壁は直線的である。西壁はやや丸みを帯びている。各辺が直交しており、南北に長い整つ

た方形を呈していると推察できる。主軸長3.15m、幅(3.46)mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色土で埋没している。浅黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、灰を含む。壁側から埋もれている状況がみられるものの、人為的な埋戻しと思われる。壁高は0.18mである。方位：N-73°-E 面積：(9.20)㎡ 床面：傾斜はほとんどない。緩やかな起伏があるがおおよそ平坦である。貯蔵穴、

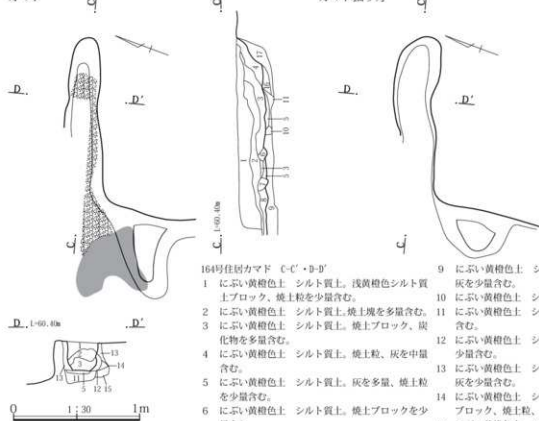


164号住居 A-A'・B-B'

- 1 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック。焼土粒を少量含む。
- 2 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック。焼土粒。灰を少量含む。
- 3 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。しまりやや強い。床層。
- 4 にふい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 5 にふい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。

カマド

カマド掘り方



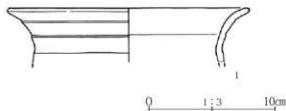
164号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック。焼土粒を少量含む。
- 2 にふい黄褐色土 シルト質土。焼土塊を多量含む。
- 3 にふい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック。炭化物を多量含む。
- 4 にふい黄褐色土 シルト質土。焼土粒。灰を中量含む。
- 5 にふい黄褐色土 シルト質土。灰を多量。焼土粒を少量含む。
- 6 にふい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを少量含む。
- 7 にふい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。
- 8 にふい黄褐色土 シルト質土。灰を中量。浅黄褐色シルト質土ブロック。焼土粒を少量含む。
- 9 にふい黄褐色土 シルト質土。焼土粒。炭化物。灰を少量含む。
- 10 にふい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 11 にふい黄褐色土 シルト質土。焼土粒。灰を少量含む。
- 12 にふい黄褐色土 シルト質土。炭化層。炭化物を少量含む。
- 13 にふい黄褐色土 シルト質土。白色軽石。焼土粒。灰を少量含む。
- 14 にふい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック。焼土粒。灰を少量含む。
- 15 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック。焼土粒を少量含む。
- 16 にふい黄褐色土 シルト質土。灰を中量。焼土粒を少量含む。
- 17 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

第701図 1区8面 164号住居

柱穴等の窪みは認められなかった。掘り方：中央から東部にかけて確認できたが、その他は明瞭でない。埋め土は、浅黄褐色ブロックを含むにぶい黄褐色土である。締まりの強い床層である。深さ0.05m前後である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。

貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央付近に位置すると思われる。97号住居によって削られており、カマドの左半分が欠損している。全長2.05m、幅不明、焚口幅不明、燃烧部幅不明、煙道は壁外側に1.32m突出している。煙道全体に灰が分布している。煙道の掘り方の埋没土は、焼土、灰、炭化物を含むにぶい黄褐色土である。深さは、0.08m前後である。燃烧部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、焼土が観察され、よく使用されたカマドであることを示している。右袖に対して左袖は、掘り方において煙道に近い位置で確認された。カマド掘り方は、火床下に0.07m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土、炭化物を含むにぶい黄褐色シルト質土である。重複遺構：97・145・161号住居に前出しており、162・163・172・173・176号住居に後出している。遺物：土師器(甕1点) 住居西壁際中心に遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。甕(1)は埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類44片、甕類161片)、須恵器(甕類1片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物と重複関係から7世紀前半であると考えられる。



第702図 1区8面 164号住居出土遺物

165号住居(第703・704図 PL.147)

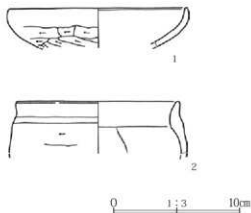
1区中央部住居群内にある。161号住居により住居西部の埋没土が若干壊されているが、床面は影響を受けていない。北辺を残し主体部は調査区域外にあるため、全

容は明らかでない。

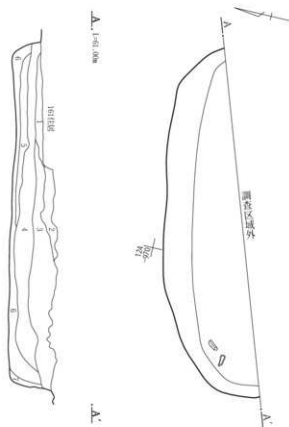
位置：121～124・966～971にある。

規模形状：北壁、北東隅、北西隅共に、曲線を描いている。長軸長(5.56)m、短軸長(1.13)mである。埋没土・壁：灰黄褐色土で埋没している。炭化物、焼土粒、浅黄褐色ブロックを含む。不自然な堆積が見られ人為的な埋戻しであると思われる。断面の観察より、1層は161号住居の掘り方であり締まりが強い。165号住居が前出している状況が伺える。壁高は0.5mである。方位：N-71°-E 面積：(3.42)㎡ 床面：東に若干傾斜している。緩やかな起伏があるが、およそ平坦である。主体部の多くが調査区域外のため、全容が明らかでない。住居北西隅に細長い自然石が2点出土している。薦編石の可能性はあるが出土位置が高い。掘り方：確認できなかった。壁溝：認めない。ピット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：不明 重複遺構：161号住居に前出しており、160・169・173号住居に後出している。

遺物：土師器(杯1点、小型甕1点) 住居埋没土中心に遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)、小型甕(2)は共に埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。川原石状の礫の出土が見られ、薦編石と思われる大きさの礫が観察された。図示した以外に、土師器(杯類79片、甕類201片)、須恵器(甕類2片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、7世紀前半であると考えられる。埋没土内の遺物は時期差の少ないものである。



第703図 1区8面 165号住居出土遺物



第704図 1区8面 165号住居

165号住居 A-A'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまりやや強い。
161号住居床層。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを中量、白色
軽石、炭化物、焼土粒を少量含む。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、炭化物、焼
土粒を少量含む。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰
を少量含む。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを多量含む。
- 7 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼
土粒を少量含む。

0 1 2m

166号住居(第705図 PL.147・228)

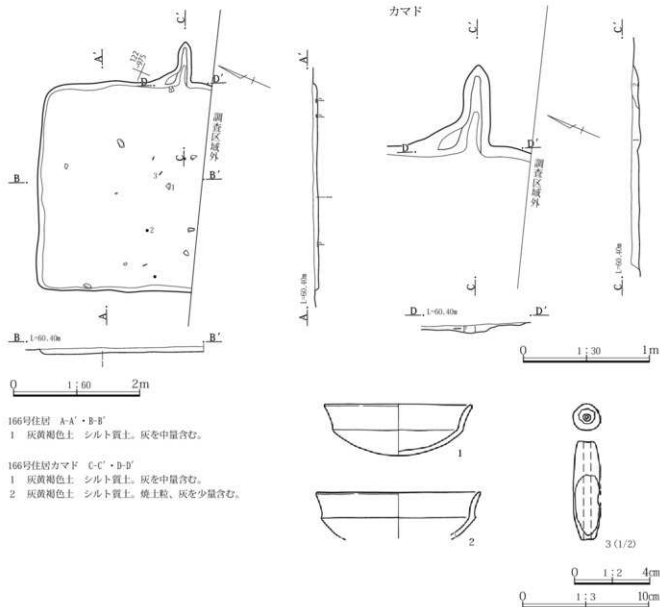
1区中央部の住居群内にある。削平が進んでいるため
残存状態が良好でない。南辺は調査区域外にあり全容が
明らかでない。

位置：119～123・-974～-978にある。

規模形状：北壁、西壁は直線的である。東壁は若干丸み
を帯びる。各辺が直交しており、全体としては整った方
形をしていると推察される。主軸長3.35m、幅(2.62)m
である。埋没土・壁：灰を含む灰黄褐色シルト質土で
埋没している。一気に埋没している様子が観察され人為
的な埋戻しであると思われる。壁高は0.06mである。

方位：N-73°-E 面積：(7.87)m² 床面：北西に傾斜
している。若干起伏があるが、およそ平坦である。貯蔵穴、
柱穴等の窪みは認められなかった。掘り方：確認でき
なかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認
められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁
中央付近に位置していると思われる。削平が進んでおり、
残存状態が良好でない。現存全長0.73m、幅不明、焚口

幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に0.64m張り出し
ている。燃焼部は、住居内から住居外にかけて確認され
た。火床上の埋没土は、灰を多く含む灰黄褐色土である。
煙道の埋没土は、焼土粒、灰を含む灰黄褐色土である。
袖は確認できなかった。カマド構築の状況は明らかにで
きなかった。重複遺構：167・174・175・177号住居及
び89・90号土坑に後出している。遺物：土師器(杯2
点)、土製品(土鍾1点) 住居全体から散在するように
遺物が出土した。そのうち土器2点、土製品1点を図示
した。杯(2)、土鍾(3)は床直上からの出土であり、本
住居に伴うものと考えられる。杯(1)は床から0.07m程
浮いた位置から出土している。周囲の土器から本住居に
伴うものであると考えるのが自然である。円礫の出土が
見られた。図示した以外に、土師器(杯類64片、甕類87片)
が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複間
係から、6世紀後半であると考えられる。埋没土内の遺物は
床直上出土遺物と時期差の少ないものである。



166号住居 A-A'・B-B'

1 灰黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。

166号住居カマド C-C'・D-D'

1 灰黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。

2 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。

第705図 1区8面 166号住居、出土遺物

167号住居(第706～708図 PL.148・228)

1区中央部の住居群内にある。南辺は調査区域外にあるため、全容が明らかでない。

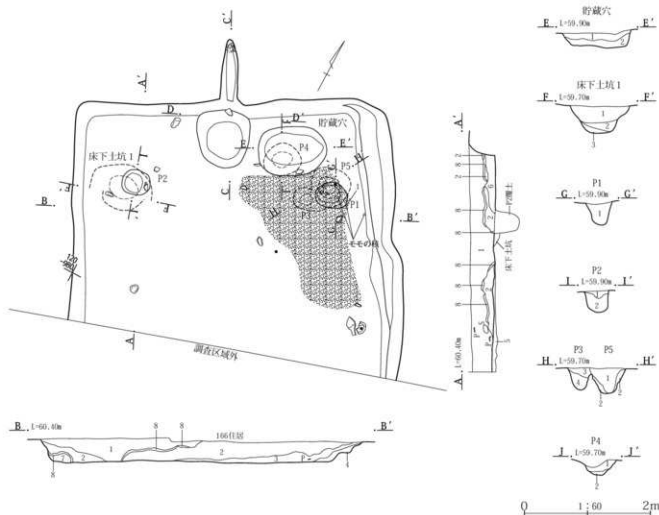
位置：119～124・-974～-981にある。

規模形状：北壁、西壁は直線的である。東壁はやや丸みを帯びる。全体としては方形を呈していると推察される。主軸長5.03m、幅(4.40)mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色土で埋没している。浅黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物、灰が含まれる。酸化鉄凝集層が観察できる。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.37mである。方位：N-22°-W 面積：(16.60)m² 床面：傾斜はほとんどない。緩やかな起伏はあるが、およそ平

坦である。東辺の壁は立ち上がりか緩やかで段がついており、外側の面が0.15m程高い。大きく壁が崩れた可能性がある。北東部に広範囲にわたり灰の分布を認める。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は複数認められた。北西部に床下土坑が認められた。P2と重複している。埋没土は、浅黄褐色ブロック、炭化物を含む灰黄褐色土である。本住居の関連施設であるか明瞭でない。長径0.96m、短径0.74m、深さ0.44mである。掘り方：中央部から南部にかけて確認できた。埋め土は、炭化物を含むにぶい黄褐色シルト質土である。締まりが強い。深さ0.04～0.08m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：P1・P5・P3は重複している。P1は、P5・

P 3を崩り直して柱を建て替えたものである。P 2は、床下土坑と重複している。P 4は、貯蔵穴と重複している。P 2は、床下土坑より新しい。P 4は貯蔵穴より古い。P

1とP 2が位置と埋没土より、規則的な主柱穴配置の柱穴であると思われる。P 4については、本住居の関連施設であるか明瞭でない。



167号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。
 - 2 にぶい黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。
 - 3 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰を中量、炭化物を少量含む。
 - 4 にぶい黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。
 - 5 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。しまりやや固い。床層。
 - 6 にぶい黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロックを中量、炭化物、焼土粒を少量含む。
 - 7 にぶい黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
 - 8 黄褐色土 酸化鉄凝集層。
- 167号住居貯蔵穴 E-E'
- 1 灰黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。
 - 2 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロックを中量、炭化物を少量含む。

167号住居床下土坑 F-F'

- 1 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロック、炭化物を少量含む。
 - 2 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。
 - 3 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロックを多量含む。
- 167号住居内ピット G-G'
- 1 灰黄褐色土 シルト質上。灰を中量含む。
- H-H'
- 1 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロック、炭化物、焼土粒を少量含む。
 - 2 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロックを多量含む。
 - 3 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロック、炭化物を少量含む。
 - 4 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。
- I-I'
- 1 灰黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。
 - 2 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- J-J'
- 1 灰黄褐色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。
 - 2 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質上ブロックを中量含む。

第706図 1区8面 167号住居

各柱穴の規模及び埋没土は次の通りである。

(長径×短径×深さm)

P 1 0.51×0.41×0.36

灰黄褐色土、シルト質土、灰を含む。

P 2 0.46×0.39×0.34 灰黄褐色土、シルト質土

浅黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を含む。

P 3 0.36×0.36×0.35 灰黄褐色土、シルト質土

浅黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を含む。

P 4 0.60×0.51×0.24 灰黄褐色土、シルト質土

浅黄褐色シルト質土ブロック、炭化物、焼土を含む。

P 5 0.63×0.62×0.39 灰黄褐色土、シルト質土

浅黄褐色シルト質土ブロック、炭化物・焼土を含む。

貯蔵穴：北東隅に窪みを認める。位置と規模より貯蔵穴

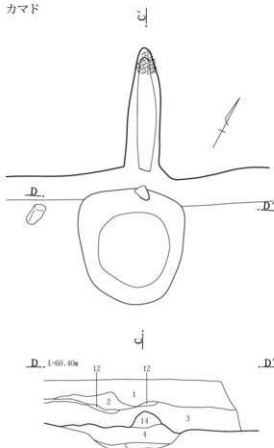
と思われる。P 4と重複している。埋没土は、浅黄色シルト質土ブロック、炭化物を含む灰黄褐色土である。長

径1.09m、短径0.78m、深さ0.52mである。カマド：

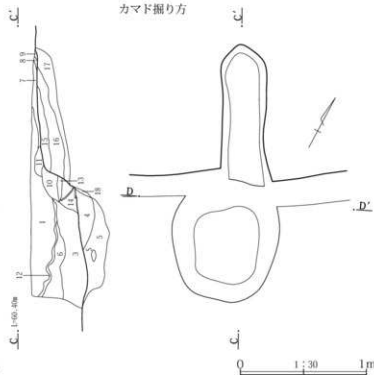
北壁中央部に位置する。全長不明、幅不明、焚口幅不明、

燃焼部幅不明、煙道は壁外側に0.98m突出している。煙

カマド



カマド掘り方



167号住居カマド C-C'・D-D'

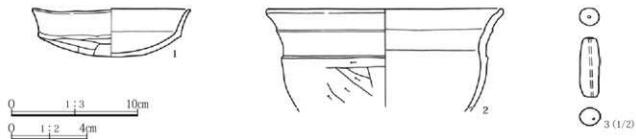
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物を中量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物、灰を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを少量含む。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。

- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを多量含む。
- 12 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集層。
- 13 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、灰を中量含む。
- 14 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 15 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量、灰白色シルト質土ブロックを少量含む。
- 16 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 17 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、灰を中量含む。
- 18 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。

第707図 1区8面 167号住居カマド

道先端には灰が見られた。煙道の掘り方の埋め土は、灰白・浅黄橙色ブロック、焼土粒、灰を含むにぶい黄橙色土である。燃焼部は、住居内に確認された。火床はレンズ状に凹んでいた。袖は、確認できなかった。掘り方は、火床下に0.2m前後の窪みが認められた。埋め土は、焼土、炭化物、浅黄橙色シルト質土ブロックを含むにぶい黄橙色土である。火床奥正面には、灰白色シルト質土ブロック、焼土、炭化物を含むにぶい黄橙色土の断面を観察するが、袖材と同じ土であると思われる。重複遺構：162・163・170・172・174・175・176・177・178号住居、及び89・90号土坑に後出しており、166号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点)、土製品(垂

飾品1点) カマド及び住居東部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器2点、土製品1点図示した。杯(1)は床上0.07mと若干浮いた位置からの出土であるが、本住居に伴うものと考えるのが自然である。垂飾品(3)、鉢(2)は埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。モモの核が東壁際床上0.07m、0.27mの位置から1点ずつ、P1から1点出土した。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類279片、甕類741片)が出土している。所見(帰属時期)：杯類、甕類を主体とした6世紀後半の住居である。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が少ない。



第708図 1区8面 167号住居出土遺物

168号住居(第709～711図 PL.148・228・229)

1区中央部の住居群内にある。159号住居により南壁が壊されているが、床面は影響を受けていない。残存状態は良好でない。

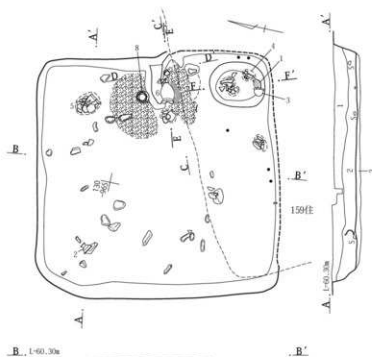
位置：127～131・-962～-966にある。

規模形状：各辺直線的である。北西隅が丸みを帯びている。各辺が直交しており、長さもほぼ等しいことから、整った正方形を呈している。主軸長(3.84)m、幅(3.90)mである。埋没土・壁：にぶい黄橙色土で埋没している。炭化物、焼土、灰、浅黄橙色シルト質土ブロックを含んでいる。人為的な埋戻しであったと思われる。壁高は0.29mである。方位：N-72°-E 面積：(12.44)㎡ 床面：傾斜はほとんどなく、平坦である。カマド内部から前部にかけて及び左袖壁側に灰の分布を認める。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は認められなかった。住居北東部及び南西部に細長い自然石が数点出土している。磨石の可能性はある。掘り方：ほぼ全面に確認できた。埋め土は、浅黄橙色シルト質土ブロックを含む

にぶい黄橙色土であり固く締まった床層である。深さ0.1m前後である。壁溝：認められない。ビット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東隅に窪みを認める。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、灰、焼土、炭化物を含む浅黄橙色シルト質土ブロックの混入したにぶい黄橙色土である。長径0.96m、短径0.71m、深さ0.73mである。カマド：東壁の中央部やや南寄りに位置する。現存全長1.22m、幅0.94m、焚口幅0.49m、燃焼部幅0.47m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。掘り方に、支脚の礫が据えられており、その上に、倒れた土師器甕が出土した。周囲に灰及び焼土が観察された。支脚は、長さ0.18m、幅0.12m、厚さ0.07mである。左袖先端部分には、土師器片が認められ袖の構築材であったと思われる。袖材は、にぶい黄橙色シルト質土である。右袖は、削平が進んでいて確認できなかった。掘り方は、火床下に0.18m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒、灰白色粘質土・浅黄橙色シルト質土ブロックを含むにぶい黄

色シルト質土である。重複遺構：141・159・160号住居に前出しており、171号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、高杯1点、鉢2点、甗1点、甕3点)住居全体から散在するように遺物が出土した。そのうち土器8点を図示した。高杯(2)、甗(5)、甕(8)は床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。杯(1)、鉢(3・4)は貯蔵穴から、甕(6)はカ

マド使用面直上からの出土であった。甕(7)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うか明瞭でない。円礫の出土が見られ、蒭籠石と思われる礫が観察された。図示した以外に、土師器(杯類38片、甕類204片)、須恵器(甕類1片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考える。

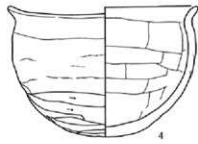
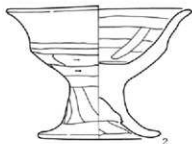
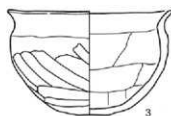
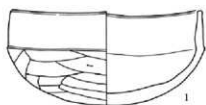


168号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土、浅黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土、焼土粒、炭化物、灰を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土、浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。しまりやや強い。床層。

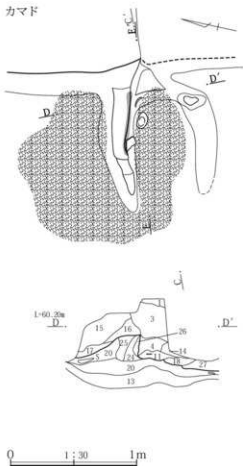
168号住居貯蔵穴 F-F'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土、焼土粒、炭化物、灰を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土、浅黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。

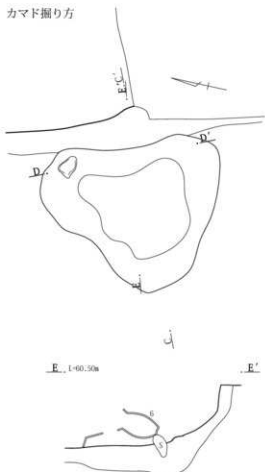


第709図 1区8面 168号住居、出土遺物(1)

カマド



カマド掘り方

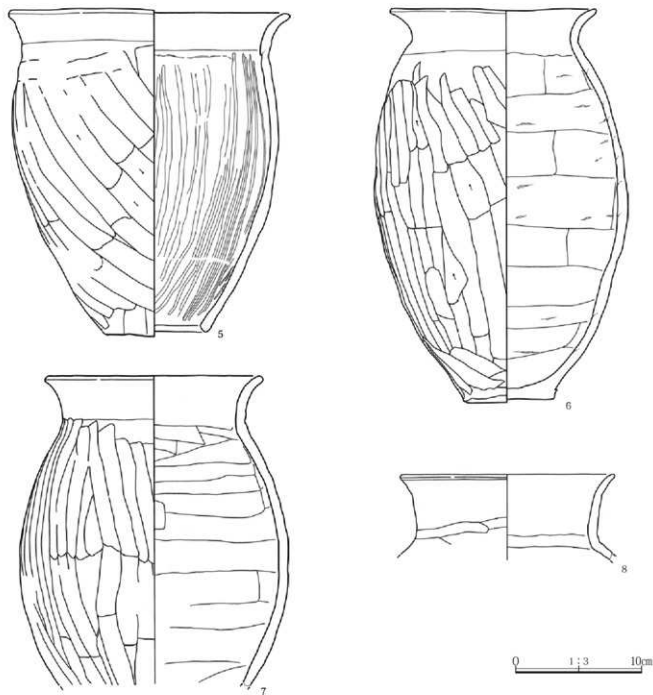


168号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰白色粘質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土ブロックを中量、炭化物、灰を少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土塊を多量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土ブロックを中量含む。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土化している。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 12 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。
- 13 にぶい黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 14 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。
- 15 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰白色粘質土粒を少量含む。

- 16 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰を少量含む。
- 17 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰を多量含む。
- 18 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土ブロック、灰を中量含む。
- 19 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を中量含む。
- 20 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰白色粘質土ブロック、焼土粒、灰を少量含む。
- 21 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を中量含む。
- 22 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を中量含む。
- 23 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰白色粘質土ブロック、焼土ブロックを中量含む。
- 24 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰白色粘質土粒を多量含む。
- 25 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰白色粘質土粒、焼土粒、灰を少量含む。
- 26 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土ブロックを多量、炭化物、灰を少量含む。
- 27 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰白色粘質土ブロック。炭化物を少量含む。

第710図 1区8面 168号住居カマド



第711図 1区8面 168号住居出土遺物(2)

169号住居(第712図 PL.148)

1区中央部の住居群内にある。161・165号住居により床面が大きく壊されているため残存状態が良好でない。本体が調査区域外にあり全容が明らかでない。

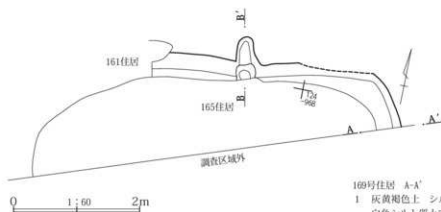
位置：123～124・-966～-970にある。

規模形状：北壁、東壁共に丸みを帯びている。全体は、明瞭でない。主軸長(1.09)m、幅(3.73)mである。埋没土・壁：浅黄褐色・灰白色土シルト質土ブロック、炭

化物を含む灰褐色土で埋没している。自然堆積か人為的な埋戻しであるかは明瞭でない。壁高は0.45mである。方位：N-16°-W 面積：(0.68)㎡ 床面：161・165号住居と重複し、調査区域外の境界線で切られているため、全容が明らかでない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 カマド：北壁の中央付近に位置すると推察される。現存全長0.64m、幅0.45m、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に0.41m突出

している。燃焼部は、住居内から住居外にかけてであると思われる。袖は確認できなかった。火床下には、窪みが確認できた。カマドの埋没土は、灰白色シルト質土ブロック、焼土粒を含むにぶい黄褐色土である。 **重複遺**

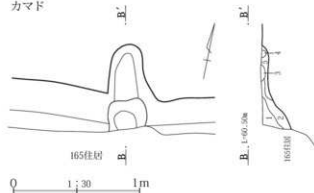
構: 160・161・165号住居に前出しており、173号住居に後出している。 **遺物**: なし **所見(帰属時期)**: 遺物は確認できなかった。重複関係より6世紀後半であると考えるが、時期決定の資料に欠けている。



169号住居 A-A'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰白色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを多量、炭化物を少量含む。

カマド



169号住居カマド B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量、灰白色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを中量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。

第712図 1区8面 169号住居

170号住居(第713図 PL.149)

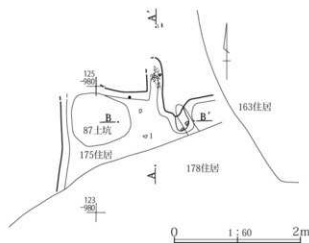
1区中央部の住居群内にある。163・175・178号住居に床面を大きく壊されており住居北西部とカマド付近のみの確認となった。残存状態が良好でなく、全容が明らかでない。

位置: 123～125・-977～-980にある。

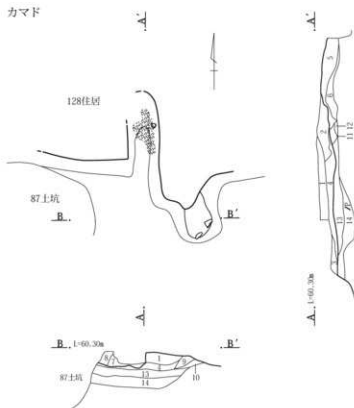
規模形状: 西壁、北壁は直線的であるが、やや内に凹んでいる。全体は明らかでない。主軸長(1.19)m、幅(2.65)mである。 **埋没土**・壁: 埋没土が残存していないため、確認できなかった。壁高は0.15mである。 **方位**: N-4°-W **面積**: (2.50)m² **床面**: 87号土坑、128・163・167・178号住居と重複しているため、全容が明らかでない。 **壁溝**: 不明 **ピット(柱穴)**: 不明 **貯蔵穴**: 不明

カマド: 北壁の中央付近に位置すると推察される。現存全長1.64m、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に1.02m突出している。煙道途中に灰の分布をみる。燃焼部は、住居内から壁際にかけてであると思われる。火床はレンズ状に凹んでいる。右袖は確認された。袖材は、焼土、灰を含む灰黄褐色シルト質土である。掘り方は、火床下に0.14m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰、焼土粒、灰白色シルト質土ブロックを含む灰黄褐色土である。 **重複遺構**: 87号土坑、162・163・167・172・175・177・178号住居に前出している。 **遺物**: 土師器(杯2点) カマド周辺から散在するように遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。

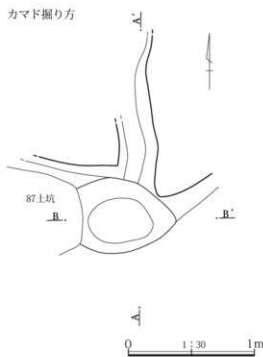
杯(2)は埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。図示した以外に、土師器(杯類17片、甕類48片)が出土している。所見(帰属時期):出土遺物から、6世紀前半の住居であると考える。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が少ない。



カマド

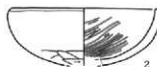
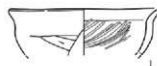


カマド掘り方



170号住居カマド A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。灰を中量、炭化物を少量含む。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 7 シルト質土。灰を中量含む。
- 8 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 9 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 10 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを多く含む。
- 11 灰黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土ブロックを少量含む。
- 12 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、灰を少量含む。
- 13 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 14 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを中量含む。



0 1:3 10cm

第713図 1区8面 170号住居、出土遺物

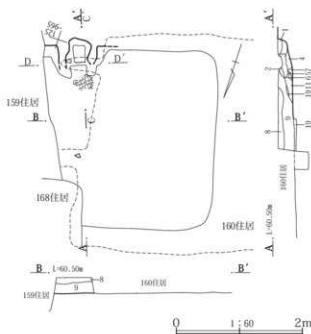
171号住居(第714・715図 PL.149)

1区中央部の住居群にある。160号住居により南壁、西壁、北壁が壊されているが床面は残存した。159・168号住居により東壁付近の床面が壊されている。残存状態が良好でなく全容が明らかでない。

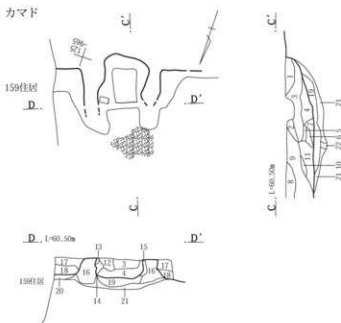
位置：124～127・-964～-968にある。

規模形状：北壁、西壁、南壁共に直線的である。北西隅南西隅はやや丸みを帯びている。整った方形を呈していると推察される。主軸長(2.70)m、幅2.83mである。

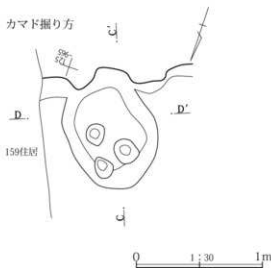
埋没土・壁：にぶい黄褐色シルト質土で埋没している。焼土粒、炭化物を含む。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.16mである。方位：N-32°-W 面積：(6.69)m² 床面：傾斜はほとんどない。緩やかな起伏があるがおおよそ平坦である。カマド前部に灰の分布を認める。貯蔵穴、柱穴等の窠みは認められなかった。掘り方：中央部分に確認できた。埋め土は、浅黄褐色土ブロック



カマド



カマド掘り方



171号住居 A-A'・B-B'・C-C'・D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、焼土ブロック、炭化物、灰を少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、浅黄褐色粒を少量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を多量、炭化物を少量含む。

- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、炭化物を少量含む。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 12 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。
- 13 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。
- 14 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 15 灰黄褐色土 粘質土。焼土ブロックを中量含む。袖。
- 16 灰黄褐色土 粘質土。袖。
- 17 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色粘質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 18 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 19 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。
- 20 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色粘質土ブロックを少量含む。
- 21 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 22 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。

第714図 1区8面 171号住居

クを含むにぶい黄橙色土であり、固く締まっている。深さ0.05m前後である。罅溝：認められない。ピット（柱穴）：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：南壁中央付近に位置していると思われる。全長0.64m、幅0.84m、焚口幅0.24m、燃燒部幅0.27m、煙道は確認できなかった。燃燒部は、住居内から住居外にかけて確認された。火床上には、土師器片が確認された。袖材は、粘性のある灰黄褐色土で作っている。掘り方は、火床下に0.09m前後の窪みが認められた。複数の小さなピット状の窪みも見られた。両袖の先端部分に相当する



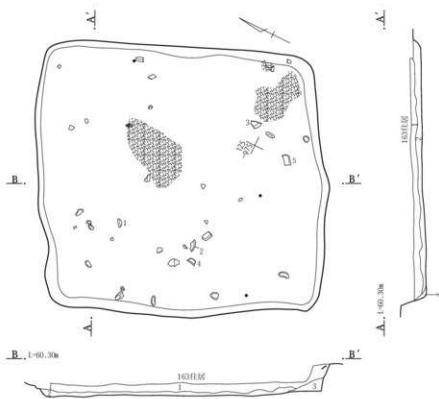
第715図 1区8面 171号住居出土遺物

172号住居(第716・717図 PL.149)

1区中央部の住居群内にある。複数の住居と重複している。163号住居により埋没土が影響を受けているが、床面は壊されていない。残存状態は良好でない。

位置：123～128・-973～-978にある。

規模形状：各辺直線的だが、若干歪んでいる。北西隅と南東隅が鈍角で交わり、北西、南東方向に潰れてひし形を呈している。長軸長4.61m、短軸長4.23mである。



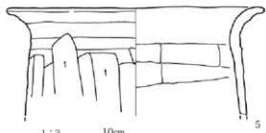
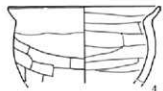
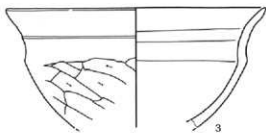
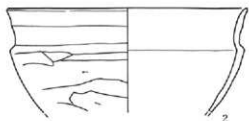
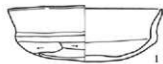
第716図 1区8面 172号住居

172号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄橙色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、炭化物、灰を少量含む。
- 2 にぶい黄橙色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 3 にぶい黄橙色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを多量含む。

埋没土・壁: にぶい黄褐色土で埋没している。浅黄橙色・灰白色シルト質土ブロック、炭化物、灰を含んでいる。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.41mである。 **方位:** N-26°-W **面積:** 16.54㎡ **床面:** 西に傾斜している。緩やかに起伏しているが、平坦である。南壁際がやや高く傾斜している。断面から、163号住居は上位に位置し、本住居より新しいと考える。中央部及び南東隅に灰を認める。貯蔵穴、柱穴等の窺みは認められなかった。 **掘り方:** 確認できなかった。 **壁溝:** 認められない。 **ピット(柱穴):** 認められない。 **貯蔵穴:** 認められない。 **カマド:** 認められない。 **重複遺構:** 162・170・175・178号住居に後

出しており、97・163・164号住居に前出している。 **遺物:** 土師器(杯1点、鉢3点、甕1点) 住居全体から散在するように遺物が出土した。そのうち土器5点を図示した。鉢(2・3・4)、甕(5)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1)は床から0.13m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類35片、甕類168片)、須恵器(甕類2片)が出土している。 **所見(帰属時期):** 出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が少ない。



0 1:3 10cm

第717図 1区8面 172号住居出土遺物

173号住居(第718図 PL.149)

1区中央部の住居群内にある。164号住居により北西隅の床面が、165号住居により南東部の床面が壊されている。南壁付近は調査区域外になっており全容が明らかでない。

位置: 121～125・970～974にある。

規模形状: 北壁、東壁は直線的である。西壁は丸みを帯びている。全体としては方形を呈していると推察される。長軸長4.00m、短軸長(2.95)mである。 **埋没土・壁:** 壁際に、褐灰色シルト質土ブロック、炭化物を含む灰黄褐色土が流れ込んだ後、炭化物を含む灰黄褐色土で埋没している。自然堆積であると推察される。壁高は0.19mである。 **方位:** N-24°-W **面積:** (7.10)㎡ **床面:** 傾斜はほとんどない。若干起伏があるが平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窺みは認められなかった。 **掘り方:** 確認できなかった。 **壁溝:** 認められない。 **ピット(柱穴):** 認められない。 **貯蔵穴:** 認められない。 **カマド:** 認められない。 **重複遺構:** 161・164・165・169号住居に前出している。

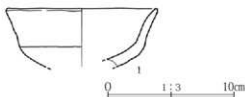
遺物: 土師器(杯1点) 住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類2片、甕類22片)が出土している。

所見(帰属時期): 出土遺物から、6世紀後半であると考えられる。



173号住居 A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
2 灰黄褐色土 シルト質土。潮灰色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。



第718図 1区8面 173号住居、出土遺物

174号住居(第719・720図 PL.149)

1区中央部の住居群内にある。172号住居により北壁が、89・90号土坑により住居中央の床面が壊されている。住居南部が調査区域外にあり全容が明らかでない。

位置：120～123・-973～-977にある。

規模形状：東壁はやや丸みを帯びている。全容は明らかでない。主軸長(2.15)m、幅(2.66)mである。埋没土・壁：灰黄褐色土で埋没している。自然堆積か人為的な埋戻しかは明らかでない。壁高は0.2mである。方位：N-71°-E 面積：(4.00)㎡ 床面：傾斜や起伏の有無については不明である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。掘り方：カマド断面でわずかに確認できた。埋め土は、浅黄褐色土ブロック、灰を含む灰黄

褐色シルト質土である。深さ0.07m前後である。壁溝：不明 ビット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：2号カマドは東壁中央部付近に位置すると思われる。1号カマドは、2号カマドの0.44m程北に位置する。2号カマドは、南半分が調査区域外にあり、1号カマドは煙道のみ確認となった。2号カマドは、全長1.35m、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に0.98m突出している。煙道全体で焼土の分布がみられた。先端部分には、灰も確認された。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、支脚の礫が倒れた状態で出土しており、周囲に土器片が確認された。支脚は、長さ0.15m、幅不明、厚さ0.07mである。袖は左袖のみの確認で、崩れたものが残存している。掘り方は、火床下に0.1m前後の窪みが認められた。埋め土は、焼土粒を含む灰黄褐色シルト質土である。1号カマドは、全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に0.53m突出している。先端部分には、焼土が確認された。煙道の掘り方の埋め土は、浅黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒、灰を含むにぶい黄褐色土である。燃焼部の位置については不明である。袖も確認できなかった。掘り方は、確認できなかった。カマドの残存状態、焼土などの使用痕及びカマド出土の遺物の様相より、1号カマドより2号カマドが新しいと思われる。同時に使用されたものではなく、1号カマドを造り直して2号カマドを設置したと思われる。重複遺構：176号住居に後出しており、89・90号土坑、166・167・172・175・177・178号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点)、須恵器(甕1点) 住居全体から散在するように遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(2)(須恵器)は床から0.06～0.09m程浮いた位置、及び167・175・177号住居からも破片が出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類18片、甕類79片)、須恵器(甕類2片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀前半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が少ない。



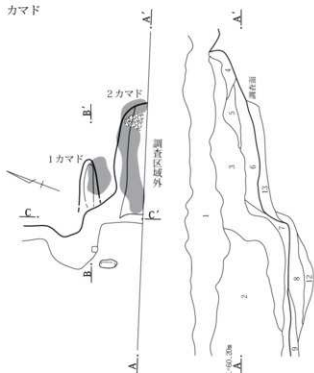
174号住居カマド A-A' C-C'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。
- 2 167号住居埋設上。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを少量含む。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 7 灰黄褐色土 シルト質土。灰を中量、浅黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 8 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 9 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 10 灰黄褐色土 シルト質土。焼土塊を多量含む。
- 11 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 12 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを多量、炭化物を少量含む。
- 13 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量、浅黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

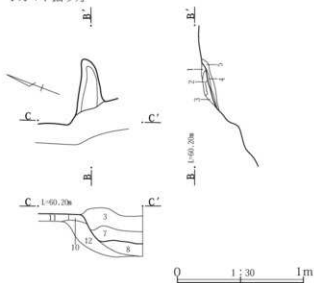
B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量、灰を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、灰を中量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。

カマド

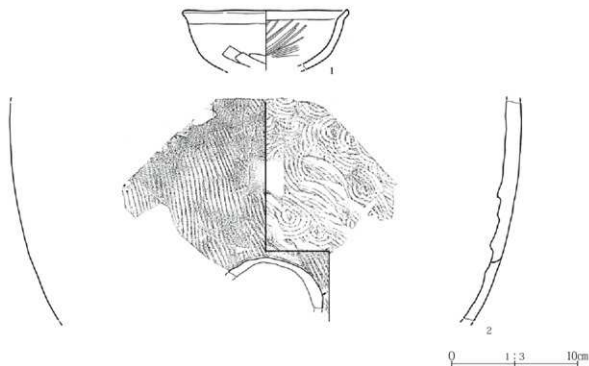


1カマド掘り方



0 1:30 1m

第719図 1区8面 174号住居



第720図 1区8面 174号住居出土遺物

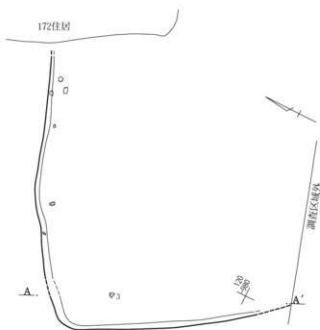
175号住居(第721・722図 PL.150)

1区中央部の住居群内にある。南辺が調査区域外にあるため、全容が明らかでない。177号住居に床面を大きく壊されている。

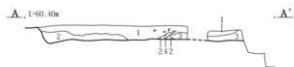
位置：119～124・-977～-981にある。

規模形状：北壁、西壁共に丸みを帯びている。全体とし

ては方形を呈していると推察される。長軸長(4.34)m、短軸長(4.06)mである。埋没土・壁：にぶい黄橙色土で埋没している。浅黄橙色シルト質土ブロックを含んだ層が流れ込んだ後、炭化物、焼土を含んだ層が一気に埋没している。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.07mである。方位：N-61°-E 面積：(3.34)㎡



第721図 1区8面 175号住居



175号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄橙色土 シルト質土、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄橙色土 シルト質土、浅黄橙色シルト質土ブロックを中量含む。
- 3 にぶい黄橙色土 シルト質土、浅黄橙色シルト質土ブロックを少量含む。
- 4 にぶい黄橙色土 シルト質土、酸化鉄凝集層。

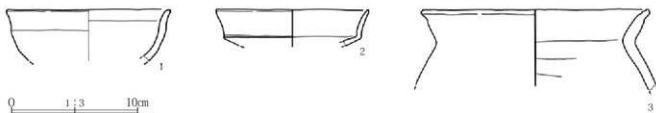
床面：調査した範囲では、傾斜はほとんどない。若干起伏がある。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。

掘り方：確認できなかった。 壁溝：認められない。

ピット(柱穴)：認められない。 貯蔵穴：認められない。

カマド：認められない。 重複遺構：89・90号土坑、163・166・167・172号住居に前出しており、162・170・177・178号住居に後出している。 遺物：土師器(杯2点、甕1点) 住居北部から点在するように遺物が出土した。

そのうち土器3点を図示した。杯(1・2)は埋没土から、甕(3)は床から0.12m程浮いた位置から出土しており、いずれも本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類48片、甕類140片)が出土している。 所見(編属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考え。埋没土内の遺物は時期差が少ない。



第722図 1区8面 175号住居出土遺物

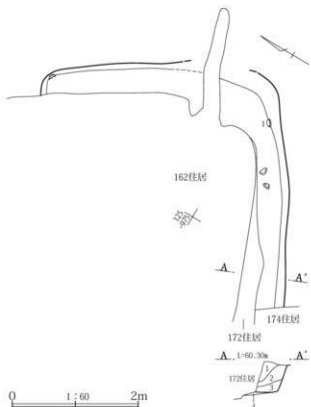
176号住居(第723・724図 PL.150・229)

1区中央部の住居群内にある。162号住居に床面を大きく壊されており、全容が明らかでない。

位置：123～128・-972～-975にある。

規模形状：東壁、南壁共に若干丸みを帯びている。全体としては方形を呈していると思われる。長軸長(3.83)m、短軸長3.75mである。 埋没土・壁：浅黄橙色土ブロック、焼土粒を含む灰黄褐色シルト質土で埋没している。自然堆積であるか人為的な埋戻しであるかは明瞭でない。壁高は0.17mである。 方位：N-58°-E 面積：(2.98)m² 床面：傾斜や起伏については不明である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。 掘り方：一部確認できた。埋め土は、浅黄橙色土ブロックを含む灰黄褐色シルト質土であり、固く締まっている。深さ0.05m程であると思われる。 壁溝：認められない。 ピット(柱穴)：認められない。 貯蔵穴：認められない。 カマド：認められない。 重複遺構：162・174号住居に前出しており、97・146・161・163・164・172号住居と重複している。

遺物：土師器(杯1点、甕1点) 住居北東部及び南東部から僅かに遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(2)は埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円



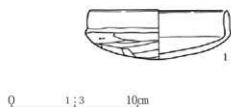
176号住居 本A'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、焼土粒を少量含む。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。しまりやや強い。床層。

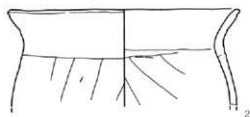
第723図 1区8面 176号住居

礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類8片、甕類13片)が出土している。所見(帰属時期):出土遺物は6世紀後半の特徴を有しているが、重複関係か

ら174号住居より古く6世紀前半であると判断する。遺物は混入と考える。



第724図 1区8面 176号住居出土遺物



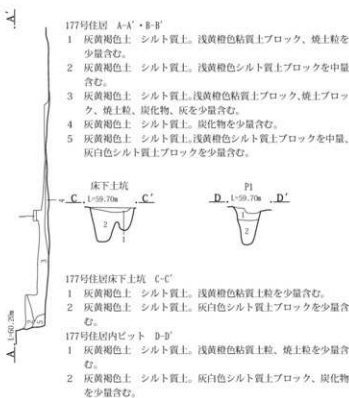
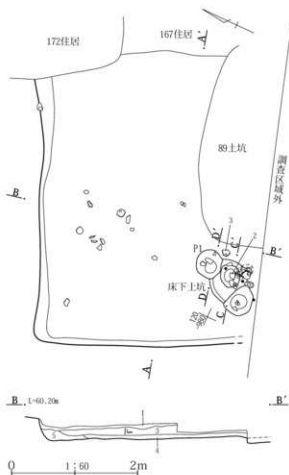
177号住居(第725・726図 PL.150)

1区中央部の住居群内にある。167・172号住居より東壁が、89号土坑に南東部が壊されている。南壁が調査区域外にあり全容が明らかでない。

位置:119~124・976~981にある。

規模形状:北壁は歪んでおり、西壁はやや丸みを帯びている。全体としては、方形を呈していると推察される。

長軸長(4.67)m、短軸長(3.66)mである。埋没土・壁:灰黄褐色シルト質土で埋没している。浅黄褐色・灰白色シルト質土ブロックを含む層が流れ込んだ後、黄褐色粘質土ブロック、焼土粒、炭化物、灰を含む層で一気に埋没している。不自然な堆積が観察され人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.34mである。方位:N-65°-E 面積:(12.23)㎡ 床面:北に若干傾斜し

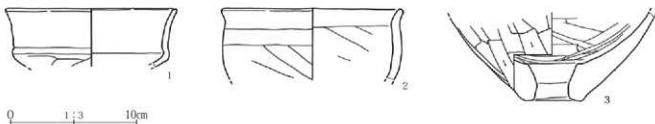


第725図 1区8面 177号住居

ている。僅かに起伏があるが平坦である。貯蔵穴の窪みは確認できなかったが、柱穴及び床下土坑は認められた。

掘り方：確認できなかった。床下土坑はピットのピークが2つある。埋め土は、灰白色シルト質土ブロックを含む灰黄褐色シルト質土の上に、浅黄橙色粘質土、焼土を含む灰黄褐色シルト質土層が観察できる。長径0.92m、短径0.62m、深さは第1ピークが0.54m、第2ピークが0.36mである。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：P1は位置より、規則的な主柱穴配置の柱穴の1つであると思われる。埋め土は、灰黄褐色土である。灰白色シルト質土ブロック、炭化物を含む層の上に、浅黄橙色粘質土、焼土を含む層が観察できる。床下土坑の埋め土に類似している。長径0.46m、短径0.39m、深さ0.59mである。床下土坑より新しい。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：認められない。**重複遺構**：89・90号土坑、

172・175号住居に前出しており、174・176・178号住居に後出している。162・163・166・167号住居と重複している。**遺物**：土師器(杯1点、鉢1点、甕1点) 剥片石器(加工痕跡ある剥片痕1点) 床下土坑及び住居中央から北西部にかけて散在するように遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1)は埋没土から、鉢(2)、甕(3)は床下土坑付近から出土しているものの、0.18～0.55m程浮いた位置から出土しており、いずれも本住居に伴うものであるか明瞭でない。剥片石器が出土しているが混入であると考えられる。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類27片、甕類119片)、須恵器(甕類1片)が出土している。**所見(帰属時期)**：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。埋没土内の遺物は時期差が少ない。



第726図 1区8面 177号住居出土遺物

178号住居(第727図 PL.150)

1区中央部の住居群内にある。177号住居に大きく壊されておりカマド及び北辺付近のみの確認となったため、全容が明らかでない。

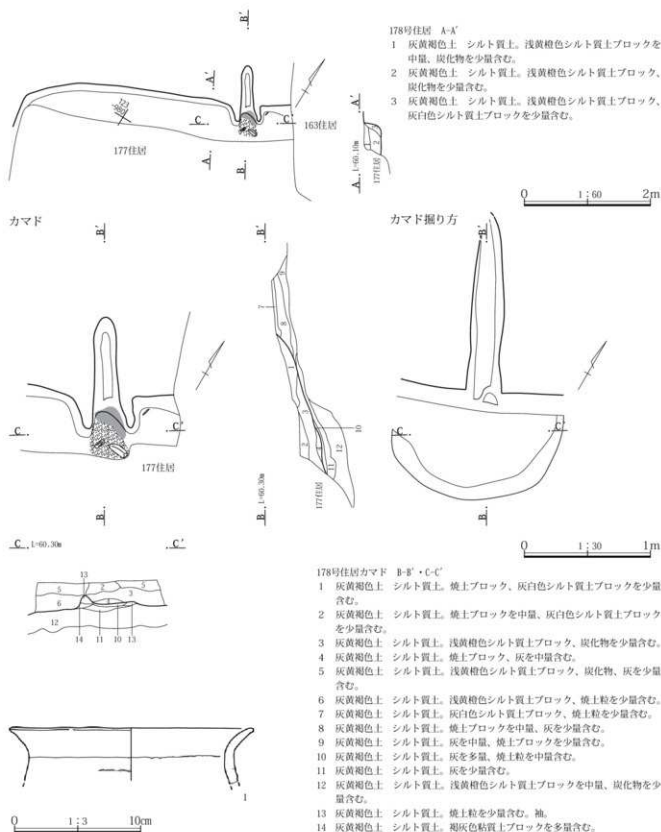
位置：122～124-977～981にある。

規模形状：北壁は丸みを帯びている。全体としては、方形を呈していると思われる。主軸長(0.56)m、幅(4.23)mである。**埋没土・壁**：灰黄褐色シルト質土で埋没している。灰白色・浅黄橙色土ブロックを含む層が流れ込んだ後、炭化物を含む層で埋没している。壁側から埋もれている状況があり、自然堆積と推察される。壁高は0.2mである。**方位**：N-32°-W **面積**：(1.60)㎡ **床面**：調査した範囲では傾斜はない。**貯蔵穴**、柱穴等の窪みは認められなかった。**掘り方**：確認できなかった。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：北壁の中央部付近に

位置していると思われる。全長0.97m、幅0.55m、焚口幅0.32m、燃焼部幅0.28m、煙道は壁外側に0.62m突出している。燃焼部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、支脚と思われる礫が倒れており、周囲に灰、焼土が確認された。支脚は、長さ0.17m、幅0.08m、厚さ不明である。袖材は、焼土を含む灰黄褐色シルト質土である。掘り方の窪みから類推して、袖は、より長かったと思われる。掘り方は、火床下に0.2m前後の窪みが認められた。埋め土は、灰黄褐色シルト質土で埋没している。浅黄橙色土ブロック、炭化物、灰、焼土粒を含んでいる。**重複遺構**：162・163・167・172・175・177号住居に前出している。174号住居に後出している。**遺物**：土師器(甕1点) カマド周辺中心に遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。甕(1)はカマド床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。川原石状の礫の出土は見られなかった。図示した以外に、

土師器(甕類21片)が出土している。所見(編属時期):
出土遺物、重複関係から、6世紀後半であるとする。

埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が少ない。



第727図 1区8面 178号住居、出土遺物

(2) 竪穴状遺構

平面形が方形で、大型の掘り込みを持つ遺構のうち、床面の硬化がなくカマド等の施設が見られないものを竪穴状遺構として調査した。

1号竪穴状遺構(第728図 PL.150)

位置: 123～128・-984～-988 **規模形状:** 各辺はやや曲線を描き、角の丸みが大い隅丸長方形を呈している。長軸長3.76m、短軸長2.74mである。 **埋没土・壁:** 褐灰色シルト質土で埋没している。レンズ状堆積が見られることから、自然堆積と推察される。北辺中央付近にはビット状の堆積が確認できることから、重複する別遺構が存在した可能性がある。北半では灰や炭化物の混入が多くみられる。壁高は0.05～0.2mである。 **長軸方位:** N-37°-W **床面:** ほぼ平坦である。北半を中心に、床面には灰や炭化物の分布が見られる。北角と南辺南寄りの一部で掘り方が認められるが、窪みは0.02～0.04m程度とわずかである。 **施設:** 確認できない。 **重複遺構:** 57・76・77住居に後出する。 **遺物:** 土師器(杯1点、甕1点)の他、土師器(杯類35片、甕類63片)が出土した。杯(1)と甕(2)は床直上からの出土であり、本遺構に伴うものと考えられる。 **所見:** 本遺構の時期は、出土遺物から7世紀後半に位置付けられる。

3号竪穴状遺構(第728図 PL.150)

位置: 141～146・-936～-941 **規模形状:** 各辺は直線的である。西辺に対して東辺がやや長い、正方形に近い隅丸長方形を呈している。長軸長3.47m、短軸長3.22mである。 **埋没土・壁:** 褐灰色シルト質土で埋没している。混入物のない洪水起源と考えられる砂土を含む埋没土であることから、自然堆積と推察される。壁高は0.09～0.22mである。 **長軸方位:** N-68°-E **床面:** ほぼ平坦である。掘り方は認められなかった。 **施設:** 確認できない。 **重複遺構:** 132号住居、5号竪穴状遺構に後出する。 **遺物:** 土師器(杯1点)の他、土師器(杯類15片、甕類27片)、須恵器(甕類2片)が出土した。杯(3)は床面より0.07m程度浮いた位置からの出土であり、本遺構に伴うかは明瞭ではない。 **所見:** 本遺構の時期は、出土遺物が6世紀後半に位置付けられることから、それに近いものと考えられる。

4号竪穴状遺構(第729図 PL.150・150・151・229)

位置: 156～159・-938～-943 **規模形状:** 各辺はやや曲線を描いている。東辺・西辺は南方にいくほど開いているため、南辺が長い台形状を呈している。長軸長3.44m、短軸長2.7mである。 **埋没土・壁:** 褐灰色砂～砂質土で埋没している。Hr-PPを含み、壁側から埋もれている状況が見られ、自然堆積と推察される。壁高は0.24～0.41mである。 **長軸方位:** N-87°-E **床面:** ほぼ平坦であるが、中央がやや窪む。中央東寄りには灰層が床面に分布する。土師器などの遺物が多いほか、角閃石安山岩を含む多数の円礫が遺構内に分布している。掘り方は認められなかった。 **施設:** 確認できない。 **遺物:** 土師器(杯1点、高杯1点、甕2点)の他、土師器(杯類4片、甕類26片)が出土した。杯(1)、高杯(2)、甕(3・4)はいずれも床直上からの出土であり、本遺構に伴うものと考えられる。 **所見:** 出土遺物から、6世紀後半に位置付けられる。

5号竪穴状遺構(第730図 PL.151・229)

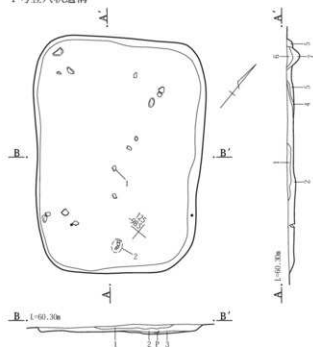
位置: 143～147・-937～-942 **規模形状:** 北辺は重複により不明であるが、他は直線的である。隅丸方形を呈していると考えられる。長軸長3.1m、短軸長2.1mである。 **埋没土・壁:** 暗褐色砂質土で埋没している。壁側から埋もれている状況が見られ、自然堆積と推察される。壁高は0.06～0.2mである。 **長軸方位:** N-68°-E **床面:** ほぼ平坦である。北側には土師器などの遺物が多い。掘り方は認められなかった。 **施設:** 確認できない。 **重複遺構:** 108号住居・3号竪穴状遺構に前出する。

遺物: 土師器(杯4点、鉢1点)の他、土師器(杯類14片、甕類35片)が出土した。杯(1～4)、鉢(5)は床直上からの出土であり、本遺構に伴うものと考えられる。 **所見:** 本遺構の時期は、出土遺物から6世紀後半に位置付けられる。

6号竪穴状遺構(第731図 PL.151)

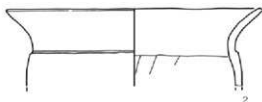
位置: 144～149・-956～-961 **規模形状:** 北辺の一部及び東辺の北半は重複により不明であるが、他はやや曲線を描いている。東辺に対して西辺がやや長い、正方形に近い隅丸方形を呈していると考えられる。長軸長2.74m、短軸長2.68mである。 **埋没土・壁:** 褐灰色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況が見られ、自然堆積と推察される。壁高は0.08～0.34mである。

1号竪穴状遺構

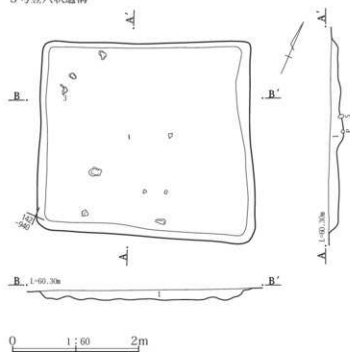


1区8面 1号竪穴状遺構 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土。灰を多量、酸化鉄凝集を少量含む。
- 2 褐灰色土 褐色上、暗褐色土小ブロックを少量、炭化物を微量含む。粘性強い。
- 3 褐灰色土 灰、炭化物を多量含む。
- 4 炭化物の層 炭上粒、褐灰色土粒を少量含む。
- 5 褐灰色土 酸化鉄凝集を中量含む。下層に炭化物が厚さ1~2cm堆積。
- 6 暗灰褐色土 炭化物を少量含む。
- 7 褐灰色土 灰白色土ブロックを多量含む。

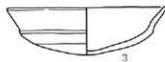


3号竪穴状遺構



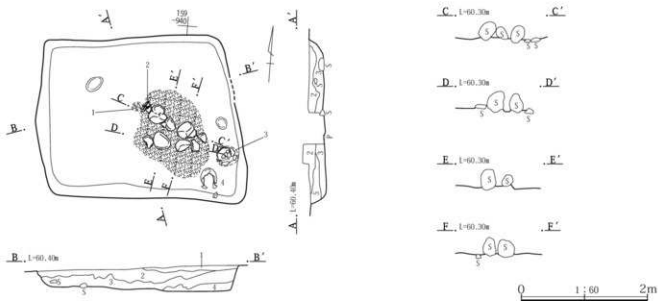
1区8面 3号竪穴状遺構 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 シルト質土。褐色砂土ブロックを少量含む。



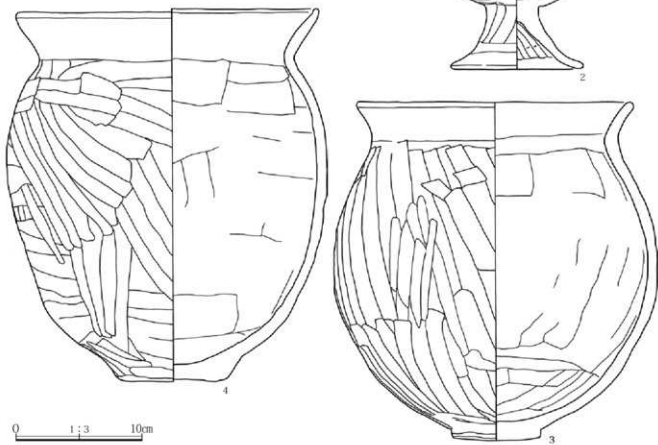
0 1:3 10cm

第728図 1区8面 1・3号竪穴状遺構、出土遺物

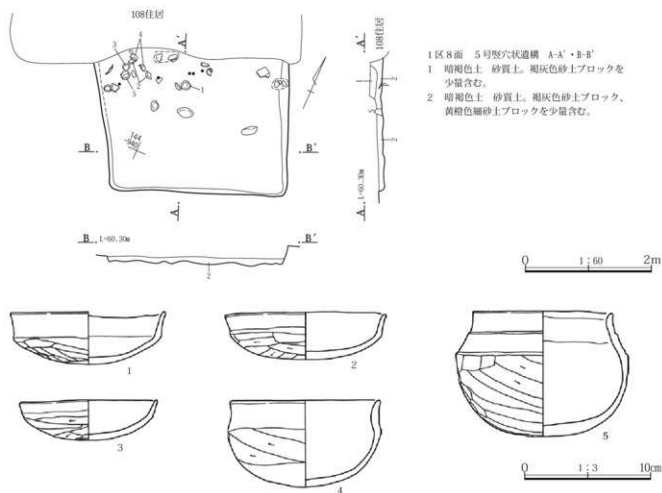


1区8面 4号竪穴状遺構 A-A'・B-B'

- 1 褐灰色土 砂質土。マンガング粒、黄褐色砂土ブロックを中量含む。
- 2 褐灰色土 砂土。褐灰色砂土ブロック、黄褐色砂土ブロック、灰白色土粒を少量含む。
- 3 褐灰色土 砂土。褐灰色砂土ブロックを中量含む。
- 4 褐灰色土 砂土。褐灰色砂土ブロックを少量含む。
- 5 褐灰色土 砂土。褐灰色砂土ブロック、灰白色土粒を少量含む。



第729図 1区8面 4号竪穴状遺構、出土遺物



第730図 1区8面 5号竪穴状遺構、出土遺物

長軸方位：N-67°-E **床面：**南東方向に傾斜している。北西角と南東角で0.18mの比高差があるが、ほぼ平坦である。掘り方は認められなかった。 **施設：**確認できない。 **重複遺構：**114・116・137号住居前に出する。 **遺物：**土師器(杯1点)の他、土師器(杯類2片、甕類21片)が出土した。杯(1)は埋没土からの出土であり、本遺構に伴うかは明瞭ではない。 **所見：**出土遺物は6世紀後半に位置付けられるが、他遺構との重複関係から、混入の可能性が高い。本遺構の時期は、重複と埋没土から、6世紀前半と考えるべきである。

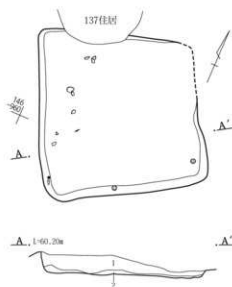
7号竪穴状遺構(第731図 PL.151)

位置：134～140・-965～-972 **規模形状：**南東部は重複により不明であるが、北辺は東方へ行くほど開いている。北西及び南西角は丸み大きい。東西に細長い隅丸長方形を呈していると考えられる。長軸長6.28m、短軸長2.72mである。 **埋没土・壁：**灰黄褐～褐灰色シルト

質土で埋没している。壁側から埋もれている状況が見られ、自然堆積と推察される。壁高は0.3～0.42mである。

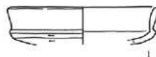
長軸方位：N-71°-E **床面：**ほぼ平坦である。掘り方は認められなかった。 **施設：**確認できない。 **重複遺構：**86・101・117・131号住居、80号土坑に前出する。 **遺物：**土師器(杯1点、甕1点)の他、土師器(杯類33片、甕類78片)、須恵器(甕類2片)出土した。杯(2)は床直上からの出土であり、本遺構に伴うものと考えられる。甕(3)は埋没土からの出土であり、本遺構に伴うかは明瞭ではない。 **所見：**出土遺物から、6世紀後半に位置付けられる。

6号竪穴状遺構

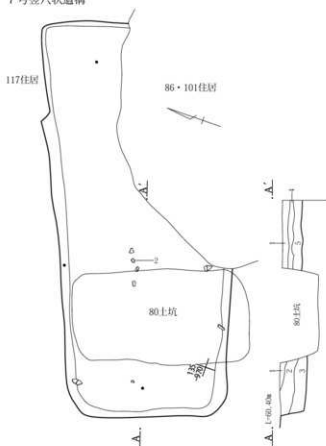


1区8面 6号竪穴状遺構 A-A'

- 1 褐灰色土 シルト質土。炭化物、焼土粒、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 褐灰色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロック、黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

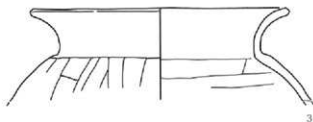


7号竪穴状遺構



1区8面 7号竪穴状遺構 A-A'

- 1 灰黄褐色土 灰白色土小ブロック、黄褐色土小ブロックを少量、炭化物を微量含む。
- 2 褐灰色土 灰白色土ブロックを多量含む。
- 3 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量含む。色調暗い。
- 4 灰黄褐色土 灰白色土ブロック、炭化物を多量含む。
- 5 灰黄褐色土 炭化物を多量、灰白色土ブロックを少量含む。



0 1:3 10m

0 1:60 2m

第731図 1区8面 6・7号竪穴状遺構、出土遺物

(3) 溝

54号溝(第732図 PL.151・152・229～231)

位置：135～161・939～950 規模：(25.8)m×1.5
～3.74m 残存深度：0.61m 走行方位：N-17°-E

遺物：完形もしくは完形に近い土師器が多く出土し、そのうち土師器(杯8点、鉢2点、埴1点、小型甕2点、甕5点、手捏ね1点)を図示した。他に土師器(杯類19片、甕類162片)、須恵器(甕類2片)が出土した。杯(1・6・7)、鉢(9・12)、小型甕(13)、甕(17)、手捏ね(19)は溝南部西側の立ち上がり上面付近からまとまって出土した。杯(3・8)は溝北部西側の立ち上がり上半部付近からまとまって出土した。鉢(11)は溝中央東側立ち上がり上半部付近から出土した。杯(5)、甕(15・16)は溝底面から0.08～0.16m程度高い位置からの出土である。杯(2・4)、鉢(10)、甕(14・18)は溝底面からの出土である。土器片は散らばっておらず、まとまって出土していることから、投棄されたものではなく、置かれたものと考えられる。溝底面出土の遺物と立ち上がり上面付近の物との時期差はほぼない。所見：Hr-FPを含む砂～シルト質土で埋没していた。Hr-FPは埋没土層に見られ、Hr-FP泥流によるものと考えられる。溝の西側はHr-FP泥流堆積物が確認面となり、砂礫層が確認面に近接しており、住居等の遺構数が減少する。ほぼ地形に合わせた南北方向に掘削されており、溝の南北両端部の高低差を見ると、北端が0.23m高い。溝の断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅は広いものの部分的に狭まる。残存深度は深い。地形の変換点に掘削された用排水路としての機能が考えられる。溝の時期は、遺物から6世紀後半に位置付けられる。

55号溝(第732図 PL.152)

位置：137～139・982～987 規模：(4.8)m×0.42
～0.52m 残存深度：0.18m 走行方位：N-77°-E

遺物：土師器(杯類6片、甕類4片)、須恵器(甕類1片)が出土した。所見：褐灰色シルト質土で埋没していた。住居が密集する中央部に掘削されており、東端は119号住居と、西端は78号住居との重複により、確認できなくなる。東端部の底面が0.07m高く上がるが、それ以外に高低差がないため東側から西側へと流水があったか否かは確認できない。溝の断面形は逆台形で、底面は平坦で

ある。幅はやや狭く、残存深度は浅い。調査できた区間は短く、通水の存在が確認できない。区画溝の可能性もあるが、この溝の性格は不明である。

56号溝(第732図 PL.152)

位置：133～134・983～986 規模：(1.86)m×0.38
～0.42m 残存深度：0.09m 走行方位：N-66°-E

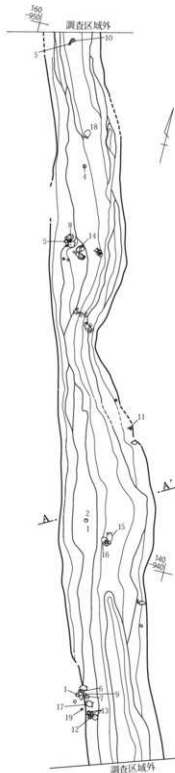
遺物：少量の土師器片が出土した。所見：褐灰色シルト質土で埋没していた。住居が密集する中央部に掘削されており、東端は308号ピットと、西端は48号住居と重複しており、その先では確認できなくなる。溝の東西両端部の高低差がなく、流水があったか否かは確認できない。溝の断面形は皿状で、底面は平坦である。幅はやや狭く、残存深度は浅い。調査できた区間は短く、通水の存在が確認できない。区画溝の可能性もあるが、この溝の性格は不明である。

57号溝(第732図 PL.152)

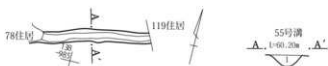
位置：124～129・969～971 規模：(4.12)m×0.34
～0.82m 残存深度：0.16m 走行方位：N-12°-W

遺物：土師器(杯1点)の他、土師器(杯類16片、甕類18片)が出土した。杯(1)は、埋没土からの出土であり、溝に伴うかは明瞭ではない。所見：灰黄褐色シルト質土で埋没していた。住居が密集する中央部南辺付近に掘削されており、北端は次第に浅くなり確認できなくなる。南端は169号住居と重複しており、その先では確認できなくなる。溝の南北両端部の高低差がなく、流水があったか否かは確認できない。溝の断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅はやや狭いところが多いが、南端は膨らむように広がる。残存深度は浅い。調査できた区間は短く、通水の存在が確認できない。区画溝の可能性もあるが、この溝の性格は不明である。図示した杯は7世紀代の遺物であるが、混入の可能性が高く、溝の時期は、重複関係から6世紀後半以前と考えられる。

54号溝



55号溝



- 1区8面 55号溝 A-A'
1 褐灰色土 黒褐色土ブロックを少量、酸化鉄凝集を微量含む。

56号溝



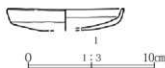
- 1区8面 56号溝 A-A'
1 褐灰色土 灰白色土ブロックを少量、酸化鉄凝集を微量含む。

57号溝



- 1区8面 57号溝 A-A'
1 灰黄褐色土 シルト質土、浅黄褐色シルト質土ブロック、灰白色シルト質土ブロックを中量含む。
2 灰黄褐色土 シルト質土、浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

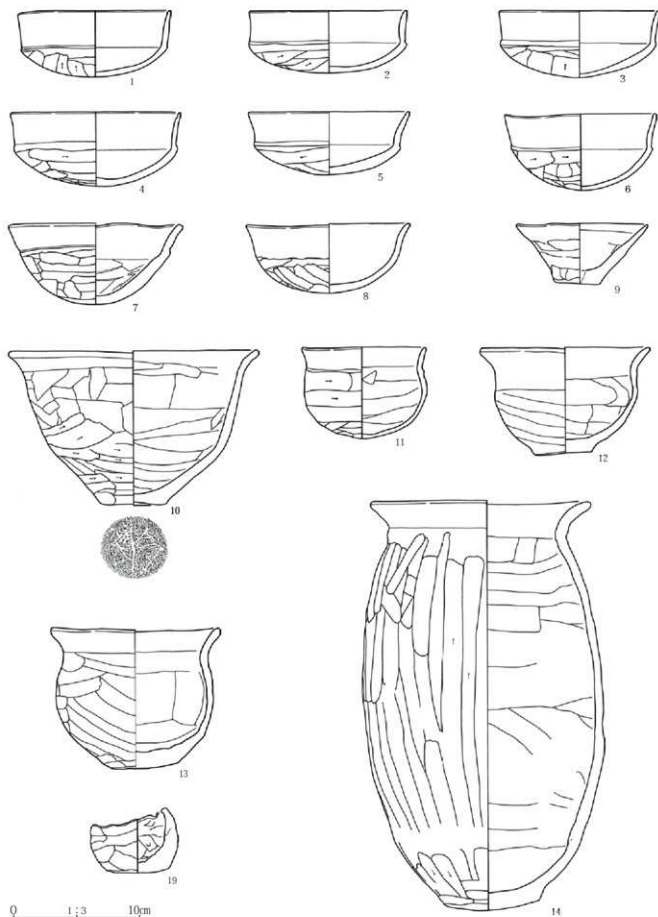
0 1:100 5m



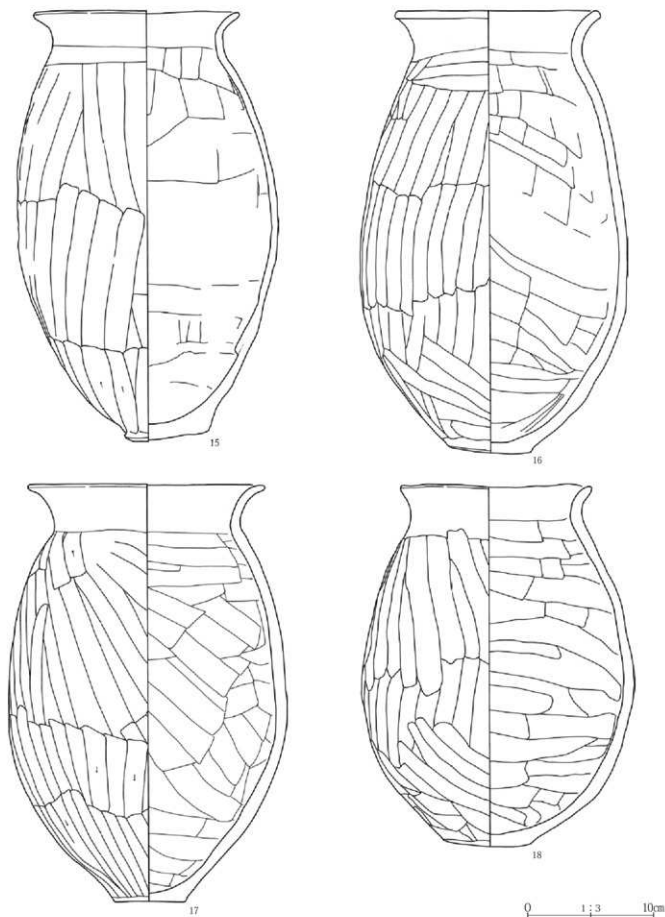
- 1区8面 54号溝 A-A'
1 褐灰色土 砂土。マンガン粒を中量含む。
1' 褐灰色土 砂土。酸化鉄凝集を中量含む。
2 褐灰色土 砂土。灰白軽石を少量含む。
2' 褐灰色土 砂土。酸化鉄凝集を中量、灰白軽石を少量含む。
3 褐灰色土 砂土。灰白軽石を中量含む。
3' 褐灰色土 砂土。酸化鉄凝集、灰白軽石を中量含む。
4 褐灰色土 砂土。褐灰色砂土ブロック、灰白軽石を少量含む。
5 褐灰色土 シルト質土。褐灰色砂土ブロックを少量含む。
6 褐灰色土 砂土。褐灰色シルト質土ブロックを少量含む。

0 1:60 2m

第732図 1区8面 54～57号溝、57号溝出土遺物



第733図 1区8面 54号溝出土遺物(1)



第734図 1区8面 54号溝出土遺物(2)

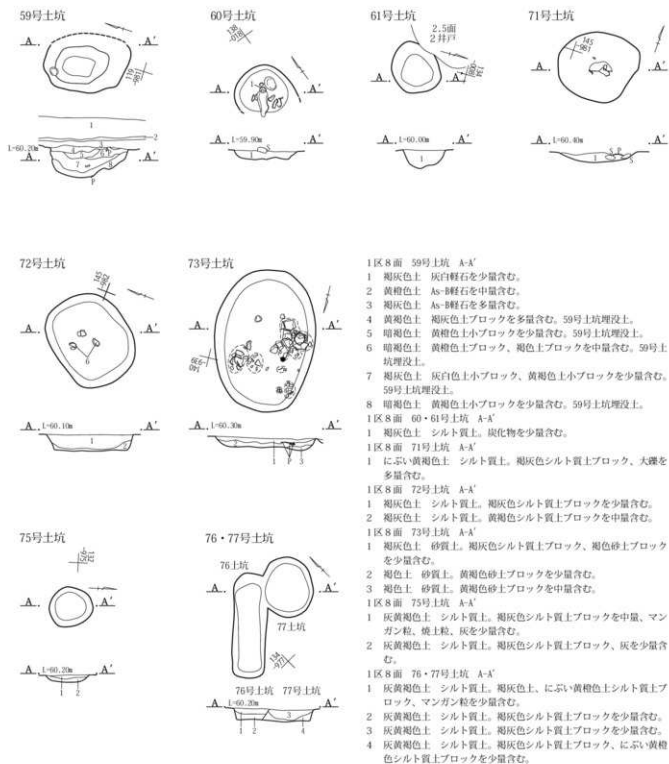
(4) 土坑

1区の土坑(第735～737図 PL.152・153・231)

概要：1区では17基の土坑を調査した。その分布は、住

居と同様であり、調査区西端部から中央付近に特に多い。土坑の詳細については第24表に記した。

所見：埋没土及び遺物から、古墳時代後期～平安時代に属すると考えられる。

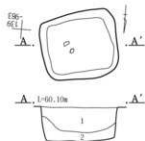


0 1:60 2m

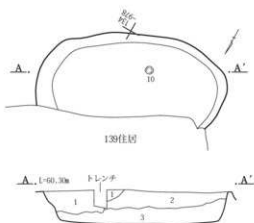
第735図 1区8面 59～61・71～73・75～77号土坑

第11章 古墳時代後期～平安時代(8面)の遺構と遺物

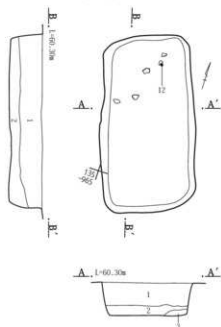
78号土坑



79号土坑



80号土坑



1区8面 78号土坑 A-A'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐灰色シルト質土ブロックを中量含む。

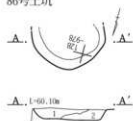
1区8面 79号土坑 A-A'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、灰白色シルト質土ブロックを中量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、灰白色シルト質土ブロックを少量含む。
- 3 褐灰色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、灰白色シルト質土ブロックを少量含む。

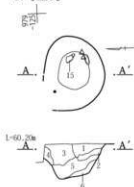
1区8面 80号土坑 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色細砂ブロックを少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色細砂ブロックを中量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色細砂ブロックを多量含む。

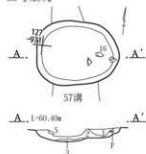
86号土坑



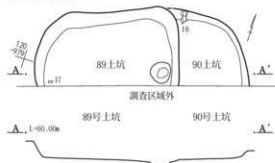
87号土坑



88号土坑



89・90号土坑



1区8面 86号土坑 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを中量、焼土粒、白色軽石を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

1区8面 87号土坑 A-A'

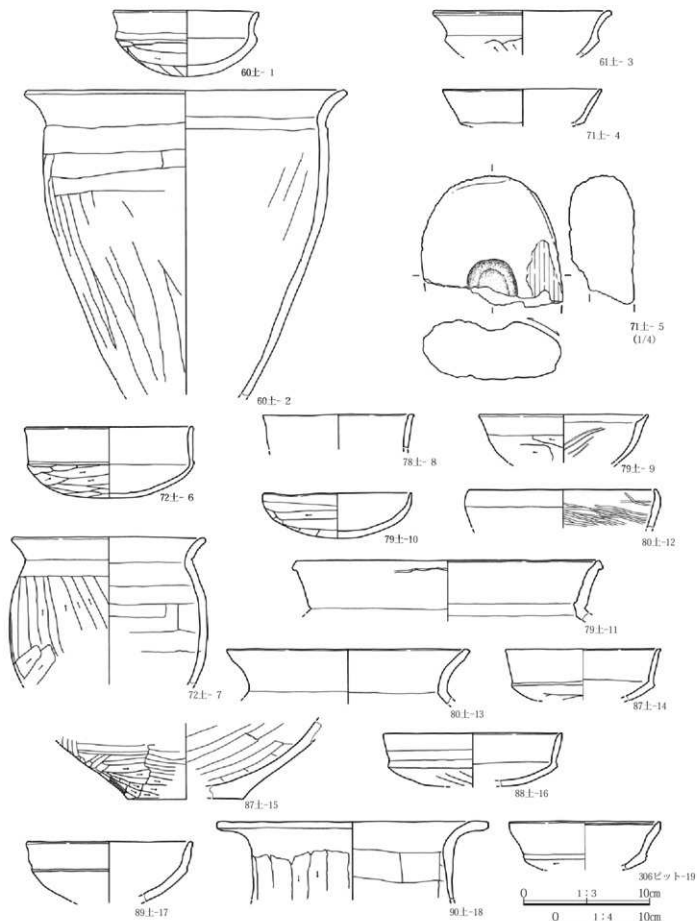
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、炭化物を少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを少量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。

1区8面 88号土坑 A-A'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを中量含む。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。

0 1:60 2m

第736図 1区8面 78～80・86～90号土坑



第737図 1区8面 60・61・71・72・78～80・87～90号土坑・306号ビット出土遺物

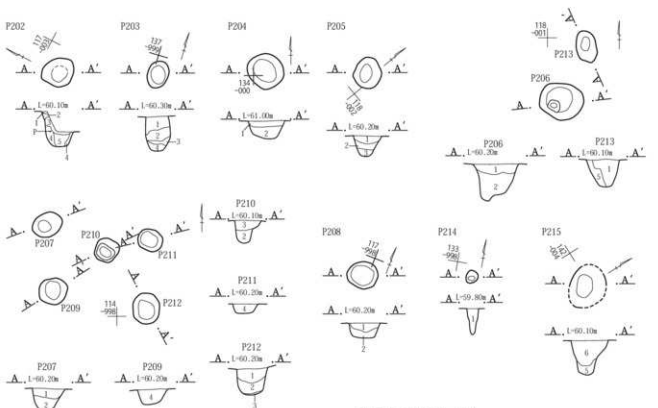
(5)ピット

1区8面のピット(第738～739図 PL.153)

概要：1区では31基のピットを調査した。その分布は、住居・土坑と同様であり、調査区西端部から中央付近に多く多い。西南部や中央南寄りややピットがまと

まっているものの、建物の復元には至らなかった。ピットの詳細については第25表に記した。

所見：遺物は少なく、時期は不明であるが、埋没土は住居や土坑と同様であり、古墳時代後期～平安時代に属すると考えられる。



1区8面 202号ピット A-A'

- 1 灰白色土 シルト質上。灰白色土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 シルト質上。灰白色土ブロックを少量含む。
- 3 褐色土 シルト質上。褐色土小ブロックを微量含む。
- 4 褐色土 シルト質上。灰白色土ブロックを微量含む。黒味強い。
- 5 褐色土 シルト質上。灰白色土を中量含む。

1区8面 203号ピット A-A'

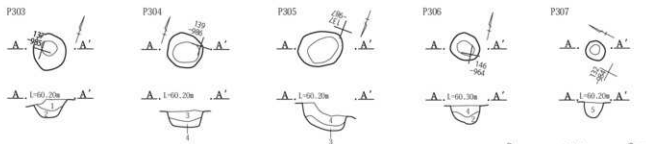
- 1 褐色土 灰白色土、褐色土粒を少量含む。
- 2 褐色土 灰白色土小ブロックを少量含む。
- 3 暗褐色土 黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 4 暗褐色土 暗褐色土ブロック、黄褐色土ブロックを少量含む。

1区8面 204号ピット A-A'

- 1 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。

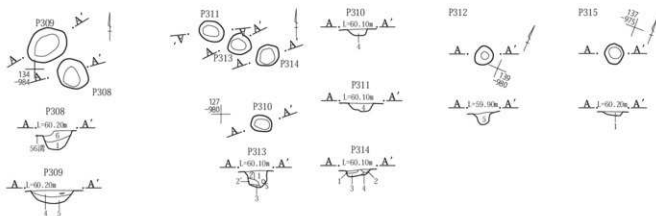
1区8面 205～215号ピット A-A'

- 1 褐色土 シルト質上。褐色土シルト質土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 シルト質上。褐色土シルト質土ブロックを中量含む。
- 3 褐色土 シルト質上。黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。
- 4 褐色土 シルト質上。褐色土シルト質土ブロックを中量、黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 5 褐色土 シルト質上。黄褐色土シルト質土ブロックを中量、焼土粒、炭化物を少量含む。
- 6 褐色土 シルト質上。焼土粒、炭化物を少量含む。



第738図 1区8面 202～215・303～307号ピット

0 1:60 2m



1区8面 303～312号ビット A-A'

- 1 褐色土 酸化鉄凝集、灰白色土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 灰白色土ブロックを少量含む。褐色味強い。
- 3 褐色土 灰白色土ブロックを少量含む。黒色味強い。
- 4 褐色土 灰白色土ブロックを少量含む。
- 5 褐色土 黄色味やや強い。
- 6 褐色土 酸化鉄凝集を少量含む。褐色味やや強い。

1区8面 313号ビット A-A'

- 1 灰白色土 粘質上。黒色粘質土ブロック、暗褐色土ブロック多量含む。
- 2 黄褐色土 シルト質上。褐色味強い。
- 2' 黄褐色土 シルト質上。明褐色味強い。
- 3 黒色土 粘質上。灰白色粘質土ブロック、黒色粘質土ブロックを少量含む。

1区8面 314号ビット A-A'

- 1 褐色土
- 2 褐色土 暗褐色土ブロックを少量含む。
- 3 褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む。やや褐色味強い。
- 4 黄褐色土 黄褐色土ブロックを少量含む。

1区8面 315号ビット A-A'

- 1 灰黄褐色土 シルト質上。

1区8面 316号ビット A-A'

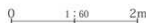
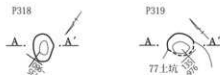
- 1 褐色土 シルト質上。灰白粘質土粒、焼土粒、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 シルト質上。灰白粘質土粒を中量。焼土粒、黄褐色土ブロックを少量含む。
- 3 褐色土 シルト質上。灰白粘質土粒、黄褐色土シルト質上ブロックを少量含む。
- 4 褐色土 シルト質上。灰白粘質土粒、焼土粒、黄褐色土シルト質上ブロックを中量含む。

1区8面 318号ビット A-A'

- 1 灰黄褐色土 シルト質上。焼土粒、褐色シルト質上ブロックを少量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色細砂ブロックを少量含む。

1区8面 319号ビット A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰白色シルト質上ブロックを少量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰白色シルト質上ブロック、浅黄褐色シルト質上ブロックを少量含む。

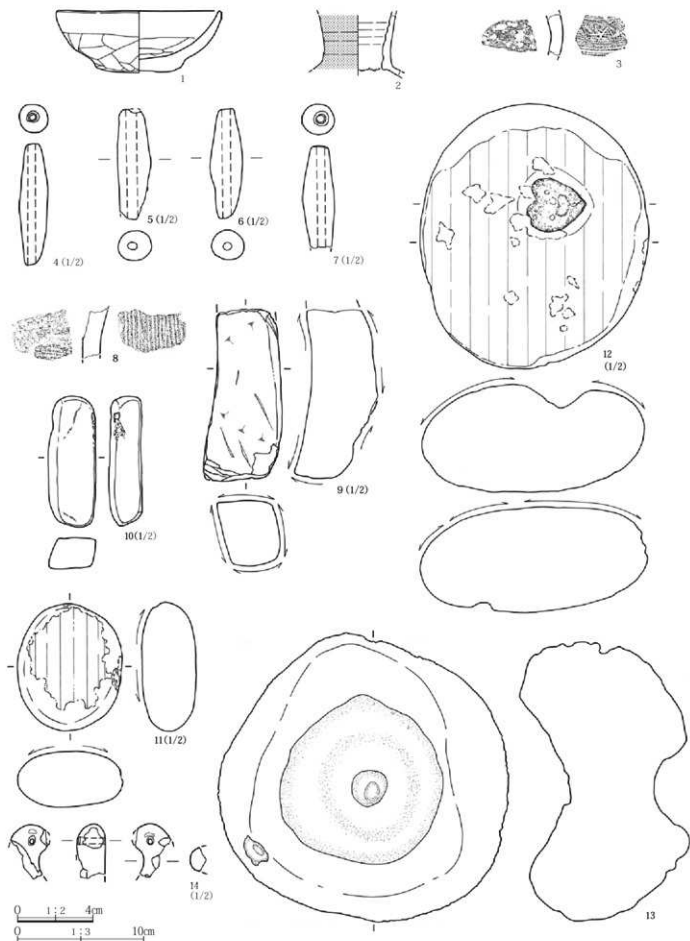


第739図 1区8面 308～319号ビット

(5) 遺構外出土の遺物(第740図 PL.231)

1区8面の調査中に、遺構に伴わない形で出土した遺物や帰属する遺構が不明な遺物がある。ここでは出土した遺物のうち、土師器杯(1)、須恵器長頸壺(2)、刻書

のある不明土器(3)、土鍾(4～7)、埴輪(8)、砥石(9)、敲石(10)、磨石(11)、凹石(12・13)、勾玉(14)を掲載した。この他の遺物は、土師器(杯類1,950片、甕類3,269片)、須恵器(杯類77片、甕類138片)、砥石、磨石、その他の石製品がある。



第740図 1区8面 遺構外出土遺物

3 2区の遺構と遺物

2区の8面に属する遺構としては、溝11条、土坑3基、ピット1基及び遺物集中2か所である。2区では、8面の遺構確認面が7面の同確認面と近接しており、耕作痕によって攪拌を受けているものの、As-B軽石降下以前の遺構を8面に属するものとして扱った。1区と異なり、住居は分布しておらず、溝が多い。ただし、調査区西側では土器がまとまって分布する遺物集中が2か所あり、集落との関連が想定される。1区と同様に、遺構の時期は古墳時代後期から平安時代に属する。

(1) 溝

34号溝(第741・743図 PL.155)

位置：137～147・-881～-896 規模：(18.2)m×0.28～(1.72)m 残存深度：0.2m 走行方位：- 遺物：35号溝と併せて、土師器(杯類9片、甕類5片)が出土した。重複遺構：36号溝に前出し35号溝に後出する。

所見：黒褐色シルト質土で埋没していた。北側は36号溝の西側に重複するように、南北方向に掘削され、35号溝の北側で屈曲し、35号溝と並行して西側へと向かう。北端は浅くなり確認できなくなる。断面形は皿状で、底面は平坦である。幅は、東西方向部分の西側は広い割に、残存深度はやや浅い。36号溝に沿うように掘削されているため、埋没は34号溝が早いものの36号溝と同時期に存在していた可能性があり、南北方向の36号溝の流水を西側へと送水する用排水路或いは、区画溝の可能性もある。

35号溝(第741～743図 PL.155)

位置：135～149・-846～-896 規模：(49.5)m×0.62～1.7m 残存深度：0.2～0.23m 走行方位：N-78°-E 遺物：34号溝と併せて、土師器(杯類9片、甕類5片)が出土した。また、39・40号溝との接続部から、須恵器(甕類4片)が出土した。重複遺構：34・36号溝に前出する。所見：黒褐色シルト質土で埋没していた。西端は39・40号溝と接続しており、34・37号溝の南側を並行するように東西方向に掘削される。溝の東西両端部の高低差を見ると東端が0.42m低くなっている。断面形は皿状で、底面は平坦である。幅はやや不安定であるが、広い割に、残存深度はやや浅い。西側からの流水を東側

へと送水し、39号溝へ接続する用排水路或いは、区画溝の可能性もある。

36号溝(第741・743図 PL.155)

位置：137～172・-877～-890 規模：(39.3)m×0.62～1.98m 残存深度：0.04～0.36m 走行方位：N-15°-W 遺物：土師器(杯類4片、甕類2片)、須恵器(杯類1片、甕類2片)が出土した。重複遺構：34・35・37号溝に後出する。所見：暗～黒褐色シルト質土で埋没していた。38号溝の東側を並行するように南北方向に掘削され、途中で一部が重複する34号溝とは接続している可能性がある。溝の南北両端部の高低差はない。断面形は皿状で、底面はやや凹凸がある。幅や残存深度はやや不安定である。南北方向の用排水路或いは、区画溝の可能性もある。

37号溝(第741～744図 PL.155)

位置：142～184・-825～-881 規模：(72.2)m×0.36～1.28m 残存深度：0.04m 走行方位：N-53°-E

遺物：土師器(杯類6片)、須恵器(甕類1片)が出土した。重複遺構：36号溝に後出する。所見：暗～黒褐色シルト質土で埋没していた。調査区北東部から南西部にかけて掘削される。途中、重複や残存深度が浅くなることにより、確認できない部分がある。南西端は36号溝と接して、その先は確認できない。溝の北東端と南西端の高低差をみると南西端が0.36m高い。断面形は皿状で、底面は平坦である。幅はやや狭い部分が多く、残存深度は非常に浅い。用排水路としては残存深度が浅く、区画溝としては走行がやや曲線的である。この溝の性格を明らかにすることはできなかった。

38号溝(第741・743図 PL.155)

位置：143～171・-883～-894 規模：(28.0)m×1.24～2.08m 残存深度：0.33m 走行方位：N-19°-W

遺物：なし 所見：角四石安山岩を含む暗～黒褐色シルト質土で埋没していた。埋没土には礫が多く含まれる。36号溝の西側を並行するように南北方向に掘削される。南端は浅くなり確認できなくなる。溝の南北両端部の高低差は少ないが、南端が0.04m高くなっている。断面形は逆台形で、底面はやや凹凸がある。幅は広く、残存深度はやや深い。地形とは逆に南側が高くなっているため、用排水路としての機能は想定できず、区画溝の可能性もある。

39号溝(第742・743図 PL.155)

位置：135～148・-840～-850 規模：(13.8)m×1.2～1.92m 残存深度：0.4m 走行方位：N-35°-W

遺物：土師器(甕類4片)、須恵器(甕類6片)が出土した。また、35・40号溝との接続部から須恵器(甕類4片)が出土した。 **所見**：暗褐色～黒褐色シルト質土で埋没していた。35・40号溝との接続点から始まり、やや蛇行しながら南東へ向かう。溝の南北両端の高低差をみると、北端が0.26m高くなっている。断面形は浅鉢状で、底面は平坦である。幅は広く、残存深度はやや深い。39号溝の掘削位置から、35・40号溝とは同時期に存在した可能性があり、それらからの流水を南東へと送水する用排水路或いは、区画溝の可能性はある。

40号溝(第742・743図 PL.155)

位置：144～156・-843～-849 規模：(11.2)m×0.74～(2.44)m 残存深度：0.14m 走行方位：N-17°-E

遺物：35・39号溝のとの接続部から、須恵器(甕類4片)が出土した。 **所見**：黒褐色シルト質土で埋没していた。37号溝から分岐し、南西方向へ向かうように掘削される。35・39号溝と接続しており、接続部は幅が広がる。溝の南北両端の高低差はほとんどない。断面形は皿状で、底面は平坦である。幅はやや広いものの、残存深度はやや浅い。40号溝の掘削位置から、35・37・39号溝とは同時期に存在した可能性があり、37号溝からの流水を39号溝へと送水する用排水路或いは、区画溝の可能性はある。

41号溝(第742・743図 PL.155)

位置：167～175・-847～-860 規模：(12.6)m×1.24～1.92m 残存深度：0.34m 走行方位：N-59°-W

遺物：土師器(甕類1片)が出土した。 **所見**：角閃石安山岩等の小礫を含む黒褐色シルト質土で埋没していた。調査区北辺中央から南東方向に掘削される。南東部は浅くなり確認できなくなる。断面形は逆台形で、底面はやや凹凸がある。幅は広く、残存深度は、北西部はやや深く、南東部は浅い。用排水路としては、他の溝と接続することなく、途中で止まっており、区画溝としても短く止まっている。この溝の性格を明らかにすることはできなかった。

42号溝(第744図 PL.155)

位置：150～186・-806～-822 規模：(37.3)m×1.16～2.2m 残存深度：0.18m 走行方位：N-22°-W

遺物：土師器(甕類1片)が出土した。 **重複遺構**：43号溝に前出する。 **所見**：角閃石安山岩等の小礫を含む黒褐色シルト質土で埋没していた。調査区東端を南北方向に掘削される。43号溝と交わるが、同時期に存在していたか否かは不明である。南端は浅くなり、確認できなくなる。溝の南北両端の高低差は少ないものの北端が0.02m高い。断面形は皿状で、底面は平坦である。幅はやや広いものの、残存深度はやや浅い。他の溝と接続することなく途中で止まっていることから、用排水路よりも区画溝の可能性はある。

43号溝(第744図 PL.155)

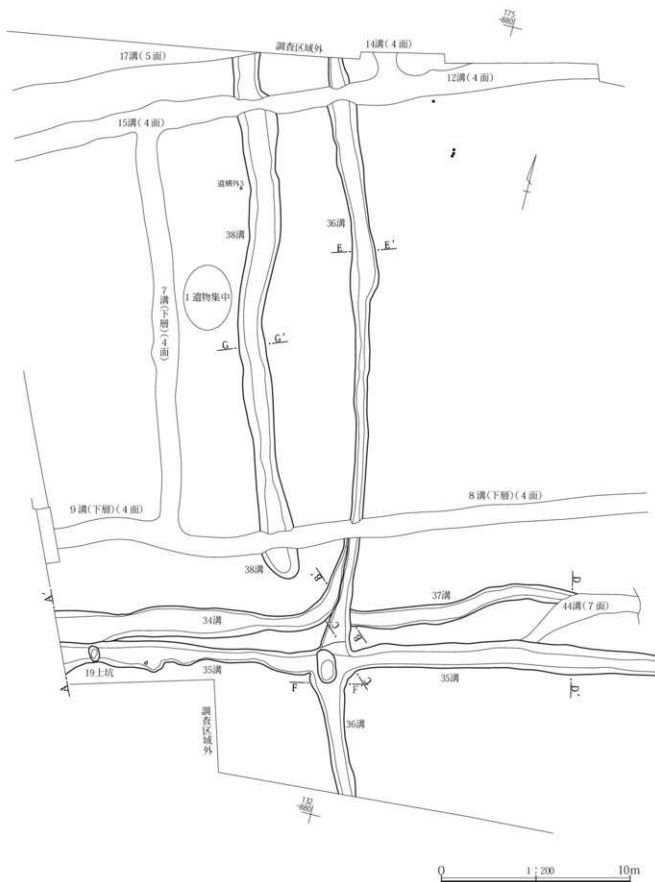
位置：159～163・-808～-835 規模：(25.5)m×0.88～2.48m 残存深度：0.16m 走行方位：N-88°-E

遺物：なし **重複遺構**：42号溝に後出する。 **所見**：角閃石安山岩等の小礫を含む黒褐色シルト質土で埋没していた。調査区東部を東西方向に掘削される。42号溝と交わるが、同時期に存在していたか否かは不明である。途中浅くなる箇所や重複により確認できない部分がある。また、西端は浅くなり、確認できなくなる。溝の東西両端の高低差はほとんどない。断面形は皿状で、底面は平坦である。幅はやや広いものの、残存深度はやや浅い。他の溝と接続することなく途中で止まっていることから、用排水路よりも区画溝の可能性はある。

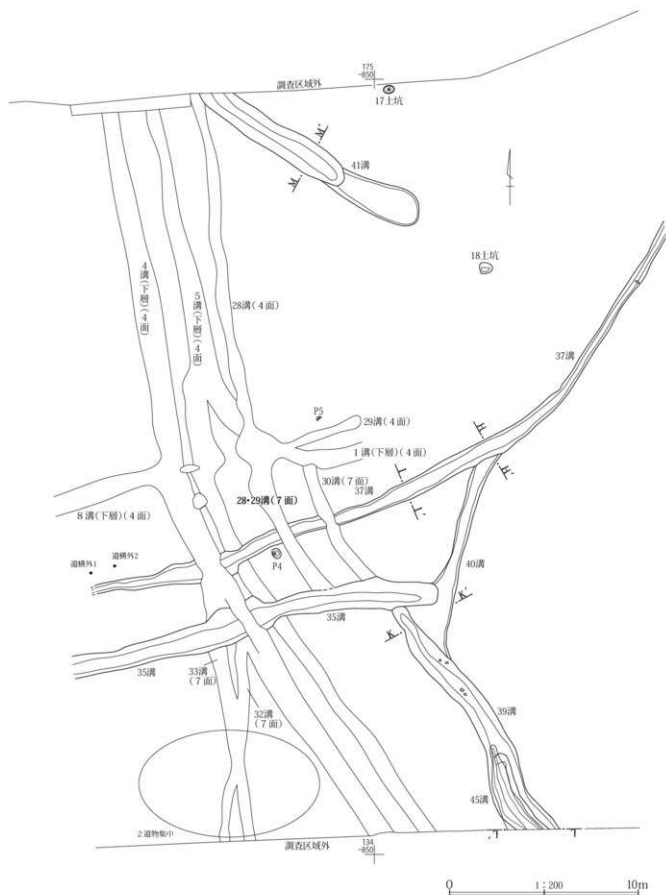
45号溝(第742・743図)

位置：135～140・-841～-844 規模：(4.8)m×0.38～1.74m 残存深度：0.58m 走行方位：N-18°-W

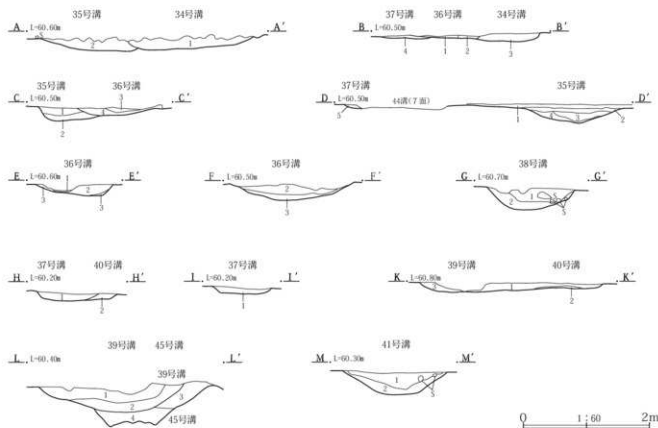
遺物：なし **重複遺構**：39号溝に前出する。 **所見**：砂礫土で埋没していた。39号溝と重複する位置に掘削される。北端は浅くなることと重複により確認できない。溝の南北両端の高低差をみると、北端が0.17m高くなっている。断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅は南側が広く、残存深度も深くなる。39号溝の前身の可能性はある。



第741図 2区 8面 34~38号溝



第742図 2区8面 35・37・39・41・45号溝



2区8面 34・35号溝 A-A'

- 1 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子、礫を微量含む。しまりやや弱い。34号溝埋没上。
- 2 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子を微量含む。しまりやや強い。35号溝埋没上。

2区8面 34・36・37号溝 B-B'

- 1 暗褐色土 シルト質上。黄褐色粒子を中量含む。しまりやや強い。36号溝埋没上。
- 2 灰黄褐色土 シルト質上。黄褐色粒子を少量含む。しまりやや弱い。36号溝埋没上。
- 3 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子、礫を微量含む。しまりやや弱い。34号溝埋没上。
- 4 暗褐色土 黄褐色粒子を微量含む。しまりやや強い。37号溝埋没上。

2区8面 35・36号溝 C-C'

- 1 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子、粗砂、小礫を少量含む。しまりやや強い。35号溝埋没上。
- 2 暗褐色土 シルト質上。黄褐色粒子、粗砂、小礫を少量含む。しまりやや強い。35号溝埋没上。
- 3 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子を微量含む。しまり強い。36号溝埋没上。
- 4 暗褐色土 シルト質上。黄褐色粒子を中量含む。しまりやや強い。36号溝埋没上。

2区8面 35・37号溝 D-D'

- 1 As-B軽石層
- 2 暗褐色土 シルト質上。黄褐色粒子、細砂、粗砂を中量含む。しまり強い。35号溝埋没上。
- 3 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子、粗砂、小礫を少量含む。しまりやや弱い。35号溝埋没上。
- 4 暗褐色土 シルト質上。黄褐色粒子、粗砂、小礫を少量含む。しまりやや弱い。35号溝埋没上。
- 5 黒褐色土 シルト質上。砂粒を中量含む。しまりやや強い。37号溝埋没上。

2区8面 36号溝 E-E'・F-F'

- 1 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子を微量含む。しまり強い。
- 2 暗褐色土 シルト質上。黄褐色粒子を中量含む。しまりやや強い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質上。黄褐色粒子を少量含む。しまりやや強い。

2区8面 38号溝 G-G'

- 1 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子を多量、角閃安山岩を中量含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 シルト質上。黄褐色小ブロック、黄褐色粒子を中量含む。しまりやや弱い。

2区8面 37・40号溝 H-H'・I-I'・J-J'

- 1 黒褐色土 小礫を中量含む。しまりやや弱い。37号溝埋没上。
- 2 黒褐色土 小礫を少量含む。しまりやや弱い。40号溝埋没上。

2区8面 39・40号溝 K-K'

- 1 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子を微量含む。しまりやや弱い。40号溝埋没上。
- 2 黒褐色土 シルト質上。灰黄褐色土中ブロックを多量、小礫を少量、黄褐色粒子を微量含む。しまりやや弱い。40号溝埋没上。
- 3 暗褐色土 黄褐色粒子、小礫を微量含む。しまりやや弱い。39号溝埋没上。

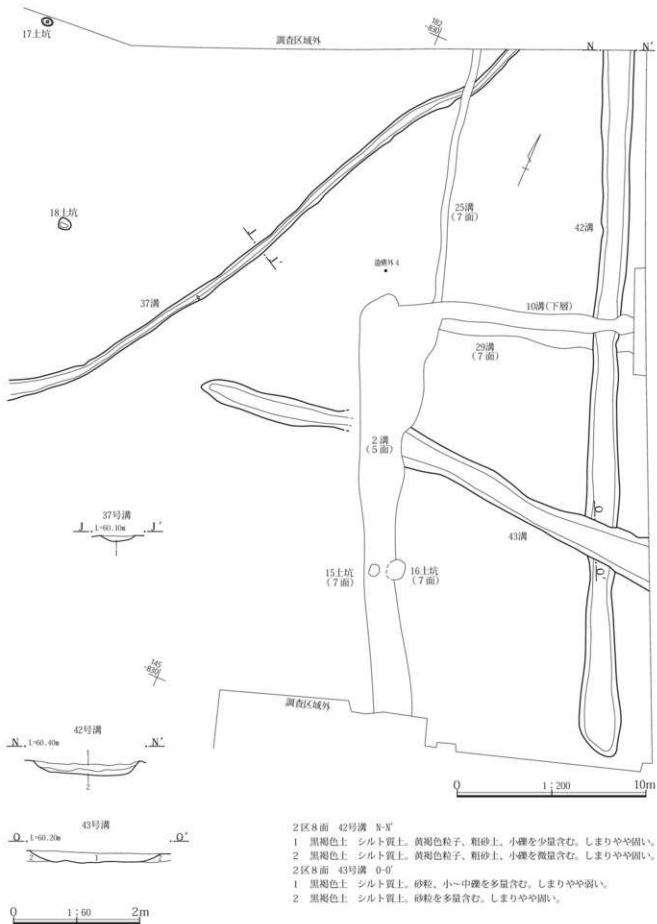
2区8面 39・45号溝 L-L'

- 1 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子、小礫を少量含む。しまりやや弱い。39号溝埋没上。
- 2 暗褐色土 シルト質上。黄褐色粒子、小礫を微量含む。しまりやや弱い。39号溝埋没上。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質上。小礫を少量含む。しまりやや弱い。45号溝埋没上。
- 4 褐色土 砂質土。細砂、粗砂、小礫を少量、灰黄褐色土大ブロックを多量含む。しまりやや強い。45号溝埋没上。

2区8面 41号溝 M-M'

- 1 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子、小〜中礫を多量含む。しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土 シルト質上。中角安礫を多量、黄褐色粒子を微量含む。しまりやや弱い。

第743図 2区8面 34～41・45号溝断面



第744図 2区8面 37・42・43号溝

(2) 遺物集中

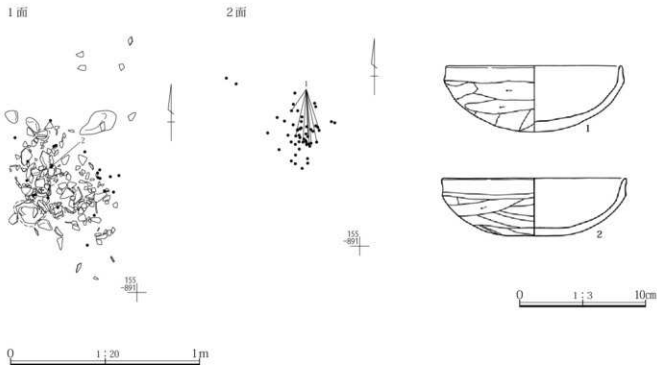
2区では、6世紀後半の遺物や馬歯が集中する地点があった。遺構としての掘り込み等は確認できていないが、ここでは、2か所の集中地点についてそれぞれ概要を記した。

1号遺物集中(第745図 PL.156・232)

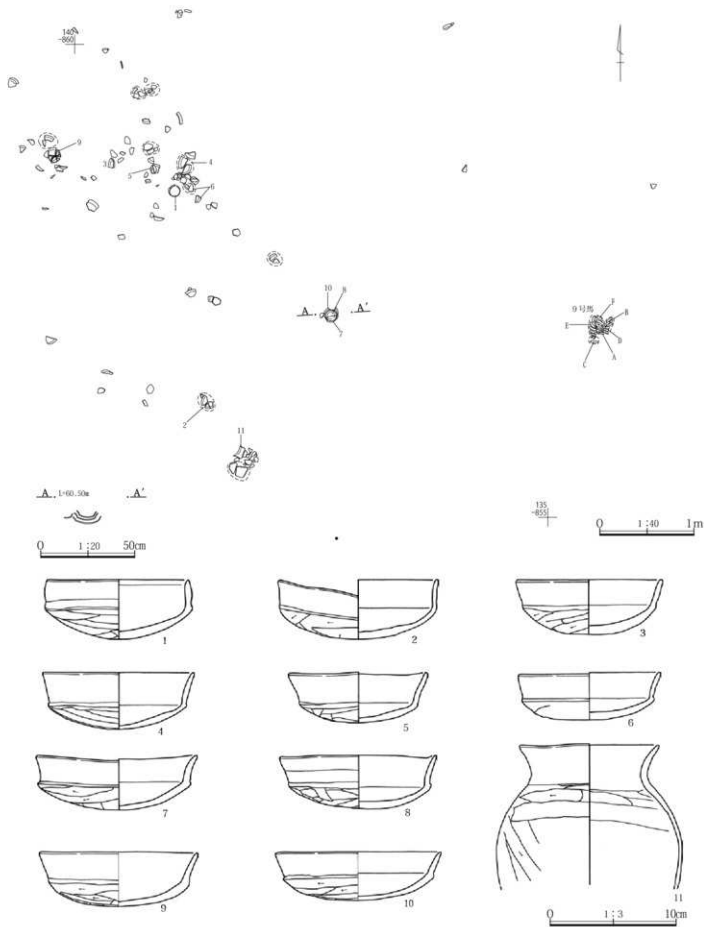
位置:155～157・-891～-892 **概要:**東西0.8m、南北1.3m程度の範囲に土師器片が重なり密集して出土している。38号溝の西側に位置し、平坦で凹凸の少ない場所である。硬化面や焼土等はなく、周辺に住居が存在しないことから、住居の可能性は低いと考えられる。 **遺物:**土師器(杯2点)の他、土師器(杯類1179片、甕類23片)、須恵器(甕類9片)が出土した。土師器杯の小片が多く、完形付近まで復元できた個体は少ない。図示した杯(1・2)はいずれも確認面直上での出土であった。 **所見:**遺物の時期はいずれも6世紀後半で混入品がなく、離れた地点の破片同士が接合することも少ない。別の場所から遺物が流れ込んできた状況ではなく、この場所から遺物が流れ込んできた状況ではなく、この場所から置かれた状況を調査したものと考えられる。土師器は、祭祀に伴って捧げられたものである可能性が指摘できる。

2号遺物集中(第746図 PL.156・232)

位置:135～141・-853～-861 **概要:**東西4m、南北2.5m程度の範囲に土師器片が出土しているが、1号遺物集中と比較するとやや点在している。また、馬歯がまとまって出土している。35号溝の南側に位置し、平坦で凹凸の少ない場所である。硬化面や焼土等はなく、周辺に住居が存在しないことから、住居の可能性は低いと考えられる。 **遺物:**土師器(杯10点、甕1点)の他、土師器(杯類619片、甕類8片)が出土した。杯の出土が多く、1号遺物集中と比較すると破片が大きく、完形付近まで復元できた個体が多い。杯(1～10)、甕(11)は確認面直上での出土であった。そして、杯(7・8・10)の3点は重ねられた状態で出土した。また、獣歯が出土しており、獣歯骨鑑定分析(第13章4)によると3歳前後の幼駒馬(9号馬)であった。 **所見:**遺物の時期はいずれも6世紀後半で混入品がなく、離れた地点の破片同士が接合することも少ない。そして、馬歯は一塊にまとまっている。別の場所から遺物が流れ込んできた状況ではなく、この場所に置かれた状況を調査したものと考えられる。土師器や馬は祭祀に伴って捧げられた可能性が指摘できる。



第745図 2区8面 1号遺物集中、出土遺物

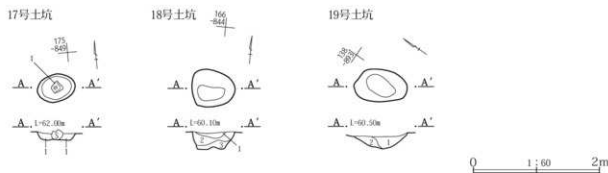


第746図 2区8面 2号遺物集中、出土遺物

(3) 土坑

2区の土坑(第746図 PL.156・232)

概要：2区では3基の土坑を調査した。その分布は、調



2区8面 17号土坑 A-A'

1 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子を中量含む。しまりやや弱い。

2区8面 18号土坑 A-A'

1 灰黄褐色土 粗砂土を多量含む。しまり弱い。

2 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子、小礫を少量含む。しまりやや弱い。

3 黒褐色土 シルト質上。黄褐色粒子、小礫を微量含む。しまりやや弱い。

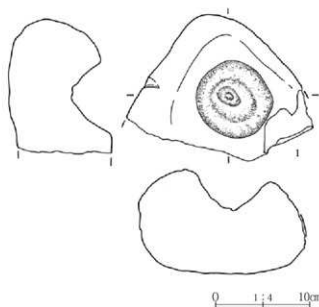
2区8面 19号土坑 A-A'

1 黒褐色土 シルト質上。灰黄褐色土小ブロックを中量含む。しまりやや弱い。

2 黒褐色土 シルト質上。灰黄褐色土小〜中ブロックを多量含む。しまりやや弱い。

査区東側で散発的にみられるだけである。詳細については第24表に記した。

所見：埋没土はAs-B軽石降下以前であり、遺物からも古墳時代後期〜平安時代に属すると考えられる。



第747図 2区8面 17〜19号土坑、17号土坑出土遺物

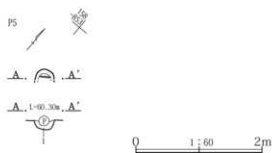
(4) ビット

2区のビット(第747図)

概要：2区では1基のビットを調査したのみである。

詳細については第25表に記した。

所見：埋没土はAs-B軽石降下以前であり、遺物からも古墳時代後期〜平安時代に属すると考えられる。



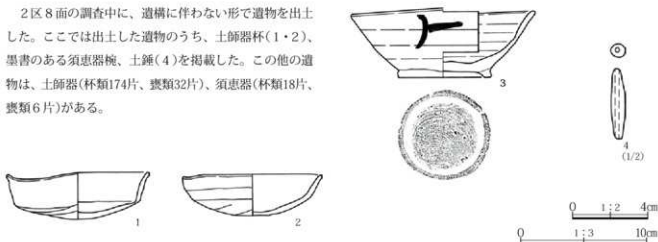
2区8面 5号ビット A-A'

1 暗褐色土 黄褐色粒子、粗砂土を少量含む。しまりやや弱い。

第748図 2区8面 5号ビット

(5) 遺構外出土の遺物(第749図 PL.232)

2区8面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物を出土した。ここでは出土した遺物のうち、土師器杯(1・2)、黒書のある須恵器椀、土錘(4)を掲載した。この他の遺物は、土師器(杯類174片、甕類32片)、須恵器(杯類18片、甕類6片)がある。



第749図 2区8面 遺構外出土遺物

4 4区の遺構

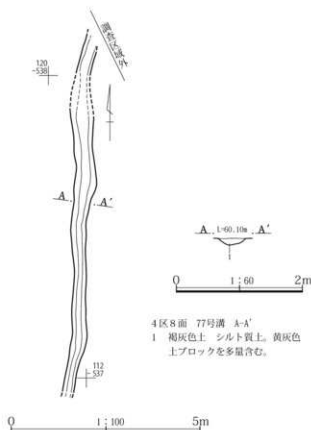
4区の8面に属する遺構としては、溝1条及び畑24区画である。遺構は調査区東部でのみ確認した。畑は北東部を中心に多数のサクが重複しており、埋没土の違いから3面に分けて確認したが、同一面であってもサクの重複があることから、異なる時期の畑を確認したと考えられる。畑はBr-Fa泥流層を踏み込んでおり、古墳時代後期以降と考えられる。畑の上面は7面耕作痕により一部覆押を受けている部分もある。3区及び4区中央より西部で8面の遺構が発見されなかった要因としては、7面時の耕作による消滅の可能性が推測できる。

なお、畑の遺構番号は北東部のサクの一群を2号畑、東端部のサクの一群を3号畑として調査を行ったが、サクの方向の違いから、報告時に4～24号畑を命名して分離した。

(1) 溝

77号溝(第750図 PL.157)

位置: 111 ~ 120・-536 ~ -538 規模: (9.44)m × 0.28 ~ 0.6m 残存深度: 0.11m 走行方位: N-4°-W
 遺物: なし 所見: 褐灰色シルト質土で埋没していた。調査区南東部を南北方向に走行する。高低差を見ると北端が0.06m低くなっている。断面形は皿状で、底面は平



4区8面 77号溝 A-A'
 1 褐灰色土 シルト質土。黄灰色土ブロックを多量含む。

第750図 4区8面 77号溝

垣である。幅はやや狭いところがあり、残存深度はやや浅い。7面においても59号溝など南北方向の溝が掘削されている場所であり、77号溝も用排水路の可能性はある。しかし、地形とは逆に北側が低くなっており、水路としての機能が果たせたか否か不明である。この溝の機能については、明らかにすることができなかった。

(2) 畑

2号畑(第751図 PL.157)

位置: 132 ~ 140・-554 ~ -567 サク数: 13条 規模: (9.24)m × 8.32m 残存深度: 0.1m サク間幅: 0.2 ~ 1.44m サク方位: N-43°-E 遺物: なし 重複遺構: 6・8 ~ 10・12号畑に後出する。 所見: 埋没土はHr-FP泥流を含む暗褐色土である。Hr-FP層上面でサクを確認した。この面における畑の中では最も新しい時期に属する。サク方位は、この面の畑の中ではやや東西南方向に傾いている。東側に位置する4号畑とは埋没土が同じで、方位も近いことから、区画は異なると考えられるが、同時期に存在した可能性がある。

3号畑(第751図 PL.158)

位置: 126 ~ 130・-539 ~ -543 サク数: 8条 規模: 3.04m × 1.96m 残存深度: 0.05m サク間幅: 0.04 ~ 0.4m サク方位: N-53°-E 遺物: なし 所見: 埋没土はHr-FP泥流を含む褐色土である。調査区東端部畑群の北側に位置する。Hr-FP層上面でサクを確認した。この面における畑の中では新しい時期に属するが、重複する同じ埋没土の畑との新旧関係は不明である。やや離れた西側に位置する4号畑などの畑群と近い方位である。

4号畑(第751図 PL.157)

位置: 126 ~ 139・-545 ~ -557 サク数: 23条 規模: 12.64m × (8.0)m 残存深度: 0.08m サク間幅: 0.28 ~ 0.6m サク方位: N-37°-E 遺物: なし 重複遺構: 5・6・11・12号畑に後出する。 所見: 埋没土はHr-FP泥流を含む暗褐色土である。Hr-FP層上面でサクを確認した。この面における畑の中では最も新しい時期に属する。サク方位は、この面の畑の中ではやや東西南方向に傾いている。東側は部分的にしか確認できず、短いサクとなっている。西側に位置する2号畑とは埋没土が同じで、方位も近いことから、区画は異なると考えられるが、同時期に存在した可能性がある。

5号畑(第752図 PL.157)

位置: 129 ~ 138・-548 ~ -553 サク数: 8条 規模: 5.72m × 4.72m 残存深度: 0.14m サク間幅: 0.28 ~ 0.56m サク方位: N-30°-E 遺物: なし 重複遺構: 4号畑に前出し、11・12号畑に後出する。 所見: 埋没土はHr-FP泥流を含む暗褐色土である。Hr-FP層上面でサクを確認した。2・4号畑の次の時期に属する。4号畑と方位は近く、重複する位置にあるが、5号畑は方位がやや北向きである。西側に位置する6号畑とは埋没土が同じで、方位も近いことから、区画は異なると考えられるが、同時期に存在した可能性がある。

6号畑(第752図 PL.157)

位置: 131 ~ 141・-552 ~ -567 サク数: 19条 規模: 10.36m × (7.36)m 残存深度: 0.1m サク間幅: 0.16 ~ 0.48m サク方位: N-24°-E 遺物: なし 重複遺構: 2・4号畑に前出し、7・8 ~ 10・12号畑に後出する。

所見: 埋没土はHr-FP泥流を含む暗褐色土である。Hr-FP層上面でサクを確認した。2・4号畑の次の時期に属する。2号畑と重複する位置にあるが、方位はやや北向きである。東側に位置する5号畑とは埋没土が同じで、方位も近いことから、区画は異なると考えられるが、同時期に存在した可能性がある。

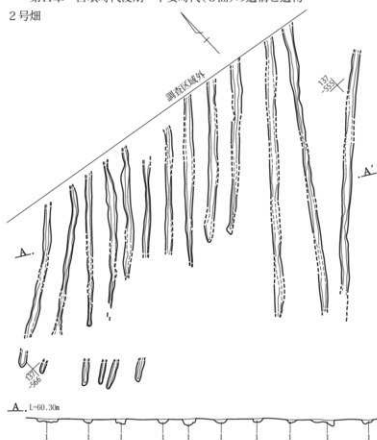
7号畑(第752図 PL.157)

位置: 137 ~ 141・-564 ~ -567 サク数: 2条 規模: (2.8)m × 0.52m 残存深度: 0.06m サク間幅: 0.12m サク方位: N-34°-E 遺物: なし 重複遺構: 6号畑に前出する。 所見: 埋没土はHr-FP泥流を含む暗褐色土である。Hr-FP層上面でサクを確認した。5・6号畑の次の時期に属する。畑が分布する範囲の西端で、サクを2条調査したに過ぎない。6号畑の方位に近いが、やや東に傾いている。やや離れた東側に位置する8号畑とは埋没土が同じであることから、区画は異なると考えられるが、同時期に存在した可能性がある。

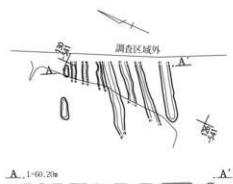
8号畑(第753図)

位置: 133 ~ 140・-555 ~ -559 サク数: 2条 規模: (5.8)m × 0.8m 残存深度: 0.08m サク間幅: 0.22m サク方位: N-15°-E 遺物: なし 重複遺構: 2・6号畑に前出する。 所見: 埋没土はHr-FP泥流を含む暗褐色土である。Hr-FP層上面でサクを確認した。5・6号畑の次の時期に属する。畑が分布する範囲の中央で、サ

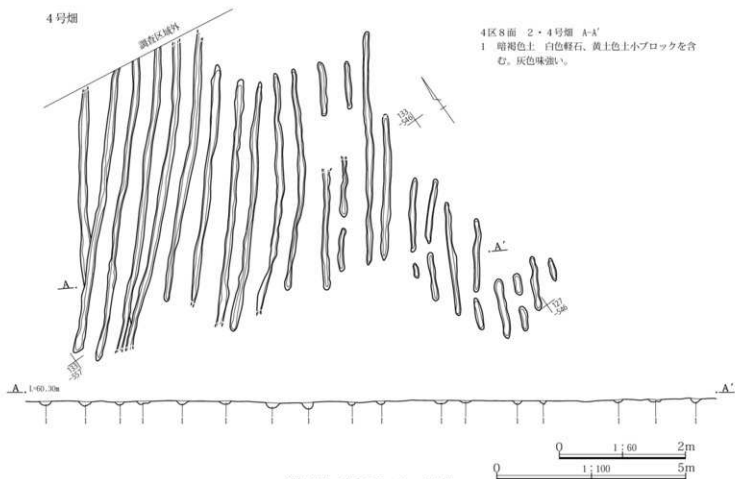
2号畑



3号畑

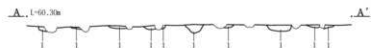
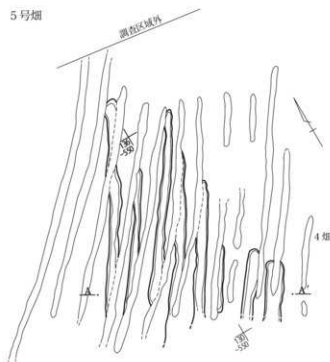


4号畑

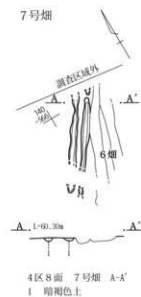


第751図 4区8面 2～4号畑

5号畑



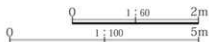
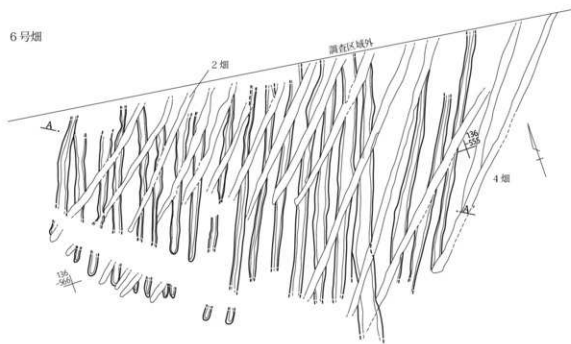
7号畑



4区8面 7号畑 A-A'
1 暗褐色土

4区8面 5・6号畑 A-A'
1 暗褐色土 白色軽石を少量、黄土色土小ブロックを
微量含む。灰色味強い。

6号畑



第752図 4区8面 5～7号畑

クを2条調査したに過ぎない。サクの方位や重複関係から、周囲の畑とは別の区画と認識したが、周囲の畑のいずれかに属する可能性もある。周囲の畑の中では方位が北向きである。やや離れた西側に位置する7号畑とは埋没土が同じであることから、区画は異なると考えられるが、同時期に存在した可能性がある。

9号畑(第753図 PL.157)

位置:134～137°-558～-563 サク数:3条 規模:3.52m×2.76m 残存深度:0.1m サク間幅:0.24m サク方位:N-24°-E 遺物:なし 重複遺構:2・6号畑に前出する。 所見:埋没土に関する情報が残存していないが、11号畑と同時期の可能性があり、Hr-FP泥流を含む暗褐色土の可能性もある。2・4～8号畑の調査後に精査した時に発見した。確認はHr-FP層を削平する途中であるが、跡き込みは2号畑などと同様にHr-FP泥流層上面である。7・8号畑の次の時期に属する。東端の1条は位置が離れており、本来は間にもサクがあったと考えられるが、重複等により確認できなかった可能性がある。10・11号畑とは、同一の調査過程で確認しており、これらは近接した時期に存在した可能性がある。

10号畑(第753図 PL.157)

位置:135～137°-560～-563 サク数:1条 規模:1.98m×0.16m 残存深度:0.03m サク方位:N-68°-E 遺物:なし 重複遺構:2・6号畑に前出する。 所見:埋没土に関する情報が残存していない。2・4～8号畑の調査後に精査した時に発見した。確認はHr-FP層を削平する途中であるが、跡き込みは2号畑などと同様にHr-FP泥流層上面である。7・8号畑の次の時期に属する。9号畑と同時に調査したが、新旧関係は不明である。1条のみの確認である。9・11号畑とは、同一の調査過程で確認しており、これらは近接した時期に存在した可能性がある。

11号畑(第753図 PL.157)

位置:129～138°-548～-557 サク数:15条 規模:8.36m×5.28m 残存深度:0.16m サク間幅:0.16～0.4m サク方位:N-33°-E 遺物:なし 重複遺構:2・6号畑に前出し、12号畑に後出する。 所見:埋没土はHr-FP泥流を含む暗褐色土である。2・4～8号畑の調査後に精査した時に発見した。確認はHr-FP層を削平する途中であるが、跡き込みは2号畑などと同様にHr-FP

泥流層上面である。7・8号畑の次の時期に属する。9・11号畑とは、同一の調査過程で確認しており、これらは近接した時期に存在した可能性がある。

12号畑(第753図 PL.158)

位置:129～134°-549～-560 サク数:10条 規模:8.68m×4.88m 残存深度:0.04m サク間幅:0.2m サク方位:N-75°-E 遺物:なし 重複遺構:2・4～6・11号畑に前出する。 所見:埋没土に関する情報が残存していない。9～11号畑の調査後に精査した時に発見した。確認はHr-FP層をさらに削平する途中であるが、確認面の標高が他の畑とほとんど変わらないことから、跡き込みは2号畑などと同様にHr-FP泥流層上面であると推測される。北東の畑群としては最古期である。サクはやや広い範囲にわたって分布しており、複数の区画を同一の畑と認識している可能性がある。また、サクの間隔が極端に開いているところもあることから、重複により確認できなかったサクが存在するものと考えられる。

13号畑(第754図 PL.158)

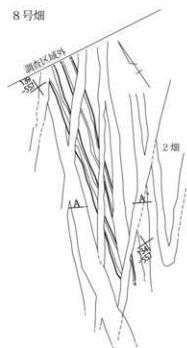
位置:123～127°-538～-543 サク数:6条 規模:(4.72)m×3.44m 残存深度:0.04m サク間幅:0.08～0.28m サク方位:N-87°-E 遺物:なし 所見:埋没土はHr-FP泥流を含む褐色土である。調査区東端部畑群の中央付近に位置する。Hr-FP層上面でサクを確認した。この面における畑の中では新しい時期に属するが、重複する同じ埋没土の畑との新旧関係は不明である。方位はほぼ東西方向である。サクの間隔は近く、幅も狭い傾向にある。

14号畑(第754図 PL.158)

位置:120～125°-537～-543 サク数:10条 規模:(5.48)m×3.32m 残存深度:0.03m サク間幅:0.06～0.6m サク方位:N-61°-W 遺物:なし 重複遺構:18・20号畑に後出する。 所見:埋没土はHr-FP泥流を含む褐色土である。調査区東端部畑群の中央付近に位置する。Hr-FP層上面でサクを確認した。この面における畑の中では新しい時期に属するが、重複する同じ埋没土の畑との新旧関係は不明である。方位はほぼ東西方向に近いが、北西から南東方向となっている。サクの間隔は近く、幅も狭い傾向にある。サクの間隔が離れている部分があるが、これは残存状況により確認できなかったためと考えられる。

4 4区の遺構

8号畑



8号畑
A. 1-60.30m A'

4区8面 8号畑 A-A'
1 暗褐色土

9号畑



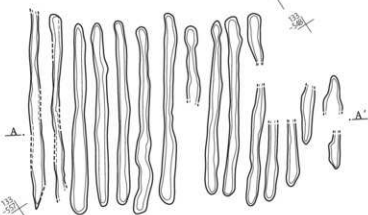
9号畑
A. 1-60.30m A'

10号畑



10号畑
A. 1-60.20m A'

11号畑



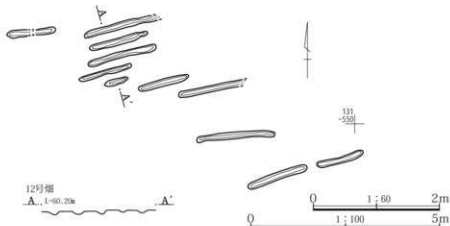
11号畑
A. 1-60.30m A'

12号畑



4区8面 11号畑 A-A'

1 暗褐色土 白色軽石を少量、黄土色土小ブロックを微量含む。色調暗い



12号畑
A. 1-60.20m A'

第753図 4区8面 8~12号畑

15号燧(第754図 PL.158)

位置: 125 ~ 128・-538 ~ -541 サク数: 6条 規模: (2.44)m × (2.16)m 残存深度: 0.06m サク間幅: 0.02 ~ 0.64m サク方位: N-17°-E 遺物: なし 所見: 埋没土はHr-FP泥流を含む褐灰色土である。調査区東端部畑群の中央やや北寄りに位置する。Hr-FP層上面でサクを確認した。この面における畑の中では新しい時期に属するが、重複する同じ埋没土の畑との新旧関係は不明である。方位は南北方向に近く、やや東側に傾いている。サクの間隔は近く、幅も狭い傾向にあるが、西端の1条とは間隔が開いており、確認できなかったサクが間に存在するか、別の畑のサクの可能性がある。

16号燧(第754図 PL.158)

位置: 120 ~ 125・-536 ~ -541 サク数: 4条 規模: 4.24m × 3.32m 残存深度: 0.06m サク間幅: 0.84 ~ 1.2m サク方位: N-67°-E 遺物: なし 重複遺構: 18・20号畑に後出する。所見: 埋没土はHr-FP泥流を含む褐灰色土である。調査区東端部畑群の中央やや南寄りに位置する。Hr-FP層上面でサクを確認した。この面における畑の中では新しい時期に属するが、重複する同じ埋没土の畑との新旧関係は不明である。方位は東西方向に近く、やや北東から南西方向となっている。サクの間隔は広いものの、幅は広がらない傾向にある。幅広の畝を持つ畑で、サクの底面近くだけを確認した可能性がある。

17号燧(第754図 PL.158)

位置: 121 ~ 124・-538 ~ -541 サク数: 4条 規模: 2.56m × 1.32m 残存深度: 0.06m サク間幅: 0.0 ~ 0.36m サク方位: N-26°-W 遺物: なし 重複遺構: 18・20号畑に後出する。所見: 埋没土はHr-FP泥流を含む褐灰色土である。調査区東端部畑群の中央やや南寄りに位置する。Hr-FP層上面でサクを確認した。この面における畑の中では新しい時期に属するが、重複する同じ埋没土の畑との新旧関係は不明である。方位は南北方向に近く、やや北西から南東方向となっている。サクの間隔は、重なり合っているところを除くと、やや広く、幅は西から2番目を除き狭い傾向にある。16号畑と同様にサクの底面近くを確認した可能性がある。

18号燧(第754図 PL.158)

位置: 120 ~ 124・-538 ~ -541 サク数: 6条 規模:

3.08m × 2.08m 残存深度: 0.03m サク間幅: 0.12 ~ 1.08m サク方位: N-18°-E 遺物: なし 重複遺構: 14・16・17号畑に前出し、20号畑に後出する。所見: 埋没土に関する情報が残存していない。調査区東端部畑群の中央やや南寄りに位置する。3・13 ~ 17号畑の調査後にHr-FP層を精査したときに発見した。確認はHr-FP層を削平する途中であるが、鋤き込みは3号畑などと同様にHr-FP泥流層上面である。この面における畑の中では、3・13 ~ 17号畑の次の時期に属する。方位は南北方向に近く、やや北東から南西方向となっている。サクの間隔は、ばらつきがあるが、間隔もサクの幅も本来は狭く、残存状態により確認できなかったサクがあり、間隔が開いている部分があるものと考えられる。

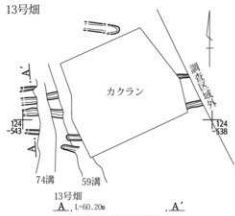
19号燧(第754図 PL.158)

位置: 121 ~ 124・-537 ~ -539 サク数: 3条 規模: 1.72m × 1.56m 残存深度: 0.04m サク間幅: 0.34 ~ 0.84m サク方位: N-65°-W 遺物: なし 重複遺構: 14・16号畑に前出し、20号畑に後出する。所見: 埋没土に関する情報が残存していない。調査区東端部畑群の中央やや南寄りに位置する。3・13 ~ 17号畑の調査後にHr-FP層を精査したときに発見した。確認はHr-FP層を削平する途中であるが、鋤き込みは3号畑などと同様にHr-FP泥流層上面である。この面における畑の中では、3・13 ~ 17号畑の次の時期に属する。方位は東西方向に近く、やや北西から南東方向となっている。サクの間隔はややばらつきがあるが、やや広い傾向にあり、サクの幅はやや狭い。

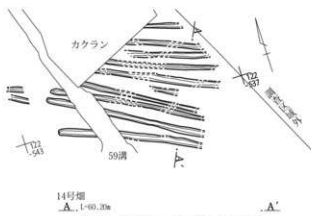
20号燧(第754図 PL.158)

位置: 120 ~ 122・-538 ~ -541 サク数: 1条 規模: 2.08m × 0.22m 残存深度: 0.05m サク間幅: - サク方位: N-62°-E 遺物: なし 重複遺構: 14・16・17 ~ 19号畑に前出する。所見: 埋没土に関する情報が残存していない。調査区東端部畑群の中央やや南寄りに位置する。18・19号畑の調査後にHr-FP層をさらに精査したときに発見した。確認はHr-FP層を削平する途中であるが、鋤き込みは3号畑などと同様にHr-FP泥流層上面である。この面における畑の中では、古い時期に属する。方位は東西方向に近く、やや北東から南西方向となっている。1条のみの確認であり、詳細は不明である。

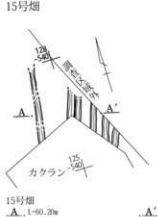
13号畑



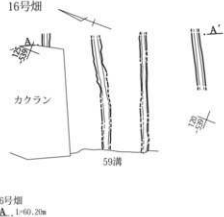
14号畑



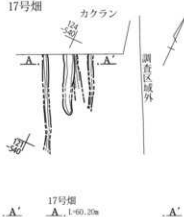
15号畑



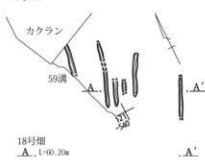
16号畑



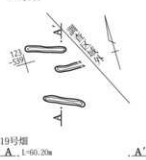
17号畑



18号畑



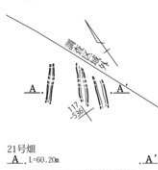
19号畑



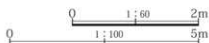
20号畑



21号畑

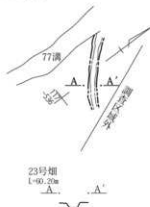


22号畑

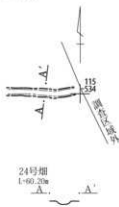


第754図 4区8面 13～22号畑

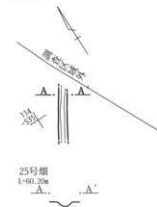
23号畑



24号畑



25号畑



第755図 4区8面 23～24号畑

21号畑(第754図 PL.158)

位置:116～119°-535～-537 サク数:3条 規模:1.64 m×1.0m 残存深度:0.06m サク間幅:0.2～0.76 m サク方位:N-29°-E 遺物:なし 所見:埋没土はHr-FP泥流を含む暗褐色土である。調査区東端部畑群の南に位置する。Hr-FP層上面でサクを確認した。この面における畑の中では新しい時期に属するが、重複する同じ埋没土の畑との新旧関係は不明である。方位は北東から南西方向である。北側のサクはやや離れており、間に確認できなかったサクが存在する可能性がある。

22号畑(第754図 PL.158)

位置:114～117°-534～-536 サク数:2条 規模:2.56 m×0.64m 残存深度:0.05m サク間幅:0.28m サク方位:N-14°-E 遺物:なし 所見:埋没土はHr-FP泥流を含む暗褐色土である。調査区東端部畑群の南に位置する。Hr-FP層上面でサクを確認した。この面における畑の中では新しい時期に属するが、重複する同じ埋没土の畑との新旧関係は不明である。方位は北東から南西方向であり、21号畑に近いが、東側への傾きが少ない。

23号畑(第755図 PL.158)

位置:117～119°-535～-537 サク数:1条 規模:1.92 m×0.28m 残存深度:0.06m サク間幅:- サク方位:N-51°-W 遺物:なし 所見:埋没土はHr-FP泥流を含む褐色土である。調査区東端部畑群の南に位置す

る。Hr-FP層上面でサクを確認した。この面における畑の中では新しい時期に属するが、重複する同じ埋没土の畑との新旧関係は不明である。方位は北西から南東方向である。やや湾曲したサクであるが、1条のみの確認であり、詳細は不明である。

24号畑(第755図 PL.158)

位置:114～116°-534～-536 サク数:1条 規模:1.6m×0.24m 残存深度:0.05m サク間幅:- サク方位:N-89°-E 遺物:なし 所見:埋没土はHr-FP泥流を含む褐色土である。調査区東端部畑群の南に位置する。Hr-FP層上面でサクを確認した。この面における畑の中では新しい時期に属するが、重複する同じ埋没土の畑との新旧関係は不明である。方位はほぼ東西方である。1条のみの確認であり、詳細は不明である。

25号畑(第755図 PL.158)

位置:113～115°-533～-535 サク数:1条 規模:1.44 m×0.24m 残存深度:0.07m サク間幅:- サク方位:N-32°-E 遺物:なし 所見:埋没土はHr-FP泥流を含む褐色土である。調査区東端部畑群の南に位置する。Hr-FP層上面でサクを確認した。この面における畑の中では新しい時期に属する。方位は北東から南西方向である。1条のみの確認であり、詳細は不明である。

5 5区の遺構と遺物

5区の8面に属する遺構としては、住居49軒、竪穴状遺構5基、溝8条、土坑10基、ピット2基である。5区では、調査区西端が低地となっており、遺構を確認できなかったが、北に位置する1区と同様に、古墳時代後期から平安時代にかけての集落を調査した。住居の軒数は、1区と比べると少ないが、これは5区の面積が狭いためであり、ほぼ同じ密度で住居が分布しているものと考えられる。ただし、奈良～平安時代の住居は15軒あり、1区と比べると多くなっている。

遺構の密度は1区同様に高いために確認が困難であった。さらに遺構の確認面も埋没土もほぼ同じ洪水起源と考えられる褐灰～灰黄褐色シルト質土であり識別しづらくなっていた。そのため、遺構の範囲や深度を確認するためトレンチを多要せざるを得ない状況であった。

(1)住居

1号住居(第756～758図 PL.160・232)

5区西側にある。北西隅が削平されている。残存状態が良好でなく全容が明らかでない。

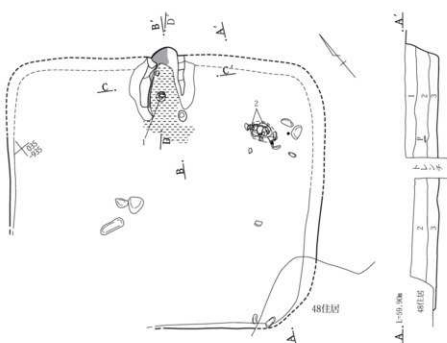
位置：030～036・930～935にある。

規模形状：西壁、南壁は直線的である。東壁、北壁は、若干曲線を描く。東西にやや長い丸みを帯びた長方形を呈している。主軸長(4.82)m、幅4.91mである。

埋没土・壁：順層の堆積物にどの層にも酸化鉄分が含まれる。にぶい黄褐色土及び灰黄褐色土で埋没しており、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.07mである。

方位：N-48°-E **面積**：(16.77)㎡ **床面**：北にやや傾斜している。南西部付近と0.04mの比高差がある。緩やかな凹凸がある。掘り方は確認できなかった。カマド内から前部にかけて炭が認められた。貯蔵穴、柱穴等の窪みは確認できなかった。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。

貯蔵穴：認められない。 **カマド**：北辺中央部に位置している。全長1.15m、幅1.04m、焚口幅0.47m、燃烧部幅0.43mである。燃烧部は、住居内から壁際にかけて確認された。火床上には、支脚の位置に土師器が据えられており、周囲には炭が分布している。煙道は確認できなかったが、袖壁は左右とも認められた。右袖先端に窪みを見るが、袖石の設置跡と思われる。袖材は、粘質土の黄橙色土であり、締まりが強い。内側正面が焼土化している。掘り方は確認でき、火床下0.12m前後掘り込んでいる。埋め土は、黄橙色粘質土粒を含む灰黄褐色シルト質土の上に灰層が見られる。 **重複遺構**：18・19号土坑、



1号住居 A-A'

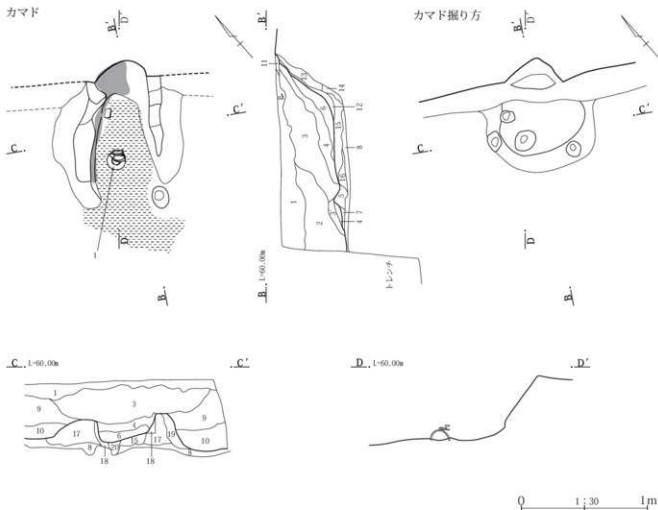
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。マンガンを多量、酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。マンガンを多量、酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや弱い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、細砂を微量含む。しまりやや弱い。

第756図 5区8面 1号住居

48号住居に前出しており、36号住居と重複している。

遺物：土師器(甕1点、鉢1点) カマド内、住居南東部を中心に遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。鉢(1)、甕(2)共に床直上の出土で、本住居に伴うもの

と考えられる。他に円礫が出土した。図示した以外に、土師器(杯類26片、甕類153片)が出土している。**所見(編属時期)：**出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考ええる。

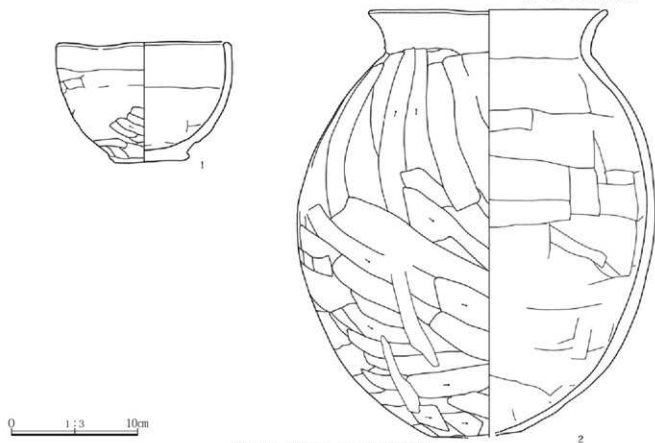


1号住居カマド B-B'・C-C'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土小ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土大ブロックを中量、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 3' 灰黄褐色土 シルト質土。3層に類するが、粘質土ブロックを多量含む。しまり弱い。
- 4 焼土ブロック
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土大ブロックを多量含む。しまり弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、炭化物を中量含む。しまり弱い。
- 7 灰層
- 8 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土粒を少量含む。しまり弱い。
- 9 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土小ブロックを少量含む。しまり弱い。

- 10 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土粒、にぶい黄褐色シルトブロックを少量含む。しまり弱い。
- 11 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土小ブロック、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 12 灰黄褐色土 シルト質土。焼土化している。しまりやや強い。
- 13 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 14 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土粒、灰を少量含む。しまり弱い。
- 15 灰層 黄褐色粘質土ブロック、焼土ブロック少量含む。
- 16 黄褐色土 粘質土。灰を少量含む。しまり弱い。
- 17 黄褐色土 粘質土。しまりやや強い。袖。
- 18 黄褐色土 粘質土。焼土化している。しまりやや強い。袖。
- 19 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土小ブロックを少量含む。しまりやや強い。袖。
- 20 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色粘質土粒、焼土粒を少量含む。しまり弱い。

第757図 5区8面 1号住居カマド



第758図 5区8面 1号住居出土遺物

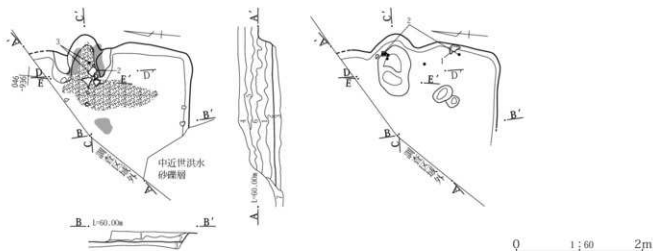
2号住居(第759・760図 PL.160・232)

5区北西部にある。南西部が中近世洪水砂礫層に壊されている。住居の南東部を除いた部分が調査区域外になっており、全容が把握できない。

位置：043～046・-936～-938にある。

規模形状：南壁、東壁南部は直線的で、2辺は直交する。整った方形を呈すると思われる。主軸長(1.52)m、幅(2.40)mである。**埋没土・壁**：灰黄褐色土主体の土で埋没している。灰白色シルト質土ブロック、焼土ブロック、炭化物を含んでいる。人為的な埋没であると思われる。壁高は0.14mである。**方位**：N-84°-E **面積**：(2.39)㎡ **床面**：南西に若干傾斜している。北東部付近と0.08mの比高差がある。緩やかな起伏があるが、およそ平坦である。カマド内から南東部にかけて灰が分布している。住居中央寄りに焼土を観察するが、灰であるかは明瞭でない。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められない。**掘り方**：確認できた。深さは0.06～0.1mである。埋め土は、浅黄褐色シルト質土である。灰、焼土粒を含み締まりが強い床層である。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：

認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：東辺中央部に位置すると思われる。全長0.78m、幅0.92m、焚口幅0.4m、燃焼部幅0.39m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、壁際から壁外にかけて認められる。火床上には灰が認められる。短い袖壁の内側には焼土が確認できた。右袖先端部には、礫が据えられており、焚口を構成していたと思われる。右袖石は、長さ0.16m、幅0.11m、厚さ0.12mである。袖材は、浅黄褐色シルト質土である。暗褐色粘質土ブロックを含み締まりが強い。掘り方では、火床下に0.25m程度の窪みが確認できた。埋め土は浅黄褐色土で、炭化物、灰、焼土粒を含む。上に灰層が見られる。**重複遺構**：13号土坑に後出している。**遺物**：土師器(甕2点、杯1点) カマド及びその周辺を中心に遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。甕(2・3)はカマド床直上から、杯(1)は東壁直下掘り方からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。図示した以外に、土師器(杯類30片、甕類129片)、須恵器(杯類3片)が出土している。**所見(帰属時期)**：出土遺物から、8世紀中頃であるとする。

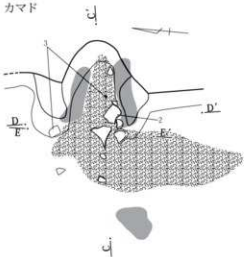


2号住居 A-A'・B-B'

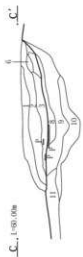
- 1 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色シルトブロックを中量、焼土ブロック、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、炭化物、灰を中量、灰白色シルトブロックを少量含む。しまり弱い。
- 3 浅黄褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土粒を中量含む。しまりやや強い。床層。

- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、As-珪石を少量含む。しまりやや強い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。As-珪石を少量含む。しまり弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。暗褐色マンガン凝集ブロックを多量含む。しまりやや強い。
- 7 灰白色土 細砂土。住居を切る洪水堆積層。しまりやや強い。

カマド

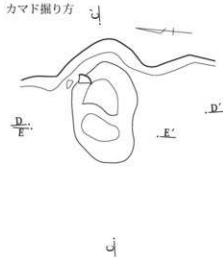


D, 1:60.00m



C, 1:60.00m

カマド掘り方



E, 1:60.00m

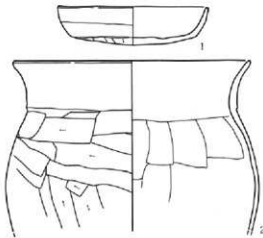
0 1:30 1m

2号住居カマド C-C'・D-D'

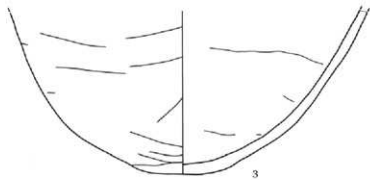
- 1 灰黄褐色土 シルト質土。暗褐色粘質土小ブロック、炭化物、灰を少量含む。しまり弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、灰を少量含む。しまり弱い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、炭化物、灰を中量含む。しまり弱い。床層。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを多量含む。しまり弱い。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。しまり弱い。

- 7 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、灰を中量含む。しまり弱い。
- 8 灰層 焼土ブロックを少量含む。
- 9 浅黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を中量含む。しまり弱い。
- 10 浅黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。しまり弱い。
- 11 浅黄褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土粒を中量含む。しまりやや強い。床層。
- 12 浅黄褐色土 シルト質土。暗褐色粘質土ブロックを中量含む。しまりやや強い。袖。
- 13 浅黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。

第759図 5区8面 2号住居



第760図 5区8面 2号住居出土遺物



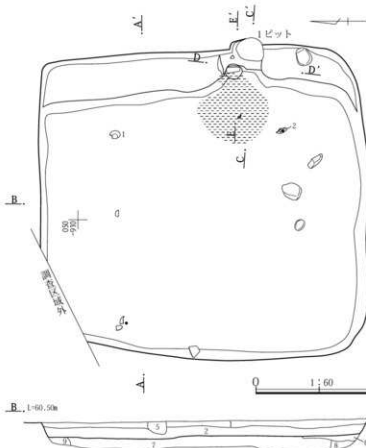
0 1:3 10cm

3号住居(第761・762図 PL.160・232)

5区中央部の住居群内にある。北西隅が調査区域外に

含まれる。残存状態は良好でない。

位置：045～050・-907～-912にある。



3号住居 A-A'・B-B'

1 暗褐色土 シルト質土。マンガン粒を中量、酸化鉄凝集、灰黄褐色土ブロックを少量含む。しまりやや弱い。

2 暗褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガン粒、灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。

3 にふい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガン粒を少量含む。しまりやや弱い。

4 暗褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。

5 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや弱い。

6 暗褐色土 シルト質土。炭粒、炭化物を微量含む。しまりやや弱い。

7 暗褐色土 シルト質土。炭化物、褐色土大ブロックを少量含む。しまりやや弱い。

8 にふい黄褐色土 シルト質土。暗褐色土小ブロックを中量、炭化物を少量含む。しまりやや弱い。

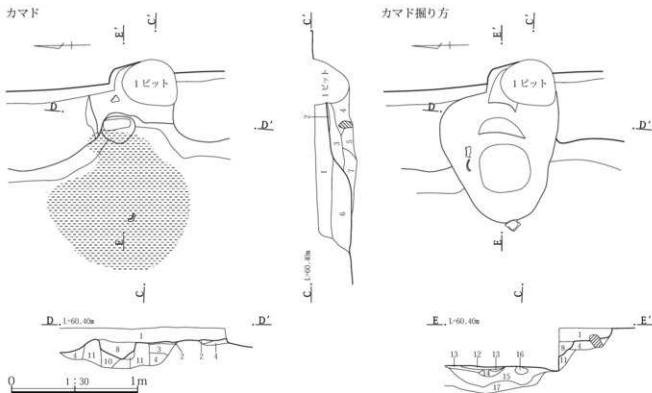
9 暗褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを微量含む。しまりやや弱い。

第761図 5区8面 3号住居、出土遺物

規模形状：北壁、東壁は直線的である。西壁、南壁はやや曲線を描く。北壁に対して南壁がやや長いと思われる方を呈している。主軸長4.53m、幅5.21mである。

埋没土・壁：暗褐色シルト質土で埋没している。灰黄褐色土ブロック、酸化鉄分を含む。締まりは弱い。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.25mである。**方位**：N-82°-W **面積**：(18.62)㎡ **床面**：傾斜はほぼない。西部と中央部に、緩やかな落ち込みが見られる。カマド前部に炭の分布が見られる。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは認められない。断面と平面より、東辺やや西寄りに段差を認める。東側が0.07～0.18m程高い。この段差は住居の東辺の棚状

の施設として使われていた可能性がある。**掘り方**：住居の床面に炭化物、褐色土ブロックを含む暗褐色土を埋戻して住居の掘り方としている。締まりは強い。深さは、0.16～0.26m程である。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：カマド跡にピット状の掘り込みを認めるが、このピットは異なる施設のものであると思われる。**貯蔵穴**：確認できない。**カマド**：新旧カマド双方ともに、東辺中央やや南寄りに位置する。古いカマドは、崩れが大きく煙道も確認できなかった。燃焼部は壁際と推察され、火床上に灰の分布は認められた。掘り方では、火床下に0.2m前後の掘り込みが認められた。暗褐色土主体の土で埋没しており、焼土ブロック、灰黄褐色土、



3号住居カマド C-C'・D-D'・E-E'

- 1 暗褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガン粒を少量含む。しまりやや弱い。
- 2 黒褐色土 灰層か。炭化物を多量、焼土粒を微量含む。しまりやや弱い。
- 3 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量、炭化物を微量含む。しまりやや弱い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを微量含む。しまりやや弱い。
- 5 暗褐色土 シルト質土。焼土粒、焼土小ブロックを少量、炭化物を微量含む。しまりやや弱い。
- 6 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを多量、酸化鉄凝集、マンガン粒を少量含む。しまりやや弱い。
- 7 暗褐色土 シルト質土。炭化物、灰をブロック状に中量含む。しまりやや弱い。

- 8 暗褐色土 シルト質土。焼土小ブロック、灰を中量、酸化鉄凝集、マンガン粒を微量含む。しまりやや弱い。
- 9 暗褐色土 シルト質土。焼土小ブロック、灰を中量含む。しまりやや弱い。
- 10 暗褐色土 シルト質土。炭化物を微量含む。しまりやや弱い。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガン粒を少量含む。しまりやや弱い。
- 12 暗褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を微量含む。しまりやや弱い。
- 13 黒褐色土 シルト質土。炭化物、灰を多量含む。しまり弱い。
- 14 灰黄褐色土 焼土小ブロック、灰を多量含む。粘性やや強い。しまり強い。
- 15 暗褐色土 焼土粒、炭化物、灰を微量含む。しまりやや弱い。
- 16 焼土ブロック
- 17 暗褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを少量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。

第762図 5区8面 3号住居カマド

黒褐色土の層を確認する。炭化物、焼土、灰を含む。東側に移動した新しいカマドも崩れが大きく、煙道は認められなかった。袖は認められ袖材は、にぶい黄褐色土で作っている。掘り方では、火床下に0.08mの窪みを確認できた。埋め土は暗褐色土であり、炭化粒子を含む。

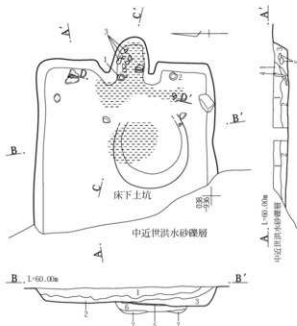
重複遺構: 15・28・30号住居に後出している。 **遺物:** 土師器(小型甕1点)、須恵器(杯)、石製品(不明2点)、鉄製品1点 カマド内及び住居全体に点在して出土した。そのうち土器2点、石製品1点を図示した。小型甕(2)は床直上の出土で本住居に伴うものと考えられる。杯(1)(須恵器)は床から0.1m以上浮いた状態であった。石製品(3)は埋没土出土のものであった。鉄製品については、本住居に伴うものか明瞭でない。他に円鏝が出土した。図示した以外に、土師器(杯類270片、甕類419片)、須恵器(杯類46片、甕類4片)が出土している。 **所見(帰属時期):** 出土遺物から、9世紀後半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が少ない。

4号住居(第763・764図 PL.160・232)

5区西部の住居群内の北西部を占める。西壁付近を中近世洪水砂礫層に壊されている。残存状態は良好でない。位置: 037~040・933~936にある。

規模形状: 北壁、東壁は直線的である。南壁は西に行くほど開いて歪んでいる。方形を呈していると思われる。

主軸長2.78m、幅(2.76)mである。 **埋没土・壁:** シルト質土のにぶい黄褐色土で埋没している。浅黄褐色、灰白色シルト質土ブロック、焼土粒を含む。壁側から埋められている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.27mである。 **方位:** N-67°-W **面積:** (5.77)㎡ **床面:** 南東に傾斜している。北西部付近と0.06mの比高差がある。緩やかな起伏があるが、およそ平坦である。カマド内からカマド前部及び南東方面に炭が分布している。中央部にも炭が分布し、直下に床下土坑の落ち込みを確認する。埋没土は、灰黄褐色土ブロックを含む暗褐色土の上ににぶい黄褐色土が埋戻されている。底と表面は締まりが強い。長さ1.16m、幅1.04m、深さ0.36mである。貯蔵穴、柱穴等の落ち込みは確認できず、掘り方: 認められなかった。 **壁溝:** 認められない。 **ピット(柱穴):** 認められない。 **貯蔵穴:** 認められない。 **カマド:** 東壁中央付近に位置する。全長0.84m、幅0.95m、焚口幅0.43m、燃烧部幅0.41mである。燃烧部は、壁際から壁外にかけてあり、火床上に炭の分布をみる。隣接して土師器片が出土している。煙道はなく、左右に短い袖壁がある。袖材は確認できなかった。掘り方は、火床下に0.18mに及んで掘り込んでおり床下土坑の可能性もあるが明瞭でない。埋め土は、黒褐色土である。炭化物、焼土粒を含む灰層であり締まりが弱い。 **重複遺構:** 35号溝に前出しており、37号溝・12号住居に後出している。



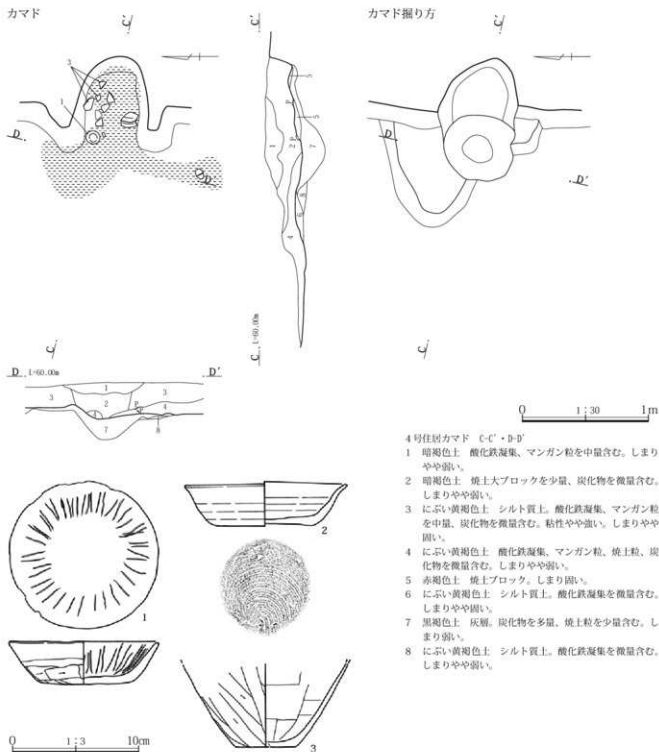
4号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト小ブロック、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色シルトブロックを中量含む。しまり弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト小ブロック、灰を少量含む。しまり強い。
- 4 明黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集層。しまり固い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を層状に多量、焼土粒を少量含む。しまりやや固い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや弱い。
- 7 暗褐色土 灰黄褐色土ブロックを中量、酸化鉄凝集を少量含む。粘性強い。しまり固い。

第763図 5区8面 4号住居

遺物：土師器(杯1点、甕1点)、須恵器(杯1点) カマド内及びその周辺を中心に遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1)、甕(3)は床から0.05m前後浮いている。杯(2)(須恵器)は床直上の出土であった。いずれの土器も本住居に伴うものと考えられる。他に円

礫が出土した。図示した以外に、土師器(杯類58片、甕類91片)、須恵器(杯類2片)が出土している。**所見(帰属時期)：**出土遺物、重複関係から、8世紀後半から9世紀にかけての住居であると考えられる。



第764図 5区8面 4号住居カマド、出土遺物

5号住居(第765・766図 PL.161・232)

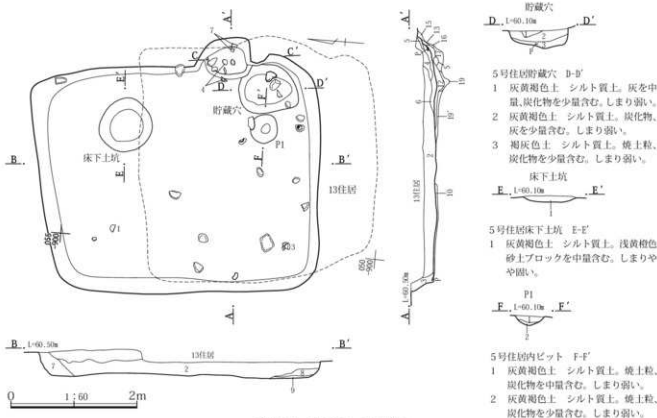
5区東部の住居群内にある。13号住居と重複しており、東壁・南壁を若干壊れているが、床面は影響を受けていない。残存状態は良好である。

位置：050～055・896～900にある。

規模形状：北壁は直線的である。東壁、西壁は丸みを帯びている。南壁は若干歪んでいる。西辺に対して東辺がやや長い。台形を呈している。主軸長4.53m、幅3.40mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色シルト質土で埋没している。焼土粒、炭化物、灰を含み、壁際には、明黄褐色砂土ブロックが観察される。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.34mである。方位：N-83°-W 面積：12.96㎡ 床面：傾斜はほぼない。緩やかな起伏を伴うが平坦である。北壁付近が0.06m、南壁付近が0.1mほど低く落ち込んでいる。貯蔵穴、柱穴、床下土坑を確認する。床下土坑は、長径0.97m、短径0.94m、深さ0.1mである。埋没土は、灰黄褐色シルト質土である。浅黄褐色砂土ブロックを含み縮まりが強い。掘り方：中央西側を中心に、0.04mほどの深さで確認できた。埋め土は、にぶい黄褐色シルト質土である。明黄褐色砂土ブロックを含み縮まりが強い

床層である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：南東隅に掘り込みを認める。位置よりP1は、規則的な主柱穴配置の1つであると思われる。長径0.48m、短径0.42m、深さ0.14mである。埋没土は、灰黄褐色シルト質土である。焼土粒、炭化物を含み、縮まりが弱い。

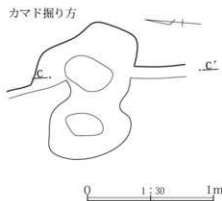
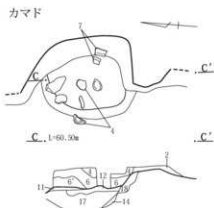
貯蔵穴：南東隅、カマド側に掘り込みを認める。位置と規模より、貯蔵穴と思われる。長径0.92m、短径0.78m、深さ0.28mである。埋没土は、焼土粒、炭化物を含む褐灰色シルト質土の上に炭化物、灰を含む灰黄褐色シルト質土が見られる。カマド：東壁中央南寄りに位置する。全長0.65m、幅0.76m、焚口幅は不明、燃焼部幅0.64mである。燃焼部は、壁際から壁外にかけて確認された。火床には支脚の礎が据えられていた。支脚は、長さ0.14m、幅0.07m、厚さ0.08mである。煙道は確認できなかった。袖は崩れが進んでいたが断面より、袖材は、焼土粒を含むにぶい黄褐色土である。粘質土で締りが強い。掘り方は、火床の下に0.2mの窪みが認められた。埋め土は、にぶい黄褐色シルト質土であり、灰、炭化物、焼土、明黄褐色砂土ブロックが混入している。表面は、灰、炭化物が多い。重複遺構：13・32号住居に後出している。



第765図 5区8面 5号住居

遺物:土師器(杯3点、甕1点)、須恵器(碗1点)、灰釉陶器(碗1点、瓶1点) カマド内及び住居南部を中心に遺物が出土した。そのうち土器7点を図示した。杯(1)は床より0.1m前後浮いている。杯(3)、甕(7)、碗(4)(須恵器)、は床直上の出土であった。杯(2)、碗(5)(灰釉陶器)、瓶(6)(灰釉陶器)は埋没土からの出土であった。杯(1・2)は床直上の出土のものもあるが混入の可

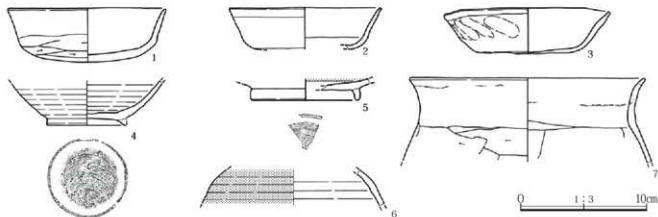
能性が高い。それら以外の土器はいずれも本住居に伴うものと考えられる。他に円礫が出土した。図示した以外に、土師器(杯類84片、甕類530片)、須恵器(杯類161片、甕類18片)、灰釉陶器(杯類6片)が出土している。 **所見(帰属時期):**出土遺物、重複関係から、9世紀後半であると思われる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が認められる。



5号住居 A-A'・B-B'・C-C'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼上粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物、灰を少量含む。しまり弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質上。明黄褐色砂土ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼上粒、灰を少量含む。しまり弱い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼上ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰を中量含む。しまり弱い。
- 6' にぶい黄褐色土 シルト質上。6層に類するが、焼上粒を少量含む。しまり弱い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質上。明黄褐色砂土小ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質上。明黄褐色砂土大ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質上。明黄褐色砂土大ブロックを多量含む。しまり弱い。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質上。明黄褐色砂土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。床礫。

- 11 にぶい黄褐色土 シルト質上。にぶい黄褐色シルトブロック、焼上粒、灰を少量含む。しまり弱い。
- 12 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰を多量、炭化物を中量含む。しまり弱い。
- 13 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼上粒を少量含む。しまり弱い。
- 14 にぶい黄褐色土 シルト質上。明黄褐色砂土ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 15 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼上ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 16 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼上ブロック、灰を中量含む。しまり弱い。
- 17 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼上ブロック、炭化物、灰、明黄褐色砂土小ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 18 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼上粒を少量含む。しまりやや弱い。土。
- 19 にぶい黄褐色土 シルト質上。明黄褐色砂土ブロック、焼上粒を中量含む。しまり弱い。
- 19' にぶい黄褐色土 シルト質上。明黄褐色砂土ブロック、焼上粒を少量含む。しまりやや弱い。



第766図 5区8面 5号住居カマド、出土遺物

6号住居(第767～769図 PL.161・233)

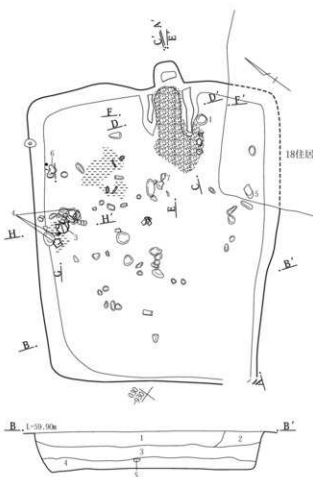
5区西部の住居群内にある。残存状態は比較的良好。

位置：028～034・925～930にある。

規模形状：北壁、西壁は直線的である。東壁と南壁はやや歪んでいる。東西に長い長方形を呈している。主軸長(4.75)m、幅3.36mである。埋没土・壁：まず上層に炭化物層のあるにぶい黄褐色土で埋没している。灰黄褐色土ブロック、焼土粒、炭化物を含み締まりが強い。その後、にぶい黄褐色土ブロックを含む灰黄褐色土で埋没している。微砂質で締まりが強い。その上に南は、にぶい黄褐色土、北は暗褐色土で埋没している。共に、灰黄褐色土ブロックを含み、締まりの強いシルト質土である。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.58mである。

方位：N-43°-E 面積：(14.42)㎡ 床面：傾斜はほぼない。中央部からカマド寄りの地点が、0.06m程落ち込んでいる。カマド内部から前部にかけて、灰の分布がみられる。北東隅には、炭が集中して分布している。

住居北壁直下には焼土灰集中が観察される。礫と土器が、焼土ブロック、粘性の強い灰黄褐色土ブロックを含む暗褐色土で埋没しており、役割が卒に近い施設の可能性がある。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められなかった。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央やや南寄りに位置する。全長1.18m、幅0.89m、焚口幅0.45m、燃焼部幅0.39m、煙道は壁外側に0.36m張り出している。両軸は確認できた。袖材は、灰白色粘土ブロックを含む粘性のある暗褐色シルト質土であり、締まりが強い。内側表面は焼土化している。燃焼部は壁際であり、火床には灰が分布している。掘り方では、火床下に0.12mの掘り込みを確認する。埋め土はにぶい黄褐色シルト質土であり、焼土粒、灰を含み、粘性があり締まりが弱い微砂質である。上層に、褐色土ブロック焼土粒を含む灰層の黒色土が見られる。重複遺構：18・20・21号土坑、38・39号住居に後出しており、



G, 1-00.00m



H, 1-00.00m



6号住居 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色土ブロックを少量含む。しまりやや強い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土ブロックを中量含む。しまりやや強い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。マンガン粒、にぶい黄褐色土ブロックを少量含む。しまりやや強い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土ブロックを中量、焼土粒、炭化物を少量含む。上層に炭化物層あり。しまりやや強い。

6号住居焼土灰集中 C-C'・H-H'

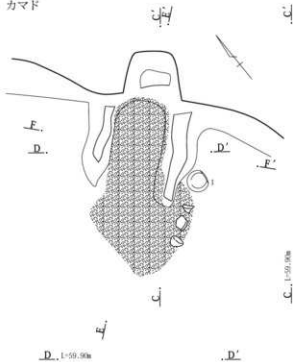
- 1 暗褐色土 シルト質土。焼土粒、焼土小ブロック、灰を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 シルト質土。焼土ブロックを多量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 3 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。

0 1:60 2m

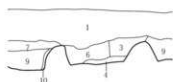
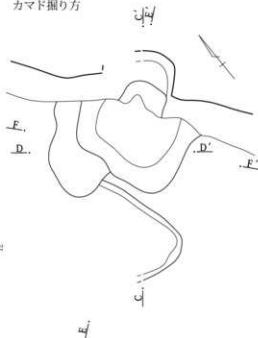
第767図 5区8面 6号住居

第11章 古墳時代後期～平安時代(8面)の遺構と遺物

カマド



カマド掘り方



6号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまりやや弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。暗褐色土大ブロック、焼土小ブロックを中量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 3 暗褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量、炭化物を微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 4 暗褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土ブロックを中量含む。しまり強い。
- 5 暗褐色土 シルト質土。焼土ブロック、粘質土ブロックを中量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまりやや強い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量、炭化物を微量含む。しまりやや強い。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを微量含む。しまりやや強い。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土ブロックを中量含む。しまりやや弱い。
- 10 暗褐色土 シルト質土。焼土粒、粘質土小ブロック、灰を少量含む。しまりやや強い。
- 11 にぶい黄褐色土 粘質土。粘質土ブロックを多量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 12 黒色土 灰層。焼土粒を微量含む。しまりやや強い。

E, 1:50.00m

E'

E, 1:50.00m

E'



6号住居カマド E-E'・F-F'

- 1 赤褐色土 焼土層。褐色土ブロックを少量含む。しまり強い。
- 2 黒色土 灰層。褐色土ブロック、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 3 暗褐色土 粘質土。焼土粒を少量含む。粘性強い。しまり強い。
- 4 暗褐色土 焼土層。左面が顕著に焼土化。粘性やや強い。しまり強い。
- 5 暗褐色土 粘質土。灰白色粘質土小ブロックを少量含む。粘性強い。しまり強い。
- 6 暗褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。粘性やや強い。しまり強い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。しまりやや強い。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや強い。

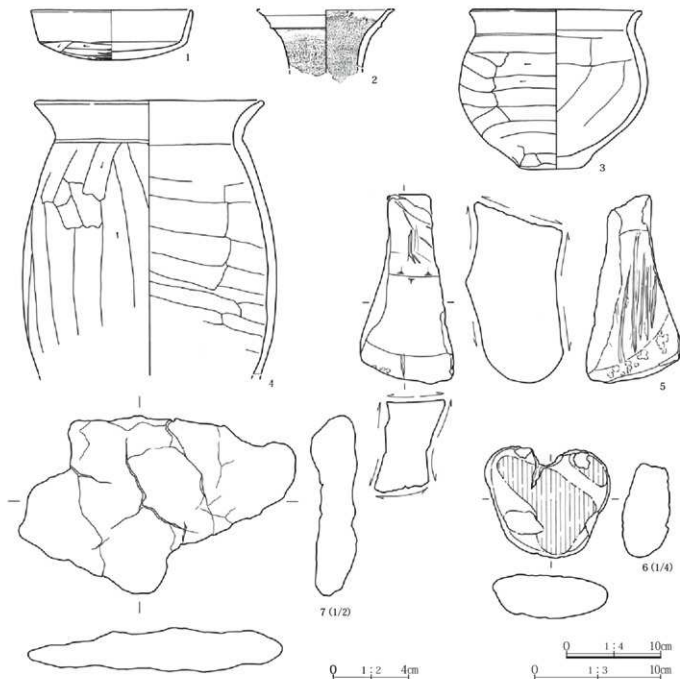
0 1:30 1m

第768図 5区8面 6号住居カマド

18号住居に前出している。36号住居と重複している。

遺物：土師器(杯1点、小型甕1点、甕1点)、須恵器(壺1点)、石製品2点(砥石、不明)、礫石器1点(磨石)、石造物(板碑片1点)、鉄製品1点、羽口1点 住居北部を中心に全体的に点在して遺物が出土した。のうち土器4点、石製品2点、鉄製品1点を図示した。杯(1)は床直上であった。小型甕(3)、甕(4)、壺(2)(須恵器)は、床上0.2m以上の高い位置及び埋没土から出土しており、住居廃絶時に投棄されたと思われる。石製品は、砥石(5)

が床直上で、不明石製品(6)については床から0.45m浮いて出土した。鉄製品(7)は鋳造品であり、床上0.49mからの出土であった。本住居に伴うものか明瞭でない。他に円礫の出土もあるが、図示した以外に、土師器(杯類226片、甕類564片)、須恵器(杯類1片、甕類13片)が出土している。 所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であるとする。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が少ない。



第769図 5区8面 6号住居出土遺物

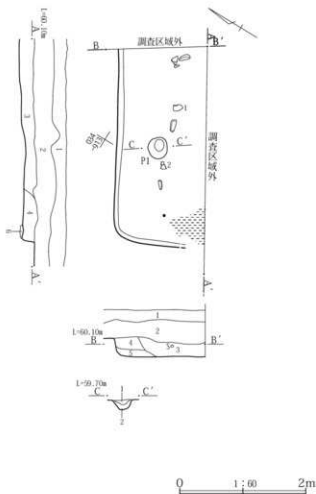
7号住居(第770図 PL.161)

5区西部住居群内の南東隅にある。住居の北西部を除いた部分が調査区外であり、全容を把握できない。

位置：031～034・-910～-914にある。

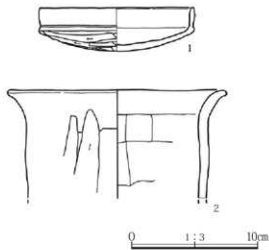
規模形状：北壁、西壁共に直線的で、直交している。整った方形を呈していると推察される。長軸長(3.17)m、短軸長(1.44)mである。埋没土・壁：暗褐色土主体の土で埋没している。北壁際にはふい黄褐色土が見られる。酸化鉄分を含み締まりが強い。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.15mである。方位：N-59°-E
面積：(4.05)m² 床面：傾斜はほぼないが、緩やかな起伏がある。住居の西壁付近が0.06m～0.1m程床が高くなっている。西壁直下に炭が集中して分布している。柱穴と思われる窪みも確認された。掘り方：認められなかった。壁溝：断面より西壁に認められた。埋没土は、黒褐色土であり、焼土粒、灰、炭化物を含む。幅0.22m、深さ0.05mである。ピット(柱穴)：住居北西隅に掘り

込みを認める。位置よりP1は、規則的な主柱穴配置の1つであると思われる。埋没土は、褐色ブロックを含む黒褐色土の上に灰黄褐色土を含むふい黄褐色土が見られる。双方締まりが弱く微砂質である。長径0.34m、短径0.3m、深さ0.16mである。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：なし 遺物：土師器(杯1点、甕1点)、石造物(板碑片1点) 住居北西隅から遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。甕(2)は床から0.07m浮いた出土で、杯(1)は床直上の出土であった。杯は本住居に伴うものと考えられる。板碑片は上面からの混入であり、本住居に伴うものではない。他に円礫の出土もあった。図示した以外に、土師器(杯類75片、甕類244片)、須恵器(杯類11片、甕類11片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、7世紀前半であると考え。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が少ない。



7号住居 A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色シルト層。
 - 2 におい黄褐色細砂混入層。
 - 3 暗褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガング粒を少量含む。しまりやや強い。
 - 4 暗褐色土 シルト質土。マンガング粒を少量、炭化物を微量含む。しまりやや弱い。
 - 5 におい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
 - 6 黒褐色土 焼土粒を微量、灰、炭化物を顆粒に含む。しまりやや弱い。
- 7号住居内ピット C-C'
- 1 におい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを多量含む。しまりやや弱い。
 - 2 黒褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを微量含む。しまりやや弱い。



第770図 5区8面 7号住居、出土遺物

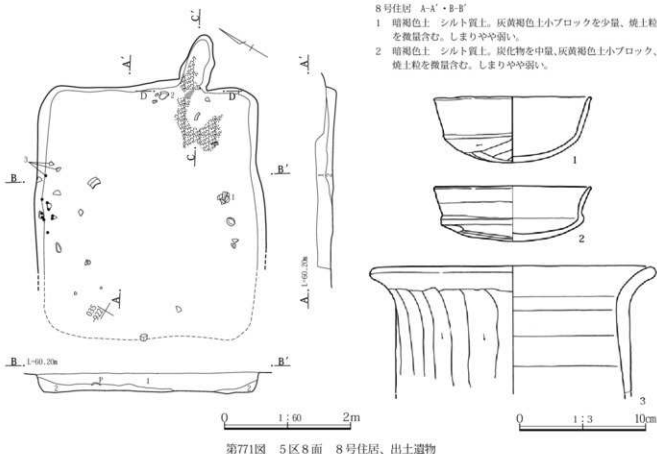
8号住居(第771・772図 PL.161・162・233)

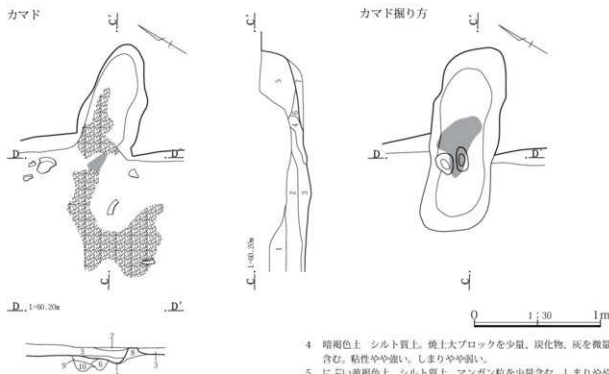
5区西部住居群内にある。西壁付近は削平されており、残存状態は良くない。

位置：032～037・-917～-922にある。

規模形状：各辺直線形であるが、若干歪んでいる。東西に長い方形を呈していると推察される。主軸長(4.01)m、幅3.46mである。埋没土・壁：暗褐色土で埋没している。炭化物、灰黄褐色土ブロック、焼土粒を含む。壁側から埋もれている状況がみられ自然堆積と思われる。壁高は0.27mである。方位：N-76°-E 面積：(12.78)㎡ 床面：傾斜はほぼなく、僅かに起伏があるが平坦である。北壁、南壁付近が0.04m程落ち込んでいる。カマド内から前部にかけて灰の分布が見られる。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認めない。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央やや南寄りに位置する。全長0.93m、幅0.58m、焚口幅0.31m、燃燒部幅0.29m、煙道は壁外側に0.82m突出している。燃燒部は、壁際から壁外にかけて確認され、火床上では、焼土と灰が認められた。灰は煙道まで分布が及んでいた。

袖は明確に確認できなかったが、断面より袖材は、暗褐色シルト質土である。黄褐色土ブロックを含み粘性が強く締まりが固い。掘り方は、火床下に0.08mの窪みが認められ、埋め土の暗褐色土に、焼土ブロック、灰ブロックを含む。支脚が掘えられたと推定される位置にピット状の窪みがある。重複遺構：3・5区竪穴状遺構に後出している。遺物：土師器(杯2点、甕1点)、石製品(砥石1点) カマド周辺、住居北部、南部に点在して遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1)は床直上の出土であるが時期が古い。杯(2)は床直上の出土であり本住居に伴うものであると考えられる。甕(3)は、床直上から埋没土まで点在しており、住居廃絶時に投棄されたものであると思われる。砥石については、本住居に伴うものであるか明瞭でない。他に川原石状の礫の出土はほとんどなかった。図示した以外に、土師器(杯類69片、甕類282片)、須恵器(甕類1片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半であると思われる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期的に差があると考えられる。





8号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄塊集、マンガン粒を中量含む。しまりやや弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄塊集、マンガン粒、炭化物を微量含む。しまりやや弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量、焼土粒を微量含む。しまりやや弱い。

第772図 5区8面 8号住居カマド

9号住居(第773・774図 PL.162・233)

5区東部住居群内にある。8号溝が住居南部を東西に走り床面を壊している。南壁は調査区域外にある。残存状態は良好でない。

位置：048～053・-889～-893にある。

規模形状：各辺直線的で直交している。整った方形を呈していると推察できる。主軸長3.89m、幅(3.56)mである。**埋没土・壁**：にぶい黄褐色シルト質土で埋没している。灰黄褐色土ブロック、炭化物を含む。締まりが弱い。壁側から埋もれている状況がみられ自然堆積と思われる。壁高は0.24mである。**方位**：N-65°-E **面積**：(12.32)㎡ **床面**：傾斜はなく、およそ平坦である。東壁から0.3m、西壁から0.2mの範囲で、各々0.06m程度落ち込んでいる。カマド内から前部にかけて炭の分布が認められる。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できなかった。**掘り方**：認められなかった。また、4面8号溝が、床面を突き抜けて、住居南側を東西に切っている。

- 4 暗褐色土 シルト質土。焼土大ブロックを少量、炭化物、灰を微量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。マンガン粒を少量含む。しまりやや弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを多量含む。しまりやや弱い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。マンガン粒を微量含む。しまりやや弱い。
- 8 暗褐色土 シルト質土。黄褐色土小ブロックを少量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 9 暗褐色土 シルト質土。灰をブロック状に多量含む。しまりやや弱い。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまりやや弱い。

る。幅0.42～0.68m、深さ0.4mである。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央付近に位置すると思われる。全長1.08m、幅0.89m、焚口幅0.51m、燃焼部幅0.53m、煙道は確認できなかった。燃焼部は住居内にあり、火床掘り方には支脚の跡が据えられており、周囲には炭が分布し、焼土も観察できた。支脚は、長さ0.33m、幅0.15m、厚さ0.13mである。右袖壁先端部分に石が据えられ、焚口構築材の一部であると思われる。袖材は、灰黄褐色土である。内側は焼土化しており炭化物を含み締まりが強い。袖石は、長さ0.43m、幅0.22m、厚さ0.14mである。また、右袖側には土師器杯などの土器片が出土している。掘り方では、両袖先端部に窪みがあることから、焚口が構成されていたと思われる。火床下には0.12m前後の掘り込みがあり、埋め土は、下層ににぶい黄粘土で焼土粒、灰を含み、上層が灰層で焼土を含む。重複遺構：8号溝に前出しており、16号住居に後出している。

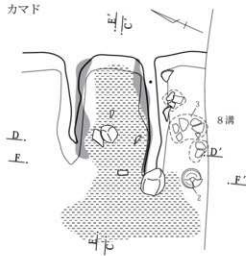
遺物：土師器(杯2点、甕1点)、鉄製品1点 カマド内及びカマド周辺を中心に遺物が出土した。そのうち土器3点、鉄製品1点を図示した。杯(1・2)、甕(3)はいずれも床直上の出土であり本住居に伴うものであると考えられる。不明鉄製品(4)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。図示した以外に、土師器(杯類22片、甕類64片)、須恵器(甕類1片)が出土している。**所見(帰属時期)**：出土遺物、重複関係から、6世紀後半から7世紀前半の住居である。床直上の出土遺物に时期的な差があると考ええる。

9号住居 A-A'・B-B'

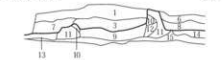
- 1 にふい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまり弱い。
2 にふい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色シルトブロックを少量含む。しまり弱い。

0 1:60 2m

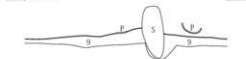
カマド



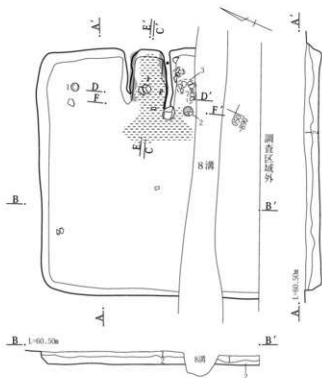
D, 1:60.50m



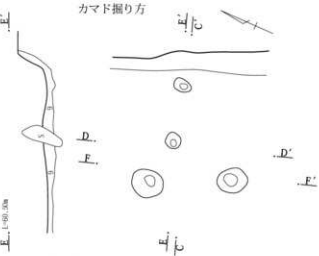
E, 1:60.50m



0 1:30 1m



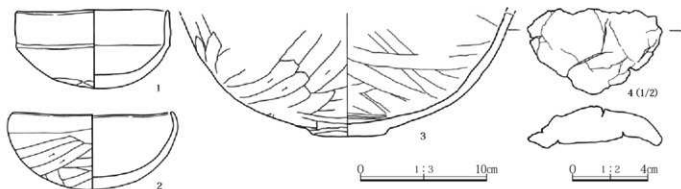
カマド掘り方



9号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。焼上粒、灰を少量含む。しまり弱い。
2 灰黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。しまり強い。
3 灰黄褐色土 シルト質土。焼上ブロック、灰を中量含む。しまり弱い。
4 にふい黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。しまり弱い。
5 灰黄褐色土 シルト質土。焼上ブロックを中量、灰を少量含む。しまり弱い。
6 灰黄褐色土 シルト質土。焼上粒を少量含む。しまり強い。
7 灰黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色粘質土小ブロックを少量含む。しまり弱い。
8 灰黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。
9 灰層 焼上粒を少量含む。
10 灰黄褐色土 シルト質土。焼上化している。しまりやや固い。袖。
11 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまりやや固い。袖。
12 灰黄褐色土 シルト質土。灰を多量含む。前段階の使用面か。しまり弱い。
13 灰黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。しまりやや固い。床層。
14 灰黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼上粒を少量含む。しまりやや固い。床層。
15 にふい黄褐色土 シルト質土。焼上粒、灰を少量含む。しまり弱い。
16 灰黄褐色土 シルト質土。焼上ブロックを中量含む。しまり弱い。
17 にふい黄褐色土 シルト質土。焼上ブロック、灰を中量含む。しまり弱い。
18 にふい黄褐色土 シルト質土。焼上粒を中量含む。しまり弱い。

第773図 5区8面 9号住居



第774図 5区8面 9号住居出土遺物

10号住居(第775～777図 PL.162・233)

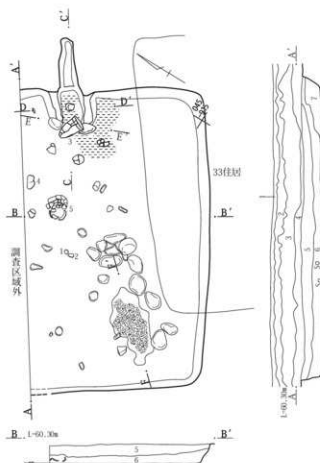
5区東部住居群内にある。住居北部が調査区域外にあり全容が明らかでない。残存状態は良好である。

位置：042～047・914～920にある。

規模形状：東壁、西壁は直線的であり南面はやや丸みを帯びている。各辺直交しており整った方形をしていると推察される。主軸長4.78m、幅(2.91)mである。

埋没土・壁：にぶい黄褐色土主体の土で埋没している。下

層は、焼土粒、炭化物、灰を含み、上層及び東壁際は、浅黄褐色粘質土ブロックを含む。締まりは弱い。壁側から埋もれている状況がみられ自然堆積と思われる。壁高は0.3mである。方位：N-59°-E 面積：(12.38)㎡
床面：傾斜はなく、およそ平坦である。中央部付近が0.03m程盛り上がっている。カマド内から前部にかけて炭の分布が見られる。住居南西部に配石に囲まれるように粘土塊が認められた。居住に関する施設であると思われる



10号住居 A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。2面畑耕作土。しまり弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。にぶい黄褐色シルトブロックを中量。As-B軽石を少量含む。しまりやや弱い。
- 3 にぶい黄褐色土(薄い) シルト質土。しまり粘性弱い。
- 4 にぶい黄褐色土(濃い) シルト質土。しまり粘性弱い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色粘質土小ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物、灰を少量含む。しまり強い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色粘質土小ブロックを中量。焼土粒、炭化物を少量含む。



10号住居粘質土塊 F-F'

- 1 暗灰黄色土 粘質土。灰白色粘質土粒。小ブロックを中量含む。粘性強い。しまりやや弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色粘質土小ブロックを微量含む。しまり弱い。

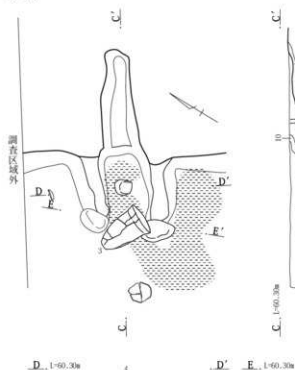


第775図 5区8面 10号住居

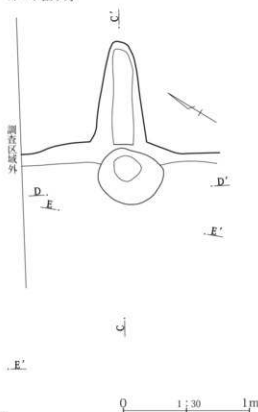
が、明瞭ではない。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できなかった。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央付近に位置すると思われる。全長1.36m、幅0.85m、焚口幅0.27m、燃焼部幅0.32m、煙道は壁外側に0.83m張り出している。燃焼

部は、住居内にあり、火床掘り方には支脚の礎が据えられ炭が分布していた。支脚は、長さ0.17m、幅0.14m、厚さ0.12mである。両袖先端部分に袖石が据えられており、焚口直上には土師器臺が設置されていた。右袖石は、長さ0.35m、幅0.19m、厚さ0.17mである。左袖石は、長さ0.32m、幅0.17m、厚さ0.15mである。袖材は、粘

カマド



カマド掘り方



10号住居カマド C-C'・D-D'

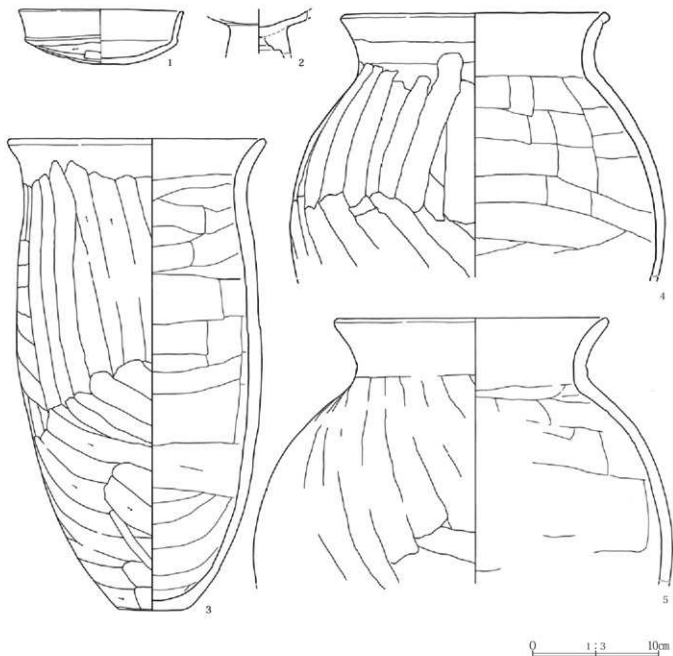
- 1 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色粘質土粒を少量含む。しまり弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色粘質土粒を少量含む。しまり弱い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色粘質土ブロック、焼土ブロック、炭化物を少量含む。
- 4 灰黄褐色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 5 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色粘質土大ブロックを中量、焼土ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色粘質土ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 7 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色粘質土大ブロックを多量含む。袖の崩れか。しまり弱い。
- 8 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色粘質土大ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 9 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色粘質土小ブロック、焼土ブロック、灰を少量含む。しまり弱い。
- 10 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色粘質土ブロック、焼土ブロックを中量、灰を少量含む。しまり弱い。

- 11 灰黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を中量含む。しまり弱い。
- 12 灰黄褐色土 シルト質上。焼土粒、焼土ブロックを中量、浅黄褐色粘質土小ブロック、灰を少量含む。しまり弱い。
- 13 灰黄褐色土 シルト質上。灰を多量、焼土ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 14 灰黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。しまり弱い。
- 15 灰黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量、浅黄褐色粘質土小ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 16 灰黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 17 灰黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。しまり弱い。
- 18 灰黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 19 灰黄褐色土 シルト質上。灰を中量、浅黄褐色粘質土小ブロック、焼土ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 20 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色粘質土小ブロック、焼土ブロックを中量含む。しまりやや強い。袖。
- 21 灰黄褐色土 シルト質上。焼土化している。しまりやや強い。袖。
- 22 浅黄褐色土 粘質土。焼土粒を少量含む。しまりやや強い。袖。
- 23 灰黄褐色土 シルト質上。灰を少量含む。しまりやや強い。
- 24 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色粘質土粒を少量含む。しまり弱い。

第11章 古墳時代後期～平安時代(8面)の遺構と遺物

質土の浅黄橙色土の上に灰黄褐色シルト質土を塗り込んでいる。内側は焼土化しており、上層には浅黄橙色粘質土ブロックを含む。いずれも締まりが強い。これらの構築材で焚口を構成していたと思われる。掘り方は、火床下に0.12mの掘り込みが確認できた。埋没土は灰黄褐色土であり、灰、焼土を含む。 **重板遺構**：33号住居に前出している。 **遺物**：土師器(杯1点、高杯1点、甕3点)カマド内部および周辺を中心にして住居全体に点在して

遺物が出土した。そのうち土器5点を図示した。杯(1)と高杯(2)は床から0.15m程浮いていた。甕(3・4・5)は床直上の出土であり本住居に伴うものであると考えられる。他に円礫の出土も多く見られたが、図示した以外に、土師器(杯類39片、甕類280片)、須恵器(杯類1片、甕類4片)が出土している。 **所見(帰属時期)**：出土遺物から、6世紀後半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が少ない。



第777図 5区8面 10号住居出土遺物

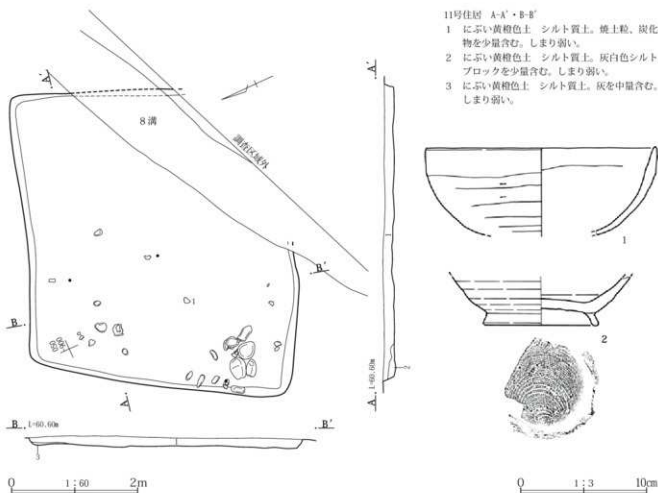
11号住居(第778図 PL.162)

5区東部住居群内にある。8号溝により南東隅を壊されており、外側は調査区域外になっていて全容が明らかでない。全体的に削平が進んでおり、残存状態は良好でない。

位置：046～050・-896～-902にある。

規模形状：各辺直線的だが、北西隅が鈍角で交わっているため、全体として歪んでいる。北辺に対して南辺が長い方形を呈していると推察される。長軸長(4.50)m、短軸長4.23mである。埋没土・壁：にぶい黄橙色シルト質土で埋没している。炭化物、焼土粒を含む。西壁際は灰白色シルト質土ブロックを含み、北壁際は灰を含んでいる。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と思われる。壁高は0.17mである。方位：N-72°-W 面積：(14.18)m² 床面：南にやや傾斜しており、北西部付近と0.04mの比高差がある。細かな起伏が多いが、およそ平坦である。住居南西隅に配石を確認するが、こ

の住居の施設であるかは明瞭でない。貯蔵穴、柱穴等の窺みは確認できなかった。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：13・14号住居、8号溝に前出しており、2号竪穴状遺構に後出している。遺物：土師器(杯1点)、須恵器(椀1点) 住居北部から西部中心にして遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は床直上の出土であり本住居に伴うものであると考えられる。椀(2)(須恵器)は、14号住居からも破片が出土しており本住居に伴うものであるか明瞭でない。他に円礫の出土があったが、図示した以外に、土師器(杯類115片)、甕類127片)、須恵器(杯類36片、甕類7片)、灰陶陶器(杯類2片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、8世紀後半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差がある。



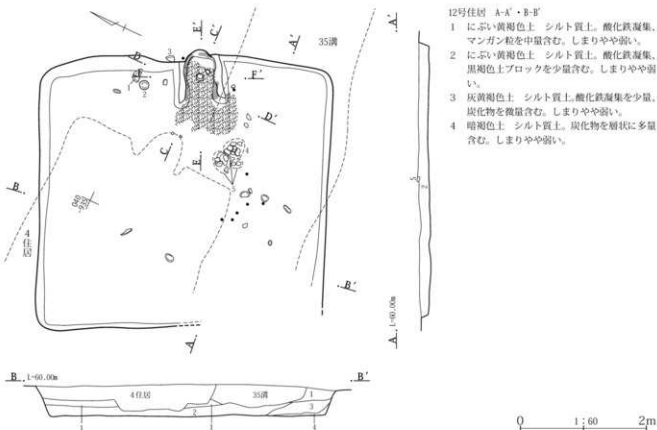
第778図 5区8面 11号住居、出土遺物

12号住居(第779～781図 PL.162・163・234)

5区西部住居群内にある。4住居により北西隅から、35号溝により南東隅から浸食を受けているが、床面はこわされていない。南西隅は中近世洪水砂礫層の影響を受けている。残存状態は良好でない。

位置：035～041・-931～-937にある。規模形状：北壁、西壁、南壁は直線的であり、東壁がやや丸みを帯びる。各辺直交しており、整った方形を呈している。主軸長4.23m、幅4.65mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色土で埋没している。酸化鉄分の影響を受けており、下層は黒褐色土ブロックを含む。南壁際は炭化物を含む灰黄褐色土と暗褐色土で埋没している。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.32mである。方位：N-65°-E 面積：(16.43)m² 床面：傾斜はほぼなく、わずかな起伏を伴いおおよそ平坦である。カマド内から前部にかけて焼土の分布を観察する。貯蔵穴、柱穴等の窪みは確認できなかった。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。

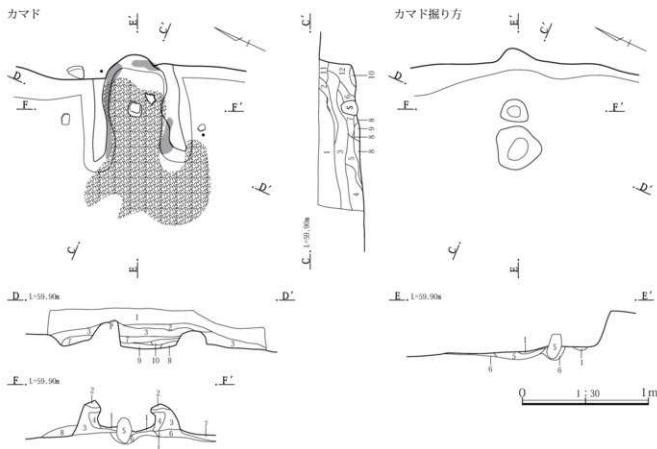
貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央付近に位置する。全長0.92m、幅0.87m、焚口幅0.36m、燃焼部幅0.41m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、壁際に入り、火床掘り方には、支脚の礎が据えられ、焼土が分布している。焼土層からの天井崩落があったと推察される。支脚は、長さ0.21m、幅0.12m、厚さ0.12mである。基礎は、炭化粒子を含む暗褐色土で固めている。袖材は、焼土粒子を含む粘性が強く締まりの固いにぶい黄褐色土で構成されており、内側には、褐色土ブロックを含む焼土層のにぶい赤褐色で構成されており、しまりが強い。掘り方は、火床下に0.06m、支脚下に0.12m窪みを認める。埋め土は暗褐色で、焼土ブロック、炭化物を含む層が確認された。重複遺構：37号溝に後出しており、4号住居・35号溝に前出している。遺物：土師器(杯2点、小型壺1点、甗2点) カマド周辺から住居中央部にかけて遺物が出土した。そのうち土器5点を図示した。甗(3)が床から0.1m浮いた出土であった。杯(1・2)、甗(4)、小型壺(5)は床直上の出土であり、本住



第779図 5区8面 12号住居

居に伴う出土であると考えられる。他に円礫の出土もあるが、図示した以外に、土師器(杯類76片、甕類225片)、須恵器(杯類5片、甕類4片)が出土している。 所見(編

属時期):出土遺物、重複関係から、7世紀前半であるとする。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が少ない。

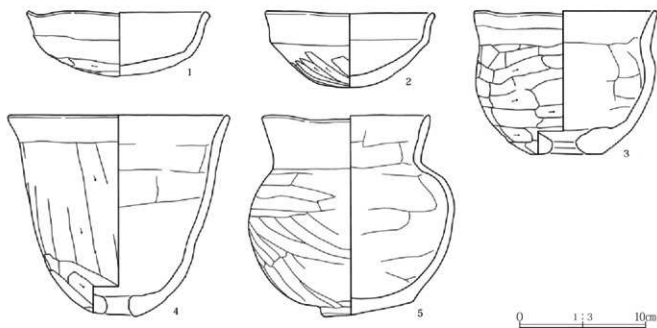


12号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を微量含む。しまりやや弱い。
- 2 暗褐色土 シルト質土。炭化物を多量、焼土粒を少量含む。しまりやや弱い。
- 3 暗褐色土 シルト質土。炭化物を少量、焼土粒を微量含む。しまりやや弱い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を微量含む。しまりやや弱い。
- 5 暗褐色土 シルト質土。焼土ブロック、炭化物を中量含む。しまりやや弱い。
- 6 暗褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。しまりやや弱い。
- 7 暗褐色土 シルト質土。焼土ブロックを多量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 8 黒褐色土 灰層。焼土粒を少量含む。しまりやや弱い。
- 9 暗褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。しまりやや弱い。
- 10 赤褐色土 焼土層。崩落した天井か。
- 11 暗褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を中量含む。しまりやや弱い。
- 12 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、黒褐色土大ブロックを中量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。

12号住居カマド E-E'・F-F'

- 1 黒褐色土 灰層。焼土粒、焼土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 2 暗褐色土 粘質土。焼土ブロック、褐色土ブロックを中量含む。粘性強い。しまり強い。袖。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を微量含む。粘性やや強い。しまり強い。袖。
- 4 にぶい赤褐色土 焼土層。褐色土ブロックを中量含む。しまりやや強い。袖。
- 5 暗褐色土 シルト質土。焼土細粒を中量含む。しまりやや弱い。
- 6 暗褐色土 シルト質土。炭化物を微量含む。しまりやや弱い。
- 7 暗褐色土 シルト質土。炭化物を層状に中量含む。しまりやや弱い。
- 8 暗褐色土 粘質土。焼土粒を微量含む。粘性強い。しまり強い。



第781図 5区8面 12号住居出土遺物

13号住居(第782・783図 PL.163・234)

5区東部の住居群内にある。全体的に削平が進んでおり残存状態は良好ではない。

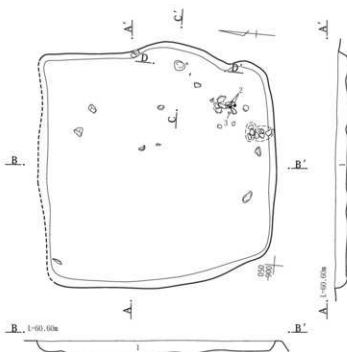
位置：050～054・-896～-900にある。

規模形状：正方形に近い方形を呈しているが、西壁が丸

みを帯びて歪んでいる。主軸長3.78m、幅3.18mである。

埋没土・壁：にぶい黄橙色シルト質土1層で埋没しており、焼土粒、炭化物を含んでいる。人為的に埋められたものと考えられる。壁高は0.19mである。

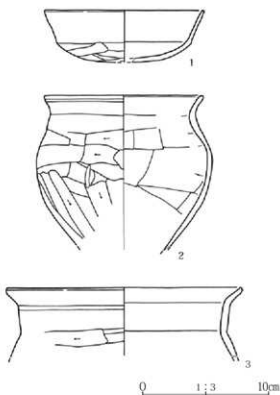
方位：N-78°-W 面積：11.59㎡ 床面：起伏を帯び



13号住居 A-A'・B-B'

1 にぶい黄橙色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。

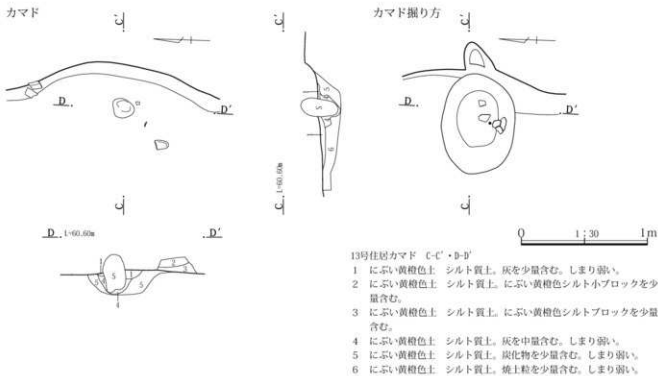
0 1:60 2m



第782図 5区8面 13号住居、出土遺物

ながら東へ0.04m程度傾斜している。中央部やや南寄りに広範囲にわたり0.04m程低くなっている。カマド右側に土器の集中を見るが、貯蔵穴の掘り込みは明確でない。柱穴の掘り込みは認められない。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央やや南寄りに位置している。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃烧部幅不明、煙道は壁外側に0.23m突出している。燃烧部は、壁際から壁外にかけて確認でき、火床掘り方には支脚の礫が据えられていた。支脚は、長さ0.29m、幅0.15m、厚さ0.13mである。支脚の基礎は、灰を含むにぶい黄褐色土で構成されている。袖痕跡は確認できた。袖材は、にぶい黄褐色シルト質土ブロックを

含むにぶい黄褐色土である。掘り方は、火床下に0.18mの掘り込みが確認でき、埋め土は、にぶい黄褐色土であり、灰、焼土、炭化物を含む。重複遺構：5・11号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕1点、小型甕1点)住居南東部を中心として遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1)は埋没土からの出土であった。小型甕(2)、甕(3)は床直上の出土であり、本住居に伴う出土であると考えられる。他に円礫の出土もあるが、図示した以外に、土師器(甕類190片)、須恵器(杯類25片、甕類7片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、9世紀後半であると考えられる。杯は6世紀後半の遺物であり混入と考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差がある。



第783図 5区8面 13号住居カマド

14号住居(第784図 PL.163・234)

5区東部の住居群内にある。8号溝が住居中央を東西に貫き床面が壊されている。南壁は調査区域外にあり、全容が明らかでない。

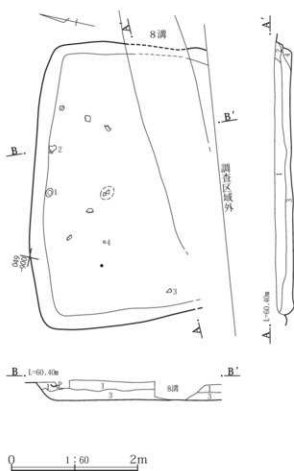
位置：046～049・896～901にある。

規模形状：南辺が調査区域外になるが、各辺丸みを帯びて、方形を呈していると思われる。長軸長4.40m、短軸

長(3.26)mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色シルト質土で埋没している。焼土粒、炭化物、下層には灰を含む。東壁際には、最初の堆積で炭化物を含む灰黄褐色土が流れ込み、後の堆積で明黄褐色土が壁の崩れたものとして流れ込んでいる。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と思われる。壁高は0.26mである。方位：N-16°-W 面積：(8.87)㎡ 床面：傾斜はほぼな

第11章 古墳時代後期～平安時代(8面)の遺構と遺物

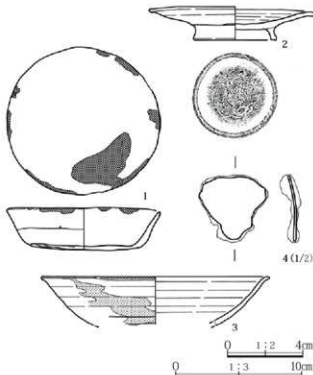
い。緩やかな起伏をもつ。中央から西へかけて0.1m程低くなっている。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは認められない。**掘り方**：認められなかった。**壁溝**：認められない。**ビット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：認められない。**重複遺構**：8号溝に前出しており、11号住居、2号竪穴状遺構に後出している。**遺物**：土師器(杯1点)、須恵器(皿1点)、灰軸陶器(椀1点) 鉄製品2点 住居北部中心に遺物が出土した。そのうち土器3点、鉄製品1点を図示した。杯(1)



と皿(2)(須恵器)は床から0.18m浮いた出土で、椀(3)(灰軸陶器)、鉄製品(4)は床直上の出土であった。いずれも本住居に伴うものと考えられる。杯(1)と皿(2)については本住居に伴うものか明瞭でない。他に川原石状の礫の出土はほとんど見られなかった。図示した以外に、土師器(杯類139片、甕類137片)、須恵器(杯類30片、甕類6片)が出土している。**所見(帰属時期)**：出土遺物、重複関係から、9世紀後半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が少ない。

14号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまり強い。
- 2 明黄褐色土 砂土。しまり強い。壁の崩れたものか。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物、灰を少量含む。しまり強い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまり弱い。



第784図 5区8面 14号住居、出土遺物

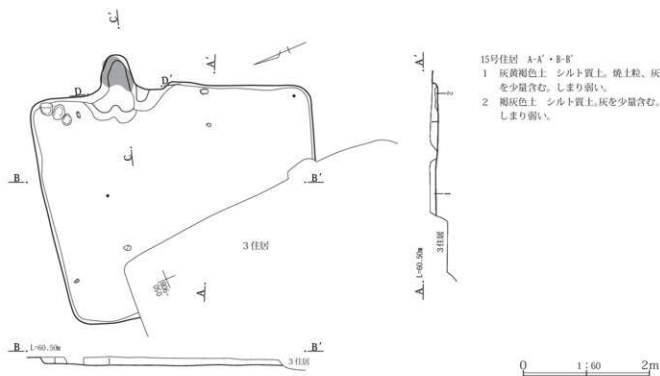
15号住居(第785・786図 PL.163)

5区東部住居群内にある。3号住居により南西部の床面を壊されている。全体的に削平がすすんでおり残存状態は良好ではない。

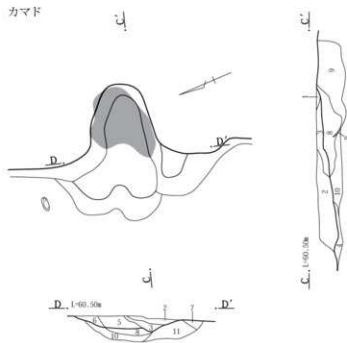
位置：046～051・903～908にある。

規模形状：南西部が他住居と重複しているが、直線的な壁に囲まれた方形を呈していると思われる。北東隅が鋭

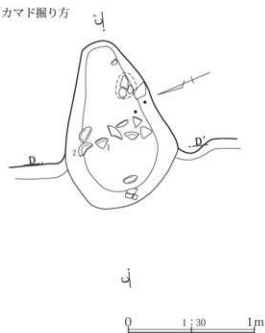
角に交わり、北壁に対して南壁が短いと推察される。主軸長3.64m、幅4.42mである。**埋没土・壁**：東壁際に褐灰色土が流れ込んだ後、灰黄褐色シルト質土主体の土で埋没している。焼土粒、灰を含む。人為的に埋められたものと思われる。壁高は0.11mである。**方位**：N-72°-W **面積**：(10.81)㎡ **床面**：傾斜はなく起伏も緩やかである。中央部が0.03m程、東部が0.1m程低



カマド



カマド掘り方



15号住居カマド C-C'・D-D'

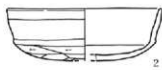
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。しまり弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。

- 6 褐灰色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。しまり弱い。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を中量含む。しまり弱い。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。しまり弱い。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。袖。

第785図 5区8面 15号住居

くなっている。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できない。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央部北寄りに位置する。全長1.08m、幅0.86m、焚口幅不明、燃焼部幅0.41m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、壁際から壁外にかけて認められ、火床上には焼土が確認できた。右袖壁のみ残存していた。袖材は、にぶい黄橙色シルト質土であり、焼土粒を含み締まりは弱い。掘り方は、火床下に0.12mの掘り込みが確認でき、埋め土は、にぶい黄橙色シルト

質土であり、灰、焼土、炭化物を含む。重複遺構：3号住居に前出しており、24・28・50号住居に後出している。遺物：土師器(杯2点、甕1点)住居全体に点在するように遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1・2)はカマド掘り方からの出土であり、いずれも本住居に伴う出土であると考えられる。住居北東隅に円礫の出土がある。図示した以外に、土師器(杯類36片、甕類69片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。



0 1:3 10m

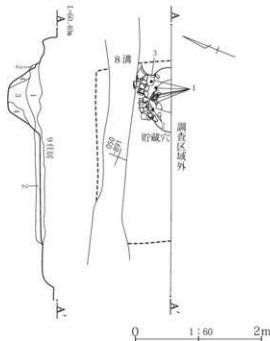
第786図 5区8面 15号住居出土遺物

16号住居(第787・788図 PL.163・164・234・235)

5区東部の住居群内にある。9号住居が重複することにより確認された範囲の北壁、東壁及び西壁の一部が壊されているが床面は影響を受けていない。南半分以上が調査区域外にあり全容は明らかでない。

位置：048～050・889～892にある。

規模形状：方形を呈していると思われるが、明瞭ではない。長軸長2.87m、短軸長(1.20)mである。埋没土・壁：明黄橙色シルト質土ブロックを含む灰黄褐色シルト質土で貯蔵穴周辺を中心に全面にわたって埋没している。人為的に埋戻されたと思われる。壁高は計測不能である。方位：N-22°-W 面積：(3.37)m² 床面：調査した範囲では、傾斜はなく平坦である。住居北東部に貯蔵穴を認める。柱穴の窪みは確認できない。掘り方：住居中央部に0.08m前後の深さで確認できた。褐灰色シルト質土ブロックを含む灰黄褐色土で埋戻し、固く踏み固められている。壁溝：確認できない。ピット(柱穴)：確認できない。貯蔵穴：住居北東部と思われる位置に窪みを認める。位置と規模より貯蔵穴と思われる。南半分が調査区域外にあるが、円形をしていると思われる。長径1.04m、短径不明、深さ0.5mである。埋没土は、褐

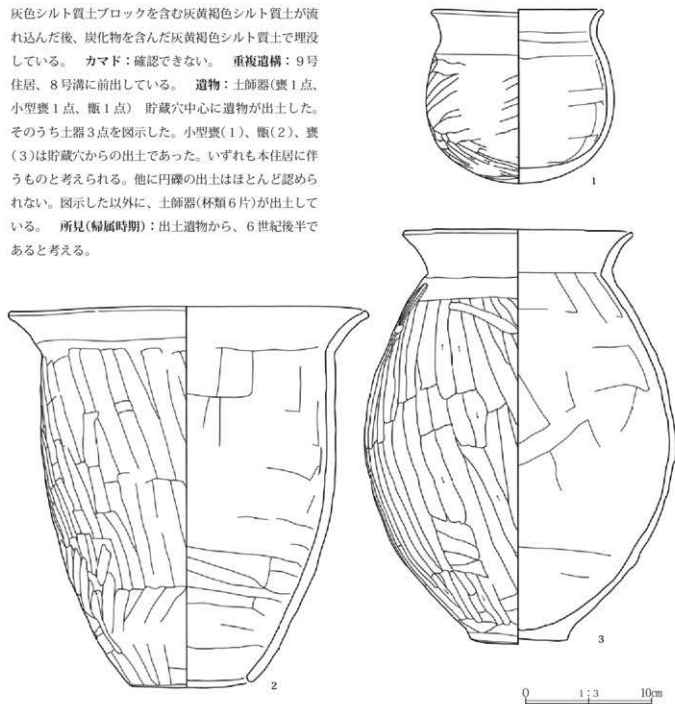


16号住居 A-A'

- 1 灰黄褐色土。明黄橙色シルト小ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 2 灰黄褐色土。シルト質土。褐灰色シルトブロックを少量含む。しまり強い。床礫。
- 3 灰黄褐色土。シルト質土。炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 4 灰黄褐色土。シルト質土。褐灰色シルトブロックを中量含む。しまり強い。

第787図 5区8面 16号住居

灰色シルト質土ブロックを含む灰黄褐色シルト質土が流れ込んだ後、炭化物を含んだ灰黄褐色シルト質土で埋没している。カマド：確認できない。重複遺構：9号住居、8号溝に前出している。遺物：土師器(甕1点、小型甕1点、甕1点) 貯蔵穴中心に遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。小型甕(1)、甕(2)、甕(3)は貯蔵穴からの出土であった。いずれも本住居に伴うものと考えられる。他に円礫の出土はほとんど認められない。図示した以外に、土師器(杯類6片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半であると考える。



第788図 5区8面 16号住居出土遺物

17号住居(第789図 PL.164)

5区西部の住居群内にある。18号住居により、カマド及び北東隅を残して床面が大きく壊されているため、全容が明らかでない。33号溝にも一部東壁を壊されている。

位置：029～033・-919～-921にある。

規模形状：18号住居と重複しているため、北東部のみの調査であるが、やや丸みを帯びた方形であると思われる。主軸長(1.83)m、幅(3.77)mである。埋没土・壁：

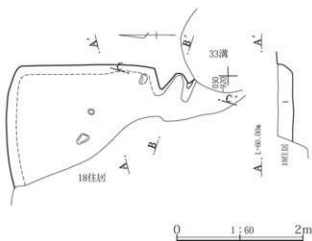
暗褐色シルト質土1層で埋没しており、灰褐色土ブロックを含み締まりが強い。埋没しており人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.23mである。方位：N-2°-W 面積：(3.42)㎡ 床面：調査した範囲では傾斜はなく平坦であるが、全容は明瞭でない。貯蔵穴、柱穴等の窺みは認められない。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央部

付近に位置すると思われる。全長0.45m、幅0.68m、焚口幅0.3m、燃焼部幅0.23m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内にあり、袖壁は確認できた。右袖材は、細砂層の淡黄色土の上に灰黄褐色シルト質土を塗り込み固めてある。左袖材は、細砂層の淡黄色土であり炭化物を含み締まりが強い。掘り方は、火床下に0.06mの掘り込みが確認でき、埋め土は焼土ブロックを含む淡黄色土の上に灰を含んだ灰黄褐色シルト質土で埋没している。

重複遺構：33号溝、18号住居に前出しており、37号住

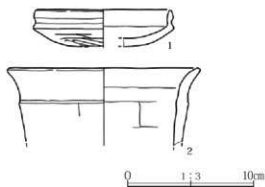
居に後出している。遺物：土師器(杯1点、小型甕1点)

住居埋没土から遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)、小型甕(2)共に埋没土からの出土であり、本住居に伴う出土であるか明瞭でない。他に円礫の出土もあるが、図示した以外に、土師器(杯類21片、甕類93片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、7世紀前半であると思われる。埋没土内の遺物は時期差が少ないと考える。

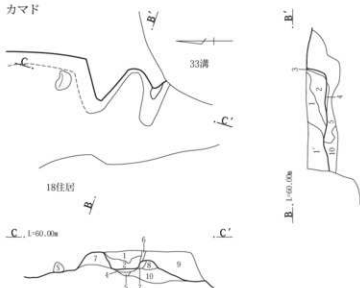


17号住居 A-A'

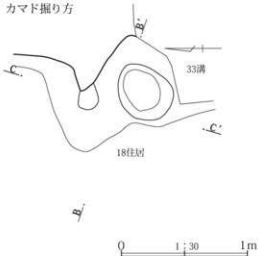
1 暗褐色土 シルト質土。褐灰色土ブロックを中量含む。しまりやや強い。



カマド



カマド掘り方



17号住居カマド B-B'、C-C'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。しまりやや強い。
- 1' 灰黄褐色土 シルト質土。1層に類するが、焼土粒を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量、淡黄色細砂小ブロックを少量含む。しまり強い。
- 3 淡黄色土 細砂土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。灰を多量含む。しまり弱い。

- 5 淡黄色土 細砂土。焼土ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを多量含む。しまりやや強い。
- 7 淡黄色土 細砂土。炭化物を少量含む。しまりやや強い。袖。
- 8 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを多量含む。しまりやや強い。袖。
- 9 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 10 淡黄色土 細砂土。焼土粒、灰を少量含む。しまり弱い。

第789図 5区8面 17号住居、出土遺物

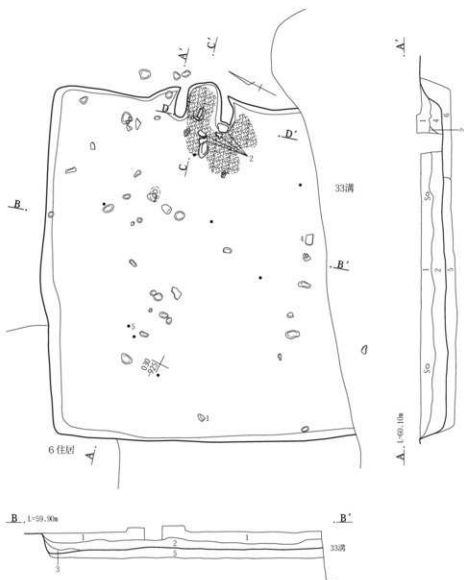
18号住居(第790～792図 PL.164・235)

5区西部の住居群内にある。6号住居により北西部の床面が壊され、33号溝により住居南部の使用面を東西にわたり壊されている。残存状態は良好でない。

位置：026～033・-920～-926にある。

規模形状：北壁、東壁は歪んでおり、西壁はやや丸みを帯びる。全体としては方形を呈しているやや大型の住居ある。主軸長5.27m、幅(4.44)mである。埋没土・壁：北壁際は褐色土ブロック、炭化物を含んだ粘性のあるにぶい黄褐色土が流れ込み、東壁際はカマド素材である炭化物、焼土粒を含んだにぶい黄褐色土が観察できる。その後、住居全体は、微砂質の暗褐色土で埋没している。灰黄褐色土ブロック、炭化物を含み締まりが強い。下層には、焼土粒も観察される。壁側から埋もれて

いる状況がみられ、自然堆積と思われる。壁高は0.32mである。方位：N-65°-E 面積：(22.00)m² 床面：中央から西へ0.06m程傾斜している。北辺際は、0.1m程落ち込んでいる。貯蔵穴、柱穴等の跡みは認められない。カマドから前部にかけて灰が分布している。掘り方：0.16～0.2m程の深さで確認できた。住居中部から西部にかけては、炭化物や炭化粒子の混入したにぶい黄褐色土で埋戻しており締まりは弱い。住居東部は、黒褐色土ブロックを含むにぶい黄褐色土で埋戻しており、強く踏み固められている。掘り方西壁直下南寄りに細長い自然石を確認する。磨礫石と思われる。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央部付近に位置すると思われる。全長0.72m、幅1.06m、焚口幅0.41m、燃焼部



18号住居 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土 シルト質上。灰黄褐色土ブロックを多量、炭化物を微量含む。しまりやや固い。
- 2 暗褐色土 シルト質上。灰黄褐色土ブロックを少量、炭化物、焼土粒を微量含む。しまりやや固い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質上。褐色土ブロック、炭化物を少量含む。粘性やや強い。しまりやや固い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物を中量、焼土粒を少量含む。しまりやや固い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物、炭化物を少量含む。しまりやや固い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質上。黒褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや固い。

第790図 5区8面 18号住居

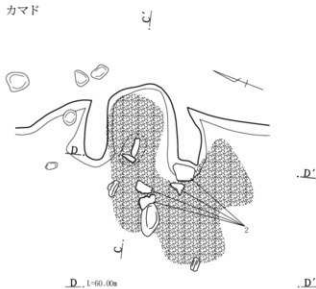
幅0.44m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、壁際から壁外にあり、火床には灰が分布していた。右袖壁先端部分及び燃焼部には土師器片が確認され、焚口建築材の一部であると思われる。袖材は、炭化物を含む粘性の強いにぶい黄褐色土の上に同じく粘性の強い暗褐色土を塗り込んで作っている。掘り方は、火床下に0.07mの掘り込みが確認でき、埋め土は、褐灰色土ブロック、灰を含むにぶい黄褐色土の上に焼土粒が混入した灰層の黒褐色土を観察する。重複遺構：33号溝に前出しており、

6・17号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕2点)、瓦(平瓦1点) 石製品(白玉1点) 北部を中心に住居全体に点在するように遺物が出土した。そのうち土器4点、石製品1点を図示した。杯(1)と甕(2)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(3)は住居埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。瓦(4)は上面からの混入物であり、本住居には伴わない。白玉(5)は、床直下の出土であり、本住居に伴うものであると考えられる。他に円礫が多数出土した。掘り方に、鵜編石と思われる礫が確認できた。図示した以外に、土師器(杯類129片、甕類392片)、須恵器(甕類10片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、7世紀前半であると考えられる。



第791図 5区8面 18号住居掘り方、出土遺物

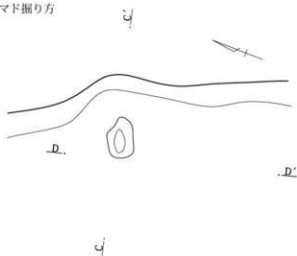
カマド



D. 1:40.00m

D'

カマド掘り方



D.

D'



C. 1:40.00m

18号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 にふい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロック、焼土粒、炭化物を微量含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを中量、焼土小ブロック、焼土粒、炭化物、炭化物を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 3 にふい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 4 赤褐色土 焼土層。
- 5 黒褐色土 シルト質土。炭化物、灰を多量、焼土を微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 6 暗褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 7 にふい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を微量含む。しまりやや強い。
- 8 暗褐色土 シルト質土。焼土ブロックを微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 9 暗褐色土 シルト質土。炭化物を層状に極めて多量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 10 黒褐色土 灰層。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 11 暗褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を中量含む。しまりやや強い。
- 12 暗褐色土 焼土。灰を多量含む。しまり弱い。
- 13 にふい黄褐色土 シルト質土。炭化物を中量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 14 にふい黄褐色土 シルト質土。褐灰色土ブロック、灰を少量含む。しまりやや強い。

0 1:30 1m

第792図 5区8面 18号住居カマド

19号住居(第793図 PL.164・235)

5区西部の住居群内にある。北半分以上が調査区域外にあり全容が明らかでない。

位置：047～052・928～933にある。

規模形状：調査区域外の部分が大いだが、調査した部分の形状から、方形を呈していると推察される。主軸長6.30m、幅(1.87)mである。埋没土・壁：灰黄褐色シルト質土で埋没しており、人為的に埋戻されたものであると思われる。炭化物を含み、締まりが弱い。壁高は0.15mである。方位：N-58°-E 面積：(10.56)㎡

床面：調査した範囲では、傾斜はほとんどなく細かい起伏が見られる。カマド前部に灰の分布が見られる。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは見られない。掘り方：壁際と中央を中心とこところで確認され、0.06～0.1mの床層が見られる。浅黄橙色土ブロックの混入した灰黄褐色土で埋戻され、強く踏み固められた床層である。

壁溝：認められない。ビット(柱穴)：認められない。

貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央部付近に位置すると思われるが、北半分が調査区域外のため明瞭でない。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、

残存煙道は壁外側に0.08m突出している。燃焼部は、住居内にあり、火床上には灰が分布していた。右袖壁は確認できた。袖材は、にぶい黄褐色シルト質土であり、地山掘り残しである。内側は、焼土化しており、締まりが強い。掘り方は、火床下に0.11mの掘り込みが確認でき、埋め土は、にぶい黄褐色シルト質土であり、焼土粒を含む。重複遺構：20号住居に前出しており、22号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点、甕2点) 石製

品(白玉1点) 住居南部全体に点在して遺物が出土した。そのうち土器3点、石製品1点を図示した。杯(1)、甕(2・3)、白玉(4)は床直上の出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。他に円礫の出土もある。図示した以外に、土師器(杯類7片、甕類35片)、須恵器(杯類1片、甕類2片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、8世紀前半であると考えられる。



第793図 5区8面 19号住居、出土遺物

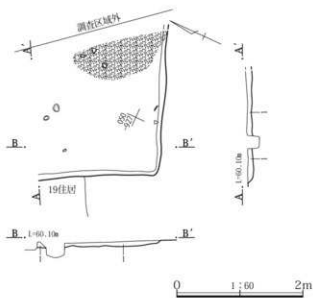
20号住居(第794図 PL.164)

5区西部の住居群内にある。南西隅を残して、調査区域外及び他住居と重複しているため、全容が明らかでない。削平が進んでおり、残存状態は良好でない。

位置：049～051・-925～-928にある。

規模形状：南壁と西壁より、方形であると推察できる。長軸長(2.21)m、短軸長(2.04)mである。埋没土・壁：灰黄褐色シルト質土で埋没している。焼土粒、炭化物を含む。人為的に埋戻されたものであると思われる。壁高は0.04mである。方位：N-67°-E 面積：(3.74)㎡

床面：調査した範囲では、北西にやや傾斜しており、細かい起伏がある。住居の南辺側に灰の分布をみる。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できなかった。掘り方：

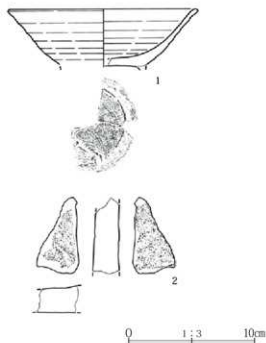


20号住居 A-A'・B-B'

1 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。

認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：19号住居に後出している。

遺物：須恵器(椀1点)、瓦1点 住居南西隅中心に遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。椀(1)(須恵器)、瓦(2)は共に住居埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。他に円鏝の出土もあるが、図示した以外に、土師器(杯類36片、甕類45片)、須恵器(杯類7片、甕類6片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、9世紀中頃から後葉の住居であると考えられる。埋没土内の遺物は時期差の少ないものである。



第794図 5区8面 20号住居、出土遺物

21号住居(第795図 PL.165・235)

5区西部の住居群内にある。残存状態は良好でない。

位置：044～047・-924～-927にある。

規模形状：南北に長い長方形を呈しているが、各辺共に歪んでいる。主軸長2.23m、幅3.25mである。埋没土・壁：南壁際ににぶい黄橙色細砂ブロックを含む灰黄褐色土が流れ込んだ後、炭化物を含んだ灰黄褐色土で埋没している。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.16mである。方位：N-74°-E 面積：6.23㎡

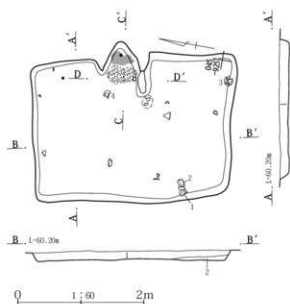
床面：傾斜はほぼない。北辺、南辺際が0.04mほど落ち込んでいる。貯蔵穴、柱穴等の窪みは確認できない。

掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。

ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央付近に位置する。全長0.88m、幅0.89m、焚口幅不明、燃焼部幅0.43m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内から住居外にかけてあり、火床上には、灰及び焼土の分布が見られる。右袖は残存していたが、左袖は崩れていた。袖材は、灰黄褐色土で

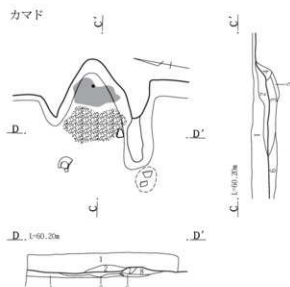
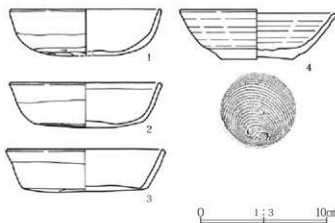
あり、焼土ブロックの混入している。内側表面は締まりが強い。掘り方は、火床下に0.05m前後の掘り込みが確認でき、埋め土は、灰黄褐色土であり、灰、焼土を含む。
重複遺構：15号土坑、25・29・41・42号住居に後出している。
遺物：土師器(杯3点)、須恵器(杯) 住居全体に点在するように遺物が出土した。そのうち土器4点を図示した。杯(2・3)は床から0.07m浮いた出土で、杯

(1)、杯(4)(須恵器)は床直上の出土であった。いずれも本住居に伴うものと考えるのが自然である。他に円礫の出土もあるが、図示した以外に、土師器(杯類32片、斐類51片)、須恵器(杯類12片、斐類4片)が出土している。
所見(帰属時期)：出土遺物から、9世紀後半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が少ない。

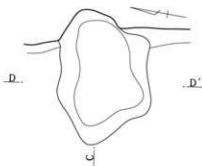


21号住居 A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。しまり強い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質上。にぶい黄褐色細砂大ブロックを中量含む。しまり弱い。



カマド掘り方 C-C'・D-D'



21号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 灰黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質上。焼土粒を中量含む。しまり弱い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質上。灰を中量、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質上。焼土ブロックを中量含む。しまり強い。
- 5 灰黄褐色土 シルト質上。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質上。焼土粒、灰を少量含む。しまり弱い。
- 7 灰黄褐色土 シルト質上。焼土ブロックを少量含む。しまりやや弱い。袖。
- 8 灰黄褐色土 シルト質上。焼土ブロックを少量含む。しまり弱い。袖。

第795図 5区8面 21号住居、出土遺物

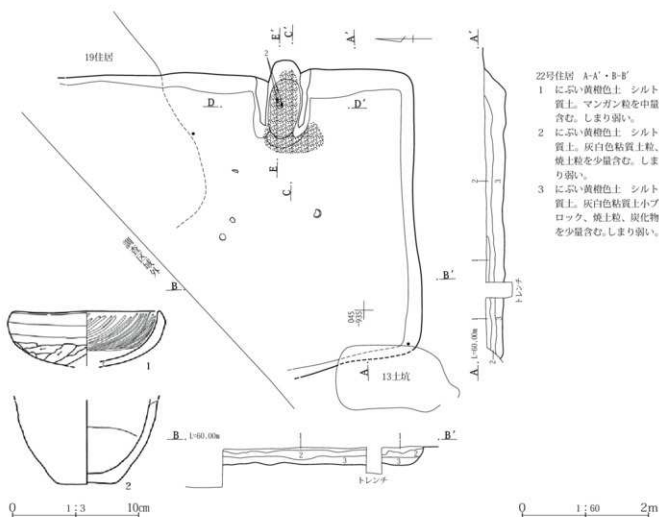
22号住居(第796・797図 PL.165)

5区西部の住居群内にある。19号住居と重複しているが、床面は影響を受けていない。北辺が調査区域外にあり、全容が明らかでない。

位置：044～048・-931～-936にある。

規模形状：南壁に対して東壁が長いことから、南北に長い長方形を呈していると思われる。南壁と西壁が鈍角に交わることから南壁に対して北壁が長いと推察される。主軸長(3.76)m、幅(4.63)mである。**埋没土・壁**：にぶい黄橙色シルト質土主体の土で埋没している。まず、3層は、灰白色粘質土ブロック、焼土粒、炭化物を含む層で一気的人為的に埋め戻されている。その後2層は、灰白色粘質土粒、焼土粒の混入した層で、1層は、黄橙色シルト質土でそれぞれ自然埋没している。壁高は0.29mである。**方位**：N-88°-W **面積**：(13.00)㎡
床面：傾斜はほぼない。緩やかな起伏が断続的に続い

ている。カマド内から前部にかけて灰の分布が見られる。貯蔵穴・柱穴等の窪みは認められない。**掘り方**：認められない。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：東辺中央付近に位置すると思われる。全長1.24m、幅0.89m、焚口幅0.37m、燃焼部幅0.48m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内にあり、火床掘り方には、支脚の礫が据えられ炭化物が分布していた。支脚は、長さ0.27m、幅0.12m、厚さ0.07mである。両袖壁は粘性の強い灰白色土でつくられており、内側表面は焼土化していた。掘り方は、火床下に0.12～0.16mの掘り込みが確認でき、埋め土は、焼土粒、炭化物を含む灰黄褐色シルト質土の上に灰白色粘質土粒、焼土粒を含む灰層を観察する。**重複遺構**：19号住居に前出しており、36・37号溝に後出している。13号土坑と重複している。**遺物**：土師器(杯1点、甕1点) カマド及び住居北部から遺物



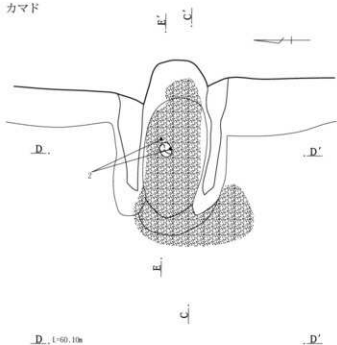
第796図 5区8面 22号住居、出土遺物

が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は住居埋没土から出土しており、本住居に伴うものかは明瞭でない。甕(2)は、カマド床直上の出土であり、本住居に伴うものと考えられる。図示した以外に、土師器(杯

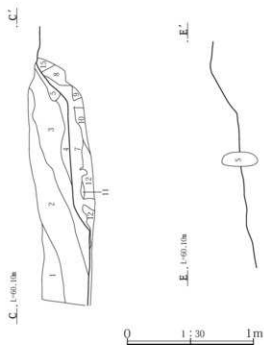
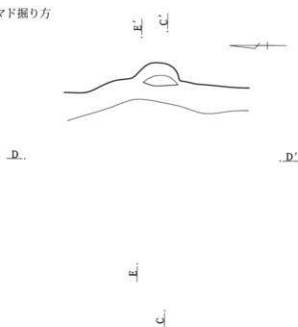
類14片、甕類51片)、須恵器(甕類1片)が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であるとする。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差が少ない。

カマド



カマド掘り方



22号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色粘質土粒、焼土粒、炭化物を少量含む。しまり強い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色粘質土小ブロック、焼土粒、炭化物を少量含む。しまり強い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色粘質土ブロックを多量含む。しまり強い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色粘質土ブロック、焼土ブロックを多量含む。しまり強い。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色粘質土ブロック、焼土ブロック、灰を中量含む。しまり弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色粘質土小ブロック、焼土粒を少量含む。しまり強い。
- 7 灰黄 灰白色粘質土粒、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 8 灰白色土 粘質土。粘性やや強い。しまりやや強い。焼土化している。
- 9 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色粘質土小ブロックを中量、焼土粒、炭化物を少量含む。しまり強い。
- 10 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色粘質土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 11 灰白色土 粘質土。
- 12 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 13 灰白色土 粘質土。焼土化している。粘性やや強い。しまりやや強い。袖。
- 14 灰白色土 粘質土。袖。
- 15 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色粘質土ブロック含む。焼土化している。

第797図 5区8面 22号住居カマド

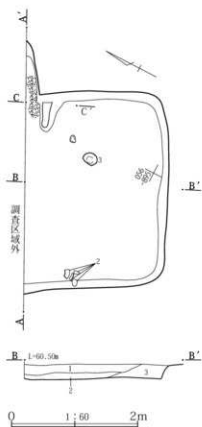
23号住居(第798・799図 PL.165)

5区東部の住居群内にある。北半分が調査区域外にあり、全容が明らかでない。

位置：055～058・-893～-897にある。

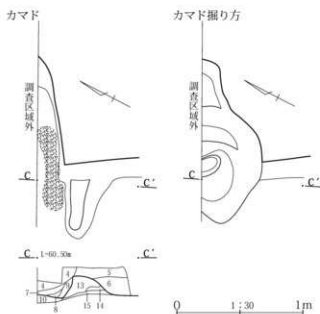
規模形状：各辺直線の状であり各々直交している。整った方形を呈していると思われる。主軸長(2.27)m、幅3.14mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色土で埋没している。下層は焼土粒を含みやや暗い色調であり、上層は炭化物を含む。住居周縁部から埋没している状況から、自然堆積であると思われる。壁高は0.23mである。方位：N-63°-E 面積：(6.04)㎡ 床面：傾斜はほとんどなく平坦である。住居中央部分に0.04m程の浅い落ち込みが確認される。貯蔵穴、柱穴等の窪みは確認できない。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央付近に位置すると思われる。全長1.44m、幅 不明、焚口幅 不明、燃燒部幅 不明、煙道は

壁外側に0.88m突出している。燃燒部は、住居内から住居外にかけて確認でき、火床上には灰が分布していた。右袖は、先端部分に袖石が据えられ、焚口構築材の一部であると思われる。袖材は、焼土粒を含むにぶい黄褐色土であり、締まりが強い袖である。左袖は調査区域外であるが、同様のものが存在すると推察される。掘り方は、火床下に0.08～0.12mの掘り込みが確認でき、埋め土はにぶい黄褐色土であり、灰が多く、焼土ブロックを含む。重複遺構：32号住居と重複している。遺物：土師器(杯1点、甕2点) 住居西壁際及び中央東寄りから遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1)、甕(2・3)は床直上の出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。甕(2)は床直上から埋没土までの出土であるが、本住居に伴うものとするのが自然である。川原石状の礫の出土もある。図示した以外に、土師器(杯類18片、甕類13片)が出土している。所見(編属時期)：出土遺物から、6世紀後半であると考えられる。

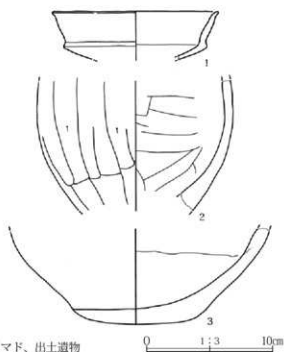


23号住居 A-A'・B-B'・C-C'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。1層より僅かに暗い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。黄褐色砂土ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、灰を中量含む。しまり弱い。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。しまり弱い。
- 9 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。袖の崩れか。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を多量、焼土ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 12 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 13 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまりや中弱い。袖。
- 14 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。しまり弱い。
- 15 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。



第799図 5区8面 23号住居カマド、出土遺物



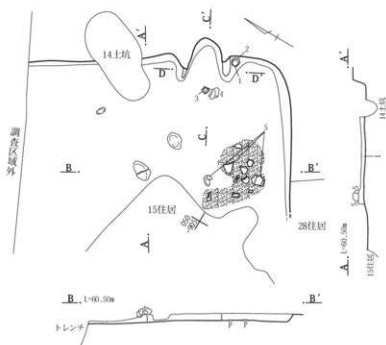
24号住居(第800～802図 PL.165・235)

5区東部の住居群内にある。15号住居により西壁付近の床面が壊されている。14号土坑により東壁が一部壊されている。また、北辺付近が調査区域外にあり全容が明瞭でない。

位置：048～053・-902～-906にある。

規模形状：東壁は直線的であり南壁は柔らかな曲線である。両辺は直交しており、整った方形であると推察でき

る。主軸長(2.67)m、幅(4.18)mである。埋没土・壁：明黄褐色シルト質土一層で埋没している。炭化物、灰を含む。人為的に埋戻されたと思われる。壁高は0.14mである。方位：N-55°-E 面積：(8.28)㎡ 床面：傾斜はほとんどない。若干起伏があるが平坦である。中央から北にかけて0.03m程落ち込んでいる。住居南部に裏と共に灰の分布を確認する。中央に石が複数設置しており本住居の施設と関連があると思われるが明瞭はな



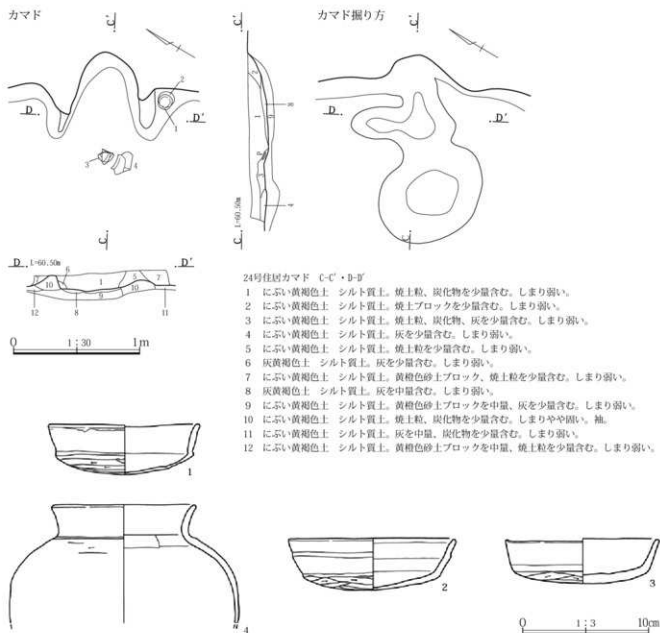
第800図 5区8面 24号住居

24号住居 A-A'・B-B'

1 明黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を中量含む。

い。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できない。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央やや南寄りに位置すると思われる。全長0.69m、幅0.95m、焚口幅0.59m、燃燒部幅0.52m、煙道は確認できなかった。燃燒部は、住居内にある。焼土粒、炭化物を含むにぶい黄褐色シルト質土を張り付けて締まりの強い袖をつくっている。右袖壁側とカマド前部に土師器片が確認でき、カマドの構築に関連があると思われる。掘り方は、火床下に0.08m、カマド前部に0.1mの掘り込みが確認でき、双方とも埋め土はにぶい黄褐色

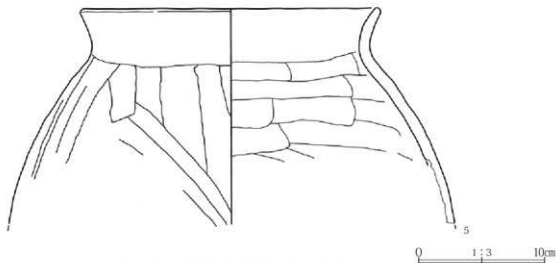
シルト質土であり、灰、黄褐色砂土ブロックを含む。重複遺構：14号土坑、15号住居に前出してあり、28・31号住居に後出している。遺物：土師器(杯3点、甕2点)カマド周辺及び住居南部から遺物が出土した。そのうち土器5点を図示した。杯(1・2)はカマド右袖上から、杯(3)、甕(4・5)は床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土もある。図示した以外に、土師器(杯類1片、甕類16片)が出土している。所見(縄属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考えられる。



24号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物、灰を少量含む。しまり弱い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。しまり弱い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。しまり弱い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。黄褐色砂土ブロック、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 8 灰黄褐色土 シルト質土。灰を中量含む。しまり弱い。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。黄褐色砂土ブロックを中量、灰を少量含む。しまり弱い。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまりやや強い。袖。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量。炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 12 にぶい黄褐色土 シルト質土。黄褐色砂土ブロックを中量、焼土粒を少量含む。しまり弱い。

第801図 5区8面 24号住居カマド、出土遺物(1)



第802図 5区8面 24号住居出土遺物(2)

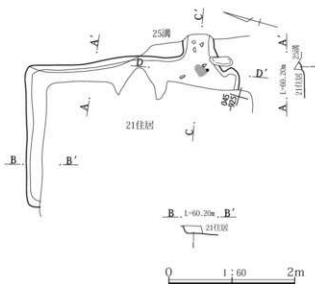
25号住居(第803・804図 PL.166)

5区西部住居群内にある。21号住居により大きく床面を壊され、25号溝により北壁の一部が壊されており、カマド及び北壁付近のみの調査となった。全容が明らかでない。

位置：045・048・924～927にある。

規模形状：北壁は直線的で東壁は歪んでいる。双方の長さの比から、南北に長い長方形を呈していると思われる。主軸長(2.25)m、幅(3.39)mである。 **埋没土・壁**：にぶい黄褐色シルト質土一層で埋没している。浅黄橙色砂土ブロックを含む。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.13mである。 **方位**：N-69°-E **面積**：(0.83)㎡ **床面**：調査した範囲では、傾斜や起伏については明瞭ではなく、貯蔵穴、柱穴等の窪み、 **掘り方**：認められなかった。 **壁溝**：認められない。 **ビット(柱穴)**：認められない。 **貯蔵穴**：認められない。 **カマド**：東辺南東隅に位置する。全長不明、幅不明、焚口幅不明、燃焼部幅不明、煙道は壁外側に現存で0.22m突出している。燃焼部は、住居内にあり、火床上には焼土が分布しており、土師器片が出土していた。右袖には袖石として使用していたと思われる礫が確認される。袖石は、長さ0.37m、幅0.15m、厚さ不明である。焚口の構築材の一部であると思われる。掘り方は、火床下に0.06mの掘り込みが確認できた。埋没土はにぶい黄褐色土であり、灰、焼土を含む。右袖石下にもビット状の掘り込みが確認できた。 **重複遺構**：25号溝・21号住居に前出しており、29・41・42号住居に後出している。 **遺物**：土師器(杯

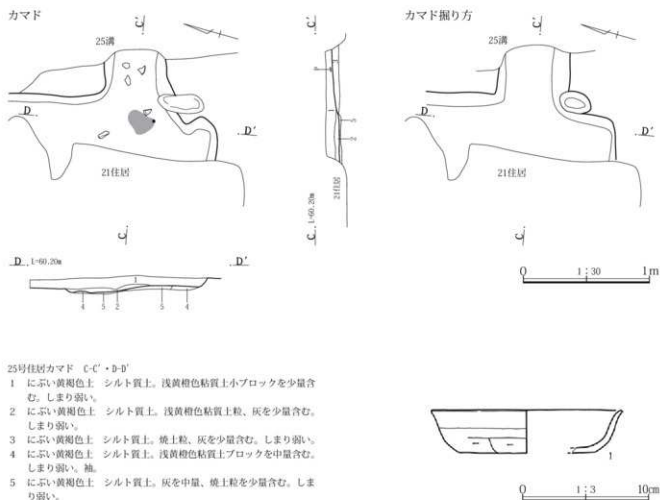
1点) カマド周辺から遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。杯(1)はカマド直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。円礫の出土もあった。図示した以外に、土師器(杯類14片、甕類5片)、須恵器(杯類1片)が出土している。 **所見(編属時期)**：出土遺物、重複関係から、8世紀後半から9世紀代の住居であるとする。



25号住居 A-A'・B-B'

1 にぶい黄褐色土シルト質土。浅黄橙色砂土ブロックを中層含む。しまり弱い。

第803図 5区8面 25号住居



第804図 5区8面 25号住居カマド、出土遺物

26号住居(第805図 PL.166)

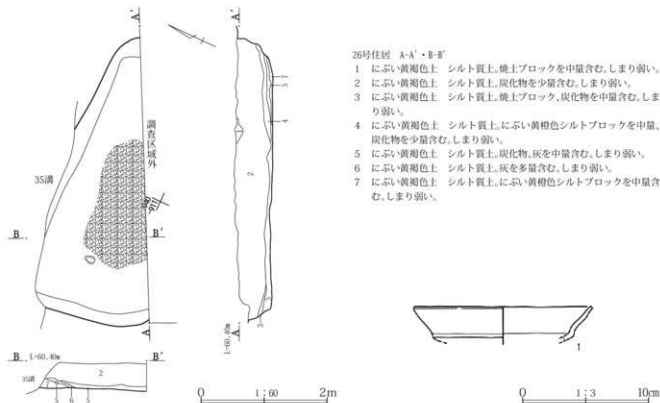
5区東部の住居群内にある。南部が調査区域外にあり、全容が明らかでない。35号溝に北壁の一部を壊されているが、床面は影響を受けていない。

位置：039～041・908～913にある。

規模形状：北壁、西壁共に歪んでおり、鋭角に交わっている。全体としては、整っていない方形を呈していると思われる。長軸長(4.54)m、短軸長(1.93)mである。

埋没土・壁：にふい黄褐色シルト質土で埋没している。住居周縁部からにふい黄褐色土ブロック、焼土ブロック、を含む層が流れ込んでいる。下層には、炭化物、灰が多く含まれている。自然堆積であると思われる。壁高は0.51mである。方位：N-83°-E 面積：(4.56)㎡

床面：傾斜はなく平坦である。中央を境に、西に対して東は0.04m程低い。住居中央部から北にかけて広範囲にわたり灰が分布している。貯蔵穴、柱穴等の窺みは確認できない。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：35号溝に前出している。遺物：土師器(杯1点) 住居全体に点在するように遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は住居埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土もあった。図示した以外に、土師器(杯類14片、甕類19片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物より、7世紀前半から7世紀中頃の住居であると考えられる。



26号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質上,焼土ブロックを中量含む,しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質上,炭化物を少量含む,しまり弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質上,焼土ブロック,炭化物を中量含む,しまり弱い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質上,にぶい黄褐色シルトブロックを中量,炭化物を少量含む,しまり弱い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質上,炭化物,灰を中量含む,しまり弱い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質上,灰を多量含む,しまり弱い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質上,にぶい黄褐色シルトブロックを中量含む,しまり弱い。

第805図 5区8面 26号住居,出土遺物

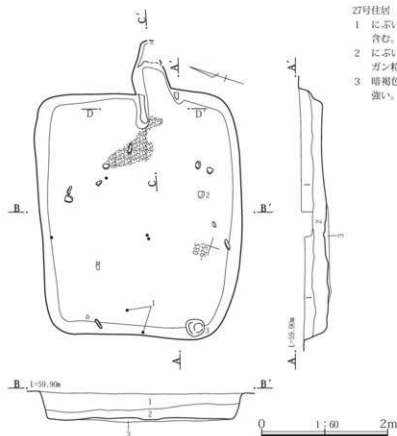
27号住居(第806・807図 PL.166・235)

5区西部の住居群内にある。残存状態は良好である。

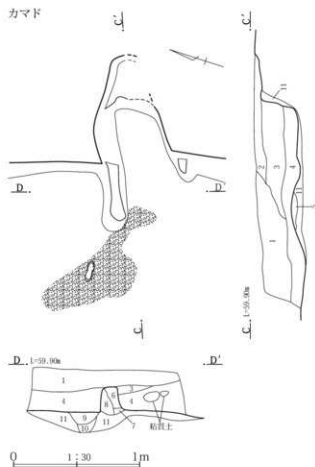
位置：034～038・-922～-926にある。

規模形状：丸みを帯びた東西に長い方形を呈している。主軸長3.81m、幅3.09mである。 **埋没土・壁**：微砂質のにぶい黄褐色土で埋没している。灰黄褐色土ブロック、炭化物を含む。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.37mである。 **方位**：N-68°-E **面積**：9.81㎡ **床面**：東面に対して、中央から西面にかけて、0.1～0.15m程深く掘り下げている。カマド左袖前部に灰の分布が見られる。貯蔵穴、柱穴等の窪みは確認できなかった。 **掘り方**：中央部分南北に長く確認され、灰黄褐色土ブロックが混入した暗褐色土で埋戻し貼土を施されており、上面が硬化して固く締まっている。深さ0.05～0.08mである。 **壁溝**：認められない。 **ピット(柱穴)**：認められない。 **貯蔵穴**：認められない。 **カマド**：東辺の中央部やや南寄りに位置する。全長1.39m、幅0.79m、焚口幅0.47m、燃燒部幅0.36m、煙道は壁外側に0.82m突出している。燃燒部は、住居内から住居

外にかけて確認された。袖は、暗褐色土ブロックが混入した粘性の強いにぶい黄褐色土で固められている。掘り方は、火床下に0.08m前後、左にずれた位置に0.15m程の掘り込みが確認できた。火床下の埋没土は、にぶい黄褐色土であり、炭化粒子を含み締まりが強い。左袖側の埋め土は、にぶい黄褐色土であり、炭化粒子を含み締まりが強いシルト層の上に締まりの弱い粘質土が観察される。 **重複遺構**：35・39・40号住居、4号竪穴状遺構に後出している。 **遺物**：土師器(杯2点) 礫石器1点(磨石・砥石) 住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器2点、礫石器1点を図示した。杯(2)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1)、砥石(3)は床から0.14～0.35m程浮いた位置から出土した。これらが本住居に伴うものであるか明確でない。円礫の出土が見られた。図示した以外に、土師器(杯類37片、甕類74片)、須恵器(杯類1片)が出土している。 **所見(帰属時期)**：出土遺物より、6世紀中頃から6世紀後半の住居であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差があると考えられる。



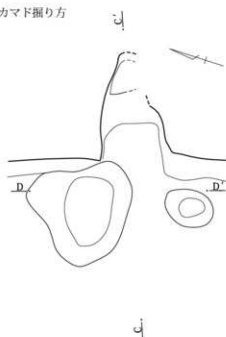
カマド



27号住居 A-A'・B-B'

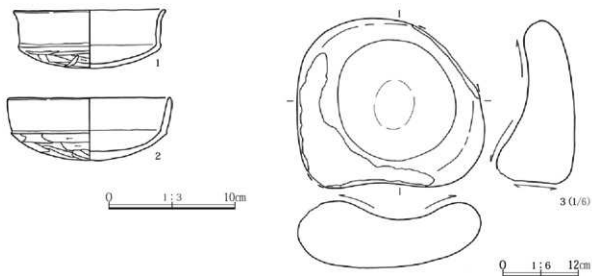
- 1 にふい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土ブロック、炭化物を少量含む。しまりやや弱い。
- 2 にふい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを中量、マンガング粒を少量含む。しまりやや弱い。
- 3 暗褐色土 灰黄褐色土小ブロックを微量含む。上面硬化。粘性やや強い。しまりやや強い。粘床。

カマド掘り方



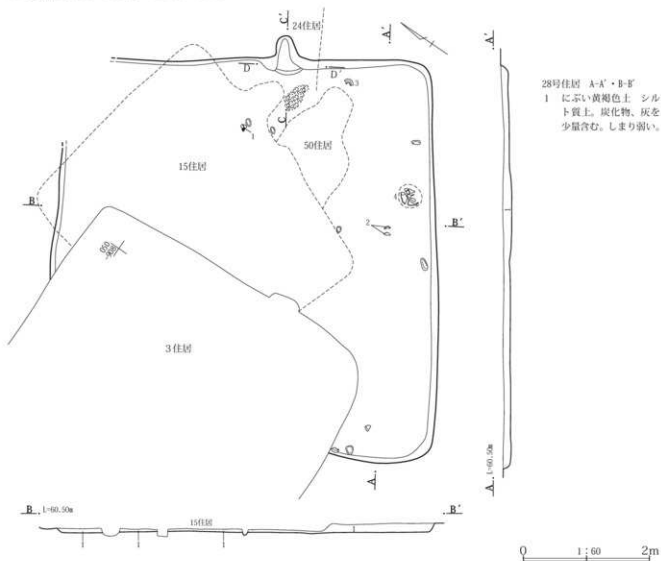
27号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 暗褐色土 シルト質土。褐灰色土小ブロック、マンガング粒を少量含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 シルト質土。白色粘質土ブロックを中量含む。しまりやや弱い。
- 3 暗褐色土 シルト質土。褐灰色土小ブロックを微量含む。しまりやや弱い。
- 4 暗褐色土 シルト質土。褐灰色土小ブロックを中量、白色粘質土大ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 5 暗褐色土 シルト質土。灰、白色粘質土を層状に少量含む。しまりやや強い。
- 6 褐色土 シルト質土。白色軽石粘質土ブロックを少量含む。しまりやや弱い。袖。
- 7 暗褐色土 シルト質土。白色軽石粘質土粒、灰を中量含む。しまりやや弱い。
- 8 にふい黄褐色土 粘質土。暗褐色土小ブロックを少量含む。粘性強い。しまり強い。袖。
- 9 にふい黄褐色土 シルト質土。白色軽石粘質土粒、炭化物を微量含む。しまりやや弱い。
- 10 にふい黄褐色土 シルト質土。白色軽石粘質土粒、白色粘質土小ブロックを多量、炭化物を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 11 にふい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまりやや強い。



第807図 5区8面 27号住居出土遺物

28号住居(第808・809図 PL.166・235)



第808図 5区8面 28号住居

5区東部の住居群内にある。3号住居に床面を壊されている。カマド付近及び南部中心の調査となった。残存状態は良くない。

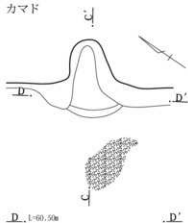
位置：044～051・-902～-908にある。

規模形状：各辺直線的であり、方形を呈していると思われる。南西隅が鋭角に交わっているため、南壁に対して北壁が短いと推察される大型住居である。主軸長(6.40)m、幅(5.96)mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色シルト質土一層で埋没している。炭化物、灰を含み、締まりは弱い。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.12mである。方位：N-60°-E 面積：(21.41)㎡

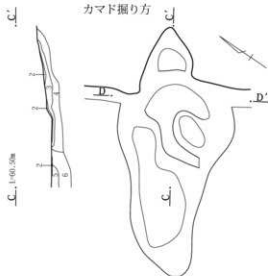
床面：傾斜はなく、およそ平坦である。南東部の一部のみ、0.04m程床が高くなっている。カマド前部に少量の灰の分布が認められる。貯蔵穴、柱穴等の窪みは見られない。掘り方は、確認できない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。

カマド：東壁中央部南寄りに位置する。全長0.56m、幅0.65m、焚口幅0.43m、燃焼部幅0.20m、煙道は壁外側に0.34m突出している。燃焼部は、住居内にある。袖は崩れてほとんど残存していない。掘り方は、火床下に0.12m前後の掘り込みが確認でき、埋め土は、にぶい黄褐色シルト質土であり、灰、焼土ブロックを含む。重複遺構：3・15・24・50号住居に前出している。遺物：土師器(杯2点、高杯1点、甕1点) 住居中央から南部にかけて遺物が出土した。そのうち土器4点を図示した。杯(1・2)、高杯(3)、甕(4)は床直上からの出土であり、いずれの土器も本住居に伴うものと考えられる。川原石状の礫の出土も見られた。図示した以外に、土師器(杯類36片、甕類39片)、須恵器(杯類2片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半であると考えられる。

カマド



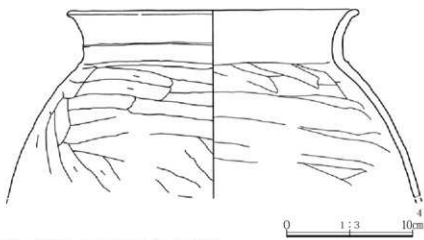
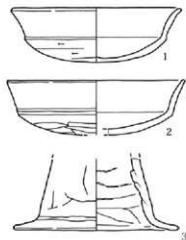
カマド掘り方



28号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、灰を中量含む。しまり弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を中量含む。しまり弱い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、灰を少量含む。しまり弱い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、灰を中量含む。しまり弱い。

0 1:30 1m



第809図 5区8面 28号住居カマド、出土遺物

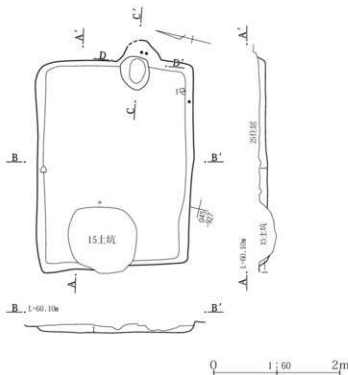
29号住居(第810図 PL.167)

5区西部の住居群内にある。15号土坑により西壁際一部の床面を壊されている。残存状態は良くない。

位置：044～047・-924～-928にある。

規模形状：東西に長い長方形を呈している。小型住居である。主軸長3.35m、幅2.43mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色シルト質土の一層で埋没している。黄褐色砂土ブロックを含む。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.17mである。方位：N-80°-E 面積：6.75㎡(推定) 床面：西に0.03m程傾斜しているが、起伏も僅かで平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窺みは確認できない。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東壁中央南寄りに位置する。全長0.71m、幅

0.61m、焚口幅 不明、燃燒部幅 不明、煙道は壁外側に0.34m張り出している。燃燒部は、住居内から住居外にかけて確認でき、袖壁は残存していなかった。掘り方は、火床下に0.16m程の掘り込みが確認でき、埋め土は、灰黄褐色シルト質土が層になっており、灰、焼土ブロック、炭化物を含む。重複遺構：15号土坑、21・25号住居に前出し、41・42号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点) カマド周辺及び中北部のわずかな遺物の出土であった。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。図示した以外に、土師器(杯類17片、甕類24片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係より、8世紀後半から9世紀代の住居であると考えられる。

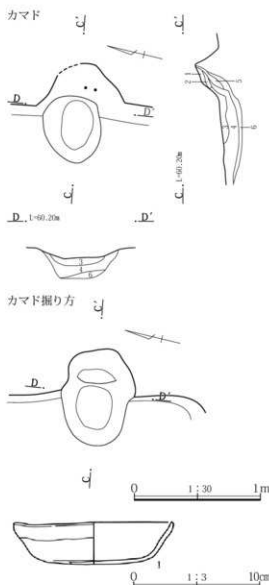


29号住居 A-A'・B-B'

1 にぶい黄褐色土 シルト質土。黄褐色砂土ブロックを中量含む。しまり弱い。

29号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、炭化物を中量含む。しまり弱い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。しまり弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量含む。しまり弱い。



第810図 5区8面 29号住居、出土遺物

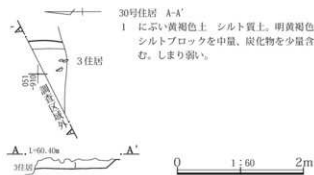
30号住居(第811図 PL.167)

5区東部の住居群内にある。住居北部が調査区域外にあり、南部が3号住居により壊されているため、東辺一部のみの調査となった。残存状態は良好でない。

位置：050～051・-909～-910にある。

規模形状：東壁は丸みを帯びるが、全容は明らかでない。長軸長(1.13)m、短軸長(0.55)mである。**埋没土・壁**：にぶい黄褐色シルト質土の一層で埋没している。明黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を含み、締まりが弱い。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.13mである。**方位**：N-88°-E **面積**：(0.29)m² **床面**：調査した範囲では傾きはなく平坦であるが、全容は明瞭でない。**掘り方**：認められない。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：認められない。**重複遺構**：3号住居に前出している。**遺物**：土師器(甕類3片)が出土している。図示できる遺物は得られなかった。**所見(帰属時期)**：出土遺物は破片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。重複関係及び表片より9世紀後半以前であると考え、時期決定の資料に欠ける。

土師器(杯類5片、甕類1片)が出土している。図示できる遺物は得られなかった。**所見(帰属時期)**：出土遺物は破片であり本住居に確実に伴う遺物を抽出できなかった。重複関係及び土器片から6世紀後半以前であると考え、時期決定の資料にかける。



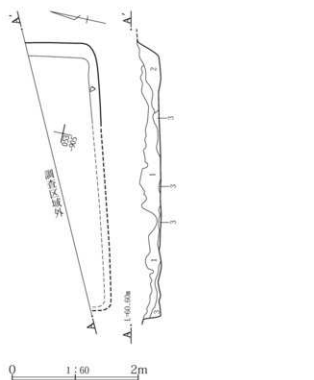
第811図 5区8面 30号住居

31号住居(第812図 PL.167)

5区東部の住居群内にある。ほとんどが調査区域外にあり全容が明瞭でない。住居南西部は24号住居と重複しており、床面の確認は南東隅のみとなった。

位置：052～053・-903～-904にある。

規模形状：東壁、南壁の一部の調査であるが、直線的で直交しているため、整った方形をしていると推察できる。長軸長(1.42)m、短軸長(1.05)mである。**埋没土・壁**：明黄褐色シルト質土主体の土で埋没している。壁際から灰黄褐色シルト質土ブロック及び焼土ブロックを含んだ層が流れ込み、その後炭化物を少量含んだ層が一気に埋没している。不自然な堆積であり、人為的に埋戻されていると思われる。壁高は0.20mである。**方位**：N-64°-E **面積**：(0.91)m² **床面**：調査した範囲では、傾斜はなく多少の起伏を伴うが平坦である。南東隅のみの調査であり、全容は明らかでない。**掘り方**：認められない。**壁溝**：認められない。**ピット(柱穴)**：認められない。**貯蔵穴**：認められない。**カマド**：認められない。**重複遺構**：24号住居と重複している。**遺物**：



- 31号住居 A-A'
- 1 明黄褐色土シルト質土, 炭化物を少量含む, しまり弱い。
 - 2 明黄褐色土シルト質土, 灰黄褐色シルト大ブロックを多量含む, しまり弱い。
 - 3 明黄褐色土シルト質土, 焼土ブロック, 炭化物, 灰を中量含む, しまり弱い。

第812図 5区8面 31号住居

32号住居(第813図 PL.167)

5区東部の住居群内にある。北半分以上が調査区域外にあり全容が明らかでない。5号住居に南壁付近を壊されている。23号住居に南東隅の壁を若干壊されているが床面は影響を受けていない。

位置：054～057・-896～-901にある。

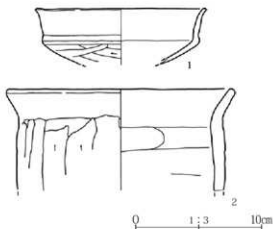
規模形状：東壁、南壁、西壁がほぼ直線的であり、方形を呈していると推察される。長軸長(5.21)m、短軸長(1.08)mである。埋没土・壁：まず、西壁際からは、炭化物、焼土粒を含んだにぶい黄褐色土、灰白色粘質土粒含んだにぶい黄褐色土、炭化物を含んだにぶい黄褐色土の順で流れ込み、東壁際からは、炭化物を含んだにぶい黄褐色土が同時に流れ込んだ。次に、焼土粒を含むにぶい黄褐色土と灰白色粘質土粒、焼土粒を含む明黄褐色土が堆積した。その後、褐灰色シルト質土ブロック、灰を含むにぶい黄褐色土、褐灰色シルト質土ブロック、灰白色粘質土粒を含むにぶい黄褐色土の順で堆積している。いずれもシルト質土である。明らかに不自然な堆積であり、人為的に埋戻されていると思われる。1・2層

に関しては、断面の形状、埋没土の様子より他遺構の可能性がある。壁高は0.28mである。方位：N-63°-E
面積：(3.66)m² 床面：調査した範囲では、傾斜はなく平坦である。中央部に境に、東部の床が0.06m前後低くなっている。調査範囲が少ないため全容は明らかでない。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：5・23号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点、小型甕1点) 住居南部から少量遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)、小型甕(2)共に、床から0.17m程浮いた位置からの出土であり、これらが本住居に伴う出土であるか明瞭でない。円礫の出土もあった。図示した以外に、土師器(杯類75片、甕類21片)、須恵器(杯類18片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半であると思われる。埋没土内の遺物は、時期差がないものであると考える。



32号住居 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐灰色シルト小ブロック、灰白色粘質土粒を少量含む。しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐灰色シルト小ブロック、灰を少量含む。しまり強い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 4 明黄褐色土 シルト質土。灰白色粘質土粒、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色粘質土粒、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまり弱い。



第813図 5区8面 32号住居、出土遺物

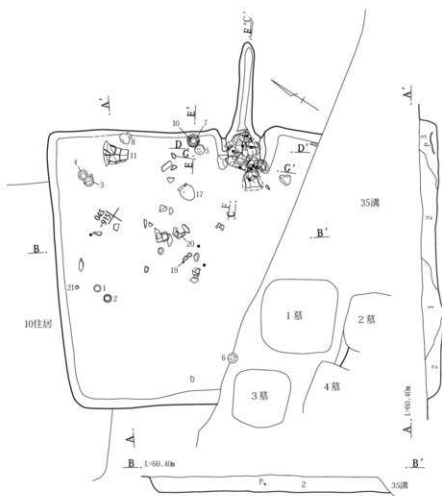
33号住居(第814～818図 PL.167・168・235～237)

5区東部の住居群内にある。南部を35号溝、2・4号墓に壊されている。全容は明らかでない。

位置：042～046・911～917にある。

規模形状：北壁、東壁、西壁は直線的であり、南壁は丸みを帯びている。全体としては、南北にやや長い方形を呈していると推察される。主軸長(4.39)m、幅4.36mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色シルト質土で埋没している。まず、東壁際から灰白色シルト質土ブロック、炭化物を含んだ層が流れ込み、続いて炭化物を含んだ層が一気に堆積した。その後、褐灰色粘質土ブロックを含んだ層が住居西寄りに堆積した。住居周縁部から埋没している状況から、自然堆積であると思われる。壁高は0.29mである。方位：N-60°-E 面積：(11.07)m² 床面：中央を境に東部の床が0.08m前後低くなっている。それぞれ傾斜はなく平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは確認できない。掘り方：認められない。壁溝：

認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：東辺中央南寄りに位置すると思われる。全長2.06m、幅1.01m、焚口幅0.48m、燃烧部幅0.45m、煙道は壁外側に1.36m突出している。燃烧部は、住居内にあり、火床掘り方には支脚として倒置された甕とその他複数の甕が据えられている。焼土の分布も見られた。両袖先端部分に袖石と土師器甕が据えられ、焚口天井部分の構築材と思われる土師器甕も焚口部の床直上にある。これらの礎と甕で焚口が作られていたと思われる。右袖石は、長さ0.32m、幅0.22m、厚さ0.15mである。左袖石は、長さ0.34m、幅0.23m、厚さ0.17mである。袖は灰黄褐色シルト質土で、焼土粒、炭化物を含み締まりが固い。袖の内側表面は焼土化していた。掘り方は、火床下に0.1m前後の掘り込みが確認でき、埋め土は、焼土粒を含む細砂層の浅黄褐色土の上に、焼土、灰を含む灰黄褐色土が2層になって観察される。浅黄褐色土の層は一部灰を含む。重複遺構：10号住居に

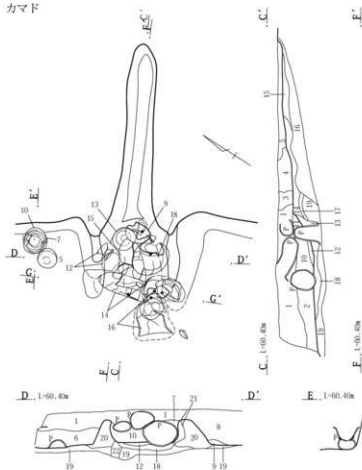


33号住居 A-A'・B-B'

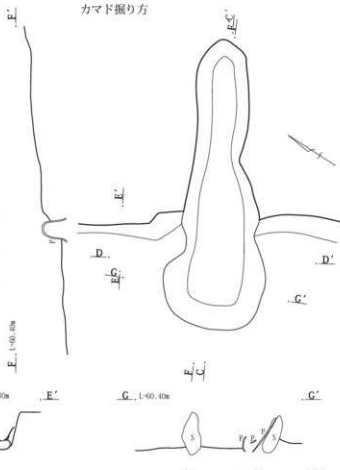
- 1 にぶい黄褐色土シルト質土。褐灰色粘質土ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土シルト質土。炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 3 にぶい黄褐色土シルト質土。灰白色シルト小ブロックを中量、炭化物を少量含む。しまり弱い。

第814図 5区8面 33号住居

カマド



カマド掘り方



33号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。マンガング粒、焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。しまり弱い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色細砂ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色細砂ブロックを中量、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 7 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト小ブロック、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 8 灰黄褐色土 シルト質土。マンガング粒、焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 9 灰黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。しまり弱い。
- 10 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色細砂小ブロック、焼土ブロック、灰を少量含む。しまり弱い。
- 11 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。しまり弱い。

- 12 灰黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 13 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、灰を中量含む。しまりやや固い。
- 14 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。しまりやや固い。
- 15 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量、灰を少量含む。しまりやや固い。
- 16 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色細砂ブロックを中量、焼土粒、灰を少量含む。しまり弱い。
- 17 灰黄褐色土 シルト質土。灰を多量含む。最初の使用面か。しまり弱い。
- 18 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を多量含む。しまり弱い。
- 19 浅黄褐色土 細砂土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 20 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまりやや固い。袖。
- 21 灰黄褐色土 シルト質土。20層と同様だが、焼土化している。しまりやや固い。袖。
- 22 浅黄褐色土 細砂土。灰を少量含む。しまり弱い。

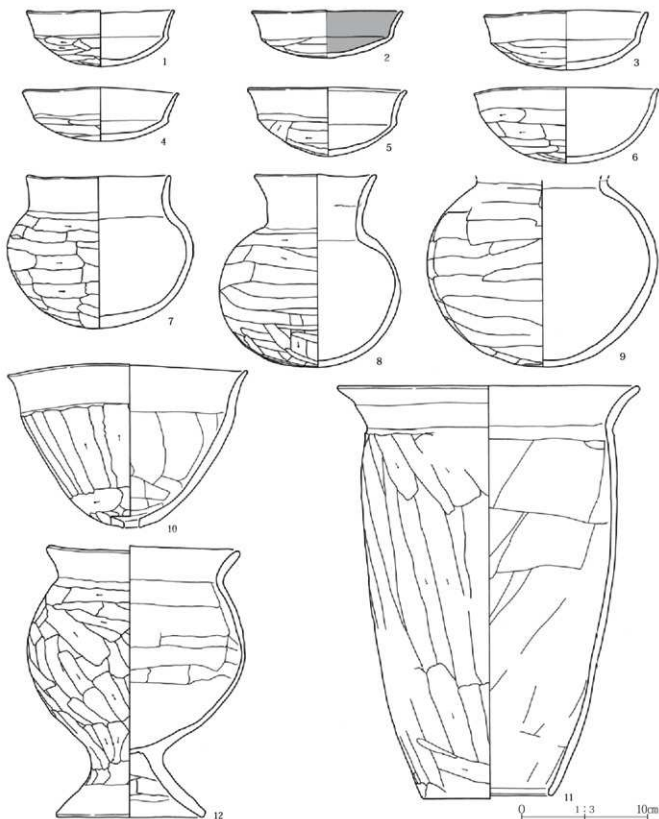
第815図 5区8面 33号住居カマド

後出しており、35号溝、23号土坑、1・2・3・4号墓に前出している。遺物：土師器(杯6点、壺2点、広口壺1点、台付甕1点、甕2点、甕6点)、須恵器(甕2点)、石製品(紡輪1点) カマド内部及び住居中央部から北東部にかけて数多く遺物が出土した。そのうち土器20点、石製品1点を図示した。カマドより壺(9)、台付甕(12)、

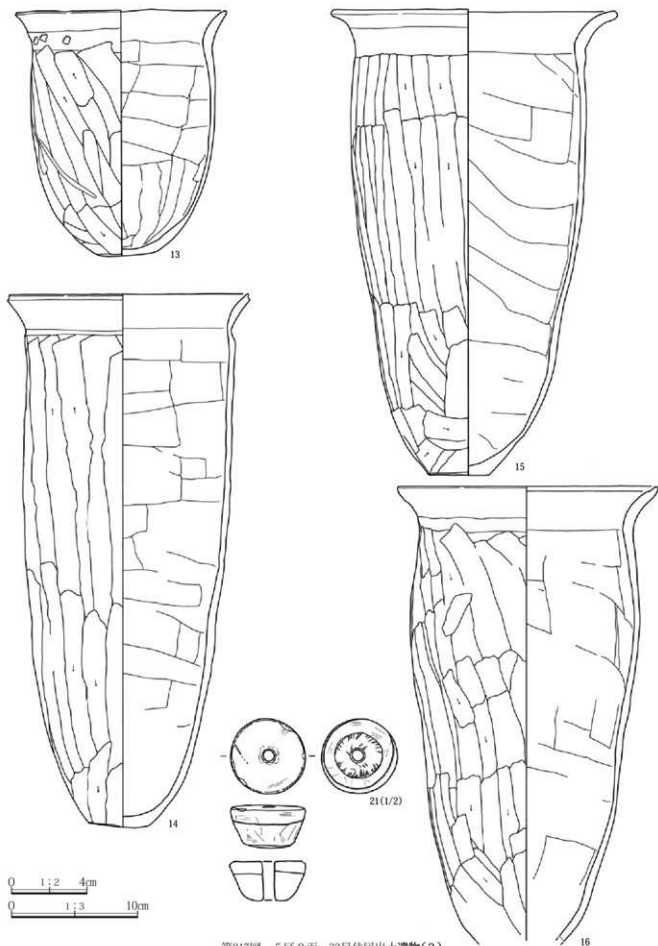
甕(13・14・15・16・18)が出土しており、いずれの土器も本住居に伴うものと考えられる。杯(1・2・3・4・5・6)、広口壺(7)、壺(8)、甕(10・11)、甕(17)は床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。甕(10)の上に広口壺(7)が重なっている。甕(須恵器)(19・20)は床上0.17～0.18mの位置から、

紡輪(21)は床上0.21mの位置から出土しており、いずれも本住居に伴うものか明瞭でない。円碟の出土も見られた。図示した以外に、土師器(甕類232片)、須恵器(杯類3片、甕類34片)が出土している。 所見(帰属時期)：

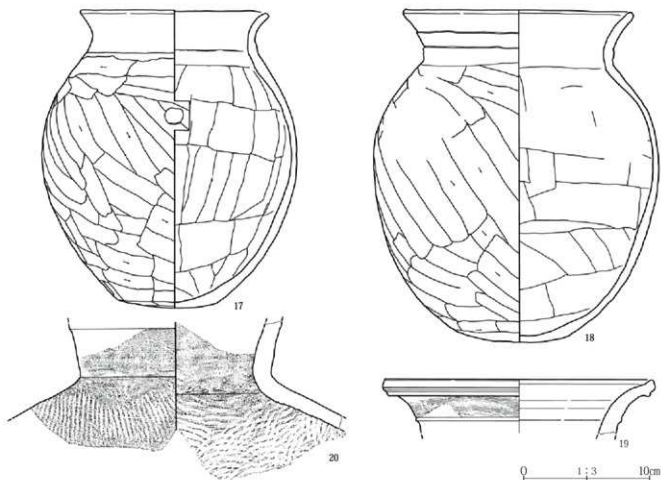
出土遺物、重複関係から、7世紀前半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差のないものである。



第816図 5区8面 33号住居出土遺物(1)



第817図 5区8面 33号住居出土遺物(2)



第818図 5区8面 33号住居出土遺物(3)

34号住居(第819・820図 PL.168)

5区西部住居群内にある。33号溝により南部を、10・11・12号墓により北東隅及びカマド付近の床面を壊されている。西部は削平が進んでおり全容が明瞭でない。

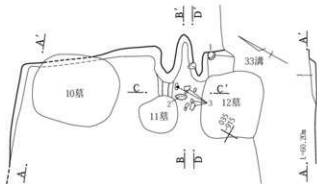
位置：034～038・-913～-917にある。

規模形状：北壁はやや丸みを帯び、東壁は歪んでいる。全体としては、方形を呈していると推察される。主軸長(1.83)m、幅(3.82)mである。埋没土・壁：灰黄褐色シルト質土の層で埋没している。焼土粒、炭化物を含む。人為的に埋戻されていると思われる。壁高は0.1mである。方位：N-60°-E 面積：(6.71)㎡ 床面：調査した範囲では、傾斜はなく平坦であるが、全容は明らかでない。貯蔵穴、柱穴等の窠みは確認できない。

掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。

カマド：東辺中央付近に位置すると思われる。全長0.99m、幅0.83m、焚口幅 不明、燃焼部幅0.17m、煙道は壁外側に0.24m張り出している。燃焼部は、住居内

にあり、火床上には支脚の礎が据えられ焼土が分布していた。支脚は、右袖に傾いていた。支脚は、長さ0.26m、幅0.13m、厚さ0.1mである。袖はにぶい黄褐色シルト質土で作られている。焼土ブロックを含み締まりが固い。焚口内に糞片が見られるが、焚口構築材の一部であるか



34号住居 A-A'

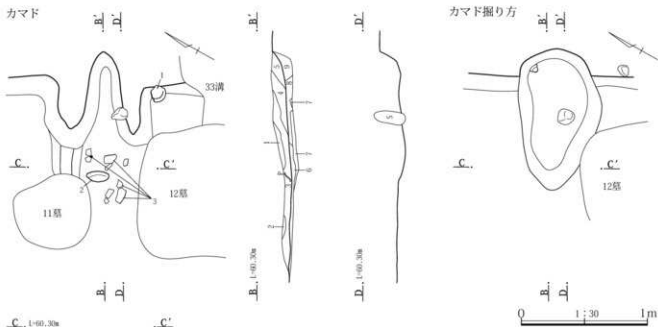
1 灰黄褐色土シルト質土。マンガン粒、焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。

第819図 5区8面 34号住居

明瞭でない。掘り方は、火床下に0.06m前後の掘り込みが確認でき、埋め土は、にぶい黄褐色シルト質土であり、下層に焼土ブロック、上層に炭化物、灰を含む。重複遺構：33号溝、10・11・12号竪に前出している。遺物：土師器(杯2点、甕1点) カマド内部を中心に遺物が出土した。そのうち土器3点を図示した。杯(1・2)、甕

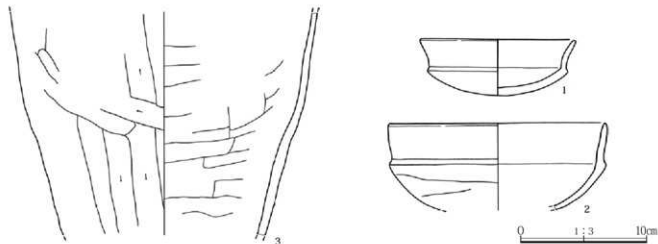
(3)はカマド内及び右袖側の床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。図示した以外に、土師器(甕類18片)が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物から、6世紀後半であると考ええる。



34号住居カマド B-B'・C-C'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を少量含む。しまり弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量、灰を少量含む。しまり弱い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を中量含む。しまり弱い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。しまりやや強い。袖。



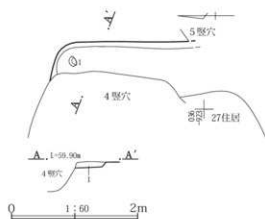
第820図 5区8面 34号住居カマド、出土遺物

35号住居(第821図 PL.168)

5区西部の住居群内にある。4号竪穴状遺構、27号住居により大きく壊されているため、全容が明らかでない。東辺付近一部の調査となった。

位置：035～038・921～922にある。

規模形状：東壁は直線的である。北壁に向かって曲がる様子から、方形を呈していると推察される。長軸長(2.53)m、短軸長(0.91)mである。埋没土・壁：灰黄褐色シルト質土一層で埋没している。浅黄橙色土ブロックを含む。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.11mである。方位：N-81°-E 面積：(1.15)㎡ 床面：調査した範囲では平坦であるが、全容は明瞭ではない。貯蔵穴、柱穴等の窪みは確認できない。掘り方：認められ

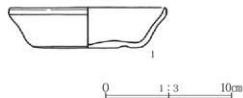


第821図 5区8面 35号住居、出土遺物

ない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：4・8・27号住居に前出しており、5号竪穴状遺構に後出している。遺物：土師器(杯1点) 住居北東部からわずかに遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は、床から0.16m程浮いた位置から出土した。これが本住居に伴う出土であるか明瞭でない。図示した以外に、土師器(杯類10片、甕類5片)が出土している。所見(帰属時期)：杯(1)は、8世紀後半から9世紀代のものであるが、27号住居に前出しているため混入と推察できる。重複関係から6世紀中頃と考えるが、時期決定の資料に欠ける。

35号住居 A-A'

1 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄橙色土細砂土ブロックを少量含む。



36号住居(第822図 PL.168)

5区西部の住居群内にある。19号土坑により北西隅を、21号土坑により東辺の一部を壊されている。6号住居により東壁から南壁にかけて壊されているが床面は影響を受けていない。48号住居により西壁の一部を壊されているが床面は影響を受けていない。残存状態は良好でなく全容は明らかでない。

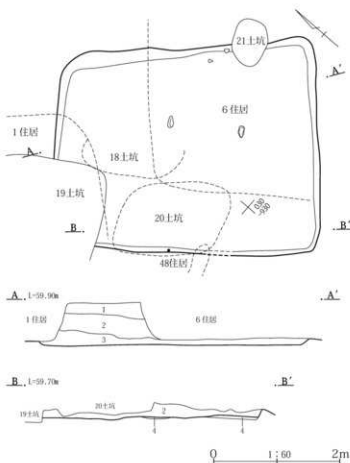
位置：028～033・927～932にある。

規模形状：北壁に対して南壁が長い。南北に長い歪んだ方形を対している。長軸長(4.10)m、短軸長3.21mである。埋没土・壁：中央部は、にぶい黄褐色土主体の土で埋没している。下層には焼土粒子・炭化物、中層には暗褐色ブロック・焼土粒・灰、上層には灰黄褐色土ブロックを含み、いずれも締まりが固い層である。西部は、暗

褐色シルト質土主体の土で埋没している。褐色土ブロックを含み粘性が強い。底部は締まりが固く、貼床であると思われる。人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.25mである。方位：N-43°-W 面積：(12.10)㎡(推定) 床面：傾斜はなく平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められない。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重複遺構：19・21号土坑に前出しており、38号住居に後出している。1・6・48号住居、18・20号土坑と重複している。

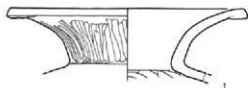
遺物：土師器(壺1点) 住居東壁、西壁から僅かに遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。壺(1)は、埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土も見られた。図示した以外に、土

飾器(表類22片)が出土している。所見(編属時期):出土遺物、重複関係から、6世紀代であると思われる。



36号住居 A-A'・B-B'

- 1 にふい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを中量含む。しまりやや強い。
- 2 にふい黄褐色土 シルト質土。暗褐色土小ブロック、焼土粒、灰を少量含む。しまりやや強い。
- 3 にふい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を微量含む。しまりやや強い。
- 4 暗褐色土 シルト質土。褐色土ブロックを中量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。貼床。



0 1:3 10m

第822図 5区8面 36号住居、出土遺物

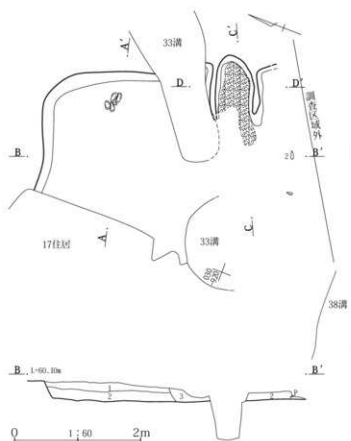
37号住居(第823・824図 PL.168)

5区西部の住居群内にある。17号住居により中央から西部にかけて、33・38号溝により東壁から中央にかけて床面が壊されている。南壁は調査区域外にあり全容が明らかでない。

位置:028～033・-916～-920にある。

規模形状:北壁、東壁共に丸みを帯び歪んでいる。整美さに欠ける方形を呈していると推察される。主軸長(3.28)m、幅(4.43)mである。埋没土・壁:にふい黄褐色シルト質土で埋没している。灰黄褐色土、炭化粒子、焼土ブロックを含み、締まりが強い。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と思われる。壁高は0.21mである。方位:N-65°-E 面積:(9.12)㎡ 床面:傾斜はほとんどない。若干起伏を伴うが、平坦である。カマド内から前部にかけて灰の分布が見られる。貯蔵穴、

柱穴等の掘り込みは確認できない。住居北東部に細長い自然石が数点出土している。出土位置がやや高いが、簡編石の可能性ある。掘り方:認められない。壁溝:認められない。ピット(柱穴):認められない。貯蔵穴:認められない。カマド:東辺中央付近に位置すると思われる。全長1.14m、幅0.93m、焚口幅不明、燃焼部幅0.46m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居内にあり、火床上には灰が分布していた。袖は粘土ブロックの混ざったにふい黄褐色土でつくられており、締まりが強い。掘り方は、火床下に0.05m前後の掘り込みが確認でき、埋め土は、にふい黄褐色土であり黒褐色土ブロックを含み締まりが強い。右袖下には、炭化物、灰、焼土ブロックを含む暗褐色土が、左袖下には、灰白色土ブロックを含むにふい黄褐色土が観察できる。この層の上中央部には、褐色土ブロックを含む黒褐色土の灰層が見られ

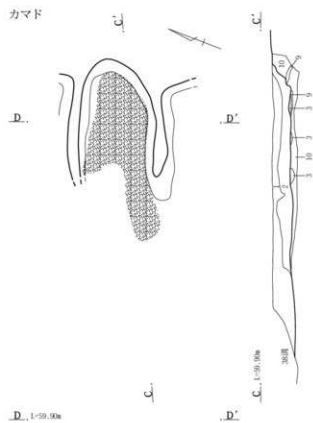


37号住居 A-A'・B-B'

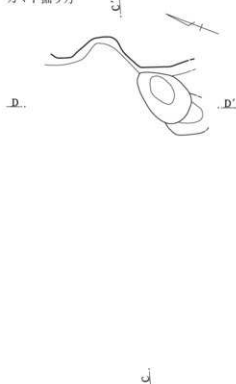
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量、炭化物、灰白色粘質土小ブロックを微量含む。しまりやや固い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを中量、炭化物、灰白色粘質土小ブロックを少量含む。しまりやや固い。
- 3 褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや固い。

37号住居カマド C-C'・D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを多量含む。しまりやや固い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土小ブロック、灰白色粘質土小ブロックを中量含む。しまりやや固い。
- 3 黒褐色土 灰層。褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや固い。
- 4 暗褐色土 シルト質土。焼土小ブロックを少量含む。上面硬化。しまりやや固い。
- 5 暗褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量含む。しまりやや固い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。粘質土小ブロックを少量含む。しまりやや固い。袖。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを少量含む。しまり固い。袖。
- 8 暗褐色土 炭化物、灰を多量、焼土小ブロックを少量含む。しまりやや固い。袖。
- 9 にぶい黄褐色土 灰シルト質土。白色土小ブロックを中量含む。しまり固い。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。黒褐色土小ブロックを少量含む。しまり固い。



カマド掘り方



第823図 5区8面 37号住居

る。重復遺構：3号竪穴、33・38号溝、17号住居に前出している。遺物：土師器(杯1点)、須恵器(甕1点)住居南部から僅かに遺物が出土した。そのうち土器2点、を图示した。甕(2)(須恵器)は住居床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。杯(1)は埋没土からの出土であり、混入と考えられ本住居に伴うか明瞭

でない。円礫の出土もあり、住居北東部に鶺鴒石と思われる礫が複数出土した。图示した以外に、土師器(杯類6片、甕類13片)が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物と重複関係から6世紀後半であると考える。



第824図 5区8面 37号住居出土遺物

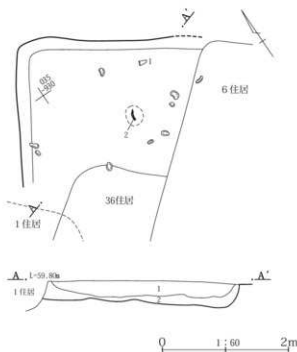
38号住居(第825・826図 PL.168)

5区西部の住居群内にある。1・36号住居により西部の使用面を、6号住居により南部の床面を壊されているため、全容が明瞭でない。

位置：032～035・-927～-931にある。

規模形状：北壁、西壁共に直線的で直交している。整った方形を呈していると推察される。長軸長(3.12)m、短軸長(2.32)mである。埋没土・壁：灰黄褐色シルト質土で埋没している。黄色細砂ブロックを含み、上層には焼土粒が観察される。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と思われる。壁高は0.29mである。方位：N-37°-E 面積：(5.27)㎡ 床面：傾斜はないが起伏が大きい。北辺際が、0.1～0.14m程度低くなっている。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できない。住居西部壁際と東部に細長い自然石が数点出土している。鶺鴒石の可能性がある。掘り方：認められない。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。カマド：認められない。重復遺構：1・6・36号住居に前出しており、39号住居に後出している。遺物：土師器(甕2点)住居北東部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器2点を图示した。甕(2)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。甕(1)は床から0.20m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円礫の出土があり、鶺鴒石と思われる礫も確認できた。図

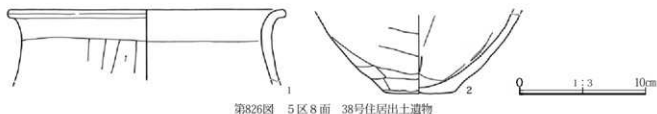
示した以外に、土師器(杯類4片、甕類15片)が出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、6世紀後半であると考える。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差のないものである。



38号住居A-A'

- 1 灰黄褐色土
シルト質土。黄色細砂小ブロック、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 2 灰黄褐色土
シルト質土。黄色細砂ブロックを中量含む。しまり弱い。

第825図 5区8面 38号住居



第826図 5区8面 38号住居出土遺物

39号住居(第827図 PL.169・238)

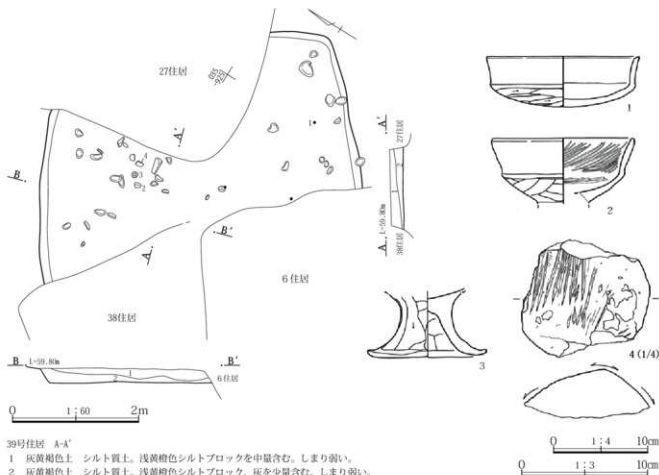
5区西部の住居群内にある。27号住居より北東隅から中央部の使用面が、6・38号住居により西部の床面が大きく壊されているため、全容が明らかでない。

位置：032～037・-923～-929にある。

規模形状：北壁、東壁、南壁共に、丸みを帯び歪んでいる。東壁に対して西壁が長い歪んだ方形を呈していると推察される。長軸長5.11m、短軸長(2.71)mである。

埋没土・壁：灰黄褐色シルト質土で埋没している。浅黄褐色を含んでいる。下層には、灰を観察できる。締まりは弱い。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と思われる。壁高は0.21mである。 方位：N-40°-W

面積：(9.58)m² 床面：傾斜はなく、平坦である。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できない。住居北部と南部に細長い自然石が数点出土している。蓆編石の可能性ある。掘り方：認められない。 壁溝：認められない。 ピット(柱穴)：認められない。 貯蔵穴：認められない。 カマド：認められない。 重複遺構：6・27・38号住居に前出しており、40号住居に後出している。 遺物：土師器(杯1点、高杯2点) 石製品(砥石2点) 住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器3点、石製品1点を図示した。杯(1)、高杯(2)及び砥石(4)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。高杯(3)は床から0.28m程浮いた位置から出土し



39号住居 A-A'

1 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルトブロックを中量含む。しまり弱い。

2 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルトブロック、灰を少量含む。しまり弱い。

第827図 5区8面 39号住居、出土遺物

ており、本住居に伴う出土であるか明瞭でない。川原石状の礫の出土も多数あり、蓆編石と思われる礫も数点確認できた。図示した以外に、土師器(杯類57片、甕類82片)、須恵器(杯類1片)が出土している。 **所見(帰属時期)**: 出土遺物、重複関係から、6世紀中頃であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差のないものである。

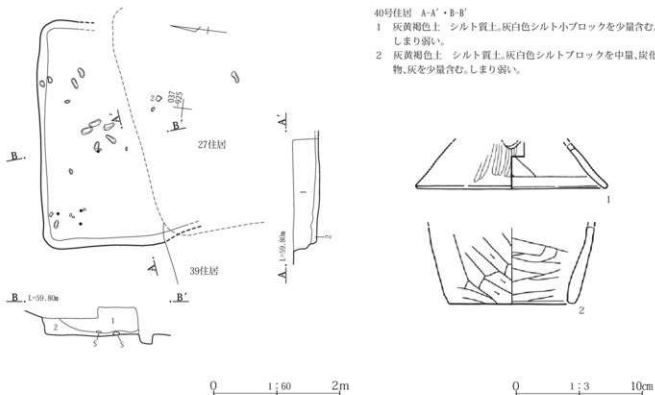
40号住居(第828図 PL.169)

5区西部の住居群内にある。住居南部の削平が進んでおり、全容が明瞭でない。

位置: 036～039・-923～-927にある。

規模形状: 各辺丸みを帯びて歪んでいる。北壁に対して南壁が短い整美さに欠ける方形をしていると推察される。長軸長(3.59)m、短軸長(2.30)mである。 **埋没土・壁**: 灰黄褐色シルト質土で埋没している。灰白色シルト質土ブロックを含む。下層には、炭化物、灰が観察される。締まりは弱い。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と思われる。壁高は0.25mである。 **方位**:

N-10°-W **面積**: (6.75)㎡ **床面**: 傾斜はなく、緩やかな起伏を伴うが平坦である。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できない。住居中央北寄りに細長い自然石が数点出土している。蓆編石の可能性はある。 **掘り方**: 認められない。 **壁溝**: 認められない。 **ピット(柱穴)**: 認められない。 **貯蔵穴**: 認められない。 **カマド**: 認められない。 **重複遺構**: 27・39号住居、4号竪穴状遺構、35号溝、16号土坑に前出している。 **遺物**: 土師器(器台1点、甕1点) 住居北部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。甕(2)は、床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。器台(1)は住居埋没土からの出土であり、本住居に伴う出土であるか明瞭でない。川原石状の礫の出土もあり、蓆編石と思われる礫が数点確認できた。図示した以外に、土師器(杯類4片、甕類14片)が出土している。 **所見(帰属時期)**: 重複関係及び出土遺物より、6世紀前半であると思われる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差のないものであると考えられる。



第828図 5区8面 40号住居、出土遺物

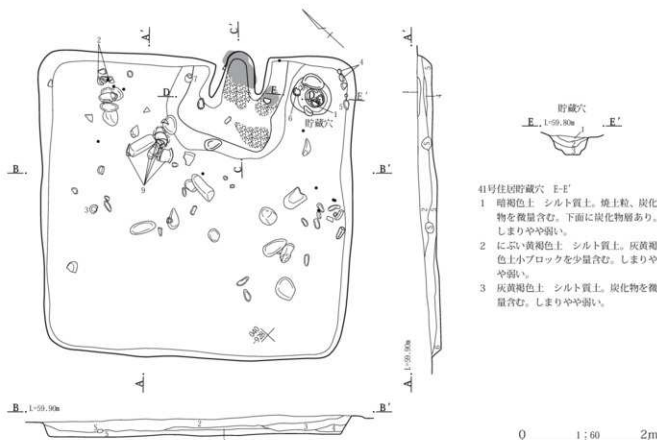
41号住居(第829～831図 PL.169・238)

5区西部の住居群内にある。残存状態は良好である。

位置：039～045・923～930にある。

規模形状：各辺若干歪んでいるがおよそ直線的である。西壁に対して東壁がやや長い。整った方形を呈している。主軸長4.75m、幅5.04mである。埋没土・壁：まず、西壁から、灰黄褐色土ブロックを含んだ微砂質のにぶい黄褐色土が流れ込み、次に、南壁から、炭化物を含む粘性の強い暗褐色シルト質土、灰黄褐色土ブロックを含む暗褐色シルト質土の順で流れ込んでいる。その後、全体が灰黄褐色土・褐色土ブロックを含む暗褐色シルト質土で埋没している。いずれも締まりが強い。不自然な堆積が観察され、人為的に埋戻されていると思われる。壁高は0.26mである。方位：N-42°-E 面積：21.04㎡

床面：中央部分は傾斜もなく平坦である。中央から東部にかけて0.16m程度高くなっており、中央から西部にかけて0.16m程度低くなっている。住居北東部、中央部、南西部を中心に礎の配置が多く、この住居に関わる施設の痕跡であると思われるが明瞭ではない。カマド周りは床が盛り上がりしており、右袖前には灰と焼土の分布が認められた。貯蔵穴は確認できた。柱穴は認められなかった。南壁直下には、細長い自然石が数点出土しており、蒔編石の可能性がある。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：南東隅に窪みを確認する。位置と規模、及び灰の分布、遺物などから、貯蔵穴と思われる。埋没土は、炭化粒子を含む灰黄褐色シルト質土、灰黄褐色土を含むにぶい褐色シルト質土、下面に炭化物層があり焼土・



41号住居貯蔵穴 E-E'

- 1 暗褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を微量含む。下面に炭化物層あり。しまりやや弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を微量含む。しまりやや弱い。

41号住居 A-A'・B-B'

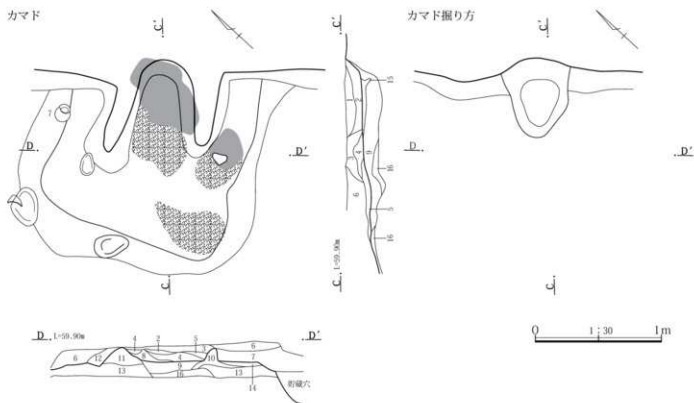
- 1 にぶい黄褐色土 酸化鉄凝集を多量含む。しまりやや弱い。シルト質。
- 2 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロック、褐色土ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 3 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを中量含む。しまりやや弱い。

- 4 暗褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを中量含む。しまりやや弱い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを多量含む。しまりやや弱い。

第11章 古墳時代後期～平安時代(8面)の遺構と遺物

炭化を含む暗褐色シルト質土の順である。いずれも締まりが弱い。長径0.61m、短径0.58m、深さ0.29mである。カマド：東辺中央部やや南寄りに位置する。全長0.83m、幅0.97m、焚口幅0.45m、燃燒部幅0.37m、煙道は確認できなかった。燃燒部は、住居内にあり、火床上には炭化物及び焼土の分布がみられた。左袖先端部分付近には補石と思われる礫が据えられ、焚口構築材の一部であると思われる。右袖は、焼土ブロックを含み粘性が高く締まりの強い褐色土で、左袖は、焼土ブロック、炭化物を含み粘性が高く締まりの強い褐色シルト質土で

各々つくられている。掘り方は、火床下に0.12m前後の掘り込みが確認でき、埋め土は、灰黄褐色土ブロックを含む微砂質のにぶい黄褐色土であり、締まりがある。重複遺構：21・25・29号住居、35・36号溝に前出している。遺物：土師器(杯6点、小型壺1点、甗2点) 住居北東部から点在するように遺物が出土した。そのうち土器9点を図示した。貯蔵穴から出土した杯(1・6)は本住居に伴うものと考えられる。住居から出土した杯(2・3・4・5)は、床から0.1～0.22m程浮いた位置から確認されており、本住居に伴うものであるが明瞭でない。カ



41号住居カマド C-C'・D-D'

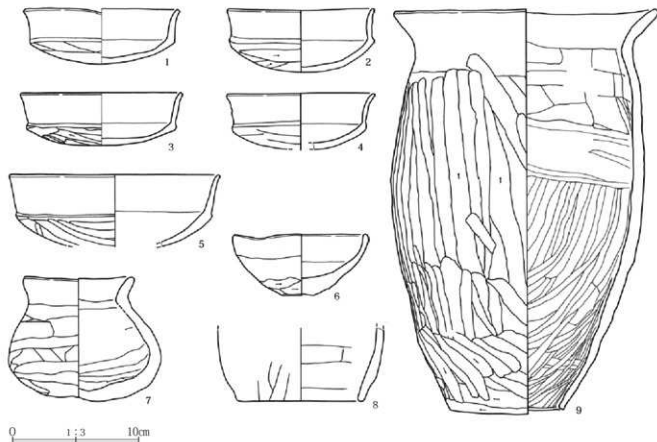
- 1 暗褐色土 シルト質土。焼土ブロックを中量含む。下面に灰層あり。しまりやや強い。
- 2 褐色土 焼土層。灰を中量含む。しまり強い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、粘質土粒を少量含む。しまりやや強い。
- 4 暗褐色土 灰を多量、焼土ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 5 褐色土 シルト質土。焼土粒、灰を少量含む。しまりやや強い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを中量含む。しまりやや強い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロック、炭化物を微量含む。しまりやや強い。
- 8 褐色土 シルト質土。焼土細粒を多量含む。しまりやや弱い。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。

- 10 褐色土 焼土ブロックを少量含む。粘性強い。しまりやや強い。粘質土。袖。
- 11 褐色土 シルト質土。焼土小ブロック、炭化物を少量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。袖。
- 12 褐色土 焼土大ブロックを多量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 13 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 14 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、炭化物、灰を多量含む。しまりやや強い。
- 15 にぶい赤褐色土 シルト質土。焼土層。灰を少量含む。しまりやや弱い。
- 16 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを微量含む。しまりやや弱い。

第830図 5区8面 41号住居カマド

マド左袖側から出土した小型壺(7)は、床直上からの出土であり本住居に伴うものである。甔(9)は床直上から0.07m浮いた範囲からの出土であり、本住居に伴う可能性が大きい。甔(8)は、住居埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるか明瞭でない。円蹄の出土も多

く見られ、筒編石と思われる礫も確認された。図示した以外に、土師器(杯類51片、甕類224片)、須恵器(杯類2片)が出土している。所見(帰属時期):出土遺物から、6世紀後半であると考ええる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。



第831図 5区8面 41号住居出土遺物

42号住居(第832図 PL.169・238)

5区西部の住居群内にある。全体的に削平が進んでおり残存状態は良好でない。東辺が調査区域外にあり全容が明らかでない。

位置: 044～048・921～926にある。

規模形状: 各辺若干丸みを帯びた直線である。北西隅が鋭角に、南西隅が鈍角に交わっている。南北に潰れた方形を呈していると推察される。主軸長3.31m、幅(3.17)mである。埋没土・壁: 微砂質のにぶい黄褐色土で埋没している。粘質土ブロックを含み締まりが強い。人為的に埋戻されていると思われる。壁高は0.06mである。

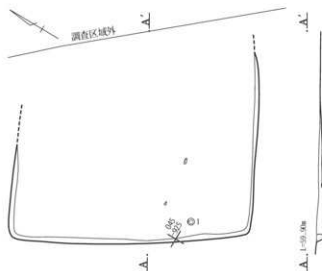
方位: N-60°-E 面積: (10.61)㎡ 床面: 調査し

た範囲では、西に0.12m傾斜している。貯蔵穴、柱穴等の窠みは確認できなかった。掘り方: 認められない。

壁溝: 認められない。ピット(柱穴): 認められない。

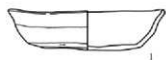
貯蔵穴: 認められない。カマド: 認められない。重複遺構: 21・25・29号住居、34・39号溝に前出している。

遺物: 土師器(杯1点) 住居西部から僅かに遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。杯(1)は、床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。図示した以外に、土師器10片が出土している。所見(帰属時期): 出土遺物から、8世紀後半から9世紀代であると考ええる。



42号住居 A-A'

1 にぶい黄褐色土 シルト質土。粘質土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。



0 1:3 10cm

0 1:60 2m

第832図 5区8面 42号住居、出土遺物

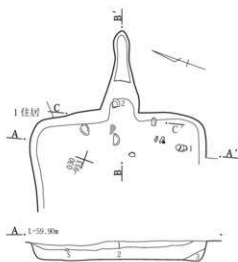
48号住居(第833・834図 PL.169)

5区西部の住居群内にある。中央部から西部にかけては削平が進んでいるため、カマド周辺のための調査となり、全容が明らかでない。

位置：029～030・-930～-933にある。

規模形状：東壁、南壁共に丸みを帯びている。緩やかに膨らんだ方形であると推察される。主軸長(0.84)m、幅(2.44)mである。埋没土・壁：南壁際は、酸化鉄凝集、粘質土ブロックを含んだにぶい黄褐色シルト質土で埋没しており、その後、焼土粒、炭化物を含む暗褐色シルト質土、酸化鉄分を含んだ締まりの強い暗褐色シルト質土で順次埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.27mである。方位：N-69°-E 面積：(1.40)㎡ 床面：傾斜はなく平坦である。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは確認できなかった。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。

カマド：東辺中央付近に位置すると思われる。全長1.45m、幅0.61m、焚口幅0.41m、燃焼部幅0.38m、煙道は壁外側に1.27m突出している。燃焼部は、住居外にあり、火床上には、焼土がわずかに確認でき、土師器片が出土していた。袖材は断面より、焼土ブロック、灰を含むにぶい黄褐色シルト質土である。掘り方は、火床下に0.08mの掘り込みが確認でき、埋め土は、締まりの弱い微砂質のにぶい黄褐色土であり、炭化物及び灰を含



0 1:60 2m

48号住居 A-A'

- 1 暗褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガング粒を少量含む。しまりやや弱い。
- 2 暗褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を微量含む。しまりやや弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量。にぶい黄褐色粘質土小ブロックを微量含む。しまりやや弱い。

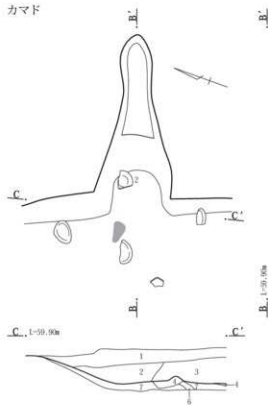
第833図 5区8面 48号住居

む。重複遺構：20号土坑に前出しており、1・36号住居に後出している。遺物：土師器(杯1点)、須恵器(皿1点) カマド付近中心に遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。杯(1)は床直上からの出土であり、皿(2)はカマドからの出土であった。皿は床から0.06m程浮いているが、これらは本住居に伴うものと

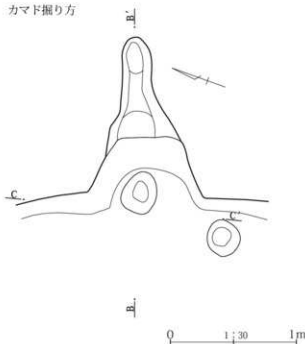
考えるのが自然である。円礫の出土も見られた。図示した以外に、土師器(杯類21片、裏類21片)が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物、重複関係から、8世紀中頃であると考える。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。

カマド

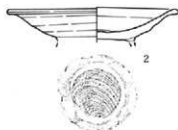
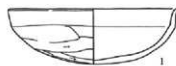


カマド掘り方



48号住居カマド B-B'・C-C'

- 1 暗褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガング粒を少量含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を微量含む。しまりやや弱い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒を微量含む。粘性やや強い。しまりやや強い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。焼土ブロック、灰を多量含む。しまりやや弱い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量含む。しまりやや弱い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。しまりやや弱い。



0 1:3 10cm

第834図 5区8面 48号住居カマド、出土遺物

50号住居(第835図 PL.170)

5区東部の住居群内にある。15号住居に大きく壊されているため、カマド周辺のみ調査となり全容が明瞭でない。

位置：047～049・-903～-907にある。

規模形状：不明 主軸長(1.84)m、幅(1.56)mである。

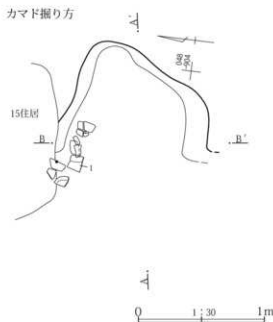
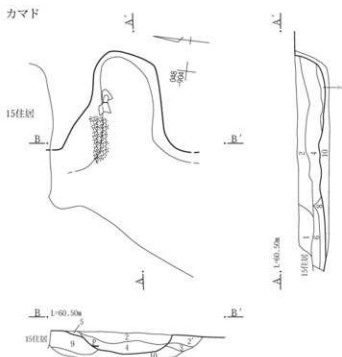
埋没土・壁：壁高は0.27mである。 方位：N-81°-E

面積：計測不能 床面：不明 壁溝：認められない。

ピット(柱穴)：認められない。 貯蔵穴：認められない。

カマド：東辺に位置すると思われる。全長1.62m、幅1.21m、焚口幅不明、燃焼部幅0.41m、煙道は確認できなかった。燃焼部は、住居外にあると思われる。火床左には炭が分布していた。袖は明瞭に確認できなかったが、

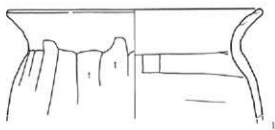
断面より、袖は、にぶい黄褐色シルト質土で作っていたと思われる。焼土粒子を含み締まりが強い。掘り方は、火床下に0.09mの掘り込みが確認され、埋め土は、締まりの弱いにぶい黄褐色土であり、細砂、灰を含む。 重複遺構：15号住居に前出しており、24・28号住居に後出している。 遺物：土師器(糞1点) カマド使用面及び掘り方から出土している。そのうち土器1点を図示した。糞(1)は、カマド掘り方及び15号住居使用面から出土している。大半が本住居に位置するため、15号住居に混入したものと考えた。図示した以外に、土師器(杯類7片、糞類52片)が出土している。 所見(帰属時期)：重複関係及び出土遺物より6世紀後半であると考えられる。



50号住居カマド A-A'・B-B'

- 1 褐色土 シルト質土。焼土粒を微量、細砂土を少量含む。しまりやや弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物を少量含む。しまりやや弱い。

- 2' にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土、炭化物含む。しまり強い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。黒褐色土ブロックを少量含む。しまりやや強い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰をブロック状に多量含む。しまりやや強い。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。マンガン粒を少量含む。しまりやや強い。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。黒褐色土ブロック、灰を少量含む。しまりやや強い。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。細砂土を多量含む。しまり弱い。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰をブロック状に中量、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を中量含む。しまりやや強い。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。細砂土を多量、灰を少量含む。しまり弱い。



第835図 5区8面 50号住居、出土遺物

(2) 竪穴状遺構

平面形が方形で、大型の掘り込みを持つ遺構のうち、床面の硬化がなくカマド等の施設が見られないものを竪穴状遺構として調査した。

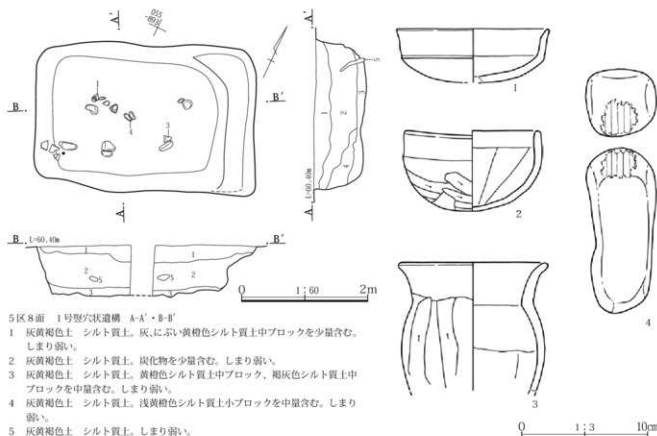
1号竪穴状遺構(第836図 PL.170・238)

位置：053～056・-990～-995 規模形状：各辺はやや曲線を描き、角の丸みが大きい隅丸長方形を呈している。長軸長3.52m、短軸長2.36mである。埋没土・壁：灰黄褐色シルト質土で埋没している。レンズ状堆積が見られることから、自然堆積と推察される。東辺は上半部が緩やかに立ち上がる。壁高は0.7～0.84mである。長軸方位：N-66°-E 床面：やや凹凸がある。掘り方は認められなかった。施設：確認できない。遺物：土師器(杯2点、甕1点)、磨石(4)の他、土師器(杯類16片、甕類54片)、須恵器(杯類3片)、敲石が出土した。杯(1)、甕(3)、磨石(4)は床面より0.2m程度浮いた位置からの出土であり、杯(2)は埋没土からの出土のため、本遺構に伴うかは明瞭ではない。所見：当遺跡内における

大半の住居よりも残存深度が深い。本遺構に確実に伴うかは定かでないが、出土遺物は6世紀後半に位置付けられることから、本遺構もその時期に属する可能性がある。

2号竪穴状遺構(第837図 PL.170)

位置：046～048・-895～-899 規模形状：大半が調査区域外にあり、他の遺構と重複もしているため、全容は不明である。調査できた北辺は直線的である。形状は隅丸長方形の可能性が高い。長軸長(3.72)m、短軸長(0.82)mである。埋没土・壁：灰黄褐色シルト質土で埋没している。レンズ状堆積が見られることから、自然堆積と推察される。壁高は0.58mである。長軸方位：N-70°-E 床面：ほぼ平坦であるが、西側に向かってわずかに傾斜を持つ。掘り方は認められなかった。施設：確認できない。重複遺構：14号住居、35号溝に前出し、11号住居に後出する。遺物：土師器(杯類1片、甕類12片)、須恵器(杯類1片、甕類1片)が出土した。所見：本遺構の時期は、他遺構との重複関係から、8世紀後半～9世紀後半に位置付けられる。

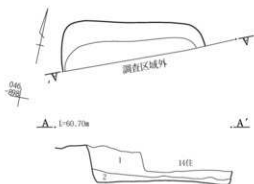


5区8面 1号竪穴状遺構 A-A'・B-B'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。灰にふい黄褐色シルト質土中ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。黄褐色シルト質土中ブロック、褐灰色シルト質土中ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土小ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。しまり弱い。

第836図 5区8面 1号竪穴状遺構、出土遺物

2号竪穴状遺構



5区8面 2号竪穴状遺構 A-A'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。にぶい黄褐色砂層中ブロックを中量、炭化物を少量含む。しまり弱い。

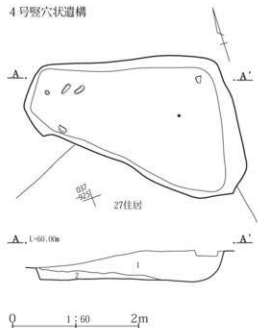
3号竪穴状遺構



5区8面 3号竪穴状遺構 A-A'

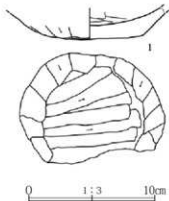
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。焼土粒を少量含む。しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 灰。焼土粒を中量含む。しまり弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 灰。焼土粒を少量含む。浅黄褐色シルト質土中ブロックを少量含む。しまり弱い。

4号竪穴状遺構

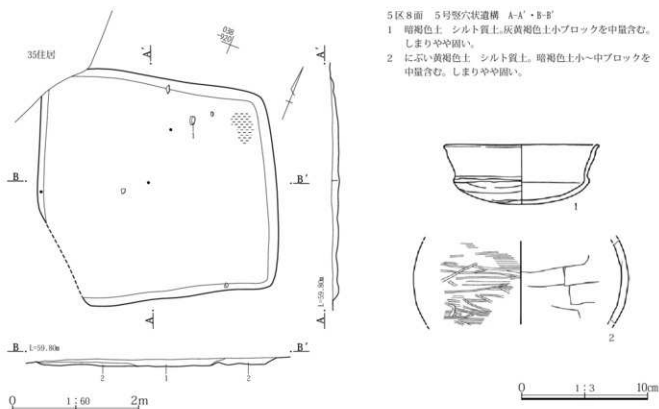


5区8面 4号竪穴状遺構 A-A'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。灰白色粘質土小ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰、灰白色土小ブロックを少量含む。しまり弱い。



第837図 5区8面 2～4号竪穴状遺構、4号竪穴状遺構出土遺物



第838図 5区8面 5号竪穴状遺構、出土遺物

3号竪穴状遺構(第837図 PL.170)

位置: 033 ~ 036・-916 ~ -920 **規模形状:** 各辺は直線的である。東辺は南側にいくほど開いているため、南辺が長い台形状を呈している。長軸長(2.52)m、短軸長2.0mである。 **埋没土・壁:** にぶい黄褐色シルト質土で埋没している。レンズ状堆積が見られることから、自然堆積と推察される。埋没土上層には、焼土粒や灰が少量含まれる。壁高は0.17 ~ 0.24mである。 **長軸方位:** N-89°-W **床面:** ほぼ平坦であるが、北東角へ向かってわずかに傾斜を持つ。掘り方は認められなかった。 **施設:** 確認できない。 **重複遺構:** 8号住居・5号竪穴状遺構に前出し、37号住居に後出する。 **遺物:** 土師器(杯類10片)、須恵器(甕類5片)が出土した。 **所見:** 本遺構の時期は、重複関係から、6世紀後半に位置付けられる。

4号竪穴状遺構(第837図 PL.170)

位置: 036 ~ 040・-922 ~ -926 **規模形状:** 北辺以外は曲線を描いている。南辺は東側にいくほど開いているため、東辺が長い台形状を呈している。また、他の遺構との重複により、南辺が壊されている。長軸長3.48m、短軸長(2.28)mである。 **埋没土・壁:** 灰黄褐色シルト質土で埋没している。壁側から埋もれている状況が見られ、自然堆積と推察される。埋没土上層には、炭化物や灰が少量含まれる。壁高は0.19 ~ 0.5mである。 **長軸方位:** N-70°-W **床面:** ほぼ平坦である。掘り方は認められなかった。 **施設:** 確認できない。 **重複遺構:** 27号住居、35号溝に前出し、35号住居に後出する。 **遺物:** 土師器(甕1点)の他、須恵器(甕類46片)が出土した。甕(1)は床より0.27m程度浮いており、本遺構に伴うかは、明瞭ではない。 **所見:** 甕(1)の時期は6世紀 ~ 8世紀前半に位置付けられ、本遺構の時期は、重複関係から、6世紀中頃に位置付けられる。

5号竪穴遺構(第838図 PL.170)

位置: 032～038・-917～-923 **規模形状:** 各辺は直線である。西辺が東辺に対して長い。隅丸台形を呈している。西辺の両端は重複により、確認できなかった。長軸長3.78m、短軸長3.76mである。 **埋没土・壁:** 暗褐色にぶい黄褐色シルト質土で埋没している。レンズ状堆積が見られることから、自然堆積と推察される。壁高は0.04～0.12mである。 **長軸方位:** N-68°-E **床面:** ほぼ平坦である。北東角には炭化物がまとまって見られた。掘り方は認められなかった。 **施設:** 確認できない。 **重複遺構:** 8・17・35号住居に前出し、3号竪穴遺構に後出する。 **遺物:** 土師器(杯1点、埴1点)の他、土師器(甕37片)が出土した。杯(1)は床直上からの出土であり、本遺構に伴うものと考えられるが、埴(2)は埋没土中からの出土であるため、本遺構に伴うかは明瞭ではない。 **所見:** 出土遺物と重複関係から、6世紀中頃に位置付けられる。

(3)溝**30号溝(第839図 PL.170・238)**

位置: 055～062・-875～-881 **規模:** (6.0)m×(3.52)m **残存深度:** 1.12m **走行方位:** N-51°-W **遺物:** 土師器杯(1・2)、土師器鉢(3)、土師器甕(6)、須恵器杯(4)、須恵器高杯(5)、白玉(7)の他、土師器(杯類92片、甕類312片)、須恵器(杯類20片、甕類24片)、磨石と考えられる礫石器、不明石製品が出土した。土師器杯(1)と土師器甕(6)、白玉(7)は溝底面からの出土である。 **所見:** 灰黄褐色～褐色シルト質土で埋没していた。調査区東端で部分的に調査できたのみである。南北方向に掘削される大規模な溝であり、溝の南北両端部の高低差を見ると、南端が0.05m低くなっている。断面形は逆台形もしくは浅鉢状で、底面は平坦である。幅は広く、残存深度は深い。規模から、北側から南側へと送水する用排水路と考えられる。溝の時期は、出土遺物から6世紀後半と考えられる。

33号溝(第840・742図 PL.171・238)

位置: 020～037・-911～-939 **規模:** (30.9)m×1.2～2.48m **残存深度:** 0.54～0.94m **走行方位:** N-61°-E **遺物:** 須恵器甕(1)、小型台付甕(2)、丸瓦(3)、砥石(4)、不明鉄製品(5)の他、土師器(杯類297

片、甕類665片)、須恵器(杯類56片、甕類28片)、砥石片と考えられる石製品、不明石製品が出土した。 **重複遺構:** 17・18・34・37号住居、38号溝に後出する。 **所見:** 黒褐色～灰黄褐色シルト質土で埋没していた。調査区西側を東西方向に掘削される。途中で立ち上がる部分があり、溝としては流路が止まっている。西端は地形が下がっており確認できなくなる。溝の掘削深度は様々であるが、西端が東端よりも0.25m低くなっている。埋没土中には多数の円礫が投げ込まれている。断面形は逆台形で、底面は段差が多いが、その中では平坦である。幅は広く、残存深度は深い。規模が大きいため、途中で止まっている部分があることから、区画溝と考えられる。溝の時期は、出土遺物や重複関係から9世紀以降と考えられる。

34号溝(第841・842図 PL.171・238)

位置: 041～048・-920～-924 **規模:** (6.6)m×0.48～0.72m **残存深度:** 0.22m **走行方位:** N-20°-W **遺物:** 土鉢(6)の他、土師器(杯類6片、甕類18片)、砥石が出土した。 **重複遺構:** 42号住居に後出する。 **所見:** 灰黄褐色～ぶい黄褐色シルト質土で埋没していた。南北方向に掘削される。西側に位置する39号溝と並行しており、南端は39号溝と共に35号溝に合流している。溝の南北両端部の高低差を見ると南端が0.08m低くなっている。断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅はやや狭く、残存深度はやや浅い。用排水路と考えられる35号溝に流れ込むようになっており、規模は小さいものの、用排水路の可能性はある。溝の時期は、重複関係から8世紀後半～9世紀前半以降と考えられる。

35号溝(第841・842図 PL.171・238)

位置: 036～054・-884～-935 **規模:** (52.6)m×0.52～2.08m **残存深度:** 0.26m **走行方位:** N-72°-E **遺物:** 須恵器杯(7)、須恵器鉢(8)、鎌(9)、角釘と考えられる鉄製品(10)、滑石原石(11)の他、土師器(杯類72片、甕類205片)、須恵器(杯類8片、甕類5片)、灰釉陶器(杯類5片)、凹石が出土した。杯(7)は、破片が12号住居からも出土しており、本来は12号住居の遺物が混入した可能性がある。 **重複遺構:** 4・9・11・12・14・26・33・40・41号住居、2・4号竪穴遺構、16号土坑に後出する。 **所見:** 暗褐色にぶい黄褐色シルト質土で埋没していた。調査区内を東西方向に長く掘削される。途中調査区南辺際で屈曲する。西端は地形が下がる

ことにより、東端は7面22号溝との重複により確認できなくなる。溝の西部では、南北方向の溝である34・39号溝と合流し、36号溝と接している。溝の東西両端部の高低差を見ると西端が0.35m低くなっている。断面形は皿状で、底面は平坦である。幅は東側がやや細くなるが、広い部分が多く、残存深度はやや浅い。規模は大きくないものの、複数の溝と接続しており、東側から西側へと送水する用排水路と考えられる。溝の時期は、出土遺物及び重複関係から9世紀後半以降と考えられる。

36号溝(第841図)

位置：039～045・-926～-932 規模：(6.8)m×0.76～1.22m 残存深度：0.24m 走行方位：N-41°-W
 遺物：土師器(杯類2片、甕類2片)が出土した。重複遺構：22・41号住居に後出する。 所見：灰黄褐～にぶい黄褐色シルト質土で埋没していた。南北方向に掘削される。34・39号溝の少し離れた西側を北西方向から南東方向に掘削される。北端は溝より古い住居と考えられる22号住居との重複で埋没土を確認することができず、調査できなかった。南端は35号溝との重複により確認できなくなる。35号溝と交わる場所は、36号溝が断ち切られるようになっており、接続していなかった可能性がある。溝の南北両端部の高低差はほとんどなく、0.02m北端が低くなっている。断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅はやや広く、残存深度はやや浅い。地形とは逆の高低差になっており、他の溝との接続も不明であることから、用排水路としての機能は想定しがたい。溝の性格は不明である。溝の時期は、土師器片及び重複関係から6世紀後半以降と考えられる。

37号溝(第841図 PL.171)

位置：041～031・-926～-934 規模：(3.3)m×0.46～0.56m 残存深度：0.14m 走行方位：N-20°-E
 遺物：土師器(甕類3片)、須恵器(甕類1片)が出土した。重複遺構：12・22号住居に前出する。 所見：にぶい黄褐色シルト質土で埋没していた。南北方向に掘削される。北端は36号溝と交わる方向であるが、22号住居との重複により、埋没土が確認できなかった。南端は12号住居との重複により確認できなくなる。溝の南北両端部の高低差は、北端が0.04m低くなっている。断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅はやや狭く、残存深度は浅い。地形とは逆の高低差になっており、他の溝との接続

も不明であることから、用排水路としての機能は想定しがたい。この溝の性格は不明である。溝の時期は重複関係から、6世紀後半以前と考えられる。

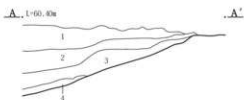
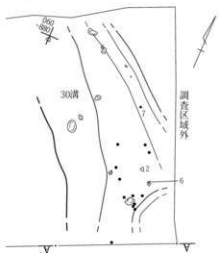
38号溝(第839図)

位置：027～029・-918～-924 規模：(4.0)m×(2.0)m 残存深度：0.64m 走行方位：N-83°-E 遺物：土師器(杯類9片、甕類4片)が出土した。重複遺構：33号溝に前出する。 所見：にぶい黄褐～褐色シルト質土で埋没していた。東西方向に掘削される。調査区南辺で部分的に確認したに過ぎない。調査区内では、33号溝との重複により、底面付近のみの確認となった。西端は、浅くなることと33号溝との重複で確認できなくなる。溝の東西両端部の高低差は、西端が0.18m低くなっている。断面形は皿状で、底面は平坦である。幅は広く、残存深度も深い。西側の走行は33号溝と重複する位置にある可能性がある。規模も大きいことから、33号溝の前手で、同溝と同様に区画溝の可能性もある。溝の時期は重複関係から、9世紀以前と考えられる。

39号溝(第841図 PL.171)

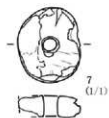
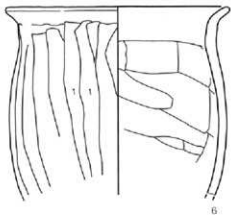
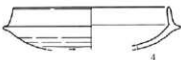
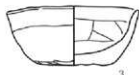
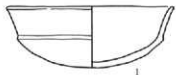
位置：040～048・-921～-925 規模：(7.8)m×0.48～0.7m 残存深度：0.42m 走行方位：N-16°-W
 遺物：土師器(杯類13片、甕類21片)、須恵器(杯類3片、甕類1片)が出土した。重複遺構：42号住居に後出する。 所見：褐灰色シルト質土で埋没していた南北方向に掘削される。東側に位置する34号溝と並行しており、南端は34号溝と共に35号溝に合流している。溝の南北両端部の高低差を見ると南端が0.01m低くなっている。断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅はやや狭く、残存深度はやや深い。用排水路と考えられる35号溝に流れ込むようになっており、規模は小さいものの、用排水路の可能性もある。溝の時期は、出土遺物及び重複関係から、9世紀以降と考えられる。

30号溝

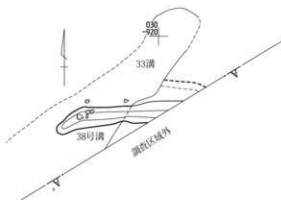


5区8面 30号溝 A-A'

- 1 にふい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量含む。しまりやや強い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを多量、黒褐色土小ブロックを微量含む。しまりやや弱い。
- 3 にふい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小～中ブロックを中量含む。しまりやや弱い。
- 4 褐色土 砂質土。粗砂土を中量含む。しまり強い。



38号溝

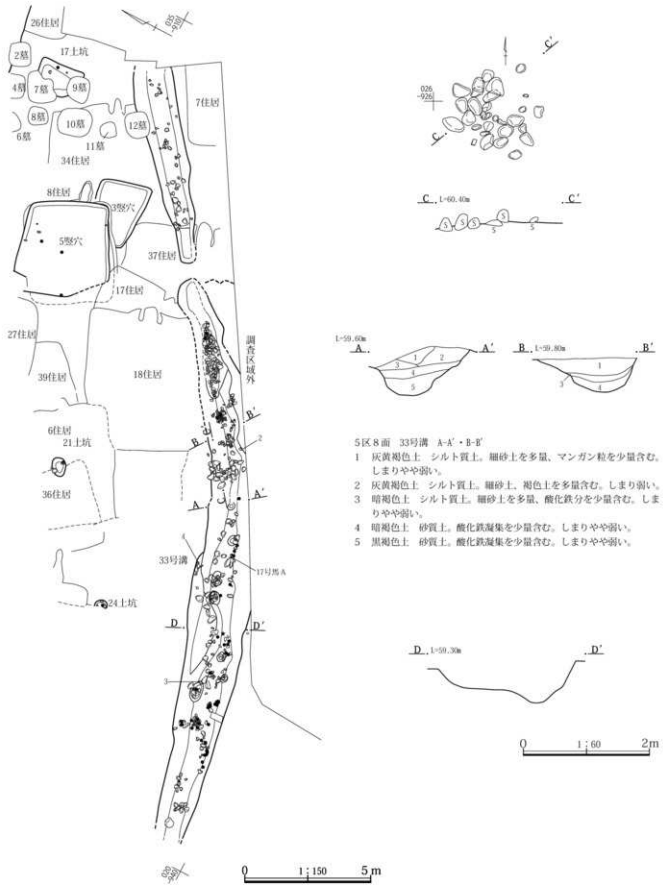


5区8面 38号溝 A-A'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。洪水層。
- 2 褐色土 シルト質土。灰黄褐色土中ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 3 にふい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土中ブロックを少量含む。しまりやや弱い。



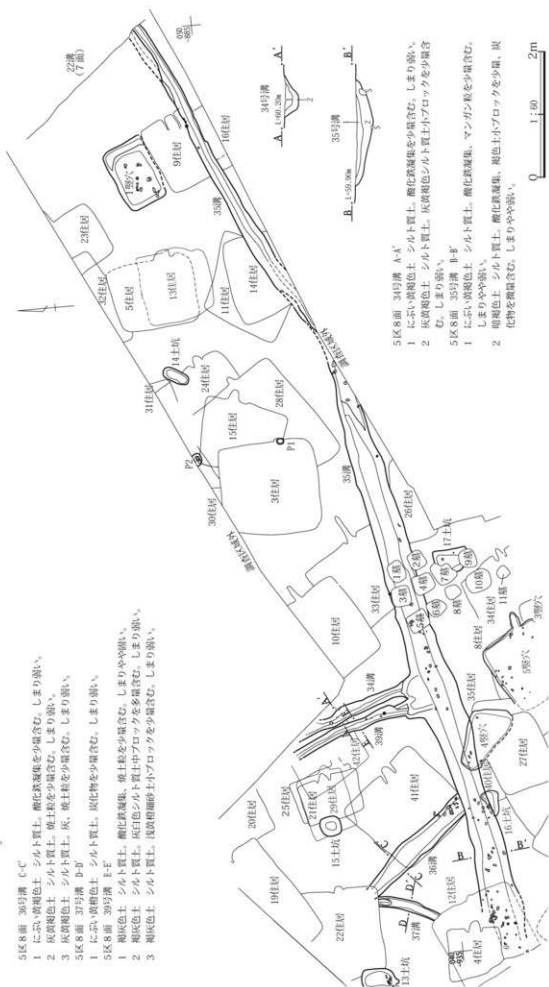
第839図 5区8面 30・38号溝、30号溝出土遺物



第840図 5区8面 33号溝



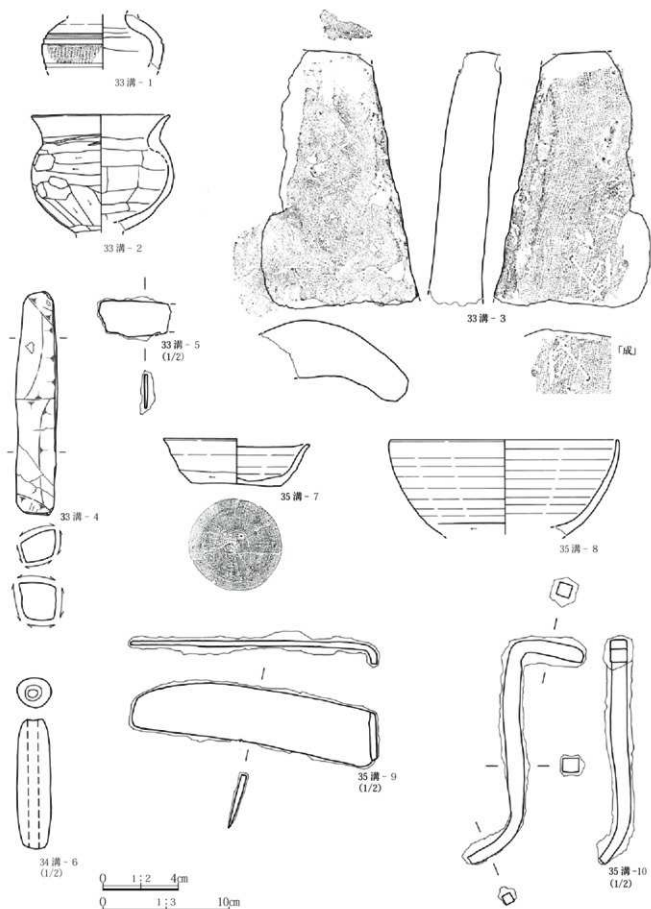
- 5区8面 36号溝 C-C'
- 1 におい、黄褐色土 シルト質土、酸化鉄腐植を少量含む、しまり強い。
 - 2 灰褐色土 シルト質土、焼土粒を少量含む、しまり強い。
 - 3 灰褐色土 シルト質土、灰、焼土粒を少量含む、しまり強い。
- 5区8面 37号溝 D-D'
- 1 におい、黄褐色土 シルト質土、炭化物を少量含む、しまり強い。
 - 2 相灰土 シルト質土、酸化鉄腐植、焼土粒を少量含む、しまりやや強い。
 - 3 相灰土 シルト質土、灰白色シルト質土中ブロックを多量含む、しまり強い。
- 5区8面 38号溝 E-E'
- 1 におい、黄褐色土 シルト質土、炭化物を少量含む、しまり強い。
 - 2 相灰土 シルト質土、酸化鉄腐植、焼土粒を少量含む、しまりやや強い。
 - 3 相灰土 シルト質土、炭質細砂土中ブロックを少量含む、しまり強い。



- 5区8面 34号溝 A-A'
- 1 におい、黄褐色土 シルト質土、酸化鉄腐植を少量含む、しまり強い。
 - 2 灰褐色土 シルト質土、灰褐色土シルト質土中ブロックを少量含む、しまり強い。
- 5区8面 35号溝 B-B'
- 1 におい、黄褐色土 シルト質土、酸化鉄腐植、マンガンを少量含む、しまりやや強い。
 - 2 相灰土 シルト質土、酸化鉄腐植、相色土中ブロックを少量、炭化物を少量含む、しまりやや強い。



附841図 5区8面 34～37・39号溝



第842図 5区8面 33～35号溝出土遺物

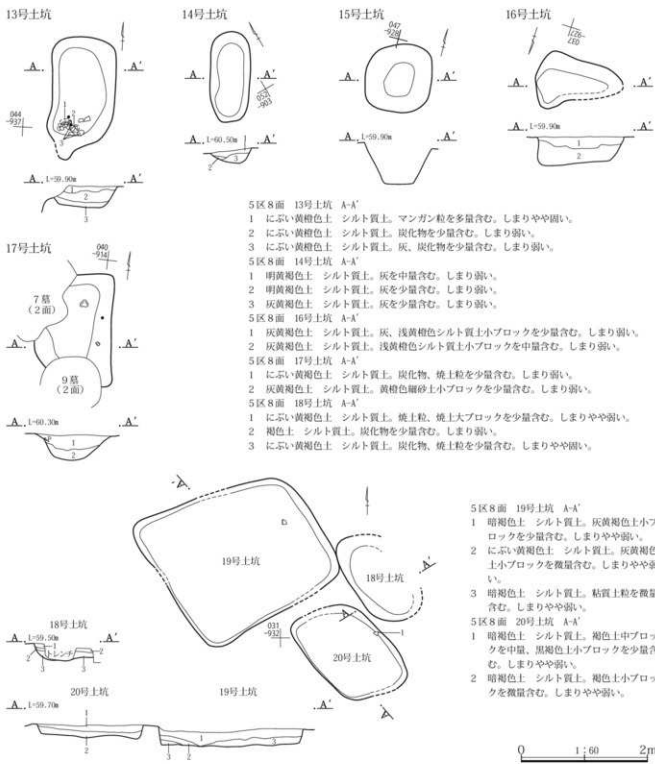
(4) 土坑

5区8面の土坑(第843・842図 PL.172・238)

概要: 5区では10基の土坑を調査した。土坑は、住居の分布範囲と重複している。その形態や規模は様々である。

土坑の詳細については第24表に記した。

所見: 埋没土及び遺物から古墳時代後期から平安時代に属すると考えられる。住居の分布範囲と同様であることから、集落に伴う土坑であると考えられる。なお、土坑の一部からは、下位からの混入である古墳時代前期の土師器がある。

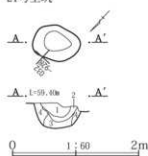


- 5区8面 13号土坑 A-A'
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質上。マンガン粒を多量含む。しまりやや固い。
 - 2 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。しまり弱い。
 - 3 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰、炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 5区8面 14号土坑 A-A'
- 1 明黄褐色土 シルト質上。灰を中量含む。しまり弱い。
 - 2 明黄褐色土 シルト質上。灰を少量含む。しまり弱い。
 - 3 灰黄褐色土 シルト質上。灰を少量含む。しまり弱い。
- 5区8面 16号土坑 A-A'
- 1 灰黄褐色土 シルト質上。灰、浅黄褐色シルト質土小ブロックを少量含む。しまり弱い。
 - 2 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質土小ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 5区8面 17号土坑 A-A'
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。しまり弱い。
 - 2 灰黄褐色土 シルト質上。黄褐色磁砕土小ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 5区8面 18号土坑 A-A'
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質上。焼土粒、焼土大ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
 - 2 褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。しまり弱い。
 - 3 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物、焼土粒を少量含む。しまりやや固い。

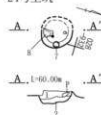
- 5区8面 19号土坑 A-A'
- 1 暗褐色土 シルト質上。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
 - 2 にぶい黄褐色土 シルト質上。灰黄褐色土小ブロックを微量含む。しまりやや弱い。
 - 3 暗褐色土 シルト質上。粘質土粒を微量含む。しまりやや弱い。
- 5区8面 20号土坑 A-A'
- 1 暗褐色土 シルト質上。褐色土中ブロックを中量、黒褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
 - 2 暗褐色土 シルト質上。褐色土小ブロックを微量含む。しまりやや弱い。

第843図 5区8面 13～20号土坑

21号土坑



24号土坑

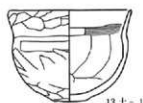


5区8面 21号土坑 A-A'

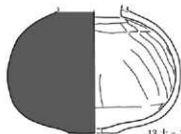
- 1 暗褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒を微量含む。しまりやや弱い。
- 2 暗褐色土 シルト質土。炭化物を多量、褐色粘質土中ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 3 暗褐色土 シルト質土。炭化物を微量含む。しまりやや弱い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまりやや弱い。

5区8面 24号土坑 A-A'

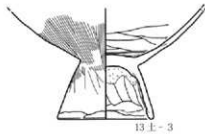
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集、マンガン粒を中量含む。しまりやや強い。
- 2 暗褐色土 シルト質土。粘質土ブロック、灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや強い。



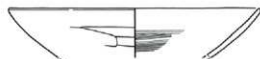
13上-1



13上-2



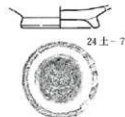
13上-3



16上-4



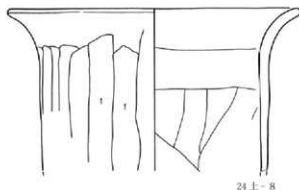
17上-5



24上-7



20上-6



24上-8



第844図 5区8面 21・24号土坑、13・16・17・20・24土坑出土遺物

(5)ピット

5区のピット(第845図 PL.172)

概要：5区では2基のピットを調査した。ピットは散発

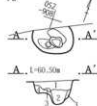
的な分布である。ピットの詳細については第25表に記した。

所見：埋没土及び遺物から古墳時代後期から平安時代に属すると考えられる。

P1



P2



5区8面 2号ピット A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。しまり弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色シルト質土小ブロックを少量含む。しまり弱い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。明黄褐色砂土小ブロックを中量含む。しまり弱い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。明黄褐色砂土小ブロックを少量含む。しまり弱い。

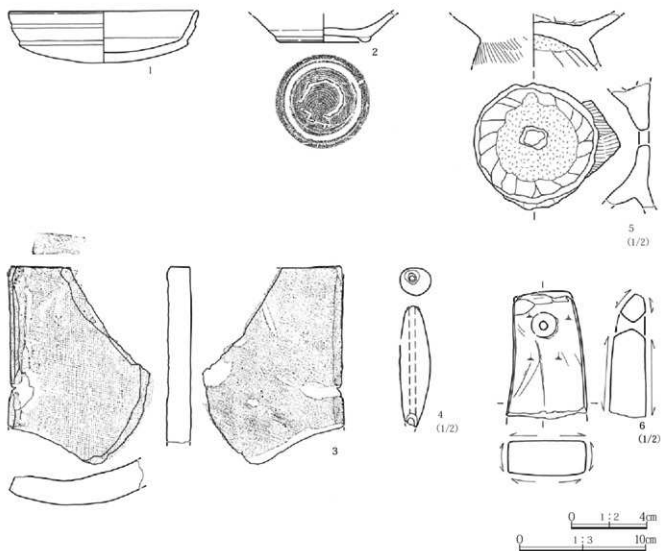


第845図 5区8面 1・2号ピット

(6) 遺構外出土の遺物(第846図 PL.239)

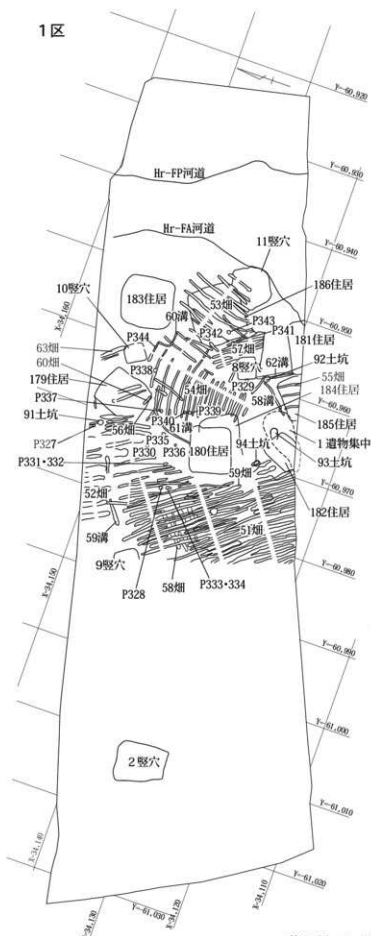
5区8面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物を出土した。ここでは出土した遺物のうち、土師器杯(1)、須

恵器椀(2)、平瓦(3)、土錘(4)、不明土製品(5)、砥石(6)を掲載した。この他の遺物は、土師器(杯類822片、
 甕類62片)、須恵器(杯類147片)がある。

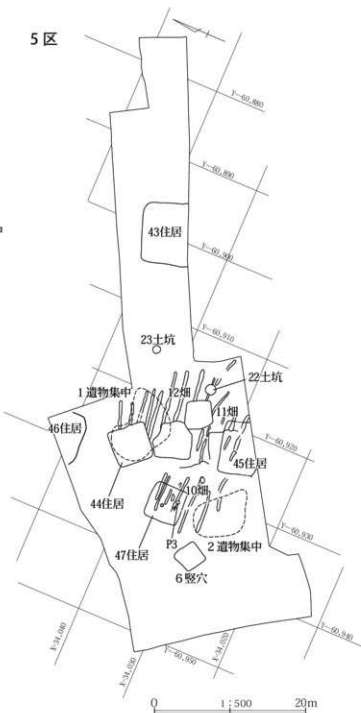


第846図 5区8面 遺構外出土遺物

1区



5区



第847图 1·5区9面 全体图

0 1:500 20m

第12章 古墳時代前期(9面)の遺構と遺物

1 概要

本章で報告するのは、8面(古墳時代後期～平安時代)の洪水層を挟んだ下面にある9面として調査を行った遺構である。古墳時代前期の集落や畑を調査したが、8面と同様に旧中洲上に立地する1・5区のみで確認することができた。ただし、1区西部では面として調査を行っておらず8面住居群の下層から遺構を調査したに過ぎない。そして、面として調査を行った1区東部でも東端付近では、Hr-FA以降の小規模な河道及びHr-FA泥流によって大きく削られており、それ以东では9面に属する遺構や遺物は確認していない。

2 1区の遺構と遺物

1区の9面に属する遺構としては、住居8軒、竪穴状遺構5基、溝5条、畑11区画、遺物集中1か所、土坑4基、ピット18基である。遺構は、厚い洪水層によって8面の住居群等の掘削による影響を受けなかった中央～東側で良好に確認することができた。ただし、東端部では、底面にHr-FA層が薄く堆積している小規模な河道及びそれ以东に全面的にみられるHr-FA泥流によって大きく削られており、9面の遺構を確認することはできない。

9面の住居と畑は一部重複している部分があり、それぞれが洪水起源と考えられる砂～シルト質土で埋没していることから、前期の中でも度重なる洪水被害を受けていたと考えられる。

なお、59・60・61・62号溝、60・63号畑は報告時に命名した。

(1)住居

179号住居(第848～851図 PL.173・239・240)

9面 1区中央部の住居群内にある。削平が進んでおり残存状態が良好でない。

位置：146～153・963～971にある。

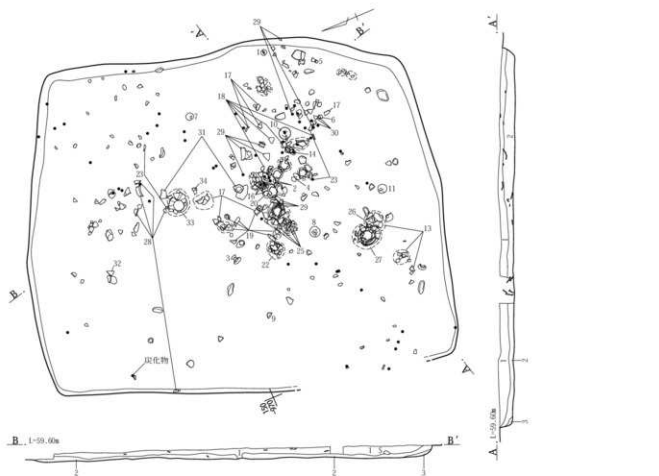
規模形状：西壁は直線的である。北壁、南壁は丸みを帯

びている。東壁は歪んでいる。南北に長い長方形を呈している大型住居である。長軸長6.63m、短軸長5.19mである。埋没土・壁：灰黄褐色シルト質土で埋没している。浅黄褐色粘土ブロックを含んだ層が流れ込んだ後、黄褐色シルト質土ブロック、炭化物、As-C軽石を含んだ層で埋没している。人為的な埋戻しであるか自然堆積であるか明瞭でない。壁高は0.32mである。方位：N-22°-E 面積：21.23㎡(推定) 床面：北東に若干傾斜している。緩やかな起伏があるが、およそ平坦である。貯蔵穴、柱穴等の窪みは認められない。住居中央部から東部、北部中央、南部中央に土師器を中心に遺物の出土が顕著である。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。竪：認められない。重複遺構：56・60・63号畑に後出している。遺物：土師器(器台8点、高杯3点、手捏ね1点、小型甕3点、甕5点、鉢2点、台付甕9点、埴1点、壺2点)住居中央部から東部にかけて散在するように多量の遺物が出土した。床上0.05～0.20m前後の位置の遺物が多く、住居廃絶時に投棄されたような状態であったと思われる。そのうち土器34点を図示した。高杯(9・11)、器台(8)、手捏ね(34)、甕(33)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。器台(1・2・3・4・5・6・7)、高杯(10)、小型甕(14)は床から0.10～0.22m程浮いた位置から出土した。これらが本住居に伴う出土であるか明瞭でない。小型甕(13)は床直上から床上0.12mまで、鉢(12)、小型甕(16)、甕(17・18・19・20)、台付甕(27・29)は床直上から床上0.2mまでそれぞれ出土位置が高く、いずれも本住居に伴うものであるか明瞭でない。台付甕(22・23・24・28)も同様で、床直上から床上0.17mと出土範囲が広い。台付甕(21・25・26)も出土範囲が床上0.10～0.16mであり、本住居に伴うものか明瞭でない。埴(30)は床直上から床上0.10mの出土で、本住居に伴うものとするのが自然である。鉢(15)は床上0.13～0.20mの出土で、壺(31・32)は床上0.06～0.10mの出土で、いずれも本住居にともなうものか明瞭でない。モモの核が、北西部床直上から1点出土した。円礫の出土が見ら

れた。図示した以外に、土師器片が996点出土している。

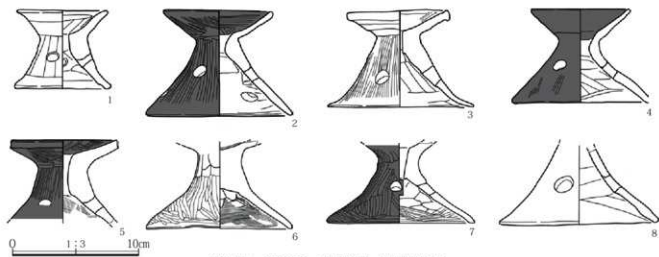
所見(帰属時期): 出土遺物、形状から、4世紀前半で

あると考える。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。

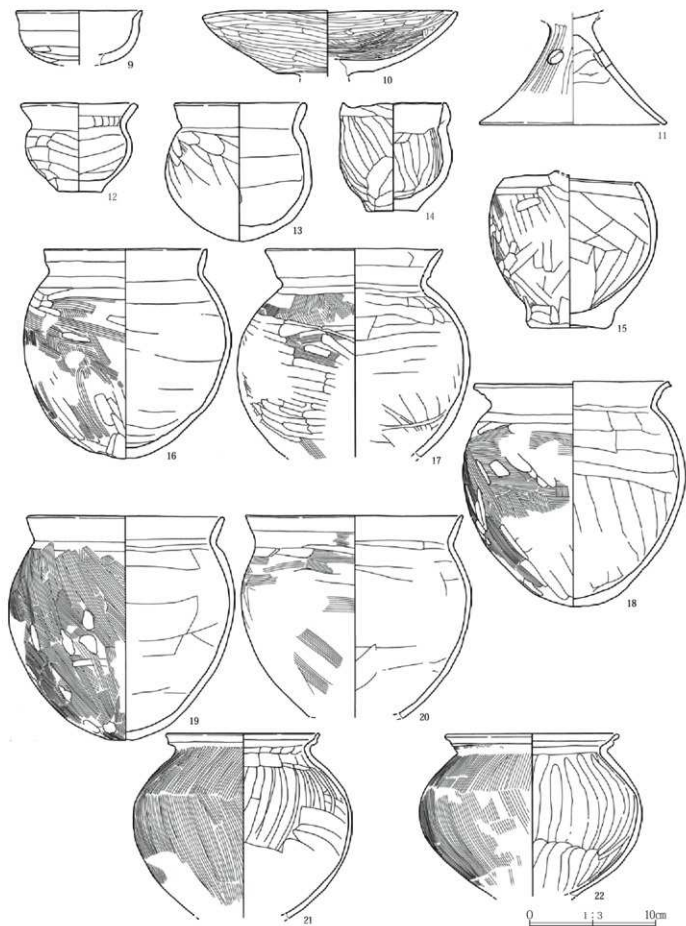


179号住居 A-A'・B-B'

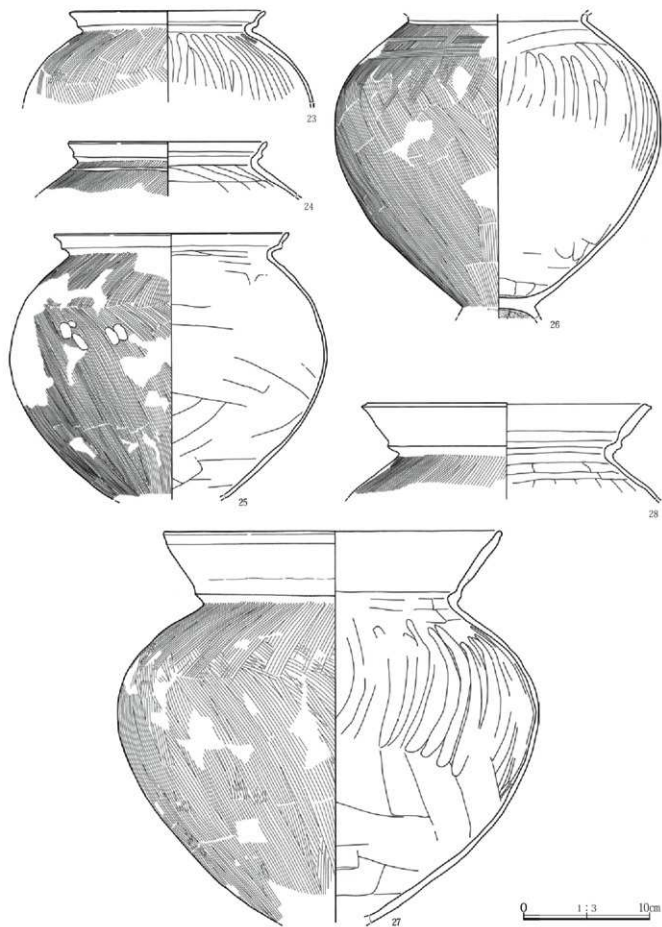
- 1 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量、As-Cを微量含む。
 2 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量、As-Cを微量含む。
 3 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色粘質土ブロックを中量含む。



第848図 1区9面 179号住居、出土遺物(1)

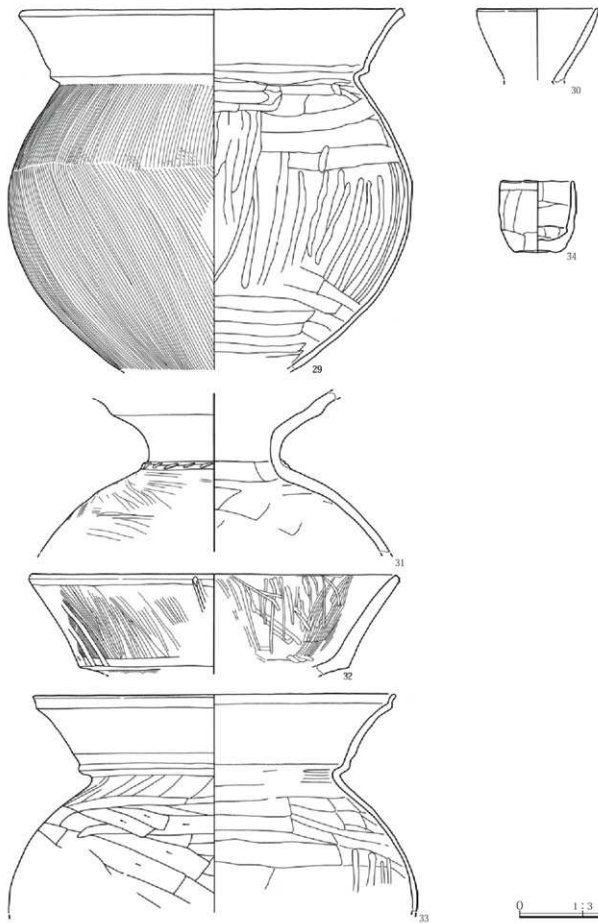


第849図 1区9面 179号住居出土遺物(2)



第850図 1区9面 179号住居出土遺物(3)

0 1:3 10cm



第851図 1区9面 179号住居出土遺物(4)

180号住居(第852～854図 PL.173・174・241)

9面 1区中央部の住居群内にある。周囲を51・56・54号畑に囲まれている。残存状態は良好である。

位置：132～139・966～973にある。

規模形状：北壁は丸みを帯びている。東壁、南壁、西壁は直線的である。方形を呈している大型の住居である。長軸長(6.16)m、短軸長(5.41)mである。埋没土・壁：灰黄褐色シルト質土で埋没している。浅黄褐色土ブロック、炭化物を含む。各層がレンズ状に堆積している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。その後、洪水層が堆積している。壁高は0.63mである。

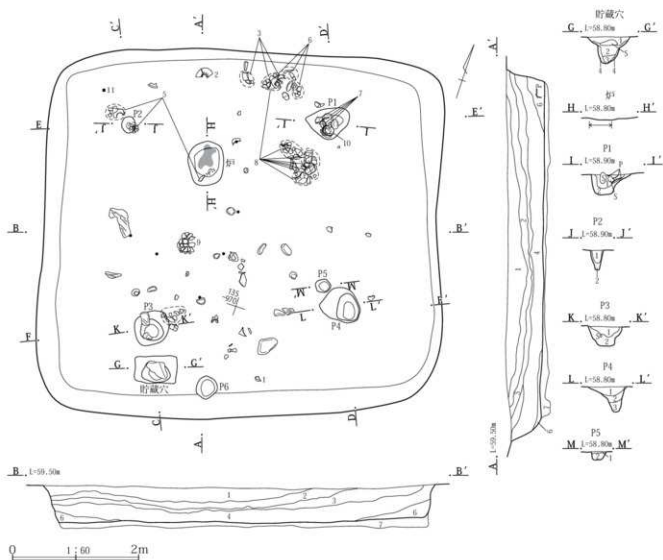
方位：N-71°-E 面積：26.63㎡ 床面：北に傾斜している。起伏はみられるが平坦である。中央部やや北西寄りに、炉を認める。焼土、灰も残存している。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は複数確認できた。掘り方：ほぼ全面で確認できた。住居中央部分、柱穴を結ぶ線内にはほぼ正方形の高まりを、その東側には隣接するように長方形の窪みを確認する。中央の高まりは、周囲より0.02～0.08m程高く、一辺が、3.2m前後である。東の窪みは、周囲より0.02～0.05m程低く縦3.2m、横1.4m程である。掘り方の埋め土は、灰黄褐色シルト質土で、褐灰色粘質土ブロックを含む。よく踏み固められている床層である。深さは、中央部が0.06m、北、西周辺部が0.08m～0.11m、南、東周辺部が0.12～0.14m程である。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：位置及び埋没土より、P1・P2・P3・P4は、規則的な主柱穴配置にあると思われる。P5、P6については、明瞭でない。各柱穴の規模及び埋没土は次の通りである。

(長径×短径×深さm)

- P1 0.68×0.50×0.32 灰黄褐色土、シルト質土、焼土粒、灰、As-C、柱石、土師器
 P2 0.36×0.22×0.31 灰黄褐色土、シルト質土、褐灰色ブロック、焼土、炭化物、灰
 P3 0.55×0.53×0.30 褐灰色土、シルト質土、浅黄褐色土ブロック、焼土、炭化物、灰、As-C、柱石
 P4 0.63×0.56×0.40 褐灰色土、シルト質土、浅黄褐色土ブロック、炭化物、As-C
 P5 0.24×0.22×0.13 褐灰色土、シルト質土、浅黄褐色土ブロック、炭化物、As-C

P6 0.36×0.34×不明 埋没土不明

貯蔵穴：南西隅に窪みが確認できる。位置と規模より、貯蔵穴であると思われる。二段構造になっており、蓋付きの貯蔵穴であったと思われる。貯蔵穴の埋没土は、灰白色細砂土・褐灰色粘土質ブロック、小礫、炭化物を含む粘質の褐灰色土である。蓋部分の埋没土は、炭化物を含む褐灰色シルト質土である。二層の間には、長さ0.38m、幅0.22m、厚さ0.08mの礫が蓋をするように出土した。貯蔵穴の外形は、長径0.66m、短径0.44m、深さ0.16mである。内径は、長径0.45m、短径0.3m、深さ0.27mである。合わせた深さは、0.43mである。炉：中央部やや北西寄りに窪みを認める。位置と状態より炉であると思われる。灰、焼土で埋没していた。長径0.7m、短径0.54m、深さ0.03m程である。重複遺構：184号住居、51号畑、61号溝に後出している。遺物：土師器(小型台付裏2点、台付裏3点、甕1点、鉢1点、器台1点、壺2点) 剥片石器(加工痕跡ある剥片痕1点) 鉄製品(鉄鎌1点) 住居全体から遺物が出た。そのうち土器10点、鉄製品1点を図示した。台付裏(6・7・8)、甕(3)、壺(9・10)は床直上及びP1からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。鉢(1)、器台(2)、小型台付裏(4・5)については、床直上から埋没土にかけての出土であり、これらが本住居に伴うものであるか明瞭でない。鉄鎌(11)は住居北西隅床直上からの出土であった。また、加工痕跡のある剥片石器が出土しているが、混入であると考えられる。円礫が多く出土した。図示した以外に、土師器片が660点出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、形状から、4世前半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。



180号住居 A-A'・B-B'

- 1 浅黄褐色土 粘質土。洪水層。遺物なし。
- 2 灰白色土 粘質土。洪水層。遺物なし。
- 3 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量含む。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック粒を中量、炭化物を少量含む。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック粒、炭化物を中量含む。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を中量、浅黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 7 灰黄褐色土 シルト質土。褐色粘質土ブロックを中量含む。しまり強い。床層。

180号住居貯蔵穴 C-C'

- 1 褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 2 褐色土 粘質土。灰白色細砂小ブロックを少量含む。
- 3 褐色土 粘質土。小礫を中量、炭化物を少量含む。
- 4 褐色土 シルト質土。褐色粘質土ブロックを中量含む。

180号住居内ピット I-I'

- 1 灰黄褐色土 シルト質土。灰を多量、炭化物、焼土粒、白色の繊維状の灰を中量含む。
 - 2 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量、As-C軽石を微量含む。
- J-J'
- 1 灰黄褐色土 シルト質土。焼土粒、炭化物、灰を中量、As-C軽石を微量含む。
- K-K'
- 1 褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト小ブロック、焼土粒、灰、As-C軽石を微量含む。
 - 2 褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト小ブロックを中量、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。

L-L'

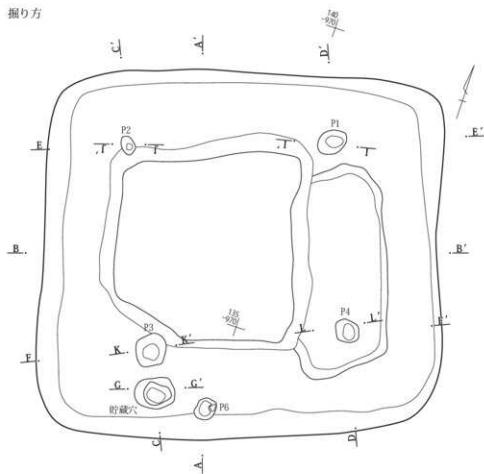
- 1 褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト小ブロック、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト粒、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。
- 3 褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。

M-M'

- 1 褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト小ブロック、炭化物を少量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト小ブロックを中量、炭化物を少量含む。

第852図 1区9面 180号住居

掘り方



C., 1-59.50m



D., 1-59.50m



E., 1-59.50m

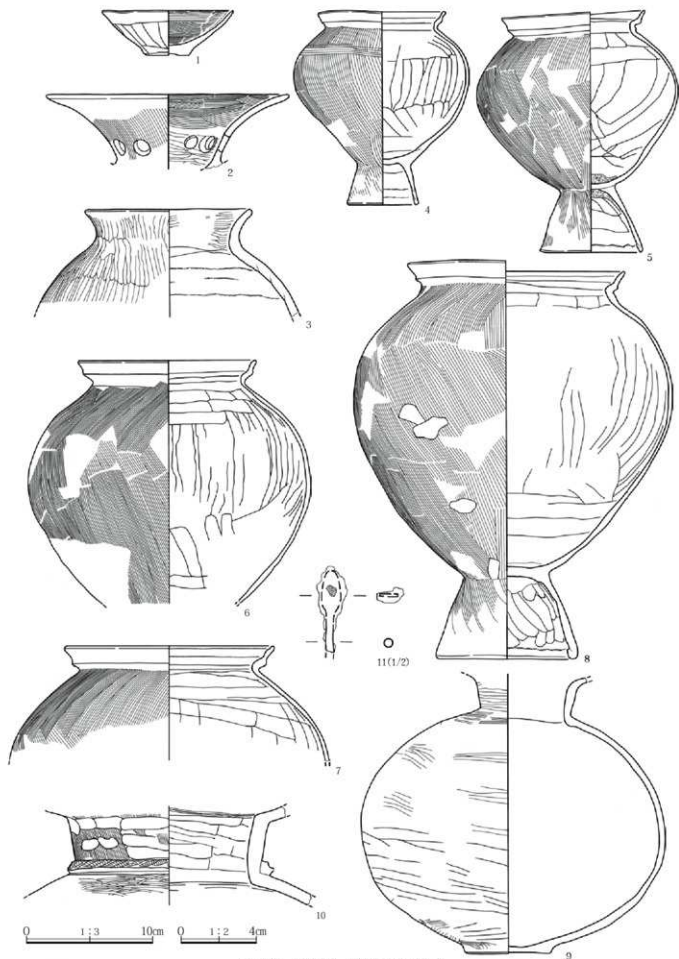


F., 1-59.50m



0 1:60 2m

第853図 1区9面 180号住居掘り方



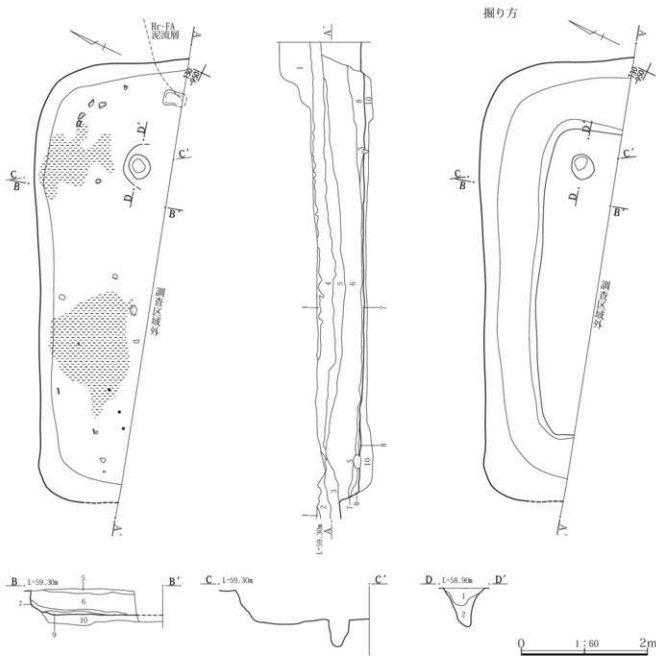
第854图 1区9面 180号住居出土遺物

181号住居(第855・856図 PL.174)

9面 1区中央部の住居群内にある。南半分以上が調査区域外に該当するため、全容が明らかでない。東側をHr-FA泥流層が壊している。

位置：128～132・-941～-957にある。

規模形状：北壁、東壁、西壁共に直線形である。北西隅、北東隅はいずれも丸みを帯びている。方形を呈していると推察される大型住居である。長軸長(6.95)m、短



181号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。洪水層。8面の地山。
- 2 灰黄褐色土 細砂土。洪水層。
- 3 灰黄褐色土 細砂土。褐色粘質土、浅黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。洪水層。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。181号住居や畑を覆っている層。粘性強い。
- 5 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト小ブロック、炭化物を少量含む。
- 6 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト小ブロックを中量、炭化物を少量含む。

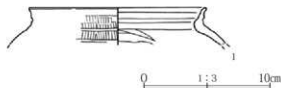
- 7 灰黄褐色土 シルト質土。炭を多量含む。
- 8 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 9 灰黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量含む。しまりやや固い。床層。
- 10 灰黄褐色土 シルト質土。褐色粘質土ブロックを中量含む。しまりやや固い。床層。

181号住居内ビット D-D'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質土。褐色粘質土小ブロックを少量含む。

第855図 1区9面 181号住居

軸長(2.17)mである。埋没土・壁：灰黄褐色シルト質土で埋没している。まず、炭化物、灰を含む層が流れ込み、次に、浅黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を含む層で埋没している。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。その後、灰黄褐色土、にぶい黄褐色土の順に洪水層による堆積を受けている。壁高は0.72mである。方位：N-64°-E 面積：(10.30)㎡ 床面：西に傾斜している。緩やかな起伏はあるが、およそ平坦である。北東隅と北壁やや西寄りに灰の分布が認められた。貯蔵穴の窪みは確認できなかった。柱穴は認められた。掘り方：ほぼ全面に確認できた。埋め土は、褐灰色粘質土ブロックを含む灰黄褐色シルト質土であり、固く締まった床層である。中央部分が高く、周囲の壁沿いに、幅0.6～0.8m、深さ0.1m程の掘り込みが帯状に周っている。埋没土は、掘り方と同様である。掘り方の深さは、中央部が0.05～0.1m、周辺部は、東辺が0.12m、西辺が0.2m、北辺が0.18m程である。壁溝：認められない。ビット(柱穴)：北東隅に掘り込みを認める。位置よりP1は、規則的な主柱穴配置の1つであると思われる。埋没土は、褐灰色粘質土ブロックを含む灰黄褐色シルト質土の上に炭化物を含むにぶい黄褐色シルト質土の灰層が埋没している。長径0.39m、短径0.37m、深さ0.3mである。貯蔵穴：認められない。灰：認められない。重複遺構：55号畑、62号溝に後出している。遺物：土師器(台付甕1点) 住居北壁周辺から遺物が出土した。そのうち土器1点を図示した。台付甕(1)は、住居埋没土からの出土である。円礫の出土もあるが、図示した以外に、土師器片が96点出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、形状から、4世紀前半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。



第856図 1区9面 181号住居出土遺物

182号住居(第857図 PL.174・241)

9面 1区中央部の住居群内にある。南東隅が調査区域外にあるため、全容が明らかでない。

位置：125～129・964～969にある。

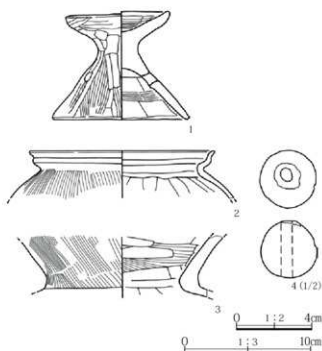
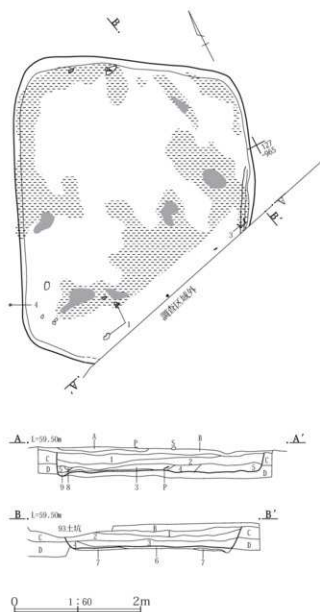
規模形状：北壁は直線的である。東壁、南壁、西壁は若干丸みを帯びている。北西隅が鋭角に交わっており、東西にやや潰れた南北に長い方形を呈している。長軸長(4.83)m、短軸長(3.73)mである。埋没土・壁：暗褐色土、褐色土、暗褐色土の順で埋没している。各々灰黄褐色土ブロックを含み、シルト質土である。床面直上の層は、暗褐色土と褐色土を分断するようににぶい黄褐色土の層が斜めに入っているのが観察される。不自然な堆積の状況が観察され人為的な埋戻しであると思われる。床面に炭化物層が確認される。壁高は0.33mである。

方位：N-38°-E 面積：(13.34)㎡ 床面：傾斜はほとんどない。細かな起伏はあるが、およそ平坦である。北西隅壁沿い、北東隅、中央から南西部にかけて広大な炭及び焼土の分布を認める。焼失住居の可能性がある。貯蔵穴、柱穴等の掘り込みは認められなかった。

掘り方：全面に確認できた。埋め土は、褐灰色土ブロックを含むにぶい黄褐色土及び上面に灰層のある焼土層の暗褐色土である。深さ0.04～0.08m程である。壁溝：断面より、東辺に痕跡が見られる。埋め土は、褐灰色土ブロックを含む微砂質の暗褐色土である。幅0.22m、深さ0.14m程である。ビット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。灰：認められない。重複遺構：51号畑、93号土坑に前出している。

遺物：土師器(器台1点、甕1点、台付甕1点)、土製品(丸玉1点)、石核1点 住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器3点、土製品1点を図示した。器台(1)、甕(3)は床から0.06～0.14m程浮いた位置から出土しており、台付甕(2)は住居埋没土からの出土であった。これらは、本住居に伴うものか明瞭でない。丸玉(4)は、住居西部の遺構外の位置から出土していた。石核の出土が見られたが、混入であると考えられる。円礫の出土もみられた。図示した以外に、土師器片92点が出土している。

所見(帰属時期)：出土遺物、形状から、4世紀前半の住居である。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。



182号住居 A-A'・B-B'

- 1 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。
- 2 褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロック、炭化物を少量含む。
- 3 暗褐色土 シルト質土。炭化物を少量、灰黄褐色土ブロックを微量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を微量含む。
- 5 褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。上面に灰黄褐色シルト質土層あり。
- 6 暗褐色土 シルト質土。焼土層。上面に炭化物層あり。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを少量含む。
- 8 暗褐色土 シルト質土。焼土細粒を微量含む。
- 9 暗褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを少量含む。
- A 灰色土 粘質土。黄褐色土ブロック、褐色土ブロックを中量含む。粘性強い。
- B 灰色土 粘質土。黄褐色土ブロック、褐色土ブロックを多量含む。粘性強い。
- C にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロック、黒褐色土粒を少量含む。
- D 褐色土 シルト質土。暗褐色土ブロックを層状に中量、黒褐色土粒を少量含む。粘性やや強い。

第857図 1区9面 182号住居、出土遺物

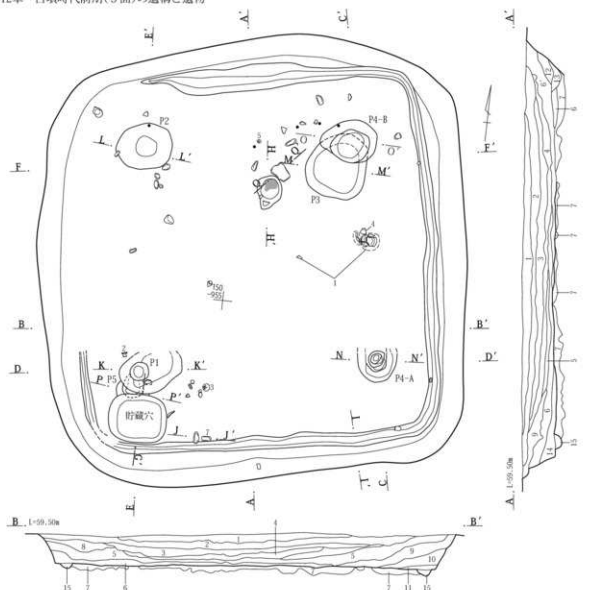
183号住居(第858～861図 PL.174・175・241)

9面 1区中央部の住居群内にある。残存状態は良好である。

位置：146～154・-951～-958にある。

規模形状：各辺、各隅共に丸みを帯びているが、全体的には、整った方形を呈している大型住居である。長軸長6.91m、短軸長6.56mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色シルト質土の細砂層で埋没している。浅黄褐色シルト質土ブロック、にぶい黄褐色シルト質土ブロック、褐色粘質土ブロック、灰白色粘土ブロック炭化物、As-Cを含んだ層が順に自然堆積した後、洪水層の堆積を受け

ている。壁高は0.56mである。方位：N-8°-W 面積：37.75㎡ 床面：東に若干傾斜している。細かな起伏はあるものの、およそ平坦である。中央や北寄りに枡が認められ、焼土が確認できた。貯蔵穴の窪みは確認できた。柱穴は複数認められた。北西柱穴付近で自然石を2点確認する。簡編土の可能性ある。掘り方：全面に確認できた。埋め土は、褐色粘質土ブロックを含んだ灰白色シルト質土の細砂層である。深さ0.04～0.14mである。柱穴を結ぶ線を境に中央部が周囲に対して0.05～0.08m程高い。壁溝：住居縁辺部を巡るように認められた。北壁、東壁、南壁はほぼ全部、西壁も一部確



183号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 細砂土。洪水層。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。洪水層。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。洪水層。粘性強い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。洪水層。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色粘質土大ブロックを中量、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、灰白色粘質土小ブロック、褐灰色粘質土小ブロックを少量、As-C軽石を微量含む。
- 6' にぶい黄褐色土 シルト質土。6層に類するが、下部に灰を多量含む。
- 7 灰白色土 シルト質土。褐灰色粘質土ブロックを中量含む。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。にぶい黄褐色シルト小ブロックを中量、As-C軽石を微量含む。
- 9 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト大ブロックを中量、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐灰色粘質土小ブロックを少量、As-C軽石を微量含む。
- 12 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色細砂小ブロックを中量、As-C軽石を微量含む。
- 13 灰白色土 細砂土。
- 14 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト小ブロック、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。
- 15 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐灰色粘質土小ブロックを少量含む。

183号住居貯蔵穴 G-G'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰白色細砂土ブロック、褐灰色粘質土ブロックを中量、As-C軽石を微量含む。
- 2 褐灰色土 粘質土。灰白色細砂土ブロック、炭化物を少量含む。

183号住居貯 H-H'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を多量、黄土粉を中量含む。

第858図 1区9面 183号住居

認められた。埋め土は、北壁のみ細砂層の灰白色土であり、その他は褐灰色粘質土ブロックを含んだにぶい黄橙色シルト質土である。北壁は、幅0.16～0.37m、深さ0.14mである。東壁は、幅0.22～0.34m、深さ0.1mである。南壁は、幅0.17～0.24m、深さ0.11mである。西壁は、幅0.11～0.15m、深さ0.09mである。ピット(柱穴)：位置及び埋め土の状況より、P1・P2・P4-B・P4-Aが規則的な主柱穴配置による柱穴と思われる。P1はP5をP4-BはP3を各々掘り返したものであり、P1及びP4-Bがそれぞれ新しい。各柱穴の規模及び埋没土は次の通りである。(長径×短径×深さ)

P1 1×0.69×0.48 灰白色土、にぶい黄橙色土

褐灰土 炭化物、As-C微含

P2 0.87×0.71×0.52 灰白色土、にぶい黄橙色土

P4-B 0.87×0.69×0.40 にぶい黄橙色土

褐灰土 炭化物、As-C微含

P4-A 0.61×0.50×0.46 にぶい黄橙色土

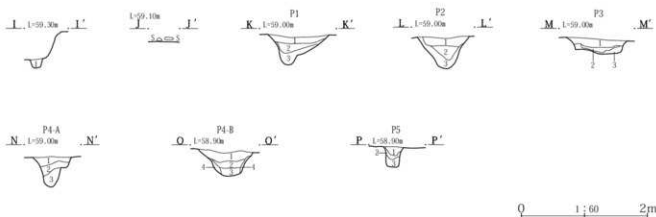
炭化物、As-C微含

P3 1.04×0.94×0.23 にぶい黄橙色土

P5 0.39×0.33×0.32 にぶい黄橙色土、褐灰色土

炭化物、As-C微含

貯蔵穴：南西隅に窪みを認める。位置と規模より貯蔵穴と思われる。埋没土は、白灰色細砂ブロック、炭化物を含む粘質土の褐灰色土の上に、白灰色細砂・褐灰色粘質土ブロック、As-C軽石を微量含むにぶい黄橙色シルト質土が載っている。長径0.92m、短径0.76m、深さ0.18mである。炉：中央やや北寄りに焼土が認められ、位置より炉であると思われる。埋め土は、にぶい黄橙色シルト質である。灰主体であり、焼土粒含む。長径0.92m、短径0.76m、深さ0.18mである。重複遺構：なし 遺物：土師器(手捏ね1点、鉢1点、器台1点、高杯1点、台付甕1点) 石製品(砥石2点) 礫石器(敲石1点) 住居北東部及び南西部、柱穴付近から遺物が出土した。そのうち土器5点、石製品2点を図示した。手捏ね(5)、



183号住居周囲 1-I'

1 にぶい黄橙色土 シルト質土。褐灰色粘質土小ブロック、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。

183号住居内ピット K-K'

1 灰白色土 シルト質土。酸化鉄凝集を中量、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。

2 にぶい黄橙色土 シルト質土。褐灰色粘質土小ブロックを少量、As-C軽石を微量含む。

3 褐灰色土 シルト質土。粘質土。にぶい黄橙色シルト小ブロックを少量含む。

1-L'・M-M'

1 灰白色土 シルト質土。灰白色粘質土ブロックを少量含む。

2 にぶい黄橙色土 シルト質土。灰白色粘質土大ブロックを中量含む。

3 にぶい黄橙色土 シルト質土。灰白色粘質土大ブロック、褐灰色粘質土ブロックを中量含む。

K-N'・O-O'

1 にぶい黄橙色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロック、褐灰色粘質土小ブロックを中量、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。

2 にぶい黄橙色土 シルト質土。灰白色シルト質土ブロックを中量含む。

3 にぶい黄橙色土 シルト質土。灰白色シルト質土大ブロックを多量含む。

4 褐灰色土 粘質土。灰白色シルト質土ブロックを中量含む。

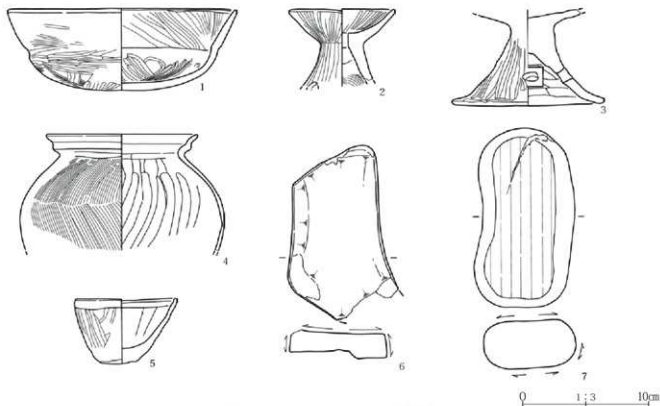
P-P'

1 にぶい黄橙色土 シルト質土。浅黄褐色細砂上ブロック、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。

2 にぶい黄橙色土 シルト質土。褐灰色粘質土ブロックを中量、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。

3 褐灰色土 シルト質土。粘質土。にぶい黄橙色シルト小ブロックを少量含む。

第859図 1区9面 183号住居周囲、ピット断面図



第861図 1区9面 183号住居出土遺物

184号住居(第862・863図 PL.175・242)

9面 1区中央部の住居群内にある。180号住居により、使用面が壊されているが、掘り方の底部までは壊されていない。炭化材が出土しており、焼失家屋だと思われる。

位置：133～138・964～968にある。

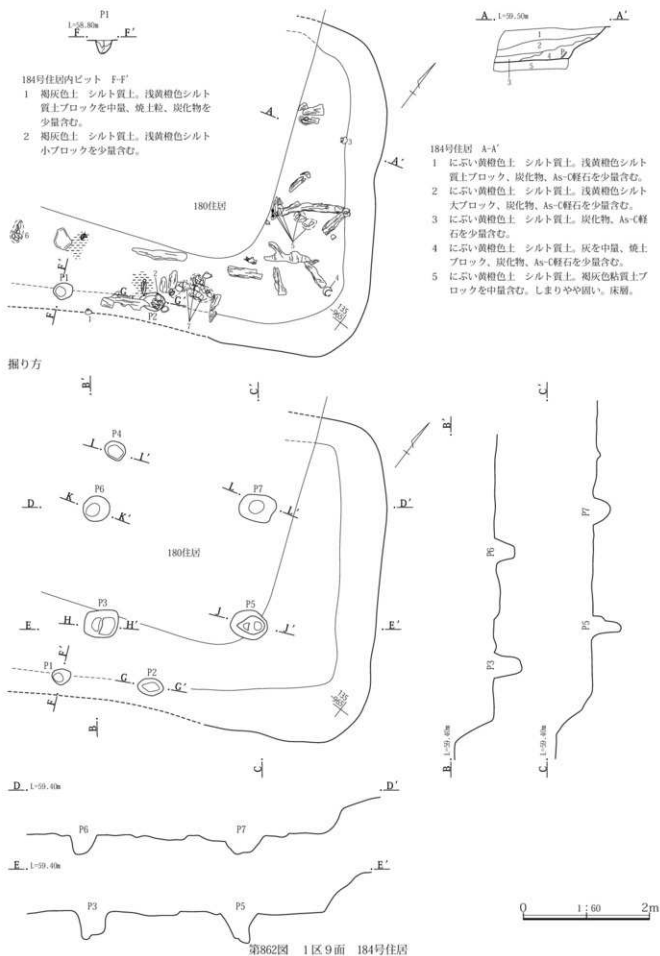
規模形状：東壁は丸みを帯び歪んでいる。南壁は直線的である。北東隅、南東隅は曲線を描いている。全体的には東西に長い方形を呈していると思われる。長軸長5.29m、短軸長(1.96)mである。埋没土・壁：始めに、住居周縁部に炭化物及びAs-Cを含むにぶい黄橙色シルト質土で(4層)が流れ込み、同質のにぶい黄褐色シルト質土(3層)で埋没している。その後、浅黄褐色ブロックを含むにぶい黄橙色シルト質土で埋まっている。3層に見られる炭化材は、住居が焼失した後に4・3層に伴って埋没したと思われる。壁側から埋もれている状況がみられるが、浅黄褐色シルトブロックを含み、人為的な埋戻しであると思われる。壁高は0.51mである。方位：N-28°-W 面積：(6.36)m² 床面：調査した範囲では、南西に若干傾いていると思われる。細かな起伏はあるが、およそ平坦である。北東隅に焼土を認める。炉であるかは明瞭でない。確認された使用面全般に炭化物を多量に

認める。焼失住居であったと思われる。壁溝は確認できなかった。掘り方：ほぼ全面に確認できた。埋め土は、褐灰色粘質土ブロックを含むにぶい黄褐色土であり締まりの強い床層である。深さ0.16m程である。掘り方の段階で複数の柱穴を認める。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：位置及び埋没土より、P3・P6・P7・P5が、規則的な主柱穴配置による柱穴と思われる。P1・P2・P4については、明瞭でない。各柱穴の規模及び埋没土は次の通りである。

(長径×短径×深さm)

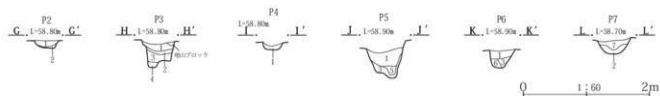
P3	0.51×0.44×0.41	褐色土、黒褐色土、にぶい黄褐色土
P6	0.43×0.40×0.30	褐色土、にぶい黄褐色土、暗褐色土
P7	0.59×0.44×0.24	黒褐色土、褐色土
P5	0.59×0.46×0.46	灰黄褐色土、浅黄褐色シルトブロック
P1	0.30×0.26×0.21	褐色土、にぶい黄褐色土
P2	0.42×0.28×0.12	褐灰色土、粘質土ブロック
P4	0.32×0.27×0.11	褐色土、黒褐色土ブロック、酸化鉄分

第12章 古墳時代前期(9面)の遺構と遺物



貯蔵穴：認められない。 竈：認められない。 重複遺構：180号住居、54号畑に前出している。 遺物：土師器(小型壺1点、埴1点、台付片口1点、台付甕1点、小型台付甕2点、器台1点) 住居東部及び南部を中心に遺物が出土した。そのうち土器7点を図示した。小型壺(3)、埴(4)、台付片口(2)、台付甕(7)、小型台付甕(5・6)、器台(1)は床直上からの出土であり、いずれも本住居に伴うものと考えられる。埴(4)、台付甕

(7)、小型台付甕(5・6)、器台(1)については、一部床から浮いた出土があったが、大半が床直上であったため本住居に伴うものと判断した。円礫の出土もあった。図示した以外に、土師器片が78点出土している。 所見(帰属時期)：出土遺物、形状から、4世紀前半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。



G-G'

1 褐色土 シルト質土。褐色粘質土小ブロックを少量含む。

2 褐色土 シルト質土。褐色粘質土小ブロックを少量含む。

H-H'・I-I'・J-J'・K-K'・L-L'

1 褐色土 シルト質土。黒褐色土小ブロック、酸化鉄分を少量含む。

2 黒褐色土 粘質土。褐色土小ブロックを中量含む。粘性強い。

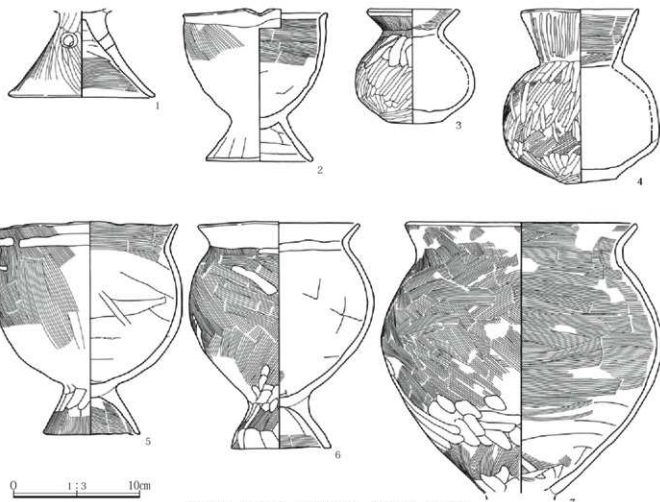
3 にぶい黄褐色土 シルト質土。黒褐色土小ブロックを中量含む。粘性やや強い。

4 黒褐色土 シルト質土。粘性やや強い。

5 にぶい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄分を少量含む。粘性やや強い。

6 暗褐色土 シルト質土。粘性やや強い。

7 褐色土 シルト質土。黒褐色土小ブロック、酸化鉄分を中量含む。粘性やや強い。



第863図 1区9面 184号住居ビット断面図、出土遺物

185号住居(第864・865図 PL.175・242)

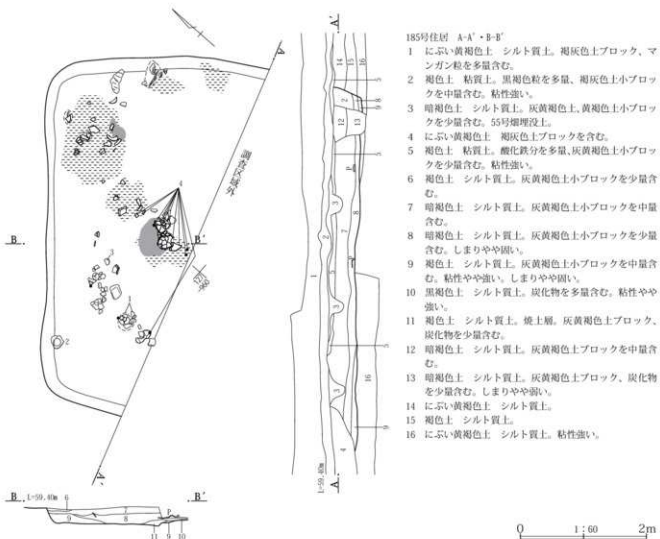
9面 1区中央部の住居群内にある。55号畑と重複しているが、床面は影響を受けていない。南半部は調査区域外に該当するため全容が明らかでない。

位置：126～130・-957～-962にある。

規模形状：北壁、東壁共に直線的である。北東隅、北西隅は丸みを帯びている。整った方形であると推察される。長軸長5.47m、短軸長(2.72)mである。埋没土・壁：褐色土、暗褐色土で埋没している。灰黄褐色土ブロックを含んでいる。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。調査区域外の断面には、複数の窪みが確認されるが畑の畝のものであり埋没土である灰黄褐色土、黄褐色土ブロックを含む暗褐色土が観察できる。住居の壁高は0.25mである。方位：N-52°-E 面積：(9.62)㎡ 床面：南西に若干傾斜している。緩やかな起

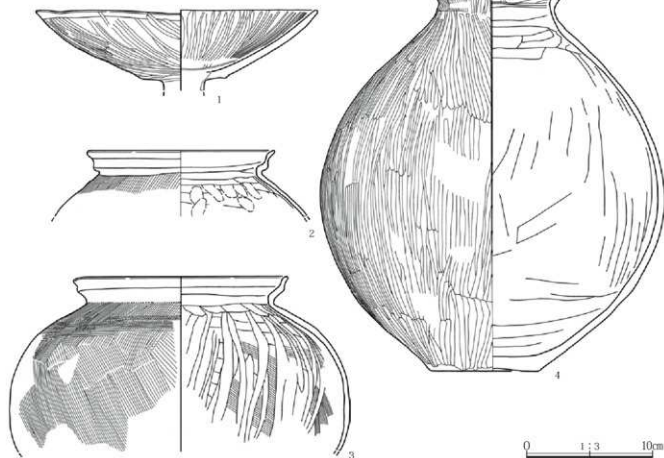
伏はあるが、およそ平坦である。北東隅と中央部に焼土が分布しており、北東部から中央部、及び東辺直下の広範囲にわたり灰を認める。焼土は、灰のものであるかは明瞭でない。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。灰：焼土を認めるが、明瞭でない。

重複遺構：55号畑に前出している。遺物：土師器(壺1点、台付甕2点、高杯1点) 住居北部から北西部にかけて点在するように遺物が出土した。そのうち土器4点を図示した。壺(4)は床直上から0.12m程浮いた位置での出土であるが、大半が床直上であるため本住居に伴うものと考えられる。台付甕(2・3)、高杯(1)は床から0.13～0.21m程浮いた位置から出土しており、これらが本住居に伴う出土であるか明瞭でない。円礫の出土も見られた。図示した以外に、土師器片が208点出土し



第864図 1区9面 185号住居

ている。所見(帰属時期):出土遺物、形状から、4世紀前半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。



第865図 1区9面 185号住居出土遺物

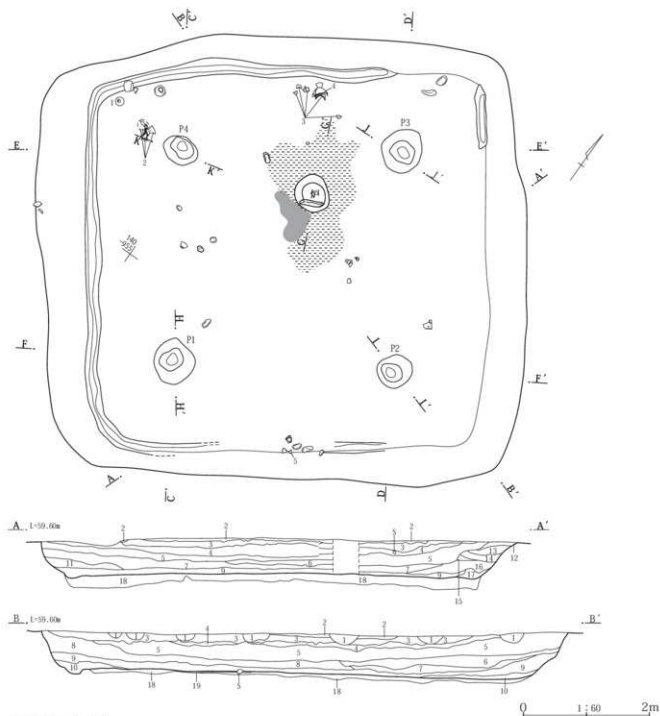
186号住居(第866～869図 PL.175・176・242)

9面 1区中央部の住居群内にある。残存状態は良好である。

位置:136～146・948～957にある。

規模形状:各辺共に直線的だが、若干丸みを帯びている。各隅共に曲線を描いている。全体的には、整った方形を呈している大型住居である。長軸長7.77m、短軸長6.59mである。埋没土・壁:にぶい黄橙色土、灰黄褐色土主体の土で埋没している。炭化物、焼土、灰、にぶい黄橙色土・浅黄橙色土ブロック、As-C軽石を微量含む。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察されるが、一部不自然な堆積も残る。断面上部には、複数の窪みが確認されるが畑の畝のものであり埋没土であるにぶ

い黄橙色シルト質土が見られる。浅黄橙色シルト質土ブロック、炭化物、As-Cを観察できる。住居の壁高は0.7mである。方位:N-55°-E 面積:40.35㎡ 床面:西に若干傾斜している。緩やかな起伏はあるが、およそ平坦である。中央やや北寄りに炬が認められ、焼土が確認できた。貯蔵穴の窪みは確認できなかった。柱穴は複数認められた。壁溝も確認できた。掘り方:ほぼ全面に確認できた。埋め土は、褐灰色粘質土ブロックを含むにぶい黄橙色シルト質土であり、締まりの強い床層である。深さ0.06～0.2mである。柱穴を結ぶ線を境に中央部が方形を示しており周囲に対して0.08m程高い。方形は、長径4.7m、短径4.5m程である。壁溝:住居縁辺部に認められた。北面は東一部を除いて全部、東辺は北



186号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロックを中量、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。
- 4 灰黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を中量、As-C軽石を微量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土ブロック、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。
- 7 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰を中量、焼土ブロック、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。
- 8 にぶい黄褐色土 シルト質土。にぶい黄褐色細砂を中量、炭化物を少量含む。
- 9 にぶい黄褐色土 細砂土。炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。

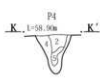
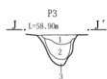
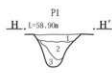
- 10 浅黄褐色土 細砂土。As-C軽石を微量含む。
- 11 にぶい黄褐色土 シルト質土。にぶい黄褐色細砂土を中量、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。
- 12 にぶい黄褐色土 細砂土。
- 13 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。
- 14 浅黄褐色土 細砂土。
- 15 にぶい黄褐色土 シルト質土。As-C軽石を微量含む。
- 16 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物、灰を少量、As-C軽石を微量含む。
- 17 浅黄褐色土 細砂土。にぶい黄褐色シルト質土ブロックを少量含む。
- 18 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐色粘質土小ブロックを中量含む。しまり固い。床層。
- 19 灰。炭化物層

第866図 1区9面 186号住居



186号住居炉 G-G'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物粒を微量含む。
- 2 暗褐色土 シルト質土。炭化物、灰黄褐色土ブロックを多量含む。
- 3 黒色土 シルト質土。炭化物層。灰黄褐色土ブロックを少量含む。粘性やや強い。
- 4 褐色土 シルト質土。炭化物、黄褐色土ブロックを少量含む。粘性やや強い。



186号住居内ピット H-H'・I-I'・J-J'・K-K'

- 1 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色粘質土ブロックを少量含む。下層に酸化鉄凝集。
- 2 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色粘質土小ブロック、炭化物を少量含む。
- 3 黒褐色土 シルト質土。炭化物を層状に少量含む。粘性やや強い。
- 4 黒褐色土 シルト質土。灰黄褐色粘質土大ブロックを極めて多量含む。
- 5 黒褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。



第867図 1区9面 186号住居炉、ピット断面図

の一部、南辺は中央やや東と西部、西面ほぼ全部に確認された。各壁溝の規模及び埋没土は次の通りである。

北辺 幅0.2～0.28m 深さ0.16m

細砂質の浅黄褐色土As-Cを微量含む。

東辺 幅0.14～0.16m 深さ不明 埋没土 不明

南辺 幅0.14～0.22m 深さ0.05m にぶい黄褐色土

西辺 幅0.16～0.27m 深さ0.05m 埋没土 不明

ピット(柱穴)：位置と埋没土より P1・P2・P3・P4が、規則的な主柱穴配置による柱穴と思われる。各柱穴の規模及び埋没土は次の通りである。

(長径×短径×深さm)

P1 0.74×0.66×0.53 暗褐色土、黒褐色土、
灰黄褐色粘質土ブロック

P2 0.55×0.54×0.50 暗褐色土、黒褐色土、
灰黄褐色粘質土ブロック

P3 0.73×0.64×0.48 暗褐色土、黒褐色土、
灰黄褐色粘質土ブロック

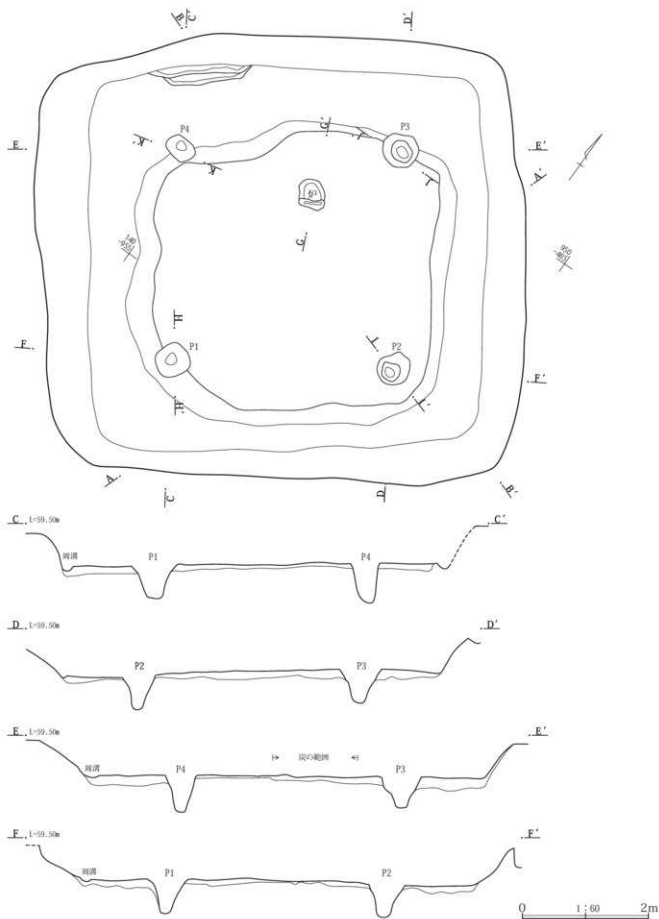
P4 0.58×0.44×0.62 暗褐色土、黒褐色土、
灰黄褐色粘質土ブロック

貯蔵穴：認められない。 炉：中央やや北部に焼土と窪みを認める。灰石があることから、炉であると思われる。

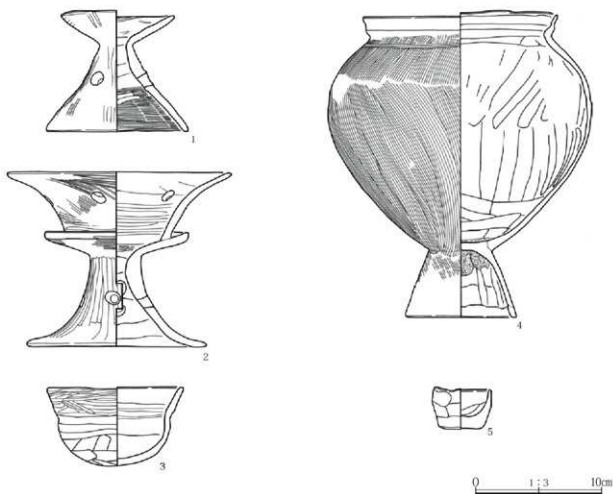
埋め土は、灰黄褐色土ブロックを含む粘性の強い炭化物層の黒色土を、炭化物粒子を含む微砂質のにぶい黄褐色土が覆っている。長径0.6m、短径0.52m、深さ0.05mである。

灰石は、長さ0.39m、幅0.11m、厚さ0.09mである。重複遺構：53号畑に前出しており、11号竪穴に後出している。

遺物：土師器(鉢1点、器台1点、裝飾付器台1点、手捏ね1点、台付甕1点) 北壁付近中心に住居全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器5点を図示した。鉢(3)、器台(1)、特殊器台(2)、台付甕(4)はいずれも床直上からの出土であり、これらは本住居に伴うものと考えられる。器台(1)については、埋没土からの出土も見られたが、大半が床直上からの出土であるため、本住居に伴うものと判断した。手捏ね(5)は床から0.11m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴う出土であるか明確でない。円礫の出土もある。図示した以外に、土師器片が225点出土している。所見(帰属時期)：出土遺物、形状から、4世紀前半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。



第868図 1区9面 186号住居掘り方



第869図 1区9面 186号住居出土遺物

(2) 竪穴状遺構

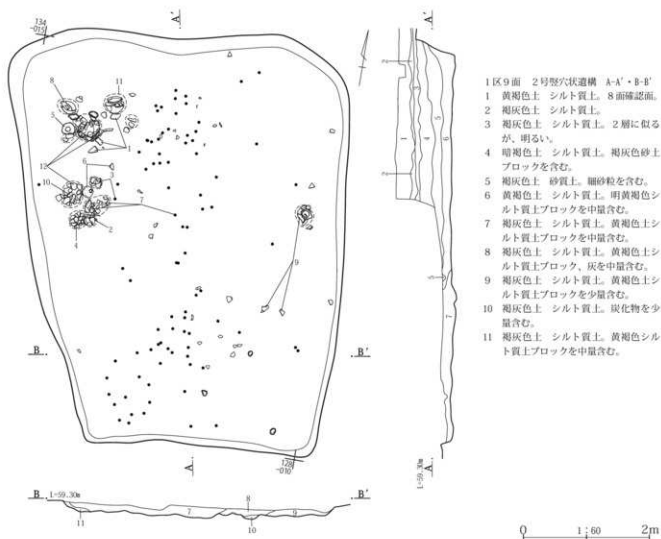
平面形が方形で、大型の掘り込みを持つ遺構のうち、床面の硬化がなく柱等の施設が見られないものを竪穴状遺構として調査した。

2号竪穴状遺構(第870～872図 PL.176・243・244)

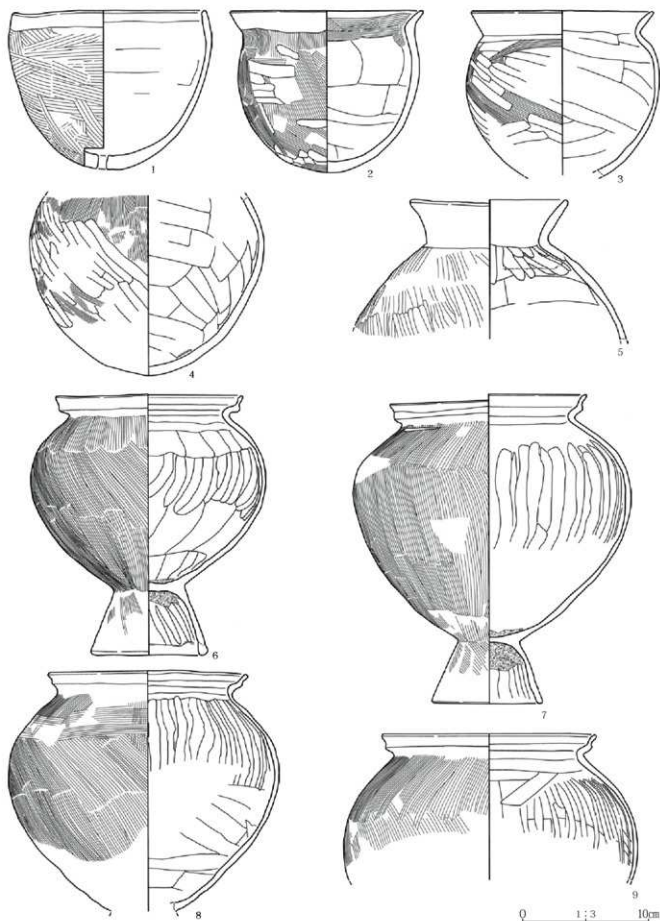
位置：127～135・-009～-016 規模形状：各辺はやや曲線を描き、特に北辺は湾曲が強い、隅丸長方形を呈している。長軸長6.6m、短軸長5.4mである。埋没土・壁：褐灰・黄褐色砂～シルト質土で埋没している。レンズ状堆積が見られることから、自然堆積と推察される。埋没土中には炭化物の混入が少量見られる。壁高は0.08～

0.61mである。長軸方位：N-12°-W 床面：やや凹凸があり、南東角がやや高く上がる。床面を中心に多数の遺物が分布している。掘り方は認められなかった。

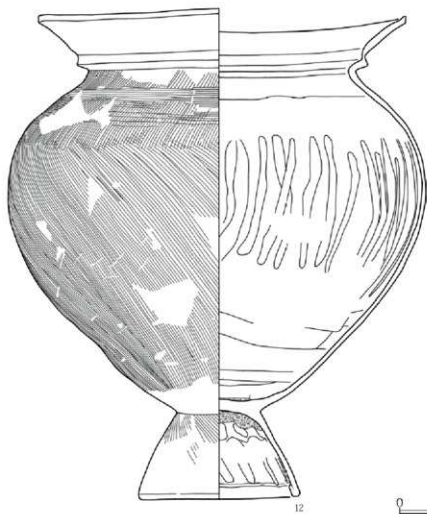
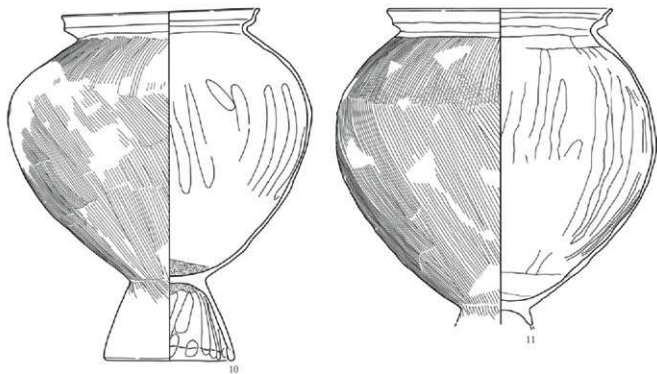
施設：確認できない。遺物：土師器(有孔鉢1点、甕4点、台付甕7点)の他、土師器629片が出土した。遺物は、北西部に甕類の大きな破片が多く分布する。有孔鉢(1)、甕(2・3・5)、台付甕(6・9・12)は床直上から出土した。甕(4)は床面から0.1m程度、台付甕(7・10・11)は0.07～0.08m程度、台付甕(8)は0.14m程度浮いている。所見：南側は8面14号住居による削平を受ける。本遺構の時期は、出土遺物から4世紀前半に位置付けられる。



第870図 1区9面 2号竪穴状遺構



第871図 1区9面 2号竅穴遺構出土遺物(1)



第872図 1区9面 2号竪穴状遺構出土遺物(2)

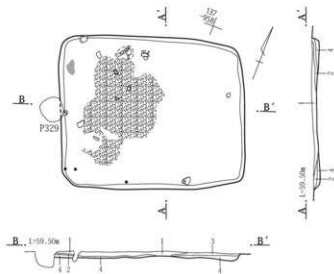
8号竪穴状遺構(第873・874図 PL.176)

位置: 133 ~ 137・-956 ~ -961 規模形状: 各辺は直線的である。東辺に対して西辺がやや長い、隅丸長方形を呈している。長軸長2.94m、短軸長2.44mである。

埋没土・壁: 灰黄褐色シルト質土で埋没している。レンズ状堆積が見られることから、自然堆積と推察される。壁高は0.06 ~ 0.1mである。長軸方位: N-69°-E
床面: ほぼ平坦である。西側に広く炭化物や焼土の分布が認められる。掘り方は認められなかった。施設: 確認できない。重複遺構: 329号ピットに先行する。

遺物: 土師器小型台付甕(1)の他、土師器33片が出土した。小型台付甕(1)は埋没土からの出土である。所見: 床面直上の遺物を抽出することはできなかったが、本遺構の時期は、他の土師器片からも4世紀前半に位置付けられる。

8号竪穴状遺構



1区9面 8号竪穴状遺構 A-A'・B-B'

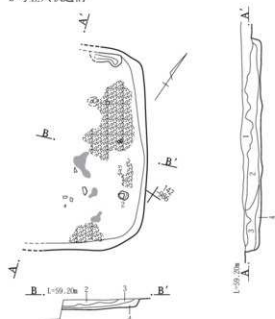
- 1 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質土小ブロックを中量含む。
- 2 灰黄褐色土 シルト質上。灰を多量、焼土粒を少量含む。
- 3 灰黄褐色土 シルト質上。灰、浅黄褐色シルト質土小ブロックを中量含む。
- 4 灰黄褐色土 シルト質上。浅黄褐色シルト質土小ブロックを少量含む。

9号竪穴状遺構(第873・874図 PL.176・244)

位置: 140 ~ 144・-985 ~ -989 規模形状: 各辺はやや曲線を描いている。西側は調査することができなかった。丸みの強い隅丸長方形を呈しているものと考えられる。長軸長3.3m、短軸長(1.98)mである。埋没土・壁: 灰黄褐色シルト質土で埋没している。レンズ状堆積が見られることから、自然堆積と推察される。壁高は0.13 ~ 0.26mである。長軸方位: N-33°-E

床面: ほぼ平坦である。掘り方は認められなかった。施設: 一部のみであるが、北辺で壁溝の掘り込みが認められる。遺物: 土師器壺(2)の他、土師器15片が出土した。壺(2)は床面直上からの出土である。所見: 本遺構の時期は、出土遺物から4世紀前半に位置付けられる。

9号竪穴状遺構



1区9面 9号竪穴状遺構 A-A'・B-B'

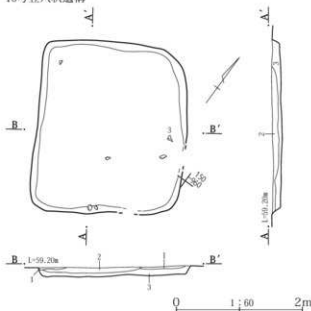
- 1 に深い黄褐色土 シルト質上。洪水層。
- 2 灰黄褐色土 シルト質上。灰白色シルト質土小ブロックを少量、As-C軽石を多量含む。
- 3 灰黄褐色土 シルト質上。灰を中量、灰白色シルト質土小ブロックを少量、As-C軽石を多量含む。
- 4 灰黄褐色土 シルト質上。炭化物、灰を中量、焼土ブロックを少量、As-C軽石を多量含む。

0 1:60 2m

10号竪穴状遺構(第873図 PL.176)

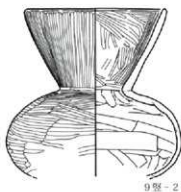
位置: 148 ~ 152・-959 ~ -964 規模形状: 各辺はやや曲線を描き、わずかに南北が長い隅丸長方形を呈している。長軸長2.74m、短軸長2.44mである。埋没土・壁: にぶい黄褐色シルト質土で埋没している。レンズ状堆積が見られることから、自然堆積と推察される。壁高は0.14 ~ 0.18mである。長軸方位: N-31°-W 床面: ほぼ平坦である。掘り方は認められなかった。施設: 確認できない。重複遺構: 61号畑に先行する。遺物: 土師器甕(3)の他、土師器22片が出土した。甕(3)は床面直上からの出土である。所見: 本遺構の時期は、出土遺物から4世紀前半に位置付けられる。

10号竪穴状遺構

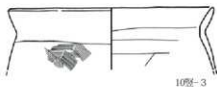
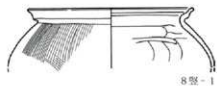


1区9面 10号竪穴状遺構 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土中ブロック、炭化物を中量、焼土粒、灰を少量、As-C軽石を微量含む。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土小ブロックを中量、As-C軽石を微量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土小ブロックを少量、As-C軽石を微量含む。



0 1:3 10cm



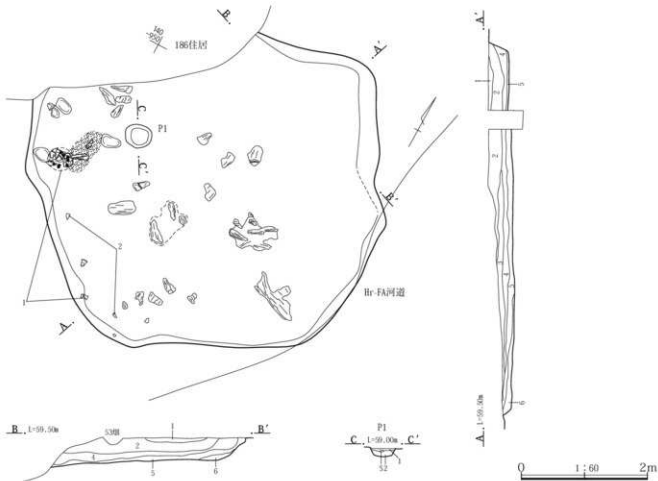
第874図 1区9面 10号竪穴状遺構、8 ~ 10号竪穴状遺構出土遺物

11号竪穴状遺構(第875図 PL.176・244)

位置: 135 ~ 142・-945 ~ -952 規模形状: 各辺は大きく曲線を描いており、不整形に近い隅丸方形を呈している。長軸長5.76m、短軸長5.08mである。埋没土・壁: にぶい黄褐色砂〜シルト質土で埋没している。レンズ状堆積が見られることから、自然堆積と推察される。埋没土中には多数の炭化材が出土している。西壁の一部はIr-FA以降の小河道により一部が削平されている。壁高は0.16 ~ 0.4mである。長軸方位: N-50°-E 床面:

ほぼ平坦である。掘り方は認められなかった。施設: 柱穴を1基確認した。重複遺構: 186号住居に先行する。

遺物: 土師器(壺1点、小型台付甕1点)の他、土師器82片が出土した。壺(1)は破片が床直上 ~ 0.16m程度浮いたものまであり、小型台付甕(2)は床面から0.15m程度浮いている。所見: 方床面からのみ出土した遺物を抽出できなかったが、本遺構の時期は、他の土師器片からも4世紀前半に位置付けられる。

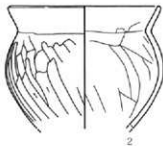


1区9面 11号竪穴状遺構 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質上。洪水層。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物、浅黄褐色シルト質上小ブロックを少量、As-C軽石を微量含む。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物、浅黄褐色細砂小ブロックを少量、As-C軽石を微量含む。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。
- 5 にぶい黄褐色土 シルト質上。炭化物を多量、灰、焼土ブロックを中量、As-C軽石を微量含む。
- 6 にぶい黄褐色土 細砂上。

1区9面 11号竪穴状遺構1号ピット C-C'

- 1 黒褐色土 シルト質上。褐色土大ブロックを中量含む。
- 2 黒褐色土 シルト質上。褐色土を層状に少量含む。



2



1

0 1:3 10cm

第875図 1区9面 11号竪穴状遺構、出土遺物

(3) 溝

58号溝(第876図)

位置：129～133・-959～-962 規模：4.14m×0.19
～0.27m 残存深度：0.06m 走行方位：N-38°-E

遺物：なし 所見：洪水起源と考えられる褐色・にぶい黄褐色シルト・粘質土で埋没していた。55号畑の北西側をやや蛇行するように掘削される。北東端及び南西端は浅くなり、確認できなくなる。断面形は皿状で、底面は平坦である。幅は狭く、残存深度は浅い。小規模な掘削であり、短い区間しか確認できないことから、用排水路としての機能は想定できない。区画溝の可能性もあるものの、この溝の性格は不明である。出土遺物はないものの、溝の時期は、埋没土から古墳時代前期に位置付けられる。

59号溝(第877図)

位置：144～149・-975～-984 規模：[9.32]m×0.23
～0.49m 残存深度：0.06m 走行方位：N-61°-E

遺物：なし 所見：洪水起源と考えられるにぶい黄褐色シルト質土で埋没していた。59号畑の南側を東西方向に掘削される。東端及び西端は浅くなり、確認できなくなる。また、中央部は掘り込みを確認することができなかった。東西両部分は、別溝の可能性もあるが、残存深度・幅、方向から同一溝であると判断した。断面形は皿状で、底面は平坦である。幅は狭く、残存深度は浅い。小規模な掘削であり、短い区間しか確認できないことから、用排水路としての機能は想定できない。区画溝の可能性もあるものの、この溝の性格は不明である。出土遺物はないものの、溝の時期は、埋没土から古墳時代前期に位置付けられる。

60号溝(第877図)

位置：145～148・-957～-960 規模：3.58m×0.14
～0.24m 残存深度：0.05m 走行方位：-

遺物：なし 所見：洪水起源と考えられるにぶい黄褐色シルト質土で埋没していた。53号畑の北西部に位置するが、鉤の手状に屈曲している。北端及び東端は浅くなり、確認できなくなる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅は狭く、残存深度は浅い。小規模な掘削であり、短い区間しか確認できないことから、用排水路としての機能は想定できない。区画溝の可能性もあるものの、この溝の

性格は不明である。出土遺物はないものの、溝の時期は、埋没土から古墳時代前期に位置付けられる。

61号溝(第877図)

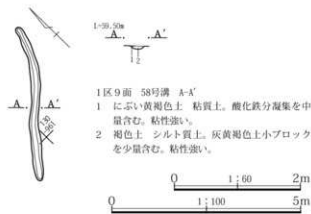
位置：139～146・-967～-971 規模：(7.32)m×0.17
～0.42m 残存深度：0.08m 走行方位：N-24°-E

遺物：なし 重複遺構：180号住居に先行する。所見：洪水起源と考えられるにぶい黄褐色シルト質土で埋没していた。54号畑の西部をやや蛇行するように掘削される。北端は浅くなり、南端は180号住居と重複により確認できなくなる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅は狭く、残存深度は浅い。小規模な掘削であり、短い区間しか確認できないことから、用排水路としての機能は想定できない。区画溝の可能性もあるものの、この溝の性格は不明である。出土遺物はないものの、溝の時期は、埋没土から古墳時代前期に位置付けられる。

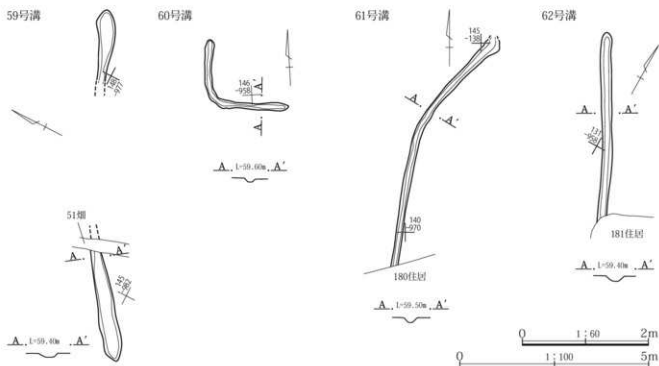
62号溝(第877図)

位置：129～134・-956～-960 規模：(4.98)m×0.24
～0.3m 残存深度：0.09m 走行方位：N-28°-W

遺物：なし 重複遺構：181号住居、55号畑、92号土坑に先行する。所見：洪水起源と考えられるにぶい黄褐色シルト質土で埋没していた。55号畑の東端を並行するように掘削される。北端は浅くなり、南端は181号住居と重複により確認できなくなる。断面形は逆台形で、底面は平坦である。幅は狭く、残存深度は浅い。小規模な掘削であり、短い区間しか確認できないことから、用排水路としての機能は想定できない。区画溝の可能性もあるものの、この溝の性格は不明である。出土遺物はないものの、溝の時期は、埋没土から古墳時代前期に位置付けられる。



第876図 1区9面 58号溝



第877図 1区9面 59～62号溝

(4) 畑

51号畑(第878・879図 PL.176・177・244)

位置: 121～148・-968～-987 サク数: 34条 規模: (24.96)m×(14.24)m 残存深度: 0.16m サク間幅: 0.0～0.6m サク方位: N-37°-W 遺物: 土師器器台もしくは高杯(1)、特殊器台(2)、壺?(3)、甕(4)、台付甕(5)、土製丸玉(6)の他、土師器724片が出土した。重複遺構: 180号住居、52号畑に先行し、182号住居、59号溝、58・59号畑に後出する。所見: 埋没土は洪水層を攪拌したと考えられるにぶい黄橙色シルト質土である。範囲が広く、重複するサクがあることから、複数の時期の畑を同一区画としてとらえている可能性がある。サクの方位は北西を向いており、北に位置する52・56号畑や下位にある59号畑と共通している。畑の時期は、遺物から4世紀前半に位置付けられる。

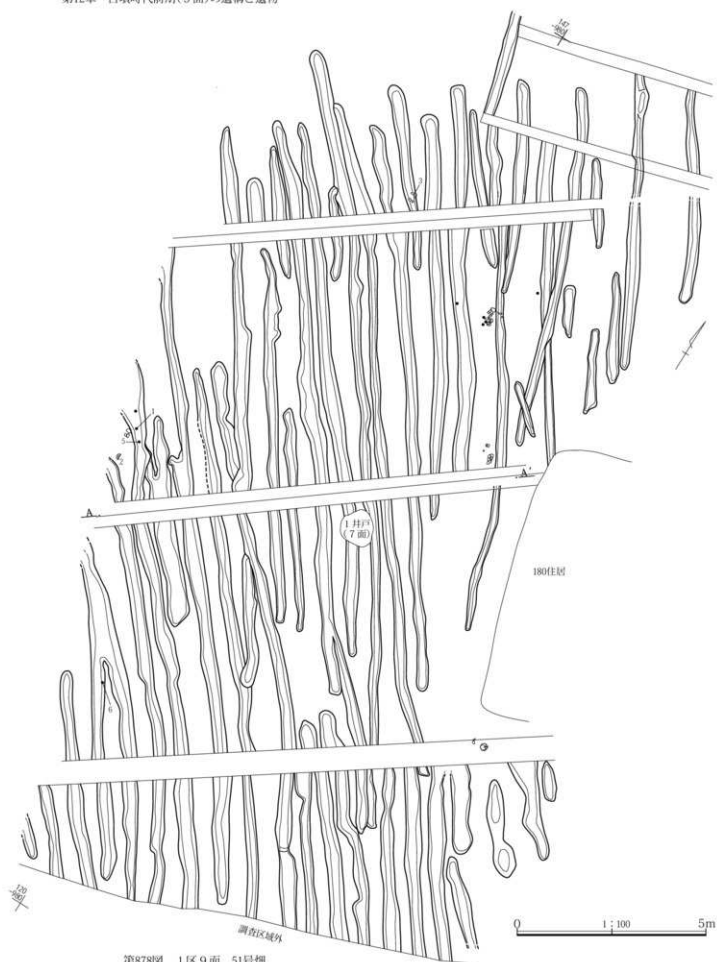
52号畑(第879図 PL.177)

位置: 146～152・-976～-985 サク数: 5条 規模: 6.95m×(3.6)m 残存深度: 0.18m サク間幅: 0.6～1.3m サク方位: N-29°-W 遺物: 土師器17片が出土した。重複遺構: 51号畑に後出する。所見: 埋没土は洪水

層を攪拌したと考えられるにぶい黄橙色シルト質土である。確認したサク及びその間隔が広い。作物によりサクの幅が変えられていた可能性がある。東側に位置する56号畑とは近接するが、サクの幅や間隔、埋没土が異なることから別区画とした。方位は北西を向いており、周囲に位置する51・56・59号畑と共通している。畑の時期は、土師器片及び埋没土から4世紀前半に位置付けられる。

53号畑(第880図 PL.177・245)

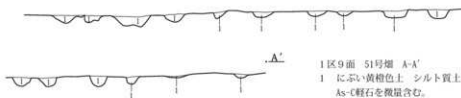
位置: 136～147・-947～-966 サク数: 17条 規模: 18.28m×10.48m 残存深度: 0.18m サク間幅: 0.0～1.3m サク方位: N-22°-E 遺物: 土師器甕(1)、刀子(2)の他、土師器105片が出土した。重複遺構: 60号溝に先行し、186号住居、11号竪穴状遺構、54・57号畑に後出する。所見: 埋没土は洪水層を攪拌したと考えられるにぶい黄橙色シルト質土である。西端で調査したサクは間隔が広く開いていることから、確認できなかったサクが存在する可能性がある。また、東側では、サクが重複していることから、複数の時期の畑を同一区画としてとらえている可能性がある。方位は北東を向いており、周囲の畑とは異なっている。畑の時期は、出土遺物から4世紀前半に位置付けられる。



第878図 1区9面 51号畑

51号畑

A, 1-99.50m



1区9面 51号畑 A-A'

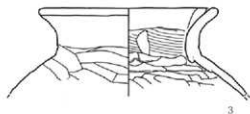
1 に深い黄橙色土 シルト質土。に深い黄橙色シルト質土中ブロックを中量、As-C軽石を微量含む。



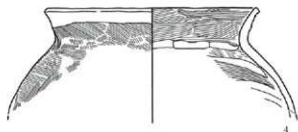
1



2



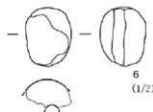
3



4



5



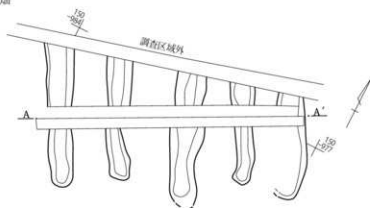
6

(1/2)

0 1:2 4cm

0 1:3 10cm

52号畑



A, 1-99.30m



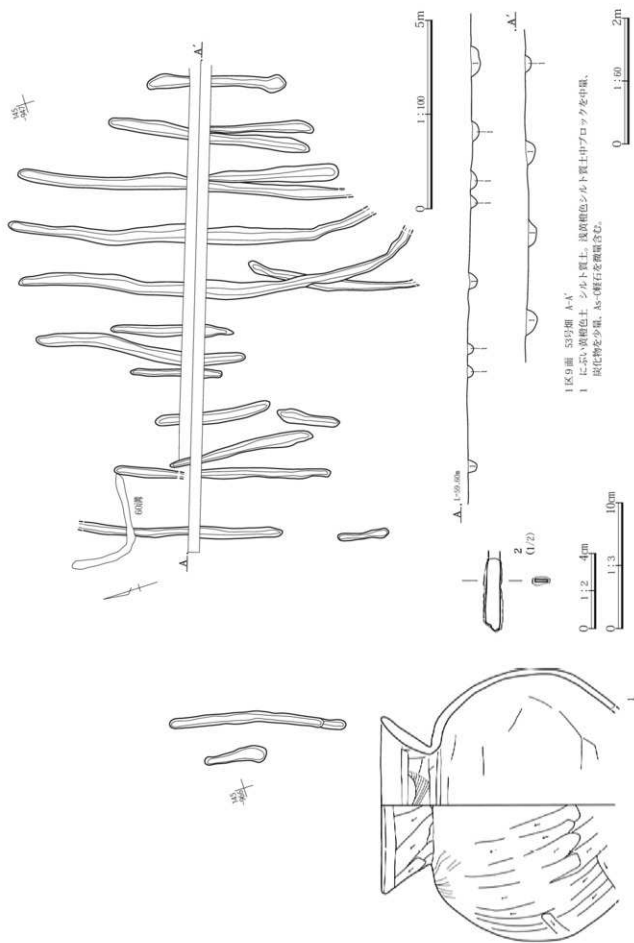
1区9面 52号畑 A-A'

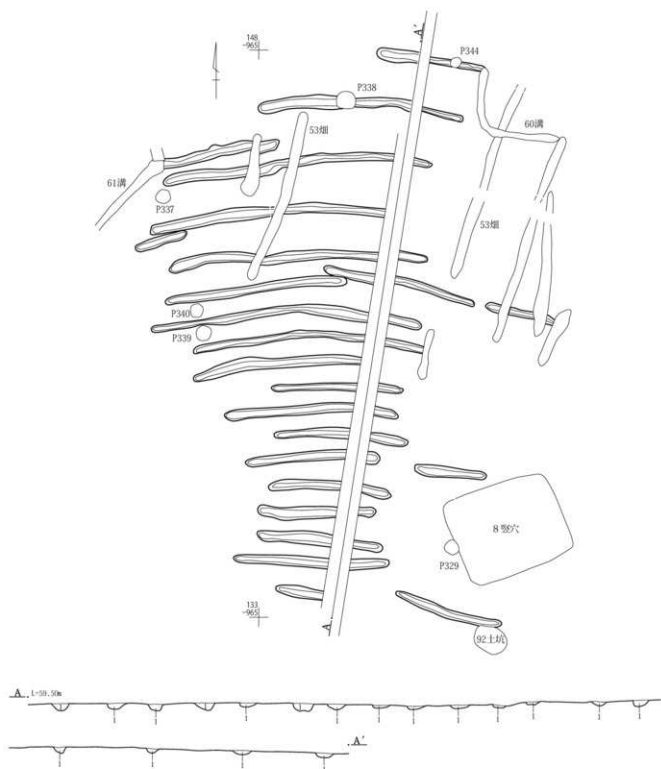
1 に深い黄橙色土 シルト質土。に深い黄橙色シルト質土小ブロックを少量、As-C軽石を微量含む。粘性強い。洪水層。

0 1:60 2m

0 1:100 5m

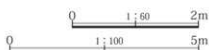
第879図 1区9面 51号畑断面・出土遺物、52号畑





1区9面 54号畑 A-A'

1 にふい黄褐色土 シルト質土。浅黄褐色シルト質土中ブロックを中量、炭化物を少量、As-C 軽石を微量含む。



第881図 1区9面 54号畑

54号畑(第881図 PL.177)

位置:132～149・-957～-969 サク数:20条 規模:14.72m×11.12m 残存深度:0.12m サク間幅:0.14～1.0m サク方位:N-87°-W 遺物:土師器86片が出土した。重複遺構:61号溝、53号畑に先行する。

所見:埋没土は洪水層を攪拌したと考えられるにぶい黄橙色シルト質土である。北側で調査したサクは間隔が広く開いていることから、確認できなかったサクが存在する可能性がある。サクはやや曲線を描いている。方位は東西方向となっており、西側に位置する58号畑へ向かっていることから、同時期に存在した可能性がある。畑の時期は、土師器片及び埋没土から4世紀前半に位置付けられる。

55号畑(第882図 PL.177)

位置:127～133・-956～-962 サク数:4条 規模:4.56m×3.28m 残存深度:0.24m サク間幅:0.84～1.04m サク方位:N-30°-W 遺物:土師器13片が出土した。

重複遺構:181号住居、92号土坑に先行し、185号住居に後出する。所見:埋没土は洪水起源と考えられる暗褐色シルト質土である。洪水による埋没と考えられるが、畝は確認できなかった。サクの間隔は広く開いており、幅広い畝を持つ畑と考えられる。方位は北西を向いており、西側に位置する51号畑などと共通している。畑の時期は、土師器片及び埋没土から4世紀前半に位置付けられる。

56号畑(第882図 PL.177)

位置:144～153・-969～-977 サク数:7条 規模:8.24m×5.68m 残存深度:0.18m サク間幅:0.0～0.88m サク方位:N-22°-W 遺物:土師器7片が出土した。

重複遺構:91号土坑、327号ピットに先行する。所見:埋没土は洪水起源と考えられる暗褐色シルト質土である。洪水による埋没と考えられるが、畝の確認は部分的であり、ほとんどは調査の過程で削平してしまい、サクとして調査した。サクの間隔は狭く、やや開いている部分は、トレンチ等により確認できなかったサクが存在する可能性がある。西側に近接する52号畑は、洪水層起源と考えられるシルト層を攪拌していることから時期が異なる。方位は北西を向いており、西側に位置する51・52号畑などと共通しているが、やや北向きである。畑の時期は、土師器片及び埋没土から4世紀前半に位置付け

られる。

57号畑(第882図 PL.177)

位置:134～141・-953～-960 サク数:5条 規模:(6.0)m×2.04m 残存深度:0.06m サク間幅:0.08～0.36m サク方位:N-37°-W 遺物:土師器26片が出土した。

重複遺構:8号竪穴状遺構、53号畑に先行する。所見:埋没土は洪水層を攪拌したと考えられるにぶい黄橙色シルト質土である。サクの間隔は狭く、サクの幅もやや狭いことから、幅の狭い畝を持つ畑と考えられる。方位は北西を向いているが、西側への傾きが強い。畑の時期は、土師器片及び埋没土から4世紀前半に位置付けられる。

58号畑(第883図 PL.177)

位置:133～140・-978～-984 サク数:4条 規模:6.44m×3.92m 残存深度:0.08m サク間幅:0.2～0.68m サク方位:N-52°-W 遺物:なし 重複遺構:51・59号畑に先行する。

所見:埋没土は洪水層を攪拌したと考えられるにぶい黄橙色シルト質土である。サクの幅はやや広いことから、幅のやや広い畝を持つ畑と考えられる。方位は東西方向に近い北東を向いており、51号畑とは直交する。東側にやや離れた54号畑へ向かうような方位であり、同時期に存在した可能性がある。畑の時期は、埋没土及び重複関係から古墳時代前期に位置付けられる。

59号畑(第883図 PL.178)

位置:130～138・-973～-983 サク数:9条 規模:7.32m×6.12m 残存深度:0.14m サク間幅:0.0～0.8m サク方位:N-38°-W 遺物:なし 重複遺構:51号畑に先行し、58号畑に後出する。

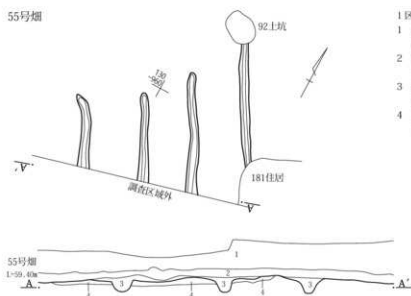
所見:埋没土は洪水層を攪拌したと考えられるにぶい黄橙色シルト質土である。サクの間隔にはばらつきがあり、広く開いている部分があるが、これは51号畑との重複により、確認できなかったサクが存在する可能性がある。サクの間隔はやや狭いことから、幅の狭い畝を持つ畑と考えられる。方位は北西を向いており、51号畑とほぼ同じである。51号畑よりは古い畑ではあるが、埋没土も近似しており、近い時期の可能性がある。畑の時期は、埋没土及び重複関係から古墳時代前期に位置付けられる。

60号畑(第883図)

位置:143～151・-965～-970 サク数:3条 規模:3.28m×2.56m 残存深度:0.03m サク間幅:0.72～1.08

2 1区の遺構と遺物

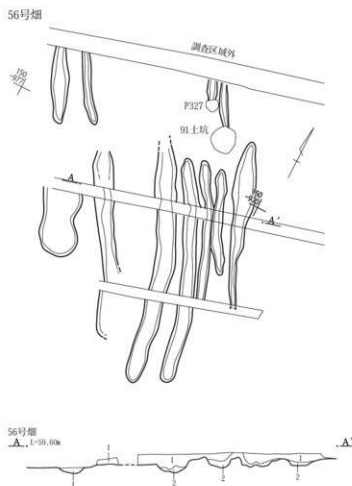
55号畑



1区9面 55号畑 A-A'

- 1 に深い黄褐色土 シルト質土。褐色土小～中ブロック、黄褐色土粒子を多量に含む。洪水層。
- 2 褐色土 粘質土。褐色土小ブロック、黄褐色土粒子を多量に含む。洪水層。
- 3 暗褐色土 灰黄褐色土、黄褐色土小ブロックを少量含む。粘性強い。洪水層。55号畑埋没土。
- 4 褐色土 粘質土。酸化鉄凝集を多量、灰黄褐色土ブロックを少量含む。粘性強い。

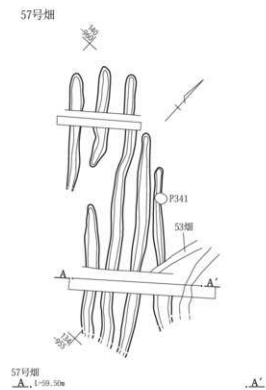
56号畑



1区9面 56号畑 A-A'

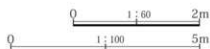
- 1 浅黄褐色土 シルト質土。マンガン粒を中量含む。洪水層。
- 2 に深い黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。洪水層。

57号畑



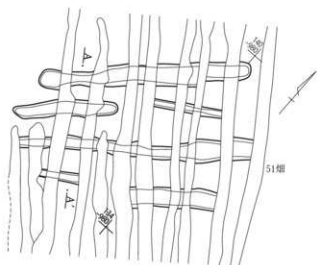
1区9面 57号畑 A-A'

- 1 に深い黄褐色土 シルト質土。灰白色シルト質土中ブロックを中量含む。



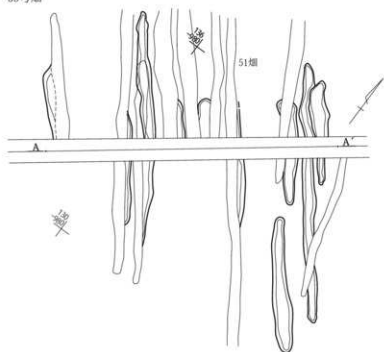
第882図 1区9面 55～57号畑

58号畑

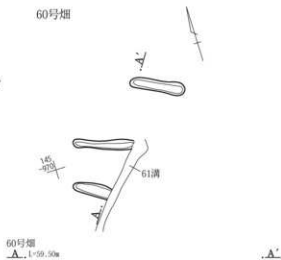


1区9面 58号畑 A-A'
 1 にふい黄橙色土 シルト質土。灰白色細砂大ブロックを中量、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。

59号畑

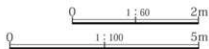


60号畑

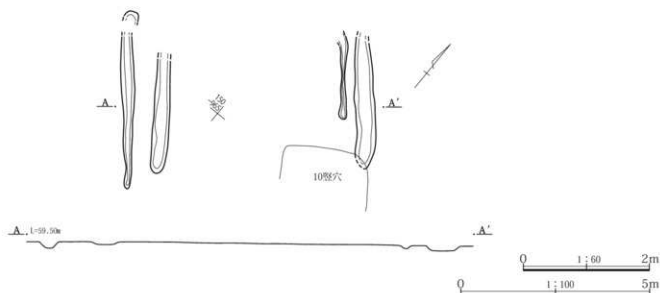


59号畑
 A-A', 1:59.50m

1区9面 59号畑 A-A'
 1 にふい黄橙色土 シルト質土。灰白色細砂ブロックを中量含む。



第883図 1区9面 58～60号畑



第884図 1区9面 63号畑

m サク方位：N-63°-W 遺物：なし 重複遺構：61号溝に先行する。 所見：埋没土に関する情報が残存していない。サクをわずかな長さだけ確認した。残存深度が非常に浅いことから、部分的な確認であり、本来のサクの長さはより長いものであった可能性がある。サクの間隔はやや広いことから、幅のやや広い畝を持つ畑と考えられる。方位は北西を向いているが、西側への傾きが強い。畑の時期は、埋没土及び重複関係から古墳時代前期に位置付けられる。

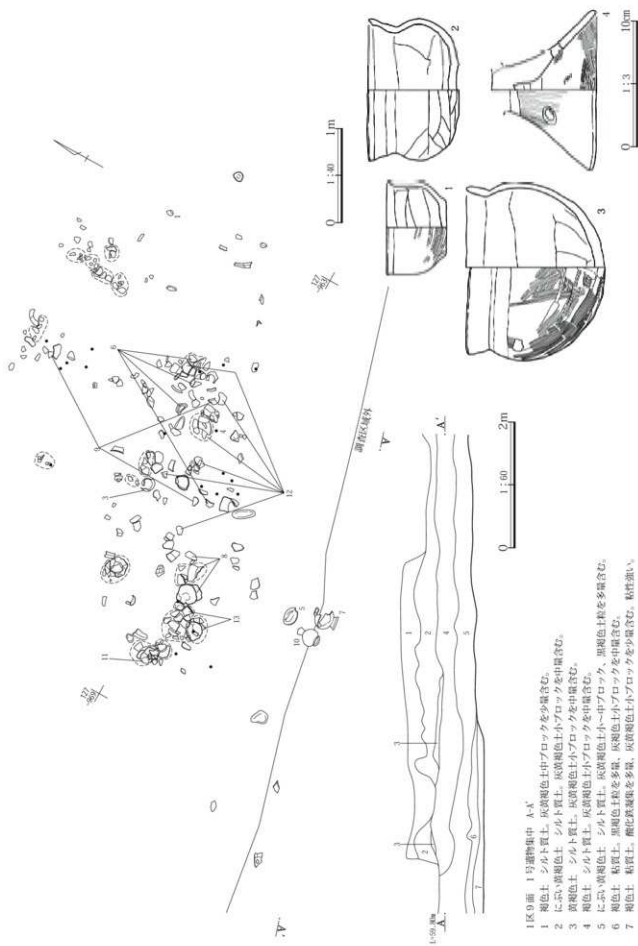
63号畑(第884図)

位置：146～154・961～969 サク数：4条 規模：5.4m×3.76m 残存深度：0.07m サク間幅：0.16～0.44m サク方位：N-43°-W 遺物：なし 重複遺構：179号住居、10号竪穴状遺構に先行する。 所見：埋没土に関する情報が残存していない。サクを東西両端の2条ずつ調査したが、その間が広く開いており、179号住居との重複などにより確認できなかったサクが存在する可能性がある。方位は北西を向いている。畑の時期は、埋没土及び重複関係から古墳時代前期に位置付けられる。

(5)遺物集中

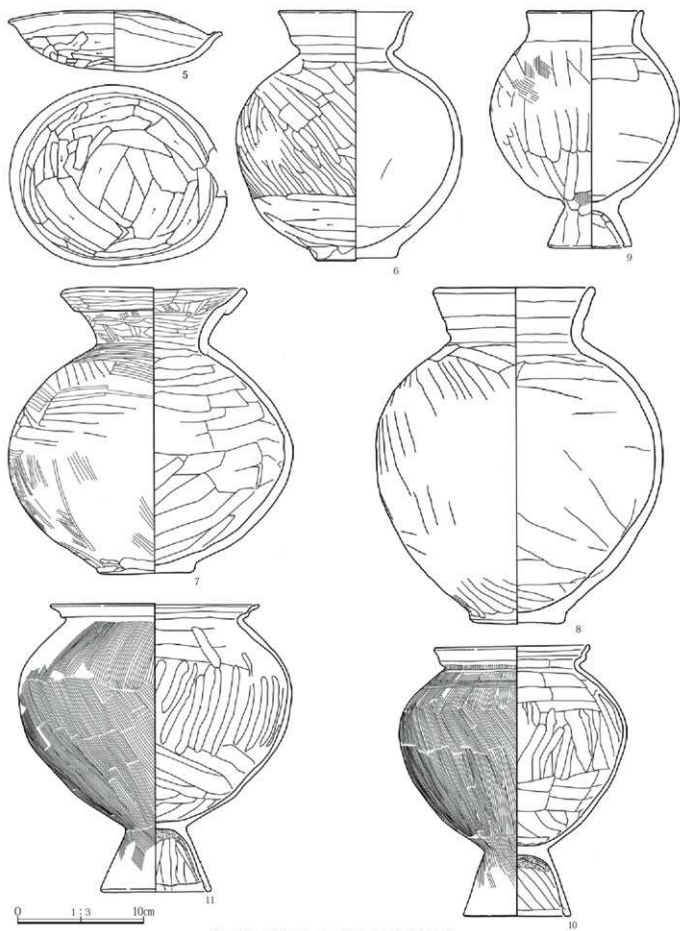
1号遺物集中(第885～887図 PL.178・245・246)

位置：124～131・962～969 概要：東西7.4m、南北5.6m程度の範囲に土師器片が密集して出土している。調査区南辺で確認したが、その範囲は調査区域外にまで広がるものと考えられる。下層には182・185号住居が存在するが、洪水層を挟んでその上位にある。平坦で凹凸の少ない場所に遺物が分布しており、洪水層によって覆われている。硬化面や焼土等はなく、住居の可能性は低いと考えられる。 遺物：土師器(杯2点、埴1点、鉢?1点、器台もしくは高杯1点、壺2点、甕1点、台付甕5点)の他、土師器634片が出土した。台付甕の出土が多い。南壁際の杯(5)、壺(7)、台付甕(10)は確認面より0.06m程度高い位置からまとまって出土した。杯(1)、器台もしくは高杯(4)、鉢?(3)、壺(6)、甕(8)、台付甕(9・11・12・13)は床面直上もしくは、床面直上からの破片の出土が多い。台付甕(10)は床面から0.06m程度浮いており、埴(2)は埋没からの出土である。すべての土器片が同一面から出土しておらず、0.1m未満の落差があることから、一定の期間にわたって、土器が置かれた可能性がある。 所見：遺物の時期はいずれも4世紀前半で混入品がなく、離れた地点の破片同士が接合することも少ない。別の場所から遺物が流れ込んできた状況ではなく、この場所に置かれた状況を調査したものと考えられる。高杯や器台は少なく、甕類が多い傾向がある。

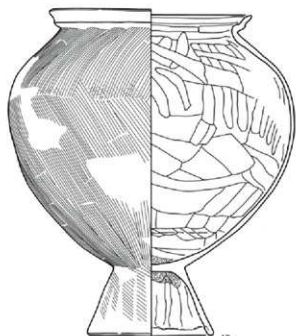
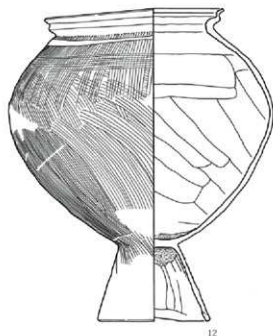


1区9面 1号遺物集中 A-A'

- 1 褐色土 シルト質土、灰褐色土中ブロックを少量含む。
- 2 濃い黄褐色土 シルト質土、灰褐色土小ブロックを中量含む。
- 3 黄褐色土 シルト質土、灰褐色土小ブロックを中量含む。
- 4 褐色土 シルト質土、灰褐色土小ブロックを中量含む。
- 5 濃い黄褐色土 シルト質土、灰褐色土小〜中ブロックを多量含む。
- 6 褐色土 粘質土、黒褐色土粒を多量、灰褐色土小ブロックを中量含む。
- 7 褐色土 粘質土、酸化鉄腐葉を多量、灰褐色土小ブロックを少量含む。粘性強い。



第886図 1区9面 1号遺物集中出土遺物(2)



0 1:3 10cm

第887図 1区9面 1号遺物集中出土遺物(3)

(6) 土坑

1区の土坑(第888・889図 PL.178・246)

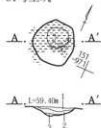
概要：1区では4基の土坑を調査した。その分布は、散

発的である。土坑の詳細については第24表に記した。

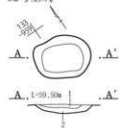
所見：住居や畑と近接しており、これらに伴うと考えら

れる。土坑の時期は、埋没土や遺物から古墳時代前期に属すると考えられる。

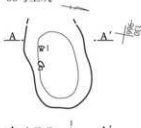
91号土坑



92号土坑



93号土坑



0 1:60 2m

1区9面 91号土坑 A-A'

1 暗褐色土 シルト質上。褐色土中ブロックを多量、黒褐色粒子を少量、炭化物を微量含む。

2 黒褐色土 シルト質上。炭化物を層状に、灰をブロック状に多量含む。

3 柳暗褐色土 シルト質上。炭化物を少量含む。しまりやや固い。

1区9面 92号土坑 A-A'

1 暗褐色土 シルト質上。炭化物を多量含む。

2 暗褐色土 シルト質上。黄褐色土小ブロックを少量、炭化物を微量含む。

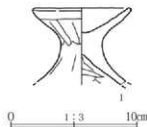
1区9面 93号土坑 A-A'

1 黄褐色土 洪水層。

2 暗褐色土 シルト質上。黄褐色土小〜中ブロックを中量、炭化物を微量含む。

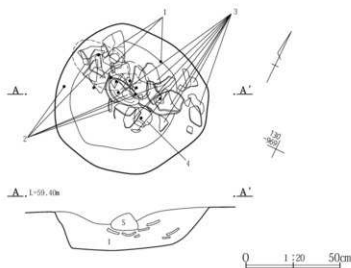
3 黒褐色土 シルト質上。黄褐色土小ブロックを少量、炭化物を微量含む。

4 黒色土 シルト質上。炭化物を多量含む。



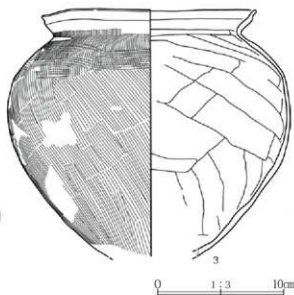
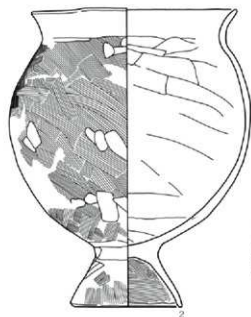
0 1:3 10cm

第888図 1区9面 91～93号土坑、93号土坑出土遺物



1区9面 94号土坑 A-A'

1 褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。



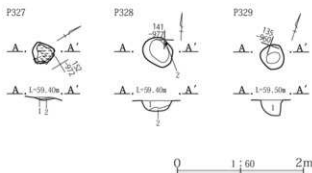
第889図 1区9面 94号土坑、出土遺物

(5)ピット

1区のパット(第890・891図 PL.178・179)

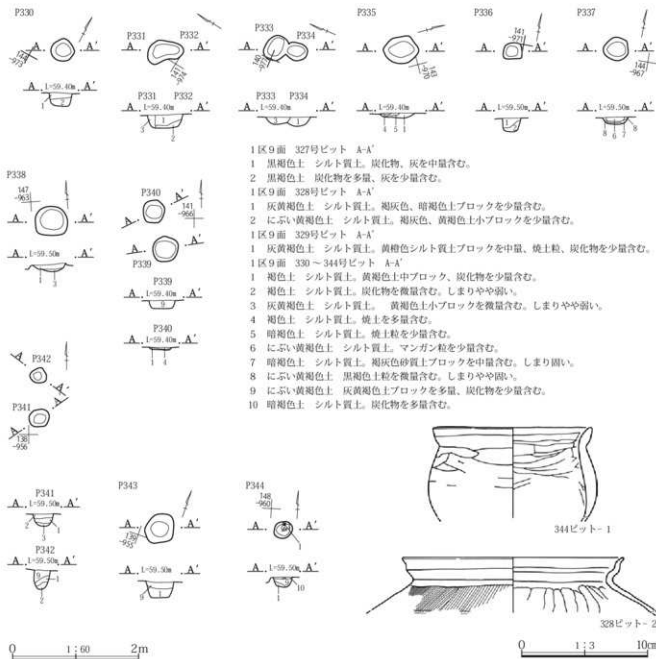
概要：1区では18基のパットを調査した。その分布は、散発的である。180号住居北側でややピットがまとまっているものの、建物の復元には至らなかった。ピットの詳細については第25表に記した。

所見：遺物は少ないものの、ピットの時期は、埋没土が住居や畑と同様であることから、古墳時代前期に属すると考えられる。



第890図 1区9面 327～329号ピット

第12章 古墳時代前期(9面)の遺構と遺物

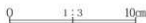
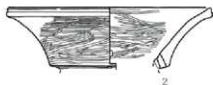


第891図 1区9面 330～344号ビット、328・344号ビット出土遺物

(6) 遺構外出土の遺物(第892図 PL.247)

1区9面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物を出土

した。ここでは出土した遺物のうち、土師器埴(1)、器台?(2)を掲載した。この他の遺物は、土師器72片がある。



第892図 1区9面 遺構外出土遺物

3 5区の遺構と遺物

5区の9面に属する遺構としては、住居5軒、竪穴状遺構1基、畑3区画、遺物集中2か所、土坑2基、ピット1基である。5区では、調査区西端が低地となっており、遺構を確認できなかったが、北に位置する1区と同様に、古墳時代前期の集落を調査した。住居の軒数は、8面と比べると少ない。

遺構の密度は8面よりも低いが、遺構の確認面も埋没土もほぼ同じ洪水起源と考えられる褐色～灰黄褐色シルト質土であり識別が困難であった。そのため、遺構の範囲や深度を確認するためトレンチを多要せざるを得ない状況であった。

(1)住居

43号住居(第893・894図 PL.181・247)

9面 5区東部にある。南面が、調査区域外にあるが、調査範囲の残存状態は良い。

位置：044～052・-894～-904にある。

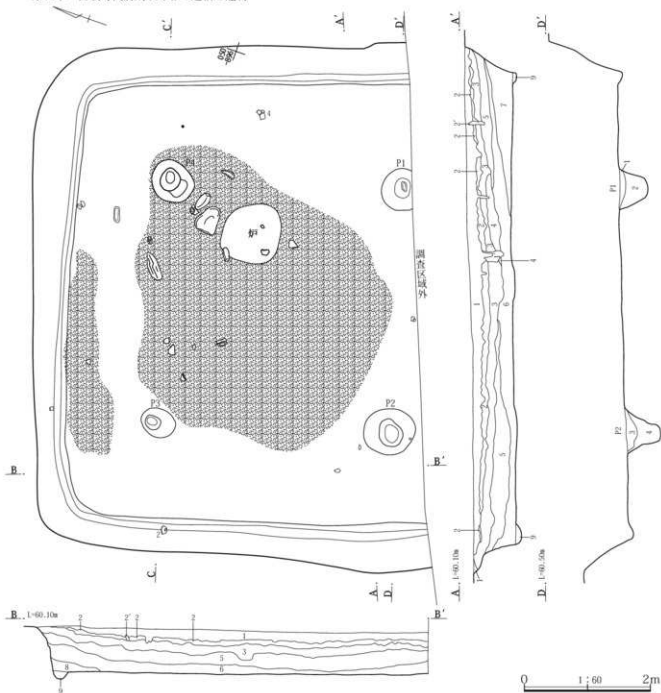
規模形状：北壁は直線的である。東壁及び西壁は、直線的であるが南へ行くほど歪んでいる。北東隅、北西隅は丸みを帯びている。全体としては、角のとれた方形を呈している。大型住居である。長軸長8.37m、短軸長(6.05)mである。埋没土・壁：灰黄褐色シルト質土主体の土で埋没している。灰白色細砂ブロックを含みAs-Cの混土層であり締まりが弱い。まず、東壁からは炭化物を含んだ同層が、北壁からは炭化物及び焼土粒を多く含んだ同層が流れ込んだ。次に、黄橙粘質土ブロックを含んだ層、灰白細砂ブロックを含まず黄橙粘質土ブロック・炭化物を含んだ層の順で一気に埋没している。その後、に

ぶい黄橙色砂土を含む粘性が強く締まりの強い黄橙色土の洪水層、砂層であるにぶい黄橙色土の洪水層の順で埋没している。住居周縁部から埋没している状況から、自然堆積であると思われる。壁高は0.88mである。方位：N-68°-E 面積：(25.37)㎡ 床面：住居東部に対して西部が0.08m前後低くなっており、北部に対して南部が0.06m程低くなっている。住居北壁際に帯状に、中央部は広範囲にわたって灰の分布を確認でき、灰分布のやや東には、埴が認められる。柱穴の窪みも4つ確認でき

る。掘り方：認められなかった。壁溝：調査区外にある南辺以外壁溝が確認できた。南辺も含め、住居を一周していると考えられる。埋め土は、小礫とAs-C粒を含んだ灰黄褐色シルト質土である。締まりは弱い。北辺の壁溝は、幅0.24m、深さ0.12m、東辺の壁溝は、幅0.16m、深さ0.06m、西辺の壁溝は、幅0.28m、深さ0.09mである。

ピット(柱穴)：住居中央を基準にして等間隔に4つの掘り込みを確認する。位置と規模より柱穴であると思われる。P1・P2・P3・P4が、規則的な主柱穴配置による柱穴であると思われる。埋没土は、灰黄褐色シルト質土である。P1は、褐色土シルト・黄褐色粘質土ブロックを含むAs-C混土層の上に黄褐色粘質土ブロックを含まない層が、P2・P3は、黄褐色粘質土ブロックを含むAs-C混土層の上に黄褐色粘質土小ブロックを含むAs-C混土層が、P4は、黒褐色砂質ブロックを含む層の上に黄褐色粘質土小ブロックを含むAs-C混土層が各々観察できる。埋没土より、P2とP3が同時に埋没したものと考えられる。P1は、長径0.66m、短径0.48m、深さ0.44m、P2は、長径0.82m、短径0.74m、深さ0.54m、P3は、長径0.56m、短径0.44m、深さ0.48m、P4は、長径0.72m、短径0.61m、深さ0.62mである。貯蔵穴：認められない。埴：住居中央部やや北東寄りに位置する。埴の北には礫があり、埴の形成と関連があると思われる。長径0.94m、短径0.9mであり深さは確認できていない。

重複遺構：なし 遺物：土師器(器台2点、特殊器台1点、台付甕1点) 石製品2点(石製品、砥石) 剥片石器(打製石斧1点) 住居全体から点在するように遺物が出た。そのうち土器4点、石製品1点、剥片石器1点を図示した。器台(2)と台付甕(4)は床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。器台(1)及び特殊器台(3)は、住居埋没土から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。砥石(6)は埋没土からの出土であり、本住居に伴うものであるかは明瞭でない。また、打製石斧(5)の出土が確認されたが、混入であると考えられる。円礫の出土もあった。床直上から炭の出土が見られた。図示した以外に、土師器片が365点、須恵器片が1点出土している。須恵器片は混入であると考えられる。所見(帰属時期)：出土遺物、形状より4世紀前半居であると考える。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。



43号住居 A-A'・B-B'

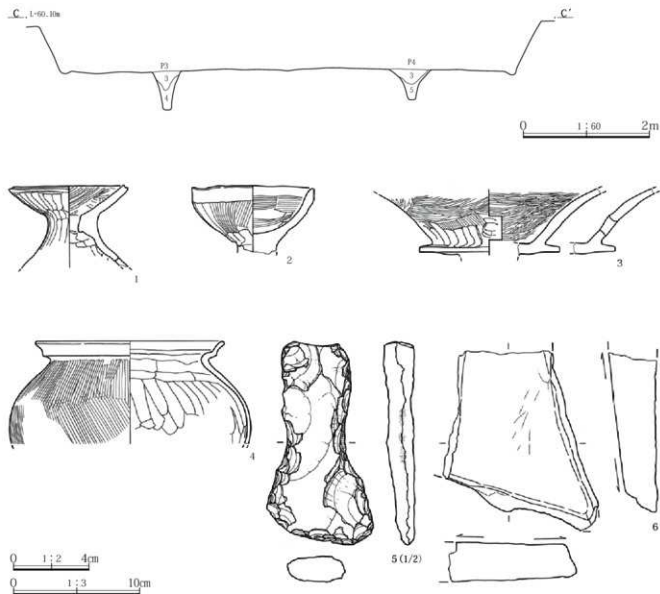
- 1 にくい黄褐色土 砂上。洪水層。しまり弱い。
- 1' にくい黄褐色土 1層に類するが、灰黄褐色As-C軽石混土ブロックが入る。やわらかい。根の痕か。
- 2 黄褐色土 粘質上。洪水層。にくい黄褐色砂土小ブロックを少量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 2' 黄褐色土 2層に類するが、灰黄褐色As-C軽石混土ブロックが入る。やわらかい。根の痕か。
- 3 灰黄褐色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを中量、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。しまり弱い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質上。灰白色細砂小ブロックを少量、As-C軽石を微量含む。しまり弱い。
- 5 灰黄褐色土 シルト質上。灰白色細砂小ブロック、黄褐色粘質土小ブロックを少量、As-C軽石を微量含む。しまり弱い。
- 6 灰黄褐色土 シルト質上。灰白色細砂小ブロック、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。しまりやや弱い。

- 7 灰黄褐色土 シルト質上。灰白色細砂小ブロックを中量、炭化物を少量、As-C軽石を微量含む。しまり弱い。
- 8 灰黄褐色土 シルト質上。灰白色細砂小ブロック、焼土粒、炭化物を中量、As-C軽石を微量含む。しまり弱い。
- 9 灰黄褐色土 シルト質上。φ1~2cm以下の小礫を少量、As-C軽石を微量含む。しまり弱い。周溝埋設上。

43号住居 C-C'・D-D'

- 1 灰黄褐色土 シルト質上。褐色シルト小ブロックを少量、As-C軽石を微量含む。しまり強い。
- 2 灰黄褐色土 シルト質上。褐色シルト小ブロックを中量、黄褐色粘質土小ブロックを少量、As-C軽石を微量含む。しまり弱い。
- 3 灰黄褐色土 シルト質上。黄褐色粘質土小ブロックを少量、As-C軽石を微量含む。しまり弱い。
- 4 灰黄褐色土 シルト質上。黄褐色粘質土ブロックを少量、As-C軽石を微量含む。しまり弱い。
- 5 灰黄褐色土 シルト質上。黒褐色砂質土ブロックを中量含む。

第893図 5区9面 43号住居



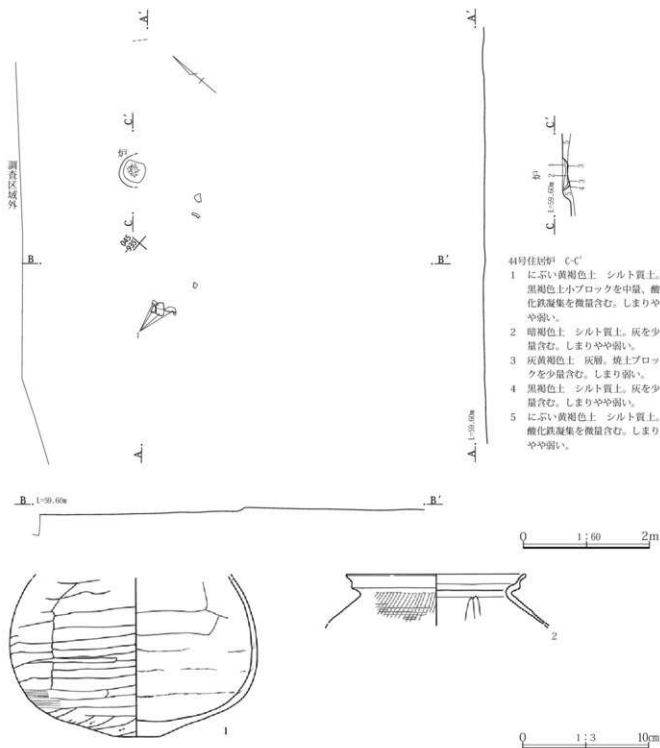
第894図 5区9面 43号住居断面、出土遺物

44号住居(第895図 PL.181)

9面 5区西部住居群内にある。削平が進んでおり、炉及び中央部分の使用面の調査となった。

位置：計測不能 規模形状：不明 長軸長 計測不能、短軸長 計測不能 埋没土・壁：不明 壁高は計測不能である。方位：計測不能 面積：計測不能 床面：北西に傾斜していると推察される。壁溝：不明 ピット(柱穴)：不明 貯蔵穴：不明 炉：住居内の位置については不明である。炉の中心部に灰が確認できる。現存長径0.51m、現存短径0.42m、深さ0.08～0.11mである。埋め土は、灰を含んだ微砂質のにぶい黄褐色土が流入した後、焼土ブロックを含んだ灰黄褐色土の灰層、灰を含

む微砂質の暗褐色土、黒褐色土ブロック、酸化鉄分を含む微砂質のにぶい黄褐色土の順で観察される。いずれも締まりは弱い。重複遺構：なし 遺物：土師器(壺1点、台付甕1点) 住居中央部付近から遺物が出土したと考えられる。そのうち土器2点を図示した。壺(1)は、床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。台付甕(2)は住居埋没土から出土しており、本住居に伴う出土であるか明瞭でない。図示した以外に、土師器片が27点出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、4世紀前半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。



第895図 5区9面 44号住居、出土遺物

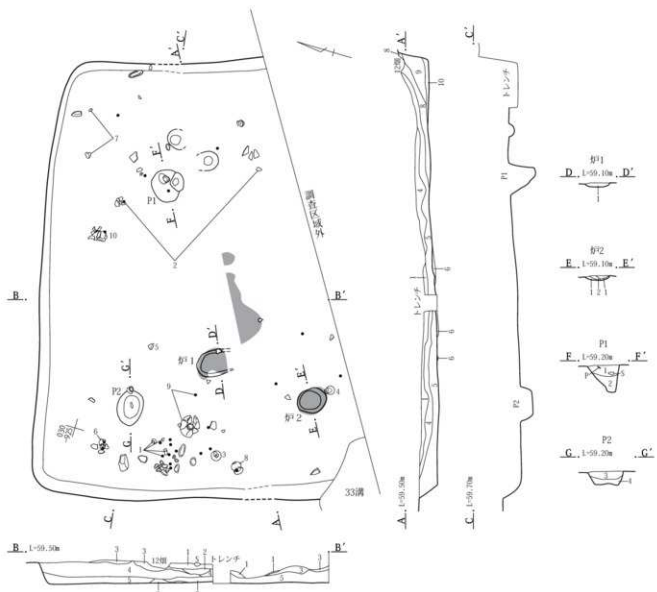
45号住居(第896～898図 PL.182・247)

9面 5区西部住居群内にある。南辺が調査区域外にある。調査区域の残存状態は良い。

位置：025～031・-918～-26にある。

規模形状：各辺直線的だが若干歪んでいる。方形を呈している大型住居である。長軸長6.90m、短軸長(5.22)m

である。埋没土・壁：まず、東壁際から、灰黄褐色土ブロックを含む粘性の強いにぶい黄褐色シルト質土、灰黄褐色土・褐色土ブロックを含む粘性の強い暗褐色シルト質土、酸化鉄分を含む微砂質の灰黄褐色土の順で流入している。水流が関わって自然に堆積したものと思われる。次に、全体を灰黄褐色土ブロックの混入した粘性



45号住居 A-A'・B-B'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。炭化物を少量、焼土粒を微量含む。しまりやや弱い。
- 2 褐色土 粘質土。酸化鉄凝集を多量含む。粘性強い。しまりやや弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐色粘質土ブロックを中量、炭化物を少量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 4 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐色粘質土小ブロック、炭化物を少量含む。しまりやや弱い。
- 5 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを中量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 6 褐色土 シルト質土。焼土層。全体に弱く焼ける。しまりやや弱い。上面に反層。
- 7 褐色土 シルト質土。暗褐色土小ブロックを中量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 8 灰黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を少量含む。しまりやや弱い。
- 9 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色土、褐色土小ブロックを少量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 10 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを微量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。

45号住居P1 D-D'

- 1 褐色土 シルト質土。焼土層。炭化物を少量含む。しまりやや弱い。
- 45号住居P2 E-E'
- 1 褐色土 シルト質土。焼土層。炭化物を微量含む。しまりやや弱い。
 - 2 褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。

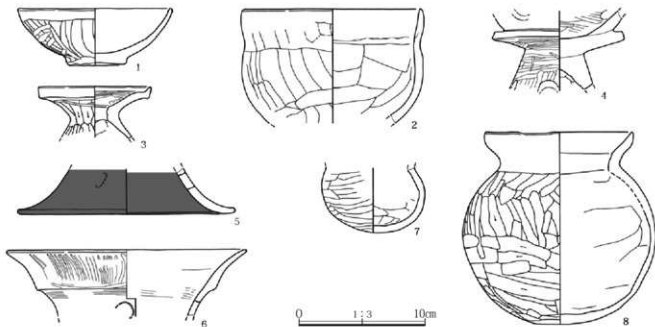
45号住居内ピット F-F'・G-G'

- 1 暗褐色土 シルト質土。炭化物を中量、灰黄褐色土小ブロックを少量、焼土粒を微量含む。しまりやや弱い。
- 2 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロック、黒褐色土小ブロックを少量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを中量、焼土粒を微量含む。しまりやや弱い。
- 4 暗褐色土 シルト質土。黒褐色土小ブロックを中量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。

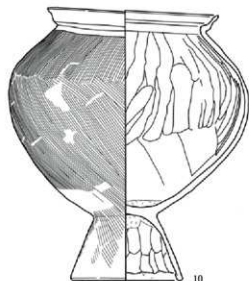
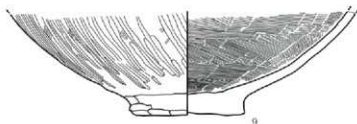
第896図 5区9面 45号住居

の強い暗褐色シルト質土で一氣に埋没している。その後、褐色粘質土ブロック、炭粒を含むにぶい黄褐色シルト質土、炭化粒子、焼土粒を含む微砂質のにぶい黄褐色土の順で堆積している。いずれも締まりは強い。壁際から流れ込むように埋没しており自然堆積であると思われる。壁高は0.25mである。方位：N-14°-W 面積：(25.14)㎡ 床面：南北に傾斜はないが、東から西に徐々に傾斜しており、最終的な落差は0.14m前後に及ぶ。中央やや西と南西に2つがを確認する。また、住居中央に焼土の分布がある。厚さが0.02～0.06m程度であり、全体的に弱く焼け焼土層になっている。上面には灰層がある。3つ目のがであるかは明瞭でない。柱穴と思われる掘り込みも複数認められた。貯蔵穴の掘り込みは確認できなかった。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：P1は北東隅近くに、P2は北西隅近くに位置する。調査区域外にP3・P4があると推察され、規則的な主柱穴配置による柱穴であると思われる。P1は、灰黄褐色土ブロックを含む締まりの強い暗褐色シルト質土で埋没している。下層は黒褐色土ブロックが散見でき粘性が強く、上層は炭化粒、焼土粒が観察できる。長径0.52m、短径0.44m、深さ0.43mである。P2は、黒褐色土ブロックを含み粘性の強い暗褐色シルト質土、灰黄褐色土ブロック、焼土粒を含むにぶい黄褐色シルト質土の順で埋没しており、いずれも

締まりが強い。長径0.56m、短径0.4m、深さ0.2～0.23mである。貯蔵穴：認められない。炬：1号炬は住居中央やや西寄りに、2号炬は南西寄りに位置していると思われる。1号炬は、炭化物を含む焼土化した褐色土で埋められていた。締まりは強い。現存長径0.48m、短径0.41m、深さ0.06mである。2号炬は、炭化粒子を含む焼土層の褐色土で埋められており、途中で灰黄褐色土ブロックを含む褐色土を挟んで埋没していた。長径0.48m、短径0.38m、深さ0.07mである。重複遺構：33号溝に前出しており、11号畑と重複している。遺物：土師器鉢2点、埴1点、装飾器台3点、器台1点、壺1点、小型壺1点、台付甕1点 住居西部を中心にして全体から点在するように遺物が出土した。そのうち土器10点を図示した。鉢(1)、特殊器台(4・5・6)、器台(3)、壺(9)、小型壺(8)は、床直上からの出土であり、本住居に伴うものと考えられる。鉢(2)、埴(7)、台付甕(10)は、床から0.05～0.18m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴う出土であるか明瞭でない。円礫の出土が見られ、磨礫石と思われる礫は住居西部にまとまって確認された。図示した以外に、土師器片が337点出土している。所見(帰属時期)：出土遺物と形状から、4世紀前半であると考えられる。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。



第897図 5区9面 45号住居出土遺物(1)



第898図 5区9面 45号住居出土遺物(2)

46号住居(第899・900図 PL.182・247)

9面 5区西部住居群内にある。北壁、西壁、東壁の一部が調査区域外にあり、中央部分から南壁にかけてのみの調査となった。全容が明らかでない。

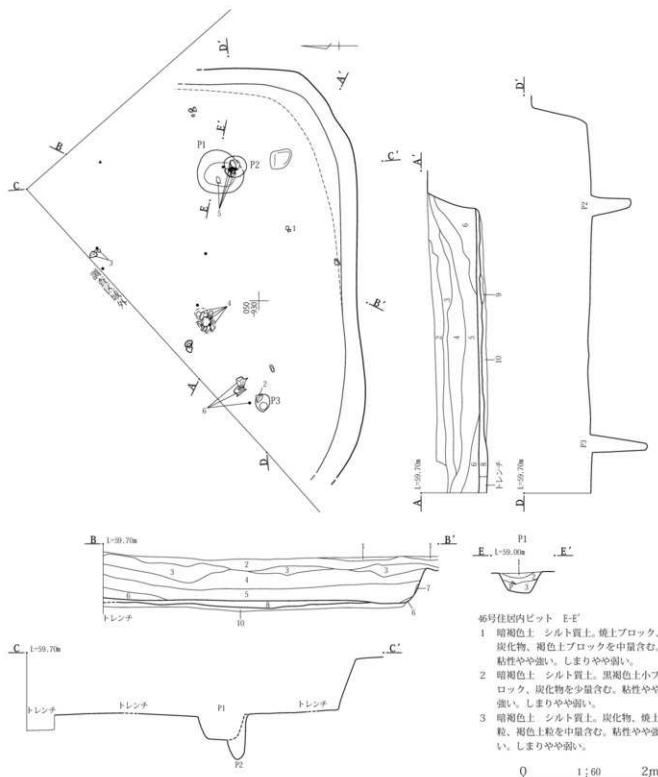
位置：048～053・-926～-932にある。

規模形状：南壁は大きく歪んでいる。南東隅は隅が角張っていないため丸みを帯びた方形であると推察できる。長軸長(5.93)m、短軸長(4.82)mである。 **埋没土・壁**：南東壁際から灰黄褐色土ブロックを含み上面に灰層がある粘性の強い暗褐色土が流れ込んでおり、次に、全面に炭化粒子を含み粘性の強い暗褐色土、炭化物・褐色ブロックを含むにぶい黄褐色シルト質土の順で埋没している。いずれも締まりが強い。その後、酸化鉄分を含む粘性の強い褐色土、酸化鉄分を含むにぶい黄褐色土の順で堆積しており、いずれも締まりが弱い。壁側から埋もれている状況がみられ、自然堆積と推察される。壁高は0.69mである。 **方位**：N-3°-E **面積**：(17.36)㎡

床面：床面は2面ある。1面は傾斜がほぼなく平坦である。2面は中央部が0.1m前後落ち込んでいる。1面の貼床は、黒褐色土・褐色ブロックの混入した暗褐色シルト質土であり、締まりがやや強く上面に灰層がある。住居中央部分が厚く周辺程薄くなる。深さは0.05～0.14m程である。2面の貼床は、黒褐色土・灰黄褐色土ブロックの混入した暗褐色シルト質土であり、締まりが強く上面に灰層がある。厚さはほぼ均等で、中央部やや西寄りでは一部欠損している。深さは0.04～0.08m程である。

わずかだが南東隅の2層の間に、暗褐色土ブロックを含む締まりの強い微砂質のにぶい黄褐色土が観察できる。柱穴と思われる窪みは確認できたが、貯蔵穴の窪みは確認できなかった。 **掘り方**：認められた。 **壁溝**：認められない。 **ピット(柱穴)**：P1・P2は南東隅近くに、P3は南西隅近くに位置する。P2はP1をやり直したものであると思われる。P1は、焼土ブロック及び炭化物の混入した暗褐色シルト質土で埋没していた。下層は褐色粒子を、中層は黒褐色土ブロックを、上層は褐色ブロックを各々含む。いずれも粘性が強く締まりが弱い。調査区域外に関連する柱穴があると推察され、P2とP3は、規則的な主柱穴配置による柱穴であると思われる。P1は、長径0.74m、短径0.68m、深さ0.32m、P2は、長径0.36m、短径0.34m、深さ0.62m、P3は、長径0.26m、短径0.22m、深さ0.88mである。 **貯蔵穴**：認められない。

炉：認められない。 **重複遺構**：なし **遺物**：土師器(台付甕1点、小型甕1点、甕1点、高杯2点、器台1点) 剥片石器(加工痕跡ある剥片痕) 住居使用面中央付近及び柱穴から遺物が出土した。そのうち土器6点を図示した。高杯(2)、小型甕(5)は、柱穴からの出土であり、台付甕(4)、甕(6)、器台(1)は床直上からの出土である。これらは本住居に伴うものと考えられる。高杯(3)は、床から0.17m程浮いた位置から出土しており、本住居に伴うものであるか明瞭でない。剥片石器は、混入であると考えられる。円礫の出土があった。図示した以外に、土師器片が175点出土している。 **所見(帰属時期)**：出



46号住居 A-A'・B-B'

- 1 にふい黄褐色土 シルト質土。酸化鉄凝集を微量含む。しまりやや弱い。
- 2 褐色土 粘質土。酸化鉄凝集を多量含む。粘性強い。しまりやや弱い。
- 3 にふい黄褐色土 シルト質土。褐色土大ブロックを多量、炭化物を少量含む。しまりやや弱い。
- 4 にふい黄褐色土 シルト質土。炭化物を中量、褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 5 暗褐色土 シルト質土。炭化物を少量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。

46号住居内ピット E-E'

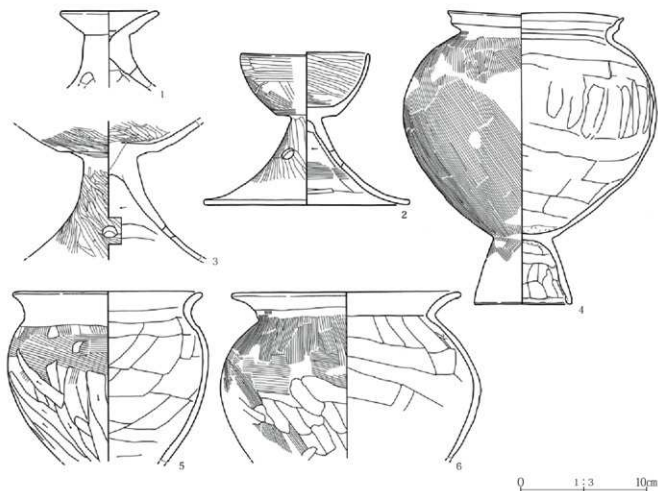
- 1 暗褐色土 シルト質土。焼土ブロック、炭化物、褐色土ブロックを中量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 2 暗褐色土 シルト質土。黒褐色土小ブロック、炭化物を少量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 3 暗褐色土 シルト質土。炭化物、焼土粒、褐色土粒を中量含む。粘性やや強い。しまりやや弱い。

0 1:60 2m

- 6 暗褐色土 シルト質土。灰黄褐色土ブロックを中量含む。上面に灰層あり。粘性やや強い。しまりやや弱い。
- 7 黒褐色土 灰層。褐色土ブロックを含む。しまりやや弱い。
- 8 暗褐色土 シルト質土。黒褐色土ブロック、褐色土ブロックを中量含む。上面に灰層あり。しまりやや弱い。1面陥没。
- 9 にふい黄褐色土 シルト質土。暗褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 10 暗褐色土 シルト質土。黒褐色土ブロック、灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまり弱い。上面に灰層あり。2面陥没。

第899図 5区9面 46号住居

土遺物、形状から、4世紀代であると考え。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。



第900図 5区9面 46号住居出土遺物

47号住居(第901図 PL.183)

9面 5区西部住居群内にある。削平が進んでおり、残存状態は良好でない。

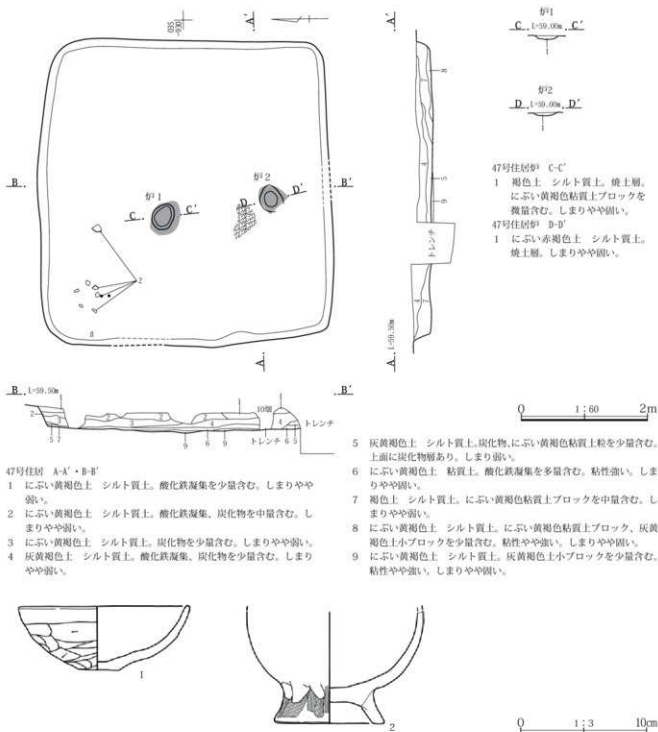
位置：032～037・-930～-935にある。

規模形状：東壁と南壁は直線的であり、北壁と西壁は丸みを帯び歪んでいる。全体としては、方形を呈している。長軸長4.88m、短軸長4.42mである。埋没土・壁：東壁際は粘質土・灰黄褐色土ブロックを含む粘性の強いにぶい黄褐色シルト質土及び粘質土ブロックを含む褐色シルト質土で、西壁際は粘質土ブロックを含む褐色シルト質土で埋没しており、南壁際は酸化鉄分を含むにぶい黄褐色土及び炭化粒子を含む灰黄褐色土で北壁際は粘質土ブロックを含む褐色土及び炭化粒子を含む灰黄褐色土で埋没している。その後、全体は炭化物及び酸化鉄分を含

む灰黄褐色土及び酸化鉄分を含むにぶい黄褐色土で埋没している。水流が関わって自然に堆積したものと推察されるが、明瞭でない。壁高は0.22mである。方位：N-0°面積：20.07㎡(推定)床面：東西は傾斜がなく平坦である。南北は中央部分が0.08m程落ち込んでいる。住居中央部及び南部に2つの炉と灰の分布がみられる。灰の分布は、掘り込みが確認できず、3号炉であるかは明瞭でない。貯蔵穴、柱穴等の窪みは確認できなかった。掘り方：認められなかった。壁溝：認められない。ピット(柱穴)：認められない。貯蔵穴：認められない。炉：1号炉は住居中央やや北西寄りに、2号炉は南部中央に位置する。1号炉の埋め土は、粘質土ブロックを含む焼土層であり、締まりがやや強いシルト質の褐色土で埋めている。長径0.43m、短径0.35m、深さ

0.11mである。2号炉の埋没土は、締まりがやや強い微砂質のぶい赤褐色土であり、焼土化している。長径0.43m、短径0.36m、深さ0.1mである。重複遺構：3号ピット、10号畑に前出している。遺物：土師器(台付甕1点、鉢1点) 住居北西隅から僅かに遺物が出土した。そのうち土器2点を図示した。台付甕(2)は床から0.17～

0.21m程浮いた位置から出土しており、鉢(1)は住居埋没土から出土している。これらが本住居に伴う出土であるか明瞭でない。図示した以外に、土師器片が42点出土している。所見(帰属時期)：出土遺物から、4世紀代であると考える。埋没土内の遺物は床直上出土遺物と時期差の少ないものである。



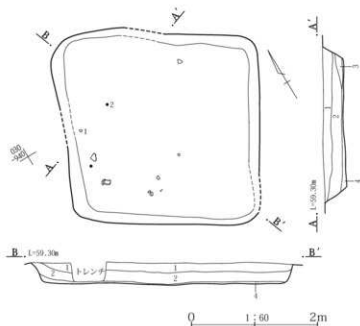
第901図 5区9面 47号住居、出土遺物

(2) 竪穴状遺構

平面形が方形で、大型の掘り込みを持つ遺構のうち、床面の硬化がなく、等しい施設が見られないものを竪穴状遺構として調査した。

6号竪穴状遺構(第902図 PL.183・248)

位置：027～032・-936～-940 規模形状：各辺は直線的である。北西辺は北にいくほど開いているため、北東辺がやや長い隅丸台形状を呈している。長軸長3.3m、短軸長3.08mである。埋没土・壁：にぶい黄褐色・暗褐色



5区9面 6号竪穴状遺構 A-A'・B-B'

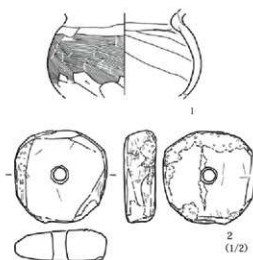
- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐色土小～中ブロックを中量、炭化物を微量含む。しまりやや固い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐色土小～中ブロック、炭化物を微量含む。しまりやや固い。
- 3 にぶい黄褐色土 シルト質土。褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや固い。
- 4 暗褐色土 シルト質土。炭化物、粘土中ブロックを中量、焼土粒子を少量含む。しまりやや強い。

第902図 5区9面 6号竪穴状遺構、出土遺物

色シルト質土で埋没している。埋没土には焼土粒や炭化物が微量～少量含まれる。レンズ状堆積が見られることから、自然堆積と推察される。壁高は0.32mである。

長軸方位：N-57°-W 床面：平坦であるが、わずかに西角へ向かって傾斜している。掘り方は認められなかった。施設：確認できない。遺物：土師器埴？(1)、紡輪(2)の他、土師器95片が出土した。埴？(1)は床直上から出土しており、本遺構に伴うものと考えられる。

所見：出土遺物から、4世紀前半に位置付けられる。



(3) 畑

10号畑(第903図 PL.183)

位置：028～037・-926～-936 サク数：8条 規模：(8.88)m×8.48m 残存深度：0.16m サク間幅：0.12～1.88m サク方位：N-88°-E 遺物：なし 重複遺構：3号ビットに先行し、47号住居に後出する。所見：埋没土は洪水層を攪拌したと考えられるにぶい黄褐色シルト質土である。北側で調査したサクは間隔が狭く、南

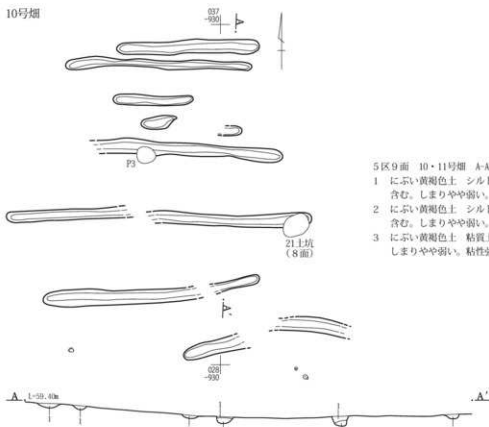
側では広く開いていることから、南側では確認できなかったサクが存在する可能性がある。サクは南端のサクを除くと直線的である。方位は東西方向となっており、周囲の畑と共通である。畑の時期は、埋没土から古墳時代前期に位置付けられる。

11号畑(第903図 PL.183)

位置：029～036・-911～-927 サク数：7条 規模：(14.44)m×6.24m 残存深度：0.08m サク間幅：0.28～1.04m サク方位：N-85°-E 遺物：なし 重複遺

第12章 古墳時代前期(9面)の遺構と遺物

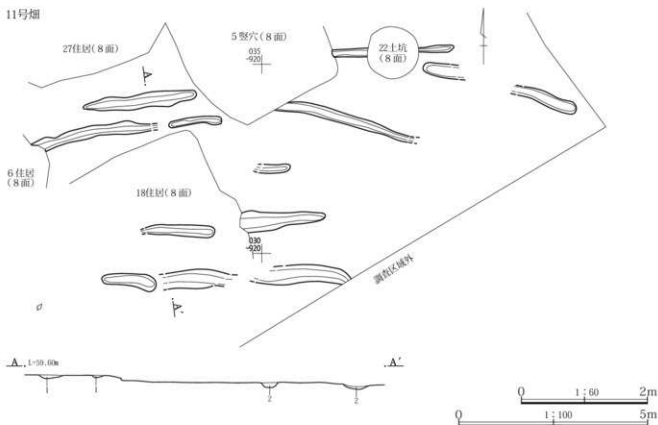
10号畑



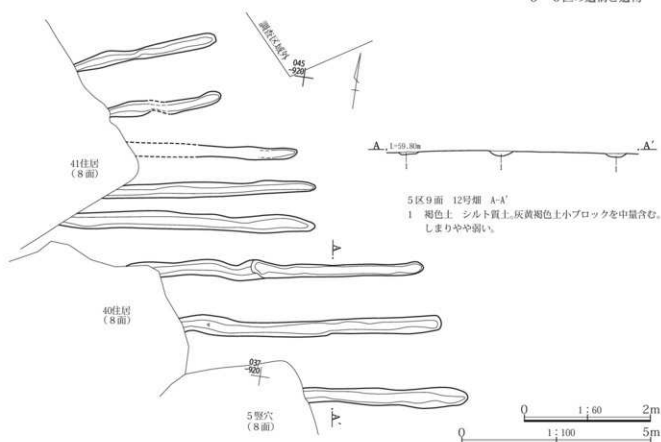
5区9面 10・11号畑 A-A'

- 1 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。
- 2 にぶい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを中量含む。しまりやや弱い。
- 3 にぶい黄褐色土 粘質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。粘性強い。

11号畑



第903図 5区9面 10・11号畑



第904図 5区9面 12号畑

構: 45号住居に後出する。**所見**: 埋没土は洪水層を掘拝したと考えられるにふい黄褐色シルト質土である。北側に位置する12号畑とは近接しているが、サクの幅及び間隔から区別している。サクの幅や間隔はやや不安定であるが、幅はやや細い。サクは間隔が狭いところと広いところがあり、確認できなかったサクが存在する可能性がある。サクはやや曲線を描いている。方位は東西方向となっており、周囲の畑と共通である。畑の時期は、埋没土から古墳時代前期に位置付けられる。

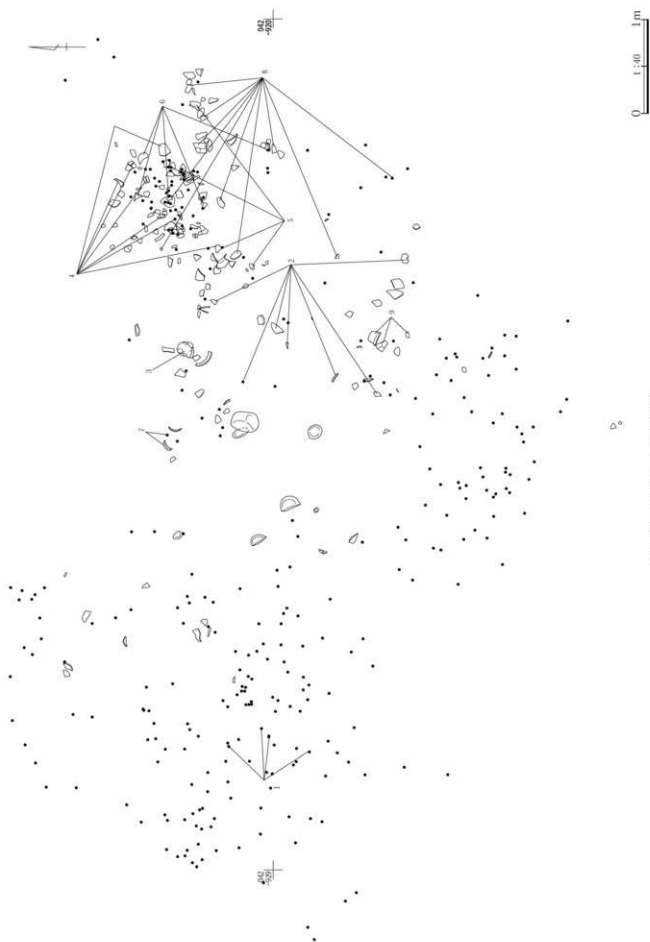
12号畑(第904図 PL.183)

位置: 036 ~ 046・-914 ~ -926 **サク数**: 8条 **規模**: (10.72)m × 10.68m **残存深度**: 0.09m **サク間幅**: 0.32 ~ 1.2m **サク方位**: N-81°-E **遺物**: なし **所見**: 埋没土は洪水層を掘拝したと考えられるにふい黄褐色シルト質土である。サクの間隔はやや狭いところと広いところがあるが、サクの幅は広いことから、やや広めの畝を持つ畑と考えられる。サクは直線的である。方位は東西方向となっており、周囲の畑と共通である。畑の時期は、埋没土から古墳時代前期に位置付けられる。

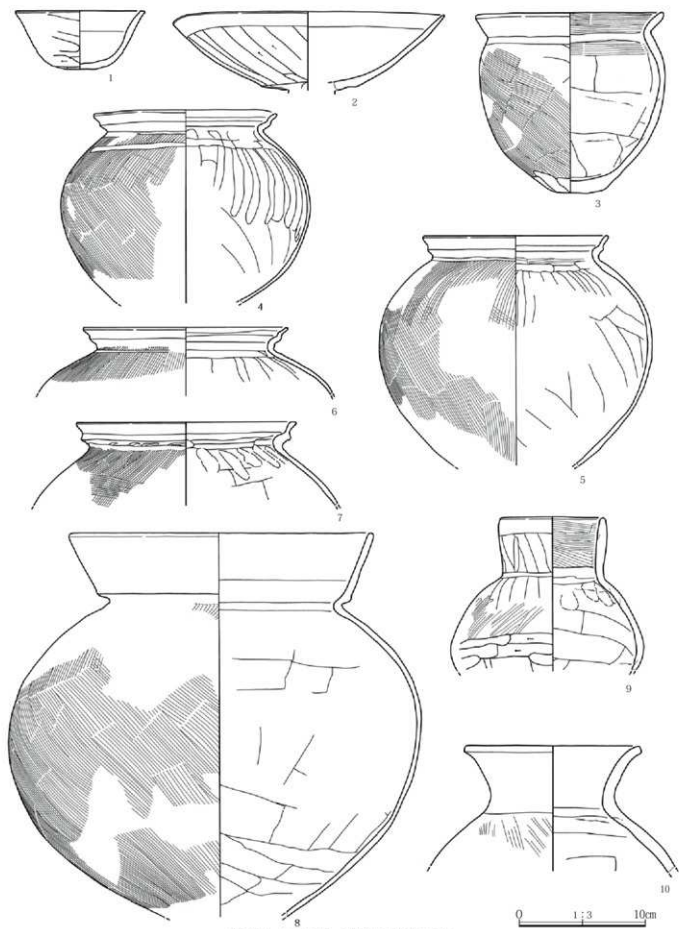
(4)遺物集中

1号遺物集中(第905・906図 PL.183・184・248)

位置: 038 ~ 045・-920 ~ -930 **概要**: 東西9.0m、南北6.6m程度の範囲に土師器片が密集して出土している。遺物は中央より北東部に大きめの破片が多く見られる。周辺には住居が存在するものの、硬化面や埴土等も見られないことから、住居の可能性は低いと考えられる。8面41号住居や12号畑の下部より発見し、徐々に掘り下げることによって遺物を発見したが、掘り込みを確認することはできなかった。埋没土は洪水起源と考えられるにふい黄褐色シルト質土である。遺物が出土する範囲は、地形に沿って、西側に向かって緩やかに傾斜している。**遺物**: 土師器(鉢1点、高杯1点、小型甕1点、台付甕6点、小型壺2点、壺1点)の他、土師器570片が出土した。図示した遺物はいずれも確認及びそれ以下での出土であった。**所見**: 遺物の時期はいずれも4世紀前半で混入品がなく、離れた地点の破片同士が接合することも少ない。別の場所から遺物が流れ込んできた状況ではなく、この場所に置かれた状況を調査したものと考えられる。



第9505図 5区9面 1号遺物集中



第906図 5区9面 1号遺物集中出土遺物

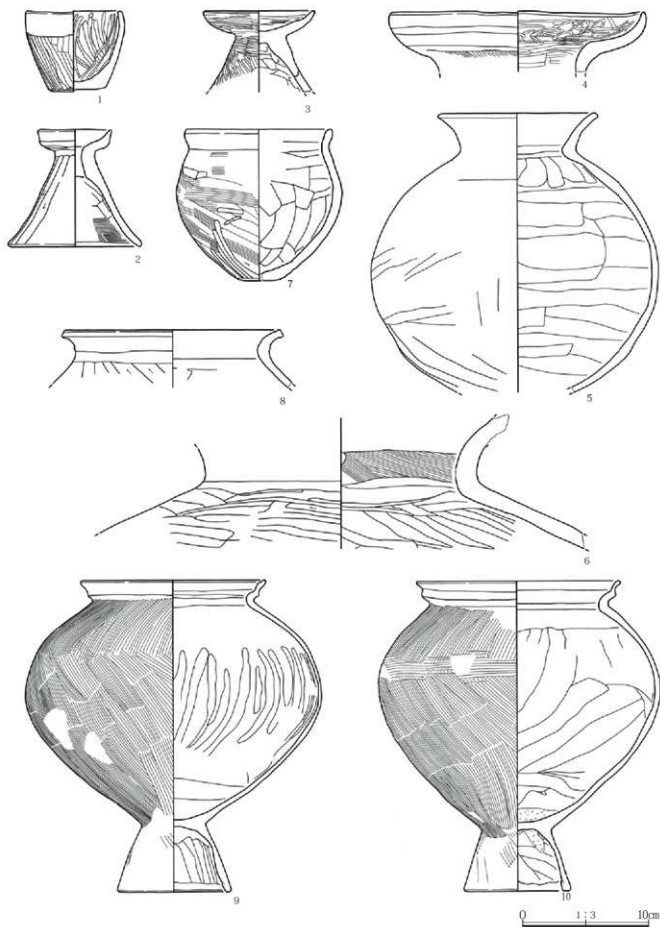


第907図 5区9面 2号遺物集

2号遺物集(第907・908図 PL.184・249)

位置: 024 ~ 031・-927 ~ -935 **概要:** 東西7.0m、南北5.8m程度の範囲に土師器片が密集して出土している。遺物は小さめの破片が多いが、北西部から南東部にかけて、帯状に完形近くまで復元できる個体が見られた。周辺には住居が存在するものの、硬化面や焼土等も見られないことから、住居の可能性は低いと考えられる。10号畑の下部より発見し、徐々に掘り下げることによって遺物を見つけたが、掘り込みを確認することはできなかった。埋没土は洪水起源と考えられるにふい黄褐色シルト

質土である。 **遺物:** 土師器(鉢1点、器台2点、壺3点、小型甕1点、甕1点、台付甕2点)の他、土師器781片が出土した。図示した遺物は、埋没土中からの出土である甕(8)を除き、いずれも確認面での出土であった。壺(5)と台付甕(9)は南東部に並んで置かれていた。 **所見:** 遺物の時期はいずれも4世紀前半で混入品がなく、離れた地点の破片同士が接合することも少ない。別の場所から遺物が流れ込んできた状況ではなく、この場所に置かれた状況を調査したものと考えられる。



第908図 5区9面 2号遺物集中出土遺物

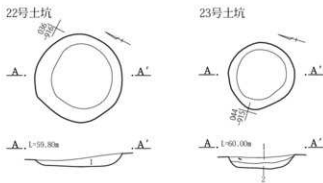
(4) 土坑

5区の土坑(第909図 PL.184)

概要：5区では2基の土坑を調査した。土坑は、住居の分布範囲と重複している。土坑の詳細については第24表

に記した。

所見：遺物や埋没土から古墳時代前期に属すると考えられる。住居の分布範囲と同様であることから、集落に伴う土坑であると考えられる。



5区9面 22号土坑 A-A'

1 にふい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを多量含む。しまりやや弱い。

5区9面 23号土坑 A-A'

1 褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。

2 にふい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを中量含む。しまりやや弱い。



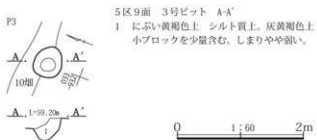
第909図 5区9面 22・23号土坑

(5) ビット

5区のビット(第910図 PL.184)

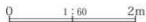
概要：5区では1基のビットを調査した。ビットは散発的な分布である。ビットの詳細については第25表に記した。

所見：遺物や埋没土から古墳時代前期に属すると考えられる。



5区9面 3号ビット A-A'

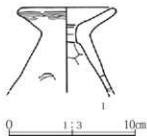
1 にふい黄褐色土 シルト質土。灰黄褐色土小ブロックを少量含む。しまりやや弱い。



第910図 5区9面 3号ビット

(6) 遺構外出土の遺物(第911図)

5区9面の調査中に、遺構に伴わない形で遺物を出土した。ここでは出土した遺物のうち、土師器器台(1)を掲載した。この他の遺物は、土師器198片がある。



第911図 5区9面 遺構外出土遺物

公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団調査報告書 第597集

東上之宮遺跡 第2分冊

国道354号玉村伊勢崎バイパス社会資本総合整備
(活力創出基盤整備)に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

平成27(2015)年3月3日 印刷

平成27(2015)年3月13日 発行

編集・発行／公益財団法人群馬県埋蔵文化財調査事業団

〒377-8555 群馬県渋川市北碓町下箱田784番地2

電話(0279)52-2511(代表)

ホームページアドレス <http://www.gunmaibun.org/>

印刷／上毎印刷工業株式会社

